

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配付先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2040年12月>

2010.12.15

金融市場局

金融調節の運営実績

1. 無担 O/N レートの動向と金融調節

金融調節については、11月4～5日の会合で決定された方針（「無担保コールレート（オーバーナイト物）を、0～0.1%程度で推移するよう促す。」）に従って運営し、無担 O/N レートは、0.086～0.095%のレンジで推移した。

金融調節運営面では、市場におけるレート形成状況等を踏まえた機動的な運営を続けている。この間、資産買入等の基金の運営として、国債、国庫短期証券、CP等、社債等およびETFの買入を開始した。

2. 当座預金・準備預金の動向等

前回会合以降の当座預金残高は、16～20兆円台で推移した。

準備預金残高（除くゆうちょ銀行）は、（11月積み期の所要準備額<除くゆうちょ銀行>：)で推移した。

この間、資産買入等の基金の残高は、24.8兆円となった。

以 上

(図表1)

金融調節の実績の推移

(億円、%)

	無担 コール レート (O/N) 加重 平均値	日銀当座預金残高(実績値)						補完 貸付 残高	<参考> 日銀当座預金残高見込み		
		準備預金残高(含むゆうちょ銀行)			非準備預金 残高				朝方 即日オペ前	9:20 定例調節後	全即日オペ 実施後
		準備預金残高(除くゆうちょ銀行)			超過 準備	残り所要額 (1日平均)					
11月4日(木)	0.104	170,300	155,800	80,900	48,000	14,500	37.0	171,000	-	-	
11月5日(金)	0.093	173,300	157,300	77,200	45,300	16,000	43.0	172,000	-	-	
11月8日(月)	0.091	173,600	153,300	80,000	44,700	20,300	43.0	173,000	-	-	
11月9日(火)	0.086	180,500	159,700	78,900	42,000	20,800	45.0	180,000	-	-	
11月10日(水)	0.089	175,800	156,300	86,500	40,100	19,500	36.0	175,000	-	-	
11月11日(木)	0.086	177,600	153,900	90,300	38,200	23,700	39.0	178,000	-	-	
11月12日(金)	0.086	169,900	145,300	87,600	22,900	24,600	38.0	170,000	-	-	
11月15日(月)	0.090	179,300	153,300	110,000	-	26,000	26.0	179,000	-	-	
11月16日(火)	0.087	175,800	154,500	47,400	51,200	21,300	26.0	176,000	-	-	
11月17日(水)	0.087	171,300	154,000	63,400	50,400	17,300	29.0	171,000	-	-	
11月18日(木)	0.087	171,200	153,000	74,600	49,900	18,200	35.0	171,000	-	-	
11月19日(金)	0.091	169,300	153,000	75,900	48,400	16,300	28.0	169,000	-	-	
11月22日(月)	0.089	171,200	147,300	78,600	48,100	23,900	29.0	172,000	-	-	
11月24日(水)	0.089	168,100	149,600	80,400	47,900	18,500	30.0	168,000	-	-	
11月25日(木)	0.091	180,200	162,500	76,900	47,500	17,700	29.0	180,000	-	-	
11月26日(金)	0.093	182,400	164,900	72,800	45,500	17,500	29.0	183,000	-	-	
11月29日(月)	0.090	199,300	171,100	77,600	44,700	28,200	40.0	199,000	-	-	
11月30日(火)	0.090	201,500	182,900	83,500	43,100	18,600	35.0	202,000	-	-	
12月1日(水)	0.087	190,000	167,600	76,100	41,600	22,400	36.0	190,000	-	-	
12月2日(木)	0.092	183,700	154,200	80,600	41,400	29,500	34.0	184,000	-	-	
12月3日(金)	0.094	185,000	156,600	85,200	40,000	28,400	33.0	185,000	-	-	
12月6日(月)	0.093	179,300	144,900	76,600	39,800	34,400	34.0	179,000	-	-	
12月7日(火)	0.091	177,100	147,200	80,900	39,800	29,900	33.0	177,000	-	-	
12月8日(水)	0.095	178,300	149,900	80,200	38,900	28,400	36.0	178,000	-	-	
12月9日(木)	0.089	177,100	145,800	76,600	37,600	31,300	37.0	178,000	-	-	
12月10日(金)	0.090	175,000	143,500	78,400	34,300	31,500	37.0	175,000	-	-	
12月13日(月)	0.090	171,300	136,300	74,000	31,300	35,000	37.0	172,000	-	-	
12月14日(火)	0.089	179,100	144,400	83,900	24,000	34,700	37.0	178,000	-	-	
12月15日(水)	0.090	181,600	156,300	111,000	-	25,300	38.0	181,000	-	-	

(注1)準備預金残高(除くゆうちょ銀行)および補完貸付残高は、対外非公表。

(注2)即日オペは、国債補完供給を除く。

(注3)12月15日分は、5時同時処理終了時点。

日銀当座預金の保有状況

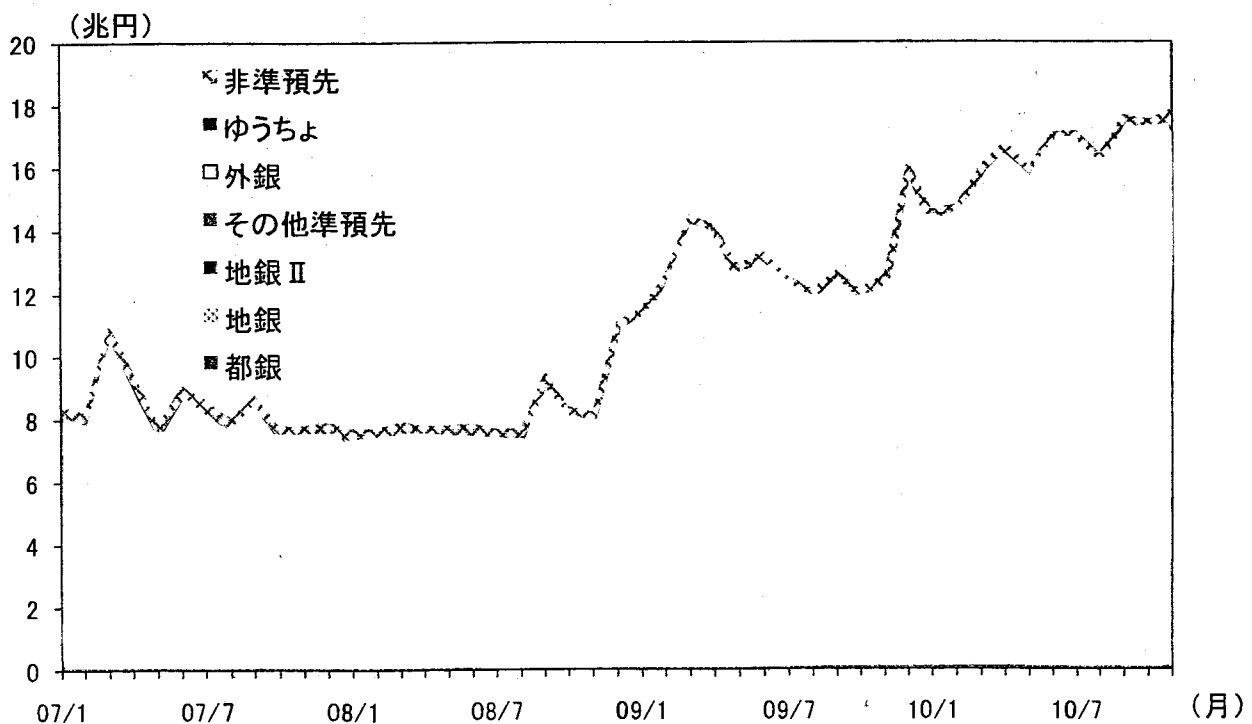
対外非公表

(単位:億円)

	8月積み期	9月積み期	10月積み期	11月積み期	12/15日	11月積み期 所要準備額
準預先	144,826	158,015	157,817	154,102	156,342	<73,924>
除くゆうちょ銀行						< >
都銀	32,785	34,944	34,056	35,001	35,634	<32,051>
地銀	18,215	16,824	15,484	15,234	18,987	<12,512>
地銀Ⅱ	4,637	4,652	4,334	3,842	4,853	<1,624>
外銀	34,901	45,955	48,287	48,253	45,768	<287>
ゆうちょ銀行						< >
非準預先	19,514	18,876	17,489	24,644	25,285	
短資	5,570	7,329	5,350	6,706	9,990	
一部系統	205	292	180	226	312	
政府系	482	502	444	428	297	
証券会社等	13,257	10,753	11,515	17,284	14,686	
当預残高	164,340	176,891	175,306	178,746	181,627	

(注1)「証券会社」は、金融商品取引法上の有価証券関連業を行う第一種金融商品取引業者。

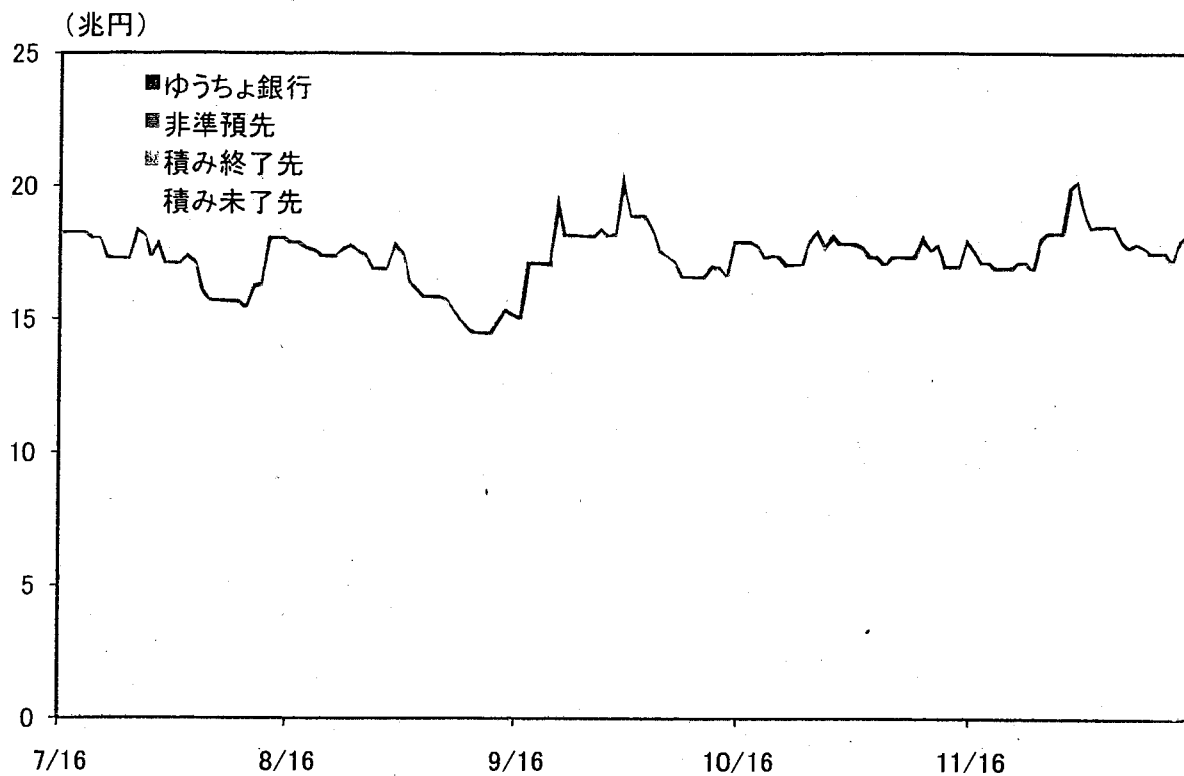
(注2) 11月積み期の計数は、11/16～12/15日の平均。12/15日は、5時同時処理終了時点。



(図表3)

10/7月積み期以降の当座預金残高

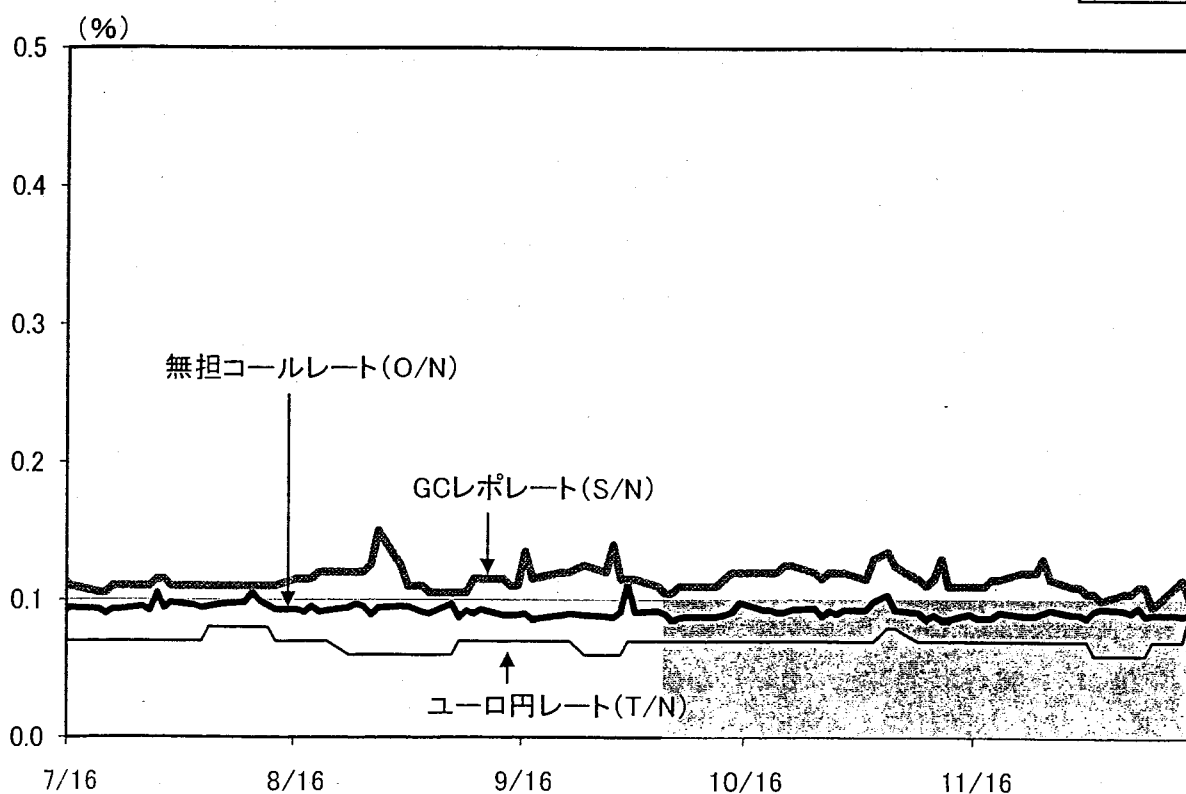
対外非公表



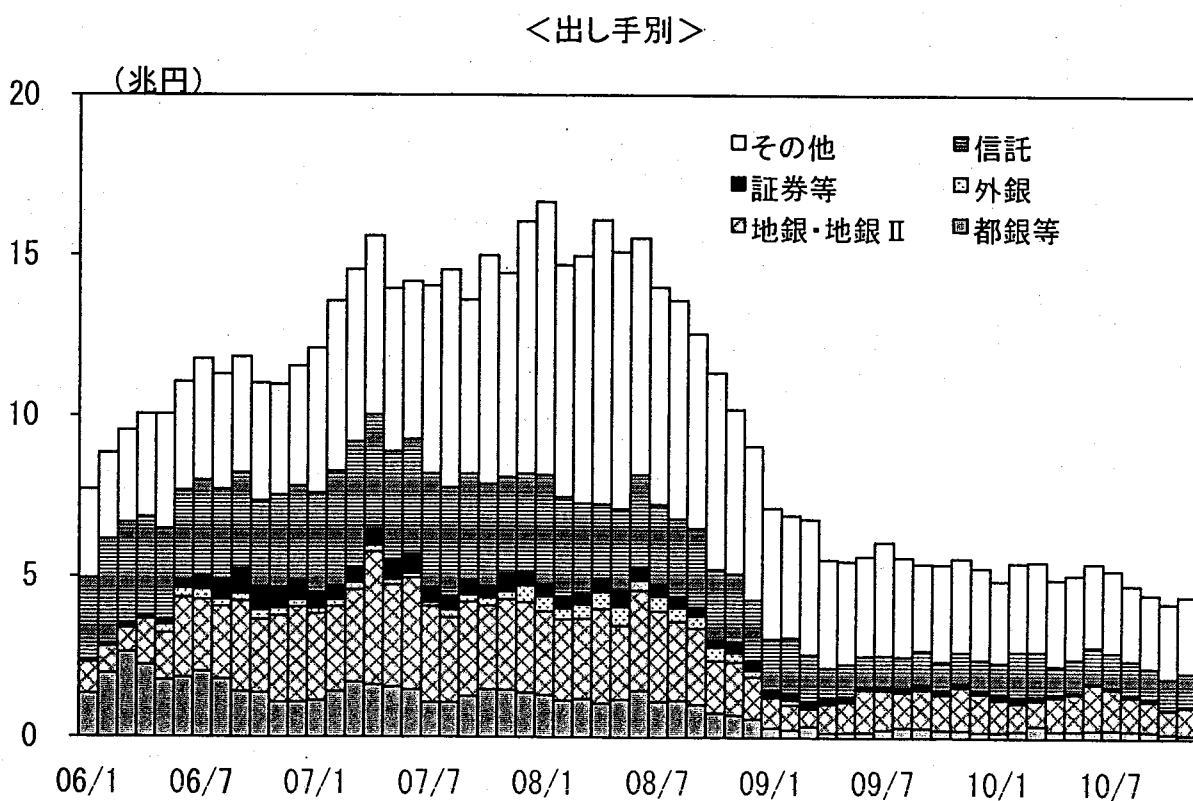
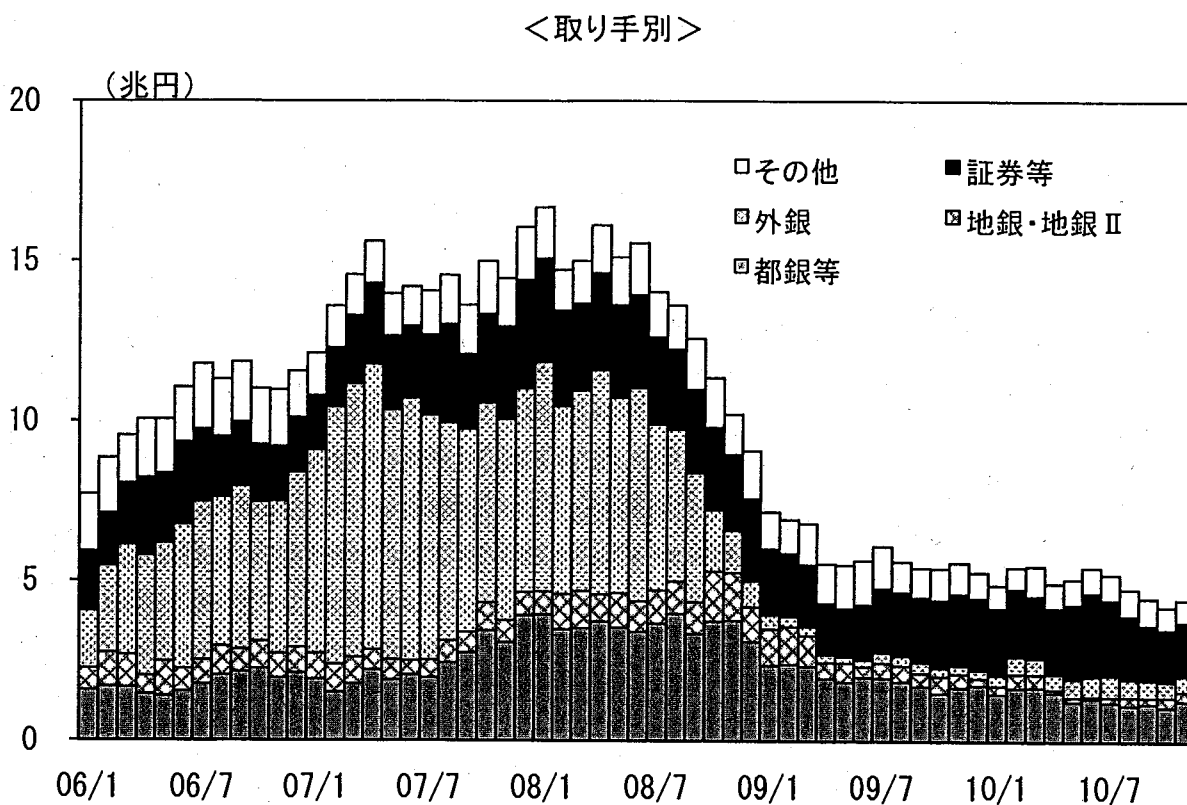
(注)積み終了先、積み未了先及び一日当たり残り所要(前日終了時点)には、うちよ銀行の計数を含まない。

10/7月積み期以降の短期金利

対外非公表



無担コール市場残高



(注1) 月中平残。

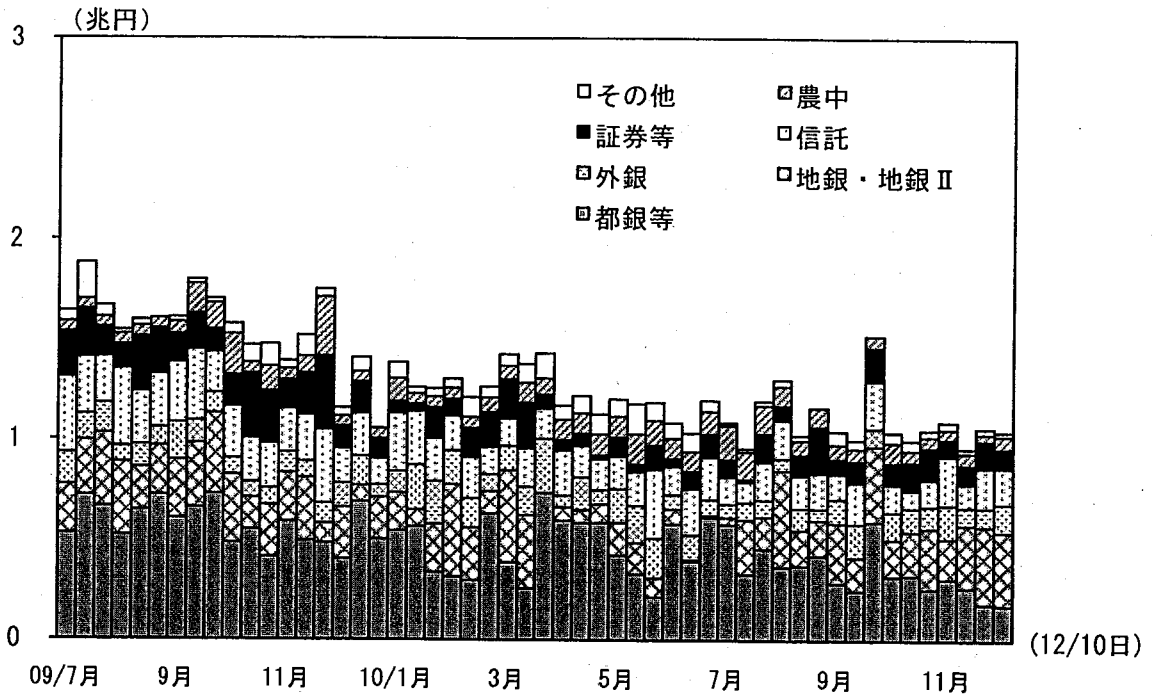
(注2) 無担コール市場残高における「都銀等」は都銀、新生銀行、あおぞら銀行。「証券等」は金融商品取引業者(他の区分に属するものを除く)および証券金融会社。

(図表5)

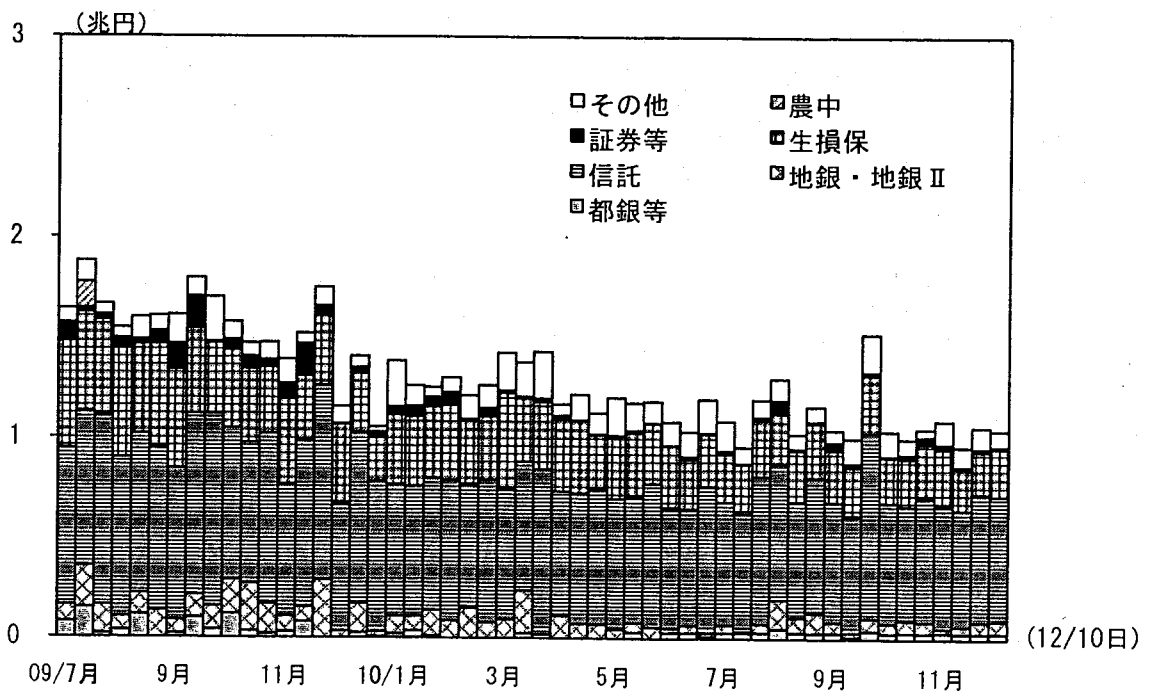
無担コール市場残高 (O/N、T/N、S/N計)

<取り手別>

対外非公表



<出し手別>



(注) 各旬末残高。

最近のオペ結果の推移(1)

(資金供給オペ)

(億円、%)

オペ手段	直近残高 2010/12/15現在 (実行日ベース)	オファー日	スタート	期間	オファー額	平均落札		
						応札倍率	レート	
共通担保・金利入札 (全店)	150,097	11/4	T+2	1M	12,000	3.33	0.112	0.11
		11/5	T+2	1M	8,000	4.43	0.110	0.11
		11/10	T+4	1M	8,000	4.50	0.110	0.11
		11/11	T+2	1M	12,000	2.91	0.111	0.11
		11/12	T+2	1M	8,000	3.66	0.110	0.11
		11/15	T+2	1M	8,000	3.68	0.110	0.11
		11/16	T+4	1M	8,000	4.11	0.110	0.11
		11/18	T+2	1M	8,000	4.43	0.110	0.11
		11/19	T+2	1M	8,000	4.21	0.112	0.11
		11/22	T+2	1M	12,000	3.05	0.112	0.11
		11/24	T+2	1M	12,000	1.89	0.112	0.11
		11/25	T+2	1M	8,000	3.74	0.114	0.11
		11/25	T+2	1M	8,000	2.83	0.112	0.11
		11/26	T+2	1M	8,000	3.89	0.113	0.11
		11/26	T+4	1M	8,000	2.86	0.113	0.11
		11/29	T+2	1M	8,000	4.16	0.113	0.11
		11/30	T+2	1M	10,000	2.45	0.112	0.11
		12/2	T+2	1M	8,000	3.72	0.107	0.10
		12/3	T+1	1W	6,000	2.37	0.100	0.10
		12/7	T+1	1W	8,000	3.31	0.101	0.10
		12/8	T+2	1M	10,000	2.25	0.111	0.10
		12/9	T+2	1M	10,000	2.22	0.108	0.10
		12/10	T+2	3W	8,000	2.22	0.103	0.10
		12/10	T+4	1M	10,000	2.62	0.104	0.10
12/14	T+2	1M	8,000	3.25	0.107	0.10		
12/14	T+4	1M	8,000	3.80	0.110	0.11		
12/15	T+2	1M	8,000	3.41	0.108	0.10		
共通担保・金利入札 (本店)	20,018	11/4	T+1	2W	12,000	5.43	0.118	0.11
		11/5	T+1	2W	12,000	4.52	0.114	0.11
		11/8	T+1	2W	8,000	5.92	0.110	0.11
		11/10	T+1	2W	8,000	6.57	0.110	0.11
		11/11	T+1	2W	6,000	5.88	0.110	0.11
		11/12	T+1	2W	12,000	4.08	0.110	0.11
		11/16	T+1	2W	8,000	4.85	0.110	0.11
		11/17	T+1	3W	6,000	4.39	0.113	0.11
		11/18	T+1	2W	6,000	4.69	0.110	0.11
		11/19	T+1	2W	6,000	5.33	0.113	0.11
		11/22	T+1	1W	6,000	4.96	0.110	0.11
		11/24	T+1	2W	10,000	5.07	0.113	0.11
		11/25	T+1	2W	8,000	6.06	0.118	0.11
		11/26	T+1	1W	8,000	4.99	0.114	0.11
		11/30	T+1	1W	6,000	4.46	0.110	0.11
		12/1	T+1	1W	10,000	2.26	0.103	0.10
		12/8	T+1	1W	6,000	3.15	0.100	0.10
12/9	T+1	1W	6,000	2.60	0.100	0.10		
12/14	T+1	1W	8,000	3.63	0.106	0.10		
国庫短期証券買入	73,865	11/4	T+3	-	3,000	4.34	0.004	0.004
		11/11	T+3	-	3,000	4.15	0.005	0.004
		11/18	T+3	-	3,000	5.15	0.005	0.003
		11/25	T+3	-	3,000	5.40	0.009	0.007
		12/3	T+3	-	3,000	3.88	0.005	0.003
12/9	T+3	-	3,000	5.90	0.012	0.010		
国債買入	-	11/10	T+3	-	2,500	2.99	0.024	0.022
		11/10	T+3	-	1,000	3.17	0.009	0.007
		11/17	T+3	-	3,100	3.57	0.025	0.020
		11/17	T+3	-	2,500	3.83	0.012	0.011
		11/24	T+3	-	2,500	4.22	0.004	0.003
		11/24	T+3	-	400	2.84	-0.162	-0.090
		12/2	T+3	-	3,100	3.45	0.031	0.009
		12/2	T+3	-	2,500	2.48	0.030	0.026
12/8	T+3	-	2,500	2.48	0.054	0.050		
12/8	T+3	-	1,000	3.74	0.040	0.040		

(注1) 国庫短期証券買入・国債買入の平均落札レート及び落札決定レートは、前営業日の気配相場からの利回り較差(変動利付国債・物価連動国債については、前営業日の気配相場からの価格較差)。

(注2) 国庫短期証券買入の直近残高は、繰上償還等を控除していない。

最近のオペ結果の推移(2)

(図表6-2)

(資産買入等の基金の運営)

(億円、%)

	直近残高 2010/12/15現在 (実行日ベース)	オファー日	スタート	期間	オファー額	応札倍率	平均落札 レート	落札決定 レート
共通担保資金供給	240,338	11/5	T+2	3M	8,000	5.17	0.100	0.10
		11/9	T+2	3M	8,000	5.13	0.100	0.10
		11/10	T+2	3M	8,000	4.70	0.100	0.10
		11/16	T+2	6M	8,000	4.32	0.100	0.10
		11/17	T+2	3M	8,000	4.64	0.100	0.10
		11/18	T+2	3M	8,000	4.77	0.100	0.10
		11/24	T+2	3M	8,000	5.95	0.100	0.10
		11/25	T+2	3M	8,000	6.25	0.100	0.10
		11/29	T+2	3M	8,000	5.95	0.100	0.10
		12/2	T+2	3M	8,000	5.34	0.100	0.10
		12/3	T+2	6M	8,000	4.44	0.100	0.10
		12/6	T+2	3M	8,000	4.99	0.100	0.10
		12/8	T+2	3M	8,000	5.26	0.100	0.10
12/13	T+2	3M	8,000	5.06	0.100	0.10		
12/15	T+2	3M	8,000	5.57	0.100	0.10		
国庫短期証券買入	3,001	11/9	T+3	-	1,500	7.02	0.112	0.112
		11/30	T+3	-	1,500	5.92	0.134	0.131
		12/13	T+3	-	1,500	5.68	0.142	0.140
国債買入	2,999	11/8	T+3	-	1,500	5.92	0.134	0.133
		11/29	T+3	-	1,500	6.19	0.202	0.201
社債等買入	1,027	12/3	T+4	-	1,000	2.70	0.185	0.151
CP等買入	989	12/10	T+3	-	1,000	5.05	0.142	0.131
ETF買入	142	-	-	-	-	-	-	-

(注) ETF買入の直近残高は、約定日ベース。

(国債補充供給)

(億円、%)

発動日	供給額	対象銘柄	平均落札レート	落札決定レート
11/19	10	変動利付国債15年9回	-0.400	0.40
11/29	30	利付国債10年29回	-0.400	0.40
12/2	6	物価連動国債10年9回	-0.400	0.40
12/3	6	物価連動国債10年8回	-0.400	0.40
12/6	3	物価連動国債10年8回	-0.400	0.40

(注) シャドーは即日スタート分。

(米ドル資金供給オペ)

(百万ドル、%)

オペ手段	直近残高 2010/12/15現在 (実行日ベース)	オファー日	スタート日 (米国東部 時間)	期間	落札額	応札倍率	貸付利率 (固定金利)
米ドル資金供給	0	11/30	12/2	84D	0	-	1.210

<参考>

(成長基盤強化を支援するための資金供給)

(億円、%)

	直近残高 2010/12/15現在 (実行日ベース)	通知日	スタート日	期間	貸付額	応札倍率	貸付利率
成長基盤強化支援	14,606	11/30	12/7	1Y	9,983	-	0.100

(図表7)

資金需給の推移

(単位：兆円)

		資金需給		金融調節	当預残高(末残)	
			銀行券			財政等
10/6月		+5.5	▲0.4	+5.9	▲3.7	19.9
7月		▲8.5	▲0.0	▲8.5	+5.7	17.1
8月		▲8.2	+0.3	▲8.5	+8.6	17.5
9月		+1.2	+0.1	+1.1	+1.5	20.2
10月		▲4.8	▲0.6	▲4.2	+2.5	17.8
11月		▲7.5	▲0.2	▲7.3	+9.8	20.2
12月	(-15日)	▲4.8	▲1.3	▲3.5	+2.8	18.2
	(16日-)	+1.5	▲3.8	+5.3	▲7.5	N.A.

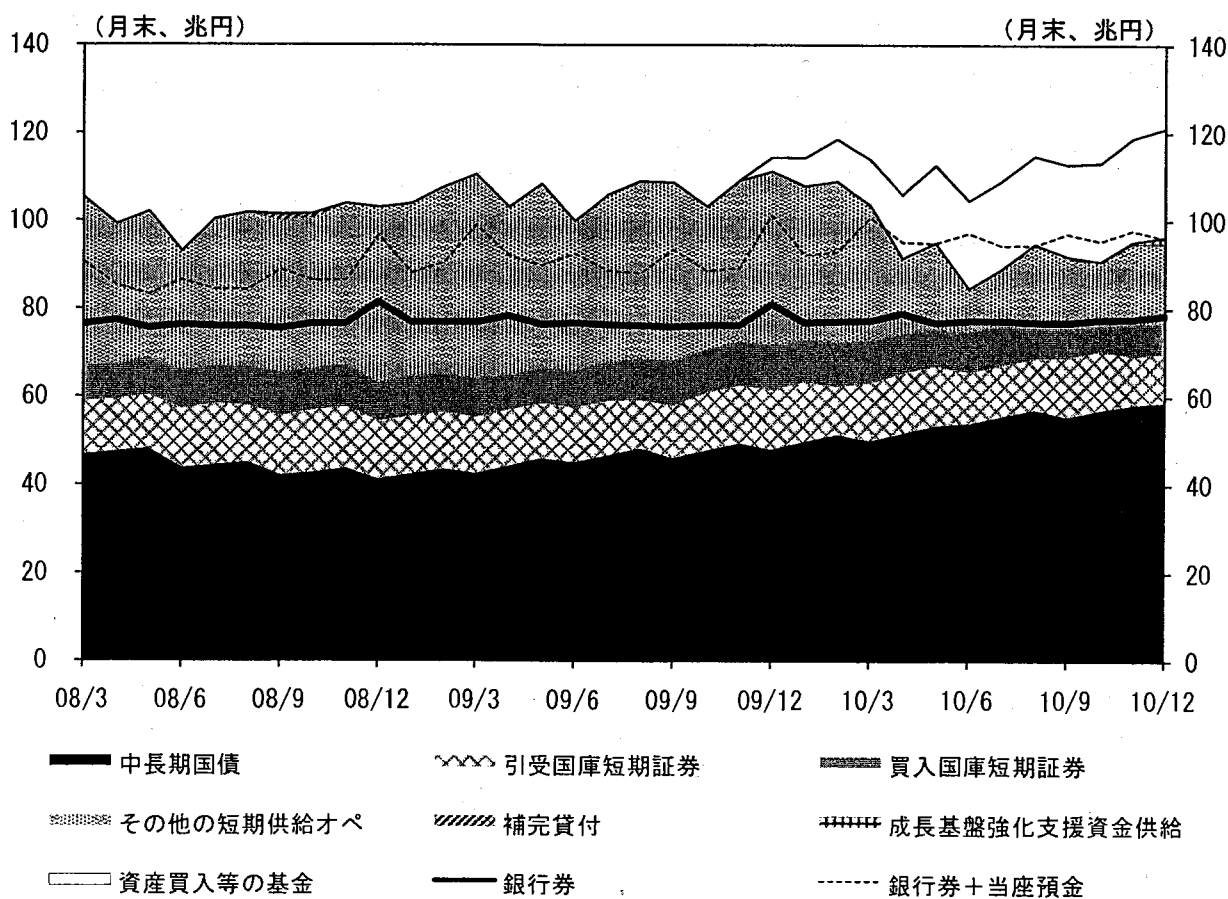
(注) 12月(16日-)の資金需給は、現時点での予想。金融調節は、期落ち分、12/15日までに通知した分および当月中に予定されている国債買入(資産買入等の基金の運営として行う国債買入を除く)の合計。

金融調節と日本銀行のバランス・シート

(図表8)

(12/10日時点、兆円)

資産		負債および純資産	
中長期国債	58.8	銀行券	78.5
引受国庫短期証券	11.0	当座預金	17.5
短期供給オペ (除く資産買入等の基金)	25.1	その他	33.6
買入国庫短期証券	7.3		
その他の短期供給オペ	17.8		
補完貸付	0.0		
成長基盤強化支援資金供給	1.5		
資産買入等の基金	24.7		
共通担保資金供給	24.0		
国債買入	0.3		
国庫短期証券買入	0.3		
社債買入	0.1		
その他	8.5		
合計	129.6	合計	129.6



(注1) 直近12月末の計数は12/10日時点。

(注2) 10年9月までの「資産買入等の基金」の残高は、共通担保・固定金利方式の残高。

(注3) 「その他の短期供給オペ」の残高には、共通担保・金利入札方式、国債買現先、CP等買現先などの残高が含まれる。

(注4) 「引受国庫短期証券」「買入国庫短期証券」の残高は、対政府売却分を調整していない。

(注5) 「買入国庫短期証券」の残高は、直近月以外は繰上償還分を調整している。

本行受入担保残高の推移

末残、単位：表内＝兆円、括弧内＝億円

担保種類	2010/6月	7月	8月	9月	10月	11月
総計	104.2	110.3	115.3	112.9	114.4	121.9
国債	68.5	78.0	80.8	76.9	80.2	87.8
利付国債等 ^(注1)	46.2	54.7	55.9	54.5	58.8	^(注2) 63.7
変動利付国債(*)	9.6	9.8	9.2	9.3	9.2	9.5
物価連動国債(*)	0.7	0.7	0.6	0.6	0.5	0.5
国庫短期証券	22.2	23.2	24.8	22.4	21.3	24.0
社債等 ^(注3)	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3
短期社債等 ^(注4)	1.6	1.7	1.7	1.6	1.6	1.9
その他債券 ^(注5)	5.7	5.8	5.8	5.7	5.6	5.8
手形 ^(注6)	0.9	0.9	0.9	0.4	0.9	0.9
証貸	26.1	22.4	24.4	26.7	24.7	23.9
企業向け等 ^(注7)	5.3	5.2	5.1	5.0	5.1	5.0
政府向け等 ^(注8)	20.8	17.1	19.2	21.6	19.6	18.8
うち民間債務分	9.2	9.3	9.3	8.5	8.9	9.3

ABS	88	90	90	117	89	88
ABCP ^(注9)	2,899	2,820	2,837	2,330	2,251	2,251
(うち特則分) (*)	(86)	(45)	(14)	(93)	(14)	(15)
社債特則分(*)	236	223	224	237	142	211
企業向け証貸特則分(*)	4,774	4,609	4,419	4,328	3,955	3,951
不動産投資法人債	20	57	95	129	136	172
不動産投資法人CP ^(注10)	0	0	0	0	0	0
不動産投資法人向け証貸	0	0	0	0	0	0
政府保証付短期債券	0	0	0	0	0	0
政府(特別会計含む)向け証貸	190,239	157,986	175,351	198,787	178,809	172,380
政府保証付証貸	16,629	12,326	16,012	16,384	16,377	14,794
地方公共団体向け証貸	1,784	1,479	1,473	1,433	1,409	1,409
外貨建外国債券	0	0	0	0	0	6

(参考) 現先オペでの買入残高

末残、単位：表内＝兆円、括弧内＝億円

オペ種類	2010/6月	7月	8月	9月	10月	11月
国債買現先オペでの国債買入残高	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
CP等買現先オペでのCP買入残高	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

ABCP買入残高	0	0	0	0	0	0
(うち特則分) (*)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
不動産投資法人CP買入残高	0	0	0	0	0	0
政府保証付短期債券買入残高	0	0	0	0	0	0

(注1) 利付国債、割引国債、承継国債および分離国債。

(注2) 分離国債は、190億円。(*)

(注3) 不動産投資法人債を含む。

(注4) 短期社債、保証付短期外債、資産担保短期債券、短期不動産投資法人債および政府保証付短期債券。

(注5) 外貨建外国債券を含む。

(注6) CPを含む。

(注7) 不動産投資法人向け証貸を含む。

(注8) 政府(特別会計含む)向け証貸、政府保証付証貸および地方公共団体向け証貸。

(注9) 資産担保短期債券を含む(以下同じ)。

(注10) 短期不動産投資法人債を含む(以下同じ)。

(図表10)

対外非公表

共通担保使用状況

単位：兆円

	2010/6月	7月	8月	9月	10月	11月
共通担保使用額合計 ^(注1)	26.6	33.2	38.4	36.9	36.2	42.5
うち共通担保オペ使用額 ^(注1)	25.8	32.4	37.6	36.1	35.5	41.7
当座貸越残高 日中ピーク ^(注2)	5.7	5.5	5.1	5.1	5.7	4.8

(注1) 末残。

(注2) 平残 (ITC口を除く)。

(*)は対外非公表

担保適格ABC等・信用判定の状況

1. 担保適格ABC、J-REITの状況

	件数	発行枠	受入残高 ^(注1)
担保適格ABC (特則分) (*)	14件	9兆5,500億円	15億円
担保適格ABC (本則分) (*)	4件	7,300億円	2,236億円
(参考) 市中ABC計 ^(注2)	34件	15兆762億円	—
担保適格J-REIT	11件 (*)	—	172億円

(注1) 11月末時点。

(注2) 9月末時点 (日本証券業協会調べ)。

2. 信用判定の状況

	2010/6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月 ^(注)
新規適格化先数 (*)	0	0	0	2	0	0	0(1)
取下げ・抹消先数 (*)	2	3	2	0	0	1	0
信用判定適格先数	357	354	352	354	354	353	353

(注) 12月15日時点。かっこ内は審査中の先数。

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配付先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2040年12月>

2010.12.15

金融市場局

最近の金融・為替市場の動向

1. 概況

前回の政策決定会合以降の市場動向をみると、短期金融市場は、やや長めの金利を中心に幾分金利が強含んでいるが、総じてみれば、低い水準での動きとなっている。市場毎にみると、無担保コールレート（O/N）は、0.1%を幾分下回る水準で推移している。GCレポレート（S/N）は、小幅上昇する局面もみられたが、足もとでは、0.1%近傍で推移している。短国レートは、1年物まで含め、0.1%台ながら、幾分強含んで推移している。長めのターム物の銀行間取引金利は、横ばい圏内で推移している。

国内資本市場をみると、わが国の長期金利（10年新発債流通利回り）は、米国金利が上昇したことや、それを契機に都銀等のポジション調整の動きがみられたことなどから、やや大きく上昇し、足もとでは、1.2%台で推移している。株価（日経平均株価）は、為替の円高傾向の動きが一服していることもあって、上昇し、足もとでは、10千円台前半で推移している。REIT価格は、日本銀行による買入方針の決定が買い安心感を与えているとの見方もあって、上昇している。一般債流通利回りの対国債スプレッドは、引き続き投資家の底堅い需要がみられるなか、日本銀行が買入対象とする残存期間の短めの社債を中心に、縮小する動きがみられている。

為替市場をみると、米国における追加金融緩和期待の後退などを背景に、ドルが買い戻される動きがみられている。こうしたなか、円の対ドル相場は、円高傾向の動きが一服し、落ち着いた推移となっており、足もとは、83円台で推移している。

2. 市場別の動向

(1) 短期金融市場

わが国の短期金融市場をみると、やや長めの金利を中心に幾分金利が強含んでいるが、総じてみれば、低い水準での動きとなっている（図表1）。市場毎にみると、翌日物金利については、無担保コールレート（O/N）が、0.1%を幾分下回る水準で推移している。GCレポレート（S/N）は、証券会社の在庫ファイナンス需要の高まりもあって、小幅上昇する局面もみられたが、足もとでは、0.1%近傍で推移している。ターム物金利のうち、短国レートは、1年物まで含め、0.1%台ながら、幾分強含んで推移している。TIBORは、横ばい圏内での推移となっているが、短国レートやOISレートに比べ、やや高めとなっている（図表2）。

	前回会合初日 (11/4日)	期間中ピーク (終値ベース)	期間中ボトム (終値ベース)	直近終値 (12/15日)
無担コールレート (O/N、加重平均)	0.104%	0.104% (11/4日)	0.086% (11/11-12日等)	0.090%
GCレポレート (出合い、S/N)	0.135%	0.135% (11/4日)	0.095% (12/10日)	0.100%
短国レート (3M)	0.110%	0.130% (12/14-15日)	0.110% (11/4-12日)	0.130%
短国レート (6M)	0.110%	0.140% (12/14-15日)	0.110% (11/4-12日)	0.140%
短国レート (1Y)	0.110%	0.170% (12/14日)	0.110% (11/4-12日)	0.160%
TIBOR (3M)	0.340%	0.340% (11/4-12/15日)	0.340% (11/4-12/15日)	0.340%
TIBOR (6M)	0.451%	0.451% (11/4-12/15日)	0.451% (11/4-12/15日)	0.451%

— CP発行レートは、短国金利が幾分上昇しているため、僅かながら強含んでいるが、総じて低水準で推移している（図表2）。この間、CP発行レートの対短期国債スプレッドは、過去との比較でみても極めて低い水準で推移している（図表3）。

— 米欧の資金市場は、欧州周辺国における債務問題が再び注目を集めるなか、一部の欧州系金融機関を中心に、資金調達環境が幾分悪化しているとの指摘も聞かれるが、本年5月のギリシャ・ショック以前の水準と比較すると、その影響は限定的との見方が多い。主要通貨の調達環境に関して、LIBOR-OISスプレッドをみると、ドルのLIBOR-OISスプレッドは、総じて横ばい圏内で推移しており、本年5月のギリシャ・ショック以前の水準と比較しても、同程度に低い水準となっている。ユーロのLIBOR-OISスプレッドは、引き続きECBの全額供給方式のオペ

を通じた資金供給の動向に応じて変動している（図表4）。

ユーロ円金利先物レートをみると、国債金利が上昇し、イールドカーブもステイプ化するなか、期先物を中心に幾分上昇している（図表5）。

—— OISレートをみると、無担保コールレート（O/N）は、先行き概ね横ばい圏内で推移することが見込まれている（図表5）。

（2）債券市場

債券市場をみると、長期金利（10年新発債流通利回り）は、米国金利が上昇したことや、それを契機に都銀等のポジション調整の動きがみられたことなどから、やや大きく上昇し、足もとでは、1.2%台で推移している（図表6）。

	前回会合初日 (11/4日)	期間中ピーク (終値ベース)	期間中ボトム (終値ベース)	直近終値 (12/15日)
2年新発債 利回り	0.130%	0.230% (12/13日)	0.130% (11/4日)	0.225%
5年新発債 利回り	0.290%	0.580% (12/13日)	0.290% (11/4日)	0.530%
10年新発債 利回り	0.915%	1.260% (12/9日)	0.915% (11/4日)	1.255%
20年新発債 利回り	1.795%	2.120% (12/9日)	1.795% (11/4日)	2.040%

—— イールドカーブは、相対的に長めのゾーンの金利上昇幅が大きくなっているため、ステイプ化している（図表7）。

—— 債券利回りの変動要因をみると、金利上昇要因として、「海外金利」への注目度が高まる一方で、これまで金利低下要因として注目を集めてきた「短期金利・金融政策」への注目度が低下する姿となっている（図表7）。

国債の市場流動性は、緩やかな回復傾向を続けている。

—— インプライド・ボラティリティは、やや大きく上昇する場面がみられている（図表8）。

（3）クレジット・スプレッド等

わが国のクレジット市場をみると、一般債流通利回りの対国債スプレッドは、引き続き投資家の底堅い需要がみられるなか、日本銀行が買入対象とす

る残存期間の短めの社債を中心に、縮小する動きがみられている（図表9）。

—— 残存期間の短い社債について、一般債流通利回りの対国債スプレッドを過去の水準と比較してみると、低格付社債を中心にやや厚めの水準となっているが、業況不芳などが意識されている一部業種を除くと、いずれの格付けにおいても、相応にタイトな水準となっているほか、縮小傾向も続いている（図表10）。

CDSプレミアムは、株価が堅調に推移していることもあって、幾分低下している（図表11）。

	前回会合初日 (11/4日)	期間中ピーク (終値ベース)	期間中ボトム (終値ベース)	直近終値 (12/14日)
A格社債の対国債 スプレッド (5年)	0.390%	0.390% (11/4,16日)	0.335% (12/9日)	0.356%
BBB格社債の対国債 スプレッド (同)	1.006%	1.006% (11/4日)	0.893% (12/10日)	0.930%
CDSプレミアム (iTraxx Japan 5年)	101.6bps	101.6bps (11/4日)	90.3bps (11/22日)	100.1bps

(4) 株式市場

株式市場をみると、わが国の株価（日経平均株価）は、為替の円高傾向の動きが一服していることもあって、上昇し、足もとでは、10千円台前半で推移している（図表12）。

—— イールド・スプレッド（長期金利－株式益回り）は、過去の水準との比較でみると、幾分大きめのマイナス幅となっているが、足もとにかけては、振れを伴いながらも、総じて横ばい圏内で推移している（図表13）。

REIT価格は、日本銀行による買入方針の決定が買い安心感を与えているとの見方もあって、上昇している（図表14）。

—— J-REITのイールド・スプレッド（長期金利－J-REIT配当利回り）は、上位格付け銘柄では、過去の水準との比較で、マイナス幅が相対的に大きくなっている。もっとも、日本銀行によるJ-REITの買入方針決定以降、同スプレッドのマイナス幅は縮小基調を辿っており、こうした傾向は買入対象外の下位格付けJ-REITでも確認できる（図表15）。

	前回会合初日 (11/4日)	期間中ピーク (終値ベース)	期間中ボトム (終値ベース)	直近終値
日経平均株価	9,358円	10,316円 (12/14日)	9,358円 (11/4日)	10,309円 (12/15日)
TOPIX	816pts	902pts (12/15日)	816pts (11/4日)	902pts (12/15日)
東証REIT指数	983pts	1,114pts (12/15日)	983pts (11/4日)	1,114pts (12/15日)
NYダウ平均	11,434ドル	11,476ドル (12/14日)	11,006ドル (11/30日)	11,476ドル (12/14日)
NASDAQ 総合指数	2,577pts	2,637pts (12/10日)	2,469pts (11/16日)	2,627pts (12/14日)

— わが国株式の主体別売買動向をみると、日本銀行による包括的な金融緩和政策の実施以降、外国人の買い越しが続いている（図表14）。

— 株価のインプライド・ボラティリティは、低下している（図表14）。

（5）為替市場

為替市場をみると、米国における追加金融緩和期待の後退などを背景に、ドルが買い戻される動きがみられている。こうしたなか、円の対ドル相場は、円高傾向の動きが一服し、落ち着いた推移となっており、足もとは、83円台で推移している（図表16）。

この間、ユーロは、欧州周辺国における債務問題が再び注目を集めるなか、総じて売られやすい展開を辿っている。円の対ユーロ相場は、足もとでは、111円台で推移しているほか、ユーロの対ドル相場は、1.33ドル台で推移している。

	前回会合初日 (11/4日)	期間中ピーク	期間中ボトム	直近値 (12/14日)
円の対ドル相場 (NY市場16時時点)	80.66円	80.66円 (11/4日)	84.24円 (11/29日)	83.73円
円の対ユーロ相場 (同上)	114.58円	108.64円 (11/30日)	114.58円 (11/4日)	112.03円
ユーロの対ドル相場 (同上)	1.4205ドル	1.4205ドル (11/4日)	1.2980ドル (11/30日)	1.3380ドル

— クロス円相場は、幾分円が減価して推移している（図表18）。

— IMM先物ポジションは、ドル/円では、ドルのショート・ポジション超幅が縮小している。一方、ユーロ/ドルでは、ドルのロング・ポジション超へ転化している（図表17）。この間、豪ドル、加ドル、メキシコ・ペソ等の資源国通貨に対しては、米ドルのショート・ポジション超幅は高めの水準で推移している。

- リスクリバーサル (1M) については、ドル/円は、ドルプット超幅が縮小し、ユーロ/ドルは、ドルコール超幅が拡大している (図表17)。外為証拠金取引では、相場に対して逆張りのようなポジションの造成やその巻き戻しといった動きがみられている (図表18)。
- ドル/円オプションのインプライド・ボラティリティ (1M) は、幾分低下している (図表17)。

以 上

2010.12.15

金融市場局

「最近の金融・為替市場の動向」参考計表

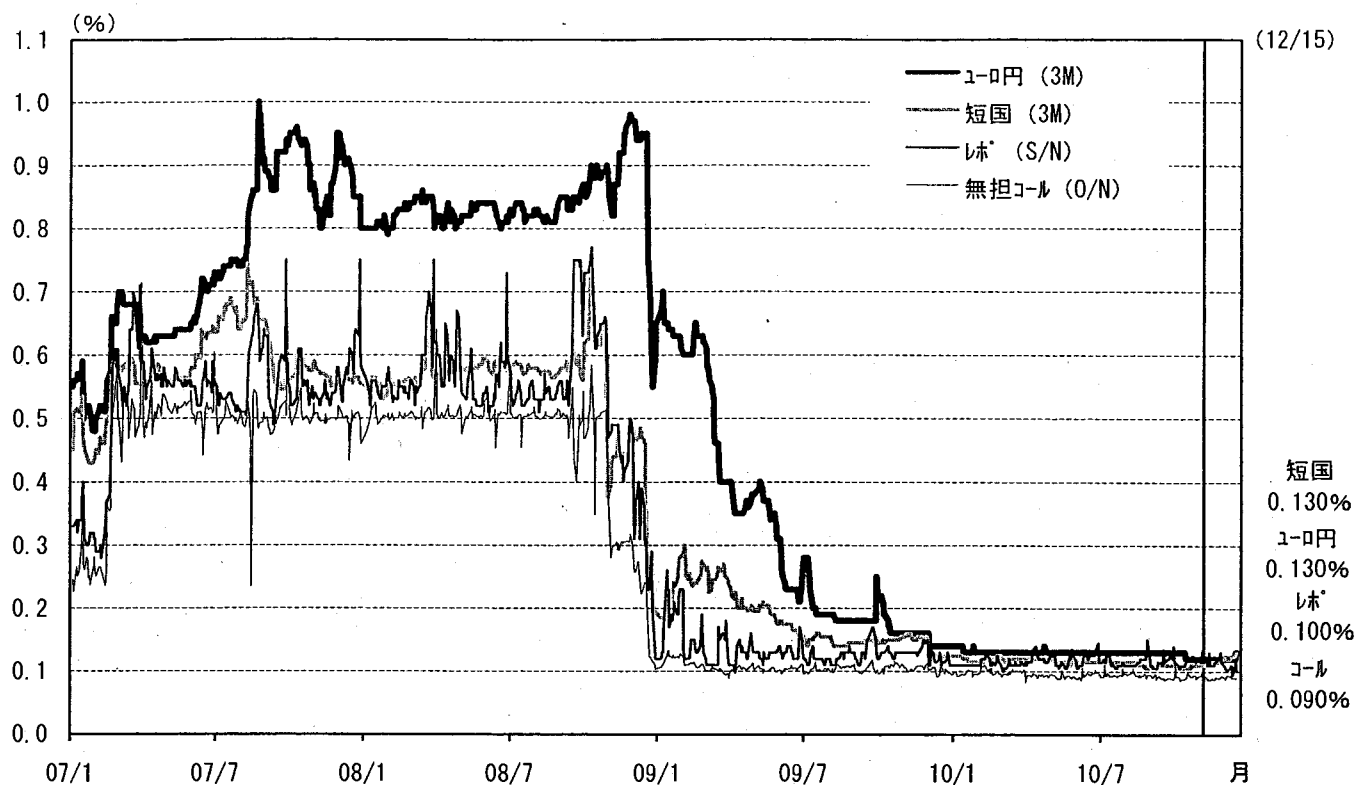
- (図表 1) 短期金利の推移
- (図表 2) ターム物レートの推移（1）
- (図表 3) CP 発行レートの対短国スプレッド（a-1 格、3 か月物）の推移
- (図表 4) ターム物レートの推移（2）
- (図表 5) フォワードレートの動向
- (図表 6) 長期金利の推移
- (図表 7) イールド・カーブの動向
市場参加者が注目する債券利回り変動要因
- (図表 8) インプライド・ボラティリティの推移
長国先物の値幅・出来高比率の推移
- (図表 9) 社債流通利回りの対国債スプレッドの推移
- (図表 10) 社債流通利回りの対国債スプレッド（残存 3 年未満）の推移
- (図表 11) CDS プレミアムの推移
- (図表 12) 株式相場の推移
- (図表 13) 株価収益率とイールド・スプレッドの推移
- (図表 14) 主体別売買動向等
- (図表 15) 不動産投資信託（J-REIT）のイールド・スプレッドの推移
- (図表 16) 主要為替相場の推移
- (図表 17) 通貨オプション、先物市場の動向
- (図表 18) クロス円取引の動向
- (図表 19) エマージング、コモディティ市場の動向

(注) 図表中の縦線は、特に断りのない限り前回会合の初日（11/4 日）を表す。

(図表 1)

短期金利の推移

(1) 短期金利の推移



(2) 同 (前回会合以降)

	無担コール		レポ		ユーロ円			短国		
	O/N	S/N	1M	3M	6M	3M	6M	1Y		
10/11/4	0.104	0.135	0.110	0.120	0.150	0.110	0.110	0.110		
11/5	0.093	0.125	0.110	0.120	0.150	0.110	0.110	0.110		
11/8	0.091	0.115	0.110	0.120	0.150	0.110	0.110	0.110		
11/9	0.086	0.110	0.110	0.120	0.150	0.110	0.110	0.110		
11/10	0.089	0.115	0.110	0.120	0.150	0.110	0.110	0.110		
11/11	0.086	0.130	0.110	0.120	0.150	0.110	0.110	0.110		
11/12	0.086	0.110	0.110	0.120	0.150	0.110	0.110	0.110		
11/15	0.090	0.110	0.110	0.120	0.150	0.115	0.115	0.125		
11/16	0.087	0.110	0.110	0.120	0.150	0.115	0.115	0.125		
11/17	0.087	0.110	0.110	0.120	0.150	0.115	0.115	0.125		
11/18	0.087	0.115	0.110	0.120	0.150	0.115	0.115	0.125		
11/19	0.091	0.115	0.110	0.120	0.150	0.115	0.115	0.125		
11/22	0.089	0.120	0.110	0.120	0.150	0.115	0.115	0.125		
11/24	0.089	0.120	0.110	0.120	0.150	0.120	0.115	0.125		
11/25	0.091	0.130	0.110	0.120	0.150	0.120	0.115	0.125		
11/26	0.093	0.115	0.110	0.120	0.150	0.120	0.120	0.130		
11/29	0.090	0.110	0.110	0.120	0.150	0.120	0.120	0.130		
11/30	0.090	0.110	0.110	0.120	0.150	0.120	0.120	0.130		
12/1	0.087	0.105	0.110	0.120	0.150	0.125	0.120	0.130		
12/2	0.092	0.105	0.110	0.120	0.150	0.120	0.120	0.130		
12/3	0.094	0.100	0.110	0.120	0.150	0.120	0.120	0.130		
12/6	0.093	0.105	0.110	0.120	0.150	0.120	0.120	0.130		
12/7	0.091	0.105	0.110	0.120	0.150	0.120	0.130	0.130		
12/8	0.095	0.110	0.110	0.120	0.150	0.125	0.130	0.130		
12/9	0.089	0.110	0.110	0.120	0.150	0.125	0.130	0.130		
12/10	0.090	0.095	0.110	0.120	0.150	0.125	0.130	0.130		
12/13	0.090	0.110	0.110	0.120	0.150	0.125	0.130	0.135		
12/14	0.089	0.115	0.110	0.130	0.150	0.130	0.140	0.170		
12/15	*0.090	0.100	0.110	0.130	0.150	0.130	0.140	0.160		
12/16										
12/17										

* 速報値

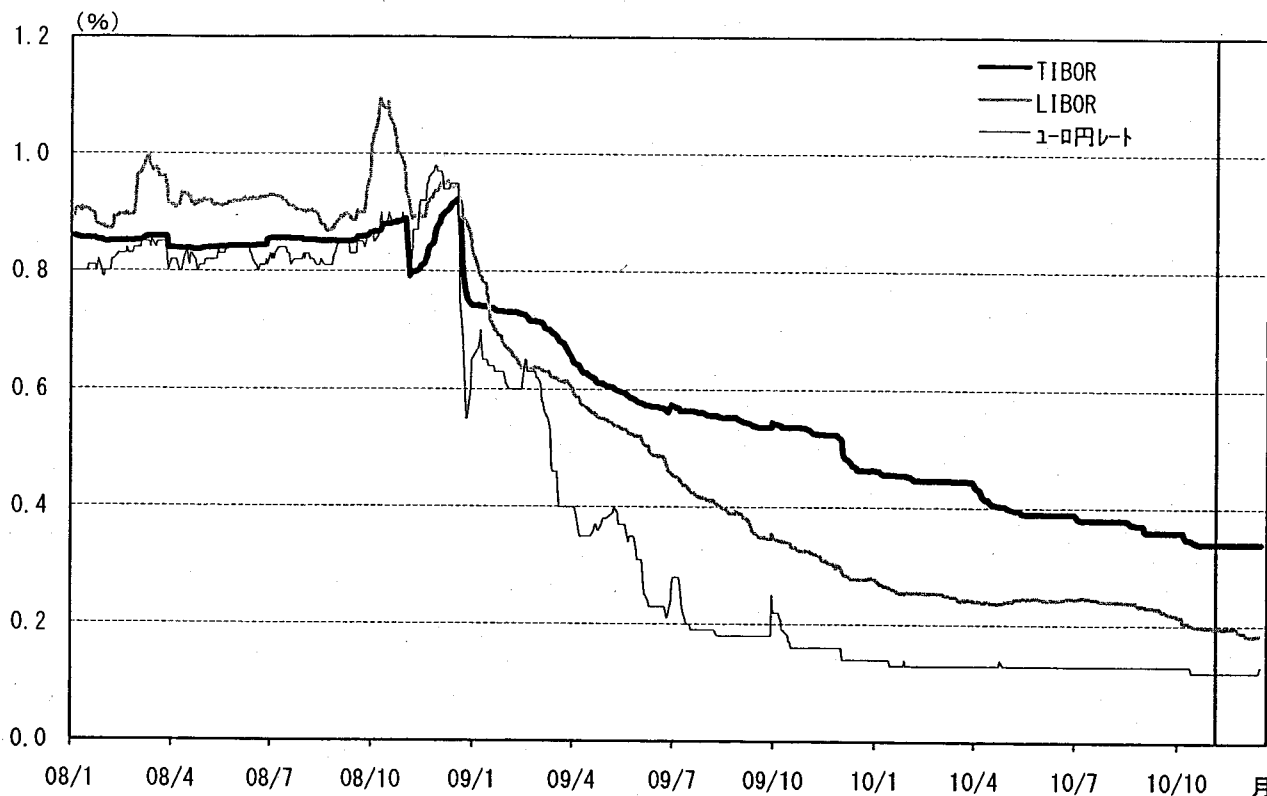
(注) 1. レポレート、ユーロ円レートはヒアリングベース (対外非公表)。

2. 短国レートはT-Bill利回り。ただし、09/2月の統合発行以前はFB/TB利回り。

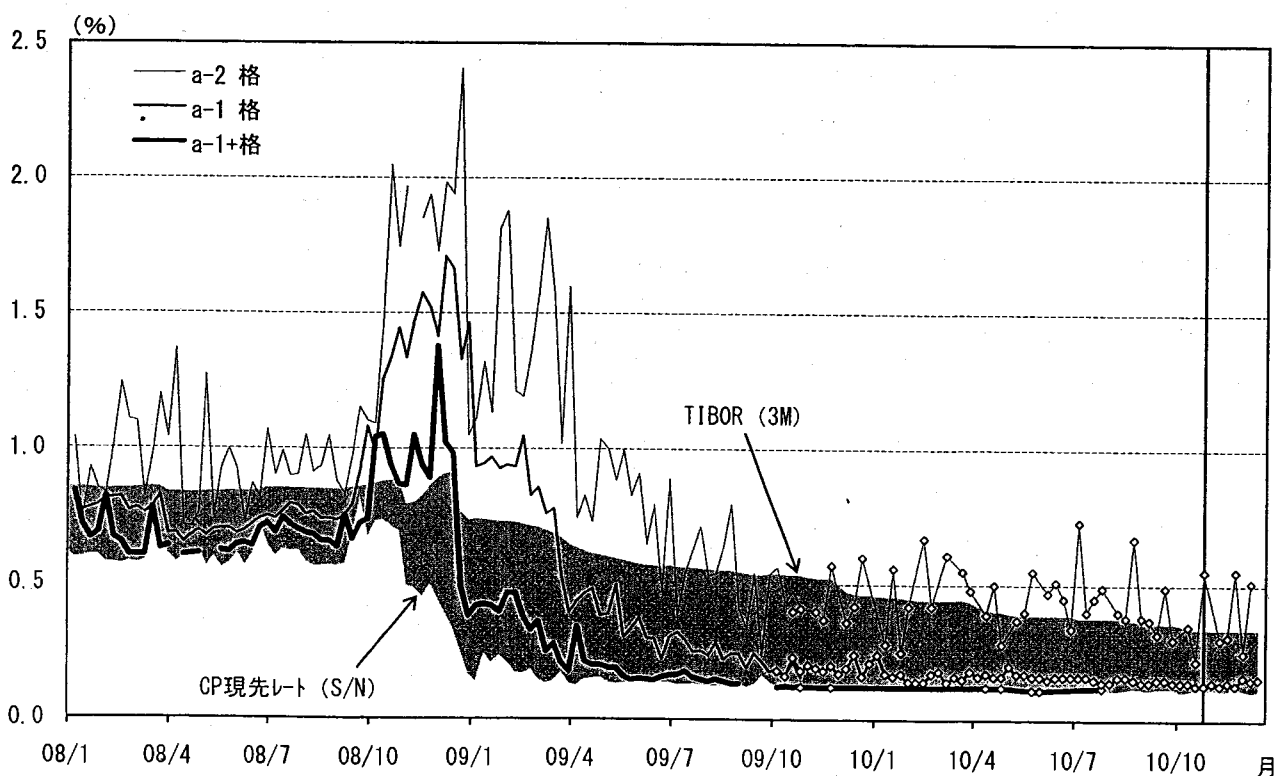
(出所) 日本相互証券、日本銀行

ターム物レートの推移 (1)

(1) TIBOR、LIBOR、ユーロ円レート (3か月物) の推移



(2) CP発行レート (3か月物) の推移

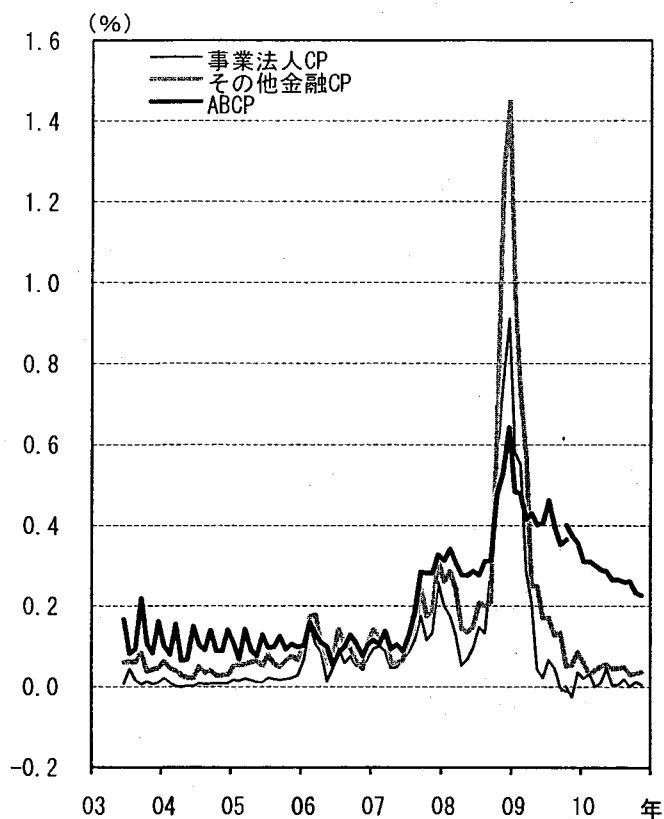


- (注) 1. (1)のユーロ円レートはヒアリングベース (対外非公表)。
2. (2)のCP発行レートは、週次平均レート (証券保管振替機構公表計数：◇印)。ただし、09/10月以前はCP等買現先オペの対象先による引受分 (対外非公表)。発行額による加重平均で、格付けは基本的にR&Iによる。金融機関発行分およびABCPは除く。
3. 直近は、(1)のLIBORは12/14日、その他は12/15日、(2)は12/13日週 (14日までの日次計数の平均)。

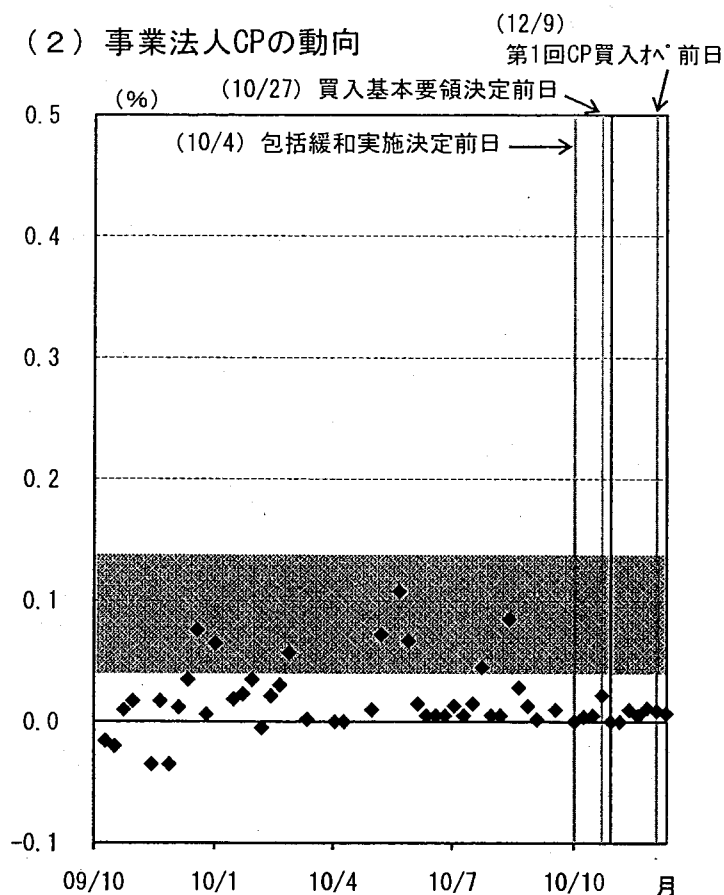
(出所) Bloomberg、証券保管振替機構、全国銀行協会、日本銀行

CP発行レート対短国スプレッド (a-1格、3か月物) の推移

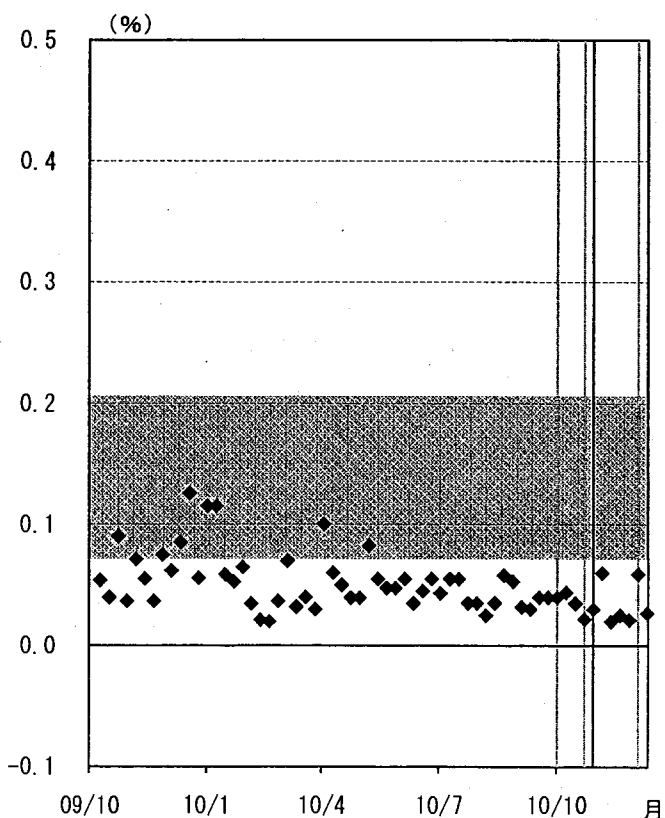
(1) 発行体別の推移



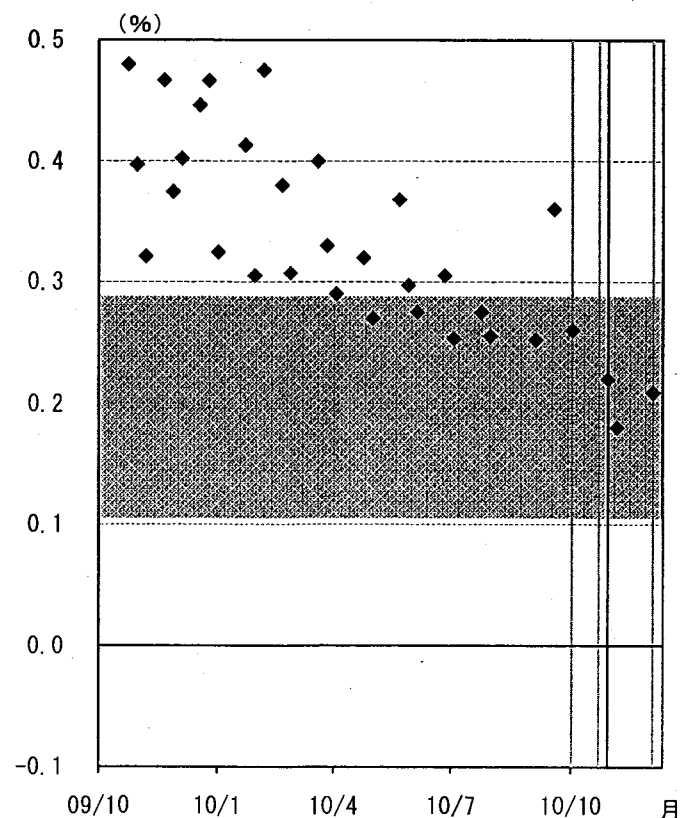
(2) 事業法人CPの動向



(3) その他金融CPの動向



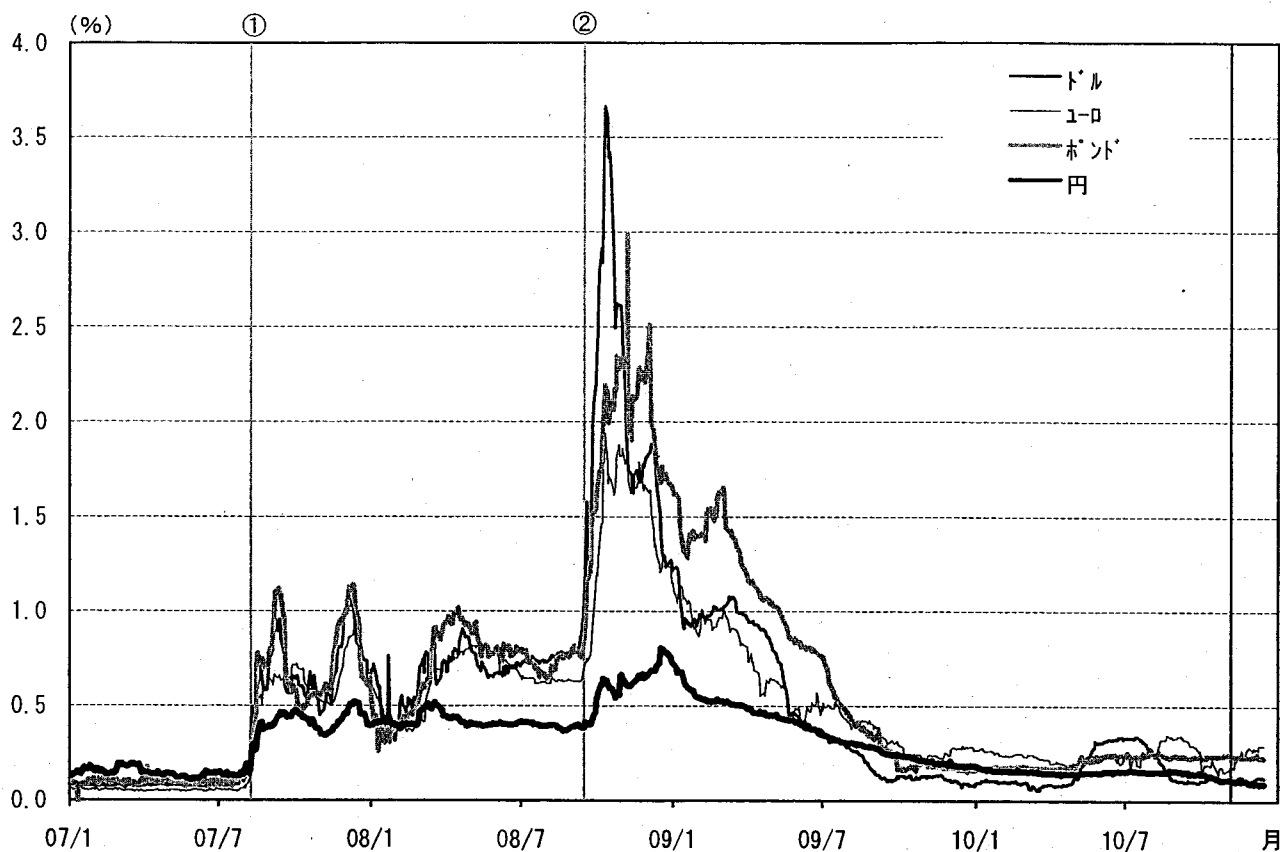
(4) ABCPの動向



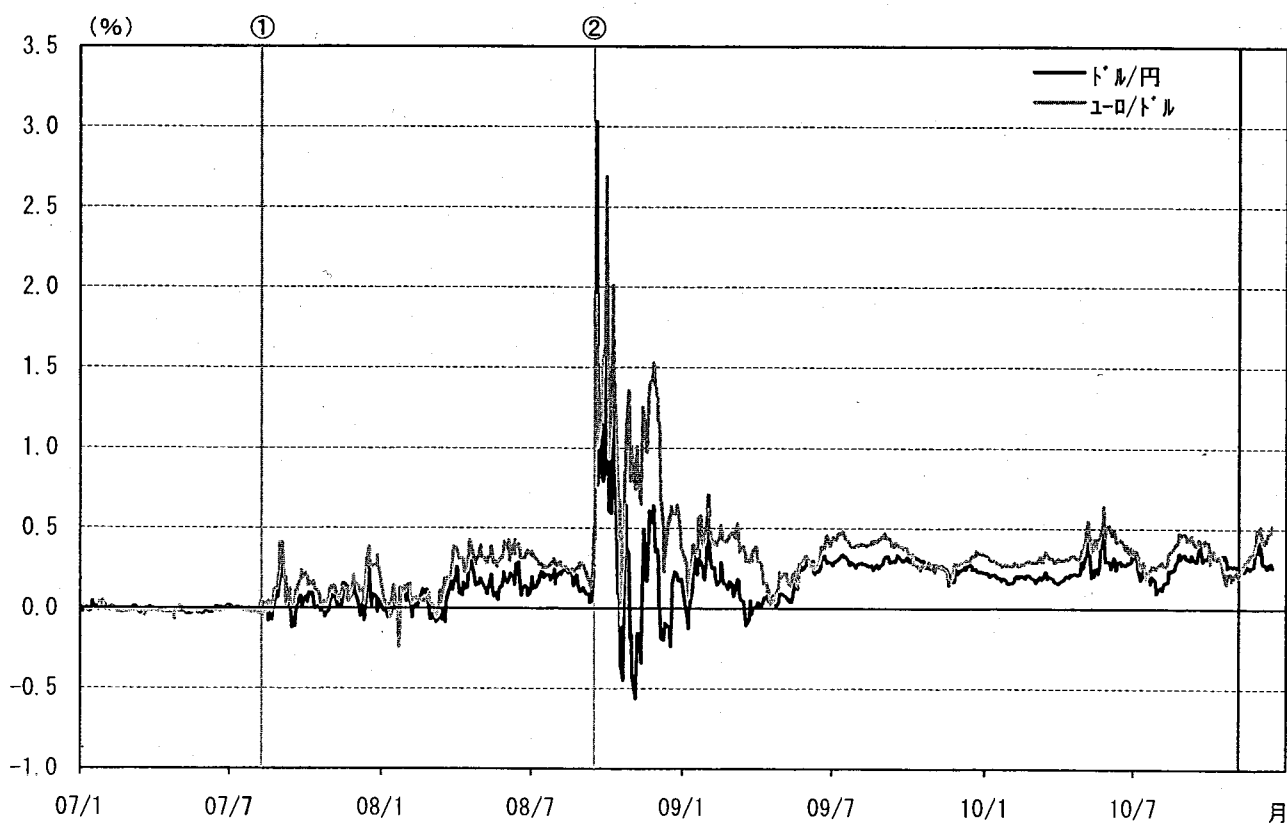
(注) 1. CP発行レートは、発行額による加重平均で、格付けは基本的にR&Iによる。(1)は月次、その他は週次。
 2. 証券保管振替機構による集計。ただし、09/10月以前はCP等買現先オペの対象先による引受分(対外非公表)。
 3. 事業法人CPは、電力・ガス業およびその他金融業発行分を含まない。
 4. シャドーの上限は07/8月~08/8月の平均、下限は04/1月~07/7月の平均。
 5. 直近は、(1)は10/11月、その他は12/6日週。
 (出所) 日本相互証券、証券保管振替機構、日本銀行

ターム物レートの推移 (2)

(1) LIBOR-OISスプレッド (3か月物) の推移



(2) ドル転コスト対ドルLIBORスプレッド (3か月物) の推移



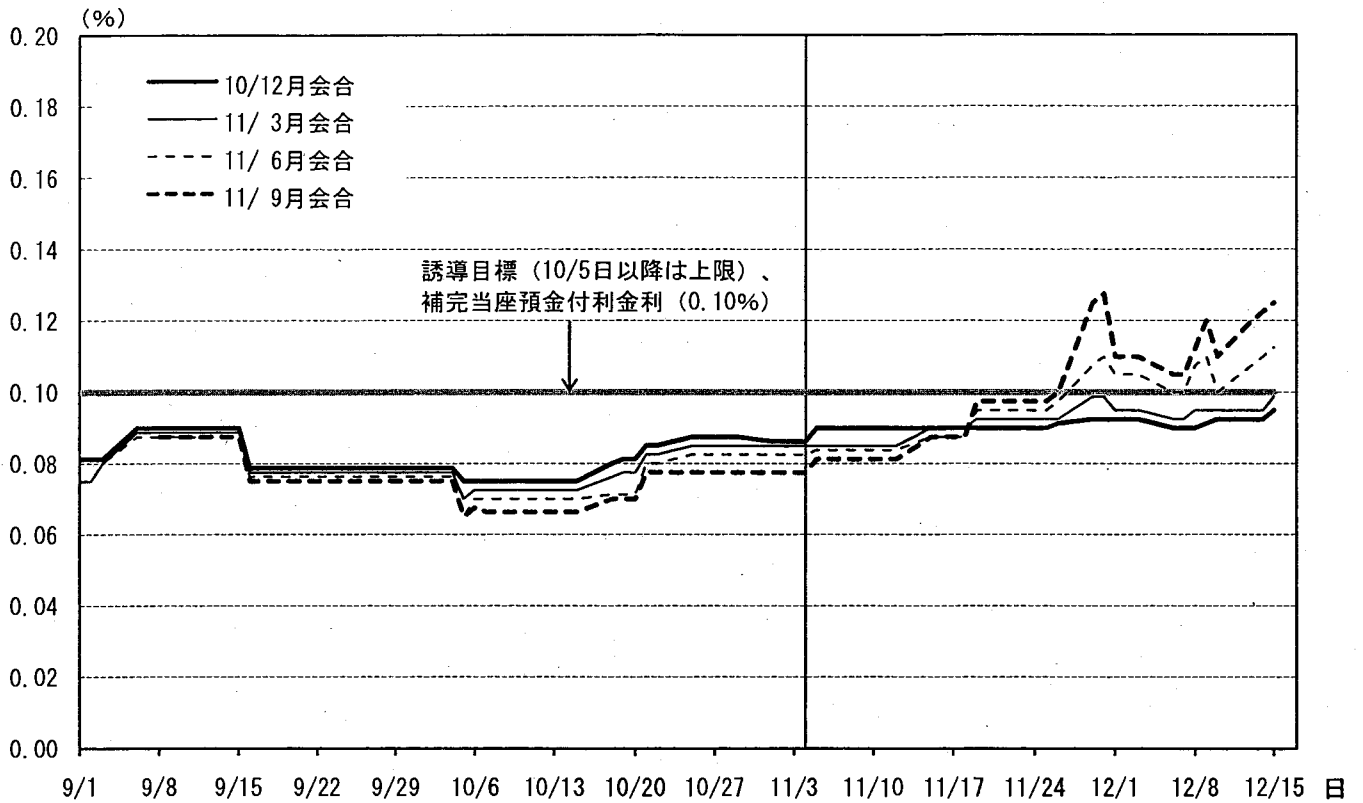
(注) 1. ①はパリバ・ショック (07/8/9日) 時点、②はリーマン破綻 (08/9/15日) 時点。

2. 直近は12/14日。

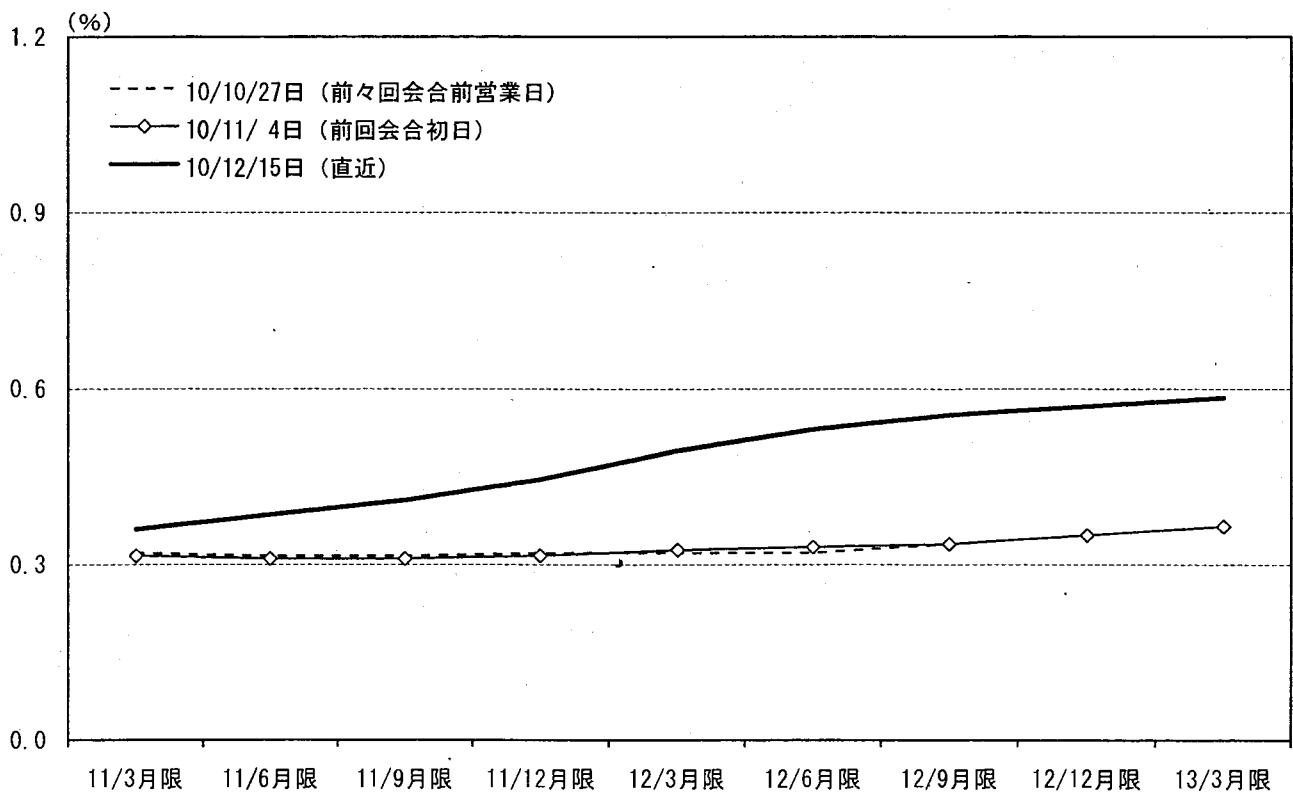
(出所) Bloomberg

フォワードレートの動向

(1) OISレート（会合間取引）の推移



(2) ユーロ円金利先物からみたフォワードレート・カーブの動向

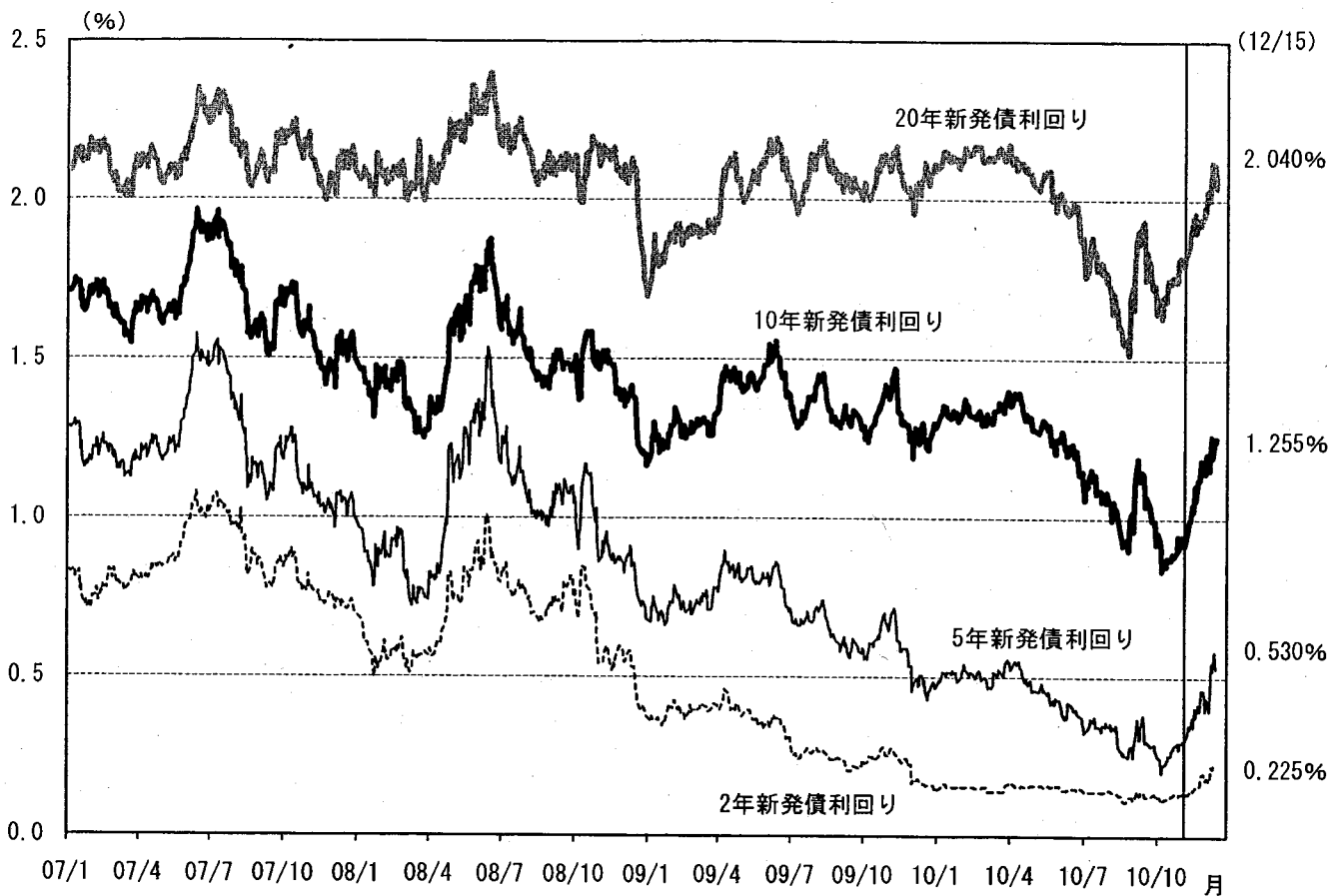


(注) 直近は12/15日。

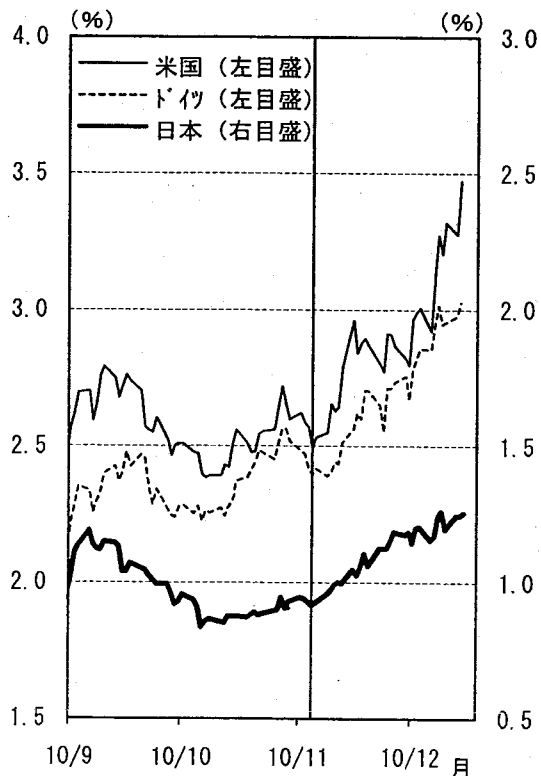
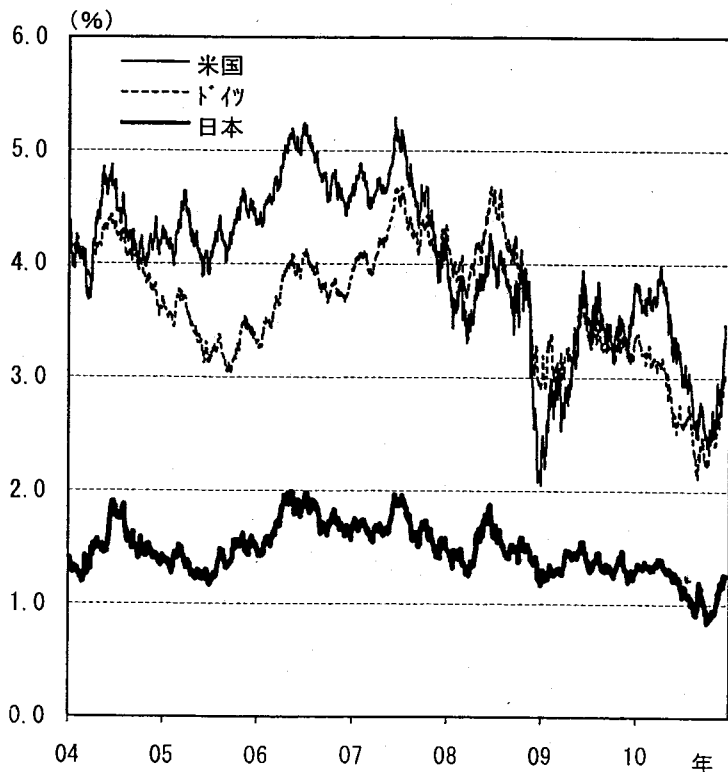
(出所) トムソン・ロイター、メイタン・トラディション、東京金融取引所

長期金利の推移

(1) 国内年限別の推移



(2) 10年国債利回りの推移

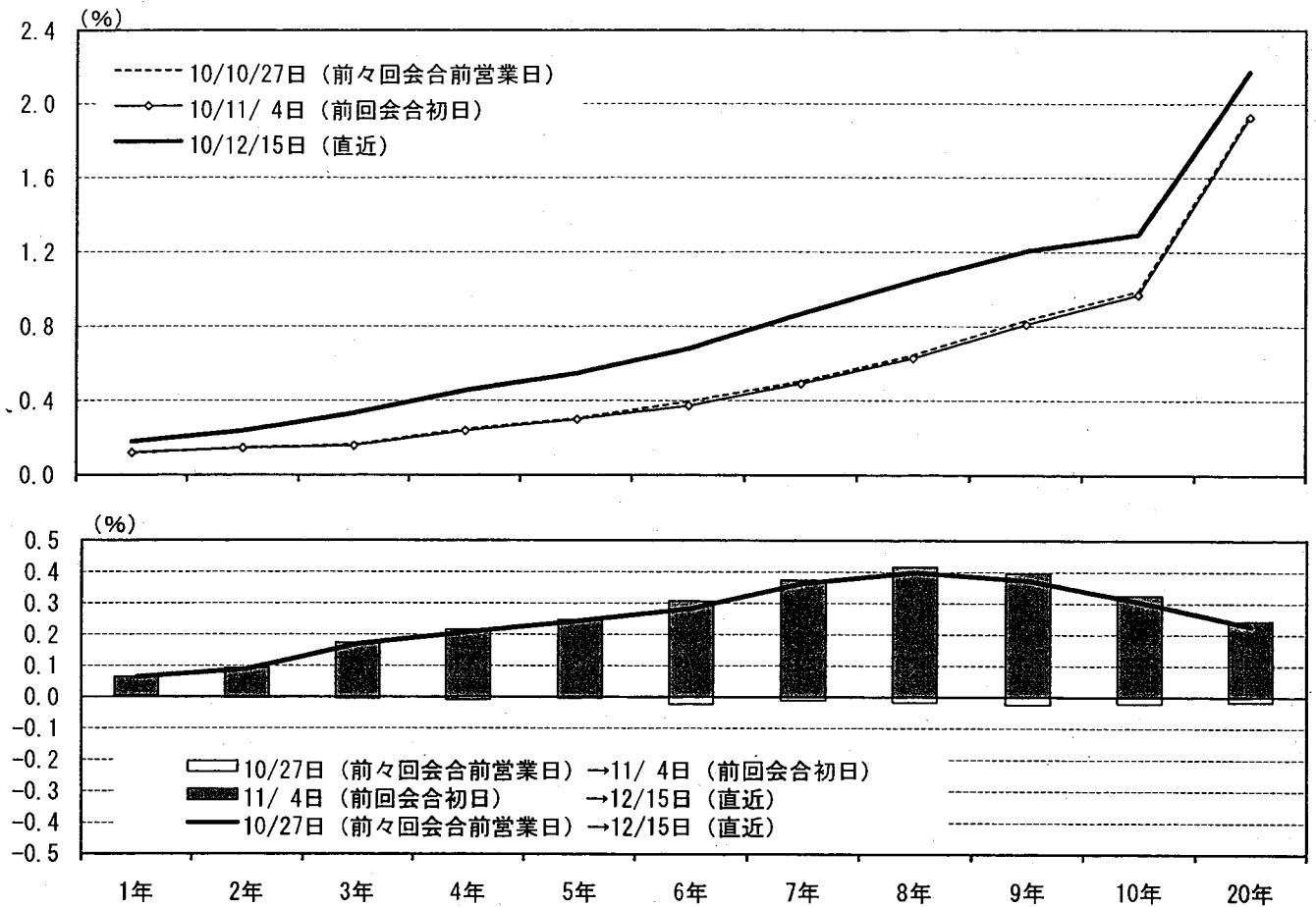


(注) 直近は、日本は12/15日、その他は12/14日。

(出所) Bloomberg、日本相互証券

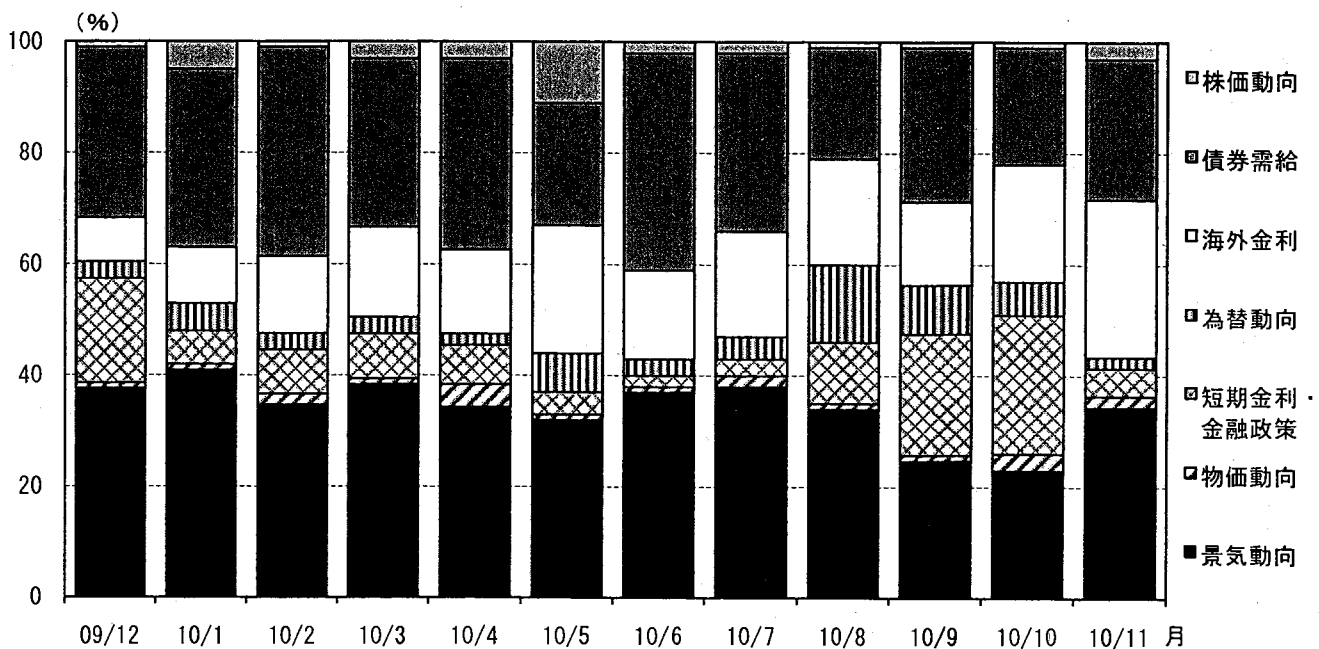
(図表7)

イールド・カーブの動向



(出所) 日本証券業協会、日本銀行

市場参加者が注目する債券利回り変動要因

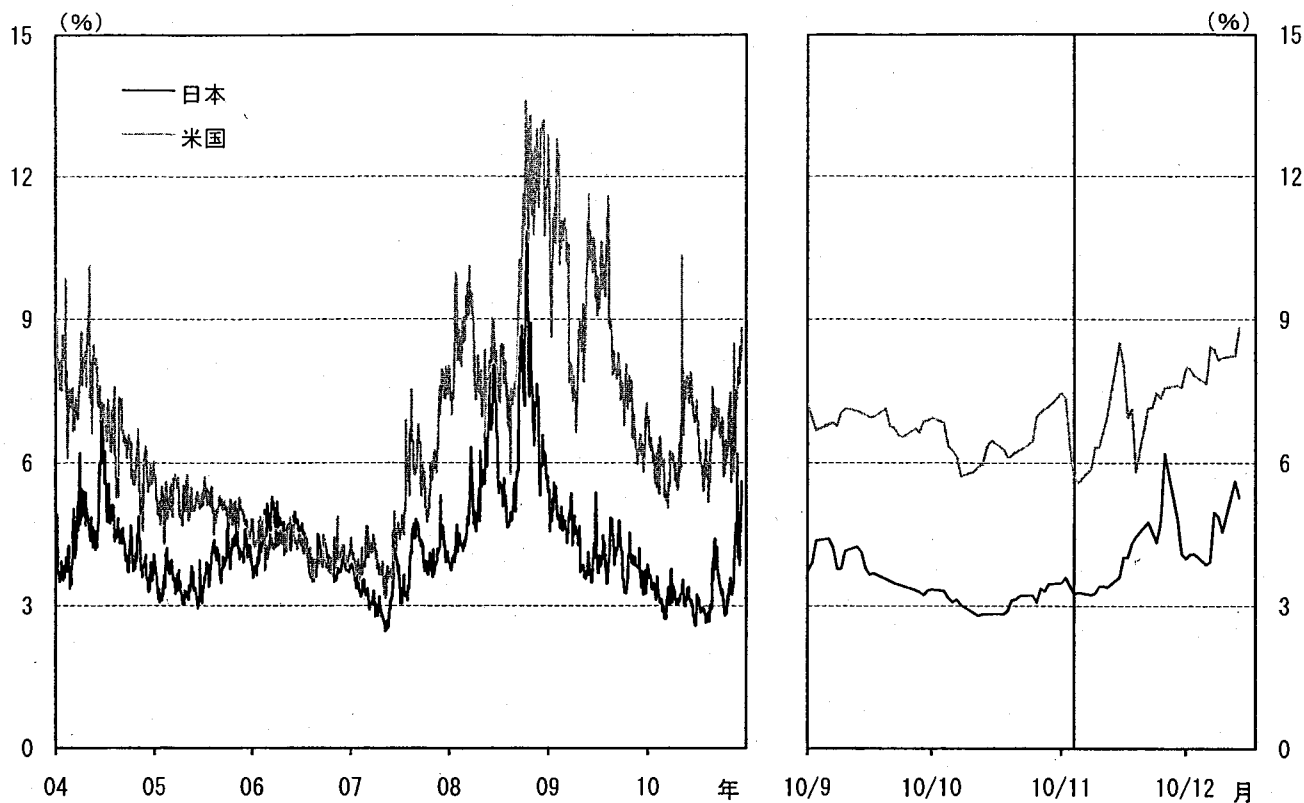


(注) 調査期間は10/11/22日～10/11/25日。期間中の10年新発債利回りは1.125～1.155%。

(出所) 「QSS債券月次調査」

(図表8)

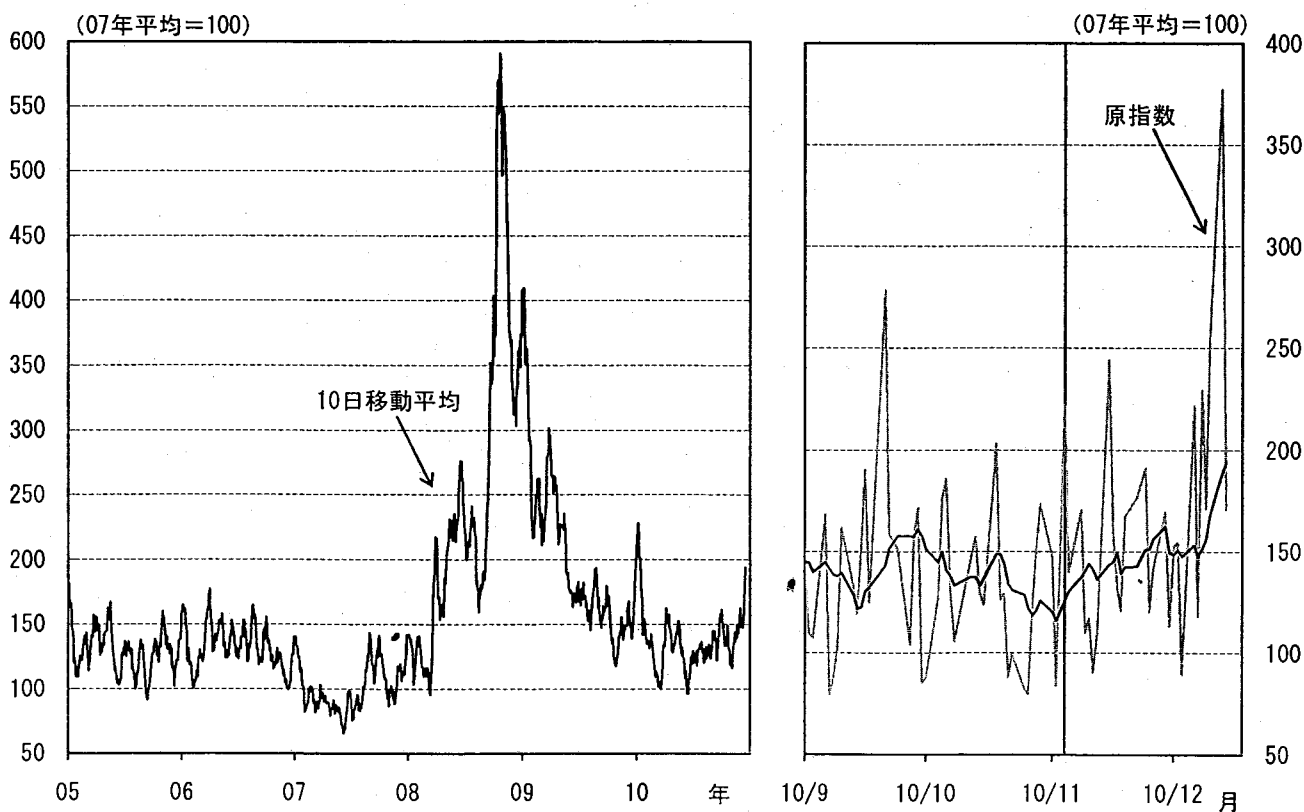
インプライド・ボラティリティの推移



(注) 直近は12/14日。

(出所) Bloomberg、三菱UFJモルガン・スタンレー証券

長国先物の値幅・出来高比率の推移

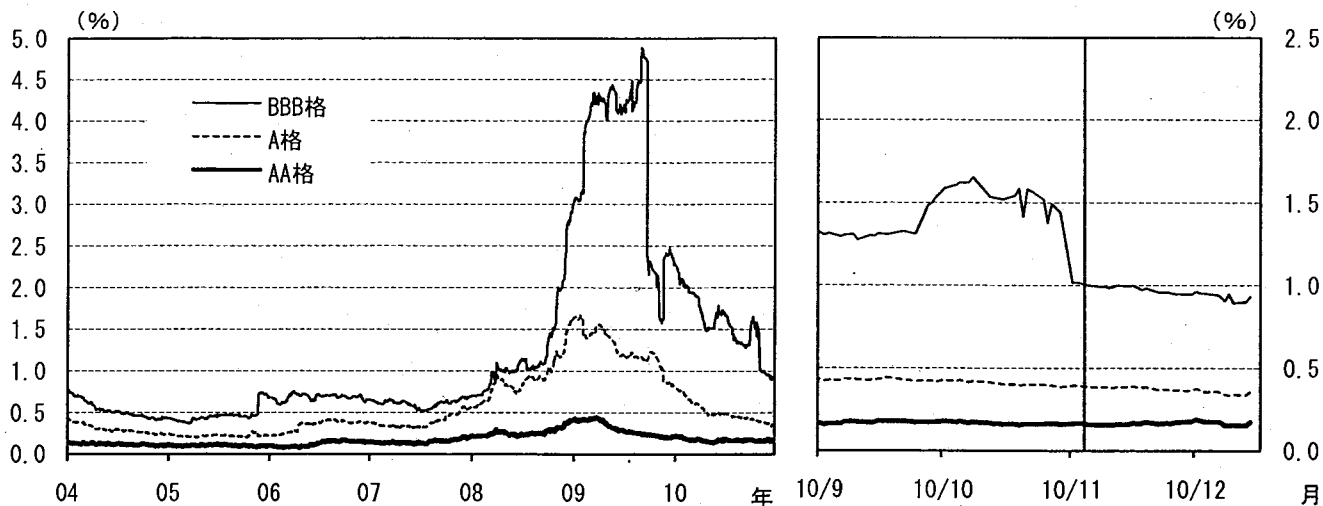


(注) 直近は12/14日。

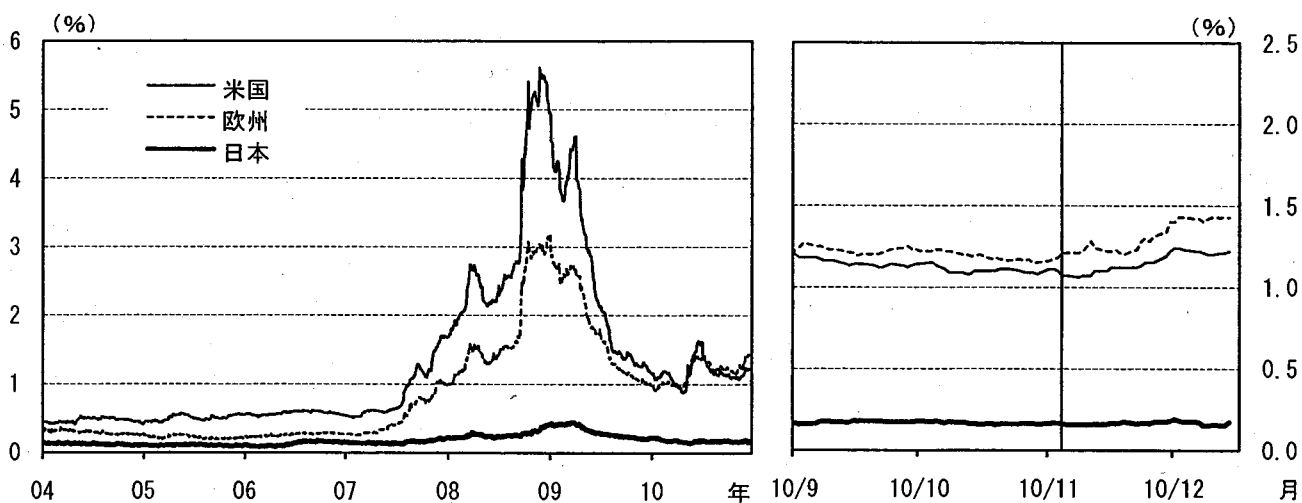
(出所) QUICK

社債流通利回りの対国債スプレッドの推移

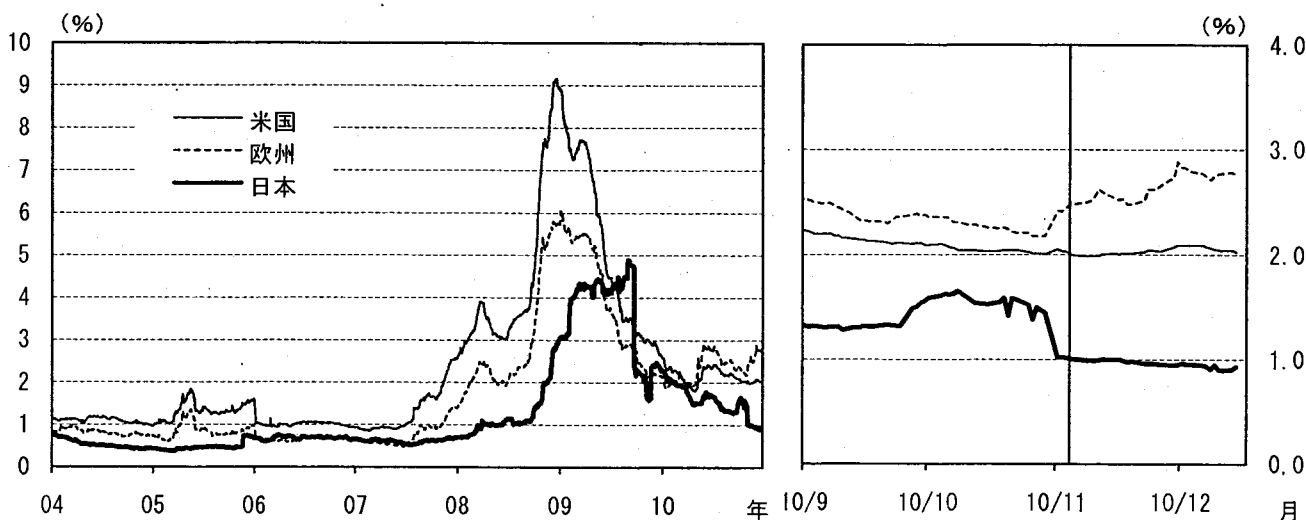
(1) 国内社債の動向



(2) 高格付社債（AA格）の動向



(3) 低格付社債（BBB格）の動向

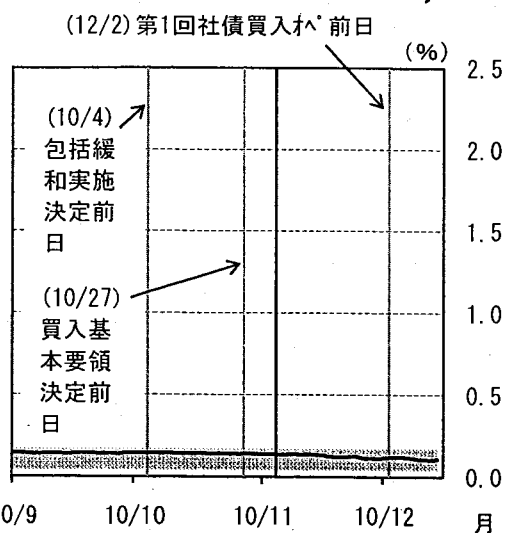
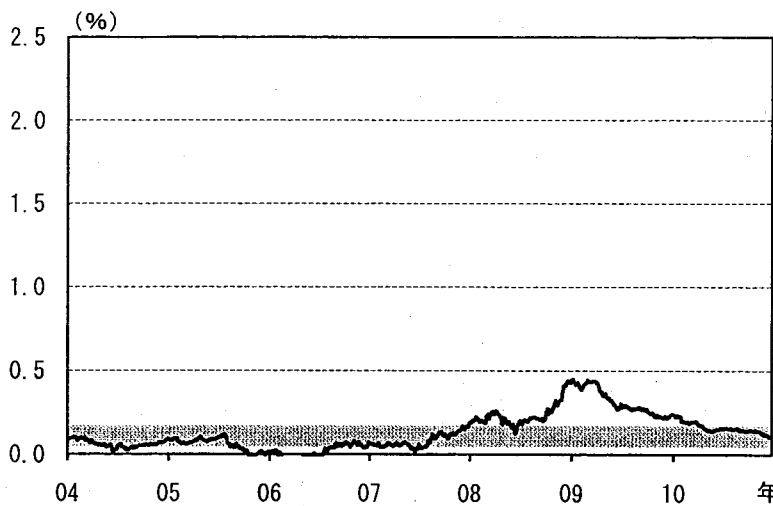


(注) 1. 日本の社債流通利回りは売買参考統計値、格付けはR&Iによる。集計対象は、残存3年以上7年未満の銘柄。
2. 米欧はメリルリンチ算出、格付けはMoody's、S&P、Fitchによる。集計対象は、残存3年以上5年未満の銘柄。
3. 直近は12/14日。

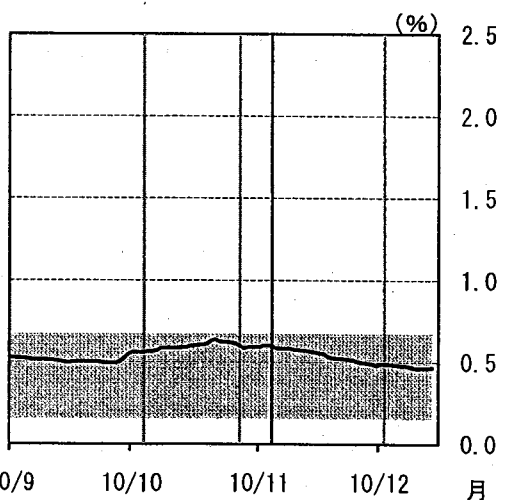
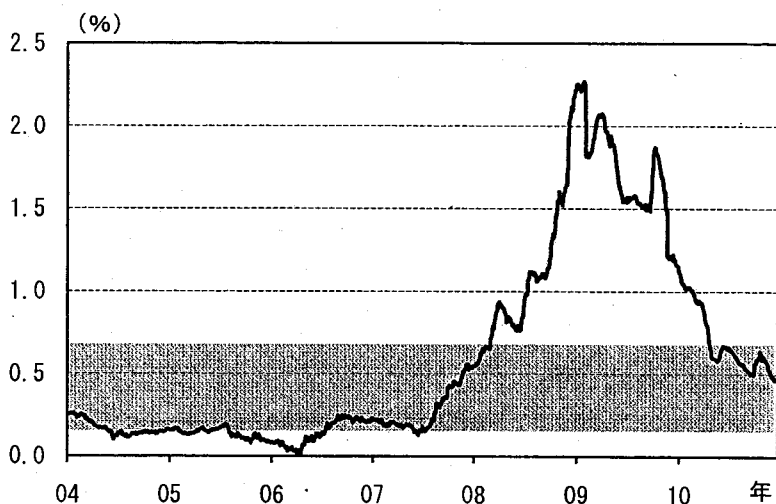
(出所) Bloomberg、日本証券業協会、日本銀行

社債流通利回りの対国債スプレッド（残存3年未満）の推移

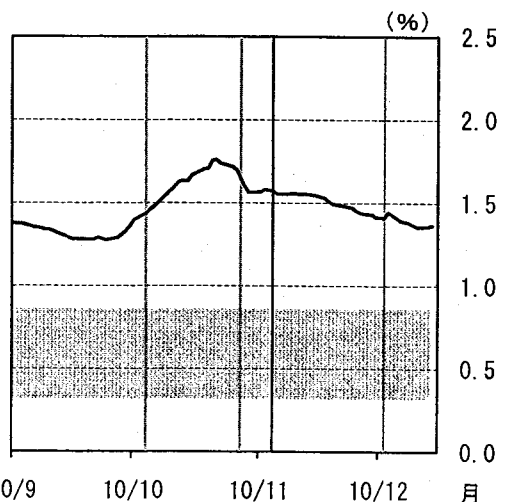
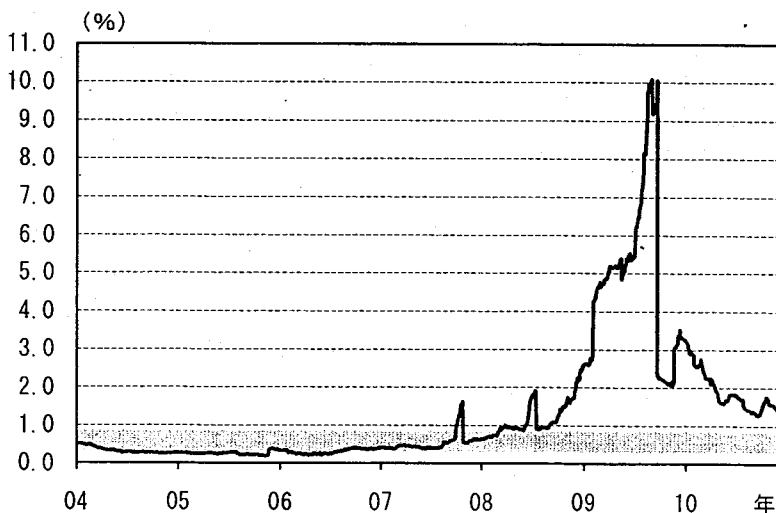
(1) AA格の動向



(2) A格の動向



(3) BBB格の動向

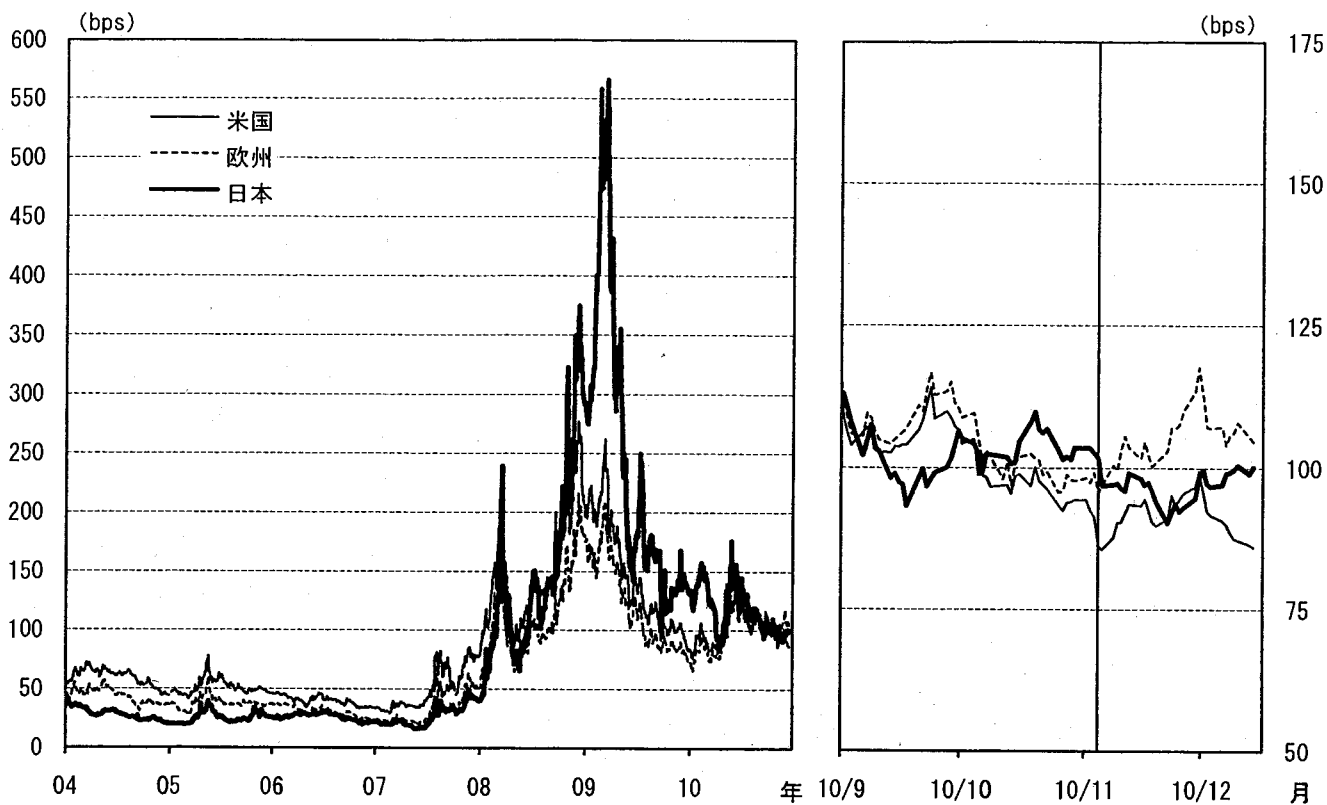


(注) 1. 売買参考統計値に基づく。格付けはR&Iによる。シャドーの上限は07/8月～08/8月の平均、下限は04/1月～07/7月の平均。

2. 直近は12/14日。

(出所) 日本証券業協会、日本銀行

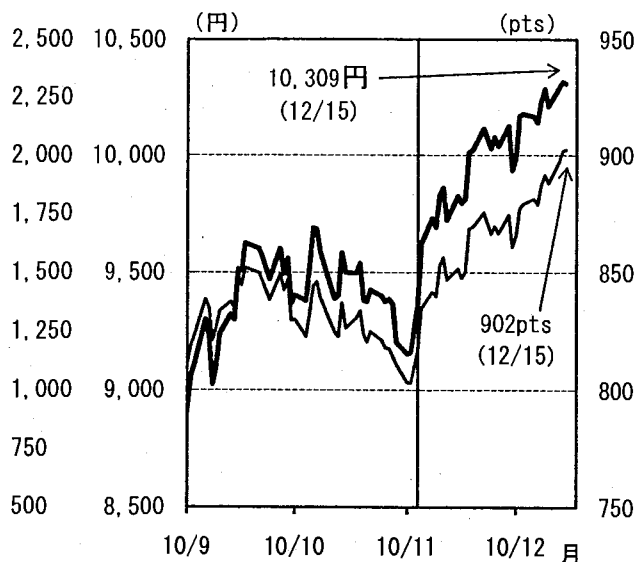
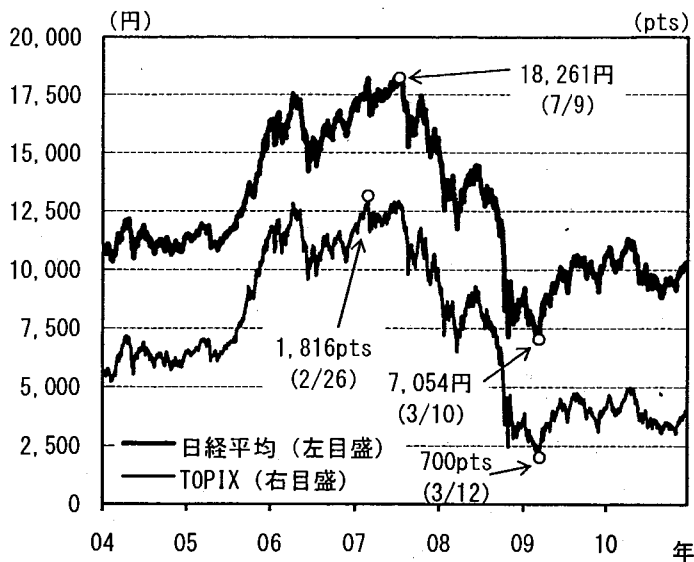
CDSプレミアムの推移



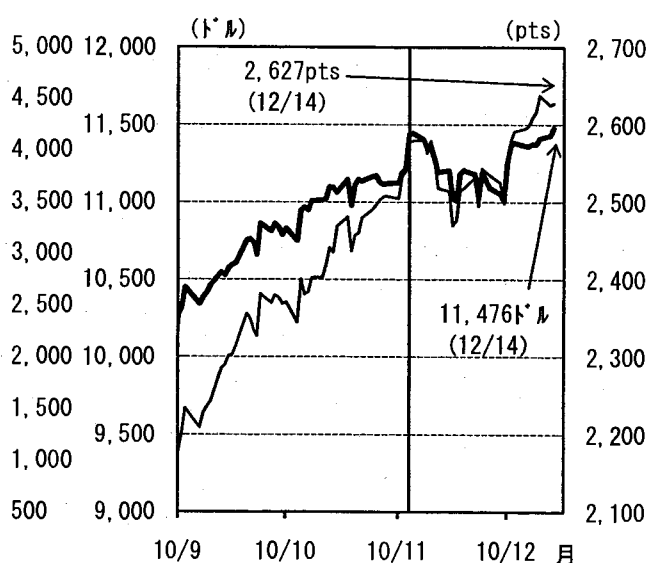
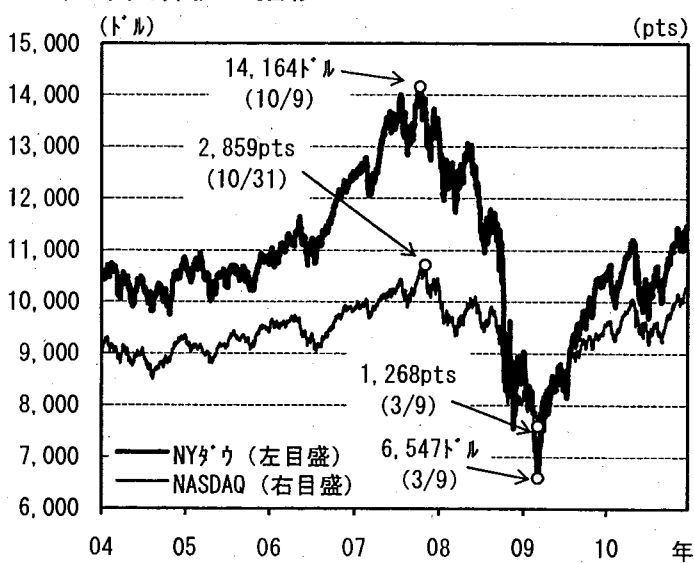
(注) 1. 以下の各インデックス。年限は5年。
日本：iTraxx Japan、米国：CDX.NA.IG、欧州：iTraxx Europe。
2. 直近は12/14日。
(出所) Markit、JPモルガン

株式相場の推移

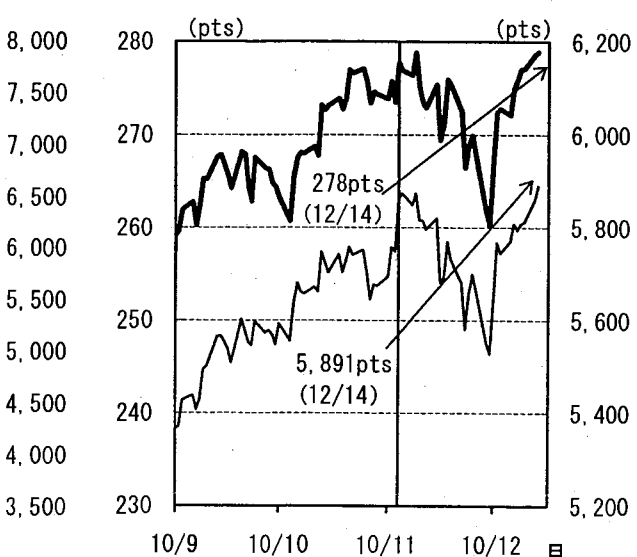
(1) 国内株価の推移



(2) 米国株価の推移



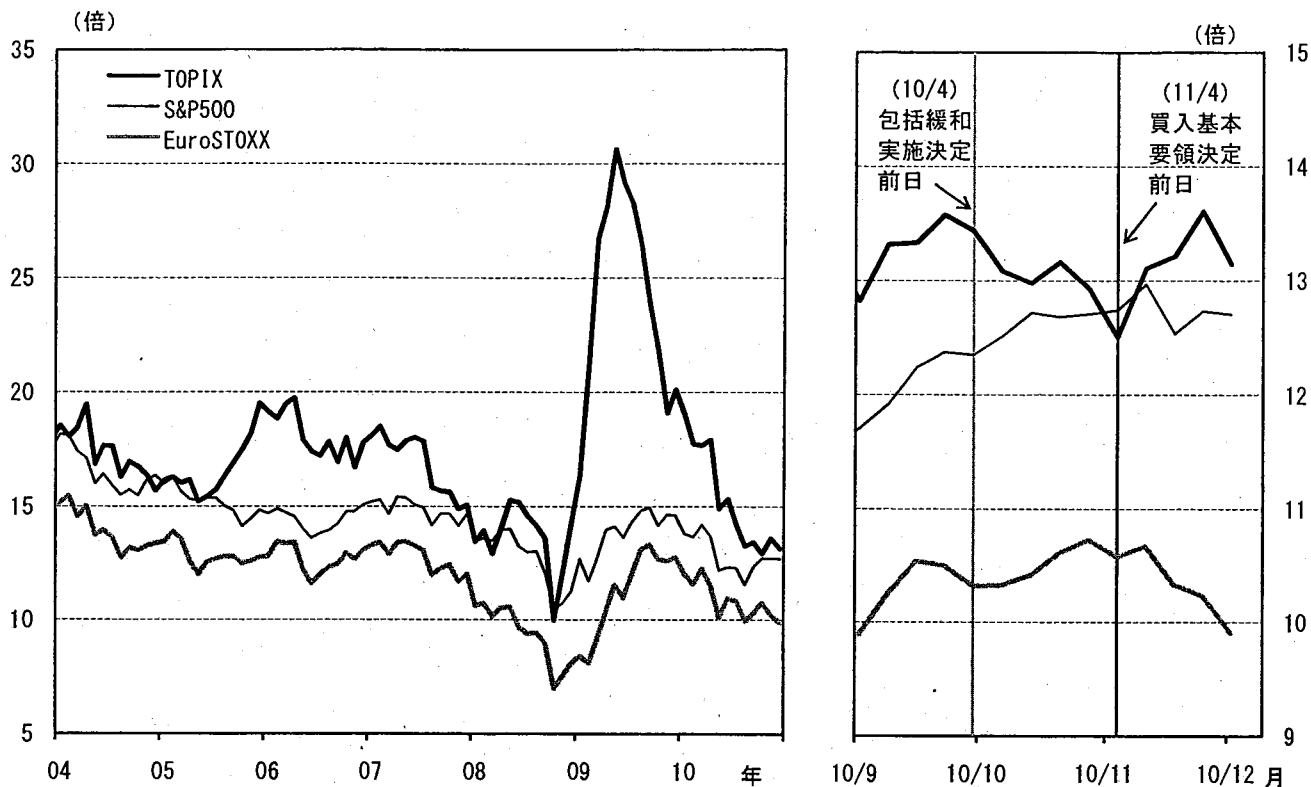
(3) 欧州株価の推移



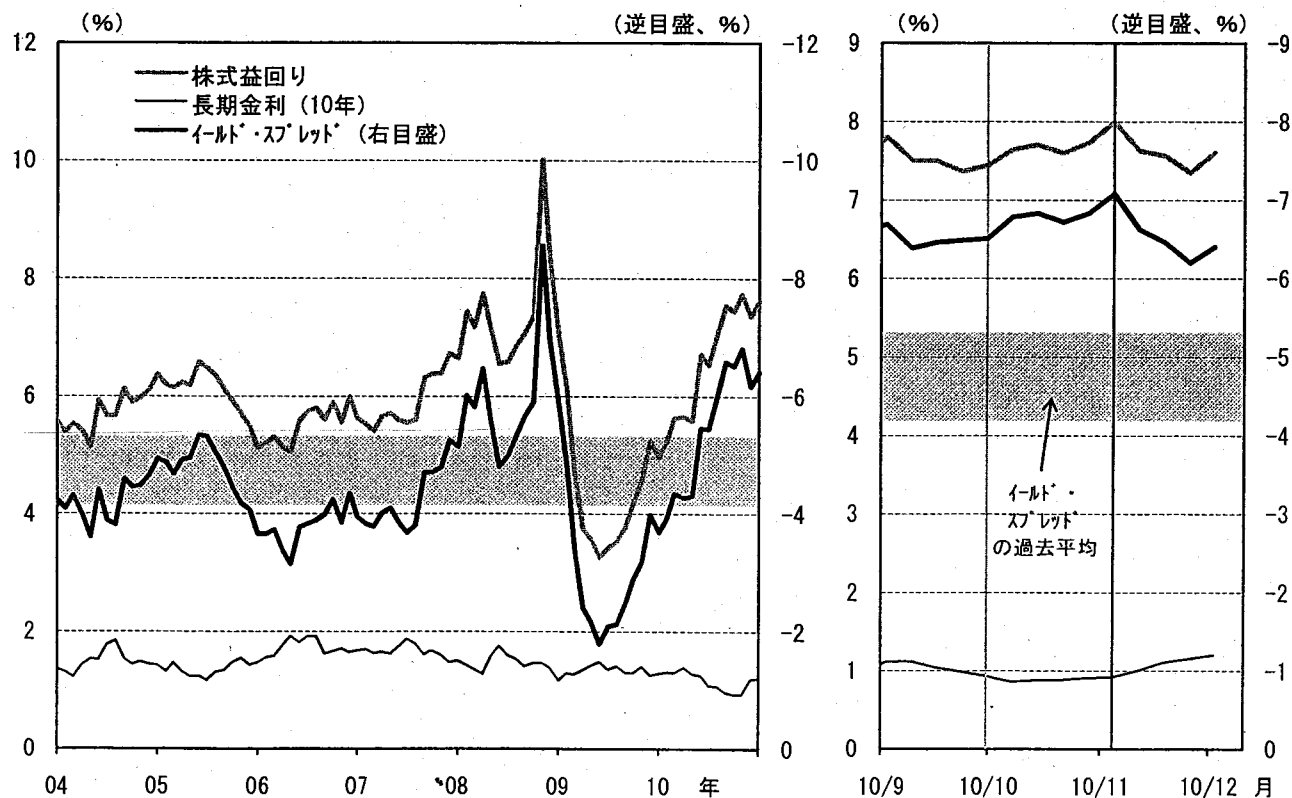
(注) 直近は、TOPIX、日経平均は12/15日、その他は12/14日。
(出所) Bloomberg、QUICK

株価収益率とイールド・スプレッドの推移

(1) 株価収益率 (PER) の推移



(2) イールド・スプレッド (日本) の推移



(注) 1. 対外非公表。左図は月次、右図は週次。直近は12/2日。
 2. シャドーの上限は07/8月~08/8月の平均、下限は04/1月~07/7月の平均。
 3. 株式益回り=1/PER、イールド・スプレッド=長期金利(10年)-株式益回り。
 (出所) トムソン・ロイター、日本相互証券

主体別売買動向

(▲は売り越し、億円)

	個人		事業法人	投信	金融機関			海外投資家
		信用				信託	生・損保	
09/10 ~ 12月	▲12,334	▲1,050	▲1,975	2,022	▲3,335	▲1,277	▲564	20,595
10/1 ~ 3月	▲10,679	523	▲2,218	▲700	▲7,557	▲3,842	▲1,853	22,843
4 ~ 6月	11,604	8,097	▲265	1,530	4,656	5,244	▲739	▲7,619
7 ~ 9月	▲8,817	▲1,959	▲91	▲304	6,832	7,653	▲827	2,730
10/9月	▲4,594	▲1,836	▲42	40	369	897	▲359	1,261
10月	▲2,439	▲33	▲341	354	1,038	1,346	65	4,626
11月	▲6,566	▲1,445	159	▲104	▲1,388	34	▲1,232	4,208
10/11/1 ~ 11/5	▲2,373	▲1,135	▲86	298	295	563	▲258	1,857
11/8 ~ 11/12	▲1,660	▲196	▲12	▲187	▲833	▲402	▲353	840
11/15 ~ 11/19	▲2,173	▲528	220	12	▲232	173	▲351	1,289
11/22 ~ 11/26	▲358	414	38	▲227	▲617	▲300	▲269	221
11/29 ~ 12/3	▲1,374	▲91	76	▲15	▲516	▲79	▲246	1,333

(注) 三市場(東京・大阪・名古屋)合計。金融機関は、都銀・地銀等、その他金融、信託、生・損保。

(出所) 東京証券取引所

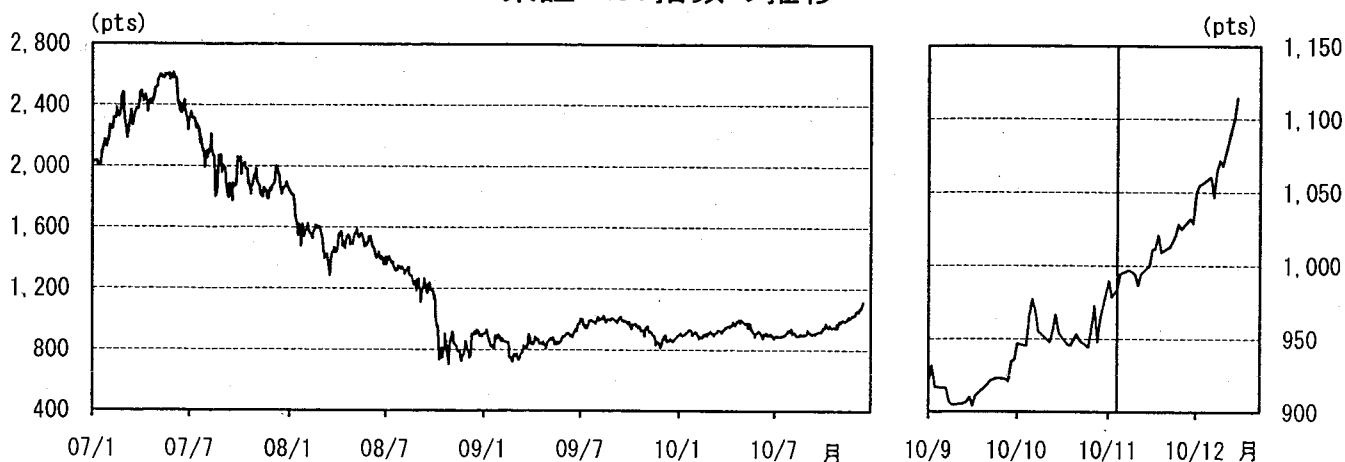
ボラティリティの推移



(注) 日経平均は日経平均ボラティリティ・インデックス。S&P500はVIX指数。直近は12/14日。

(出所) Bloomberg、日本経済新聞社

東証REIT指数の推移

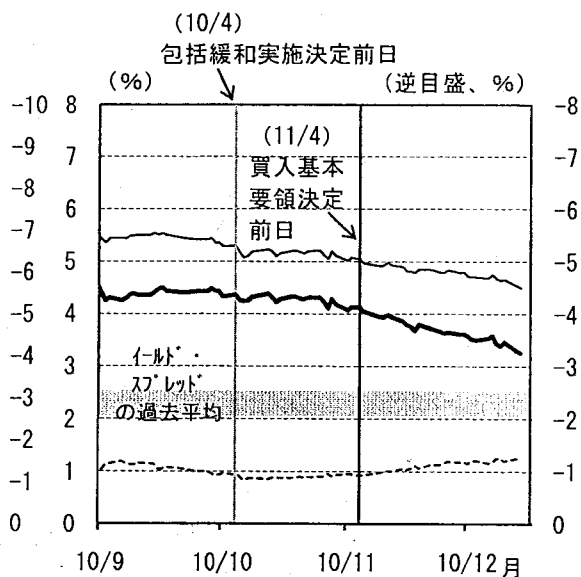
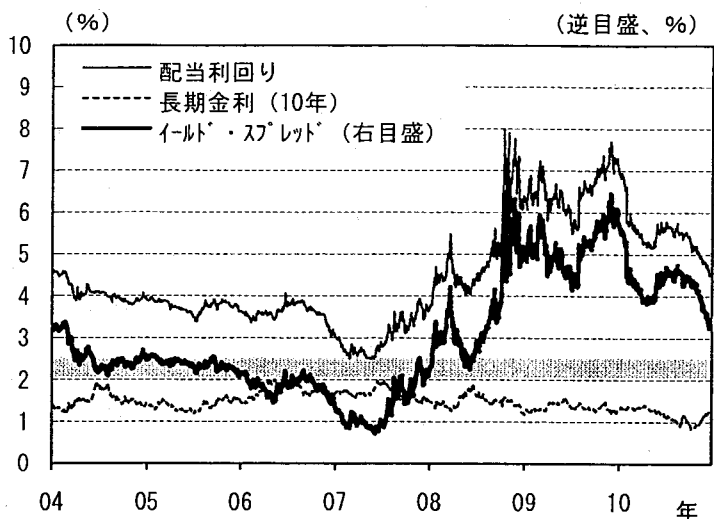


(注) 直近は12/15日。

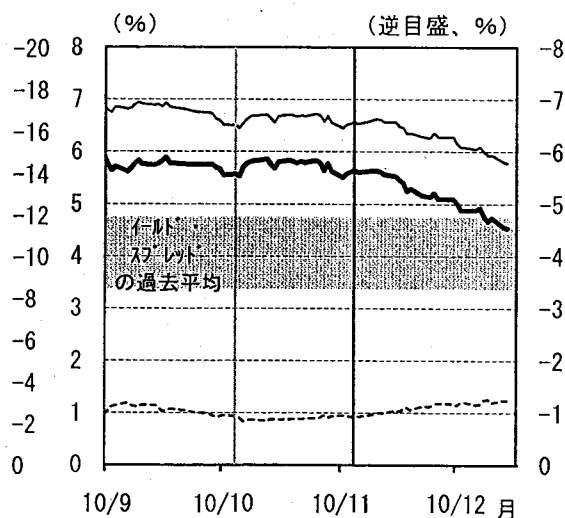
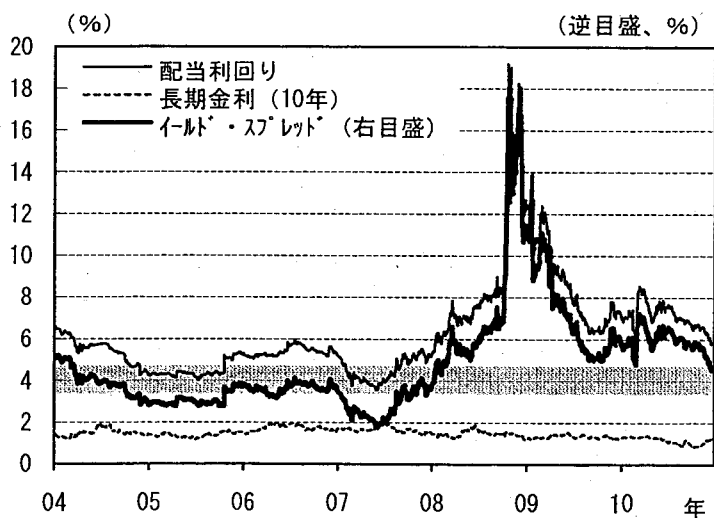
(出所) Bloomberg

不動産投資信託 (J-REIT) のイールド・スプレッドの推移

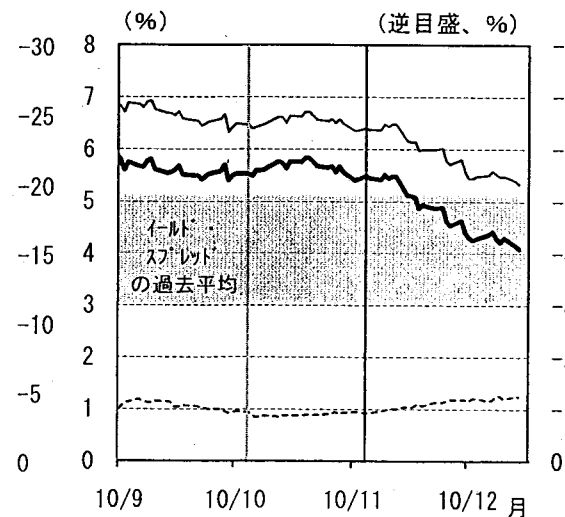
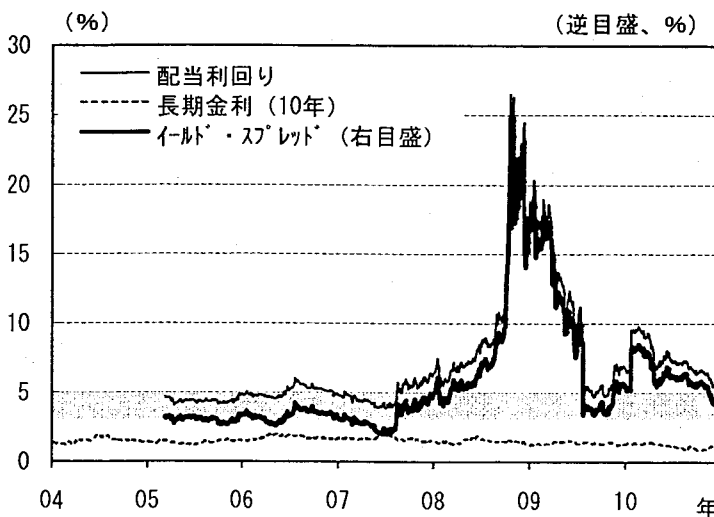
(1) AA格 (15銘柄) の動向



(2) A格 (13銘柄) の動向



(3) BBB格 (2銘柄) の動向

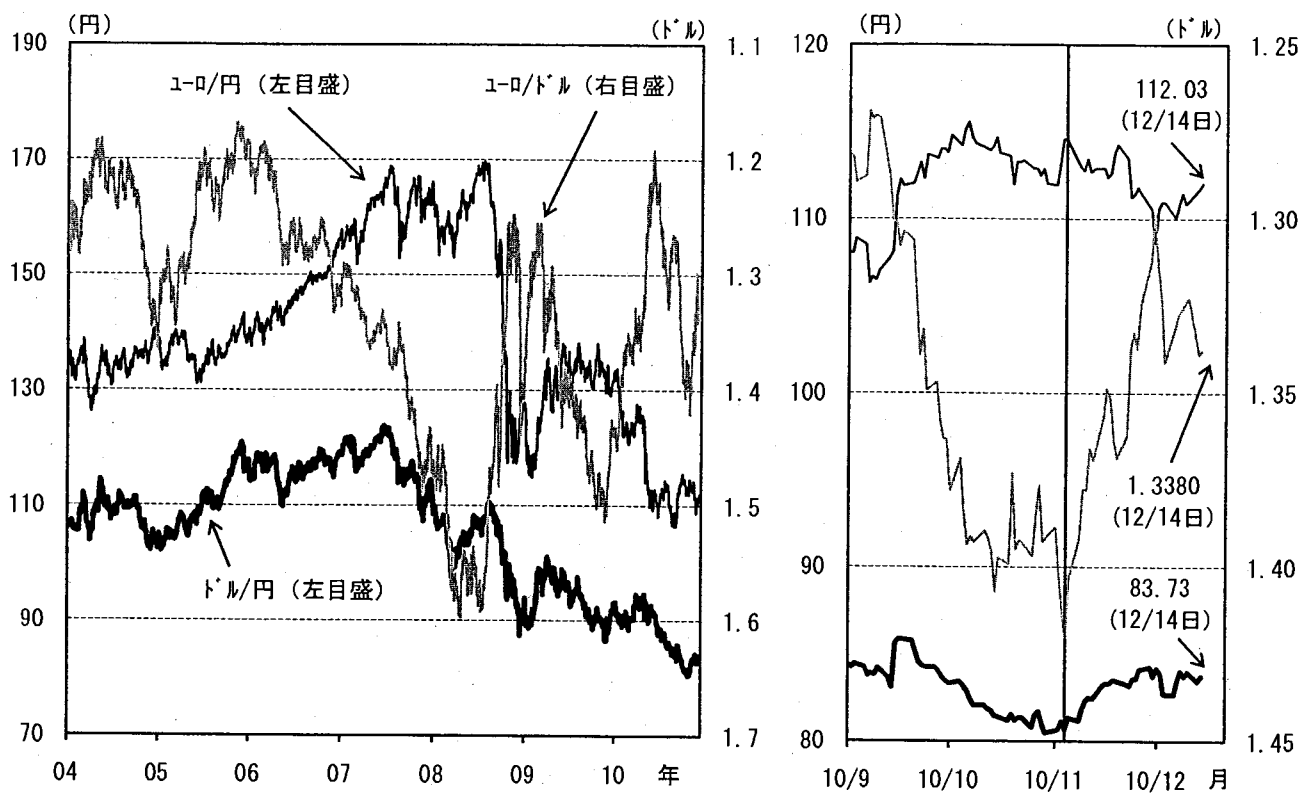


(注) 1. 直近は12/14日。シャドーの上限は07/8月～08/8月の平均、下限は04/1月～07/7月の平均。
2. 格付けは直近時点のもので、東証REIT指数を構成する35銘柄中、格付けが確認できる30銘柄について集計。S&P、Moody's、R&I、JCRのうちの最高格付け。カッコ内は、各格付けに該当する銘柄数。
3. イールド・スプレッドは、長期金利 (10年) - 配当利回り。

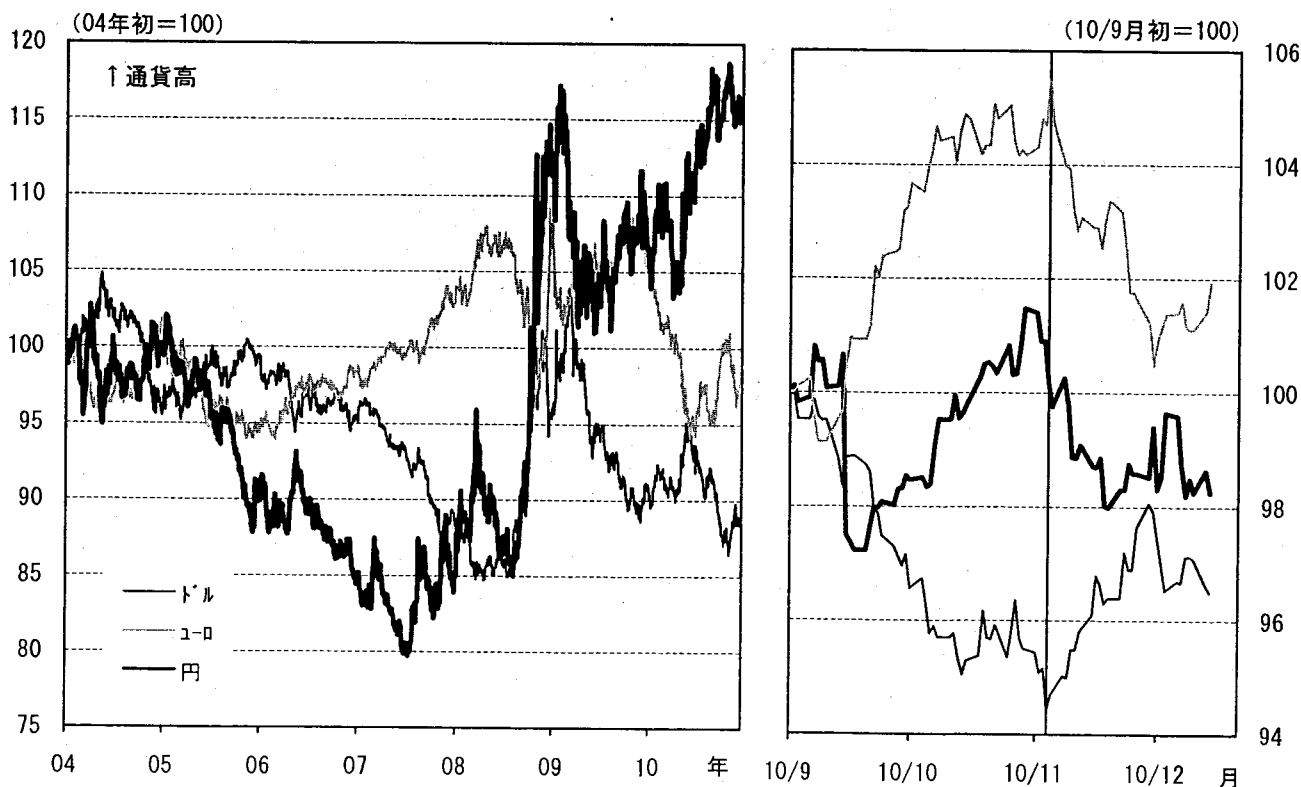
(出所) Bloomberg、日本相互証券

主要為替相場の推移

(1) ドル/円、ユーロ/円、ユーロ/ドル相場の推移



(2) 名目実効為替レートの推移



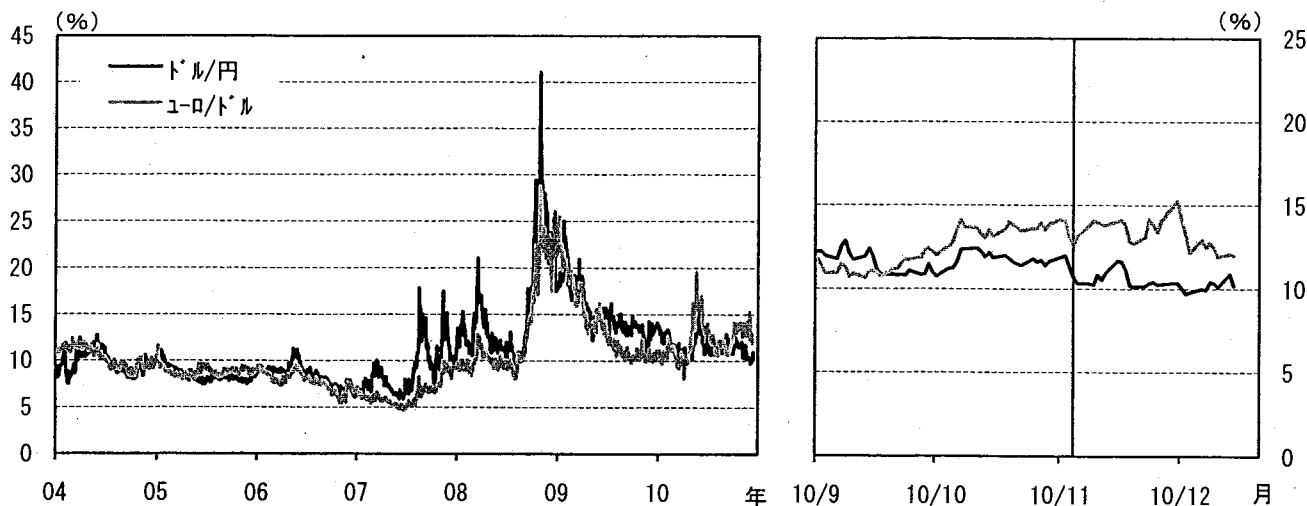
(注) 1. (1)は原則NY市場16時時点。

2. 直近は12/14日。

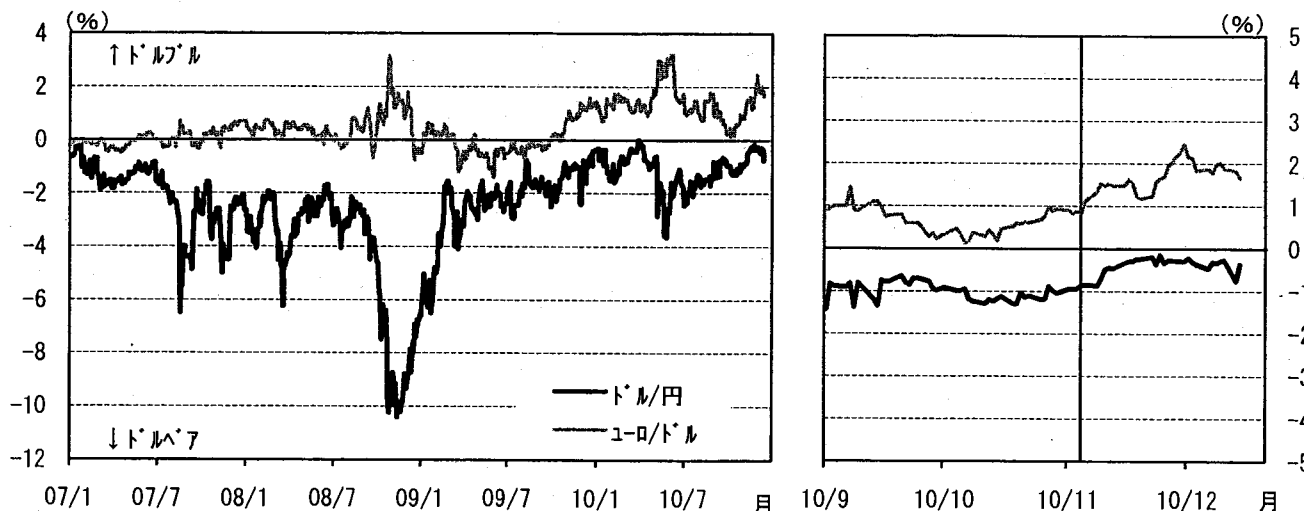
(出所) JPモルガン、トムソン・ロイター、ECB、日本銀行

通貨オプション、先物市場の動向

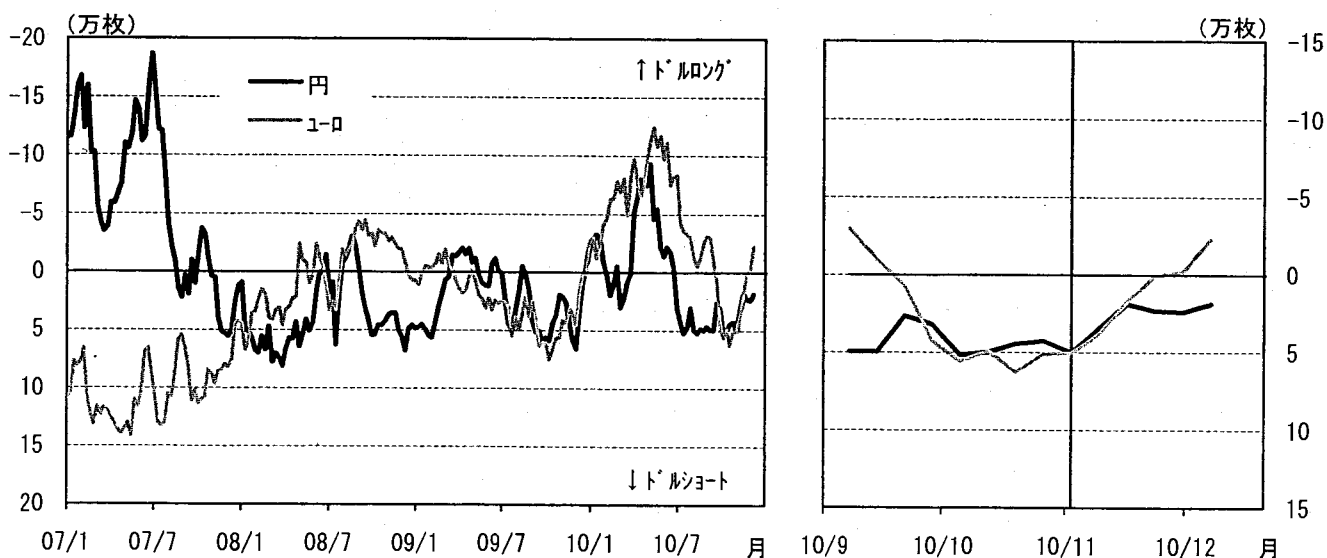
(1) インプライド・ボラティリティ (1か月) の推移



(2) リスクリバーサル (1か月) の推移



(3) IMMネットポジションの推移



(注) 1. (3)は通貨先物取引における非商業目的および目的別計数非報告分のネット建玉の合計。

2. 直近は、(1) (2)は12/14日、(3)は12/7日。

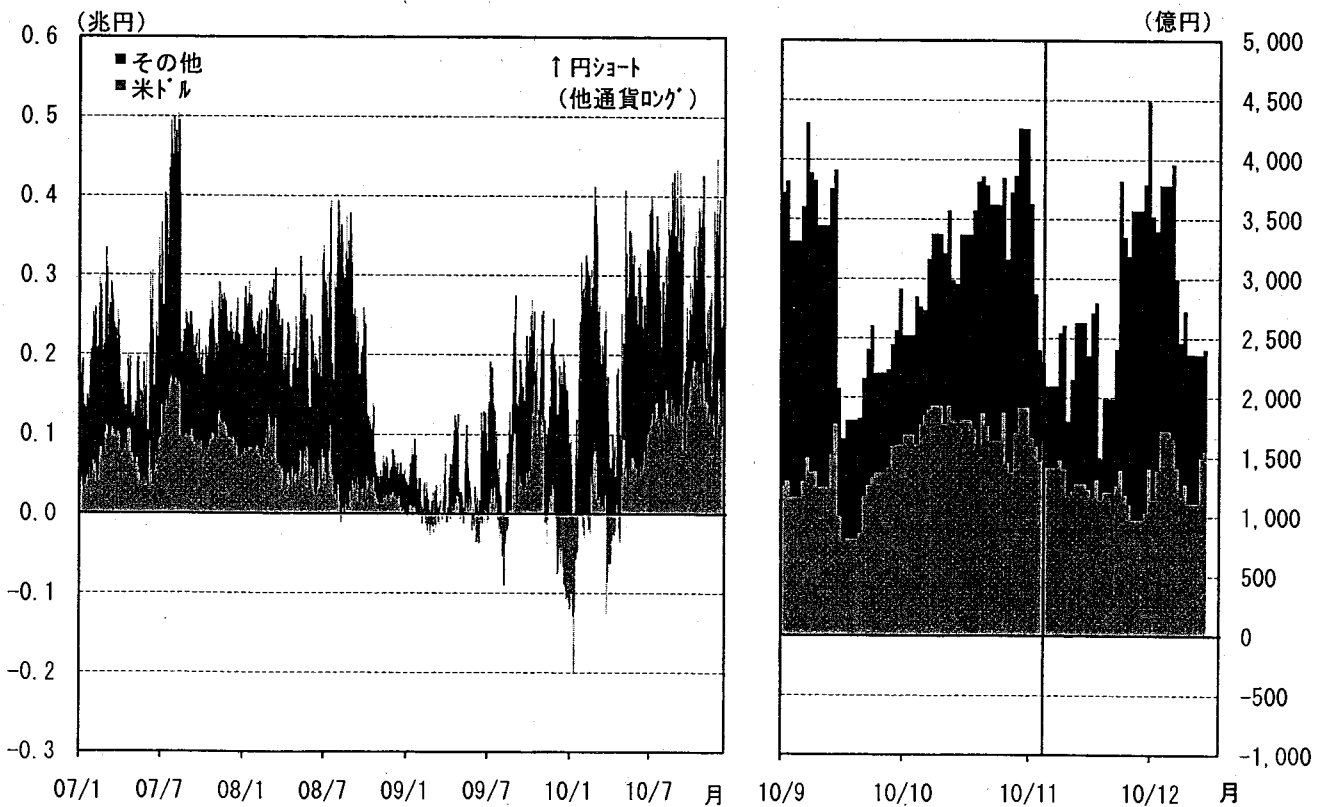
(出所) Bloomberg

クロス円取引の動向

(1) クロス円相場の推移



(2) 外為証拠金取引の動向



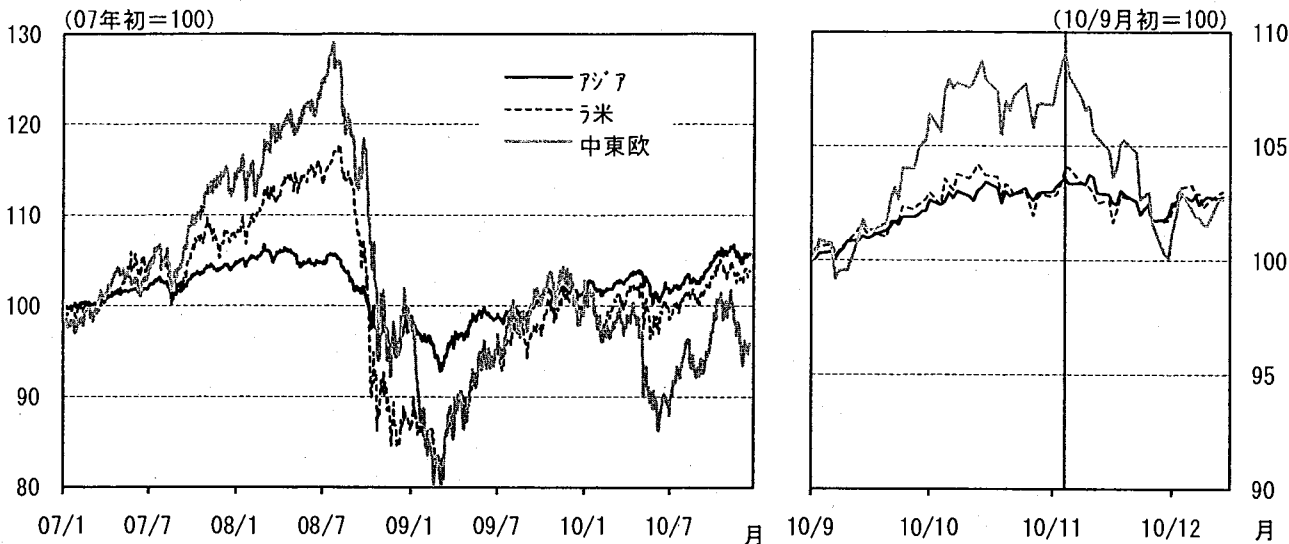
(注) 1. (2)は、円に対する他通貨のネットロングポジション（マーケット・メーカーを除く）。

2. 直近は12/14日。

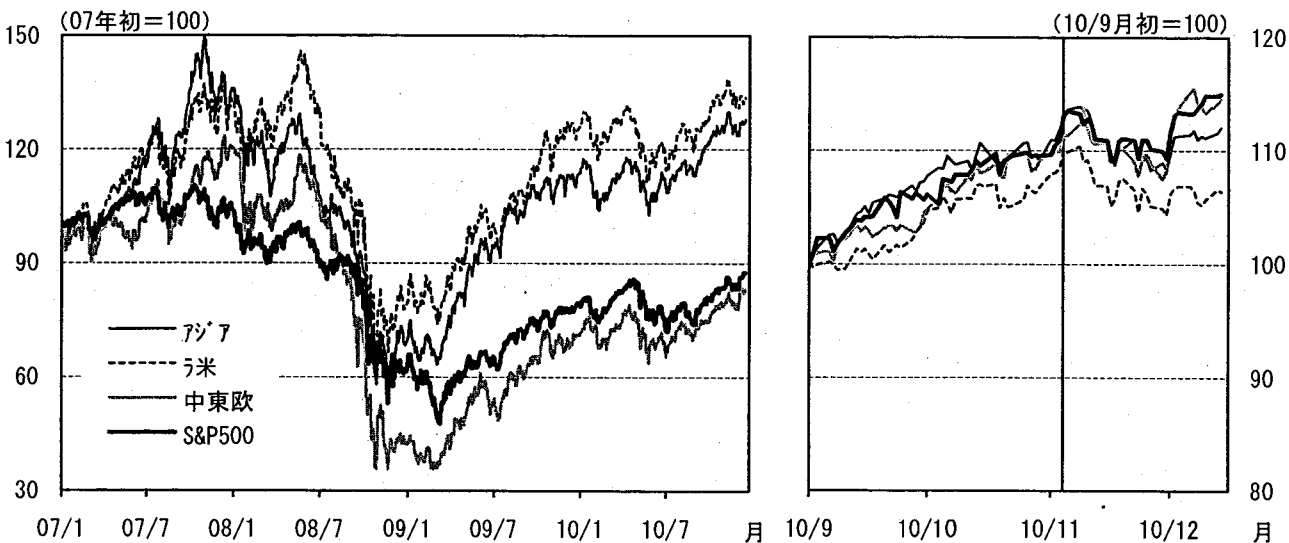
(出所) Bloomberg、東京金融取引所

エマージング、コモディティ市場の動向

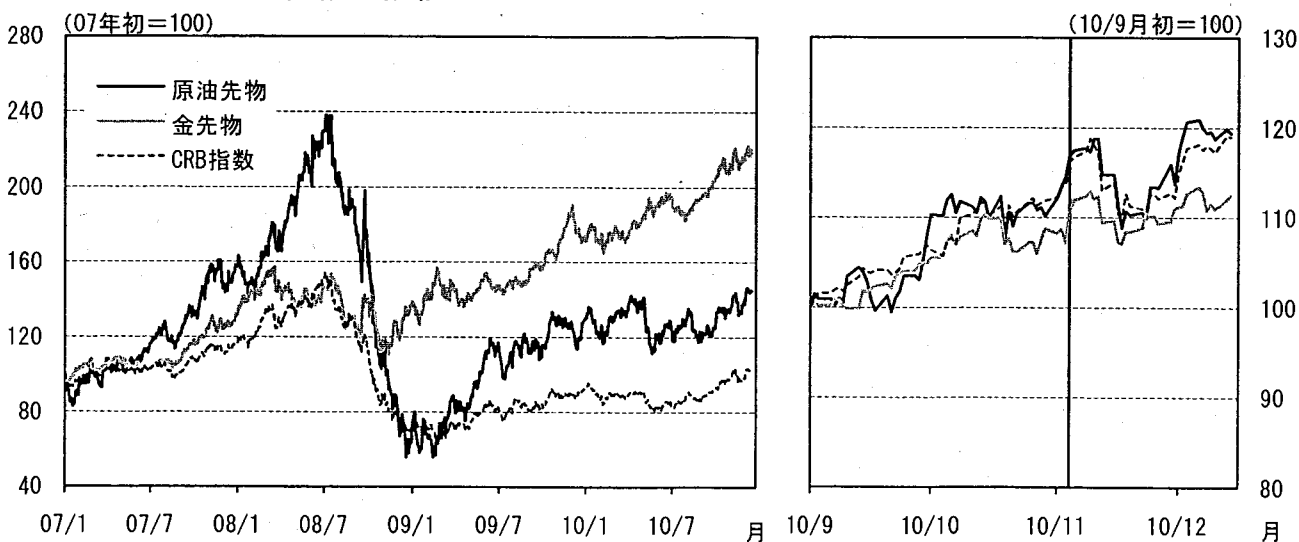
(1) エマージング通貨指数の推移



(2) MSCIエマージング株価指数の推移



(3) コモディティ価格の推移



(注) 1. (1)は対ドル指数。(2)は現地通貨建て。(3)のコモディティ先物はNYMEX期近物。
2. (1)の中東欧の10/6/28日以降については、各国通貨の為替レートをもとに作成。
3. 直近は12/14日。

(出所) Bloomberg

議事録公表時まで対外非公表

< 不開示情報：有（種類：審議・検討） >
< 配付先：金融政策決定会合関係者限り >
< 作成局における保管期間満了時期：2040年12月 >

2010.12.20
金融市場局

1. 「金融調節の運営実績」参考計表【追加】 <資料－1 関連>

- (図表1－1) 金融調節の実績の推移
- (図表1－2) 日銀当座預金の保有状況
- (図表1－3) 10/7月積み期以降の当座預金残高
10/7月積み期以降の短期金利
- (図表1－4) 無担コール市場残高
- (図表1－5) 無担コール市場残高（0/N、T/N、S/N計）
- (図表1－6) 最近のオペ結果の推移
- (図表1－7) 資金需給の推移
- (図表1－8) 金融調節と日本銀行のバランス・シート
- (図表1－9) 本行受入担保残高の推移
- (図表1－10) 共通担保使用状況
担保適格 ABCP 等・信用判定の状況

2. 「最近の金融・為替市場の動向」参考計表【追加】 <資料－2 関連>

- (図表2－1) 短期金利の推移
- (図表2－2) ターム物レートの推移（1）
- (図表2－3) CP発行レートの対短国スプレッド（a-1格、3か月物）の推移
- (図表2－4) ターム物レートの推移（2）
- (図表2－5) フォワードレートの動向
- (図表2－6) 長期金利の推移
- (図表2－7) イールド・カーブの動向
市場参加者が注目する債券利回り変動要因
- (図表2－8) インプライド・ボラティリティの推移
長国先物の値幅・出来高比率の推移
- (図表2－9) 社債流通利回りの対国債スプレッドの推移
- (図表2－10) 社債流通利回りの対国債スプレッド（残存3年未満）の推移
- (図表2－11) CDSプレミアムの推移
- (図表2－12) 株式相場の推移
- (図表2－13) 株価収益率とイールド・スプレッドの推移
- (図表2－14) 主体別売買動向等
- (図表2－15) 不動産投資信託（J-REIT）のイールド・スプレッドの推移
- (図表2－16) 主要為替相場の推移
- (図表2－17) 通貨オプション、先物市場の動向
- (図表2－18) クロス円取引の動向
- (図表2－19) エマージング、コモディティ市場の動向

（注）図表中の縦線は、特に断りのない限り前回会合の初日（11/4日）を表す。

(図表1-1)

金融調節の実績の推移

(億円、%)

	無担 コール レート (O/N) 加重 平均値	日銀当座預金残高(実績値)		準備預金残高(含むゆうちょ銀行)			補完 貸付 残高	<参考> 日銀当座預金残高見込み		
		日銀当座預金残高	準備預金残高(除くゆうちょ銀行)	準備預金残高(除くゆうちょ銀行)		非準備預金 残高		朝方 即日オペ前	9:20 定例調節後	全即日オペ 実施後
				超過 準備	残り所要額 (1日平均)					
11月4日(木)	0.104	170,300	155,800	80,900	48,000	14,500	37.0	171,000	-	-
11月5日(金)	0.093	173,300	157,300	77,200	45,300	16,000	43.0	172,000	-	-
11月8日(月)	0.091	173,600	153,300	80,000	44,700	20,300	43.0	173,000	-	-
11月9日(火)	0.086	180,500	159,700	78,900	42,000	20,800	45.0	180,000	-	-
11月10日(水)	0.089	175,800	156,300	86,500	40,100	19,500	36.0	175,000	-	-
11月11日(木)	0.086	177,600	153,900	90,300	38,200	23,700	39.0	178,000	-	-
11月12日(金)	0.086	169,900	145,300	87,600	22,900	24,600	38.0	170,000	-	-
11月15日(月)	0.090	179,300	153,300	110,000	-	26,000	26.0	179,000	-	-
11月16日(火)	0.087	175,800	154,500	47,400	51,200	21,300	26.0	176,000	-	-
11月17日(水)	0.087	171,300	154,000	63,400	50,400	17,300	29.0	171,000	-	-
11月18日(木)	0.087	171,200	153,000	74,600	49,900	18,200	35.0	171,000	-	-
11月19日(金)	0.091	169,300	153,000	75,900	48,400	16,300	28.0	169,000	-	-
11月22日(月)	0.089	171,200	147,300	78,600	48,100	23,900	29.0	172,000	-	-
11月24日(水)	0.089	168,100	149,600	80,400	47,900	18,500	30.0	168,000	-	-
11月25日(木)	0.091	180,200	162,500	76,900	47,500	17,700	29.0	180,000	-	-
11月26日(金)	0.093	182,400	164,900	72,800	45,500	17,500	29.0	183,000	-	-
11月29日(月)	0.090	199,300	171,100	77,600	44,700	28,200	40.0	199,000	-	-
11月30日(火)	0.090	201,500	182,900	83,500	43,100	18,600	35.0	202,000	-	-
12月1日(水)	0.087	190,000	167,600	76,100	41,600	22,400	36.0	190,000	-	-
12月2日(木)	0.092	183,700	154,200	80,600	41,400	29,500	34.0	184,000	-	-
12月3日(金)	0.094	185,000	156,600	85,200	40,000	28,400	33.0	185,000	-	-
12月6日(月)	0.093	179,300	144,900	76,600	39,800	34,400	34.0	179,000	-	-
12月7日(火)	0.091	177,100	147,200	80,900	39,800	29,900	33.0	177,000	-	-
12月8日(水)	0.095	178,300	149,900	80,200	38,900	28,400	36.0	178,000	-	-
12月9日(木)	0.089	177,100	145,800	76,600	37,600	31,300	37.0	178,000	-	-
12月10日(金)	0.090	175,000	143,500	78,400	34,300	31,500	37.0	175,000	-	-
12月13日(月)	0.090	171,300	136,300	74,000	31,300	35,000	37.0	172,000	-	-
12月14日(火)	0.089	179,100	144,400	83,900	24,000	34,700	37.0	178,000	-	-
12月15日(水)	0.090	181,600	156,600	111,200	-	25,000	38.0	181,000	-	-
12月16日(木)	0.086	193,600	160,500	49,200	51,100	33,100	36.0	193,000	-	-
12月17日(金)	0.083	195,000	166,500	74,700	48,800	28,500	6.0	195,000	-	-

(注1)準備預金残高(除くゆうちょ銀行)および補完貸付残高は、対外非公表。

(注2)即日オペは、国債補完供給を除く。

(注3)12月17日分は、5時同時処理終了時点。

日銀当座預金の保有状況

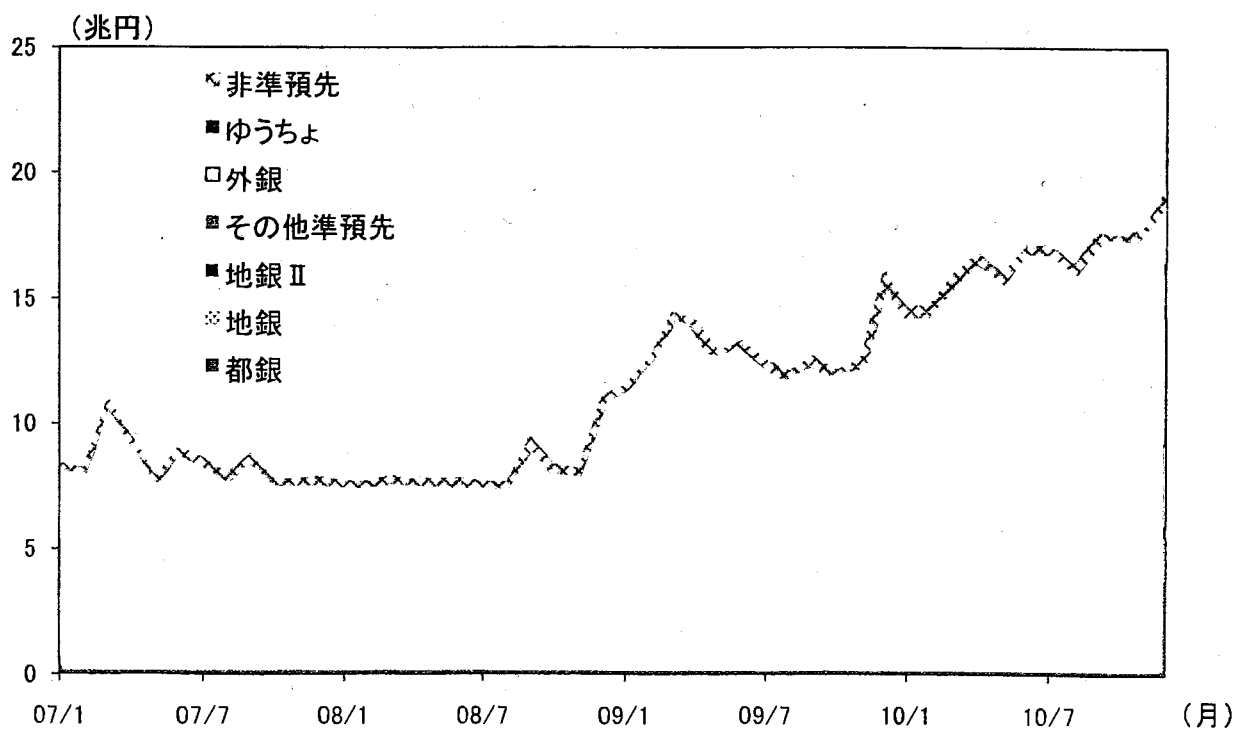
対外非公表

(単位:億円)

	9月積み期	10月積み期	11月積み期	12月積み期	12月積み期	12月積み期 所要準備額
					12/17日	
準預先	158,015	157,817	154,110	164,966	166,457	<73,733>
除くゆうちょ銀行						< >
都銀	34,944	34,056	35,004	38,301	39,025	<31,700>
地銀	16,824	15,484	15,234	16,970	16,110	<12,649>
地銀Ⅱ	4,652	4,334	3,842	4,668	4,651	<1,640>
外銀	45,955	48,287	48,258	51,188	51,607	<285>
ゆうちょ銀行						< >
非準預先	18,876	17,489	24,636	29,657	28,520	
短資	7,329	5,350	6,706	9,409	9,264	
一部系統	292	180	226	166	148	
政府系	502	444	428	355	224	
証券会社等	10,753	11,515	17,276	19,727	18,884	
当預残高	176,891	175,306	178,746	194,623	194,977	

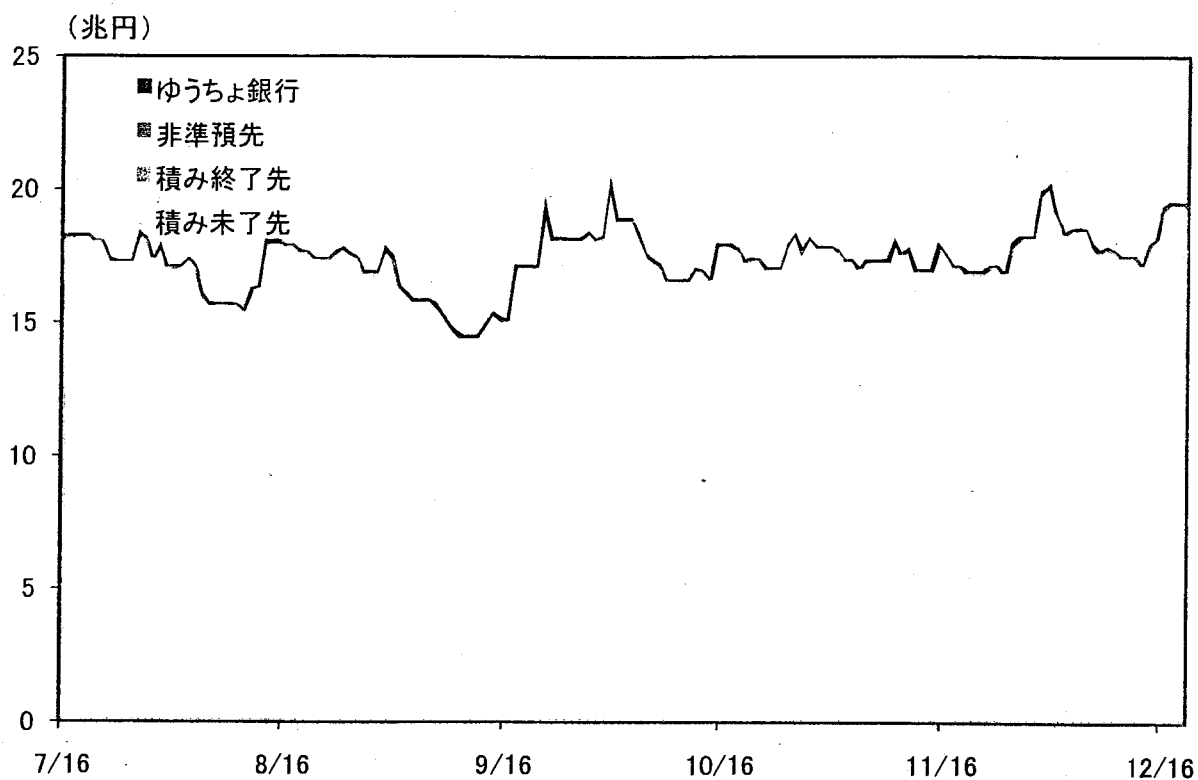
(注1)「証券会社」は、金融商品取引法上の有価証券関連業を行う第一種金融商品取引業者。

(注2) 12月積み期の計数は、12/16~12/19日の平均。12/17日は、5時同時処理終了時点。



10/7月積み期以降の当座預金残高

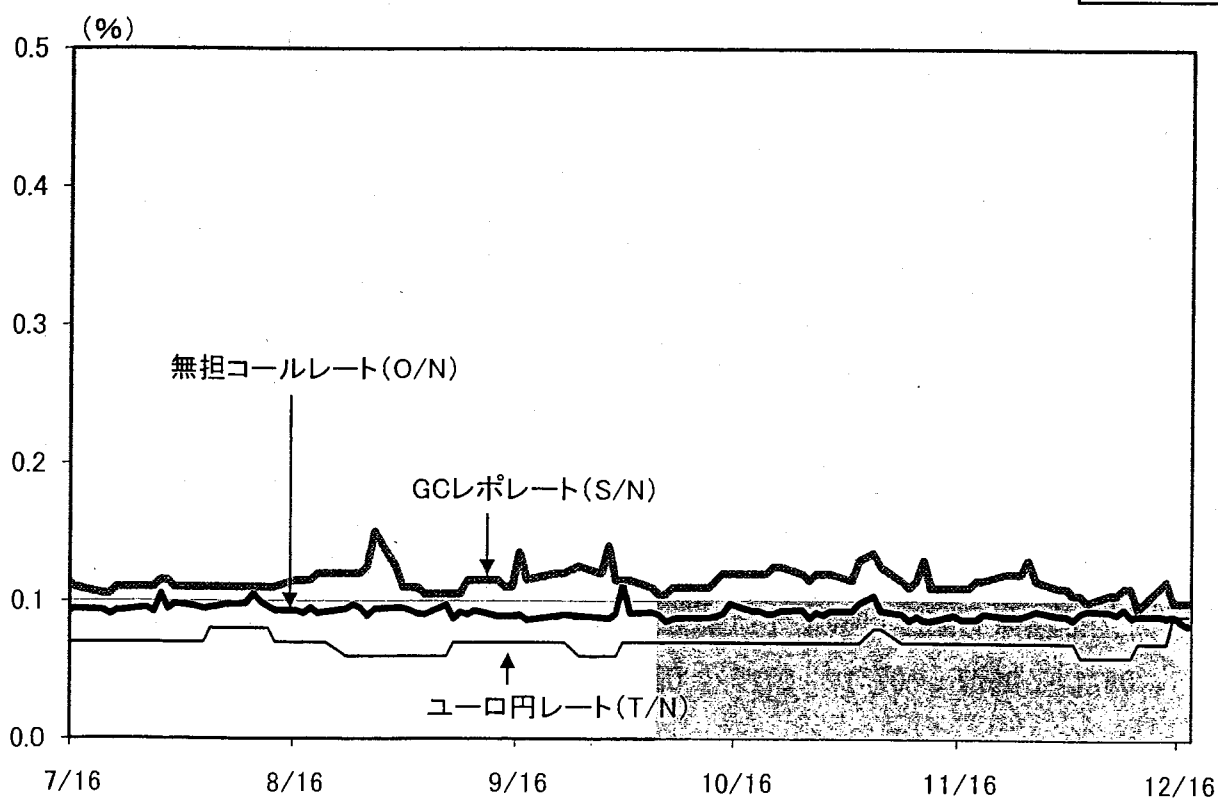
対外非公表



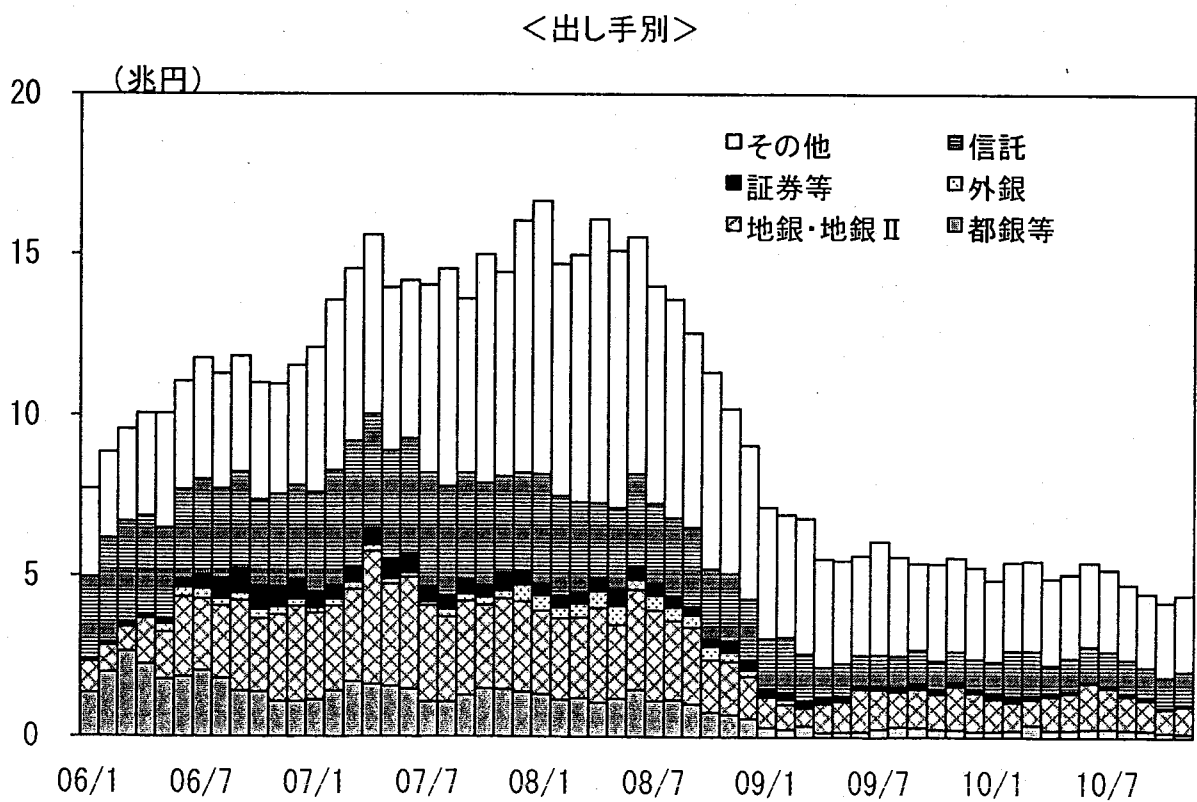
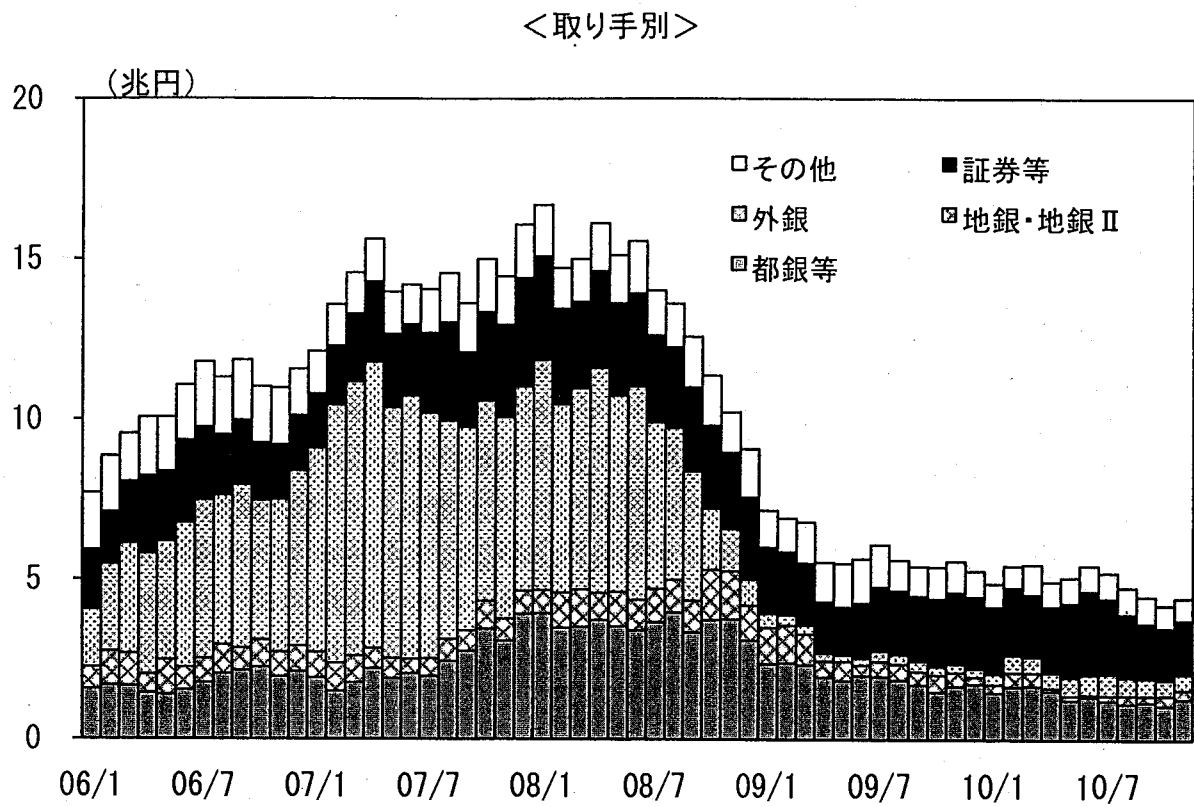
(注)積み終了先、積み未了先及び一日当たり残り所要(前日終了時点)には、うちよ銀行の計数を含まない。

10/7月積み期以降の短期金利

対外非公表



無担コール市場残高



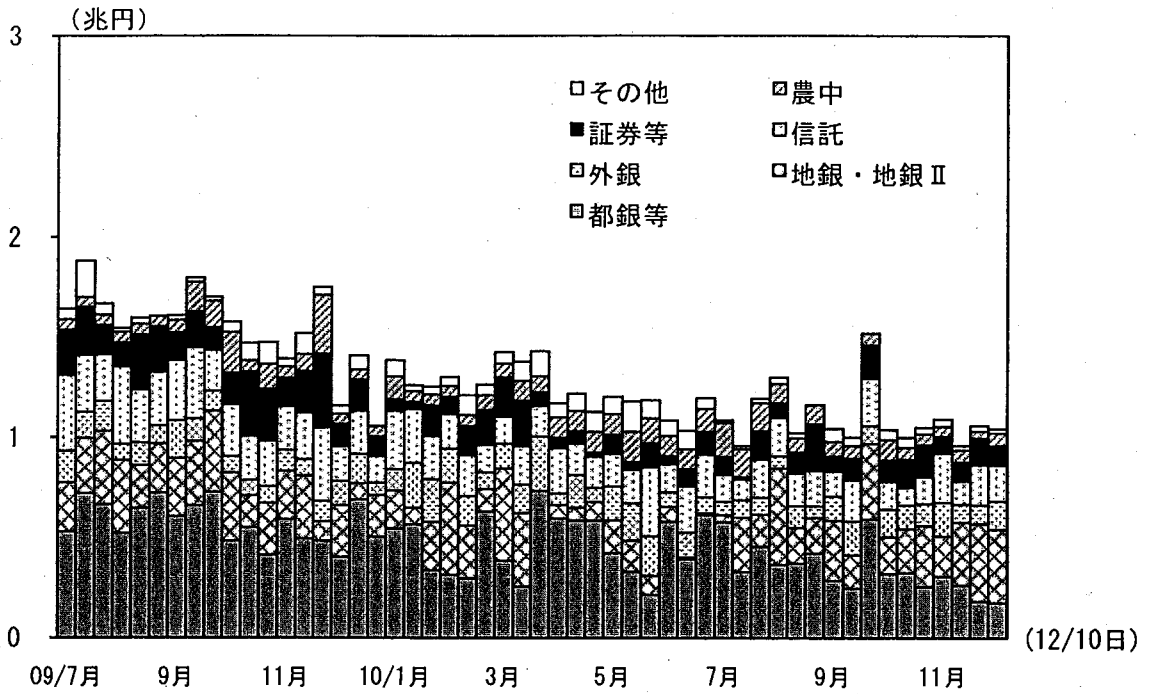
(注1) 月中平残。

(注2) 無担コール市場残高における「都銀等」は都銀、新生銀行、あおぞら銀行。「証券等」は金融商品取引業者（他の区分に属するものを除く）および証券金融会社。

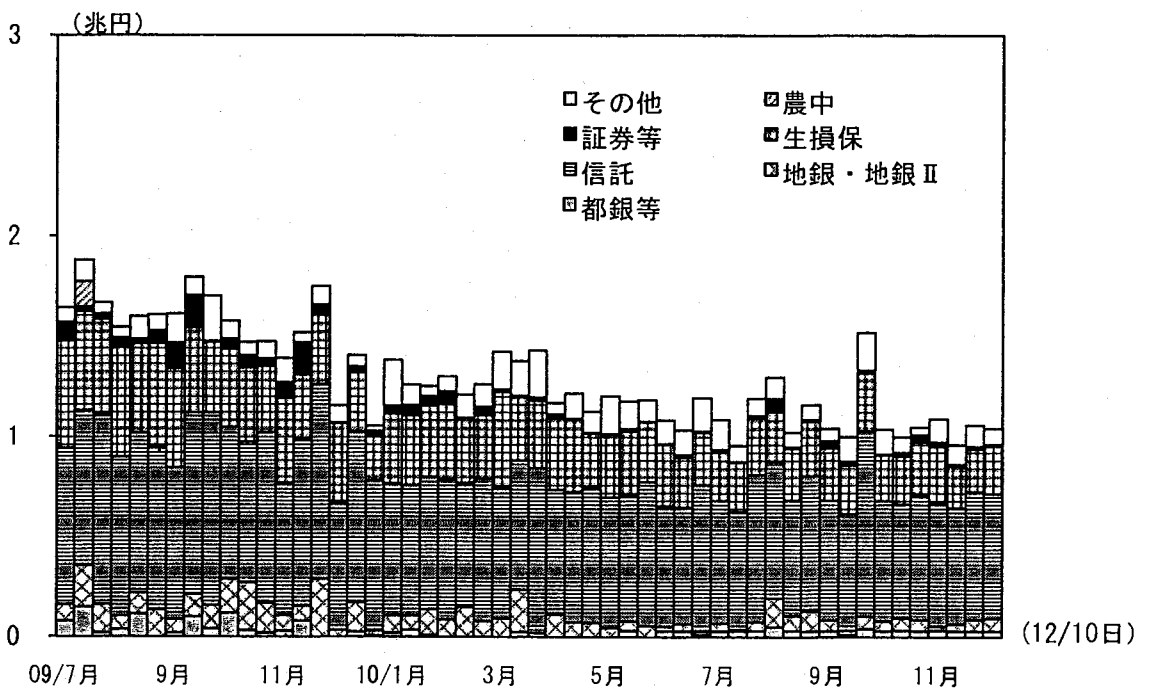
無担コール市場残高 (O/N、T/N、S/N計)

<取り手別>

対外非公表



<出し手別>



(注) 各旬末残高。

最近のオペ結果の推移(1)

(資金供給オペ)

(億円、%)

オペ手段	直近残高 2010/12/17現在 (実行日ベース)	オフア一日	スタート	期間	オフア一額	平均落札		
						応札倍率	レート	落札決定 レート
共通担保・金利入札 (全店)	176,124	11/4	T+2	1M	12,000	3.33	0.112	0.11
		11/5	T+2	1M	8,000	4.43	0.110	0.11
		11/10	T+4	1M	8,000	4.50	0.110	0.11
		11/11	T+2	1M	12,000	2.91	0.111	0.11
		11/12	T+2	1M	8,000	3.66	0.110	0.11
		11/15	T+2	1M	8,000	3.68	0.110	0.11
		11/16	T+4	1M	8,000	4.11	0.110	0.11
		11/18	T+2	1M	8,000	4.43	0.110	0.11
		11/19	T+2	1M	8,000	4.21	0.112	0.11
		11/22	T+2	1M	12,000	3.05	0.112	0.11
		11/24	T+2	1M	12,000	1.89	0.112	0.11
		11/25	T+2	1M	8,000	3.74	0.114	0.11
		11/25	T+2	1M	8,000	2.83	0.112	0.11
		11/26	T+2	1M	8,000	3.89	0.113	0.11
		11/26	T+4	1M	8,000	2.86	0.113	0.11
		11/29	T+2	1M	8,000	4.16	0.113	0.11
		11/30	T+2	1M	10,000	2.45	0.112	0.11
		12/2	T+2	1M	8,000	3.72	0.107	0.10
		12/3	T+1	1W	6,000	2.37	0.100	0.10
		12/7	T+1	1W	8,000	3.31	0.101	0.10
		12/8	T+2	1M	10,000	2.25	0.111	0.10
		12/9	T+2	1M	10,000	2.22	0.108	0.10
		12/10	T+2	3W	8,000	2.22	0.103	0.10
		12/10	T+4	1M	10,000	2.62	0.104	0.10
12/14	T+2	1M	8,000	3.25	0.107	0.10		
12/14	T+4	1M	8,000	3.80	0.110	0.11		
12/15	T+2	1M	8,000	3.41	0.108	0.10		
12/16	T+2	1M	8,000	2.81	0.104	0.10		
共通担保・金利入札 (本店)	8,008	11/4	T+1	2W	12,000	5.43	0.118	0.11
		11/5	T+1	2W	12,000	4.52	0.114	0.11
		11/8	T+1	2W	8,000	5.92	0.110	0.11
		11/10	T+1	2W	8,000	6.57	0.110	0.11
		11/11	T+1	2W	6,000	5.88	0.110	0.11
		11/12	T+1	2W	12,000	4.08	0.110	0.11
		11/16	T+1	2W	8,000	4.85	0.110	0.11
		11/17	T+1	3W	6,000	4.39	0.113	0.11
		11/18	T+1	2W	6,000	4.69	0.110	0.11
		11/19	T+1	2W	6,000	5.33	0.113	0.11
		11/22	T+1	1W	6,000	4.96	0.110	0.11
		11/24	T+1	2W	10,000	5.07	0.113	0.11
		11/25	T+1	2W	8,000	6.06	0.118	0.11
		11/26	T+1	1W	8,000	4.99	0.114	0.11
		11/30	T+1	1W	6,000	4.46	0.110	0.11
		12/1	T+1	1W	10,000	2.26	0.103	0.10
		12/8	T+1	1W	6,000	3.15	0.100	0.10
12/9	T+1	1W	6,000	2.60	0.100	0.10		
12/14	T+1	1W	8,000	3.63	0.106	0.10		
12/17	T+1	1W	6,000	2.21	0.100	0.10		
国庫短期証券買入	73,865	11/4	T+3	-	3,000	4.34	0.004	0.004
		11/11	T+3	-	3,000	4.15	0.005	0.004
		11/18	T+3	-	3,000	5.15	0.005	0.003
		11/25	T+3	-	3,000	5.40	0.009	0.007
		12/3	T+3	-	3,000	3.88	0.005	0.003
		12/9	T+3	-	3,000	5.90	0.012	0.010
国債買入	-	12/16	T+3	-	3,000	4.28	0.000	0.000
		11/10	T+3	-	2,500	2.99	0.024	0.022
		11/10	T+3	-	1,000	3.17	0.009	0.007
		11/17	T+3	-	3,100	3.57	0.025	0.020
		11/17	T+3	-	2,500	3.83	0.012	0.011
		11/24	T+3	-	2,500	4.22	0.004	0.003
		11/24	T+3	-	400	2.84	-0.162	-0.090
		12/2	T+3	-	3,100	3.45	0.031	0.009
		12/2	T+3	-	2,500	2.48	0.030	0.026
		12/8	T+3	-	2,500	2.48	0.054	0.050
		12/8	T+3	-	1,000	3.74	0.040	0.040
12/17	T+3	-	3,100	3.77	0.012	0.012		
12/17	T+3	-	2,500	2.94	-0.007	-0.007		

(注1) 国庫短期証券買入・国債買入の平均落札レート及び落札決定レートは、前営業日の気配相場からの利回り較差(変動利付国債・物価連動国債については、前営業日の気配相場からの価格較差)。

(注2) 国庫短期証券買入の直近残高は、繰上償還等を控除していない。

最近のオペ結果の推移(2)

(図表1-6)

(資産買入等の基金の運営)

(億円、%)

	直近残高 2010/12/17現在 (実行日ベース)	オファー日	スタート	期間	オファー額	平均落札		落札決定
						レートの	レートの	
共通担保資金供給	240,337	11/5	T+2	3M	8,000	5.17	0.100	0.10
		11/9	T+2	3M	8,000	5.13	0.100	0.10
		11/10	T+2	3M	8,000	4.70	0.100	0.10
		11/16	T+2	6M	8,000	4.32	0.100	0.10
		11/17	T+2	3M	8,000	4.64	0.100	0.10
		11/18	T+2	3M	8,000	4.77	0.100	0.10
		11/24	T+2	3M	8,000	5.95	0.100	0.10
		11/25	T+2	3M	8,000	6.25	0.100	0.10
		11/29	T+2	3M	8,000	5.95	0.100	0.10
		12/2	T+2	3M	8,000	5.34	0.100	0.10
		12/3	T+2	6M	8,000	4.44	0.100	0.10
		12/6	T+2	3M	8,000	4.99	0.100	0.10
		12/8	T+2	3M	8,000	5.26	0.100	0.10
12/13	T+2	3M	8,000	5.06	0.100	0.10		
12/15	T+2	3M	8,000	5.57	0.100	0.10		
国庫短期証券買入	4,501	11/9	T+3	-	1,500	7.02	0.112	0.112
		11/30	T+3	-	1,500	5.92	0.134	0.131
		12/13	T+3	-	1,500	5.68	0.142	0.140
国債買入	2,999	11/8	T+3	-	1,500	5.92	0.134	0.133
		11/29	T+3	-	1,500	6.19	0.202	0.201
社債等買入	1,027	12/3	T+4	-	1,000	2.70	0.185	0.151
CP等買入	989	12/10	T+3	-	1,000	5.05	0.142	0.131
ETF買入	142	-	-	-	-	-	-	-
J-REIT買入	22	-	-	-	-	-	-	-

(注) ETF買入・J-REIT買入の直近残高は、約定日ベース。

(国債補充供給)

(億円、%)

発動日	供給額	対象銘柄	平均落札レート	落札決定レート
11/19	10	変動利付国債10年8回	0.400	0.40
11/29	50	変動国債10年7回	0.400	0.40
12/2	6	物価連動国債10年8回	0.400	0.40
12/3	6	物価連動国債10年8回	0.400	0.40
12/6	3	物価連動国債10年8回	0.400	0.40

(注) シャドーは即日スタート分。

(米ドル資金供給オペ)

(百万ドル、%)

オペ手段	直近残高 2010/12/17現在 (実行日ベース)	オファー日	スタート日 (米国東部 時間)	期間	落札額	貸付利率 (固定金利)	
						応札倍率	
米ドル資金供給	0	11/30	12/2	84D	0	-	1.210

<参考>

(成長基盤強化を支援するための資金供給)

(億円、%)

	直近残高 2010/12/17現在 (実行日ベース)	通知日	スタート日	期間	貸付額	貸付利率	
						応札倍率	
成長基盤強化支援	14,606	11/30	12/7	1Y	9,983	-	0.100

(図表 1-7)

資金需給の推移

(単位：兆円)

		資金需給		金融調節	当預残高(末残)	
			銀行券			財政等
10/6月		+5.5	▲0.4	+5.9	▲3.7	19.9
7月		▲8.5	▲0.0	▲8.5	+5.7	17.1
8月		▲8.2	+0.3	▲8.5	+8.6	17.5
9月		+1.2	+0.1	+1.1	+1.5	20.2
10月		▲4.8	▲0.6	▲4.2	+2.5	17.8
11月		▲7.5	▲0.2	▲7.3	+9.8	20.2
12月	(-17日)	▲5.0	▲2.1	▲3.0	+4.4	19.5
	(20日-)	+1.1	▲3.0	+4.1	▲8.0	N.A.

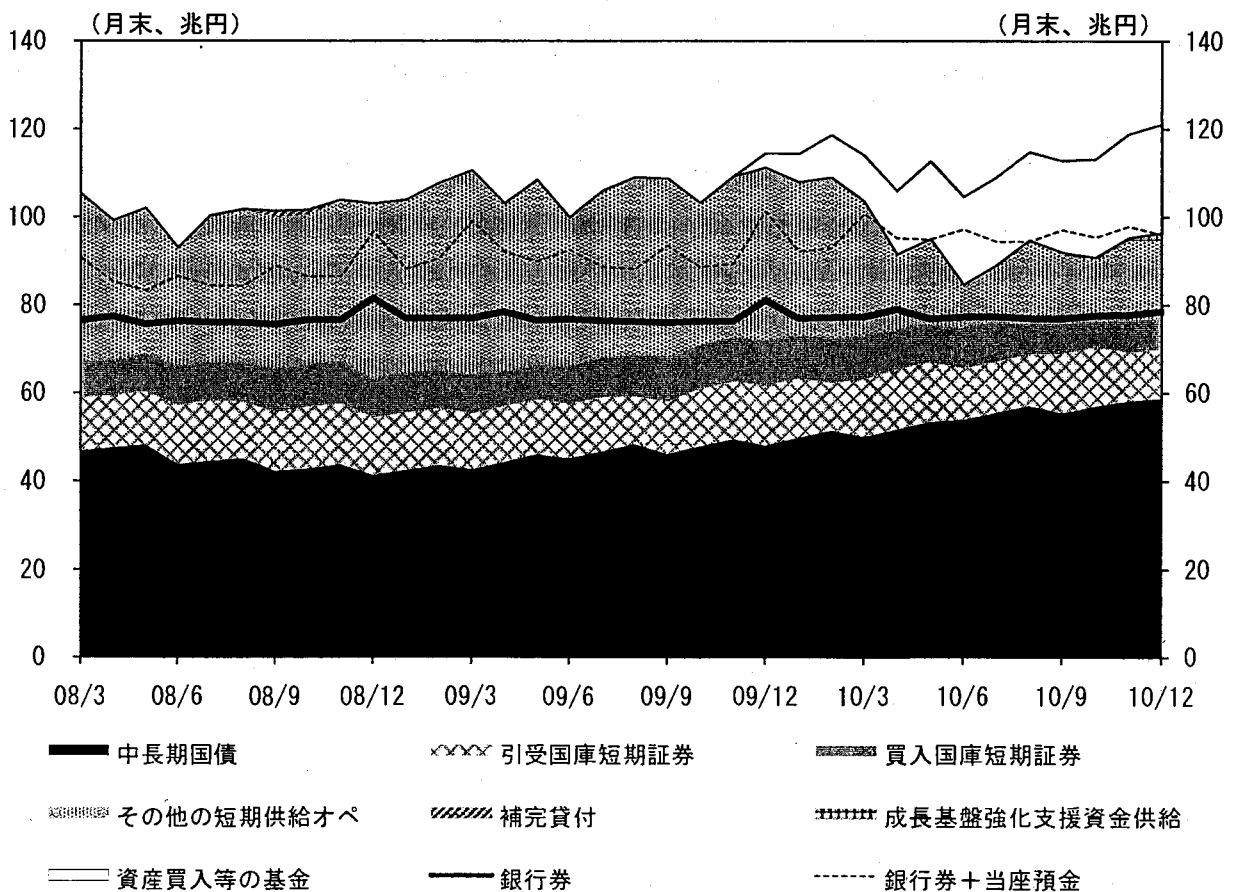
(注) 12月(20日-)の資金需給は、現時点での予想。金融調節は、期落ち分、12/17日までに通知した分および当月中に予定されている国債買入(資産買入等の基金の運営として行う国債買入を除く)の合計。

金融調節と日本銀行のバランス・シート

(図表1-8)

(12/10日時点、兆円)

資産		負債および純資産	
中長期国債	58.8	銀行券	78.5
引受国庫短期証券	11.0	当座預金	17.5
短期供給オペ (除く資産買入等の基金)	25.1	その他	33.6
買入国庫短期証券	7.3		
その他の短期供給オペ	17.8		
補完貸付	0.0		
成長基盤強化支援資金供給	1.5		
資産買入等の基金	24.7		
共通担保資金供給	24.0		
国債買入	0.3		
国庫短期証券買入	0.3		
社債買入	0.1		
その他	8.5		
合計	129.6	合計	129.6



(注1) 直近12月末の計数は12/10日時点。

(注2) 10年9月までの「資産買入等の基金」の残高は、共通担保・固定金利方式の残高。

(注3) 「その他の短期供給オペ」の残高には、共通担保・金利入札方式、国債買現先、CP等買現先などの残高が含まれる。

(注4) 「引受国庫短期証券」「買入国庫短期証券」の残高は、対政府売却分を調整していない。

(注5) 「買入国庫短期証券」の残高は、直近月以外は繰上償還分を調整している。

(*)は対外非公表

本行受入担保残高の推移

末残、単位：表内=兆円、括弧内=億円

担保種類	2010/6月	7月	8月	9月	10月	11月
総計	104.2	110.3	115.3	112.9	114.4	121.9
国債	68.5	78.0	80.8	76.9	80.2	87.8
利付国債等 ^(注1)	46.2	54.7	55.9	54.5	58.8	^(注2) 63.7
変動利付国債(*)	9.6	9.8	9.2	9.3	9.2	9.5
物価連動国債(*)	0.7	0.7	0.6	0.6	0.5	0.5
国庫短期証券	22.2	23.2	24.8	22.4	21.3	24.0
社債等 ^(注3)	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3
短期社債等 ^(注4)	1.6	1.7	1.7	1.6	1.6	1.9
その他債券 ^(注5)	5.7	5.8	5.8	5.7	5.6	5.8
手形 ^(注6)	0.9	0.9	0.9	0.4	0.9	0.9
証貸	26.1	22.4	24.4	26.7	24.7	23.9
企業向け等 ^(注7)	5.3	5.2	5.1	5.0	5.1	5.0
政府向け等 ^(注8)	20.8	17.1	19.2	21.6	19.6	18.8
うち民間債務分	9.2	9.3	9.3	8.5	8.9	9.3

ABS	88	90	90	117	89	88
ABCP ^(注9)	2,899	2,820	2,837	2,330	2,251	2,251
(うち特則分) (*)	(86)	(45)	(14)	(93)	(14)	(15)
社債特則分(*)	236	223	224	237	142	211
企業向け証貸特則分(*)	4,774	4,609	4,419	4,328	3,955	3,951
不動産投資法人債	20	57	95	129	136	172
不動産投資法人CP ^(注10)	0	0	0	0	0	0
不動産投資法人向け証貸	0	0	0	0	0	0
政府保証付短期債券	0	0	0	0	0	0
政府(特別会計含む)向け証貸	190,239	157,986	175,351	198,787	178,809	172,380
政府保証付証貸	16,629	12,326	16,012	16,384	16,377	14,794
地方公共団体向け証貸	1,784	1,479	1,473	1,433	1,409	1,409
外貨建外国債券	0	0	0	0	0	6

(参考) 現先オペでの買入残高

末残、単位：表内=兆円、括弧内=億円

オペ種類	2010/6月	7月	8月	9月	10月	11月
国債買現先オペでの国債買入残高	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
CP等買現先オペでのCP買入残高	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ABCP買入残高	0	0	0	0	0	0
(うち特則分) (*)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
不動産投資法人CP買入残高	0	0	0	0	0	0
政府保証付短期債券買入残高	0	0	0	0	0	0

(注1) 利付国債、割引国債、承継国債および分離国債。

(注2) 分離国債は、190億円。(*)

(注3) 不動産投資法人債を含む。

(注4) 短期社債、保証付短期外債、資産担保短期債券、短期不動産投資法人債および政府保証付短期債券。

(注5) 外貨建外国債券を含む。

(注6) CPを含む。

(注7) 不動産投資法人向け証貸を含む。

(注8) 政府(特別会計含む)向け証貸、政府保証付証貸および地方公共団体向け証貸。

(注9) 資産担保短期債券を含む(以下同じ)。

(注10) 短期不動産投資法人債を含む(以下同じ)。

対外非公表

共通担保使用状況

単位：兆円

	2010/6月	7月	8月	9月	10月	11月
共通担保使用額合計 ^(注1)	26.6	33.2	38.4	36.9	36.2	42.5
うち共通担保オペ使用額 ^(注1)	25.8	32.4	37.6	36.1	35.5	41.7
当座貸越残高 日中ピーク ^(注2)	5.7	5.5	5.1	5.1	5.7	4.8

(注1) 末残。

(注2) 平残 (ITC口を除く)。

(*)は対外非公表

担保適格ABC等・信用判定の状況

1. 担保適格ABC、J-REITの状況

	件数	発行枠	受入残高 ^(注1)
担保適格ABC (特則分) (*)	14件	9兆5,500億円	15億円
担保適格ABC (本則分) (*)	4件	7,300億円	2,236億円
(参考) 市中ABC計 ^(注2)	34件	15兆762億円	—
担保適格J-REIT	11件 (*)	—	172億円

(注1) 11月末時点。

(注2) 9月末時点 (日本証券業協会調べ)。

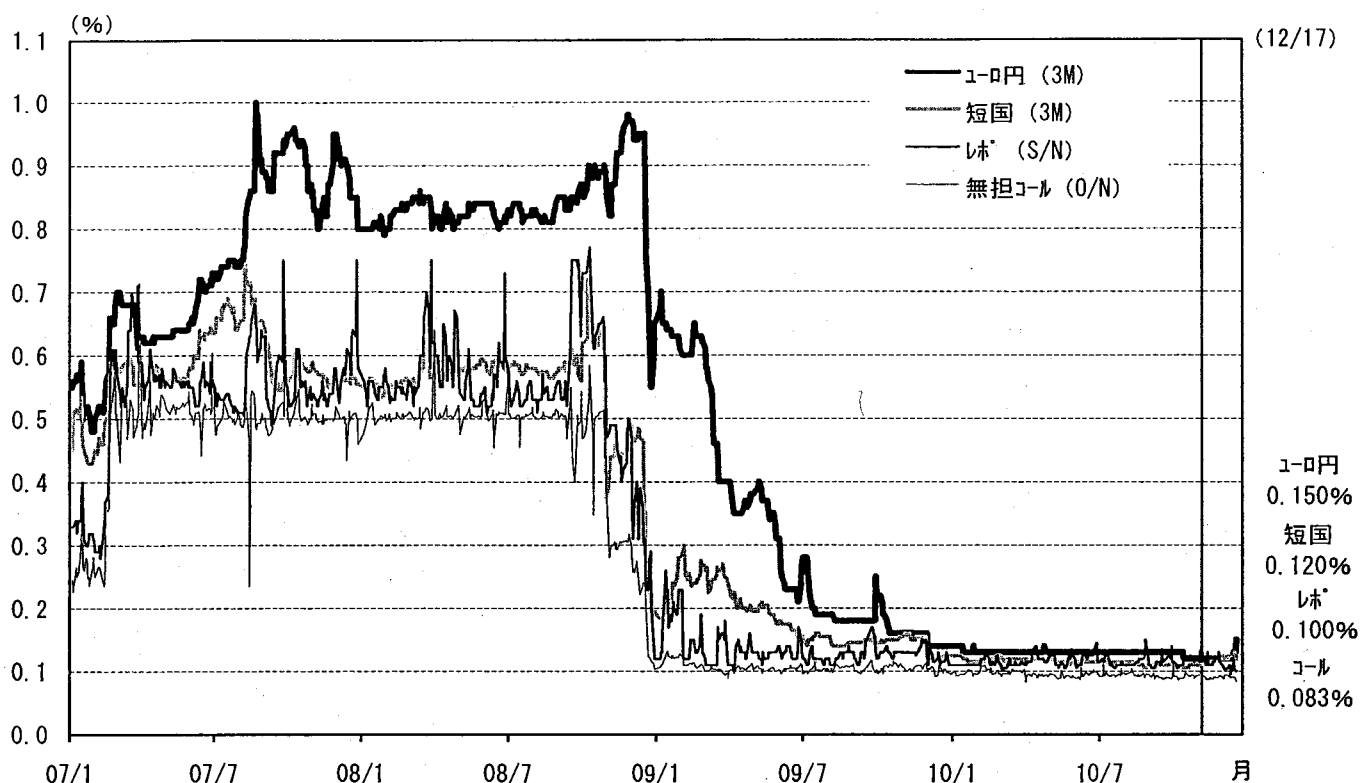
2. 信用判定の状況

	2010/6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月 ^(注)
新規適格化先数 (*)	0	0	0	2	0	0	0(1)
取下げ・抹消先数 (*)	2	3	2	0	0	1	0
信用判定適格先数	357	354	352	354	354	353	353

(注) 12月15日時点。カッコ内は審査中の先数。

短期金利の推移

(1) 短期金利の推移



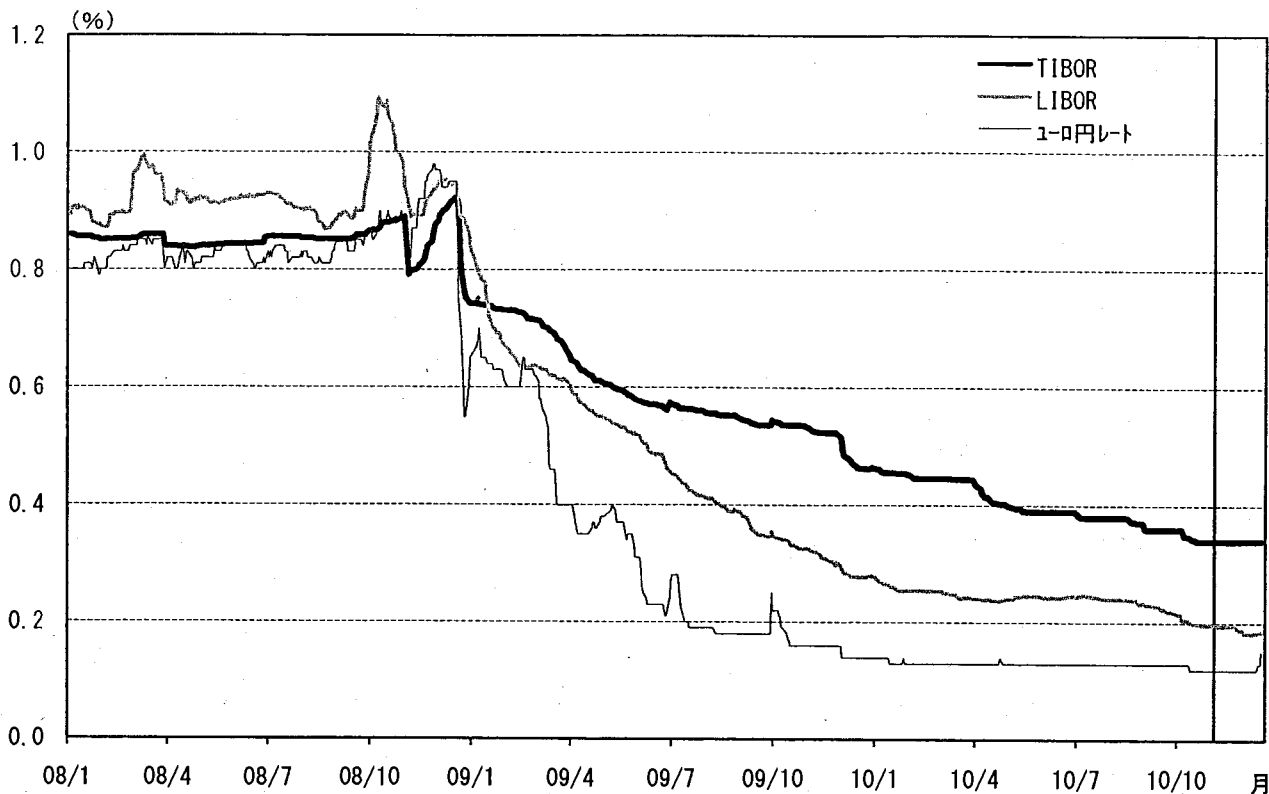
(2) 同 (前回会合以降)

	(%)							
	無担コール O/N	レポ S/N	ユーロ円			短国		
			1M	3M	6M	3M	6M	1Y
10/11/4	0.104	0.135	0.110	0.120	0.150	0.110	0.110	0.110
11/5	0.093	0.125	0.110	0.120	0.150	0.110	0.110	0.110
11/8	0.091	0.115	0.110	0.120	0.150	0.110	0.110	0.110
11/9	0.086	0.110	0.110	0.120	0.150	0.110	0.110	0.110
11/10	0.089	0.115	0.110	0.120	0.150	0.110	0.110	0.110
11/11	0.086	0.130	0.110	0.120	0.150	0.110	0.110	0.110
11/12	0.086	0.110	0.110	0.120	0.150	0.110	0.110	0.110
11/15	0.090	0.110	0.110	0.120	0.150	0.115	0.115	0.125
11/16	0.087	0.110	0.110	0.120	0.150	0.115	0.115	0.125
11/17	0.087	0.110	0.110	0.120	0.150	0.115	0.115	0.125
11/18	0.087	0.115	0.110	0.120	0.150	0.115	0.115	0.125
11/19	0.091	0.115	0.110	0.120	0.150	0.115	0.115	0.125
11/22	0.089	0.120	0.110	0.120	0.150	0.115	0.115	0.125
11/24	0.089	0.120	0.110	0.120	0.150	0.120	0.115	0.125
11/25	0.091	0.130	0.110	0.120	0.150	0.120	0.115	0.125
11/26	0.093	0.115	0.110	0.120	0.150	0.120	0.120	0.130
11/29	0.090	0.110	0.110	0.120	0.150	0.120	0.120	0.130
11/30	0.090	0.110	0.110	0.120	0.150	0.120	0.120	0.130
12/1	0.087	0.105	0.110	0.120	0.150	0.125	0.120	0.130
12/2	0.092	0.105	0.110	0.120	0.150	0.120	0.120	0.130
12/3	0.094	0.100	0.110	0.120	0.150	0.120	0.120	0.130
12/6	0.093	0.105	0.110	0.120	0.150	0.120	0.120	0.130
12/7	0.091	0.105	0.110	0.120	0.150	0.120	0.130	0.130
12/8	0.095	0.110	0.110	0.120	0.150	0.125	0.130	0.130
12/9	0.089	0.110	0.110	0.120	0.150	0.125	0.130	0.130
12/10	0.090	0.095	0.110	0.120	0.150	0.125	0.130	0.130
12/13	0.090	0.110	0.110	0.120	0.150	0.125	0.130	0.135
12/14	0.089	0.115	0.110	0.130	0.150	0.130	0.140	0.170
12/15	0.090	0.100	0.110	0.130	0.150	0.130	0.140	0.160
12/16	0.086	0.100	0.110	0.130	0.150	0.125	0.140	0.150
12/17	0.083	0.100	0.130	0.150	0.160	0.120	0.140	0.150

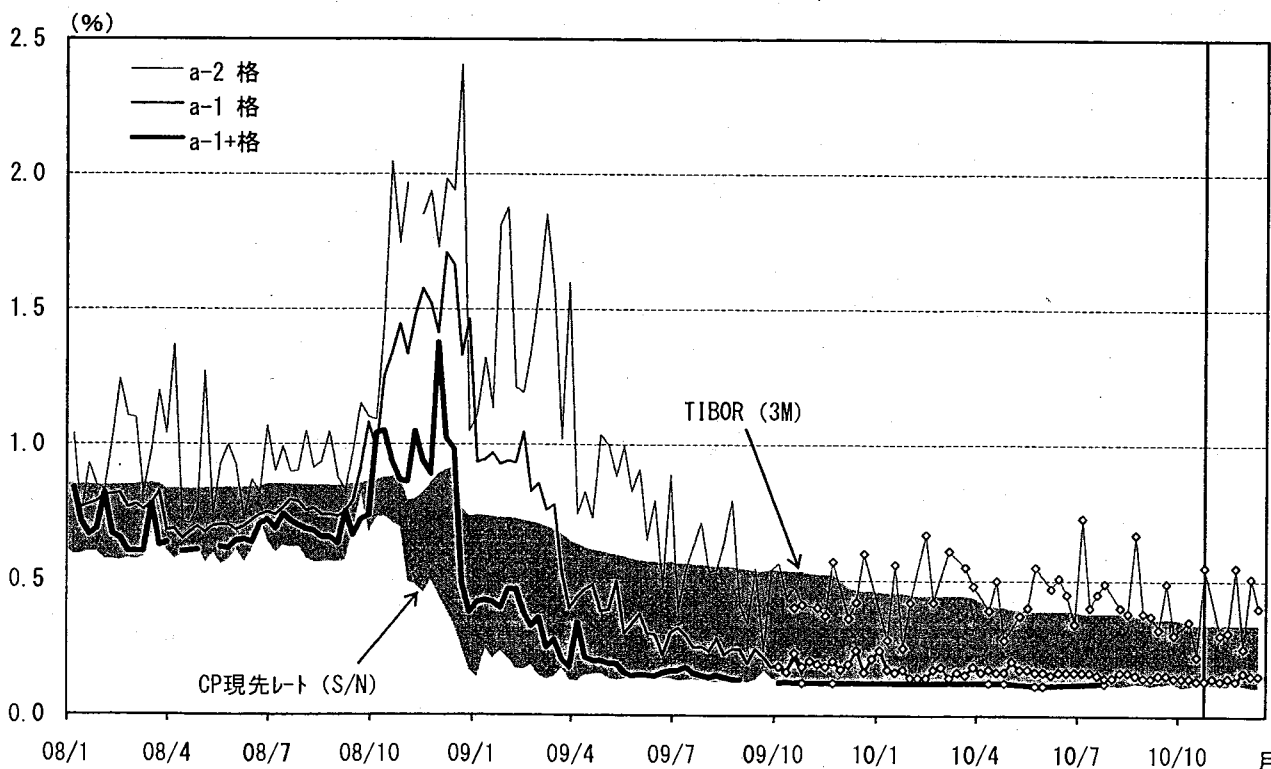
(注) 1. レポレート、ユーロ円レートはヒアリングベース (対外非公表)。
 2. 短国レートはT-Bill利回り。ただし、09/2月の統合発行以前はFB/TB利回り。
 (出所) 日本相互証券、日本銀行

ターム物レートの推移 (1)

(1) TIBOR、LIBOR、ユーロ円レート (3か月物) の推移



(2) CP発行レート (3か月物) の推移

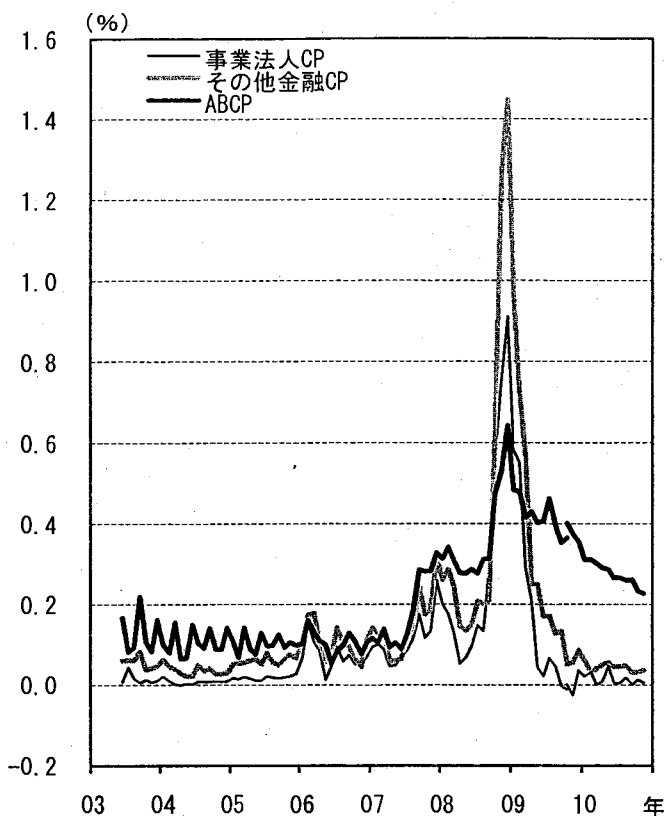


- (注) 1. (1)のユーロ円レートはヒアリングベース (対外非公表)。
2. (2)のCP発行レートは、週次平均レート (証券保管振替機構公表計数: ◇印)。ただし、09/10月以前はCP等買現先オペの対象先による引受分 (対外非公表)。発行額による加重平均で、格付けは基本的にR&Iによる。金融機関発行分およびABCPは除く。
3. 直近は、(1)は12/17日、(2)は12/13日週。

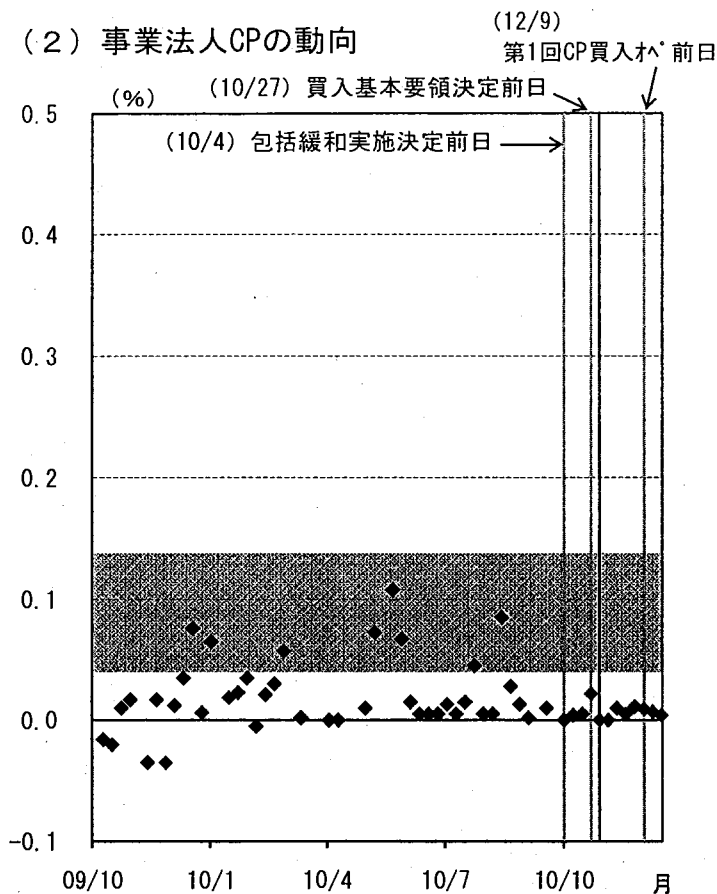
(出所) Bloomberg、証券保管振替機構、全国銀行協会、日本銀行

CP発行レート対短国スプレッド (a-1格、3か月物) の推移

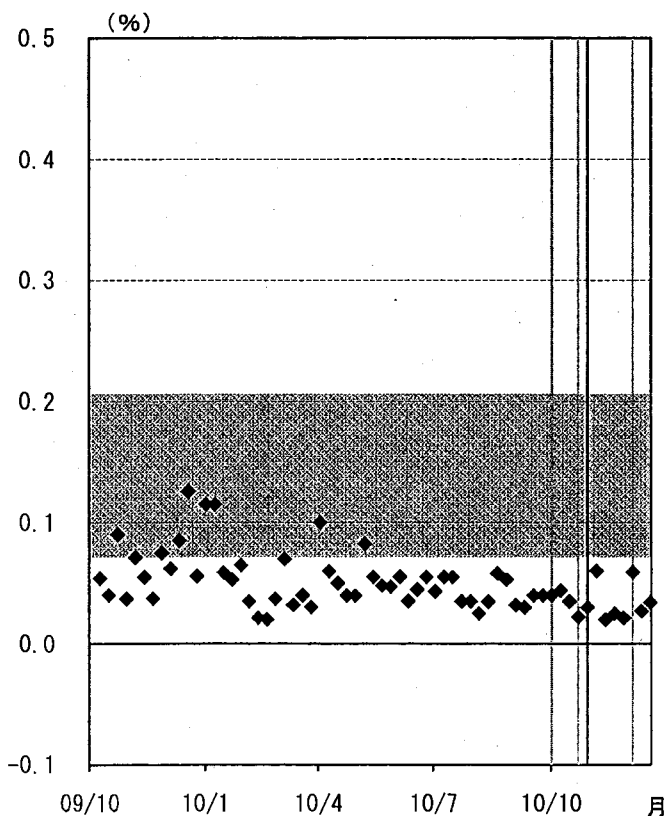
(1) 発行体別の推移



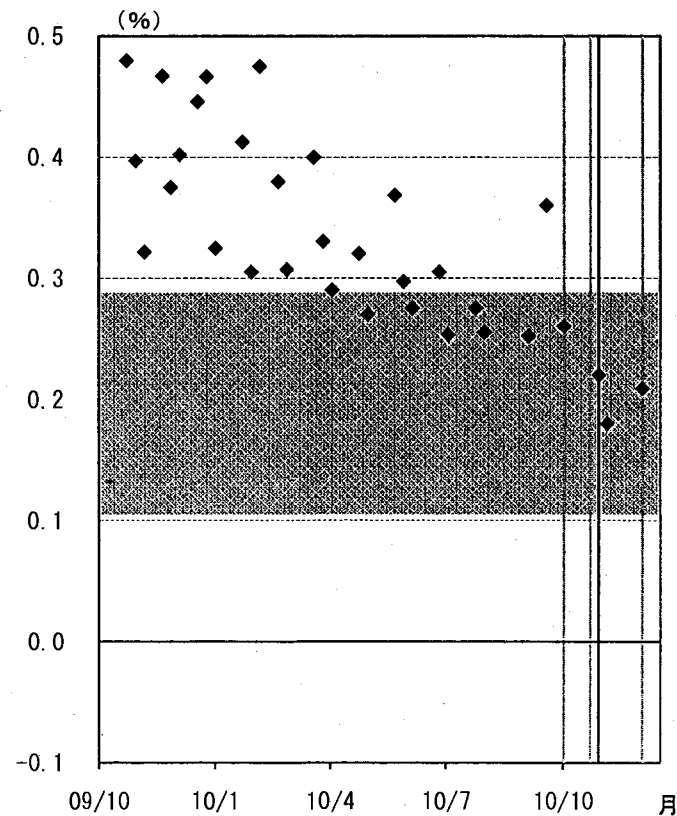
(2) 事業法人CPの動向



(3) その他金融CPの動向



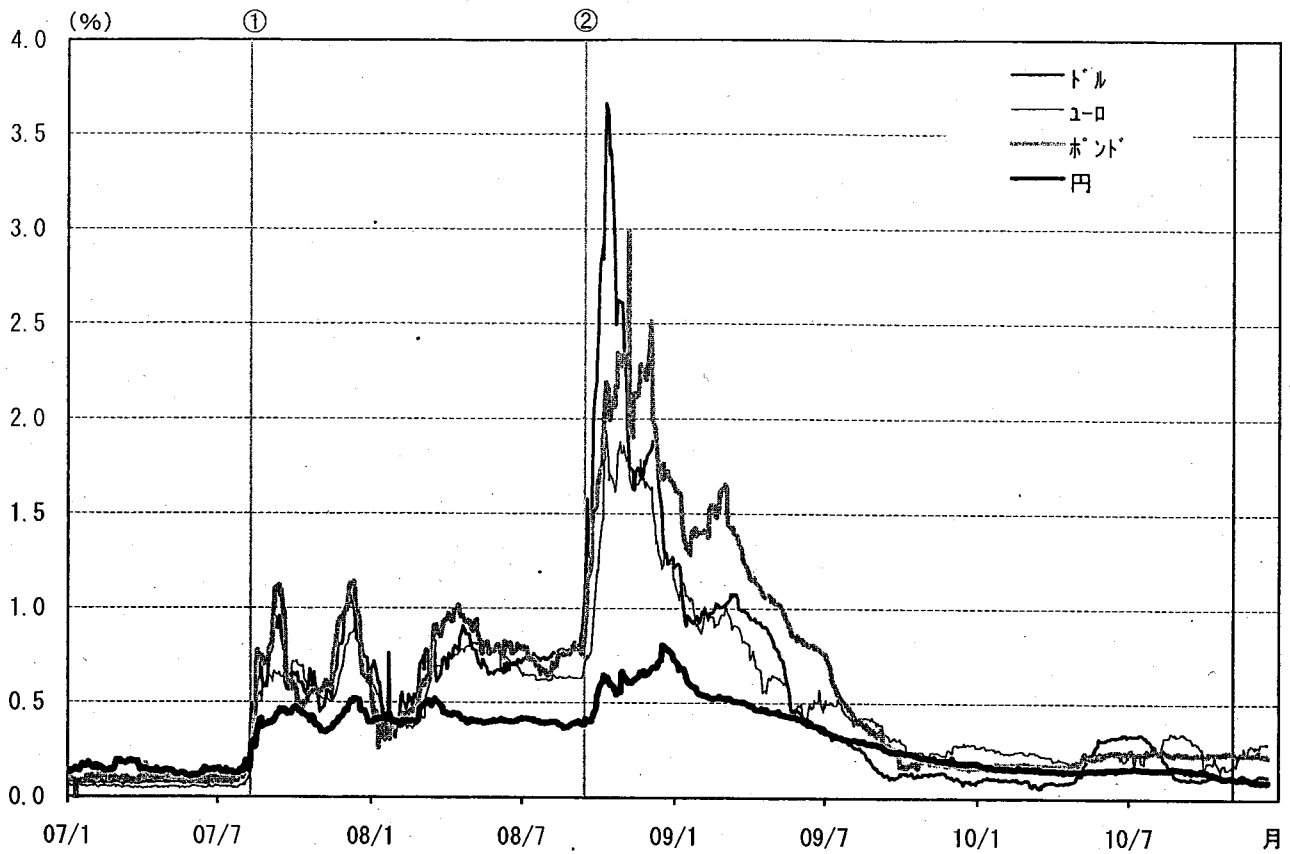
(4) ABCPの動向



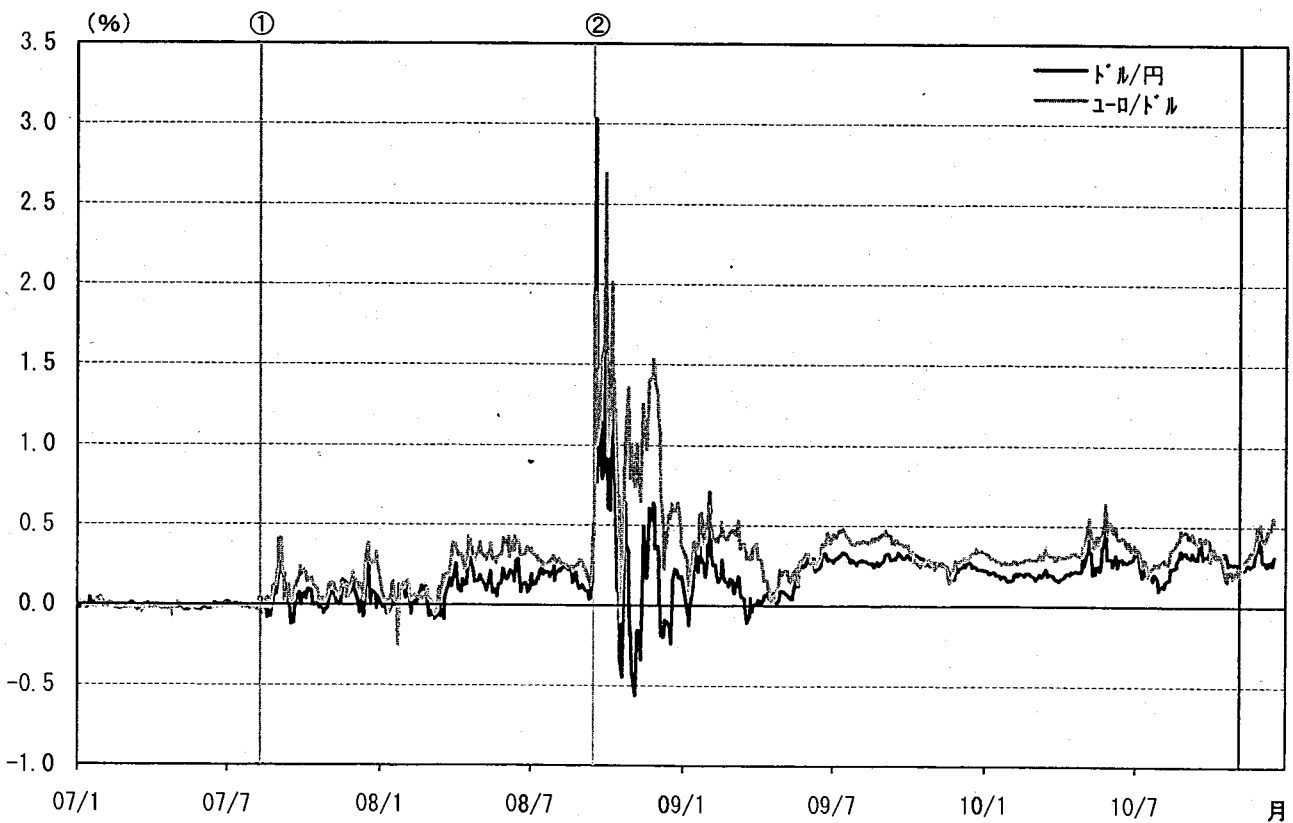
(注) 1. CP発行レートは、発行額による加重平均で、格付けは基本的にR&Iによる。(1)は月次、その他は週次。
 2. 証券保管振替機構による集計。ただし、09/10月以前はCP等買現先オペの対象先による引受分(対外非公表)。
 3. 事業法人CPは、電力・ガス業およびその他金融業発行分を含まない。
 4. シャドーの上限は07/8月~08/8月の平均、下限は04/1月~07/7月の平均。
 5. 直近は、(1)は10/11月、その他は12/13日週。
 (出所) 日本相互証券、証券保管振替機構、日本銀行

ターム物レートの推移 (2)

(1) LIBOR-OISスプレッド (3か月物) の推移



(2) ドル転コスト対ドルLIBORスプレッド (3か月物) の推移

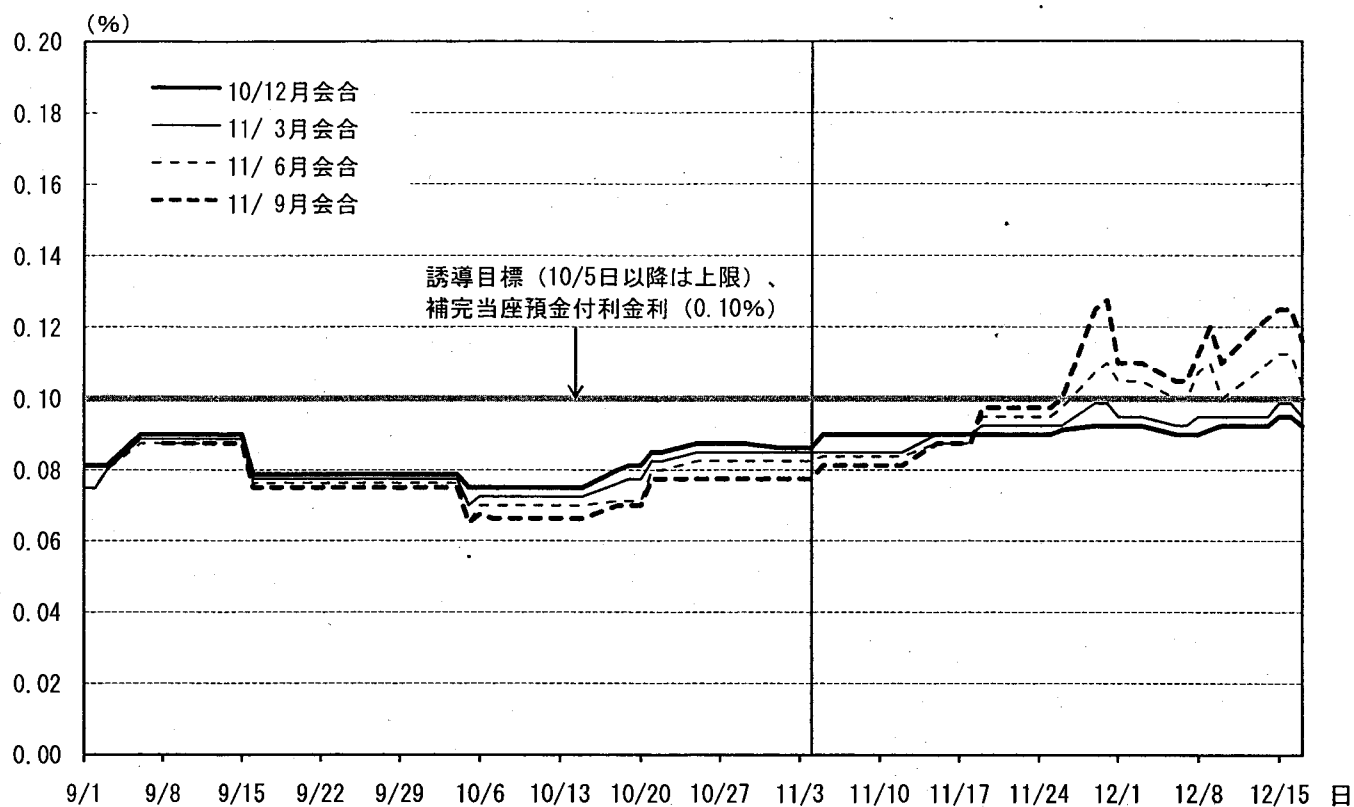


(注) 1. ①はパリバ・ショック (07/8/9日) 時点、②はリーマン破綻 (08/9/15日) 時点。
2. 直近は12/17日。

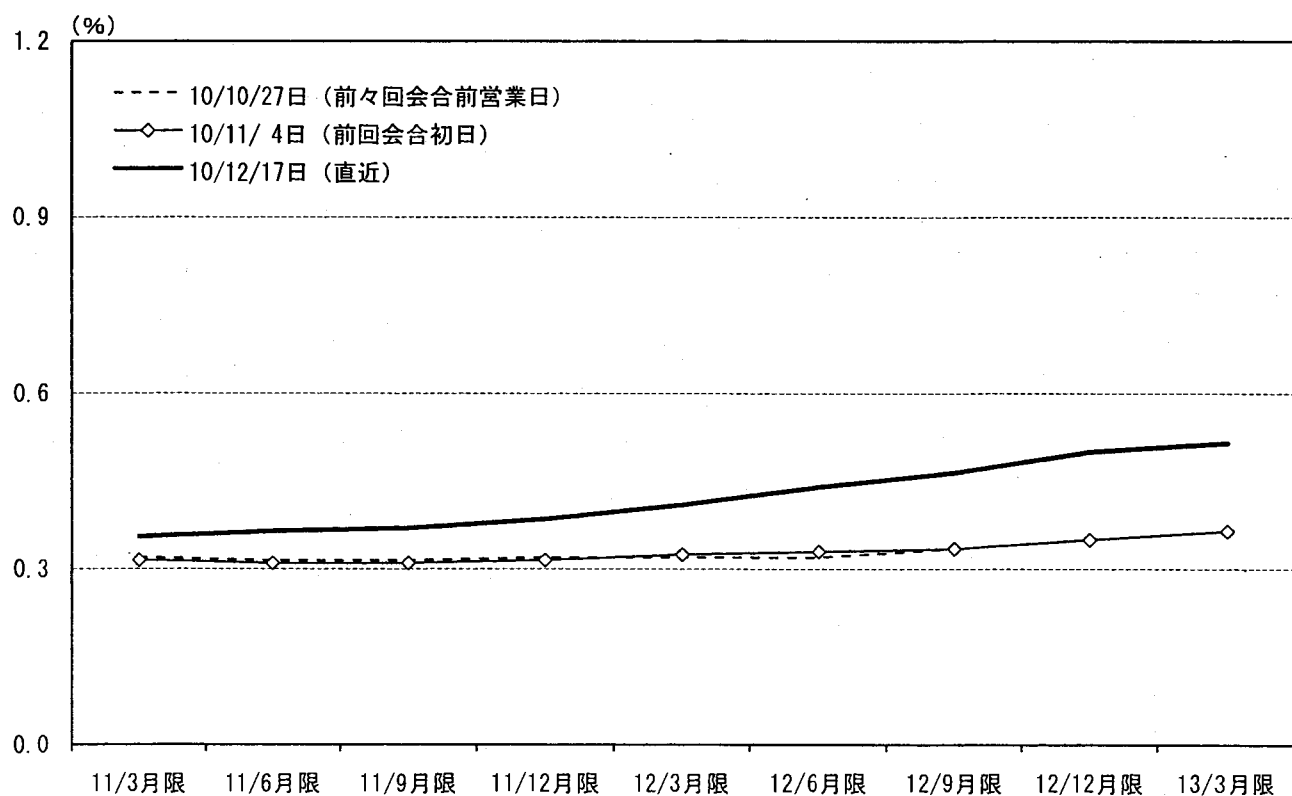
(出所) Bloomberg

フォワードレートの動向

(1) OISレート（会合間取引）の推移



(2) ユーロ円金利先物からみたフォワードレート・カーブの動向

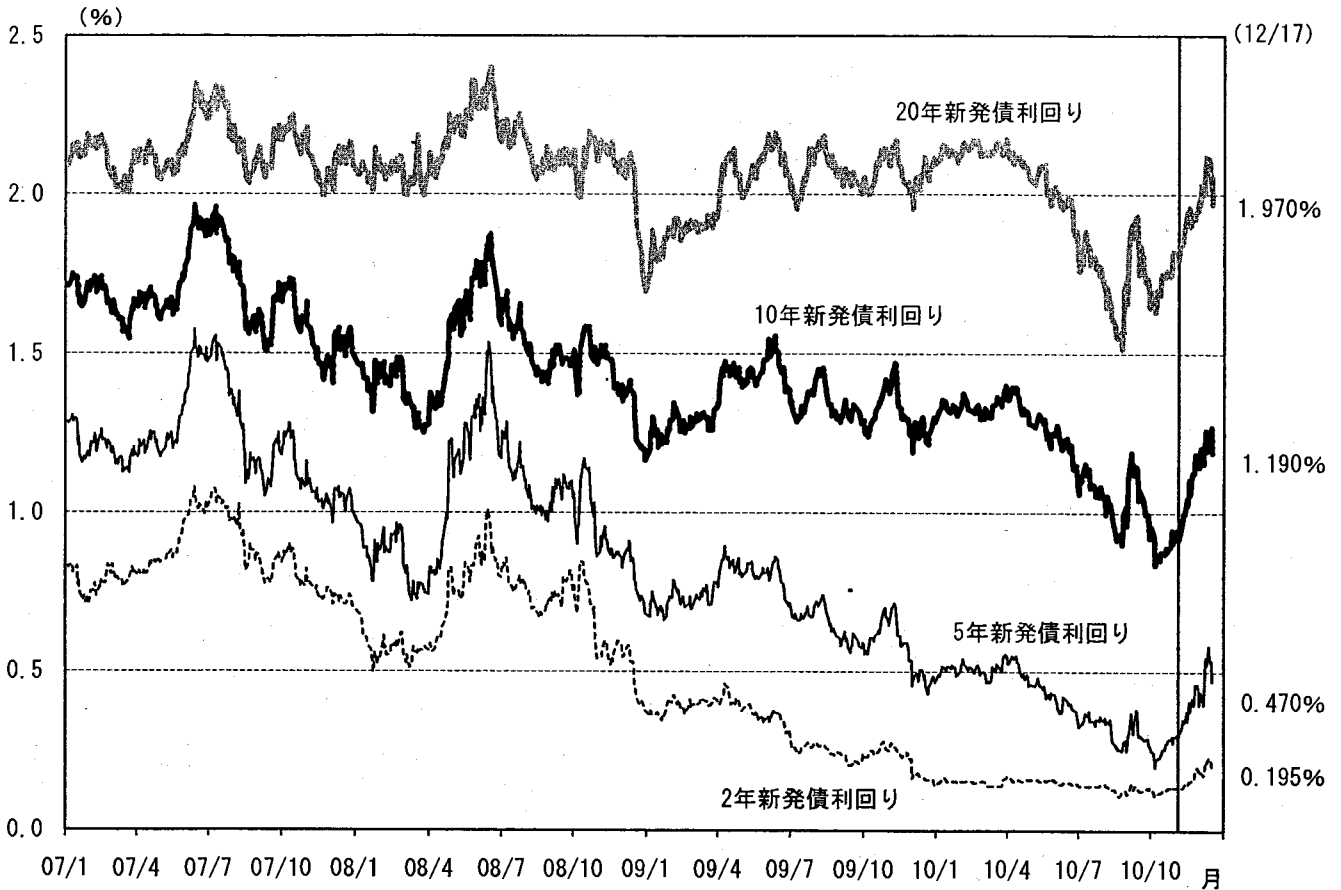


(注) 直近は12/17日。

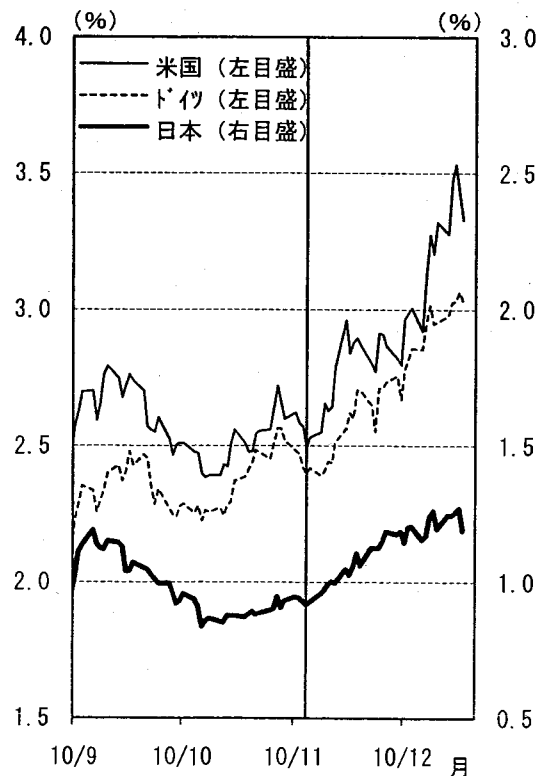
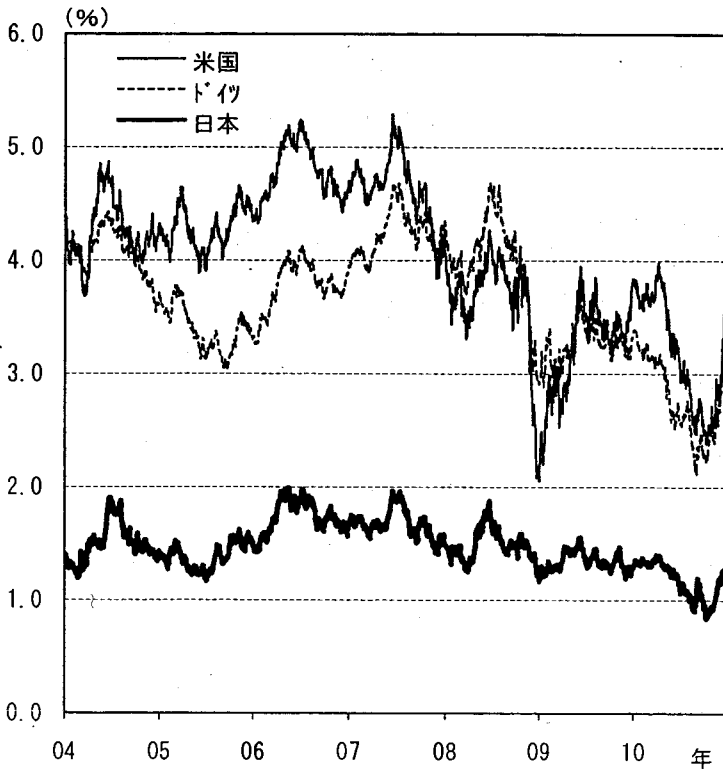
(出所) トムソン・ロイター、メイタン・トラディション、東京金融取引所

長期金利の推移

(1) 国内年限別の推移



(2) 10年国債利回りの推移

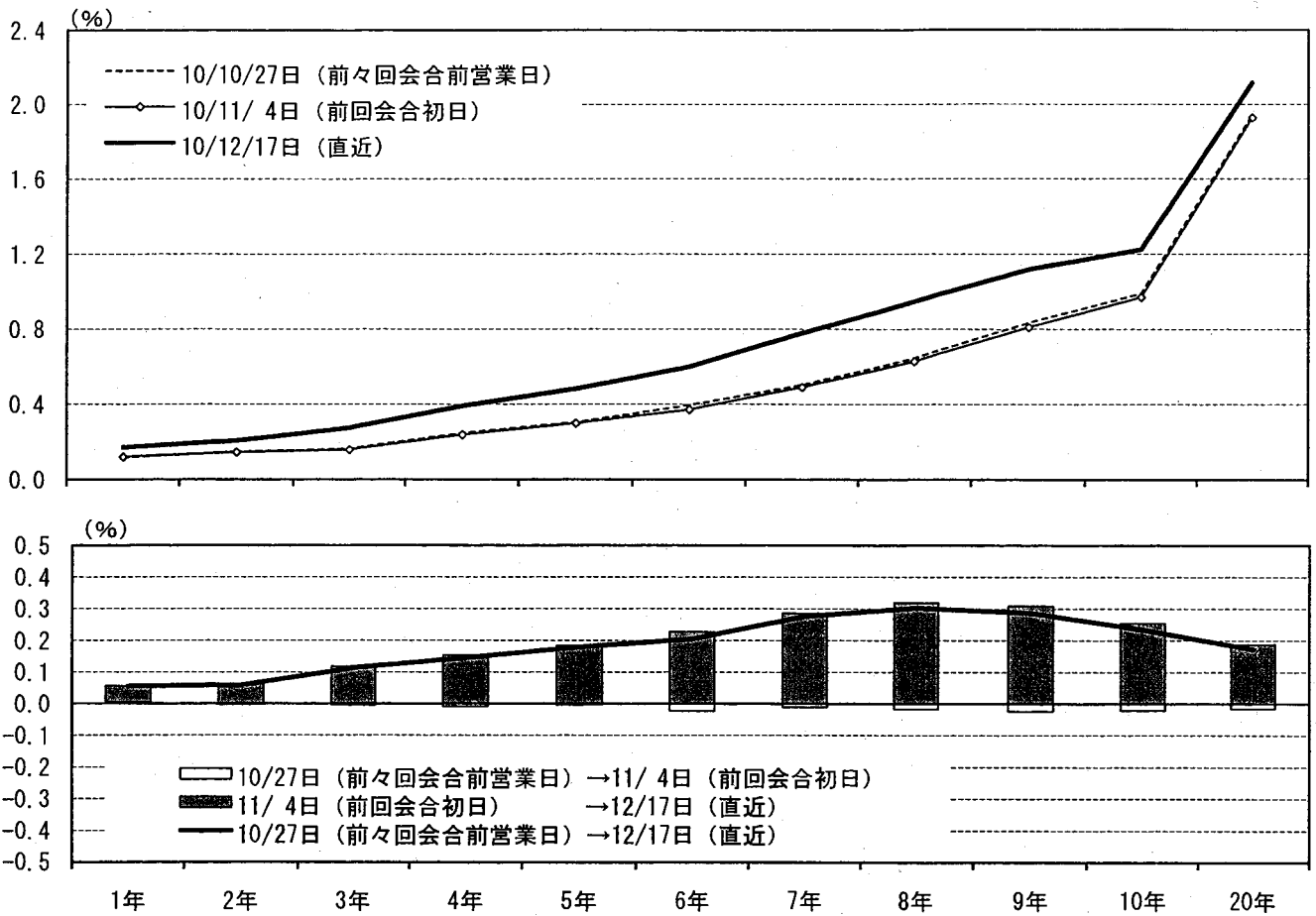


(注) 直近は12/17日。

(出所) Bloomberg、日本相互証券

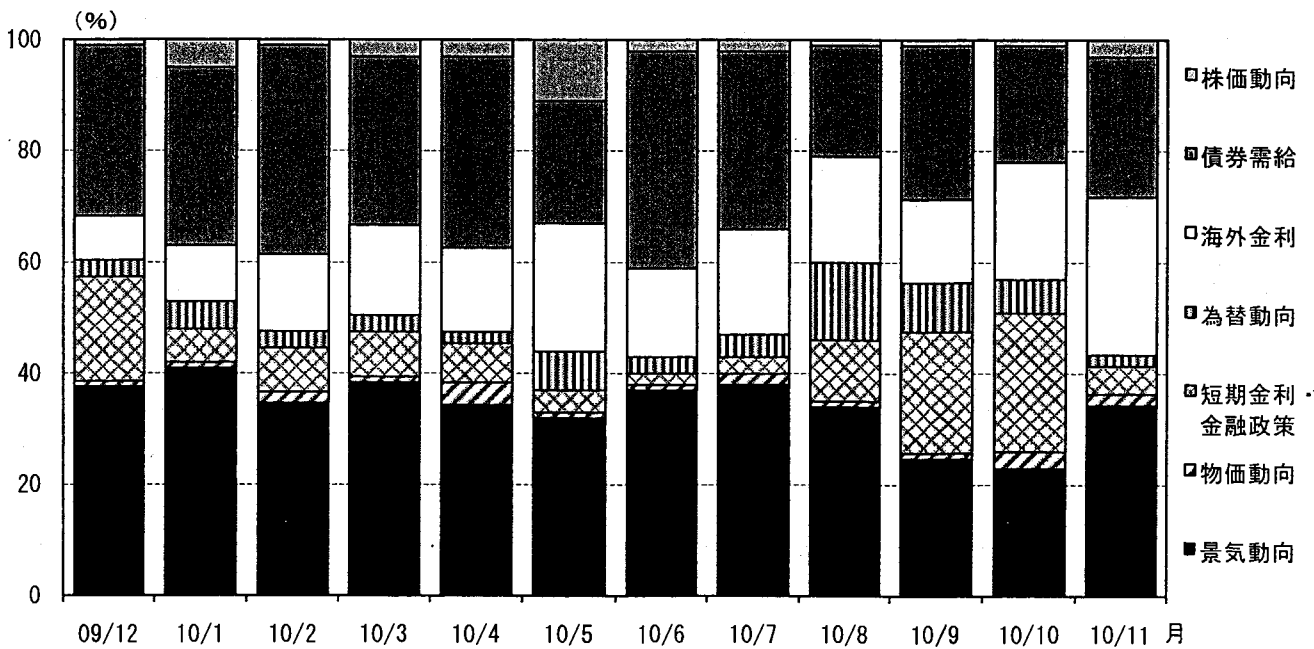
(図表2-7)

イールド・カーブの動向



(出所) 日本証券業協会、日本銀行

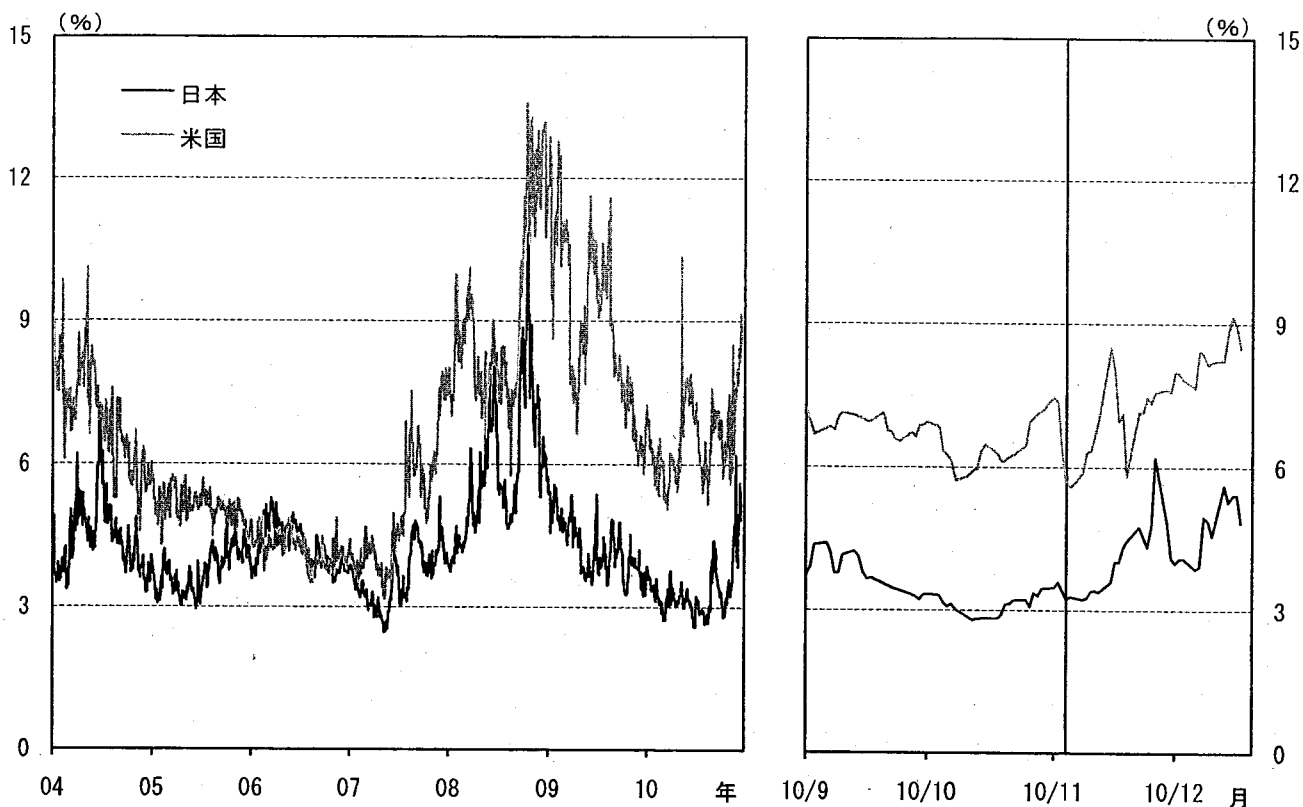
市場参加者が注目する債券利回り変動要因



(注) 調査期間は10/11/22日～10/11/25日。期間中の10年新発債利回りは1.125～1.155%。

(出所) 「QSS債券月次調査」

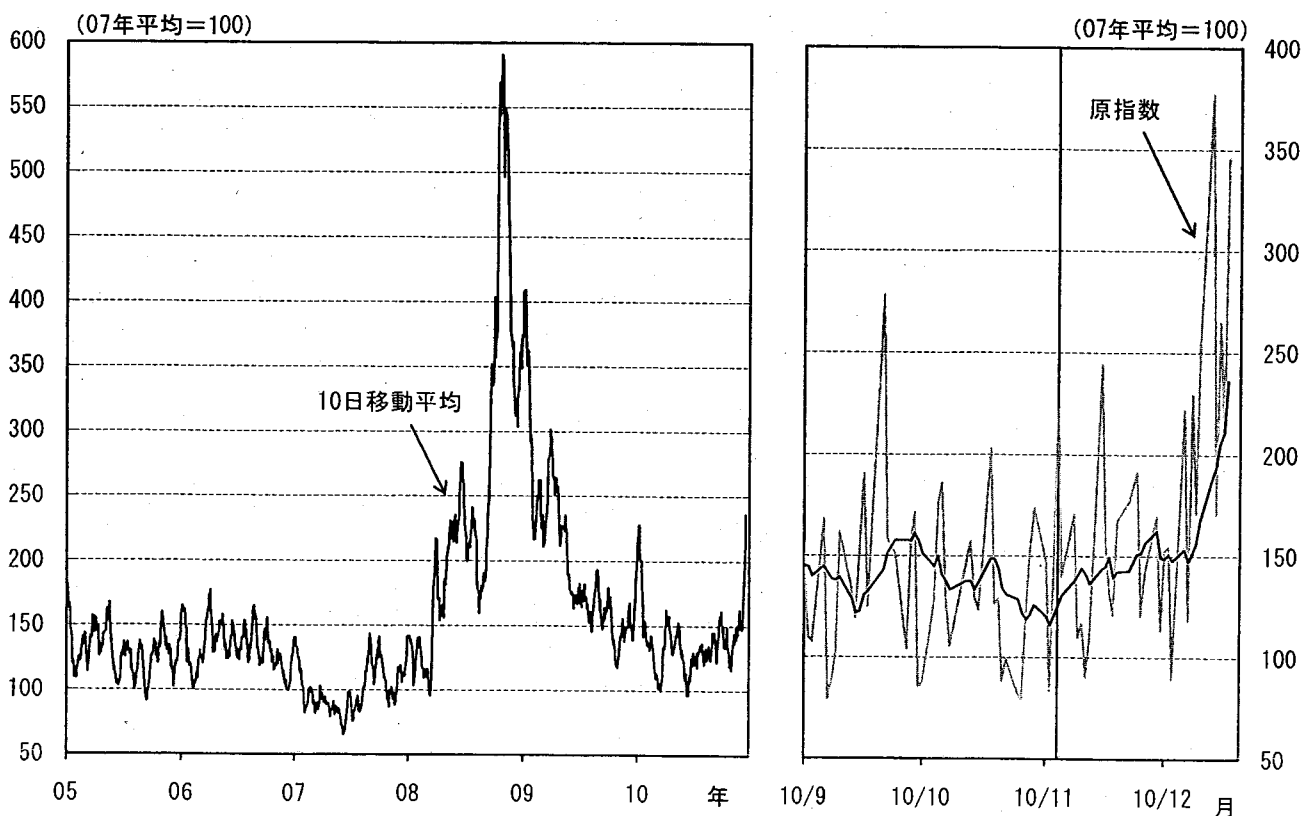
インプライド・ボラティリティの推移



(注) 直近は12/17日。

(出所) Bloomberg、三菱UFJモルガン・スタンレー証券

長国先物の値幅・出来高比率の推移

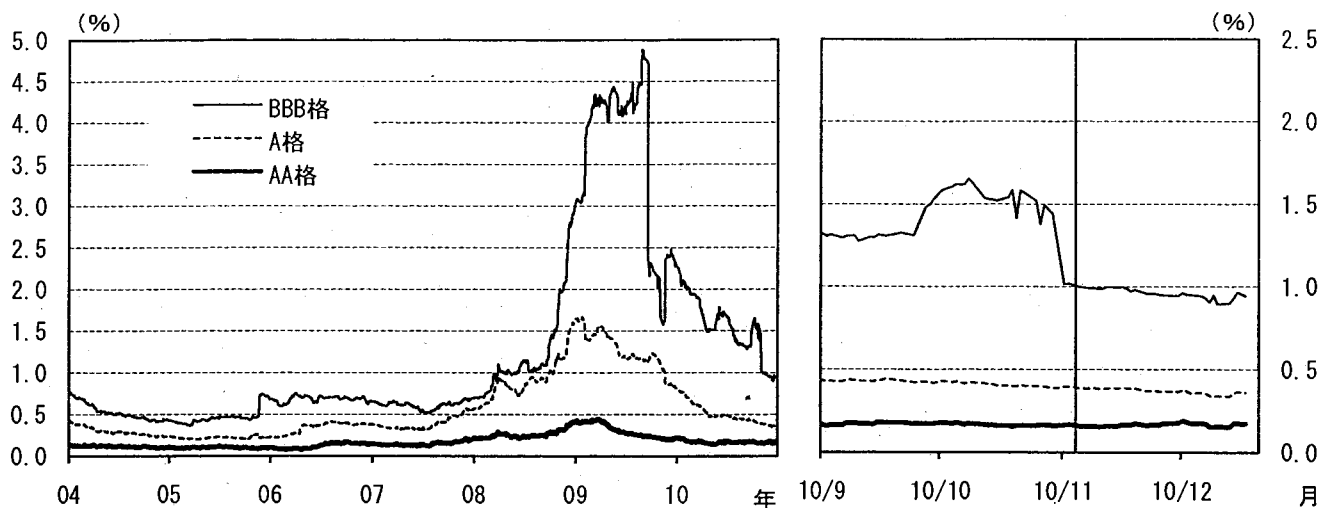


(注) 直近は12/17日。

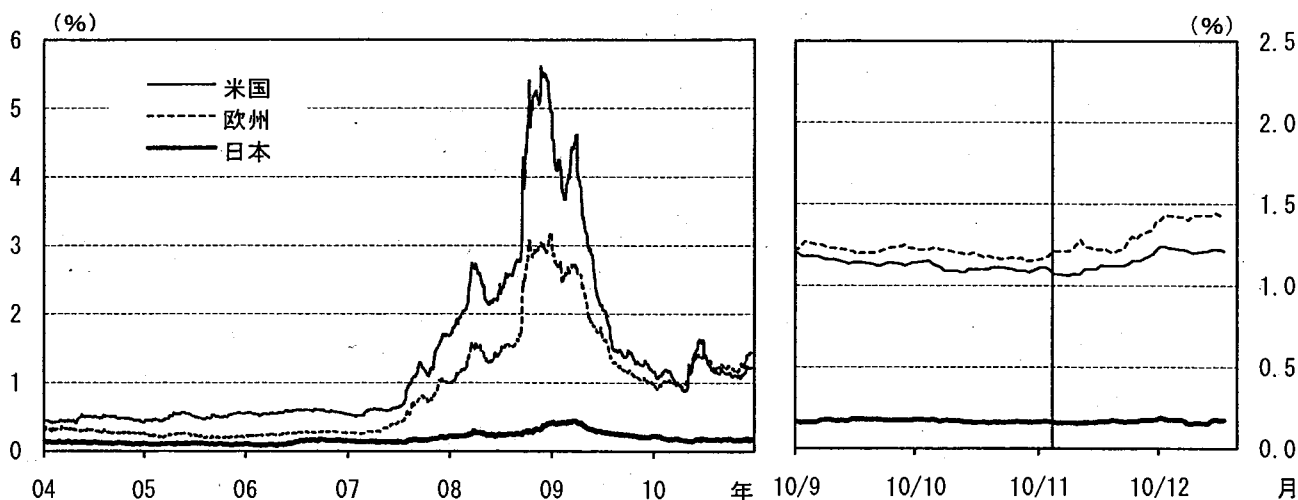
(出所) QUICK

社債流通利回りの対国債スプレッドの推移

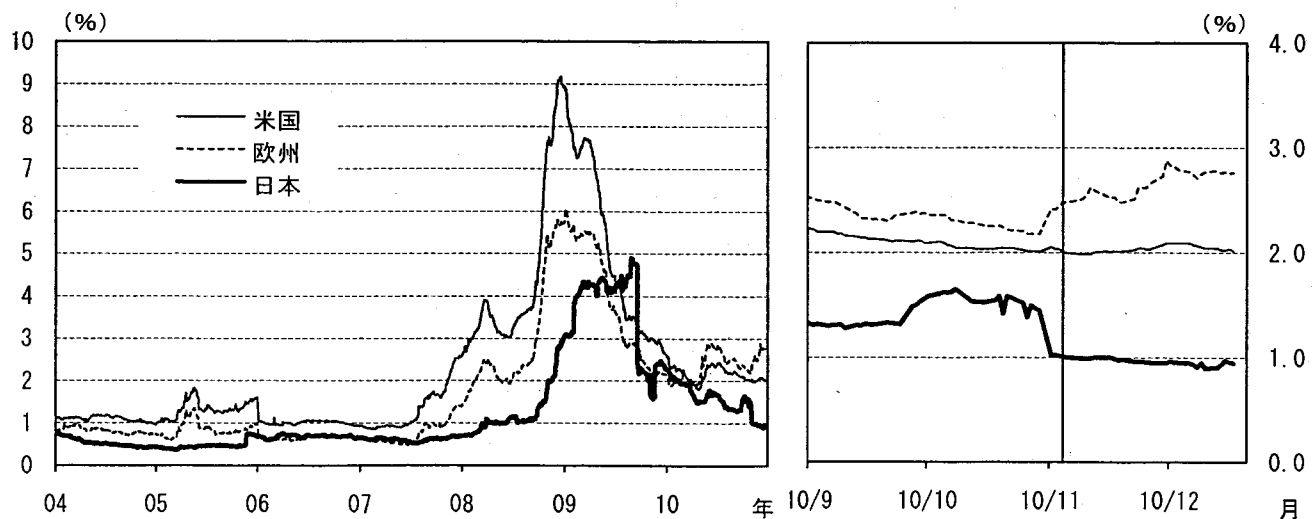
(1) 国内社債の動向



(2) 高格付社債 (AA格) の動向



(3) 低格付社債 (BBB格) の動向

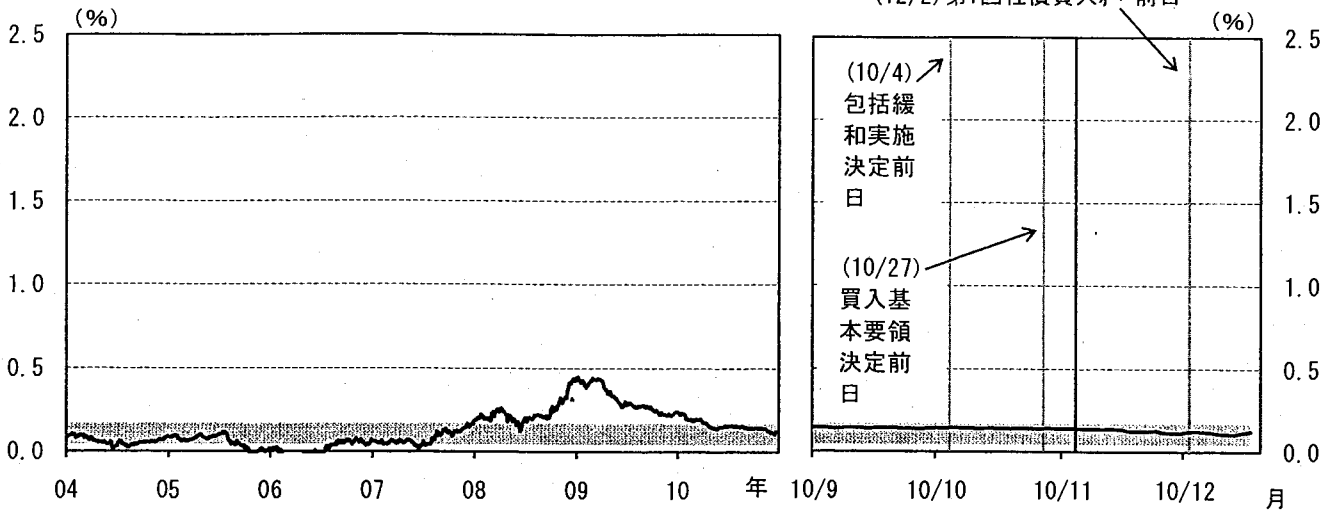


(注) 1. 日本の社債流通利回りは売買参考統計値、格付けはR&Iによる。集計対象は、残存3年以上7年未満の銘柄。
2. 米欧はメリルリンチ算出、格付けはMoody's、S&P、Fitchによる。集計対象は、残存3年以上5年未満の銘柄。
3. 直近は12/17日。

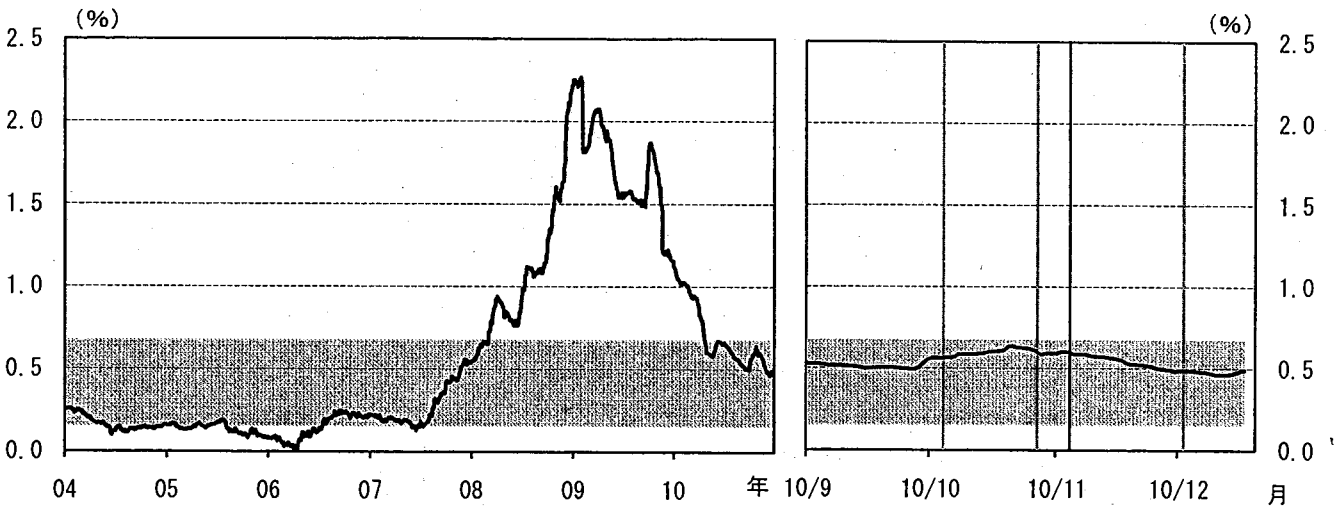
(出所) Bloomberg、日本証券業協会、日本銀行

社債流通利回りの対国債スプレッド（残存3年未満）の推移

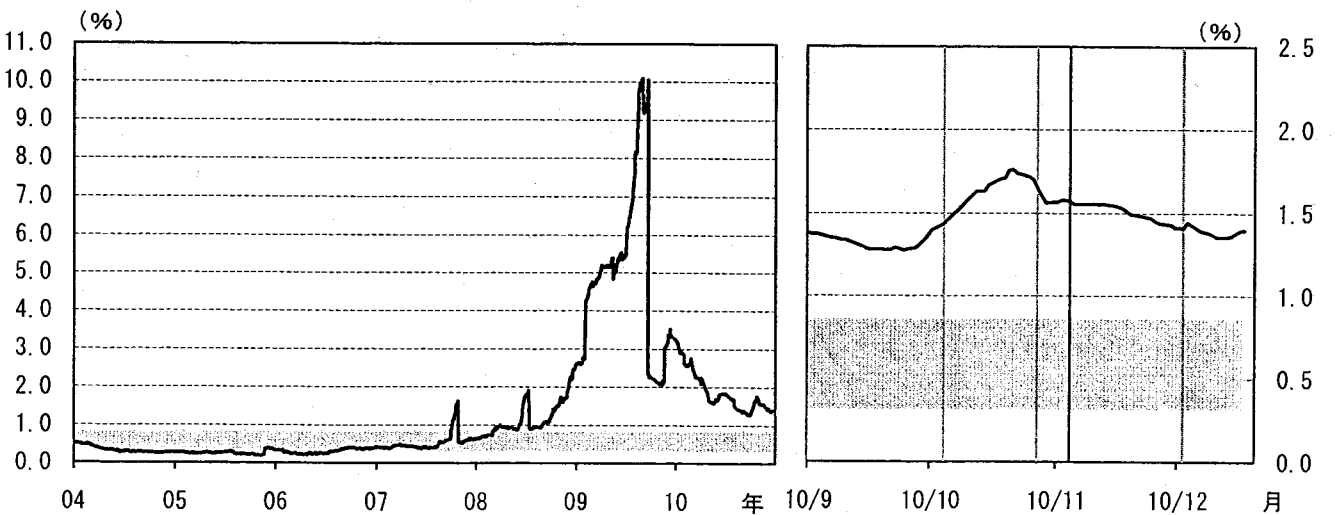
(1) AA格の動向



(2) A格の動向



(3) BBB格の動向

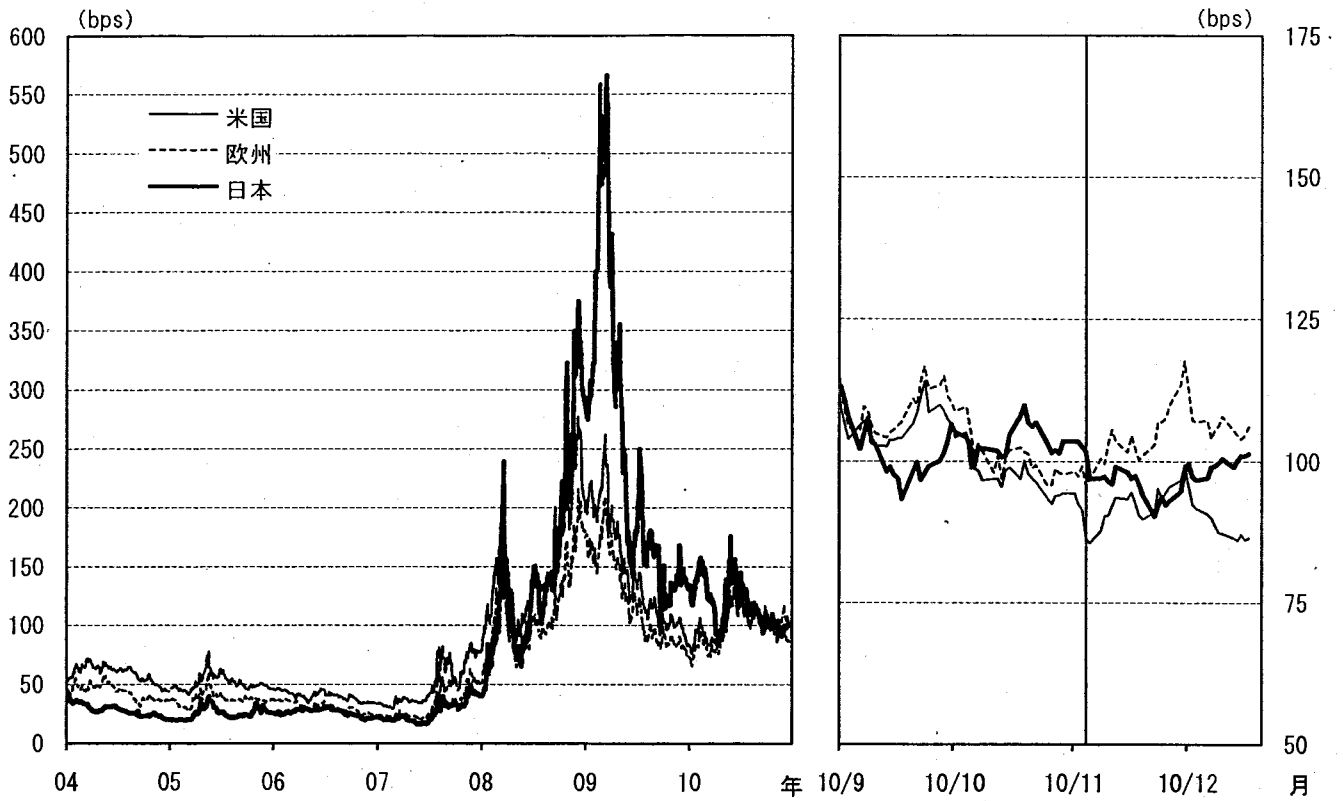


(注) 1. 売買参考統計値に基づく。格付けはR&Iによる。シャドーの上限は07/8月～08/8月の平均、下限は04/1月～07/7月の平均。

2. 直近は12/17日。

(出所) 日本証券業協会、日本銀行

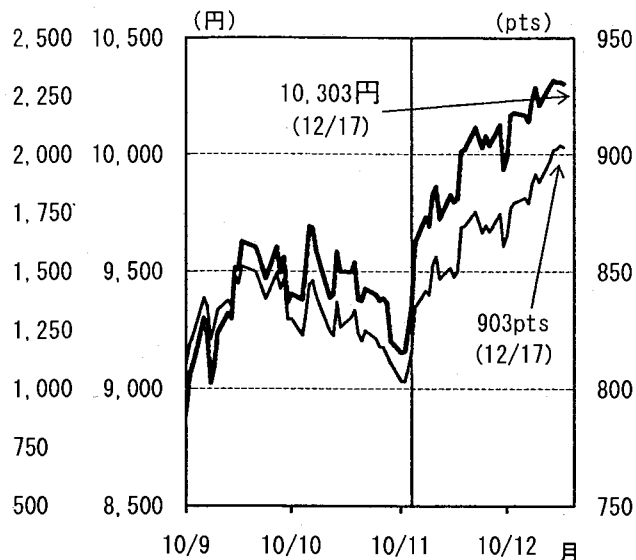
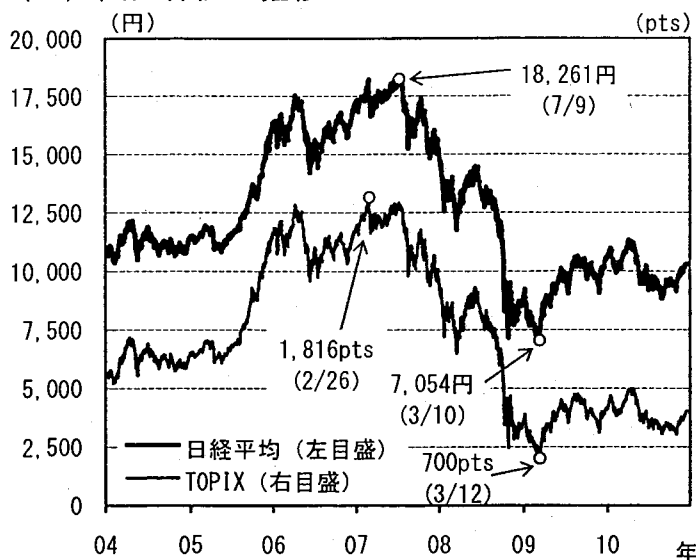
CDSプレミアムの推移



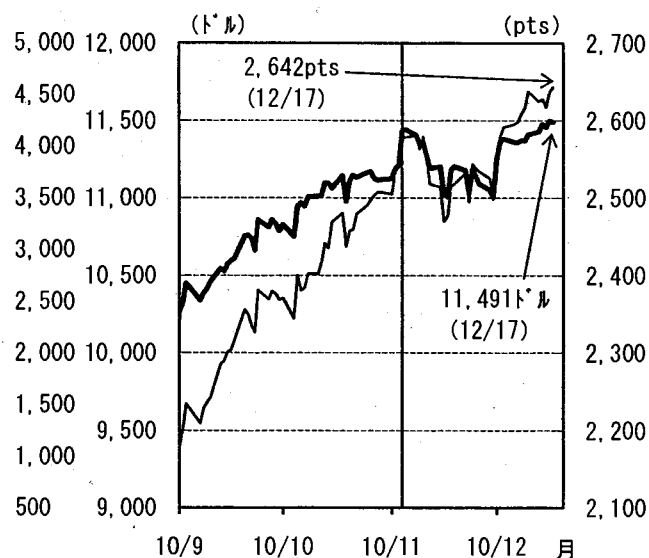
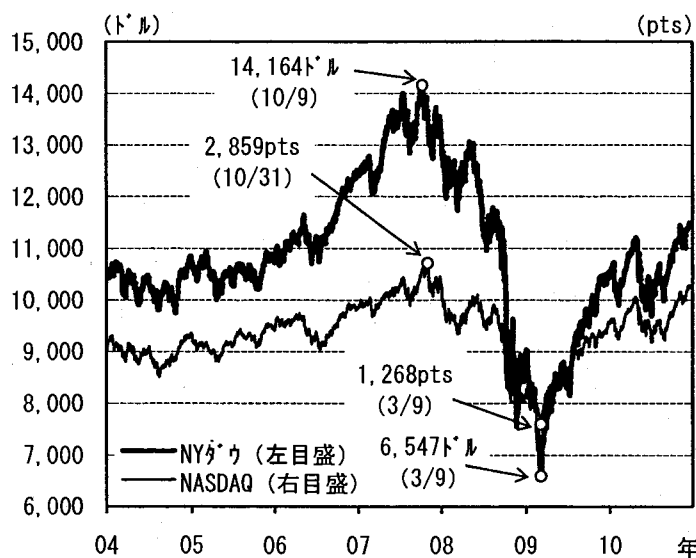
(注) 1. 以下の各インデックス。年限は5年。
日本：iTraxx Japan、米国：CDX.NA.IG、欧州：iTraxx Europe。
2. 直近は12/17日。
(出所) Markit、JPモルガン

株式相場の推移

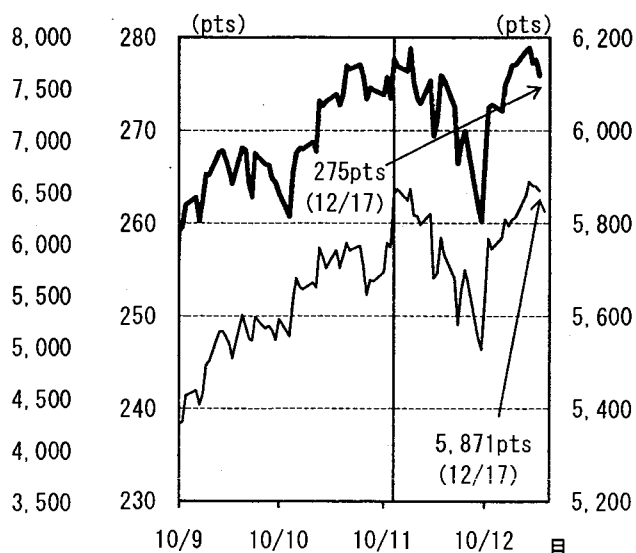
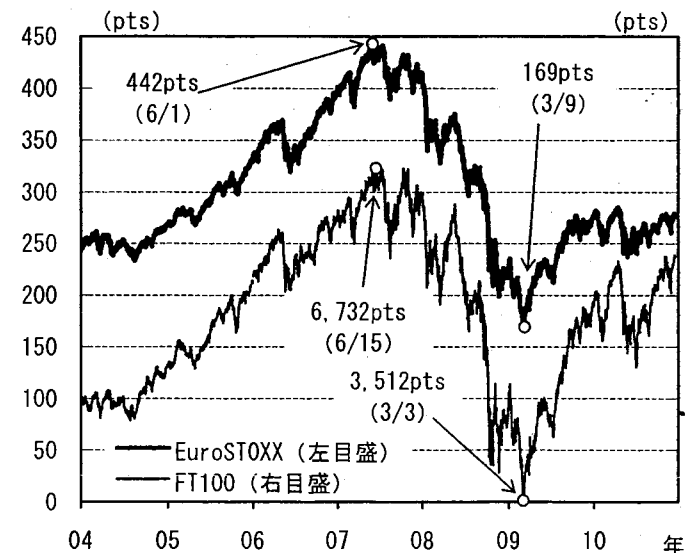
(1) 国内株価の推移



(2) 米国株価の推移



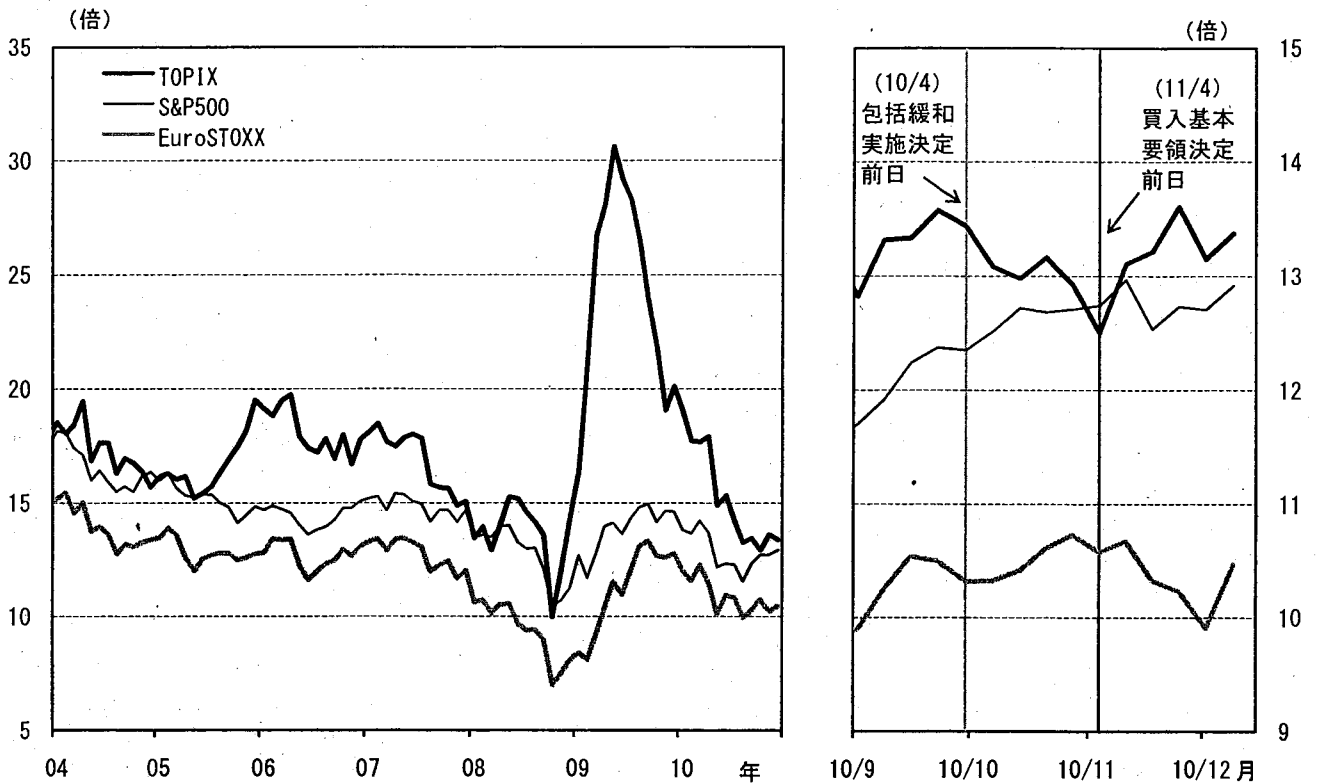
(3) 欧州株価の推移



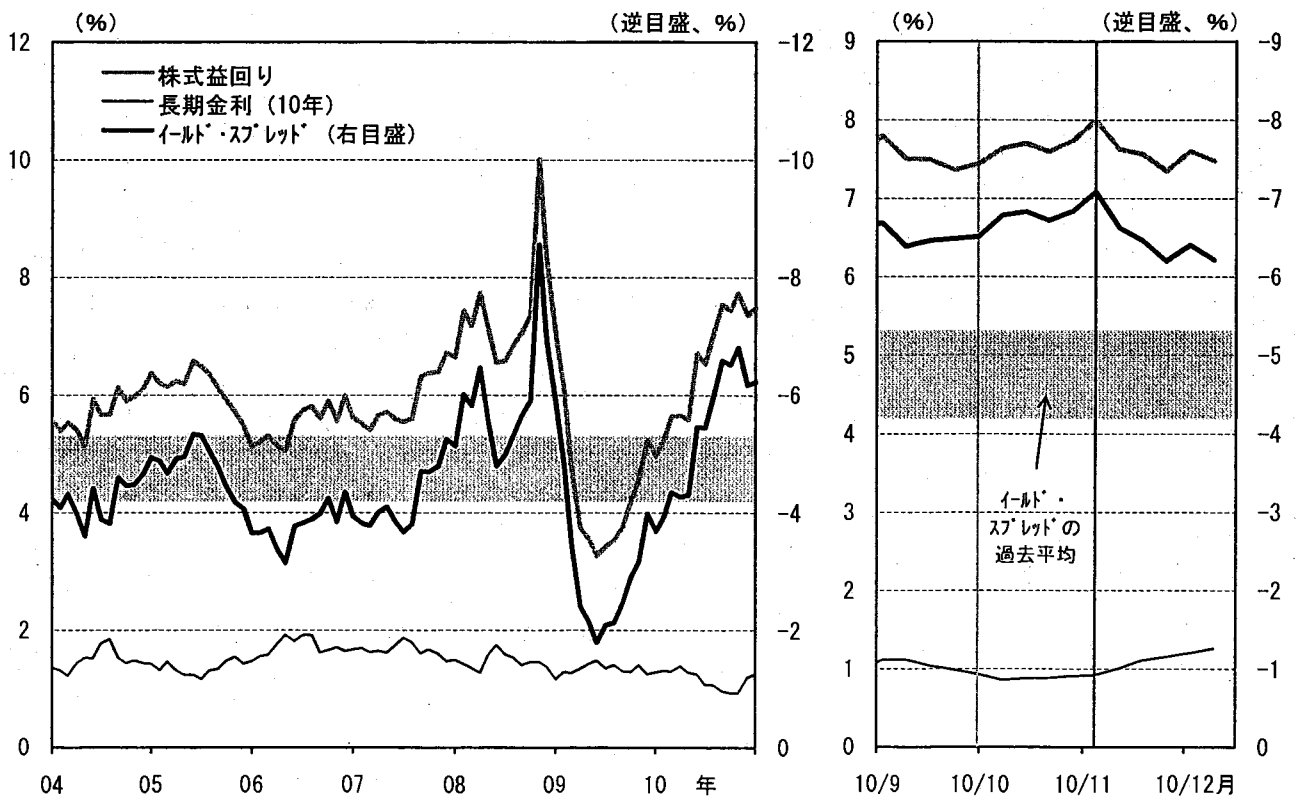
(注) 直近は12/17日。
(出所) Bloomberg、QUICK

株価収益率とイールド・スプレッドの推移

(1) 株価収益率 (PER) の推移



(2) イールド・スプレッド (日本) の推移



(注) 1. 対外非公表。左図は月次、右図は週次。直近は12/9日。
 2. シャドーの上限は07/8月~08/8月の平均、下限は04/1月~07/7月の平均。
 3. 株式益回り=1/PER、イールド・スプレッド=長期金利(10年)-株式益回り。
 (出所) トムソン・ロイター、日本相互証券

主体別売買動向

(▲は売り越し、億円)

	個人		事業法人	投信	金融機関			海外投資家
		信用				信託	生・損保	
09/10 ~ 12月	▲12,334	▲1,050	▲1,975	2,022	▲3,335	▲1,277	▲564	20,595
10/1 ~ 3月	▲10,679	523	▲2,218	▲700	▲7,557	▲3,842	▲1,853	22,843
4 ~ 6月	11,604	8,097	▲265	1,530	4,656	5,244	▲739	▲7,619
7 ~ 9月	▲8,817	▲1,959	▲91	▲304	6,832	7,653	▲827	2,730
10/9月	▲4,594	▲1,836	▲42	40	369	897	▲359	1,261
10月	▲2,439	▲33	▲341	354	1,038	1,346	65	4,626
11月	▲6,566	▲1,445	159	▲104	▲1,388	34	▲1,232	4,208
10/11/8 ~ 11/12	▲1,660	▲196	▲12	▲187	▲833	▲402	▲353	840
11/15 ~ 11/19	▲2,173	▲528	220	12	▲232	173	▲351	1,289
11/22 ~ 11/26	▲358	414	38	▲227	▲617	▲300	▲269	221
11/29 ~ 12/3	▲1,374	▲91	76	▲15	▲516	▲79	▲246	1,333
12/6 ~ 12/10	▲1,766	▲73	▲1	▲444	▲657	183	▲549	1,049

(注) 三市場(東京・大阪・名古屋)合計。金融機関は、都銀・地銀等、その他金融、信託、生・損保。

(出所) 東京証券取引所

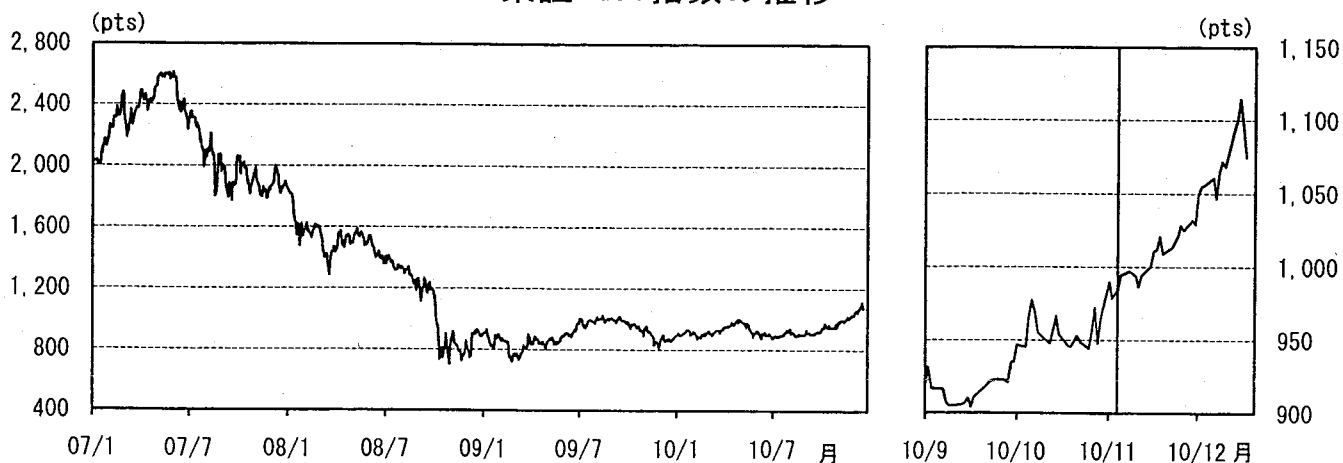
ボラティリティの推移



(注) 日経平均は日経平均ボラティリティー・インデックス。S&P500はVIX指数。直近は12/17日。

(出所) Bloomberg、日本経済新聞社

東証REIT指数の推移

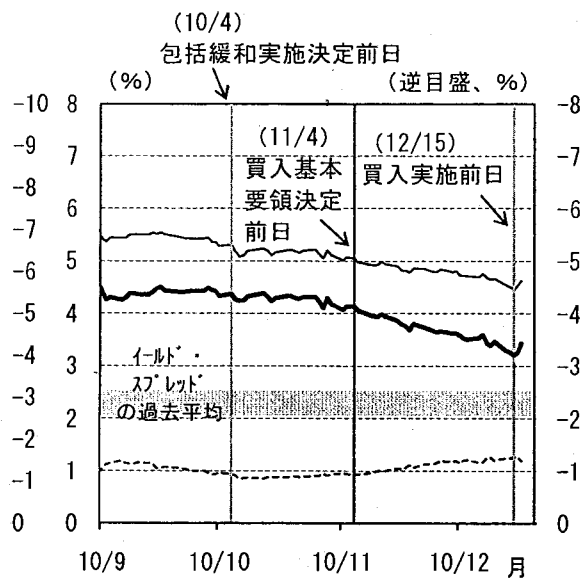
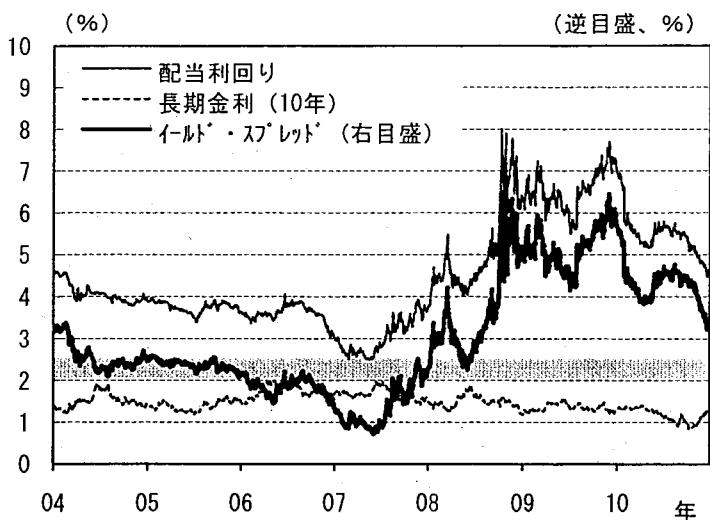


(注) 直近は12/17日。

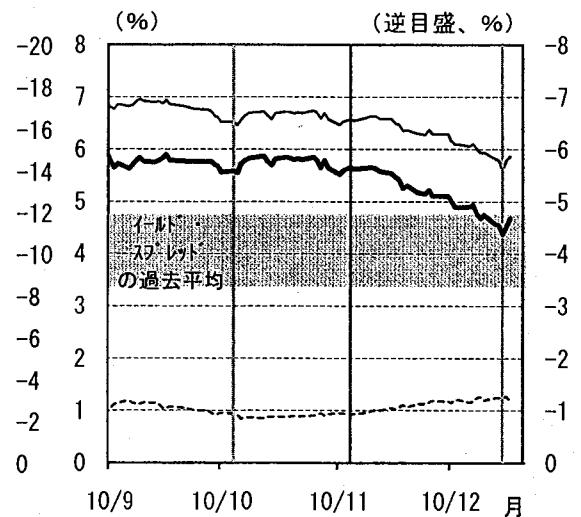
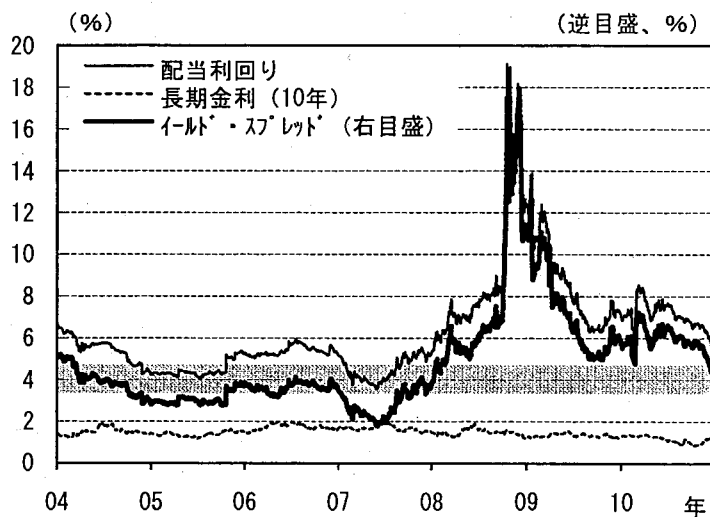
(出所) Bloomberg

不動産投資信託 (J-REIT) のイールド・スプレッドの推移

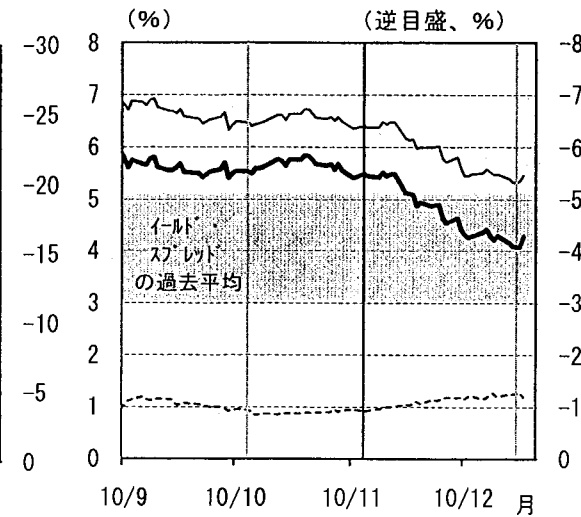
(1) AA格 (15銘柄) の動向



(2) A格 (13銘柄) の動向



(3) BBB格 (2銘柄) の動向

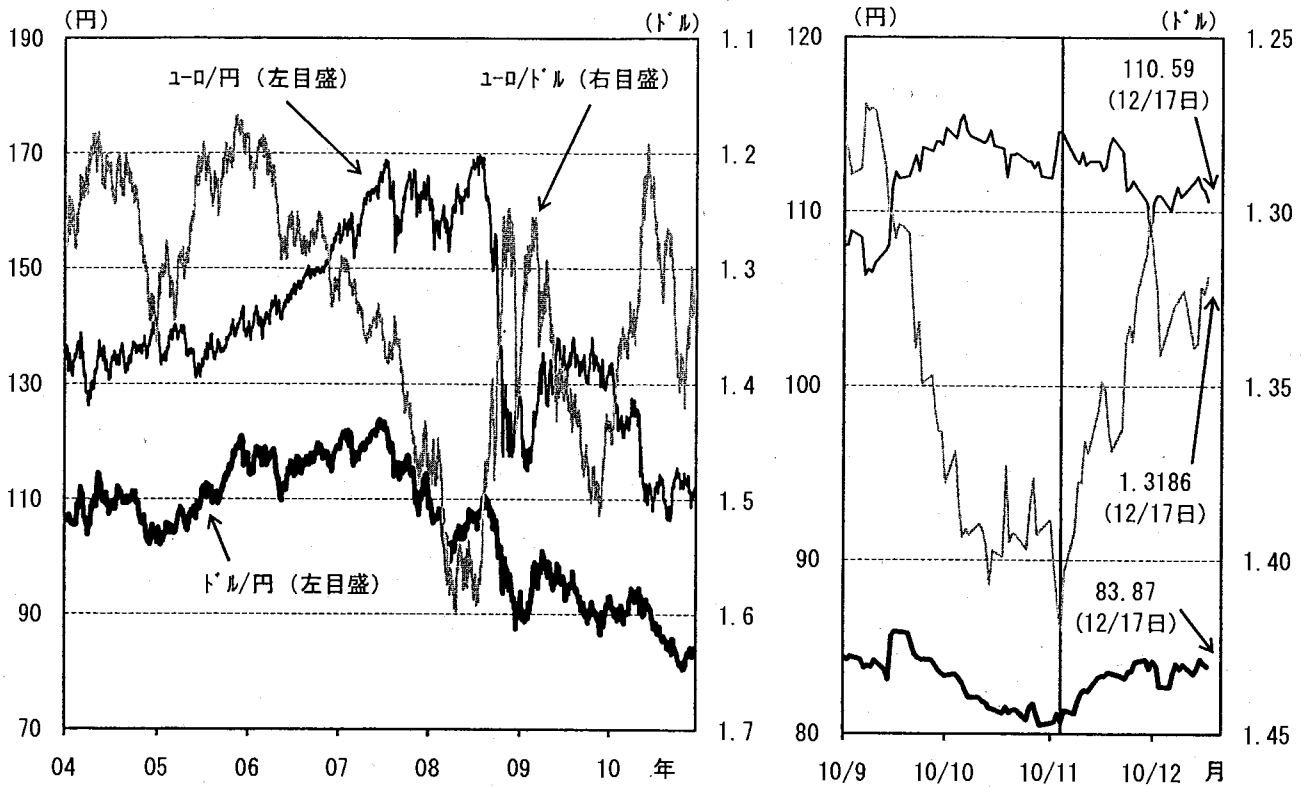


(注) 1. 直近は12/17日。シャドーの上限は07/8月~08/8月の平均、下限は04/1月~07/7月の平均。
 2. 格付けは直近時点のもので、東証REIT指数を構成する35銘柄中、格付けが確認できる30銘柄について集計。S&P、Moody's、R&I、JCRのうちの最高格付け。カッコ内は、各格付けに該当する銘柄数。
 3. イールド・スプレッドは、長期金利 (10年) - 配当利回り。

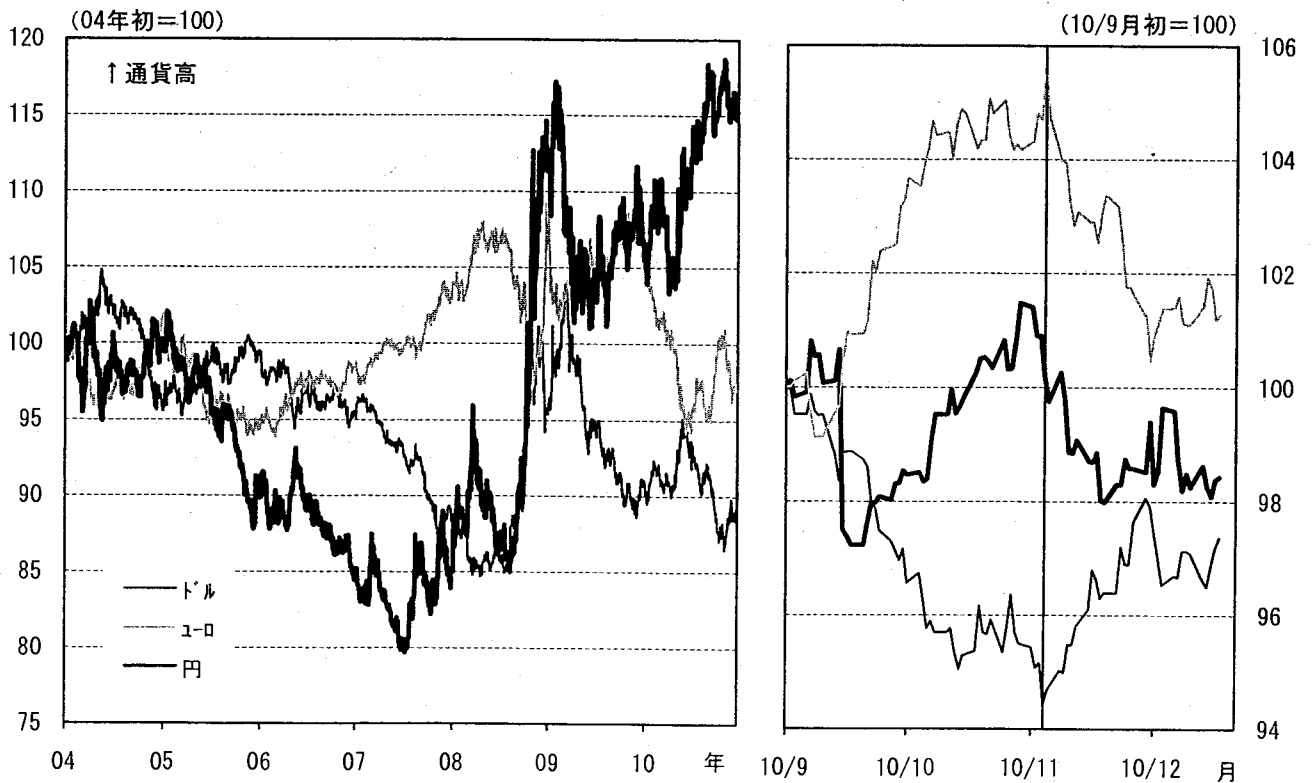
(出所) Bloomberg、日本相互証券

主要為替相場の推移

(1) ドル/円、ユーロ/円、ユーロ/ドル相場の推移



(2) 名目実効為替レート推移



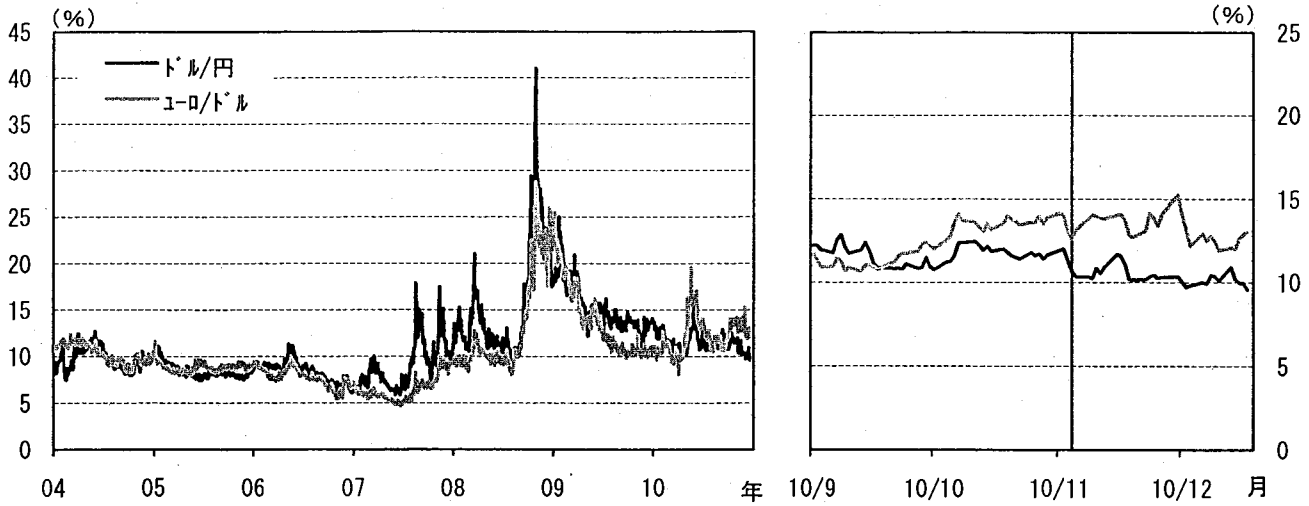
(注) 1. (1)は原則NY市場16時時点。

2. 直近は12/17日。

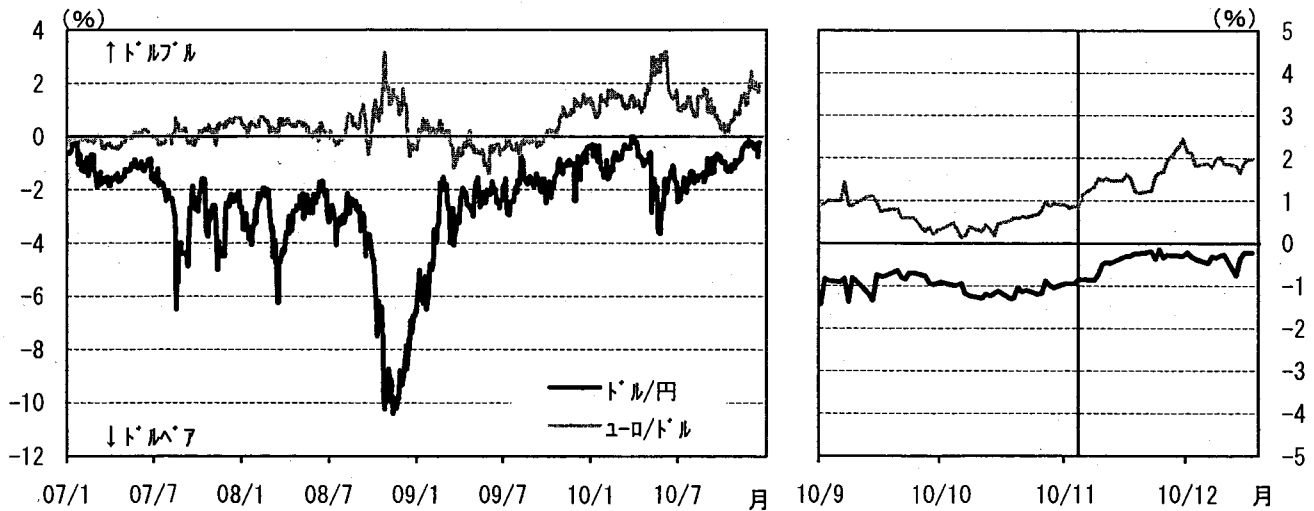
(出所) JPモルガン、トムソン・ロイター、ECB、日本銀行

通貨オプション、先物市場の動向

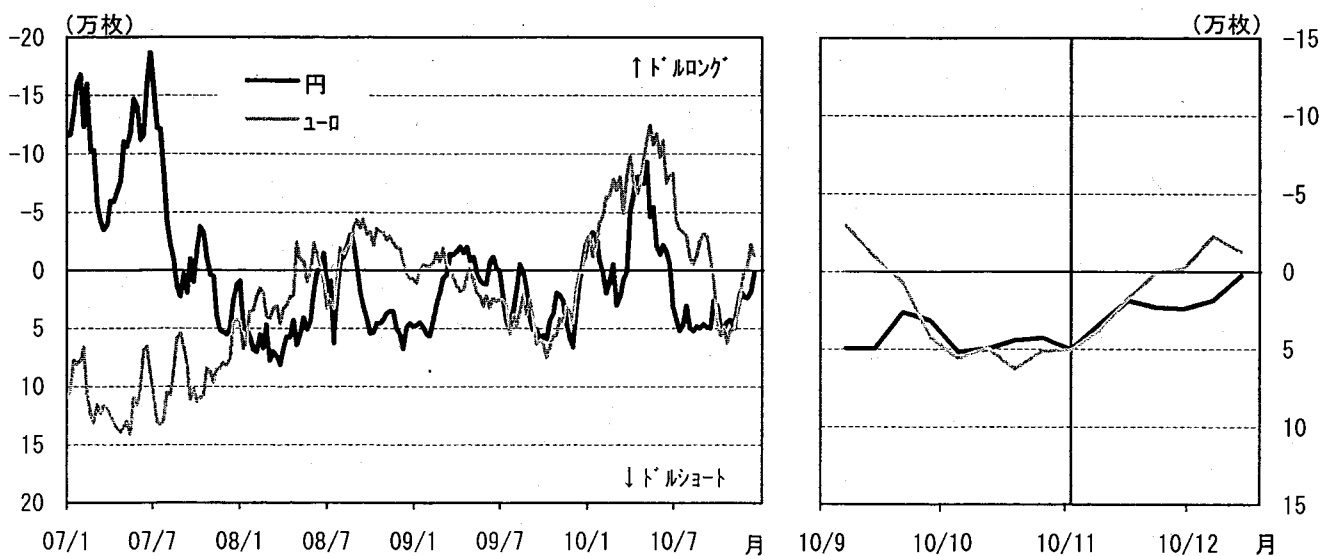
(1) インプライド・ボラティリティ (1か月) の推移



(2) リスクリバーサル (1か月) の推移



(3) IMMネットポジションの推移



(注) 1. (3)は通貨先物取引における非商業目的および目的別計数非報告分のネット建玉の合計。

2. 直近は、(1)(2)は12/17日、(3)は12/14日。

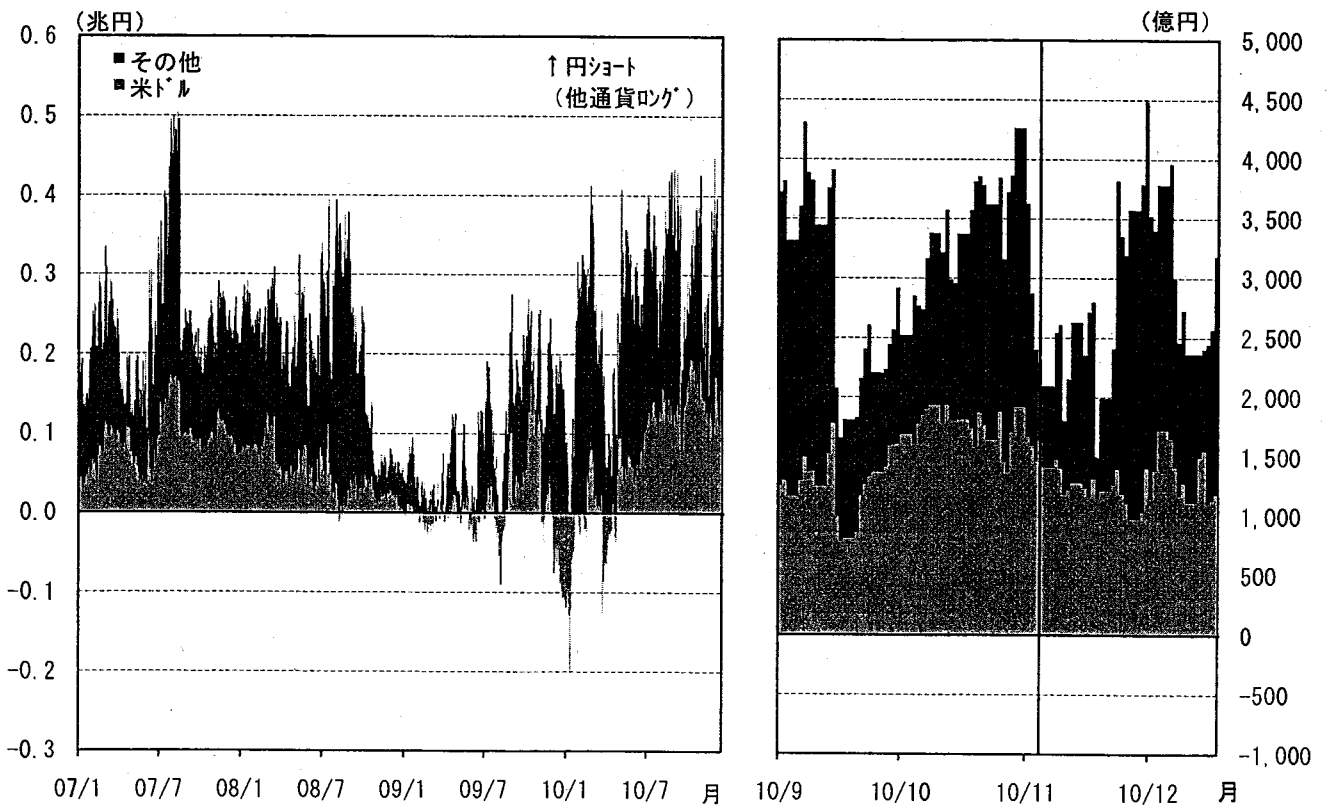
(出所) Bloomberg

クロス円取引の動向

(1) クロス円相場の推移



(2) 外為証拠金取引の動向



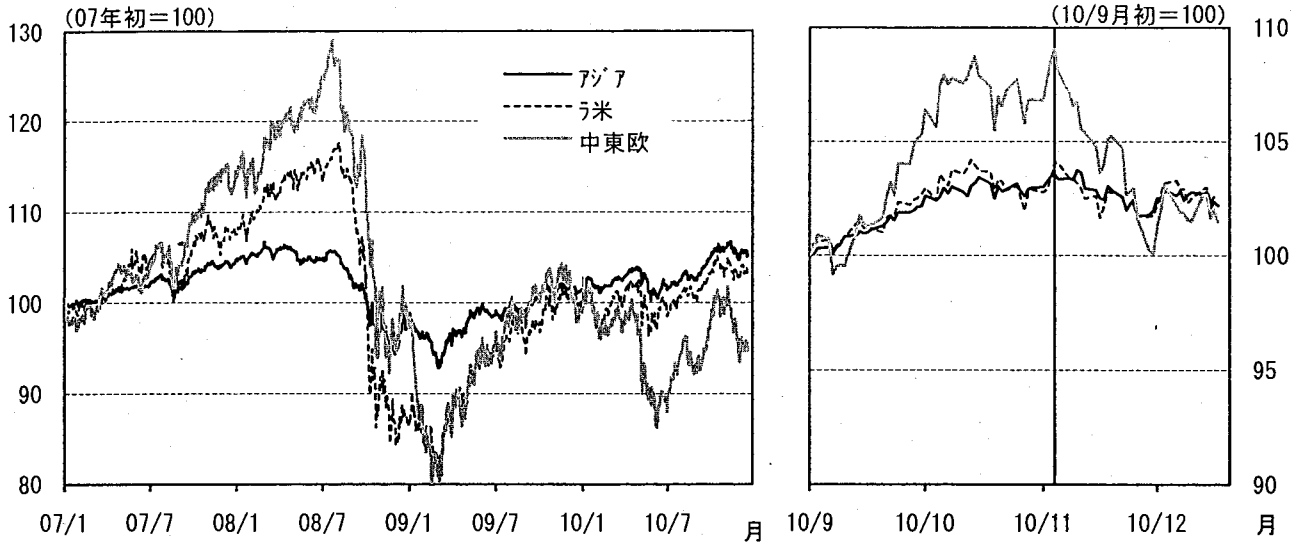
(注) 1. (2)は、円に対する他通貨のネットロングポジション（マーケット・メーカーを除く）。

2. 直近は12/17日。

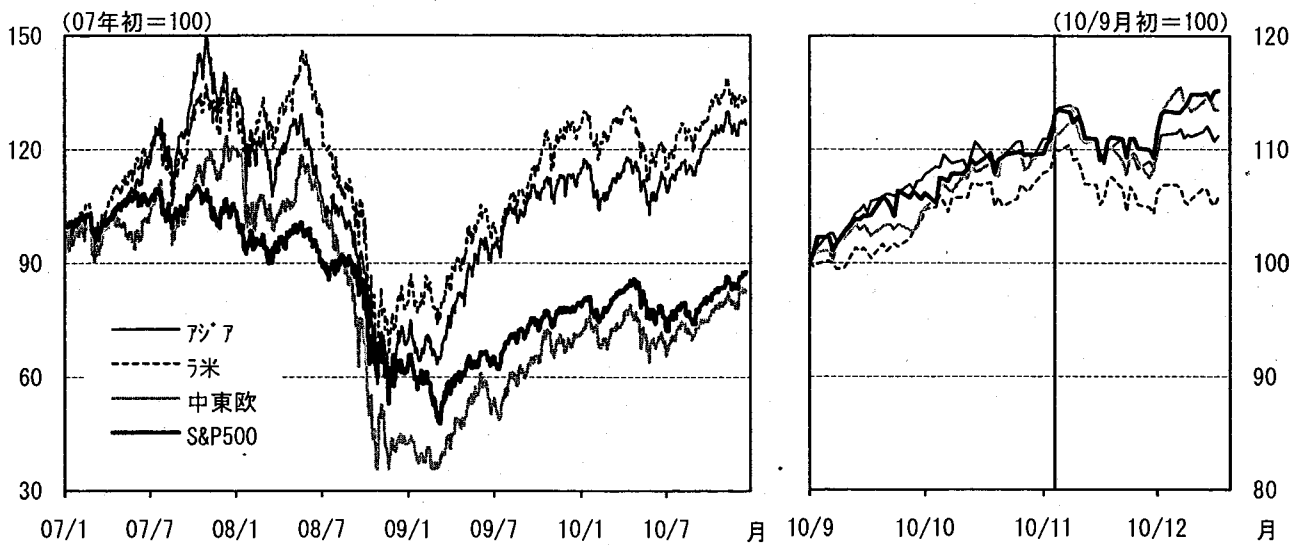
(出所) Bloomberg、東京金融取引所

エマージング、コモディティ市場の動向

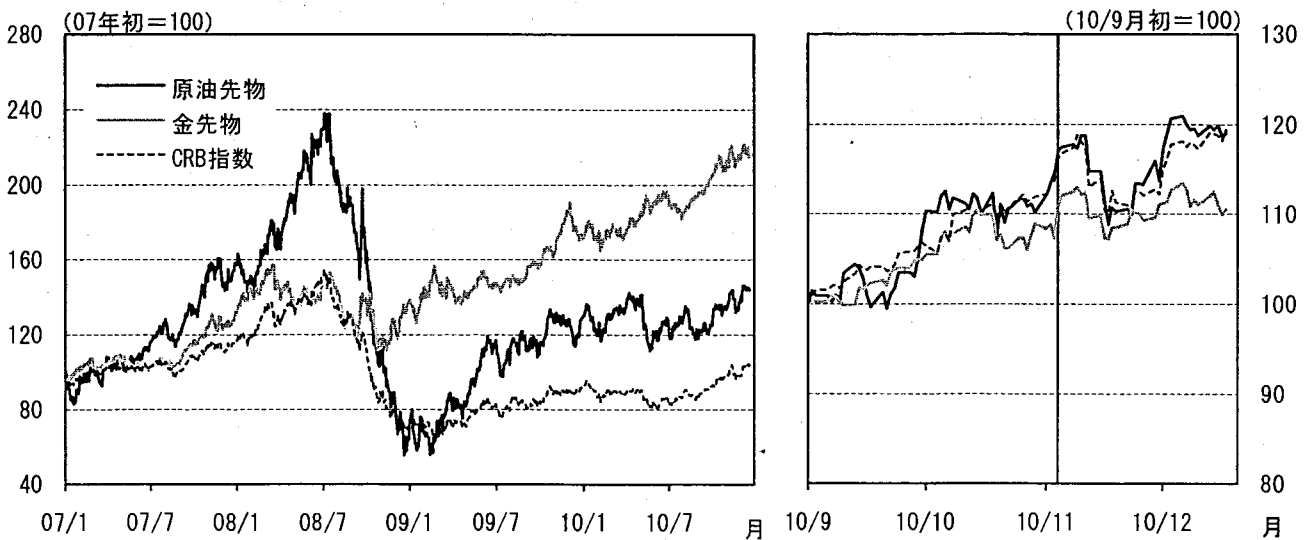
(1) エマージング通貨指数の推移



(2) MSCIエマージング株価指数の推移



(3) コモディティ価格の推移



(注) 1. (1)は対ドル指数。(2)は現地通貨建て。(3)のコモディティ先物はNYMEX期近物。
2. (1)の中東欧の10/6/28日以降については、各国通貨の為替レートをもとに作成。
3. 直近は12/17日。

(出所) Bloomberg

2010.12.15

国際局

海外経済・国際金融の現状評価

1. 概況

[海外経済の現状]（図表1～3）

世界経済は、減速しつつも回復を続けている。

米国経済は、緩やかな回復を続けている。輸出は増加を続け、設備投資も緩やかに増加している。個人消費も増加を続けているが、その回復ペースは、失業率の高止まりなど雇用環境の改善が捗々しくないもとの、緩やかなものに止まっている。住宅投資は、なお低水準で推移している。

ユーロエリア経済は、国ごとのばらつきを伴いながらも、全体としてみれば、緩やかに回復している。輸出と生産が減速しつつも増加を続けているほか、個人消費など内需も緩やかに増加している。英国経済も、緩やかに回復している。輸出や生産が減速しつつも増加を続け、個人消費は持ち直している。

中国経済は、高めの成長を続けている。個人消費は、家計の所得水準の向上などを背景に、堅調に推移しているほか、固定資産投資も、高い伸びを続けている。輸出も増加基調をたどり、生産の増加ペースは再び高まっている。インド経済は、高めの成長を続けている。NIEs・ASEAN経済は、輸出や生産の増勢鈍化から減速しているが、個人消費や設備投資は増加を続けており、全体として回復基調をたどっている。

この間、物価についてみると、先進国では、財市場や労働市場における緩和的な需給環境が、デシインフレ圧力となって引き続き作用している。新興国では、通貨高が輸入物価の上昇抑制を通じてインフレ上昇を防いでいる側面もあるが、国際商品市況の上昇を受けた食料品・原材料価格の上昇や生産要素の稼働水準の高まりを背景に、インフレの上昇圧力は徐々に高まってきている。

[国際金融の現状]

米欧の金融市場をみると、株価については、中国の追加利上げ懸念や欧州信用不安再燃の影響などから下落する局面もみられたが、米国経済の先行き見通しの改善などを材料に反発し、前回会合対比では横ばい圏内の動きとなった。一方、長期金利については、経済見通しが改善する中で、FRBによる追加緩和期待の後退や米政府の追加景気刺激策に伴う国債需給の悪化懸念も加わって、前回会合以降大幅に上昇した。この間、欧州周辺国の国債利回りの対独スプレッドは、信用不安の再燃から大幅に拡大した後、EUの支援決定やECBによる固定金利・全額供給方式オペの継続決定等を受け縮小するも、依然高水準で推移するなど不安定な状況が続いている。

クレジット市場では、高格付け社債の対国債スプレッドが低位で推移する中、低格付け社債のスプレッドは幾分縮小した。また、企業の資本市場調達についてみると、IPOは、件数ベースで2009年初をボトムに緩やかな増加基調をたどる中、11月は、一部大手企業の大規模公開から金額ベースでも大幅に増加した。社債発行も、低金利に伴う良好な発行環境を受け、引き続き高水準で推移している。この間、銀行貸出については、全体として縮小傾向を続けているが、縮小ペースは和らいでいる。

エマージング諸国・地域の金融市場をみると、株価、通貨ともに、中国の追加利上げ懸念や欧州信用不安の影響などから、下落する局面もみられたが、良好なファンダメンタルズを背景に、総じて高値圏内で推移している。国際商品市況も、11月にいったん下落したが、新興国需要が増加基調をたどる中、投機的な動きも加わって反発し、全体として高水準で推移した。

[先行きの展望]

先行き、世界経済は回復を続けていくとみられる。

米国経済は、新興国向けを中心とした輸出の増加と緩和的な金融環境を背景に、回復基調が続くと考えられる。また、財政面での追加刺激策も、景気回復を後押しすることが予想される。もっとも、家計がバランスシート問題を抱え、企業も新規雇用に引き続き慎重な中で、生産・所得・支出の自律的な好循環メカニズムは作動しにくい。このため、国内民需の回復ペースは緩やかなものに止まり、リスクの面でも、景気は上方に弾みにくく、下方に振れやすい状況が続くと考えられる。

ユーロエリア経済は、全体として、緩やかな回復を続けていくと考えられる。もっとも、国ごとのばらつきは大きく、輸出増の恩恵が大きいドイツでは堅調な成長が見込まれる一方、政府と民間部門の双方が過剰債務を抱えた周辺国では、緊縮財政の影響から低調な動きが続くと予想される。また、周辺国では長期金利が依然

高止まるなど、金融市場の不安定な地合いが続いており、これが実体経済に波及し、景気を下振れさせるリスクはなお大きい。

中国経済は、固定資産投資が引き続き増加基調をたどるほか、所得水準の向上を背景とした個人消費の増加が続くことから、高めの成長を維持すると考えられる。インド経済も、堅調な内需を映じ、高めの成長が続くとみられる。NIEs・ASEAN 経済については、輸出が増加基調を維持し、生産・所得・支出の好循環メカニズムが作動するなかで、個人消費や設備投資も増加傾向を続けることから、景気は拡大基調をたどると考えられる。このほか、ラ米や資源国の経済も、世界経済の回復に伴う資源需要の増加などを背景に、成長を続けるとみられる。

新興国経済を巡っては、先進国経済の下振れや国際金融市場の動揺を通じた景気の下振れリスクがある。一方、アジアやラ米、資源国においては、利上げの動きが続いているものの、経済活動水準の高まりや海外からの資金流入基調を勘案すると、全体として金融環境はなお緩和的な状況にあるとみることもできる。このため、短期的には景気の過熱リスクが高まり、中長期的には景気振幅の拡大から持続的成長を損なうリスクも高まっていくと考えられる。

物価に関しては、先進国では、大きくマイナス方向に開いた需給ギャップは縮小していくとみられるが、その縮小ペースは緩やかであり、デフインフレ圧力はなお作用し続けるとみられる。一方、新興国では、高めの成長を維持するもとの、生産要素の稼働水準がさらに高まっていく可能性があるほか、国際商品市況の上昇による食料品・原材料価格の上昇やマネーの高い伸びが、インフレ圧力を高めていくとみられる。そうしたインフレ圧力の高まりは、実質所得や実質金利の変動を通して家計支出の変動を大きくするほか、企業に対しては、部品の前倒し調達や在庫積み増しから当面の生産を押し上げ、その後の調整圧力を高める可能性も考えられる。

2. 米国の経済・金融動向

2-1. 米国の実体経済（図表4）

○ 米国経済は、緩やかな回復を続けている。

—— 7～9月の実質GDP（第2回推計値）は、前期比年率+2.5%となり、4～6月（同+1.7%）に比べ伸びを幾分拡大させた。伸び率拡大の主な要因は、個人消費と在庫投資のプラス寄与拡大と、輸入の伸び率縮小に伴う純輸出のマイナス寄与縮小である。この間、最終需要は、1%前後の伸びが続いている（4～6月前期比年率+0.9%→7～9月同+1.2%）。

○ 個人消費は、緩やかに増加している。

- 実質個人消費は、緩やかに増加している（7～9 月前期比+0.7%→10 月の 7～9 月対比+0.5%）。実質可処分所得は増加を続けているが（同+0.2%→+0.2%）、雇用環境の改善が捗々しくないことから、所得の増加テンポは緩やかなものに止まっている。貯蓄率は、横ばい圏内で推移している（7～9 月 5.8%→10 月 5.7%）。
- 小売売上高（名目、除く自動車・ガソリン・建築資材）は、緩やかに増加している（7～9 月前期比+1.0%→10～11 月の 7～9 月対比+1.7%）。
- 新車販売台数は、緩やかに増加を続けており、足もとでは年率 1,200 万台となっている（7～9 月 1,179 万台→10～11 月 1,243 万台）。
- 消費者コンフィデンス（コンファレンス・ボード指数）は、9 月以降の株価上昇などを背景に、先行きの景気に対する見方が改善したことから、足もと幾分上昇している（10 月 49.9→11 月 54.1）。もっとも、昨年央以降の動きを均してみれば、横ばい圏内の動きに止まっている。

○ 住宅販売は、中古・新築ともに低水準での動きが続いている。低調な需要動向のもとで、住宅価格は弱含み、住宅着工も弱い動きが続いている。

- 住宅販売件数についてみると、新築一戸建て販売は、住宅減税の期限切れから減少した後、回復しないまま低水準の動きが続いている（7～9 月前期比▲13.9%→10 月の 7～9 月対比▲2.0%）。中古販売は、足もと幾分増加しているが、依然低水準に止まっている（同▲25.3%→+6.4%）。
- 住宅着工件数は、弱い動きが続いている（7～9 月前期比▲3.0%→10 月の 7～9 月対比▲11.1%）。
- 在庫率については、新築は、横ばい圏内で推移している（7～9 月平均 8.6 か月分→10 月 8.6 か月分）。一方、中古は、足もと幾分低下しているが、水準は依然高い（同 11.7 か月分→10.5 か月分）。
- ケース・シラー住宅価格指数（10 大都市）は、弱含んでいる（8 月前月比▲0.3%→9 月同▲0.7%）¹。

○ 設備投資は、緩やかに増加している。

¹ FHFA 住宅価格指数は、住宅減税の期限切れなどを受け、足もと幾分下落している（4～6 月前期比+0.7%→7～9 月同▲1.6%）。

— 機械投資の動きを示す非国防資本財受注（除く航空機）は、振れを伴いつつも緩やかな増加傾向を続けている（7～9 月前期比+2.4%→10 月の 7～9 月対比▲1.6%）。一方、建設投資の動きを示す非居住用建設支出は、商業用不動産市場の低迷などを背景に減少を続けている（7～9 月前期比▲5.6%→10 月の 7～9 月対比▲0.4%）。

○ 財・サービス貿易収支の赤字幅は、縮小している。

— 財・サービス貿易収支の赤字幅は、足もと縮小している（7～9 月▲448 億ドル→10 月▲387 億ドル）。輸出は資本財や自動車関連を中心に増加している一方、輸入は足もと横ばい圏内の動きとなっている。

○ 製造業の生産は、緩やかな増加基調をたどっている。非製造業の生産も、緩やかに増加している。

— 鉱工業生産は、足もと横ばいの動きとなっているが、均してみれば増加傾向を続けている（7～9 月前期比+1.3%→10 月の 7～9 月対比▲0.0%）。10 月の内訳をみると、エネルギー関連（電力）が、7～9 月の猛暑による反動から減少しているが、素材関連や消費財などでは緩やかに増加している。

— ISM 指数・製造業は、4～6 月から 7～9 月にかけて低下した後、50 台半ばの水準で推移している（4～6 月 58.8→7～9 月 55.4→10～11 月 56.8）。内訳をみると、夏場に低下した新規受注が改善している。ISM 指数・非製造業についても、新規受注や雇用の改善から、緩やかに上昇している（7～9 月 53.0→10～11 月 54.7）。

○ 労働市場では、雇用者数が持ち直しているものの、失業率はなお高水準横ばい圏内で推移している。

— 非農業部門の雇用者数をみると、政府部門の変動から、やや振れが大きくなっているが、均してみれば、緩やかながら増加している（前月差：7～9 月平均▲3.0 万人→10～11 月同+10.6 万人）。民間部門の雇用者数を均してみると、月当たり 10 万人強の増加が続いている（同 12.4 万人→10.5 万人）。業種別には、製造業が小幅減少する一方、サービス業（人材派遣、医療）が増加している。

— 新規失業保険申請件数（12 月 4 日週まで）は、8 月以降、緩やかな減少傾向にあり、足もとは 40 万人台前半の水準となっている。

— 失業率は、高水準横ばい圏内の動きとなっている（10 月 9.6%→11 月

9.8%)。

— 時間当たり賃金（全労働者ベース）の前年比は、緩やかな低下傾向をたどっている（4～6月+1.8%→7～9月+1.7%→10～11月+1.7%）。

○ 物価についてみると、緩和的な需給環境やユニット・レーバー・コストの低下が、デフインフレ圧力となって引き続き作用しており、コアベースのインフレ率は徐々に低下している。

— コアベースの消費者物価の前年比は、緩やかな低下傾向を続けている（7～9月+0.9%→10月+0.6%）。一方、総合ベースの前年比は、エネルギー価格のプラス寄与拡大から、横ばい圏内で推移している（同+1.2%→+1.2%）。

— ユニット・レーバー・コスト（非農業部門）は、引き続き低下している（4～6月前年比▲1.9%→7～9月同▲1.1%）。

2-2. 米国の金融市場（図表5）

○ 株価は、中国の追加利上げ懸念や欧州信用不安の影響などから下落する局面もみられたが、米国経済の先行き見通しの改善などを材料に反発し、前回会合対比では横ばい圏内の動きとなった。一方、長期金利は、経済見通しが改善する中で、FRBによる追加緩和期待の後退や米国政府の追加景気刺激策に伴う国債需給の悪化懸念もあって、前回会合以降大幅に上昇した。

○ 銀行間市場では、ターム物金利が横ばい圏内で推移した。また、クレジット市場では、高格付け社債の対国債スプレッドが低位で推移する中、低格付け社債のスプレッドは、幾分縮小した。

○ 企業の資金調達環境をみると、資本市場調達の面では、IPOが、件数ベースで2009年初をボトムに緩やかな増加基調を辿っており、足もとは、2007年秋以来の水準となっている。また、11月には、一部大手企業の大規模公開実施から、金額ベースでも大幅に増加した。社債発行（含む金融）も、低金利に伴う良好な発行環境を受け、引き続き高水準で推移している。この間、銀行貸出残高は、全体として縮小傾向を続けているが、縮小ペースは和らいでいる²。

² 統計上は、3月と4月の計数について、前年比マイナス幅が大きく縮小しているが、これは、会計基準の変更に伴い、オフバランス化の要件が厳格化され、貸出資産のオンバランス化が生じた影響によるものである。

3. 欧州の経済・金融動向

3-1. 欧州の実体経済（図表6）

（1）ユーロエリア経済

- ユーロエリア経済は、国ごとのばらつきを伴いながらも、全体としてみれば、緩やかに回復している。
 - 7～9月のユーロエリアの実質 GDP（1次推計値）は、前期比年率+1.5%となり、4～6月（同+4.0%）対比伸び率は低下した。前期からの伸び率低下の主な要因は、総固定資本形成と在庫投資のプラス寄与の縮小である。この間、個人消費や純輸出のプラス寄与は前期並みとなった。
 - 7～9月のドイツの実質 GDP（確報値）は、前期比年率+2.8%となり、高い伸びとなった4～6月（同+9.5%）対比伸び率は低下した。
 - 7～9月のフランスの実質 GDP（速報値）は、前期比年率+1.4%となり、4～6月（同+2.7%）対比伸び率は低下した。
 - 周辺国の7～9月の実質 GDP をみると、ギリシャは大幅なマイナス成長、スペインは横ばい、ポルトガルは小幅なプラス成長に止まるなど、ドイツなど主要国との成長格差が開いている（ギリシャ：前期比年率▲5.0%、スペイン：同+0.1%、ポルトガル：同+1.1%）。
- 輸出は、減速しつつも増加を続けている。
 - ユーロエリアの域外輸出は、減速しつつも、幅広い地域向けに増加を続けている（4～6月前期比+6.5%→7～9月同+4.4%）。
 - ユーロエリアの製造業輸出受注 PMIは、足もと幾分上昇している（7～9月54.1→10～11月54.8）。
- 個人消費は、緩やかに増加している。設備投資も、機械投資を中心に持ち直している。
 - ユーロエリアの小売売上数量（自動車を除く）は、緩やかに増加している（7～9月前期比+0.6%→10月の7～9月対比+0.4%）。
 - ユーロエリアの消費者コンフィデンスは、緩やかに改善している（7～9月▲12→10～11月▲10）。ただし、国ごとのばらつきが大きく、ドイツが金融危機前の2007年5月の既往ピークを更新した一方、緊縮財政による下押し圧力のかかる周辺国では低迷した状況が続いている。

—— ユーロエリアの新車登録台数は、自動車購入促進策の終了以降、低水準横ばい圏内の動きとなっている（4～6 月前期比▲7.9%→7～9 月同▲0.2%→10 月の7～9 月対比▲3.5%）。

—— ドイツの国内投資財受注は、好調な輸出を受けて、自動車などを中心に緩やかに増加している（7～9 月前期比+0.7%→10 月の7～9 月対比+4.4%）。

○ 製造業の生産は、減速しつつも増加を続けている。非製造業の生産は、緩やかに増加している。

—— ユーロエリアの鉱工業生産は、減速しつつも、投資財などを中心に増加を続けている（7～9 月前期比+0.8%→10 月の7～9 月対比+0.5%）。

—— ユーロエリアの PMI をみると、製造業は、7～9 月に減速したが、足もとは横ばい圏内の動きとなっている（4～6 月 56.4→7～9 月 55.2→10～11 月 55.0）。サービス業も横ばい圏内で推移している（7～9 月 55.2→10～11 月 54.4）³。

○ 消費者物価の前年比（コアベース）は、既往のユーロ安や国際商品市況上昇の影響を受けて、プラス幅を幾分拡大させているが、緩和的な需給環境や賃金の伸び鈍化は、引き続きディスインフレ圧力として作用している。

—— ユーロエリアの失業率は、高水準横ばいの動きとなった（7～9 月 10.0%→10 月 10.1%）。国別にみると、ドイツ、フランスで小幅低下したが、スペインやアイルランドでは上昇している。

—— 消費者物価の前年比は、足もとプラス幅が小幅に拡大している（総合：7～9 月+1.7%→10～11 月+1.9%、コア：7～9 月+1.0%→10 月+1.1%）。

（2）英国経済

○ 英国経済は、緩やかに回復している。輸出や生産が減速しつつも増加を続け、個人消費は持ち直している。

—— 7～9 月の実質 GDP（1次推計値）は、前期比年率+3.1%となった。4～6 月（同+4.7%）に比べ、伸び率は低下した。需要項目別の内訳をみると、純輸出がプラス寄与に転じた一方、個人消費と在庫投資のプラス寄与が縮小した。

—— 輸出は、海外経済の減速を受け、増加テンポが鈍化している（7～9 月前期比+1.2%→10 月の7～9 月対比+1.0%）。もともと、製造業輸出受注 PMI をみると、足もと上昇に転じており（9 月 49.0→10 月 55.3→11 月 56.9）、輸出

³ ここでのサービス業の調査対象には金融仲介業（金融機関）も含まれる。

の増加ペースは回復しているとみられる。

- 鉱工業生産は、輸出の増勢鈍化を受け、減速している（7～9 月前期比+0.5%→10 月の7～9 月対比+0.1%）。もっとも、製造業 PMIをみると、足もと上昇に転じており（9 月 53.8→10 月 55.4→11 月 58.0）、生産の増加ペースは回復しているとみられる。サービス業 PMIは、横ばい圏内で推移している（同 52.8→53.2→53.0）。
- 小売売上数量は、減速しつつも、緩やかな増加基調を続けている（7～9 月前期比+0.9%→10 月の7～9 月対比+0.0%）。一方、新車登録台数は、自動車購入促進策の終了以降、低水準横ばい圏内の動きとなっている。消費者コンフィデンスは、横ばい圏内で推移している（7～9 月▲20→10～11 月▲20）。
- 住宅ローン承認件数は、再び弱めの動きとなっている（7～9 月前期比▲3.0%→10 月の7～9 月対比▲1.2%）。住宅価格（ネーションワイド指数）は、需給が再び緩む中、弱含んでいる（7～9 月前期比▲1.0%→10～11 月の7～9 月対比▲1.2%）。
- 失業率（失業保険ベース）は、横ばいとなっている（7～9 月 4.5%→10 月 4.5%）。
- 消費者物価の前年比は、インフレーション・ターゲット（2%）を上回る3%台の推移が続いている（9 月+3.1%→10 月+3.2%→11 月+3.3%）。これは、既往のポンド安や VAT 税率引き上げ、最近では国際商品市況の上昇が影響したものであり、緩和的な需給環境はディスインフレ圧力として作用している。

3-2. 欧州の金融市場（図表7）

- 株価は、周辺国の信用不安の再燃などを背景に下落する局面もみられたが、自動車等輸出関連企業の増益期待などから買い戻され、前回会合対比では横ばい圏内の動きとなった。長期金利は、独英では、周辺国の信用不安に伴う質への逃避が押し下げ要因となったが、米国金利上昇に連れて、大幅に上昇した。周辺国の国債利回りの対独スプレッドは、大幅に拡大した後、EU の支援決定や ECB による固定金利・全額供給方式オペの継続決定などを受け縮小するも、依然高水準で推移するなど不安定な状況が続いている。この間、銀行間市場では、ターム物金利（ユーロ建て）は、ECB が流動性を潤沢に供給していることから、横ばい圏内の動きとなっている。

- 資金調達動向をみると、銀行貸出残高の伸びは低迷しているが、企業向け貸出の縮小ペースは和らいでいる。

4. エマージング諸国・地域の経済・金融動向

4-1. アジア諸国・地域の実体経済（図表8）

(1) 中国経済

- 中国経済は、高めの成長を続けている。個人消費は、家計の所得水準の向上などを背景に、堅調に推移しているほか、固定資産投資も、高い伸びを続けている。輸出も増加基調をたどり、生産の増加ペースは再び高まっている。こうした中、生産要素の稼働水準の高まりやマネーの高い伸び、国際商品市況の上昇などを受けて、幅広い財でインフレ率が上昇している。

—— 工業生産は、自動車生産の拡大などを受けて、足もとでは伸び率が拡大している（7～9月前期比+1.9%→10～11月の7～9月対比+3.7%）。

—— 製造業 PMIは、4か月連続で上昇し、足もとは減速前の1～3月の水準近傍まで回復している（9月53.8→10月54.7→11月55.2）。項目別にみると、自動車など国内需要が拡大していることに加え、物価上昇期待の高まりを受けた一部企業における原材料・部品の前倒し調達の動きもあって、新規受注、購入価格、在庫、生産が上昇している。

—— 小売売上は、高めの伸びを続けている（7～9月前年比+18.4%→10～11月同+18.7%）。ただし、CPIインフレ率が上昇していることから、実質ベースではやや減速していると考えられる。自動車販売は、6月に導入された自動車購入促進策の影響もあって、増加している（7～9月137万台→10～11月162万台）。

—— 固定資産投資については、9月末に強化された不動産取引抑制策の影響が一部にみられるが、民間設備投資やインフラ関連投資が増加を続けているほか、公共住宅の建設増加もあって、前年比20%台半ばの高い伸びを続けている（7～9月前年比+23.1%→10～11月同+26.4%）。

—— 輸出は、増加基調を続けている（7～9月前期比+0.4%→10～11月の7～9月対比+6.0%）。足もとの伸び拡大には、輸出価格の上昇も寄与しているとみられる。輸入は、工業生産の伸び拡大や輸入物価の上昇を受け、増加に転じている（同▲1.2%→+10.8%）。

—— 消費者物価の前年比は、プラス幅を拡大し、足もとは5%台に達している

(9月+3.6%→10月+4.4%→11月+5.1%)。内訳をみると、ウェイトの大きい食料品のプラス寄与が目立つ姿となっているが、他の品目も含め幅広い財で上昇幅を高めている。

—— M2 と貸出の前年比は、20%弱の高い伸びが続いている (M2: 9月+19.0%→10月+19.3%→11月+19.5%、貸出: 同+18.5%→+19.3%→+19.8%)。

(2) インド経済

○ インド経済は、高めの成長を続けている。

—— 7~9月の実質 GDPは、4~6月と同水準の前年比+8.9%となり、高めの伸びを続けている。需要項目別に内訳をみると、個人消費が高い伸びとなっている。

—— 鉱工業生産は、増加傾向をたどっている (7~9月前期比+1.9%→10月の7~9月対比+1.8%)。

—— 卸売物価についてみると、昨年11月に天候要因で食料品価格が上昇したことの反動から、前年比のプラス幅が縮小したが、なお、高い伸びを続けている (9月+8.9%→10月+8.6%→11月+7.5%)。

—— M3 と貸出の前年比は高い伸びを続けている (M3: 9月+14.7%→10月+17.1%→11月+16.5%、貸出: 8月+19.5%→9月+19.2%→10月+22.0%)。

(3) NIEs・ASEAN 経済

○ NIEs・ASEAN 経済は、輸出や生産の増勢鈍化から減速しているが、個人消費や設備投資は増加を続けており、全体として回復基調をたどっている。

—— 7~9月の実質 GDPは、全体では6期連続のプラス成長となったが、伸び率は低下した (4~6月前期比年率+5.5%→7~9月同+0.4%)。内訳をみると、輸出のプラス寄与が縮小し、在庫投資がマイナスに寄与した。個人消費や総固定資本形成のプラス寄与も幾分縮小したが、堅調な伸びを続けている。

—— NIEs・ASEAN の輸出合成指数は、7~9月にかけて増勢が鈍化した後、足もととは中国向けを中心に幾分伸びを高めている (4~6月前期比+5.6%→7~9月同+0.5%→10月の7~9月対比+5.3%)⁴。また、韓国や台湾の輸出受注 PMI をみても、足もと改善している。

⁴ 輸出合成指数は、NIEs・ASEAN8 各国・地域 (韓国、台湾、シンガポール、香港、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン) の輸出金額を合算したもの (国際局試算、対外非公表)。

—— 内需関連指標をみると、韓国では、小売数量指数、機械投資推計指数ともに、均してみれば増加基調にあるほか、消費者信頼感指数も高水準で推移している。台湾では、小売指数が高めの伸びを続け、消費者コンフィデンスも高水準となっている。また、タイでは、民間消費指数、民間投資指数ともに、均してみると増加している。

—— NIEs・ASEANの生産合成指数は、過去1年間の輸出や在庫投資の急回復の反動もあって、足もとは横ばい圏内の動きとなっている（7～9月前期比▲1.2%→10月の7～9月対比▲1.1%）⁵。もっとも、在庫調整圧力を全体として溜めこんでいないほか、内需も堅調に推移していることから、生産の増加基調は途切れていないと考えられる。実際、韓国の企業景気実査指数をみると、内外需の改善などから2か月連続で上昇している（9月100.9→10月105.5→11月107.0）ほか、韓国、台湾、シンガポールの製造業PMIも、足もとは上昇に転じ、改善・悪化の分岐点となる50近傍まで回復している。

○ 消費者物価（総合ベース）をみると、本年入り後、前年比のプラス幅は全体として横ばい圏内で推移している。通貨高による輸入物価の上昇抑制がインフレ上昇を防いでいるが、国際商品市況の上昇を受けた食料品・原材料の価格上昇や内需の増加による需給の逼迫化が、インフレ圧力を徐々に強めてきている。

4-2. エマージング諸国・地域の金融市場（図表9）

○ エマージング諸国・地域の金融市場をみると、株価、通貨ともに、中国の追加利上げ懸念や欧州信用不安の影響などから、下落する局面もみられたが、良好なファンダメンタルズを背景に、総じて高値圏内で推移している。国債金利の対米スプレッドは、新興国市場への資金の流入基調が続く中、横ばい圏内で推移した。もっとも、新興国におけるインフレ圧力が徐々に高まっていることもあって、ごく足もとでは、債券市場への資金流入が鈍化している。

—— この間、国際商品市況は、11月にいったん下落したが、新興国需要が増加基調をたどる中、投機的な動きも加わって反発し、全体として高水準で推移した。

○ 個別のエマージング金融市場の動きで目立ったものは以下の通り。

—— 中国ではインフレ懸念が高まっている。こうした中、人民銀行は、10月19

⁵ 生産合成指数は、NIEs・ASEAN6 各国・地域（香港、インドネシアについては利用可能な統計がない）の生産指数を各国GDPウェイトで加重平均したもの（国際局試算、対外非公表）。

日の利上げに続いて、11月以降、預金準備率を3度に亘って引き上げたほか、政府も、来年の金融政策の運営方針を「適度に緩和した金融政策」から「穏健な金融政策」に変更することを決めた。これを受けて、株価は下落した。この間、人民元（対ドルレート）は横ばいとなっている。

- 韓国では、インフレ圧力抑制を目的に、11月16日に利上げを実施した（7日物レポレート：2.25%→2.50%）。利上げは7月以来。
- タイでは、金融緩和政策の修正を目的に、12月1日に利上げを実施した（1日物レポレート：1.75%→2.00%）。利上げは8月以来。
- チリでは、インフレ圧力抑制を目的に、11月16日に利上げを実施した（2.75%→3.00%）。利上げは6月以降、6か月連続。
- ハンガリーでは、通貨下落などに伴うインフレ圧力を抑制するため、11月29日に利上げを実施した（5.25%→5.50%）。4月の利下げ後7か月ぶり。

以上

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配付先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2040年12月>

2010.12.15

国際局

「海外経済・国際金融の現状評価」参考計表

(図表1)	米国の主要経済指標	1
(図表2)	欧州の主要経済指標	2～3
(図表3)	アジア諸国・地域の主要経済指標	4～6
(図表4)	米国の実体経済	7～13
(図表5)	米国の金融市場	14～19
(図表6)	欧州の実体経済	20～25
(図表7)	欧州の金融市場	26～29
(図表8)	アジア諸国・地域の实体経済	30～37
(図表9)	エマージング諸国・地域の金融市場	38～44
(図表10)	国際機関及び民間の海外経済・物価見通し	45

(図表1)

米国の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(11月4日)以降に判明したもの。

	2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/8月	9月	10月	11月
1. 実質GDP <前期比年率、%>	0.0	▲ 2.6	1.7	1.7	2.6				
2. 実質可処分所得 <前期比、%>	1.7	0.6	1.4	0.2	0.2	0.3	▲ 0.2	▲ 0.3	
3. 実質個人消費 <前期比、%>	▲ 0.3	▲ 1.2	0.5	0.7	0.5	0.3	0.2	0.3	
4. 家計貯蓄率 <対可処分所得比、%>	4.1	5.9	6.2	5.8	5.7	5.9	5.6	5.7	
5. 小売売上高 (除く自動車、ガソリン、建築資材) <前期比、%>	2.0	▲ 0.9	0.4	1.0	1.7	0.9	0.6	0.5	0.9
6. 自動車販売 (年率、万台) <前期比、%>	1,349	1,060	1,154	1,179	1,243	1,165	1,194	1,243	1,246
	▲ 18.0	▲ 21.4	3.1	2.1	5.5	▲ 0.9	2.4	4.1	0.1
7. 消費者コンフィデンス指数	57.9	45.2	58.2	50.9	52.0	53.2	48.6	49.9	54.1
8. 住宅着工 (年率、千戸) <前期比、%>	906	554	602	584	519	614	588	519	519
	▲ 33.2	▲ 38.8	▲ 2.4	▲ 3.0	▲ 11.1	11.6	▲ 4.2	▲ 11.7	
9. ケース・シー住宅価格指数(10大都市) <前期比、%> (前年比、%)	▲ 16.7	▲ 12.9	1.0	▲ 0.2		▲ 0.3	▲ 0.7		
			5.0	2.7		2.5	1.6		
10. 非国防資本財受注(除く航空機) <前期比、%> (前年比、%)	▲ 3.9	▲ 19.9	7.0	2.4	▲ 1.6	5.1	1.8	▲ 4.3	
			20.9	18.0	14.3	23.8	16.9	14.3	
11. 財・サービス貿易収支 (億ドル)	▲ 582.3	▲ 312.4	▲ 443.6	▲ 448.0	▲ 387.1	▲ 469.0	▲ 446.0	▲ 387.1	
12. ISM 製造業指数	45.5	46.2	58.8	55.4	56.8	56.3	54.4	56.9	56.6
非製造業指数	47.3	46.2	54.9	53.0	54.7	51.5	53.2	54.3	55.0
13. 鉱工業生産 <前期比、%> (前年比、%)	▲ 3.3	▲ 9.3	1.7	1.3	▲ 0.0	0.2	▲ 0.2	0.0	
			7.8	6.6	5.7	6.6	5.7	5.7	
14. 失業率 (除く軍人、%)	5.8	9.3	9.7	9.6	9.7	9.6	9.6	9.6	9.8
15. 非農業部門雇用者数 (増減数、千人/月) うち民間部門	▲ 302	▲ 395	190	▲ 30	106	▲ 1	▲ 24	172	39
	▲ 317	▲ 388	118	124	105	143	112	160	50
16. CPI <前期比、%> (前年比、%)			▲ 0.2	0.4	0.4	0.3	0.1	0.2	
	3.8	▲ 0.4	1.8	1.2	1.2	1.1	1.1	1.2	
コア<前期比、%> (前年比、%)			0.2	0.3	0.0	0.0	0.0	▲ 0.0	
	2.3	1.7	0.9	0.9	0.6	0.9	0.8	0.6	
17. 非農業部門労働生産性 <前期比年率、%> (前年比、%)	1.0	3.5	▲ 1.8	2.3	2.5				
			3.7	2.5					
18. ユニット・レーバー・コスト <前期比年率、%> (前年比、%)			4.9	▲ 0.1	1.1				
	2.2	▲ 1.6	▲ 1.9	▲ 1.1					

※ 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注) ・前期(月)比は季調済みベース。

・財・サービス貿易収支の年計数および四半期計数は月平均に換算。

・雇用者増減数(期末差)の年計数および四半期計数は月平均に換算。

・CPIコアは食料品、エネルギーを除いたベース。

ユーロエリアの主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(11月4日)以降に判明したもの。

※

	2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/8月	9月	10月	11月
1. 実質GDP <前期比年率、%>	0.4	▲4.1	4.0	1.5					
独 実質GDP <前期比年率、%>	1.0	▲4.7	9.5	2.8					
仏 実質GDP <前期比年率、%>	0.1	▲2.5	2.7	1.4					
2. 輸出 <前期比、%>			6.5	4.4		0.6	0.6		
(前年比、%)	3.9	▲18.1	22.3	22.6		29.8	22.2		
3. 製造業PMI 輸出受注指数	45.1	43.6	57.9	54.1	54.8	54.4	52.6	54.9	54.6
4. 独 国内投資財受注 <前期比、%>			4.7	0.7	4.4	2.1	▲0.2	3.9	
(前年比、%)	▲6.9	▲19.6	16.5	7.9	19.5	8.7	14.8	19.5	
5. 輸入 <前期比、%>			8.8	3.2		1.8	▲2.5		
(前年比、%)	8.2	▲22.1	27.2	26.1		32.8	21.0		
6. 小売売上数量 <前期比、%>			0.1	0.6	0.4	▲0.1	▲0.1	0.5	
(前年比、%)	▲0.7	▲2.3	0.6	1.5	1.8	1.5	1.5	1.8	
7. 新車登録台数 (年率、万台)	1,075	1,111	986	984	949	992	1,023	949	
<前期比、%>	▲7.0	3.2	▲7.9	▲0.2	▲3.5	5.9	3.1	▲7.2	
8. 消費者コンフィデンス (DI、%)	▲18	▲25	▲17	▲12	▲10	▲11	▲11	▲11	▲9
9. 鉱工業生産 <前期比、%>			2.3	0.8	0.5	1.1	▲0.7	0.7	
(前年比、%)	▲1.8	▲14.9	9.0	6.9	6.9	8.4	5.4	6.9	
10. 製造業PMI	46.5	43.3	56.4	55.2	55.0	55.1	53.7	54.6	55.3
サービス業PMI 事業活動指数	48.5	46.8	55.8	55.2	54.4	55.9	54.1	53.3	55.4
11. 失業率 (%)	7.6	9.4	10.0	10.0	10.1	10.0	10.0	10.1	
12. 消費者物価 (前年比、%)	3.3	0.3	1.5	1.7	1.9	1.6	1.8	1.9	1.9
コア (前年比、%)	2.4	1.3	0.8	1.0	1.1	1.0	1.0	1.1	

※ 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(出所) 欧州委員会 (Eurostat)、ECB、Deutsche Bundesbank、Statistisches Bundesamt、INSEE、Thomson Reuters Datastream、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

- (注) ・ユーロエリアに関する計数・図表のうち、消費者物価・M3・貸出は各時期のユーロ構成国ベース。
 ・実質GDPの年率換算値は、当局計算による。なお、ユーロエリアとドイツの暦年の計数は、未季調ベース。
 ・前期(月)比は季調済みベース。
 ・消費者物価コアは、エネルギー、非加工食料品を除いたベース。
 ・PMIは、50を上回れば前月比改善、50を下回れば悪化。

(図表 2-2)

英国の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(11月4日)以降に判明したもの。

※

	2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/8月	9月	10月	11月
1. 実質GDP <前期比年率、%>	▲0.1	▲5.0	4.7	3.1					
2. 輸出 <前期比、%> (前年比、%)	1.3	▲12.3	5.4	1.2	1.0	▲1.0	0.3	2.2	
3. 製造業PMI 輸出受注指数	45.5	47.4	56.3	50.9	56.1	52.5	49.0	55.3	56.9
4. 小売売上数量 <前期比、%> (前年比、%)	1.7	1.0	1.5	0.9	0.0	▲0.4	▲0.5	0.5	
5. 消費者コンフィデンス (DI、%)	▲29	▲25	▲18	▲20	▲20	▲18	▲21	▲19	▲21
6. 鉱工業生産 <前期比、%> (前年比、%)	▲3.1	▲10.1	1.1	0.5	0.1	0.4	0.4	▲0.2	
7. 製造業PMI サービス業PMI 事業活動指数	44.9 47.6	46.5 51.3	57.6 55.0	54.7 52.4	56.7 53.1	54.1 51.3	53.8 52.8	55.4 53.2	58.0 53.0
8. 失業率(失業保険ベース) (%)	2.8	4.7	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
9. CPI (前年比、%)	3.6	2.2	3.4	3.1	3.2	3.1	3.1	3.2	3.3
10. 住宅価格(Nationwide指数) (前年比、%)	▲6.7	▲7.4	9.7	4.5	0.9	3.9	3.1	1.4	0.4

※直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(出所) ONS, Thomson Reuters Datastream, Bloomberg, Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

(注1) 実質GDPの年率換算値と、消費者コンフィデンスの季調値は、当局計算による。

(注2) 輸出は、数量ベース。

(注3) PMIは、50を上回れば前月比改善、50を下回れば悪化。

アジア諸国・地域の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(11月4日)以降に判明したもの。

1. 中国

(前年比、%)

	2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/9月	10月	11月
1. 実質GDP	9.6	9.1	10.3	9.6				
2. 工業生産 <>内は前期比	12.9	11.0	15.9 < 1.7 >	13.5 < 1.9 >	13.2 < 3.7 >	13.3 < 1.3 >	13.1 < 1.2 >	13.3 < 2.1 >
3. 製造業PMI*	50.2	52.9	53.9	52.2	55.0	53.8	54.7	55.2
4. 消費財小売売上総額	21.6	15.5	18.5	18.4	18.7	18.8	18.6	18.7
5. 固定資産投資	26.1	30.5	25.1	23.1	26.4	22.8	23.6	29.1
6. 輸出 <>内は前期比	17.4	▲ 16.0	40.9 < 7.1 >	32.2 < 0.4 >	29.0 < 6.0 >	25.1 < ▲ 3.6 >	22.9 < 6.1 >	34.9 < 6.9 >
7. 輸入 <>内は前期比	18.5	▲ 11.2	43.6 < ▲ 3.3 >	27.1 < ▲ 1.2 >	31.8 < 10.8 >	24.1 < ▲ 4.8 >	25.3 < 7.9 >	37.7 < 5.2 >
8. CPI	5.9	▲ 0.7	2.9	3.5	4.8	3.6	4.4	5.1
9. M2	17.8	27.7	18.5	19.0	19.5	19.0	19.3	19.5
10. 人民元貸出	18.7	31.7	18.2	18.5	19.8	18.5	19.3	19.8

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。M2、人民元貸出の年、四半期計数は期末月の前年比。

(注2) 工業生産、輸出入の季調値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注3) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。中国物流購買連合会が公表するデータを使用。

(注4) 固定資産投資は、都市部、当期の値。中国国家统计局が公表する年初来累計値と同前年比伸び率を用いて当局で試算。

2. インド

(前年比、%)

	2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/9月	10月	11月
1. 実質GDP <>内は季調済前期比年率	7.3	6.8	8.9 < 8.6 >	8.9 < 15.7 >				
個人消費	8.2	5.4	7.8 < 25.4 >	9.3 < 16.7 >				
総固定資本形成	5.7	4.6	19.0 < 8.8 >	11.1 < ▲ 10.8 >				
2. 鉱工業生産 <>内は前期比	4.8	6.6	11.9 < ▲ 0.9 >	8.7 < 1.9 >	10.8 < 1.8 >	4.4 < ▲ 1.2 >	10.8 < 4.9 >	
3. 製造業PMI*	55.5	52.8	57.8	56.7	57.8	55.1	57.2	58.4
雇用*	50.9	49.7	51.4	49.6	50.4	49.6	51.0	49.8
4. 卸売物価	8.7	2.1	10.6	9.3	8.0	8.9	8.6	7.5
5. M3	19.9	17.7	14.7	14.7	16.5	14.7	17.1	16.5
6. 貸出	23.2	12.3	20.8	19.2	22.0	19.2	22.0	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。M3、貸出の年、四半期計数は期末月の前年比。

(注2) 実質GDPの季調値は、X-11による当局算出値。鉱工業生産の季調値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注3) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(注4) 貸出は指定商業銀行ベース。

(出所) CEIC、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

(図表3-2)

3. NIEs、ASEAN諸国・地域

(1) 実質GDP

(季調済前期比年率、()内は前年比、%)

	2007年	2008年	2009年	2009/3Q	4Q	2010/1Q	2Q	3Q
韓国	5.1	2.3	0.2	13.4 (1.0)	0.7 (6.0)	8.8 (8.1)	5.8 (7.2)	3.0 (4.4)
台湾	6.0	0.7	▲ 1.9	11.8 (▲ 1.2)	18.4 (9.2)	17.3 (13.6)	1.9 (12.9)	0.1 (- 9.8)
香港	6.4	2.2	▲ 2.8	1.4 (▲ 2.4)	9.8 (2.5)	8.9 (8.0)	5.7 (6.5)	2.9 (6.8)
シンガポール	8.5	1.8	▲ 1.3	11.1 (1.8)	▲ 1.0 (3.8)	45.6 (16.9)	27.3 (19.5)	▲ 18.7 (10.6)
タイ	5.0	2.5	▲ 2.3	8.5 (▲ 2.8)	15.9 (5.9)	15.1 (12.0)	▲ 2.3 (9.2)	▲ 0.9 (6.7)
インドネシア	6.3	6.0	4.5	5.4 (4.2)	7.4 (5.4)	5.4 (5.7)	6.6 (6.2)	3.8 (5.8)
マレーシア	6.5	4.7	▲ 1.7	11.1 (▲ 1.2)	12.6 (4.4)	5.7 (10.1)	6.1 (8.9)	▲ 2.8 (5.3)
フィリピン	7.1	3.7	1.1	3.6 (0.2)	6.6 (2.1)	15.6 (7.8)	5.6 (8.2)	▲ 1.9 (6.5)

(注1) 季節調整値は、韓国、台湾、香港、シンガポール、タイ、フィリピンが現地統計。その他はX-11による当局算出値。

(注2) 実質GDPの年率換算値は、当局計算による。

(2) 輸出

(名目ドルベース、季調済前期比、()内は前年比、%)

	2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/9月	10月	11月
輸出合成指数	11.4	▲ 17.5	5.6	0.5	5.3			
うちIT関連寄与度	▲ 0.4	▲ 4.4	1.3	0.0	0.8			
韓国 <30.9>	13.6	▲ 13.9	8.0 (33.1)	0.1 (23.6)	4.7 (24.5)	0.1 (16.2)	10.3 (27.5)	▲ 9.0 (21.5)
台湾 <17.3>	3.6	▲ 20.3	7.5 (46.2)	▲ 1.4 (27.1)	0.4 (21.9)	▲ 1.6 (17.5)	0.9 (21.9)	4.2 (21.8)
タイ <12.9>	15.5	▲ 14.3	7.6 (41.5)	▲ 4.2 (21.9)	3.6 (15.6)	3.4 (21.2)	▲ 7.0 (15.6)	
インドネシア <9.9>	20.1	▲ 15.0	▲ 2.9 (36.8)	▲ 0.4 (27.7)	11.2 (16.1)	▲ 9.3 (23.8)	15.4 (16.1)	

(参考) 新規輸出受注PMI*

	2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/9月	10月	11月
韓国	48.3	50.8	55.6	51.2	48.5	50.7	46.2	50.9
台湾	43.1	53.9	57.9	47.3	48.9	45.3	46.9	50.9

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 合成指数は、直近は10月の値。公表のタイミングが遅い一部データは、前月の前年比で横置きしている。

(注3) 輸出の季節調整値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注4) 輸出の< >内は、合成指数に占めるシェア(%)、2009年)。

(注5) 輸出、輸出合成指数はともに金額ベース。

(注6) 合成指数のIT関連は、標準国際貿易分類における、事務機器、データ処理機械、通信機器、音響機器、電気機械、家電製品、光学機器などの項目、また他分類ではこれらに該当する項目で定義。

(注7) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(出所) CEIC, Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

(図表3-3)

(3) 生産関連

(季調済前期比、()内は前年比、%)

		2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/9月	10月	11月
生産合成指数		1.7	▲ 4.6	4.2	▲ 1.2	▲ 1.1			
うちIT関連寄与度		1.5	▲ 0.4	0.9	▲ 0.3	▲ 1.2			
韓国	鉱工業生産指数	3.4	▲ 0.8	5.0 (19.5)	2.1 (11.9)	▲ 4.8 (13.5)	▲ 0.4 (3.9)	▲ 4.2 (13.5)	
	企業景気実査指数† (季調済)	81.9	93.5	103.0	103.4	106.3	100.9	105.5	107.0
台湾	鉱工業生産指数	▲ 1.8	▲ 8.1	▲ 0.0 (29.1)	▲ 0.7 (18.8)	2.4 (14.4)	▲ 2.9 (12.2)	▲ 4.1 (14.4)	
タイ	製造業生産指数	3.9	▲ 7.2	▲ 0.2 (17.6)	▲ 2.7 (9.8)	0.5 (6.2)	3.6 (8.1)	▲ 0.7 (6.2)	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 合成指数は、直近は10月の値。公表のタイミングが遅い一部データは、前月の値で横置きしている。

(注3) 生産指数の季節調整値は、現地統計またはX-12-ARIMAによる当局算出値。

(注4) 生産、生産合成指数はともに数量ベース。

(注5) 合成指数のIT関連は、標準国際貿易分類における、事務機器、データ処理機械、通信機器、音響機器、電気機械、家電製品、光学機器などの項目、また他分類ではこれらに該当する項目で定義。

(注6) †印は、100を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(4) 内需関連

(季調済前期比、()内は前年比、%)

		2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/9月	10月	11月
韓国	小売数量指数	1.1	2.6	0.0 (4.9)	2.8 (7.3)	▲ 0.1 (4.2)	0.0 (4.4)	0.2 (4.2)	
	消費者信頼感指数†	90.8	103.5	111.0	110.3	109.0	109	108	110
	機械投資推計指数	0.7	▲ 8.2	6.0 (24.5)	7.1 (27.7)	▲ 9.8 (10.2)	▲ 3.5 (11.9)	▲ 9.5 (10.2)	
台湾	小売指数	▲ 4.3	2.4	(6.9)	(7.7)	(6.5)	(8.0)	(6.5)	
	消費者コンフィデンス†	58.7	54.5	77.5	79.5	80.9	80.1	80.2	81.7
タイ	民間消費指数(PCI)	3.6	▲ 2.5	1.1 (7.6)	0.4 (4.9)	▲ 1.8 (2.3)	▲ 0.4 (3.1)	▲ 1.2 (2.3)	
	民間投資指数(PII)	3.7	▲ 12.0	4.3 (20.7)	3.9 (21.8)	▲ 0.7 (17.4)	▲ 0.1 (20.1)	▲ 0.9 (17.4)	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) †印は、100を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(5) 消費者物価指数(CPI)

(前年比、%)

		2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/9月	10月	11月
韓国	()内はコア	4.7 (4.3)	2.8 (3.6)	2.6 (1.6)	2.9 (1.8)	3.7 (1.8)	3.6 (1.9)	4.1 (1.9)	3.3 (1.8)
台湾	()内はコア	3.5 (3.1)	▲ 0.9 (▲ 0.1)	1.1 (0.4)	0.4 (0.6)	1.0 (0.7)	0.3 (0.7)	0.6 (0.6)	1.5 (0.9)
タイ	()内はコア	5.5 (2.3)	▲ 0.8 (0.3)	3.2 (0.9)	3.3 (1.1)	2.8 (1.1)	3.0 (1.1)	2.8 (1.1)	2.8 (1.1)
インドネシア	()内はコア	9.8 (N/A)	4.8 (5.7)	4.4 (3.8)	6.2 (4.1)	6.0 (4.2)	5.8 (4.0)	5.7 (4.2)	6.3 (4.3)

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 韓国のCPIコアは、CPI総合から穀物以外の農産物、石油関連製品を控除。台湾のCPIコアは、CPI総合から生鮮食料品およびエネルギーを控除。タイのCPIコアは、CPI総合から非加工食品、エネルギーを控除。インドネシアのCPIコアは、CPI総合から、政府の規制価格の影響がある項目および生鮮食料品を控除。

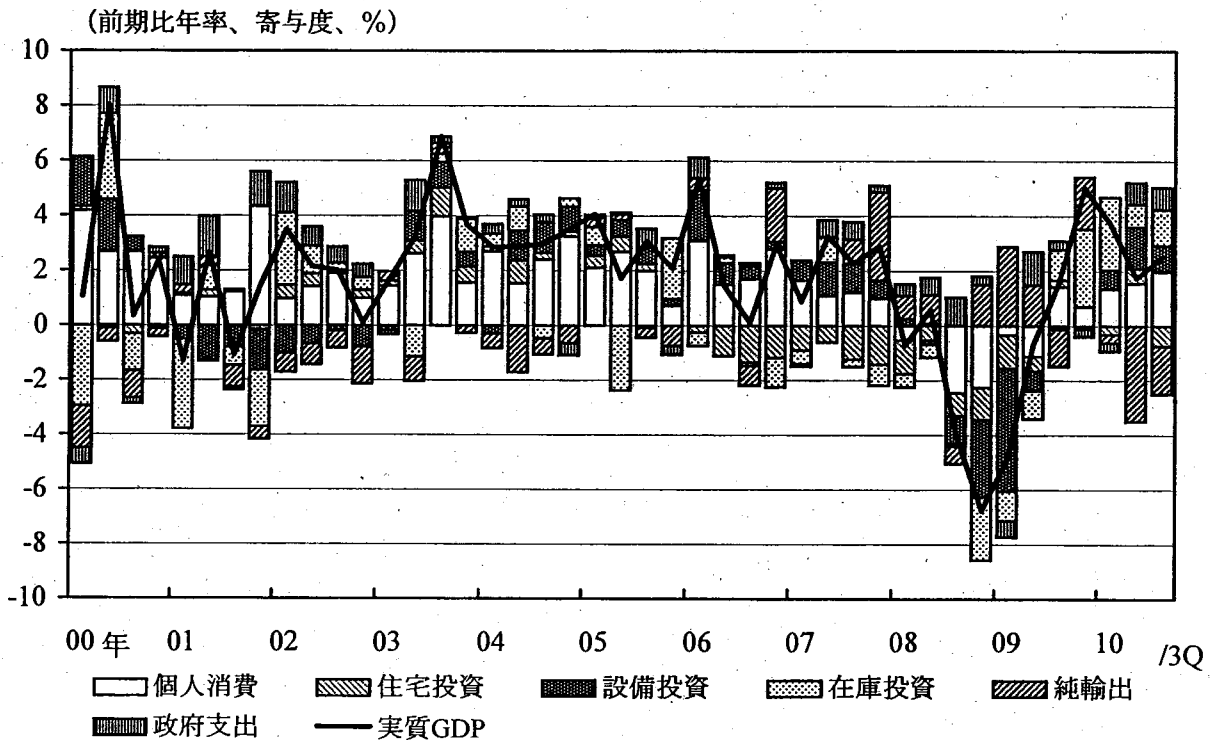
(注3) インドネシアは、2007年基準。CPIコアは、一部未公表。

(出所) CEIC

米国の実体経済

① 米国の実質GDP

(1) 実質GDPの需要項目別寄与度



(2) 需要項目別計数

実質・年率、% ()内は前期比増減、10億ドル

	2009年 ウェイト	前期比年率・寄与度					前期比年率				
		2009年	10/1Q	2Q	3Q	(改訂前)	2009年	10/1Q	2Q	3Q	(改訂前)
実質GDP	100	▲ 2.6	3.7	1.7	2.5	2.0	▲ 2.6	3.7	1.7	2.5	2.0
個人消費	71	▲ 0.8	1.3	1.5	2.0	1.8	▲ 1.2	1.9	2.2	2.8	2.6
住宅投資	2	▲ 0.7	▲ 0.3	0.6	▲ 0.8	▲ 0.8	▲ 22.9	▲ 12.3	25.7	▲ 27.5	▲ 29.1
設備投資	10	▲ 2.0	0.7	1.5	1.0	0.9	▲ 17.1	7.8	17.2	10.3	9.7
在庫投資	▲ 1	▲ 0.6	2.6	0.8	1.3	1.4	(▲ 75.5)	(80.8)	(24.7)	(42.7)	(46.7)
純輸出	▲ 3	1.1	▲ 0.3	▲ 3.5	▲ 1.8	▲ 2.0	(141.1)	(▲ 8.3)	(▲ 110.6)	(▲ 57.7)	(▲ 65.9)
輸出	11	▲ 1.2	1.3	1.1	0.8	0.6	▲ 9.5	11.4	9.1	6.3	5.0
輸入	14	2.3	▲ 1.6	▲ 4.6	▲ 2.5	▲ 2.6	▲ 13.8	11.2	33.5	16.8	17.4
政府支出	21	0.3	▲ 0.3	0.8	0.8	0.7	1.6	▲ 1.6	3.9	4.0	3.4
最終需要	101	▲ 2.1	1.1	0.9	1.2	0.6	▲ 2.1	1.1	0.9	1.2	0.6

%

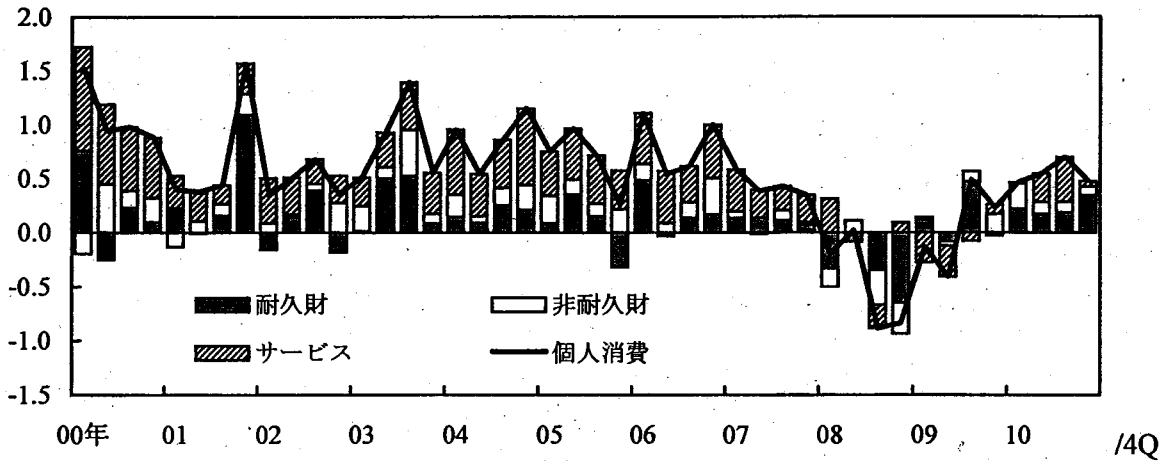
個人消費デフレーター	前年比					前期比年率				
	2009年	10/1Q	2Q	3Q	(改訂前)	2009年	10/1Q	2Q	3Q	(改訂前)
総合	0.2	2.4	1.9	1.4	1.4	0.2	2.1	0.0	1.0	1.0
コア	1.5	1.8	1.5	1.3	1.3	1.5	1.2	1.0	0.8	0.8

(注) 最終需要は、実質GDPから在庫投資を除いたもの。

② 米国の個人消費関連

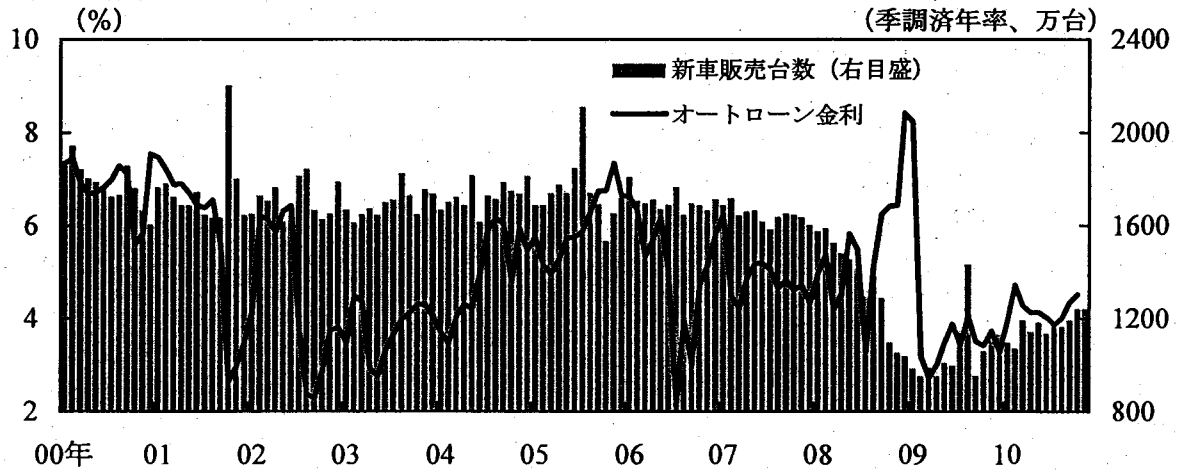
(図表4-2)

(1) 実質個人消費
(前期比、寄与度、%)



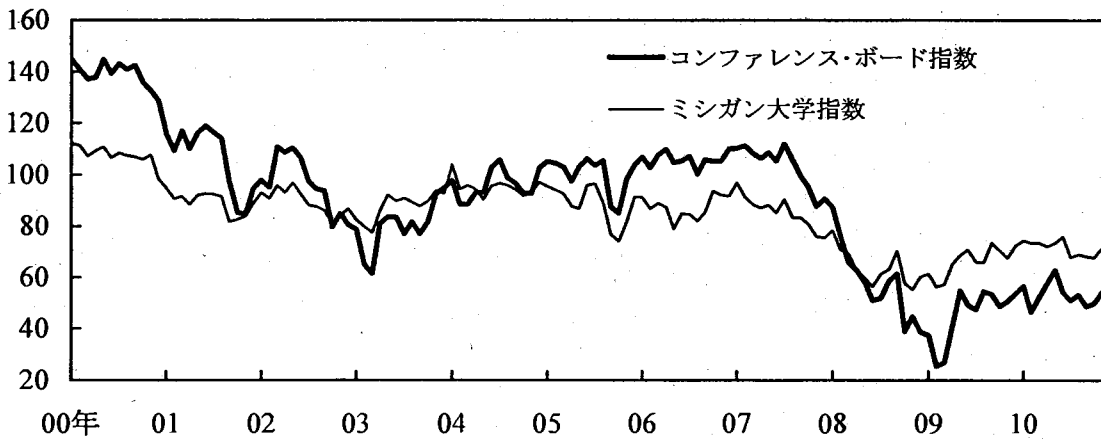
(注) 2010/4Qは10月の値。

(2) 自動車販売
(%)



(注) 直近は、新車販売台数が11月、オートローン金利が10月。

(3) 消費者コンフィデンス



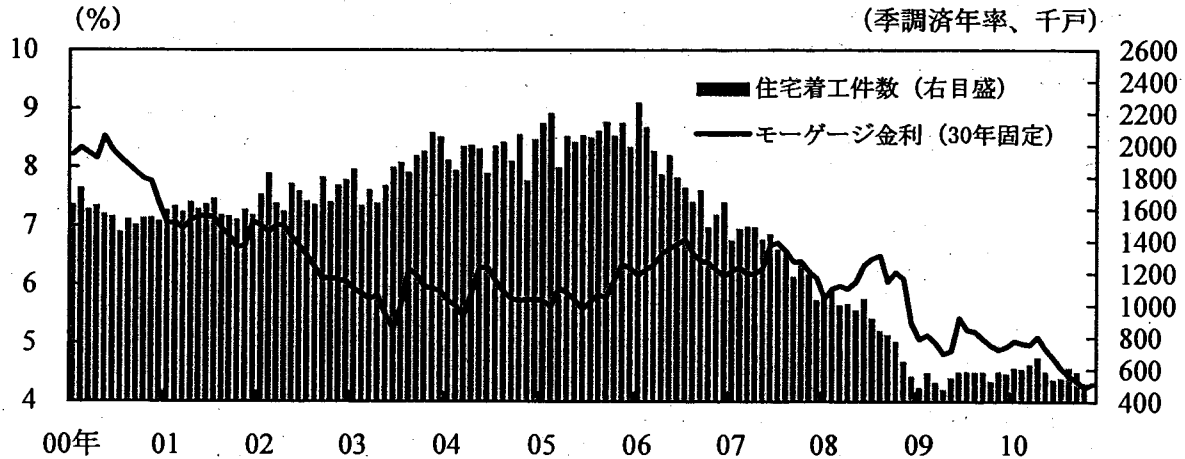
(注1) コンファレンス・ボード指数は1985年=100、ミシガン大学指数は1966/1Q=100。

(注2) 直近は、コンファレンス・ボード指数が11月、ミシガン大学指数が12月。

③ 米国の住宅投資

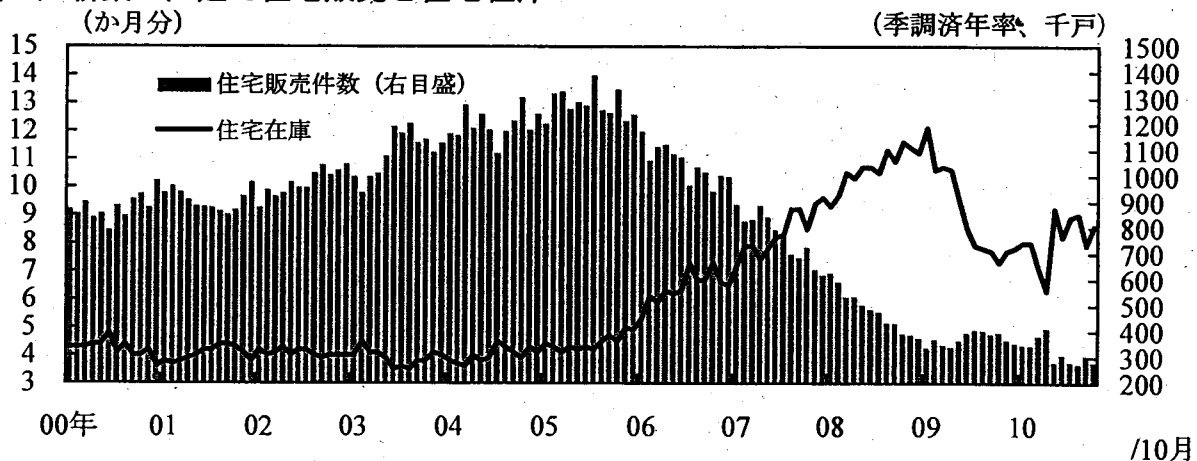
(図表4-3)

(1) モーゲージ金利と住宅着工件数



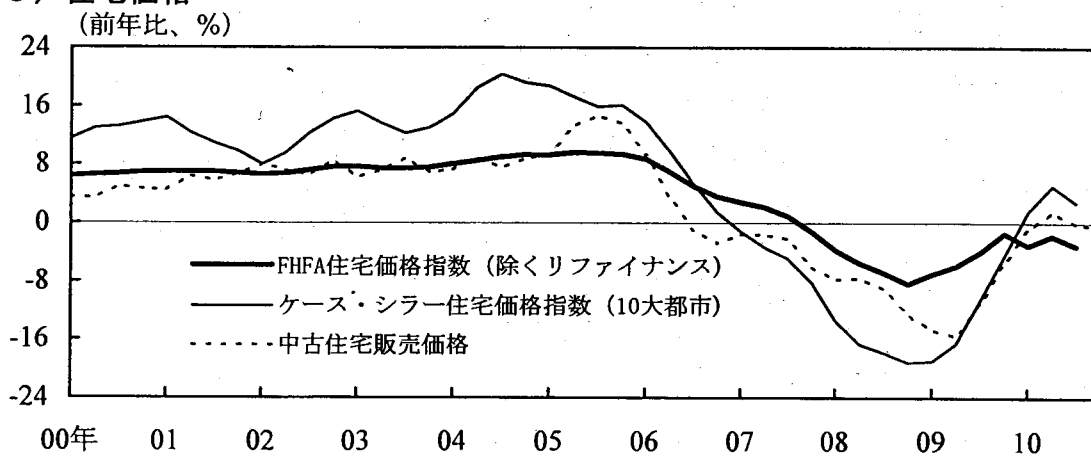
(注) 直近は、住宅着工が10月、モーゲージ金利が11月。

(2) 新築一戸建て住宅販売と住宅在庫



(注) 住宅在庫は、月末の在庫戸数を月間の販売戸数で除したものの。

(3) 住宅価格



(注1) 直近は、FHFA住宅価格指数、ケース・シラー住宅価格指数が7-9月、中古住宅販売価格が10月の値。

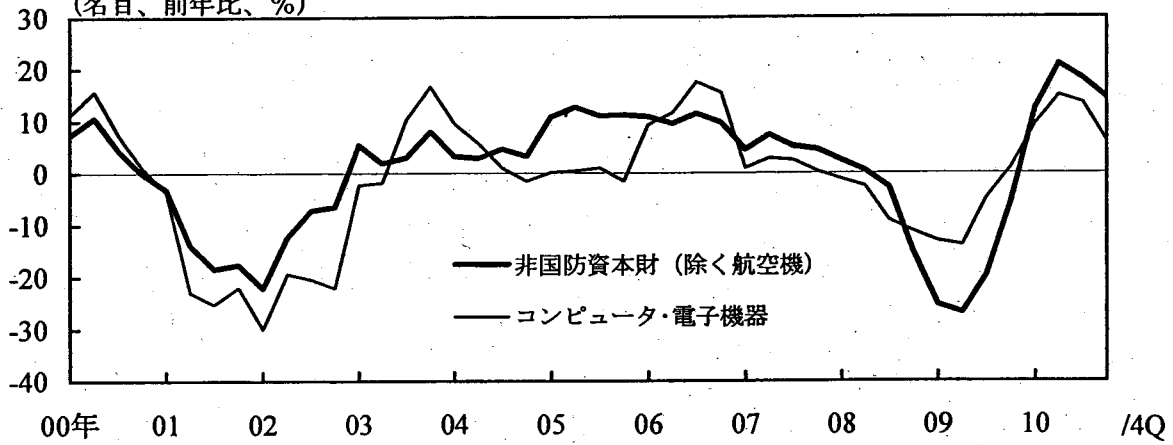
(注2) 「除くリファイナンス」ベースは、FHFA住宅価格指数の対象物件のうち、リファイナンスに伴い再評価された物件を除き、実際に購入された物件のみを対象とした価格指数。

(注3) 中古住宅販売価格は、不動産業者から報告された中古一戸建て住宅の販売物件の平均単価を集計したもの(中央値)。

④ 米国の設備投資と生産

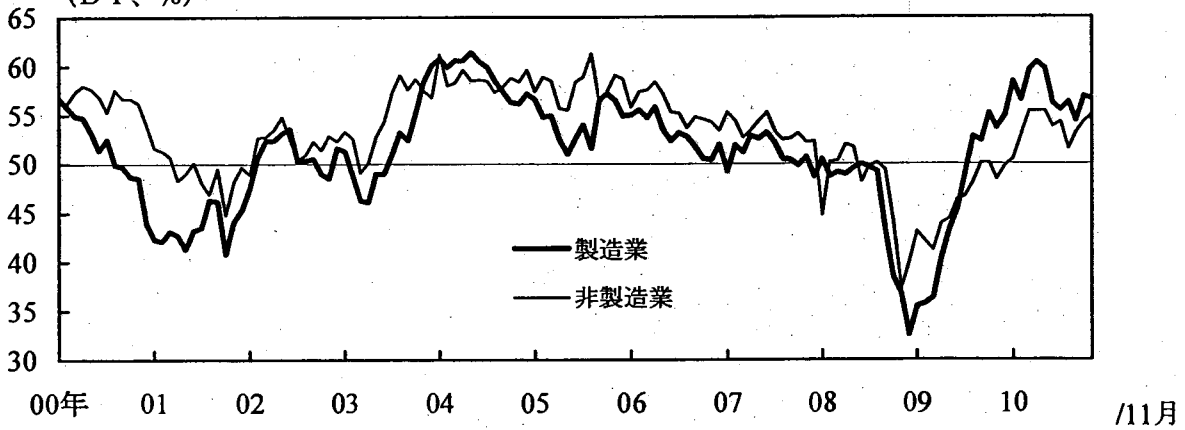
(図表4-4)

(1) 非国防資本財（除く航空機）とコンピュータ・電子機器受注
(名目、前年比、%)

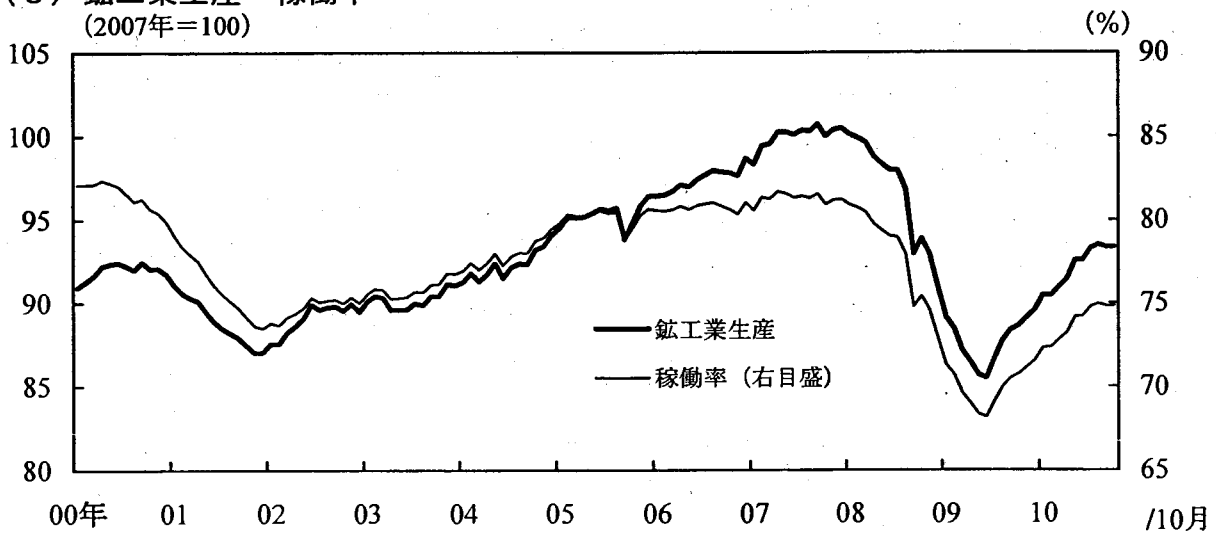


(注) 2010/4Qは10月の値。

(2) 企業コンフィデンス (ISM指数)
(DI、%)



(3) 鉱工業生産・稼働率
(2007年=100)



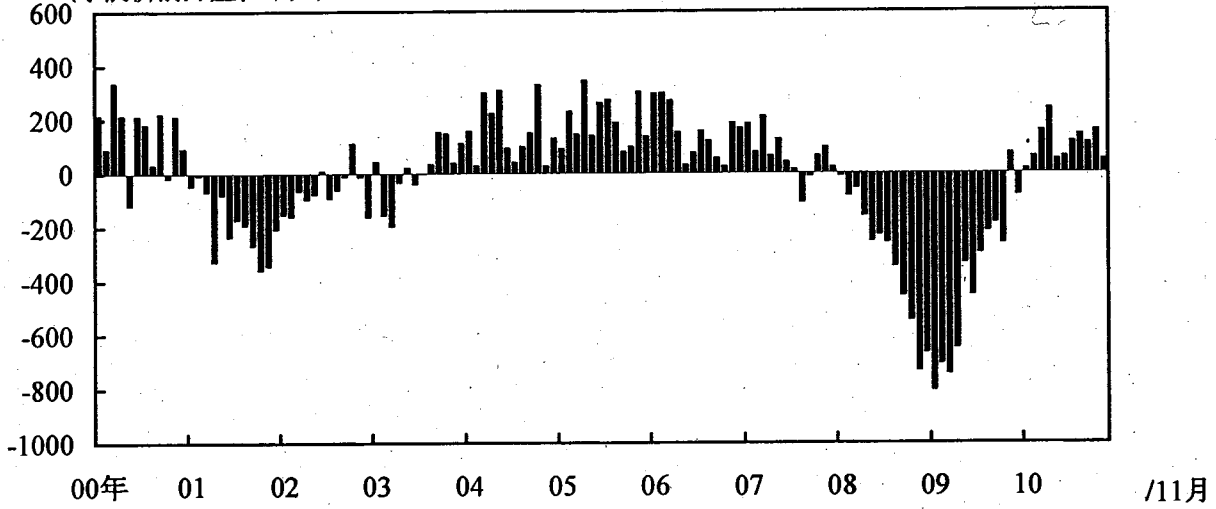
⑤ 米国の雇用

(図表4-5)

(1) 民間部門雇用者数

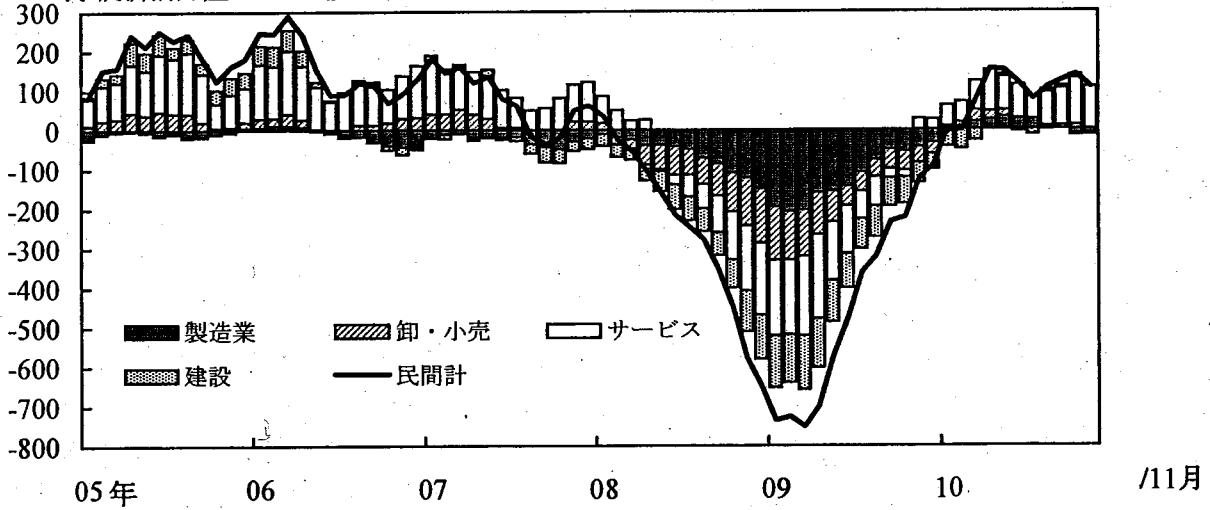
① 全体

(季調済前月差、千人)



② 業種別

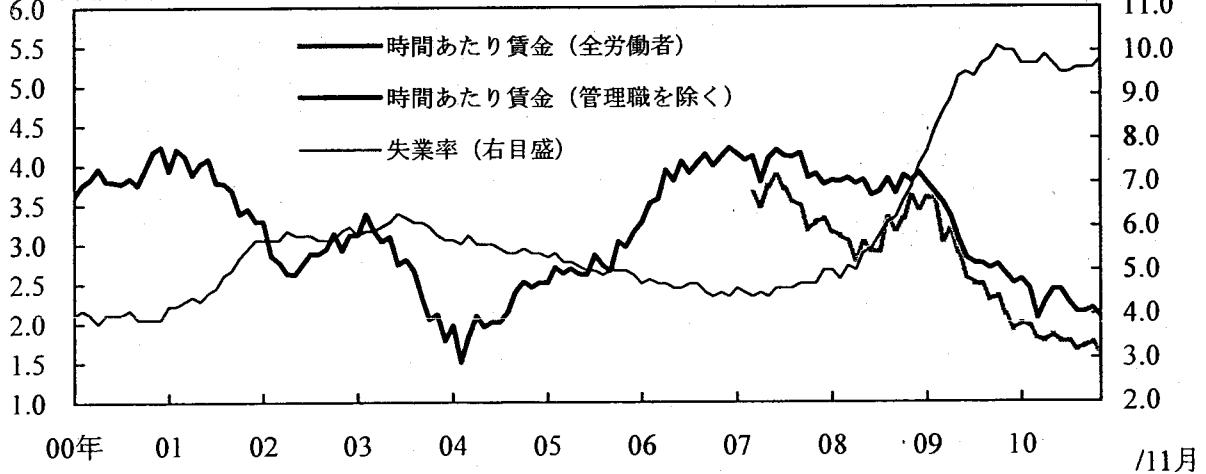
(季調済前月差<3か月移動平均>、千人)



(注) 棒線の合計と折れ線の差はその他の項目(金融等)。

(2) 時間あたり賃金(民間部門)と失業率

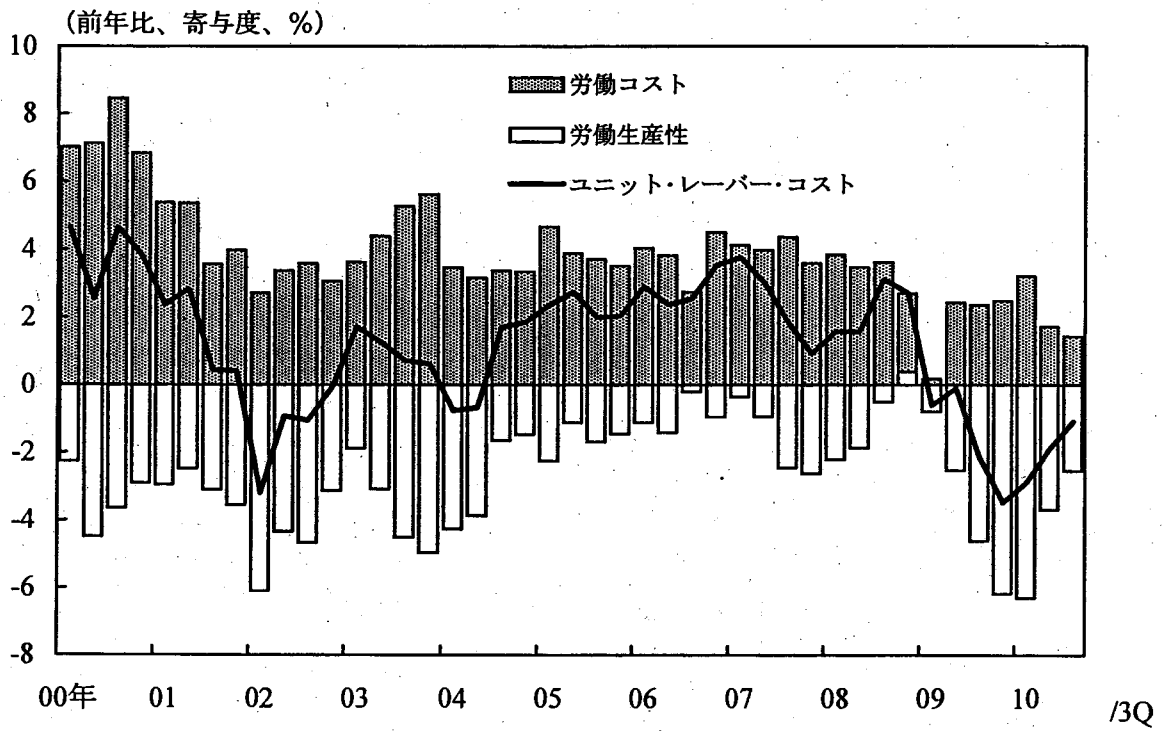
(季調済、前年比、%)



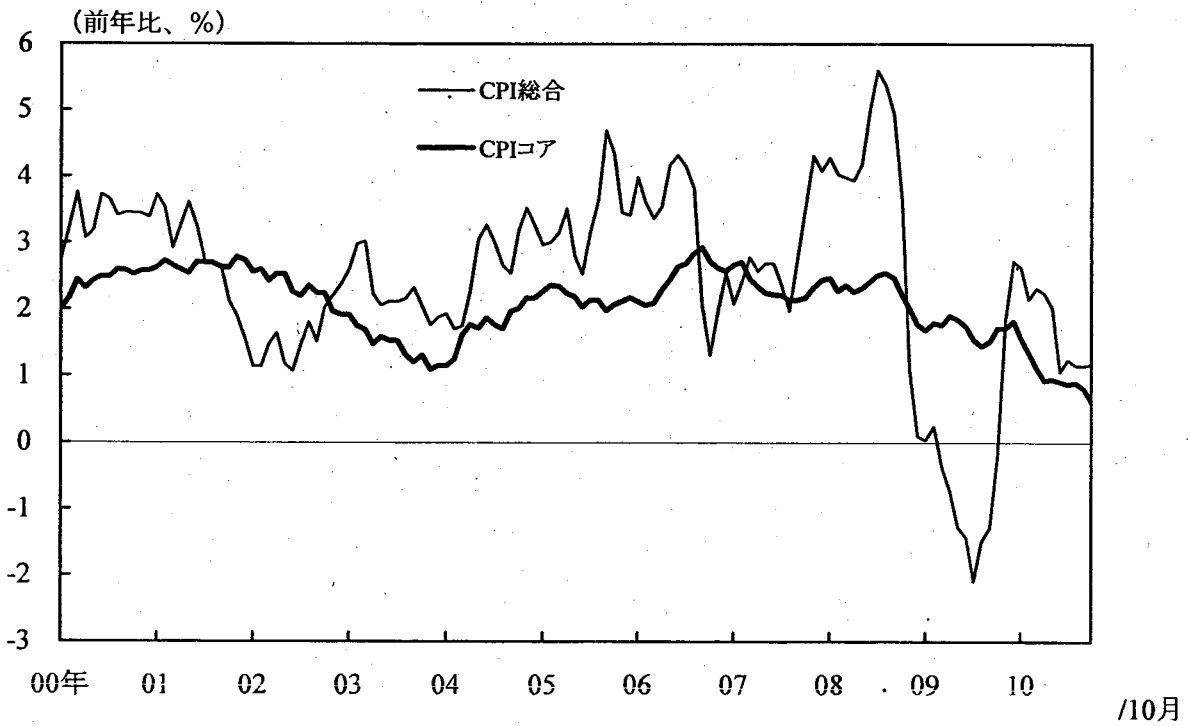
⑥ 米国の労働コスト、物価

(図表4-6)

(1) ユニット・レーバークスト



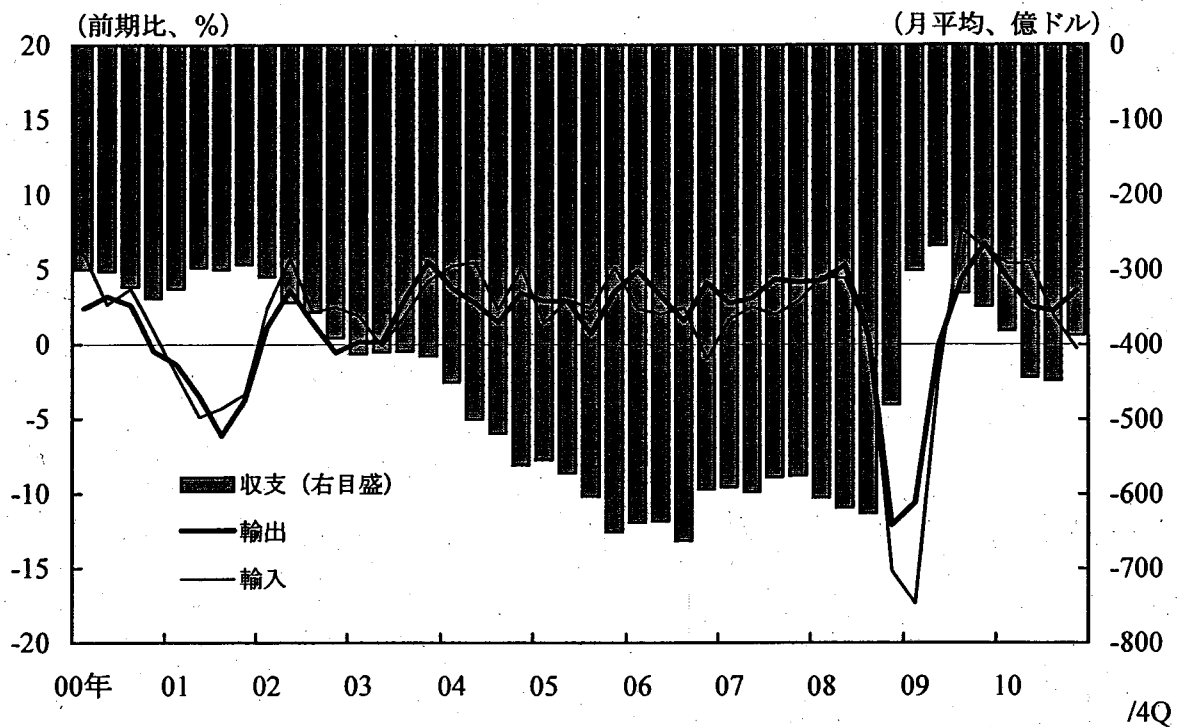
(2) CPI



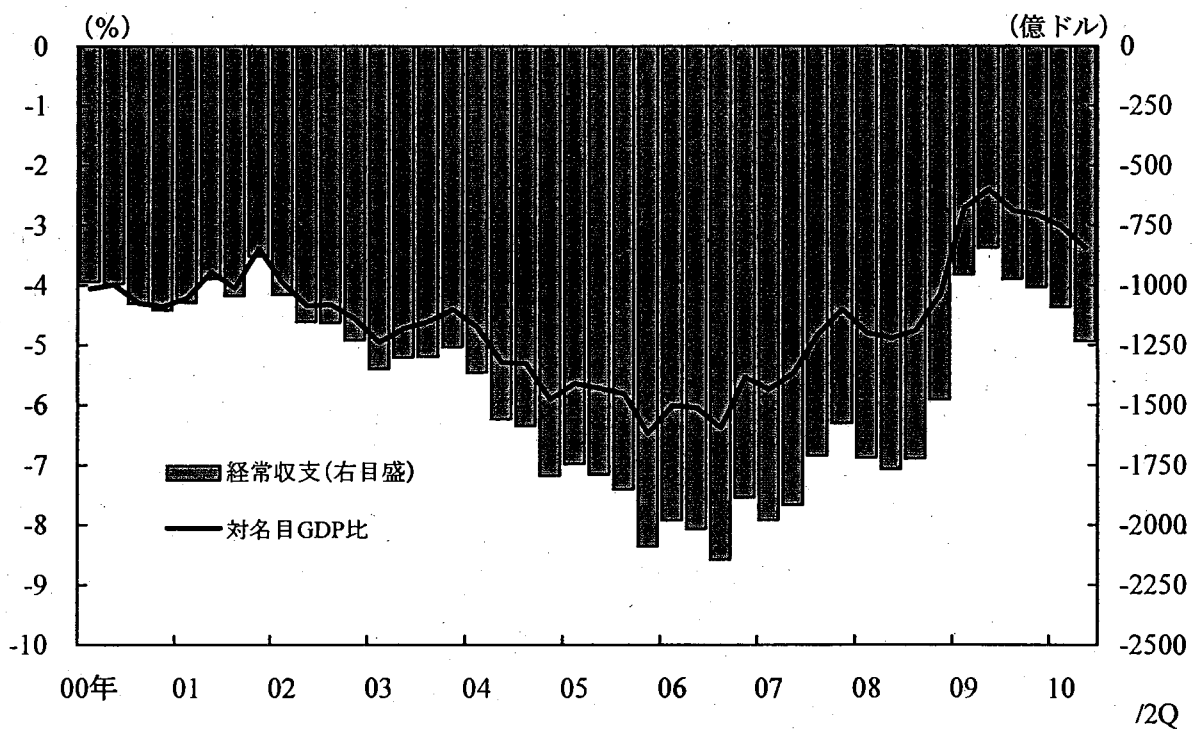
⑦ 米国の対外バランス

(図表4-7)

(1) 財・サービス収支

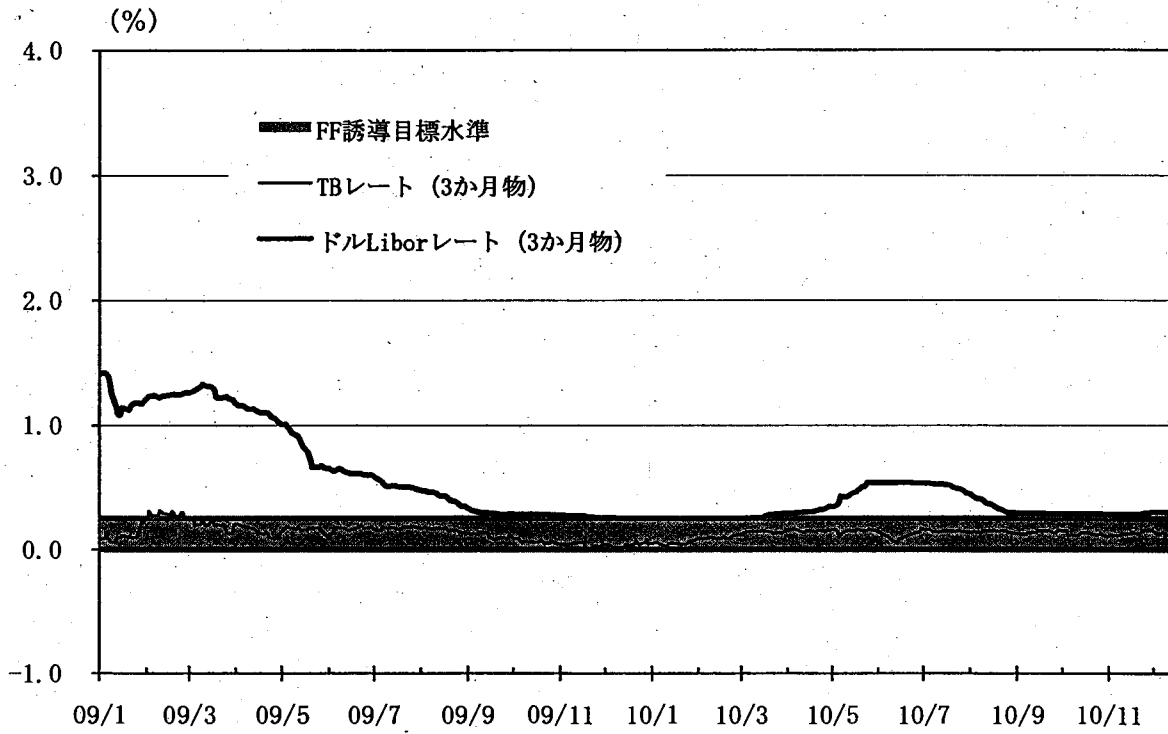


(2) 経常収支

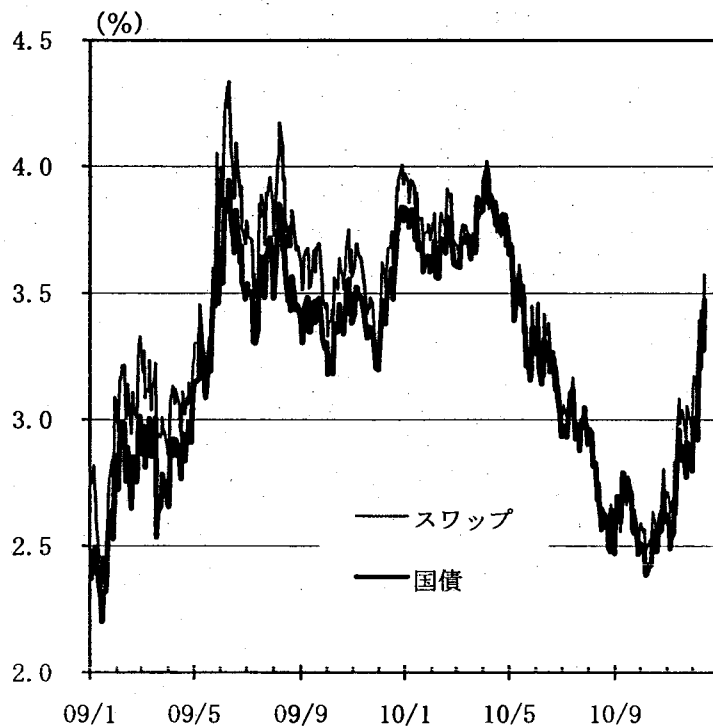


米国の金融市場 金利 (米国)

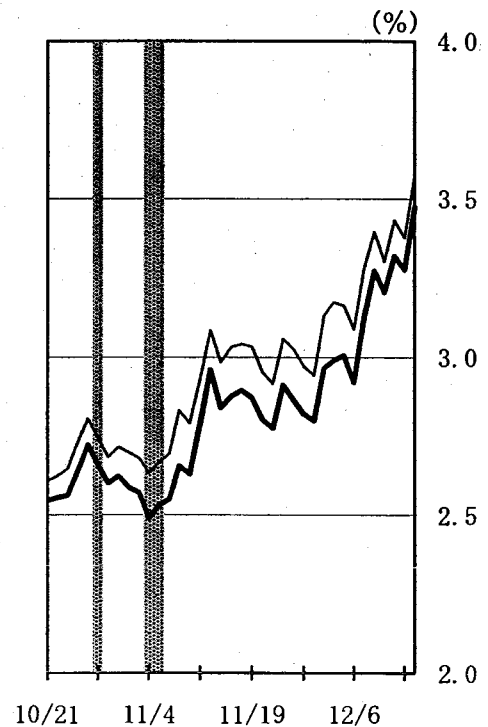
(1) 政策金利・短期金利



(2) 長期金利 (10年物)



<最近の動き>

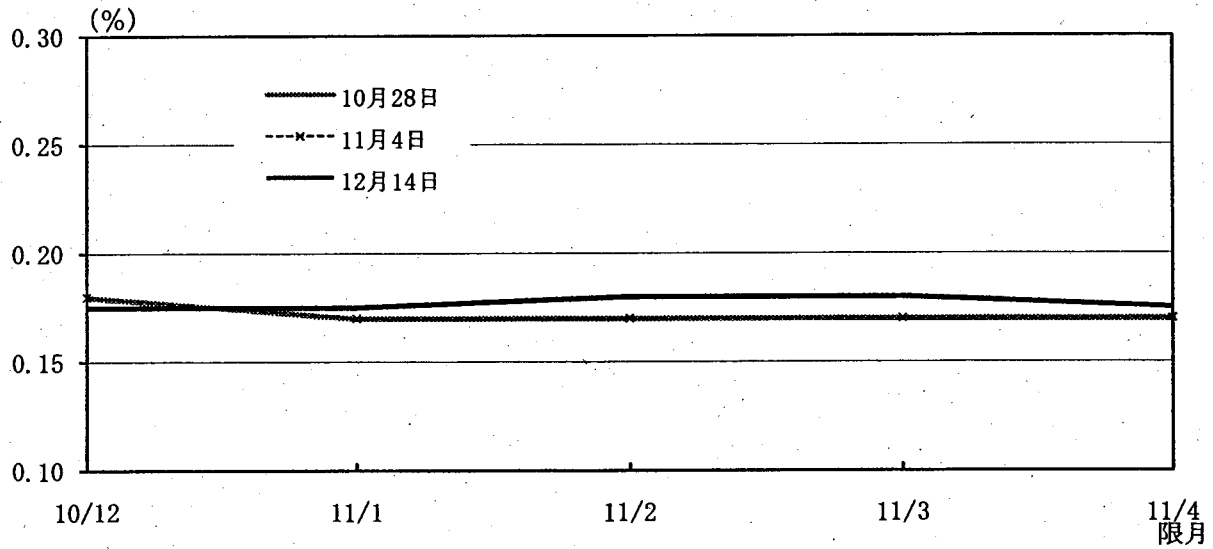


(注) シャドーは決定会合。
(出所) Bloomberg

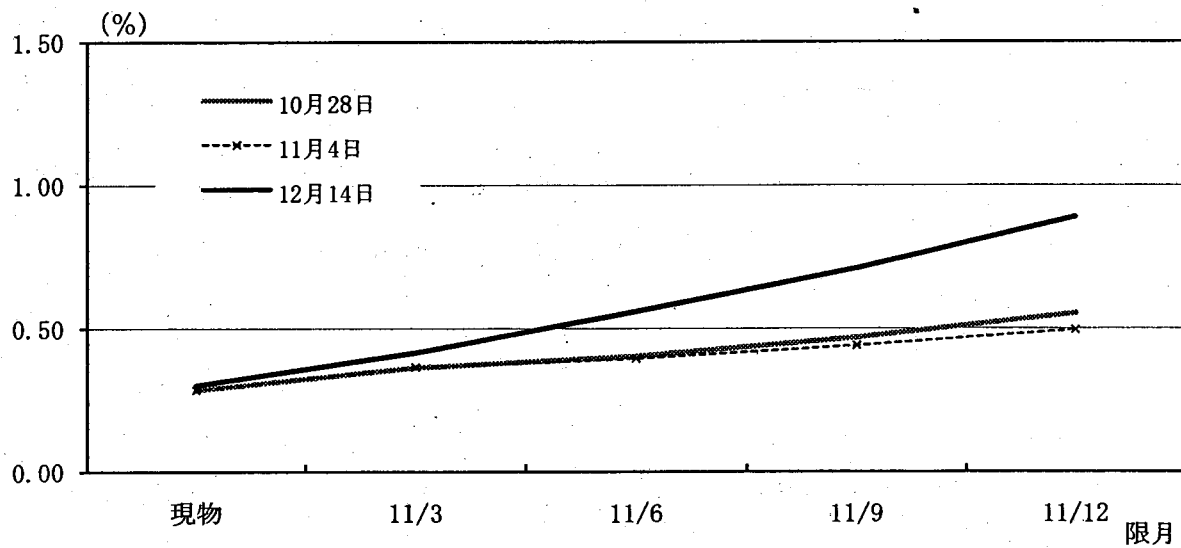
いずれも直近は12月14日

先行きの金利観 (米国)

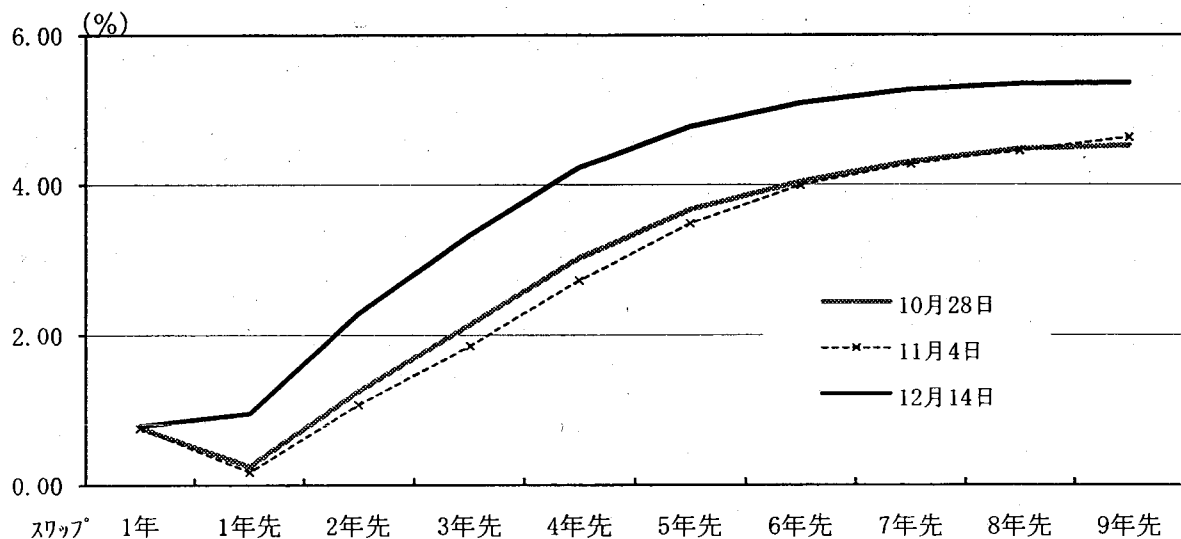
(1) FF先物金利



(2) ユーロドル先物金利 (3か月物)



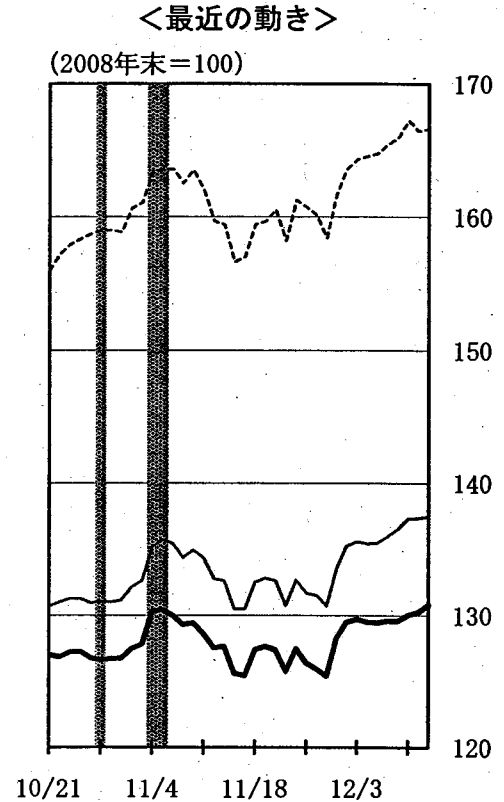
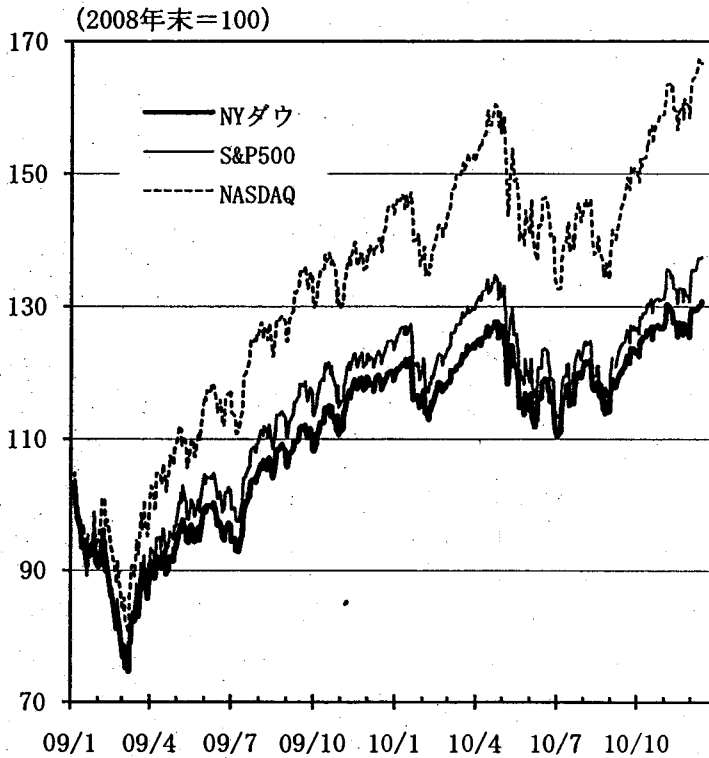
(3) インプライド・フォワード・レート (米ドル・スワップ、1年物)



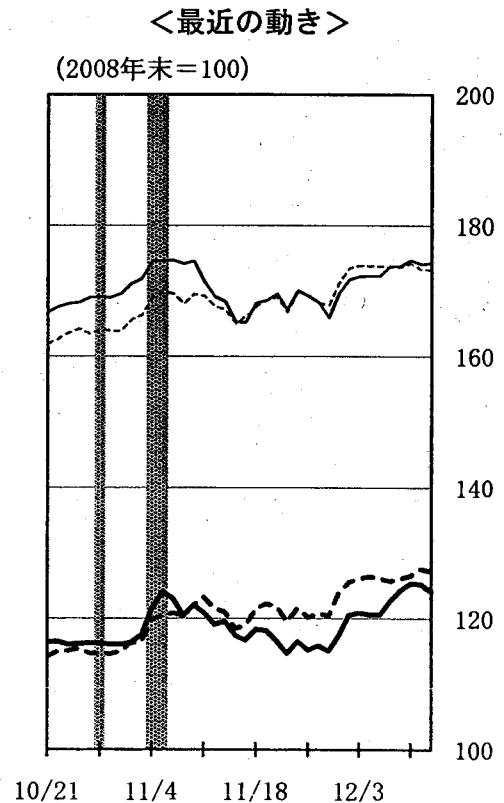
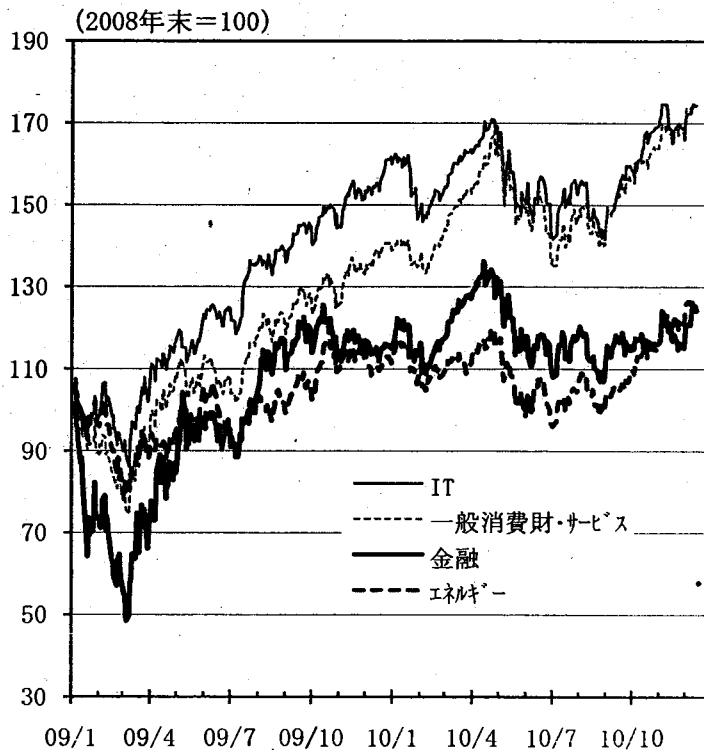
(出所) Bloomberg

株価 (米国)

(1) 株価 (NYダウ・S&P500・NASDAQ)



(2) 業種別株価 (S&P500)



(注1) シャドローは決定会合。

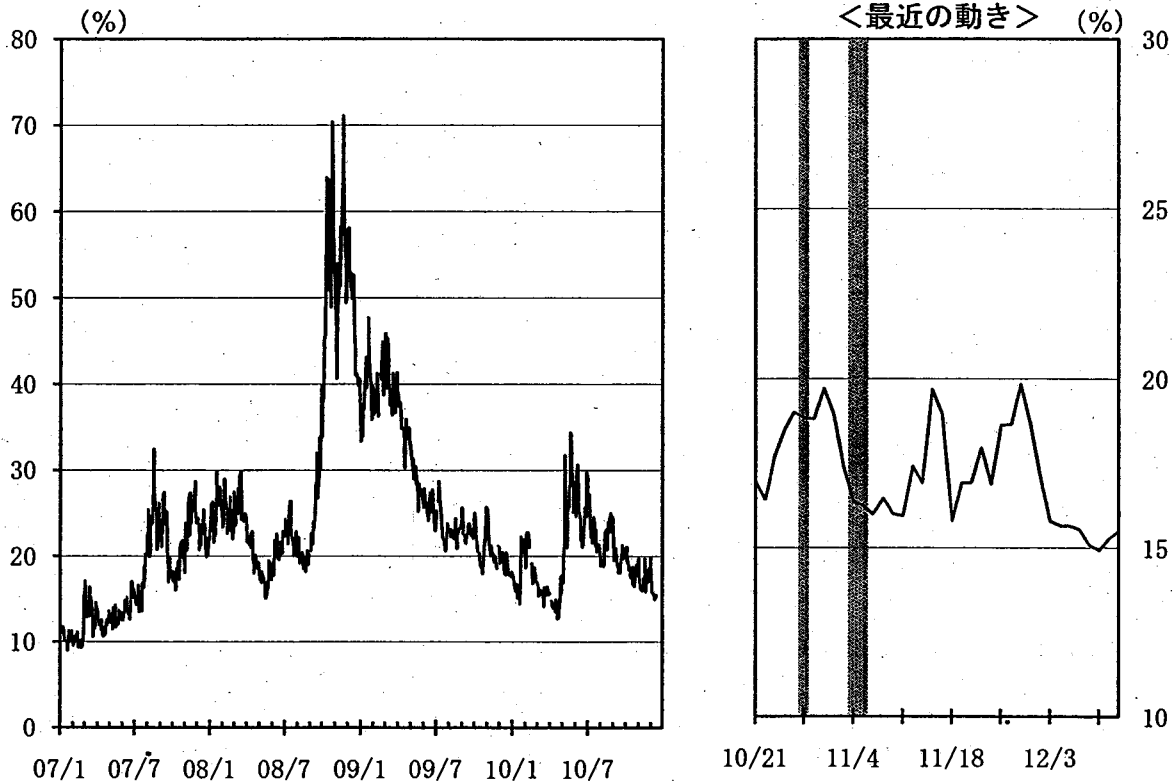
(注2) ITは、コンピュータ (ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器)、通信機器、半導体、インターネット関連等。

(出所) Bloomberg

いずれも直近は12月14日

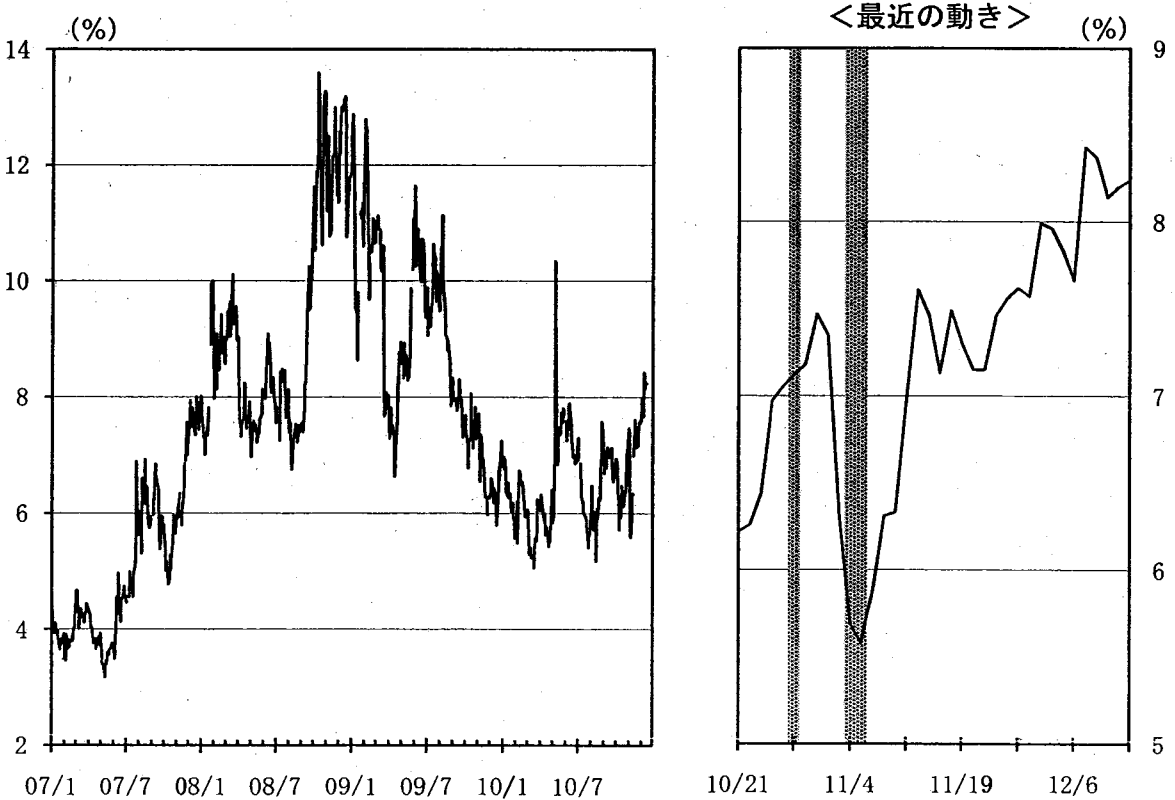
金融市場のリスク関連指標 (米国)

(1) 株価オプションのインプライド・ボラティリティ (S&P500)



直近は12月14日

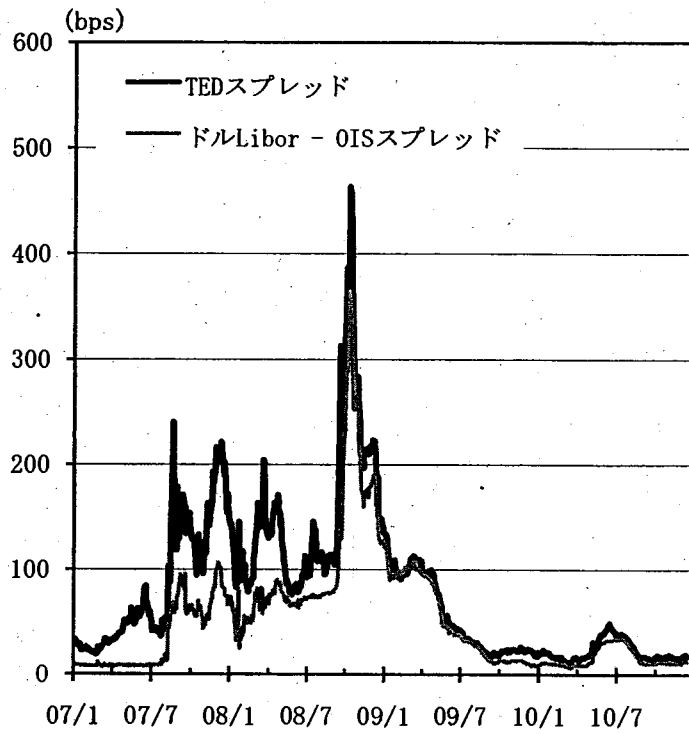
(2) 米国債先物オプションのインプライド・ボラティリティ



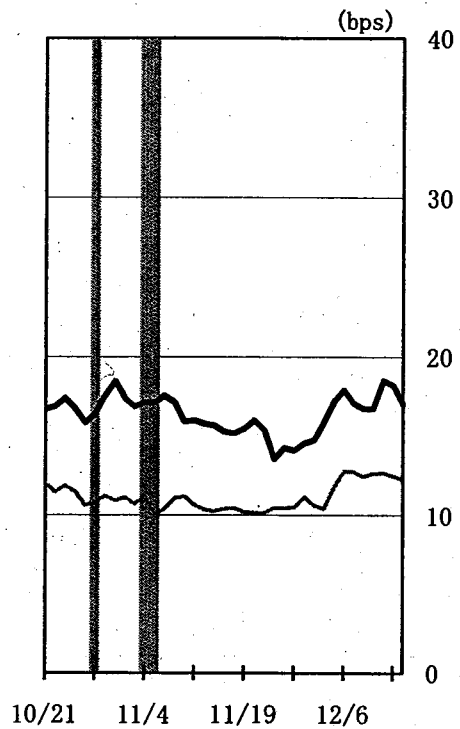
直近は12月13日

(注) シャドーは決定会合。
(出所) Bloomberg

(3) 短期金利スプレッド (3か月物)

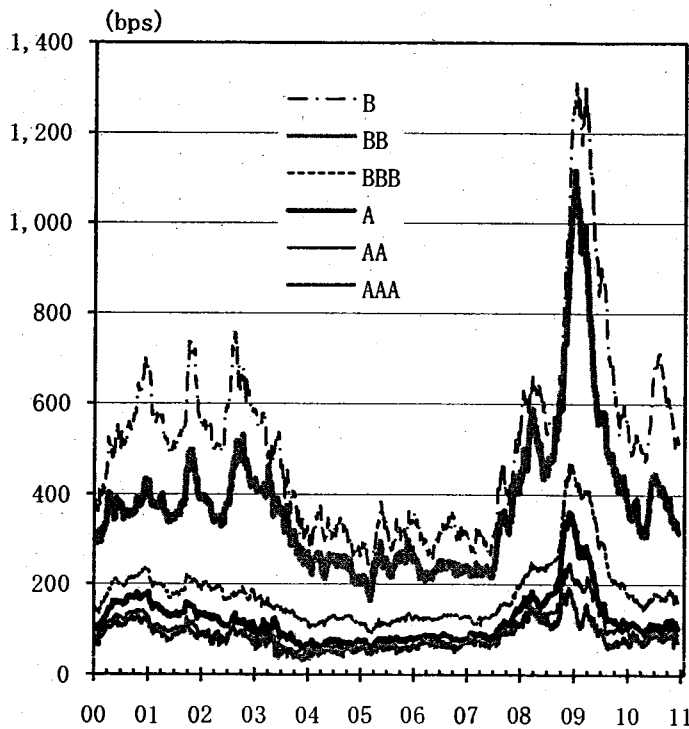


<最近の動き>

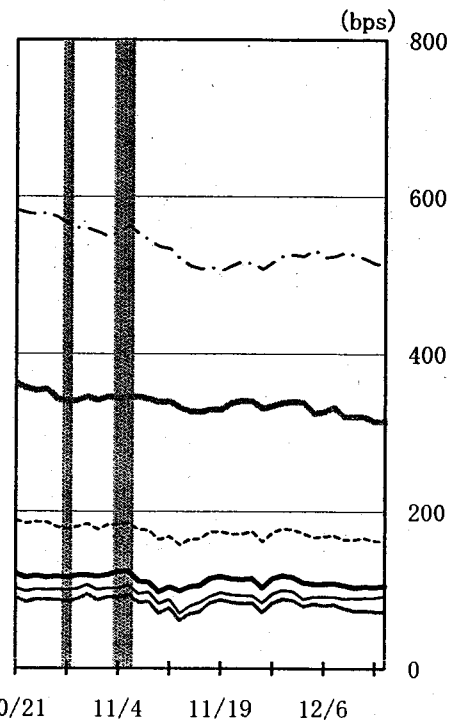


(注) TEDスプレッドはLiborレート-TBレート。

(4) 米国社債の対国債スプレッド (10年物)



<最近の動き>



(注1) 社債金利は、BloombergがMoody's、S&Pの格付けを基に合成。例えば、AAはMoody'sのAa2、S&PのAAに対応。

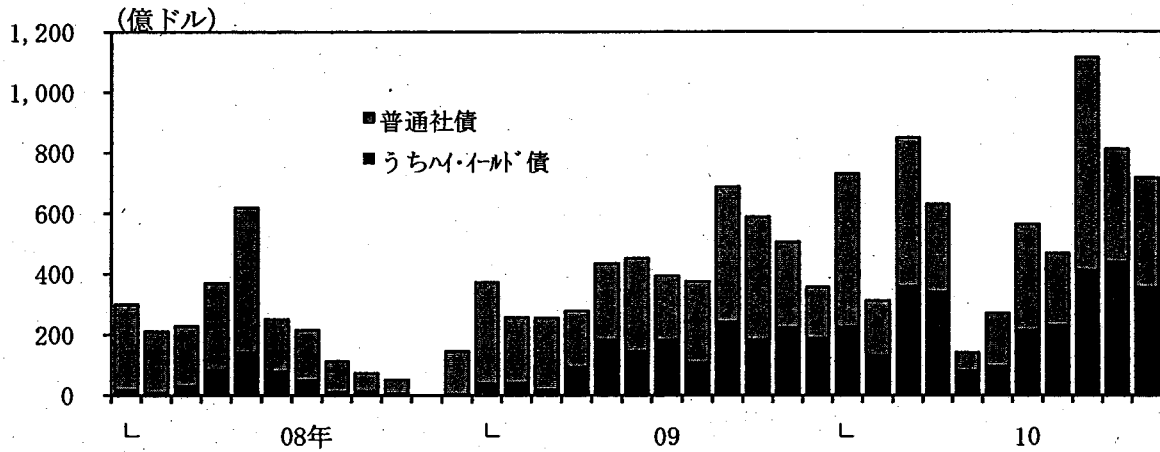
(注2) シャドーは決定会合。

(出所) Bloomberg

いずれも直近は12月14日

企業の資金調達 (米国)

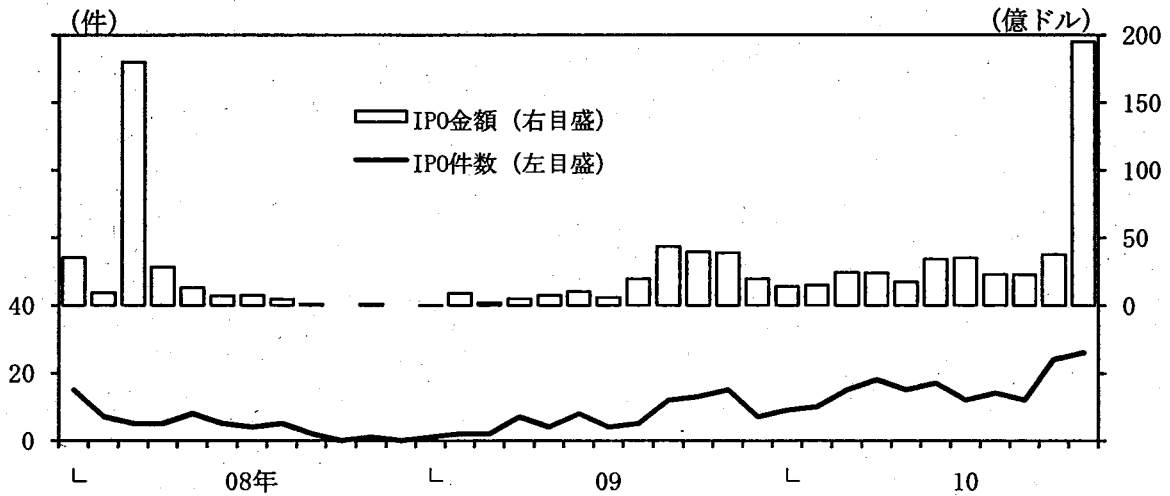
(1) 社債発行額 (普通社債)



(出所) Thomson ONE

直近は11月

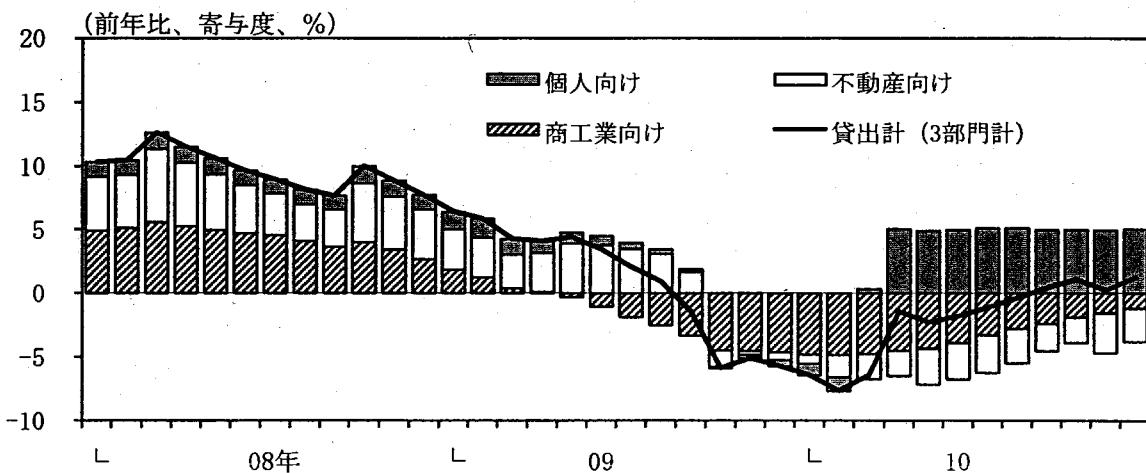
(2) IPO金額・件数



(出所) Bloomberg

直近は11月

(3) 銀行貸出



(注1) 商銀+外銀ベース。不動産向けはホームエクイティ・ローンを含む。

貸出計は、商工業、不動産、個人の3部門向け貸出の合計。「その他」(レポ取引等)は含まない。

(注2) 会計基準の変更に伴い、貸出資産のオンバランス化が生じた影響で、2010年3月と4月の前年比マイナス幅が大きく縮小している。

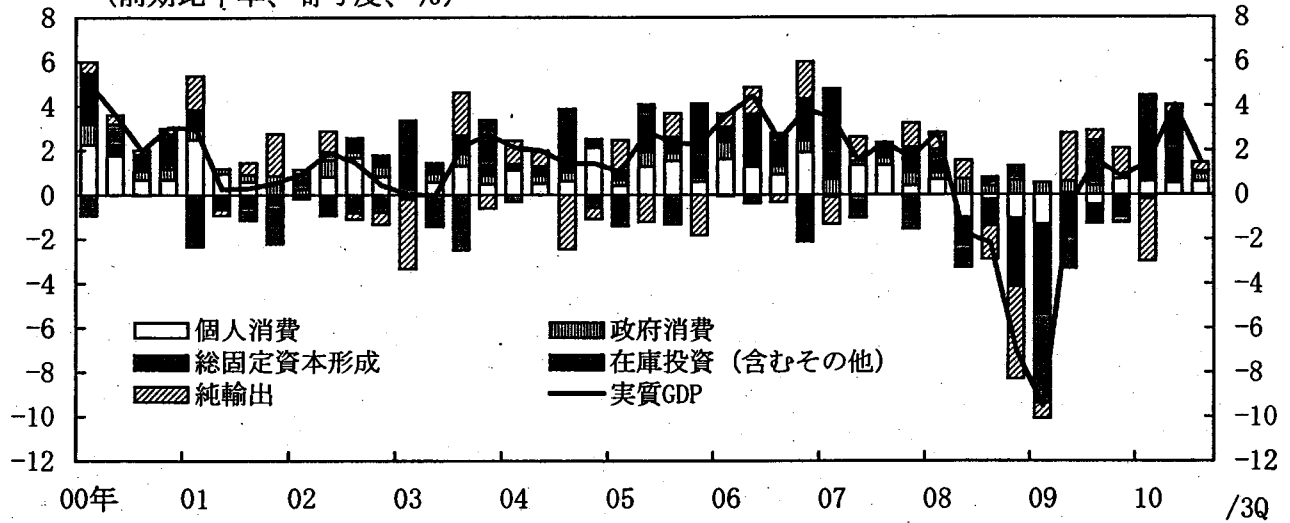
(出所) FRB

直近は12月1日週

欧州の実体経済

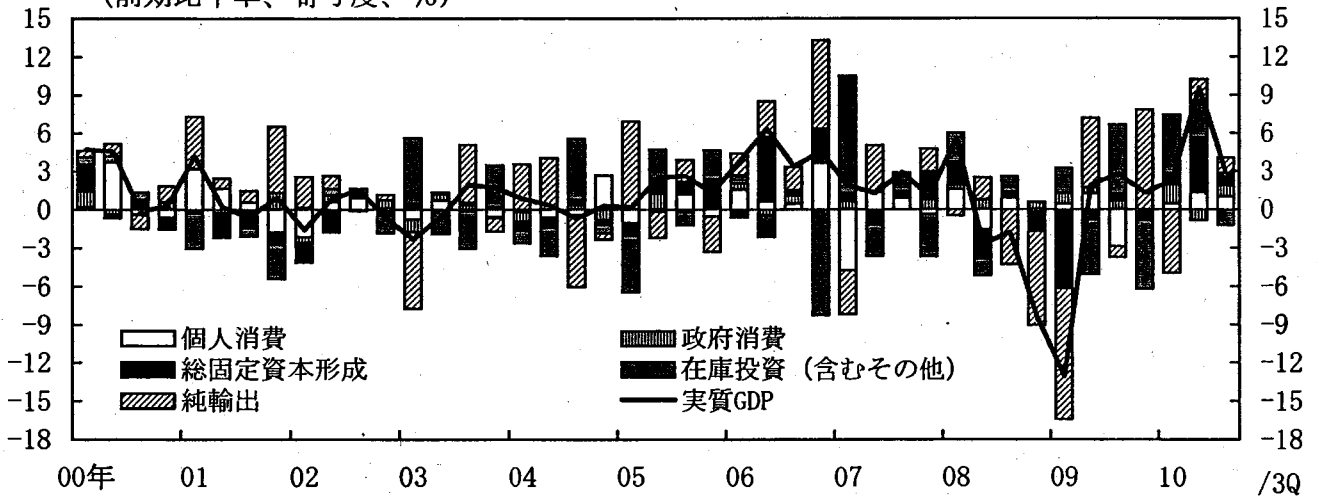
(1) ユーロエリアの実質GDP成長率

(前期比年率、寄与度、%)



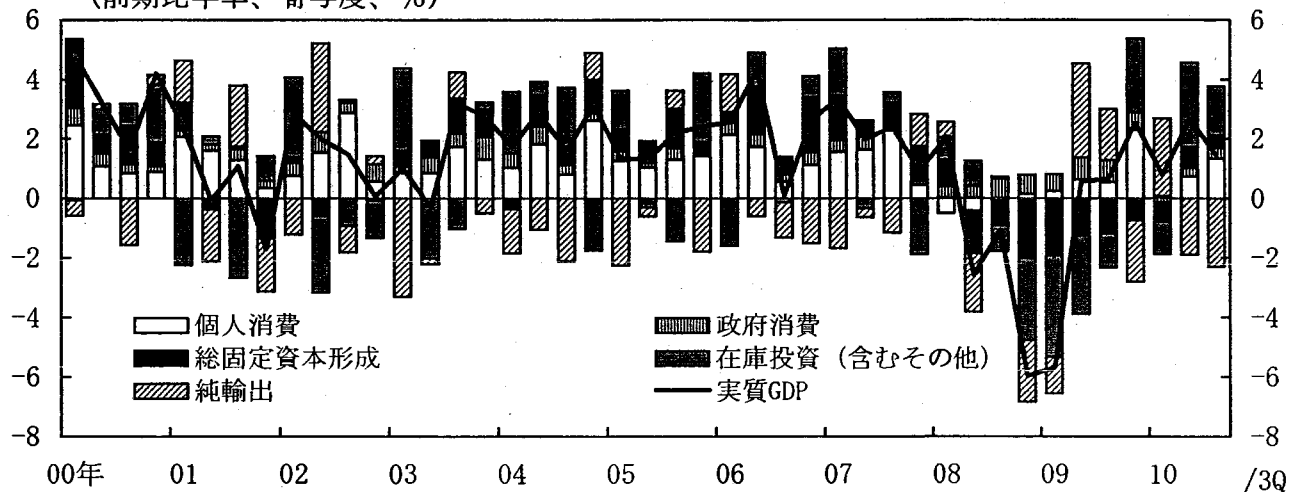
(2) ドイツの実質GDP成長率

(前期比年率、寄与度、%)

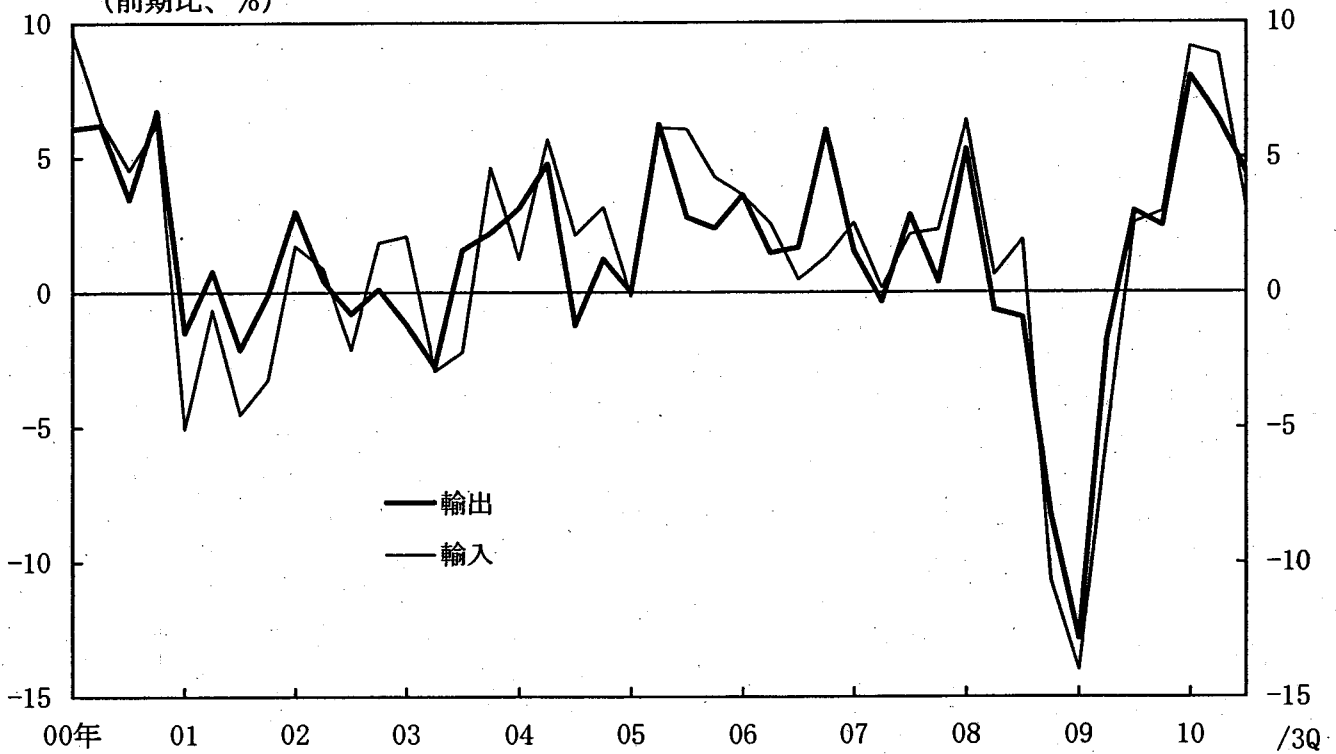


(3) フランスの実質GDP成長率

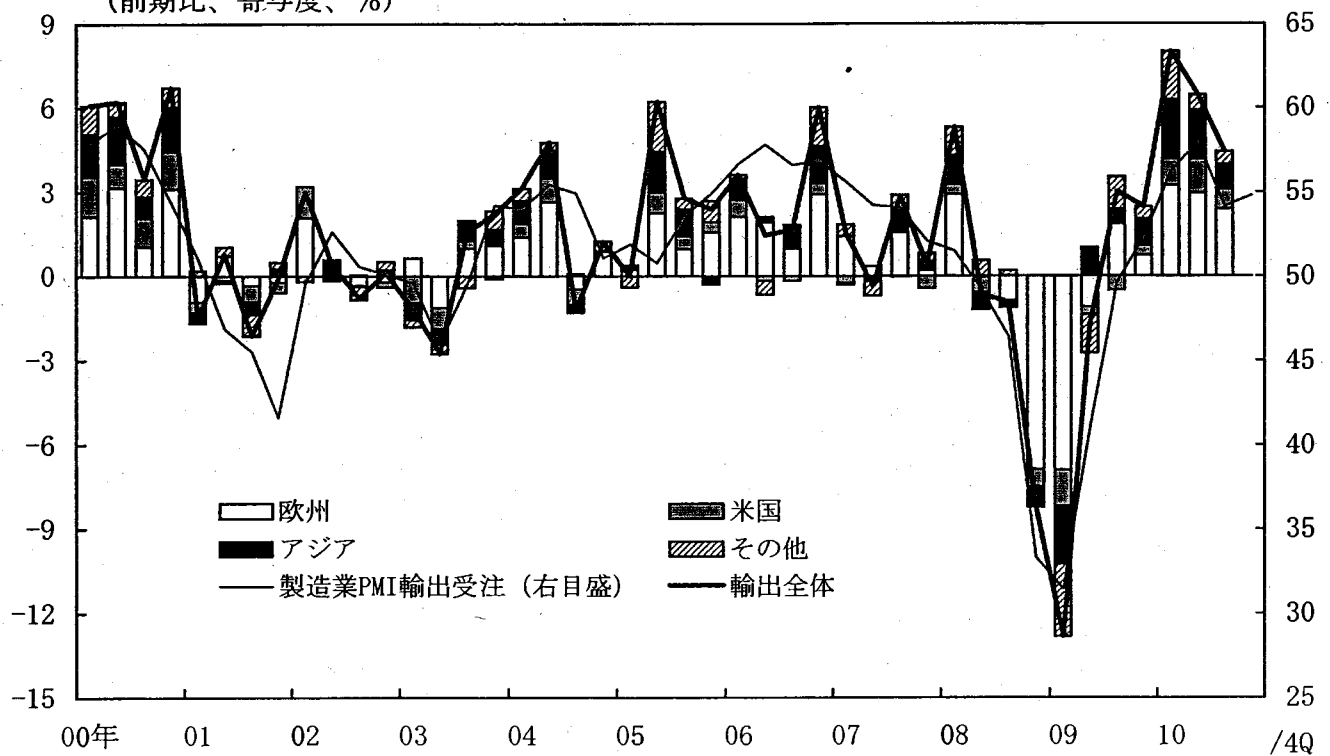
(前期比年率、寄与度、%)



(4) ユーロエリアの域外貿易
(前期比、%)



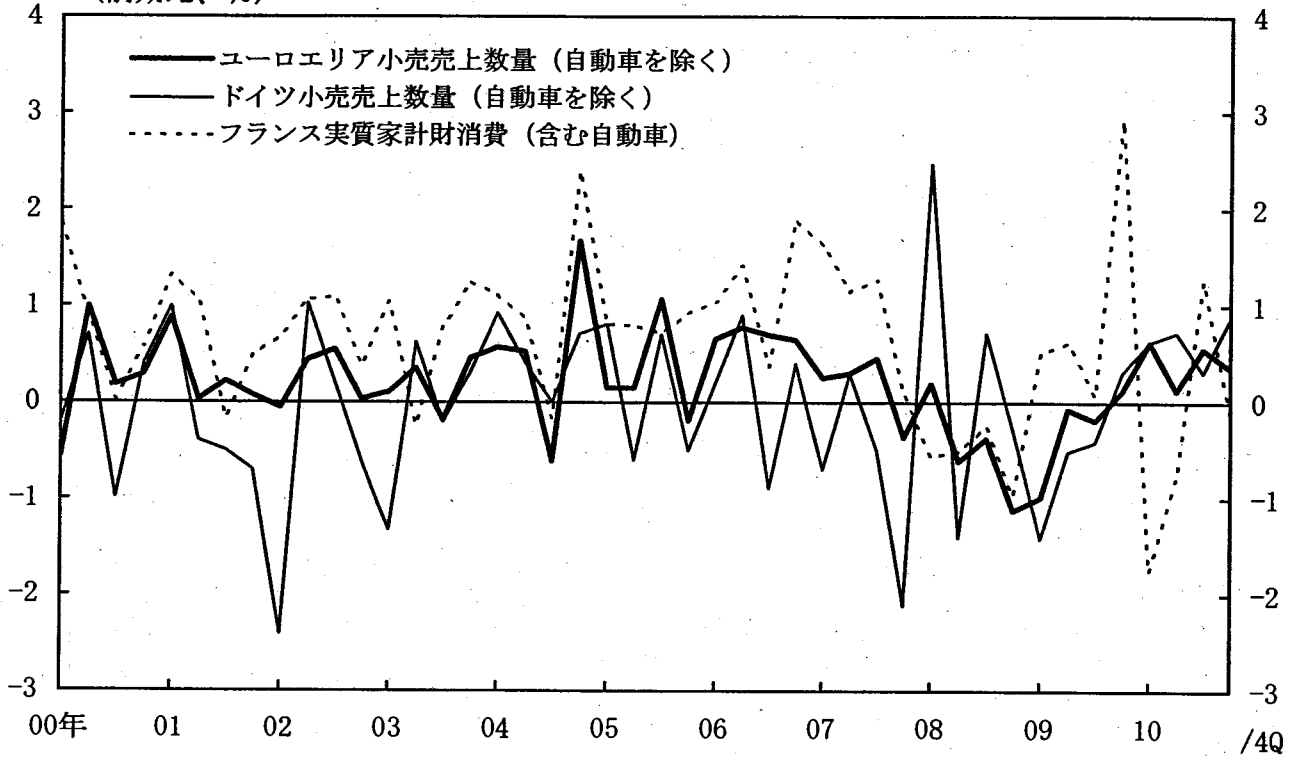
(5) ユーロエリア域外輸出 (地域別寄与度) と製造業PMI輸出受注指数
(前期比、寄与度、%)



(出所) Eurostat, Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)
(注1) 欧州はトルコ、ロシアなど、アジアは中東などを含む。
(注2) 域外輸出の直近は3Q、PMI輸出受注の直近4Qは10-11月の値。

(6) 小売関連指標

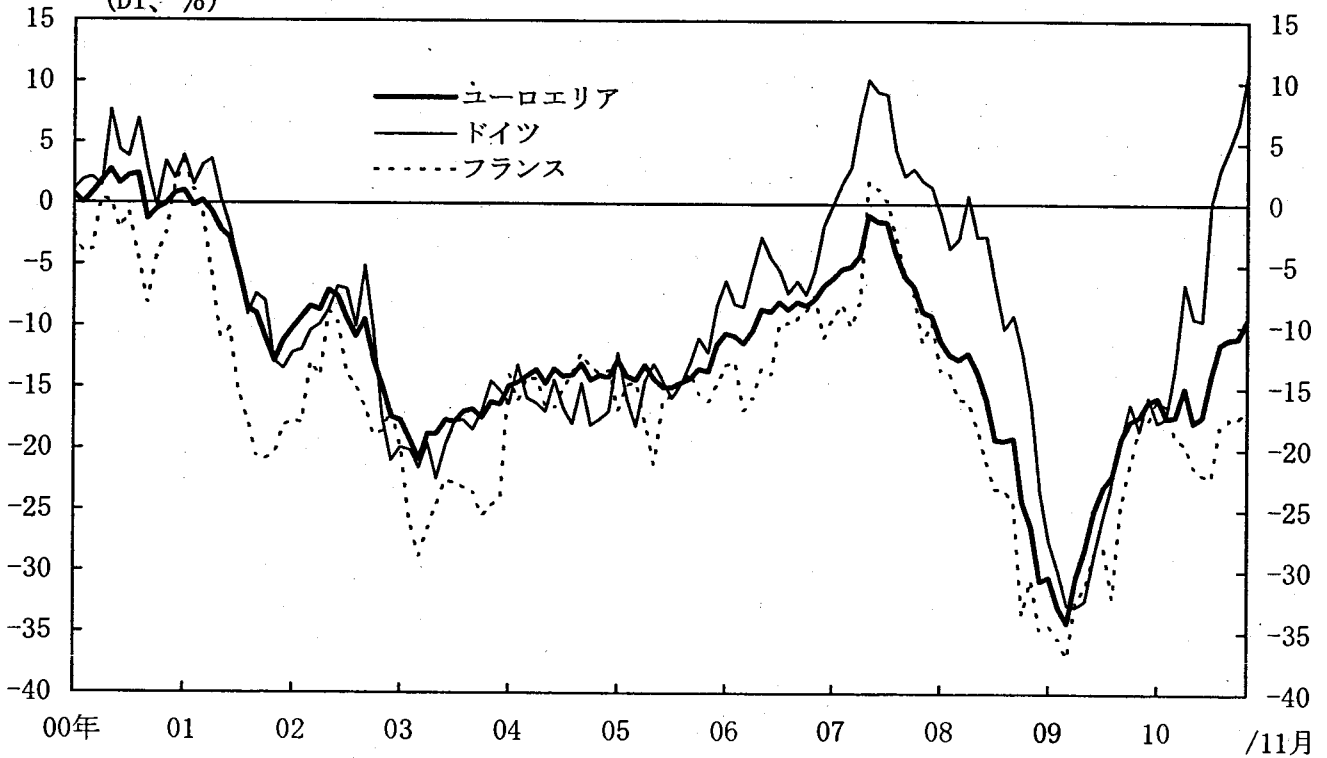
(前期比、%)



(注) 直近4Qは10月の値。

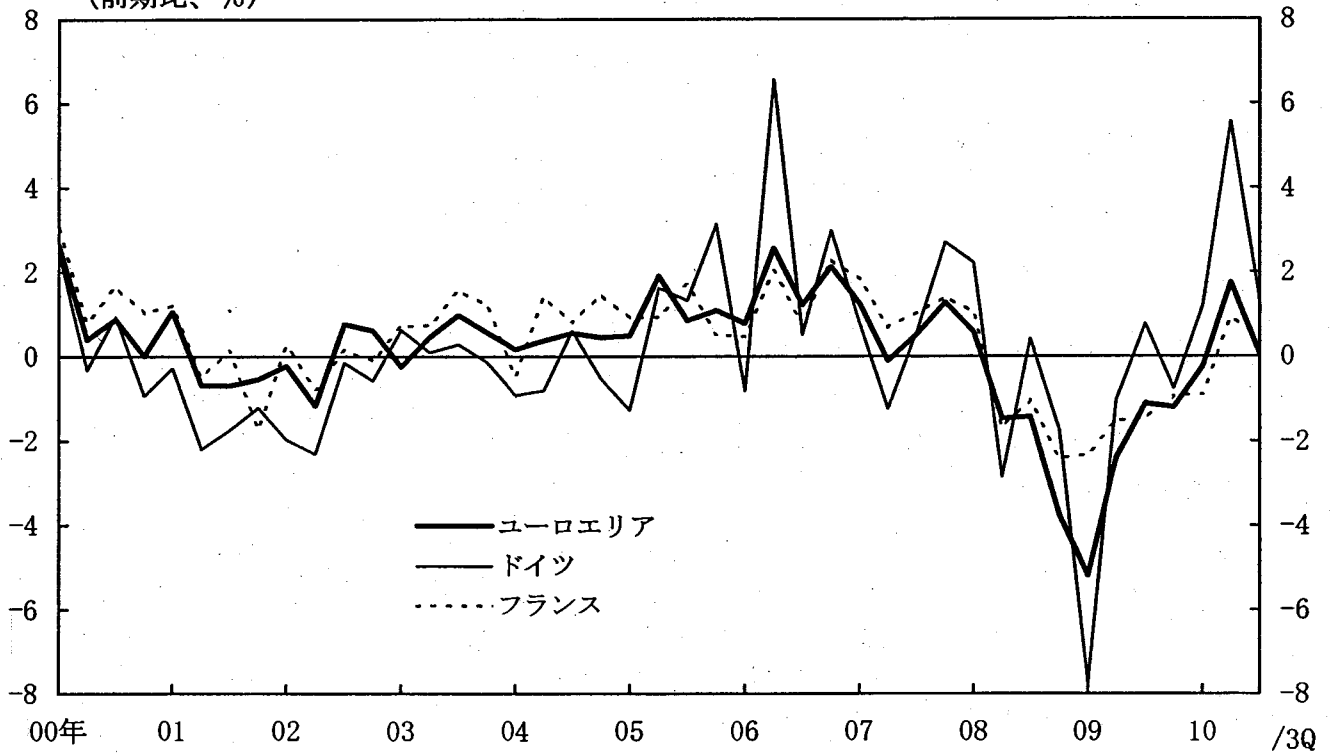
(7) 消費者コンフィデンス

(DI、%)

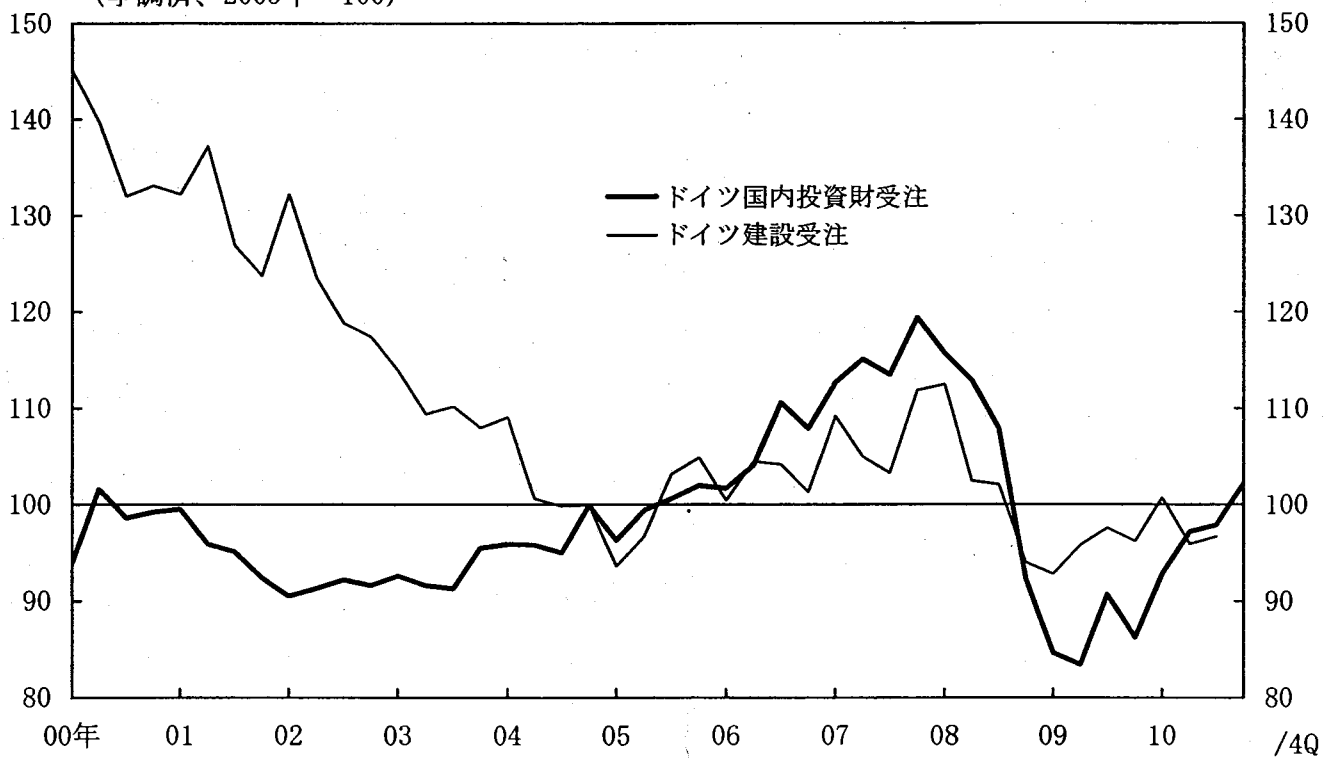


(注) フランスでの調査方法の変更の影響で、フランス、ユーロエリアの2004年1月以降の計数は2003年12月以前と連続しない。

(8) 総固定資本形成
(前期比、%)



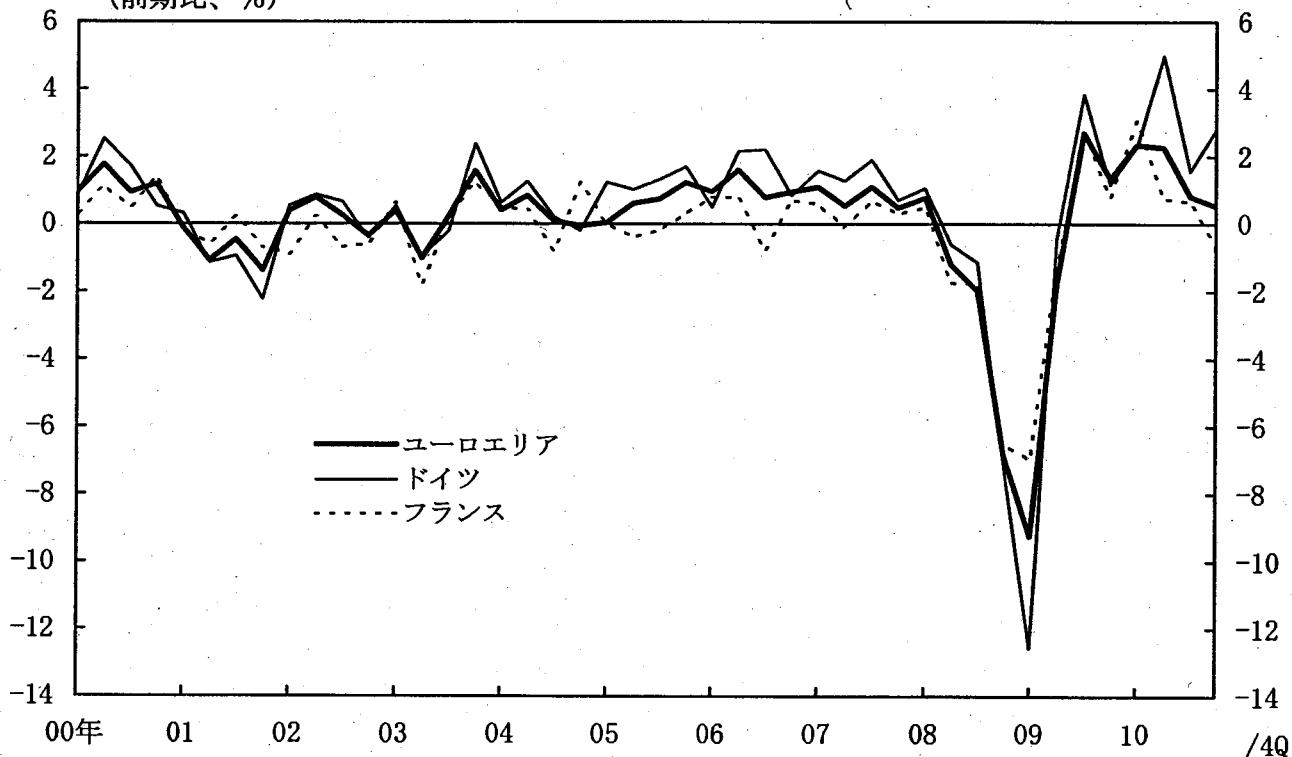
(9) ドイツの国内投資財受注、建設受注
(季調済、2005年=100)



(注) 建設受注の直近は3Q、国内投資財受注の直近4Qは10月の値。

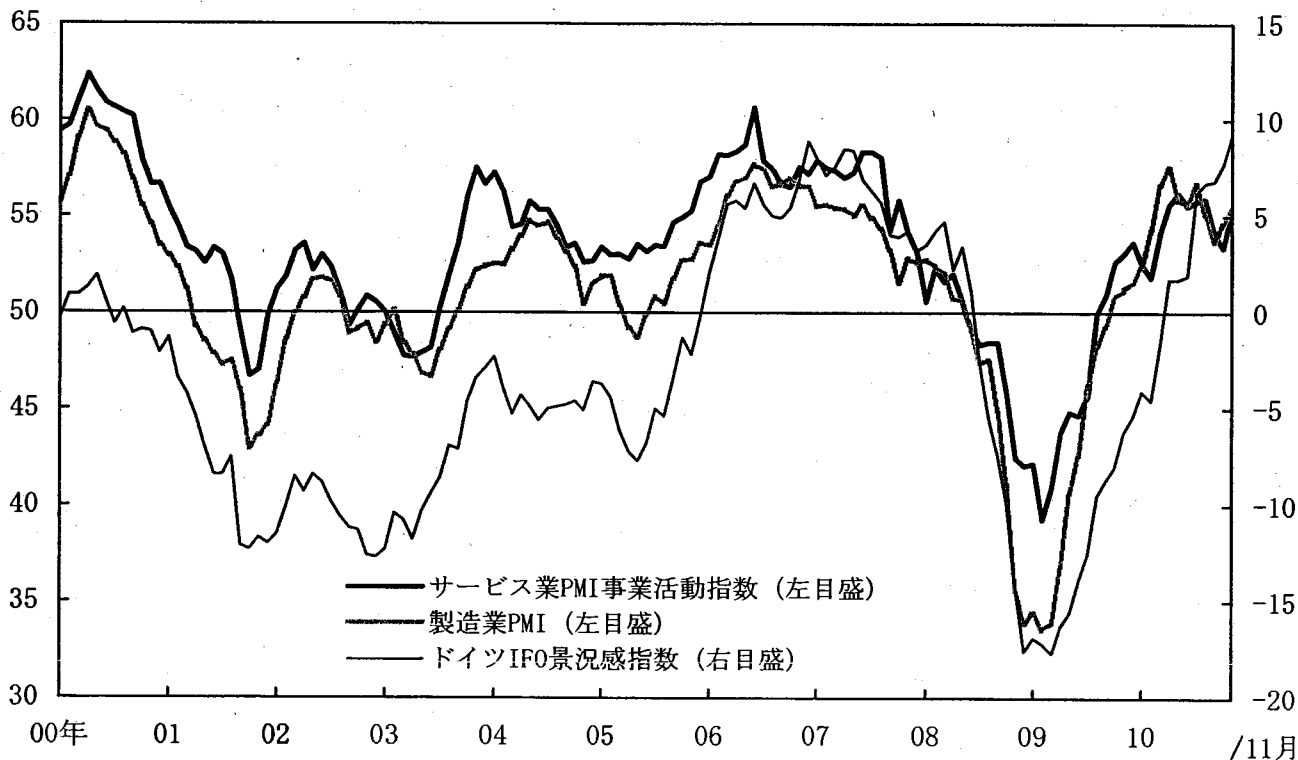
(10) 鉱工業生産

(前期比、%)



(注) 直近4Qは10月の値。

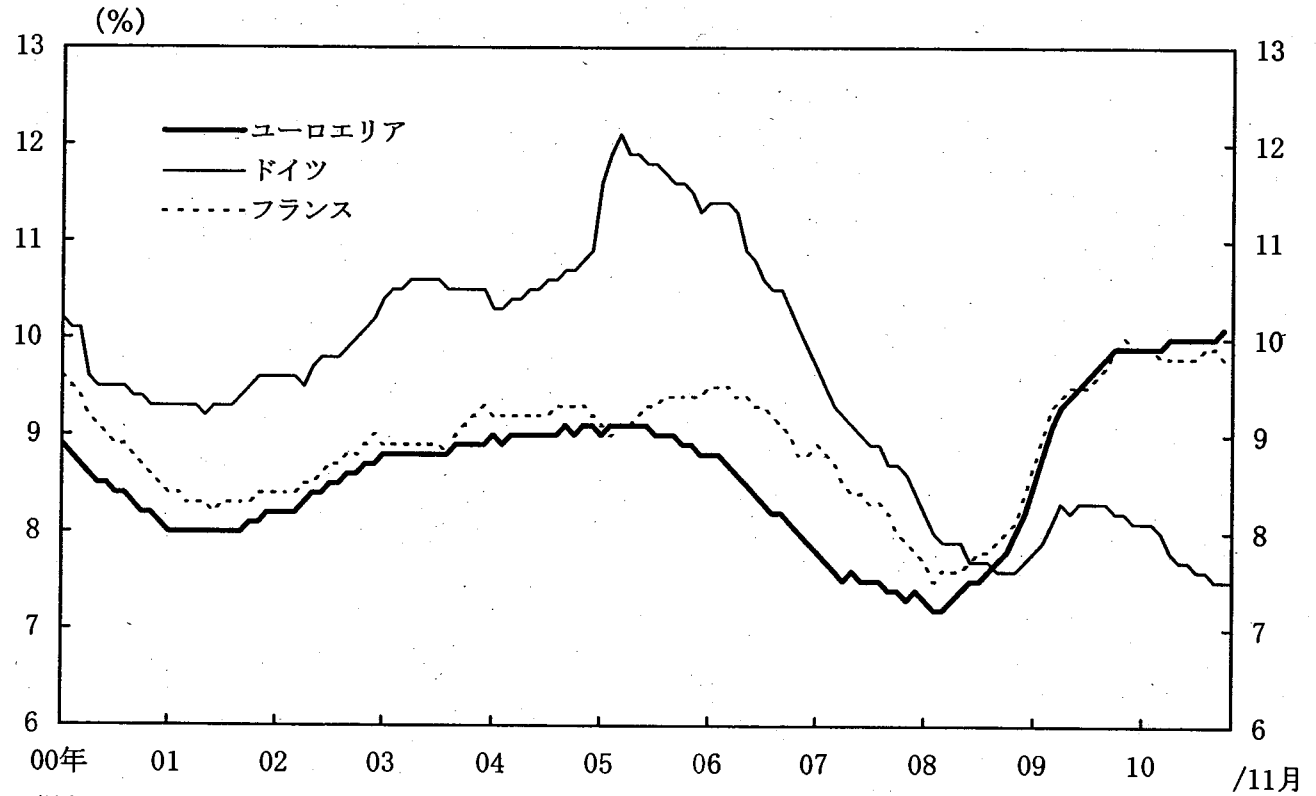
(11) PMI (購買担当者指数) と企業コンフィデンス



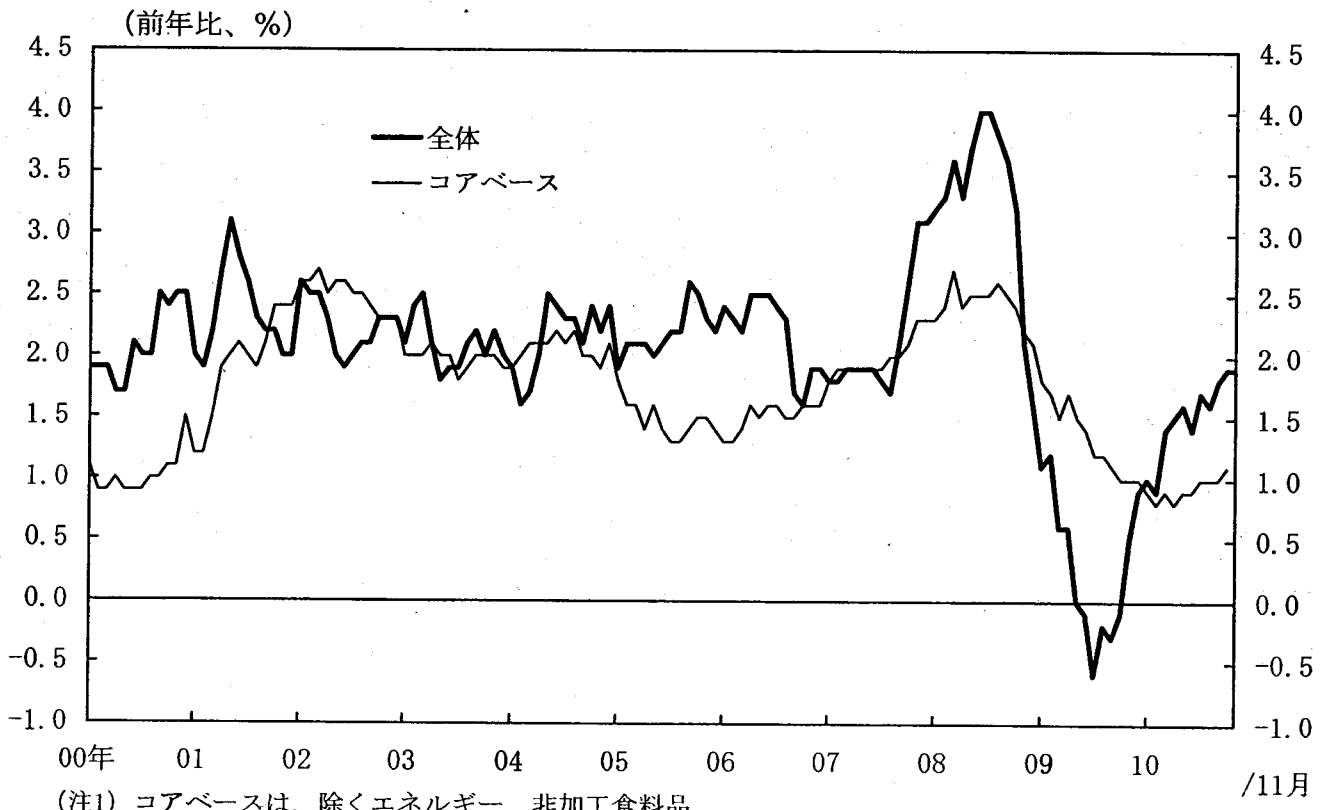
(出所) IFO, Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

(注) ドイツIFO景況感指数は、公表系列 (2000年平均=100) から100を引いた計数を使用。

(12) 失業率



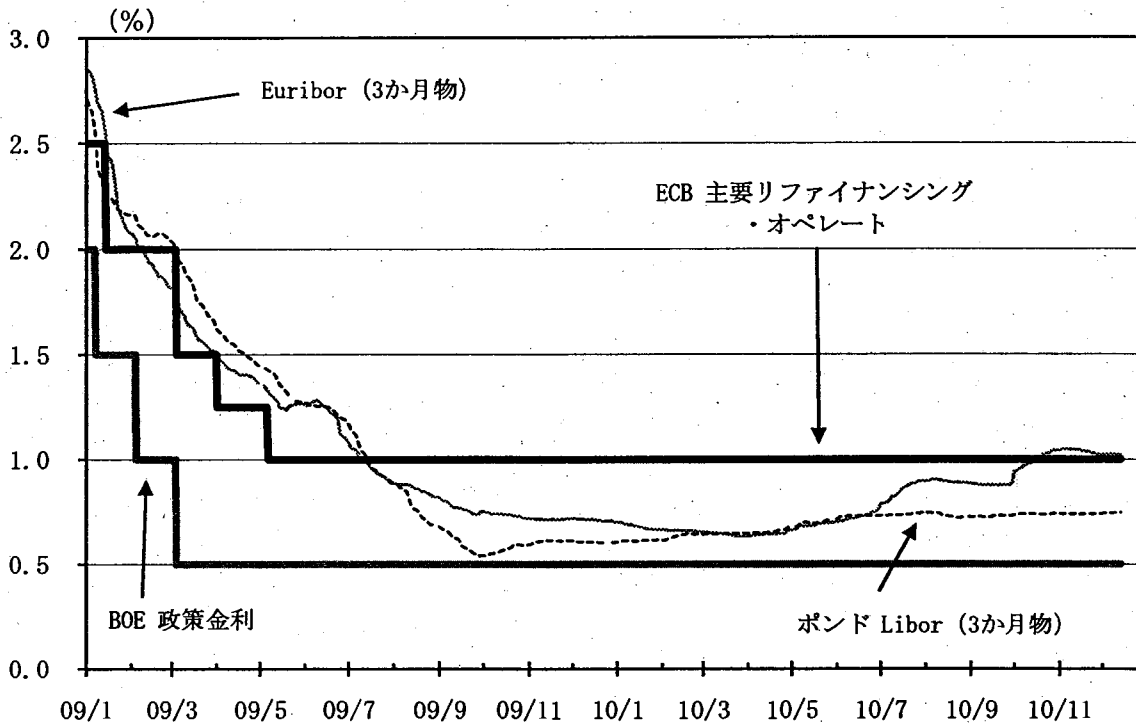
(13) 消費者物価 (HICP)



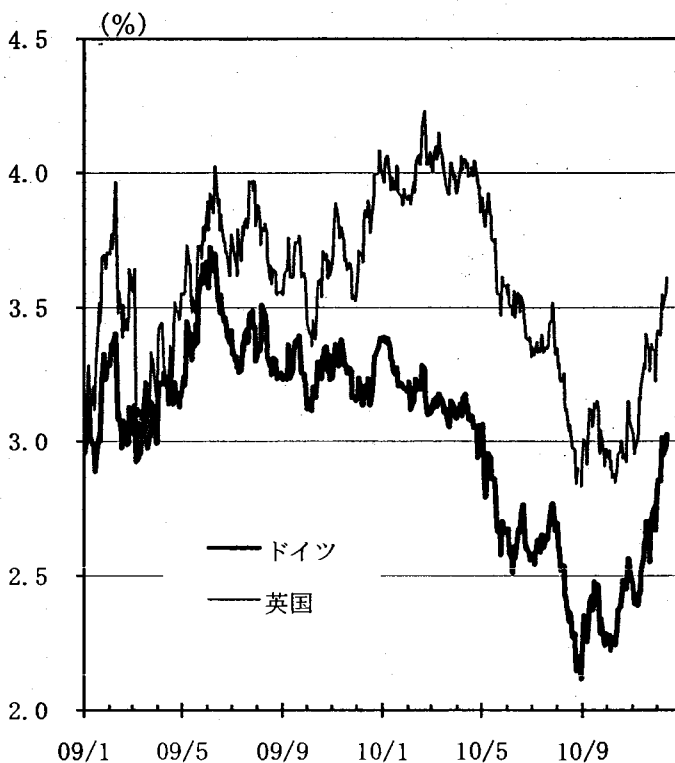
欧州の金融市場

金利 (欧州)

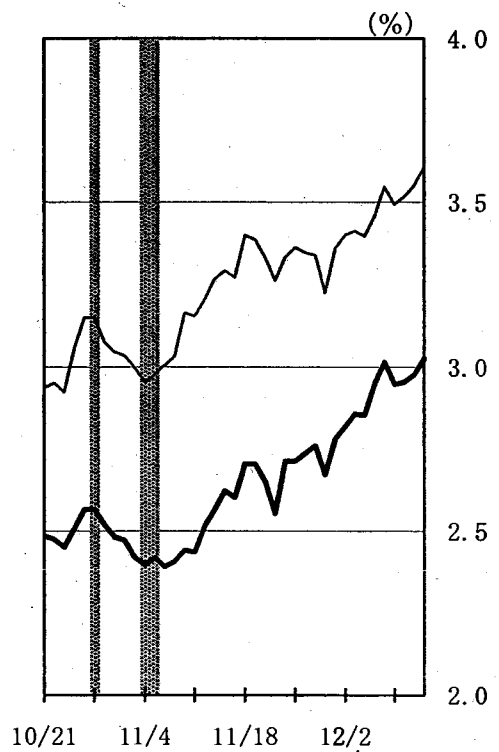
(1) 政策金利・短期金利 (ユーロエリア・英)



(2) 長期金利 (10年物国債利回り、独・英)



<最近の動き>



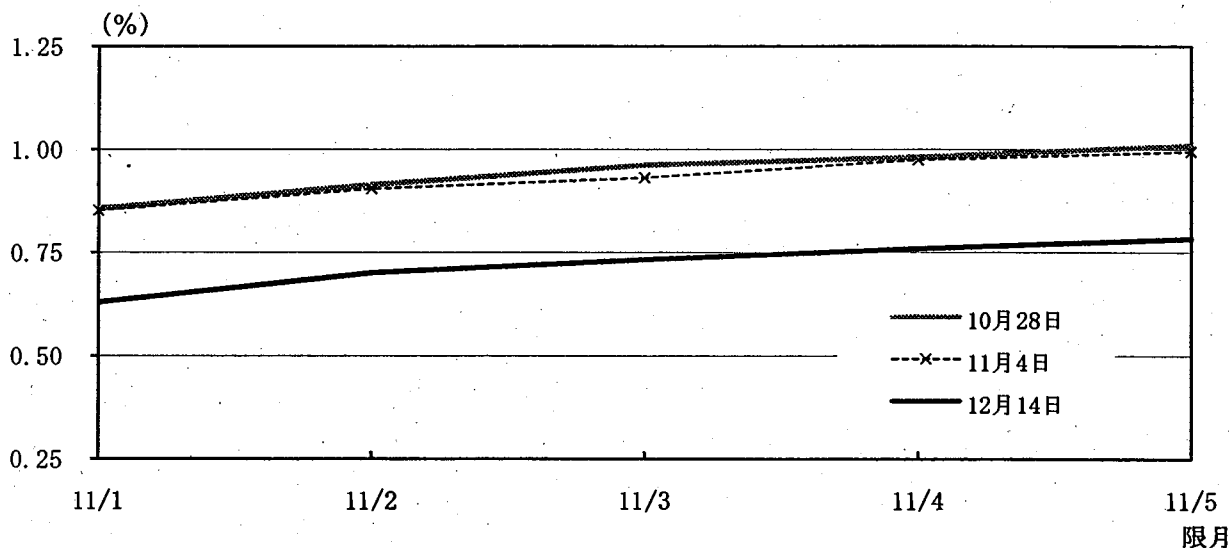
(注) シャドーは決定会合。

(出所) Bloomberg

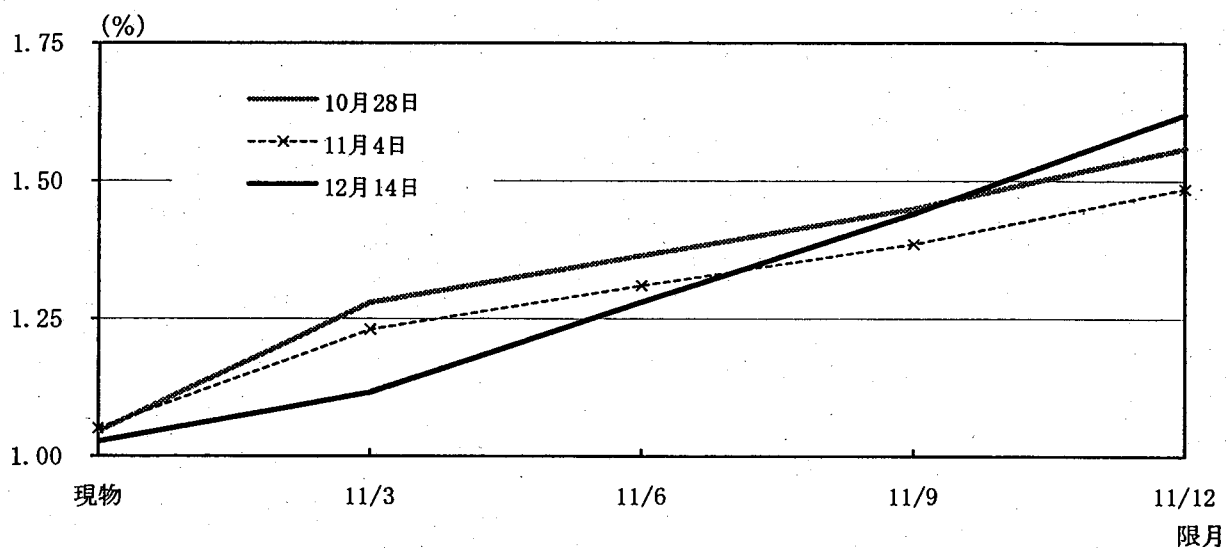
いずれも直近は12月14日

先行きの金利観 (ユーロエリア)

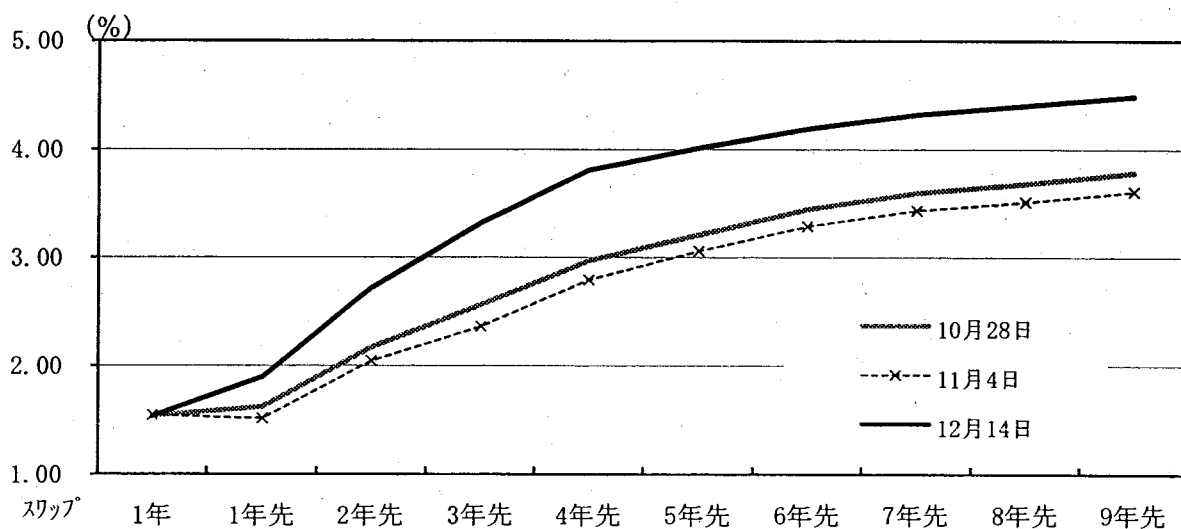
(1) EONIAスワップのインプライド・フォワード・レート (1か月物)



(2) Euribor先物金利 (3か月物)



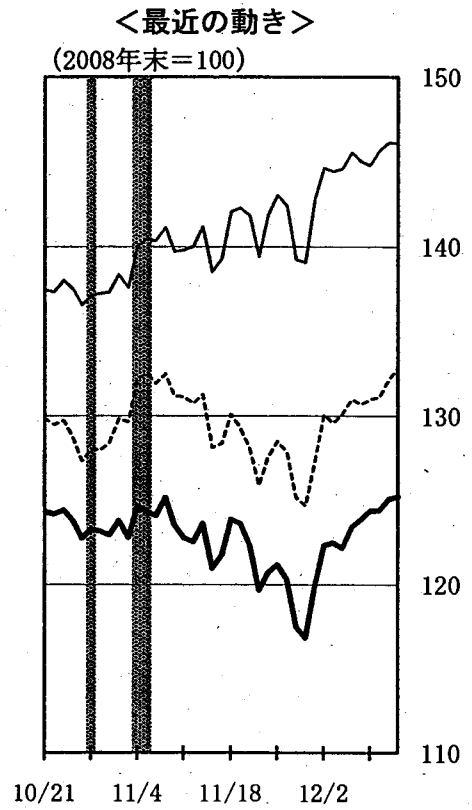
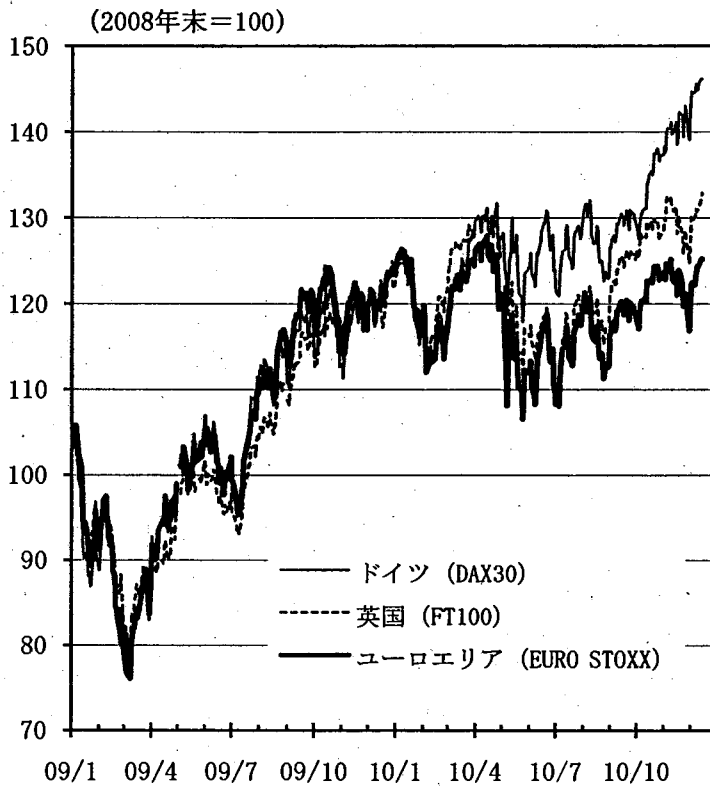
(3) インプライド・フォワード・レート (ユーロ・スワップ、1年物)



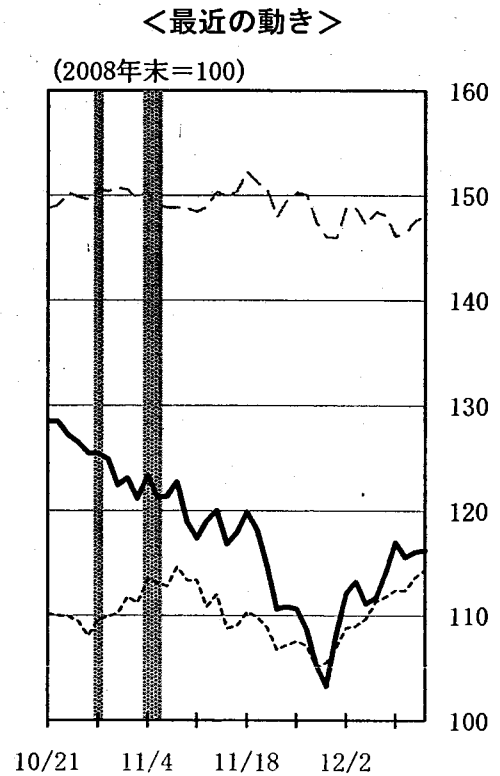
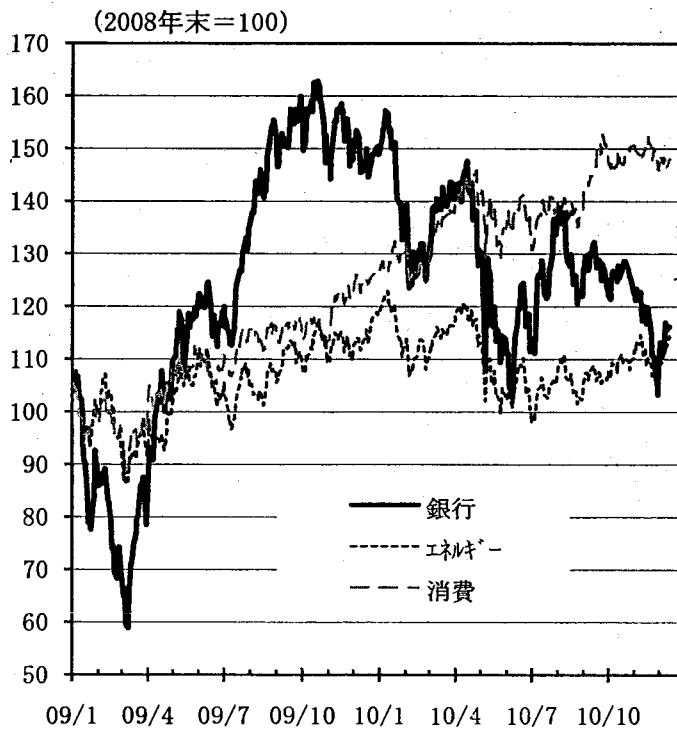
(出所) Bloomberg

株価 (欧州)

(1) 株価 (ユーロエリア・独・英)



(2) 業種別株価 (EURO STOXX)



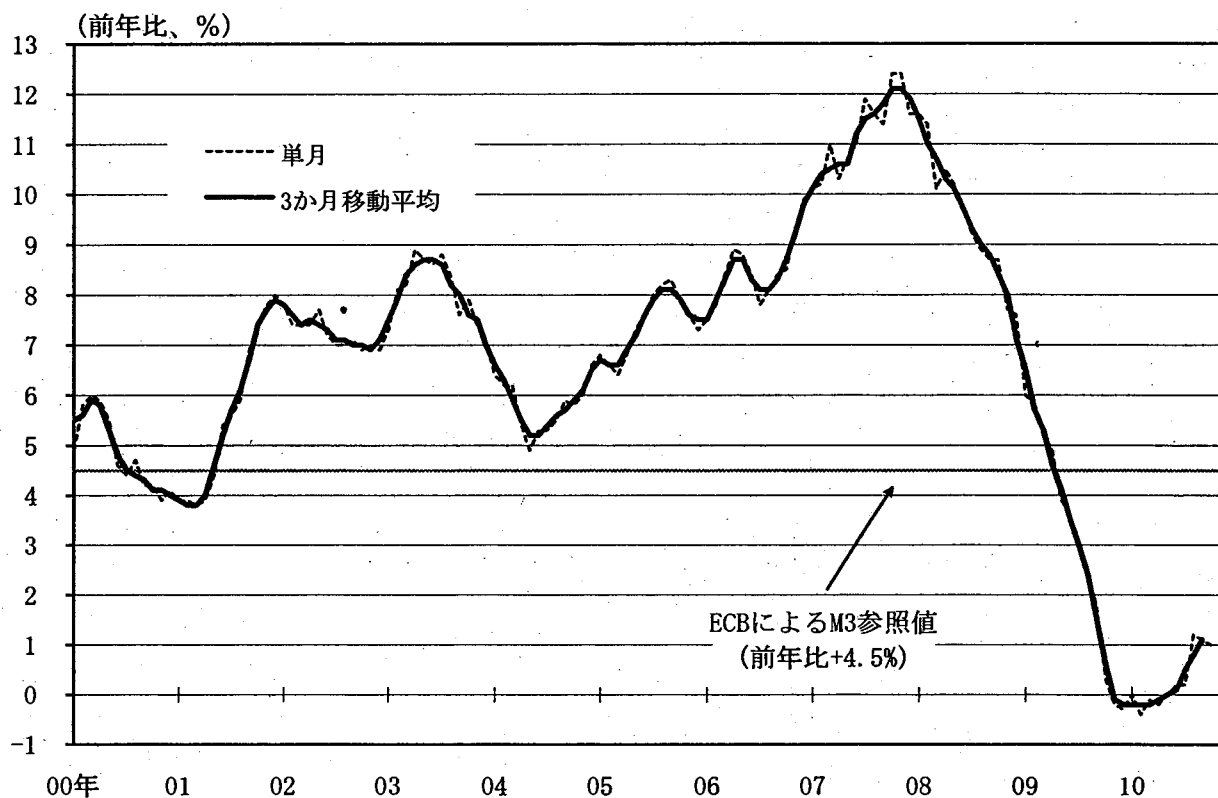
(注) シャドーは決定会合。

(出所) Bloomberg

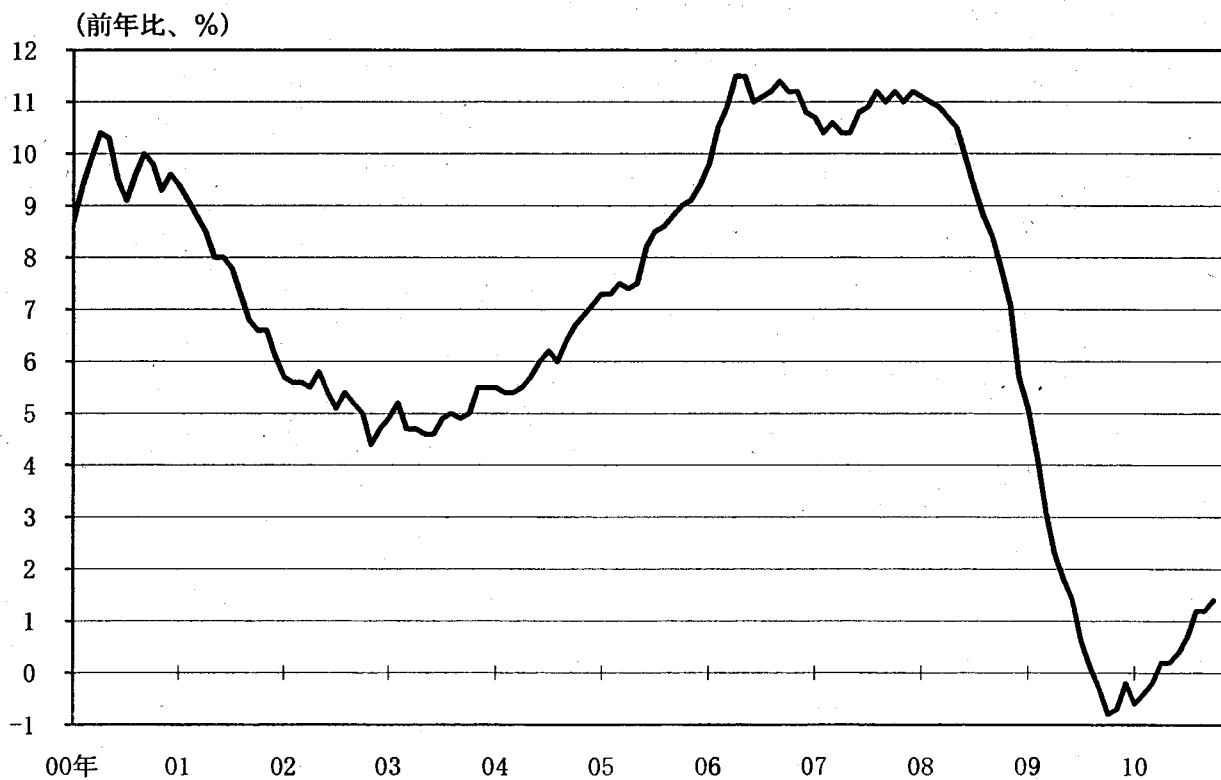
いずれも直近は12月14日

M3・貸出 (ユーロエリア)

(1) M3伸び率



(2) 対民間貸出伸び率

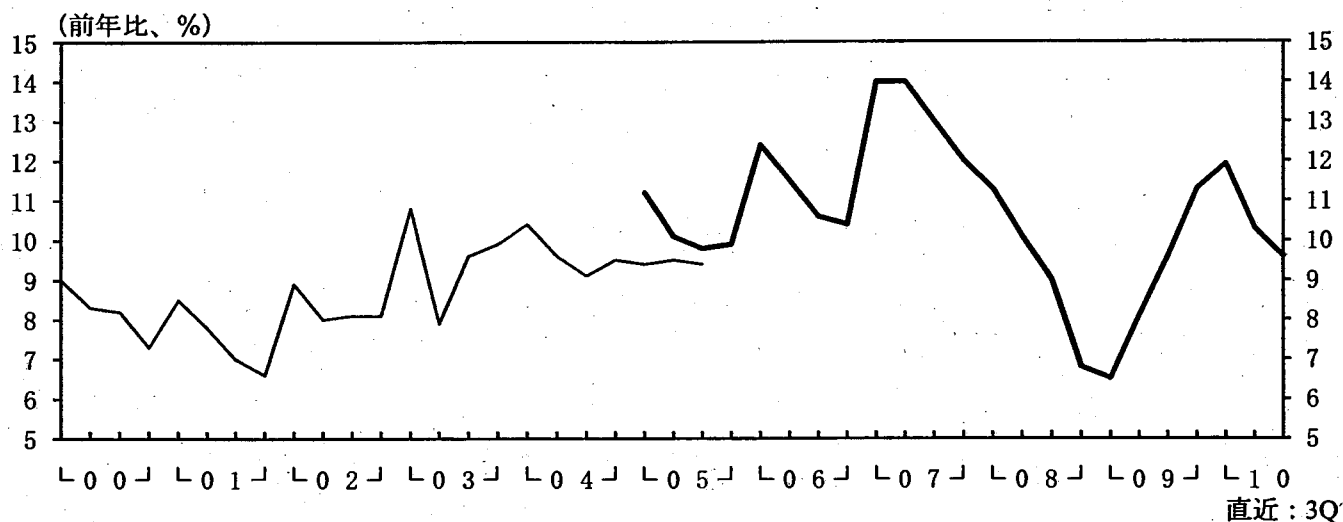


(出所) ECB

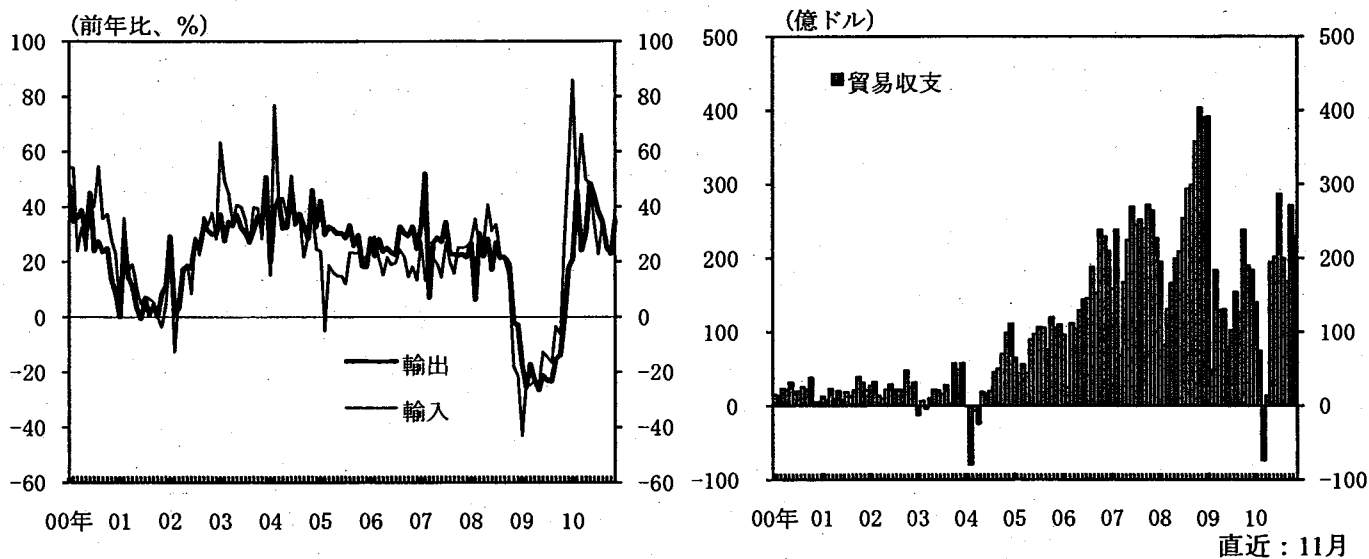
いずれも直近は10月

アジア諸国・地域の实体经济 中国(1)

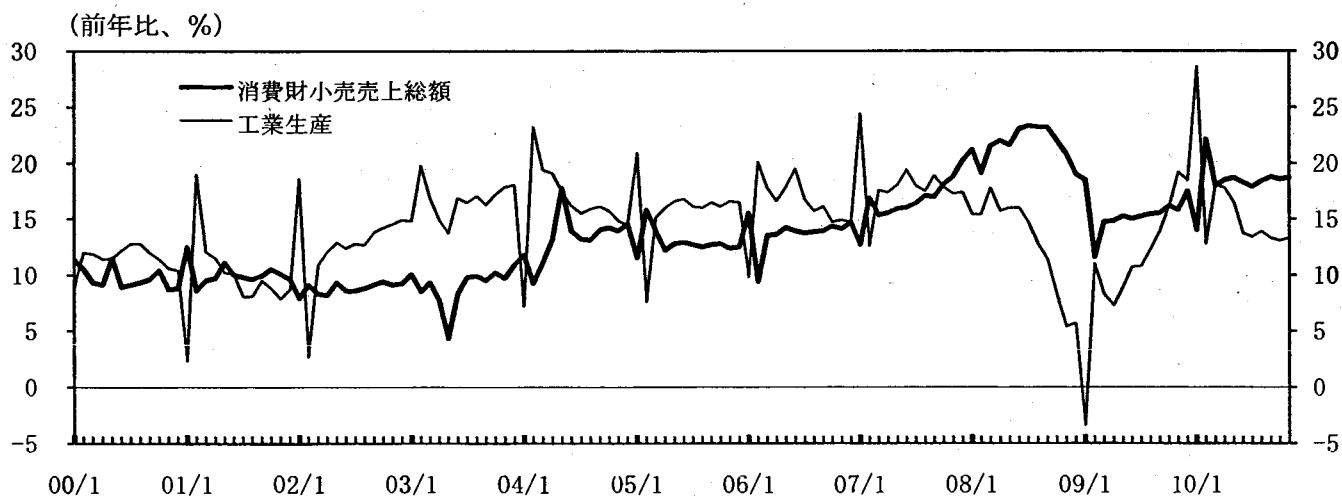
(1) 実質GDP



(2) 貿易



(3) 生産、個人消費



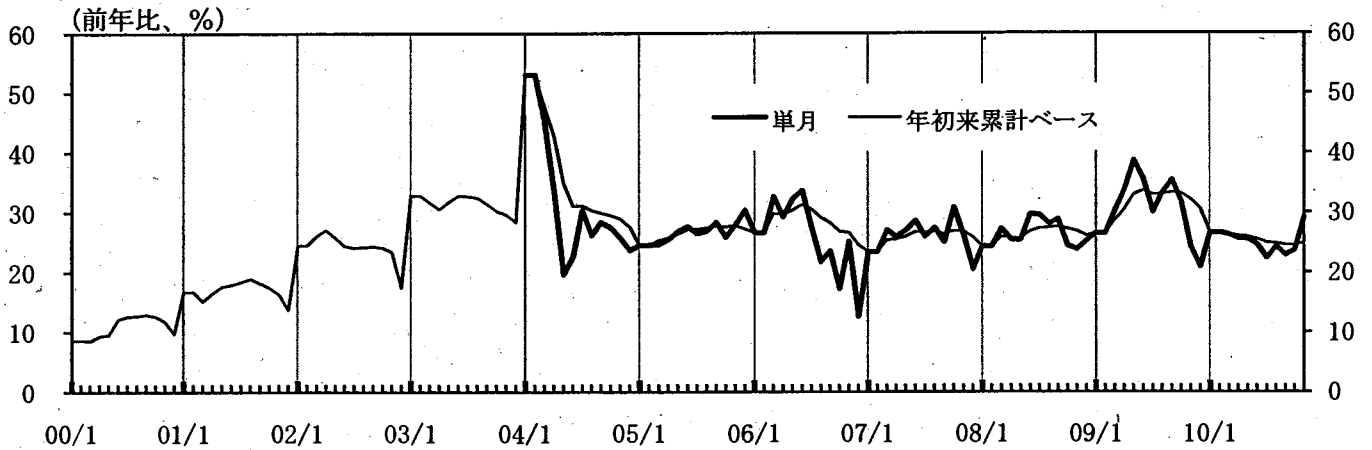
(注1) 1、2月の工業生産が大きく変動しているのは、旧正月要因。

直近: 11月

(注2) 工業生産の2007年以降の1月は、中国国家统计局が公表する1-2月累計値の前年比伸び率と2月の前年比伸び率を用いて当局で試算。

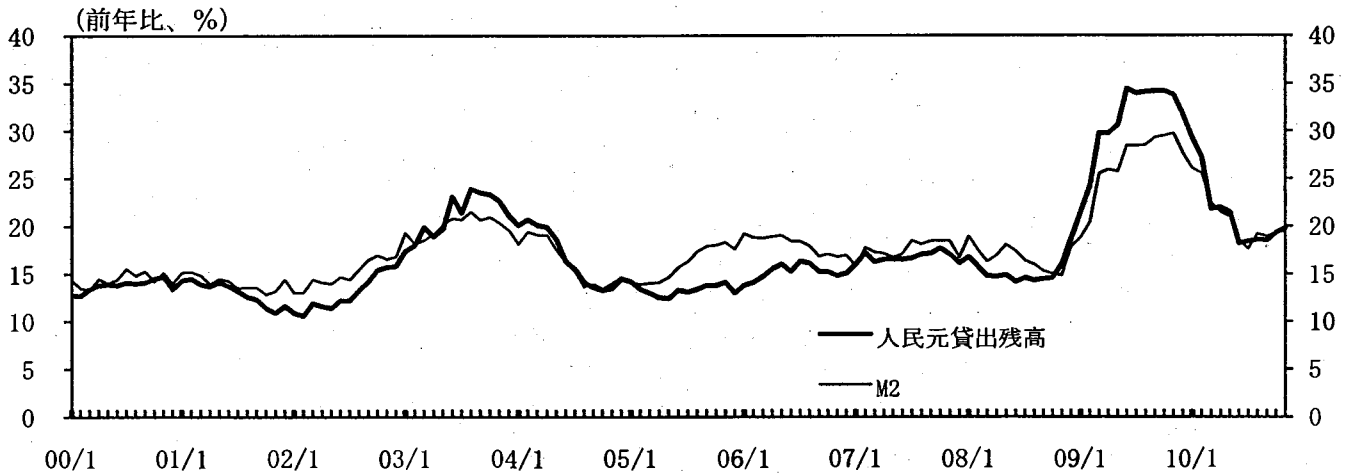
中国(2)

(1) 固定資産投資

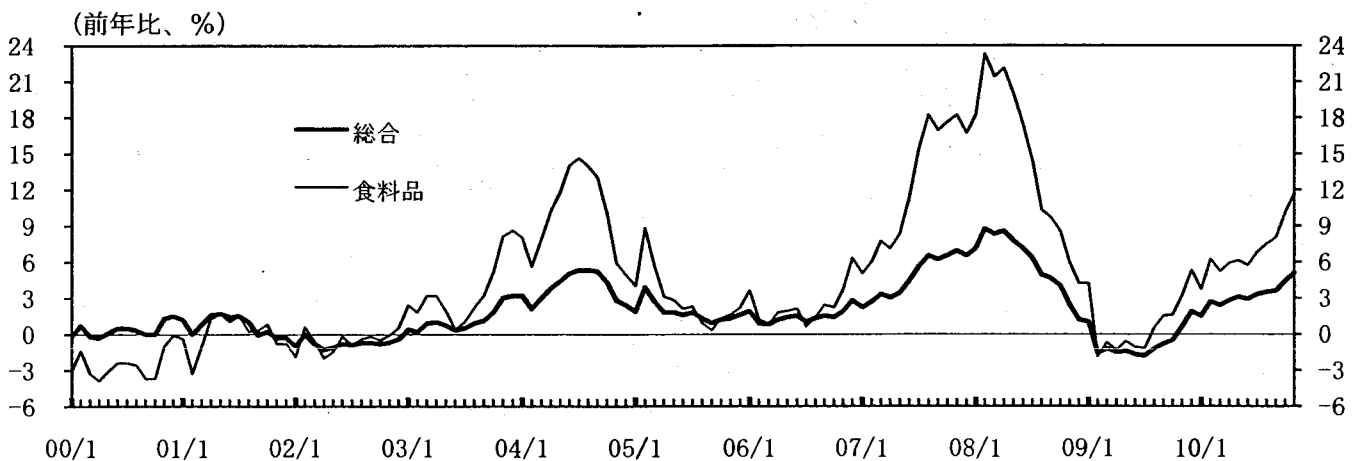


(注) 固定資産投資は、都市部。2003年までは、不動産開発を除き、都市部及び農村部の集団所有制企業と個人による投資を除外している。2004年以降は、都市部における50万元以上の全ての投資、不動産開発投資、都市の鉱工業区における民間住宅建設を含む。なお、1月単月の数値は公表されていないため、1~2月は等速と仮定している。

(2) M2と貸出

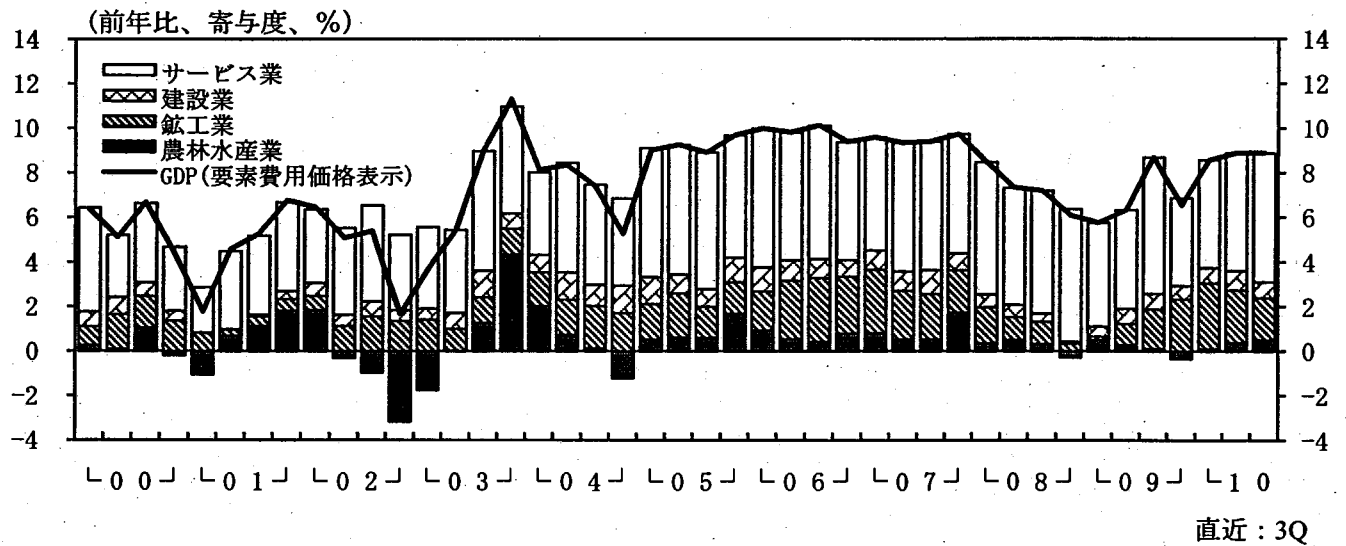


(3) 消費者物価

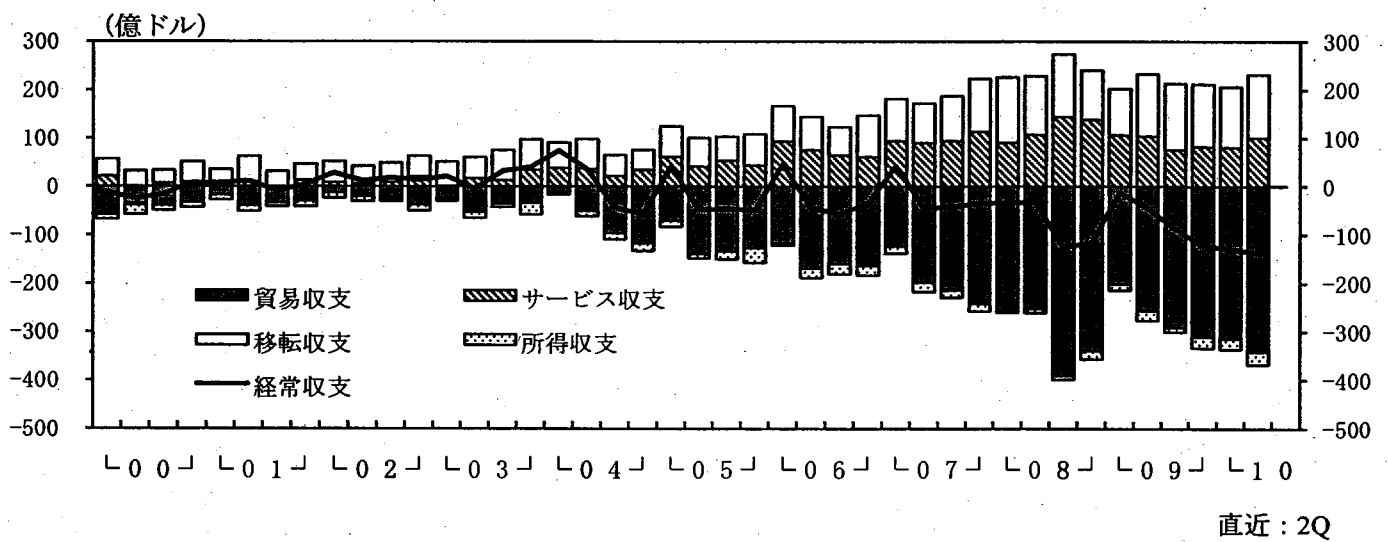


インド

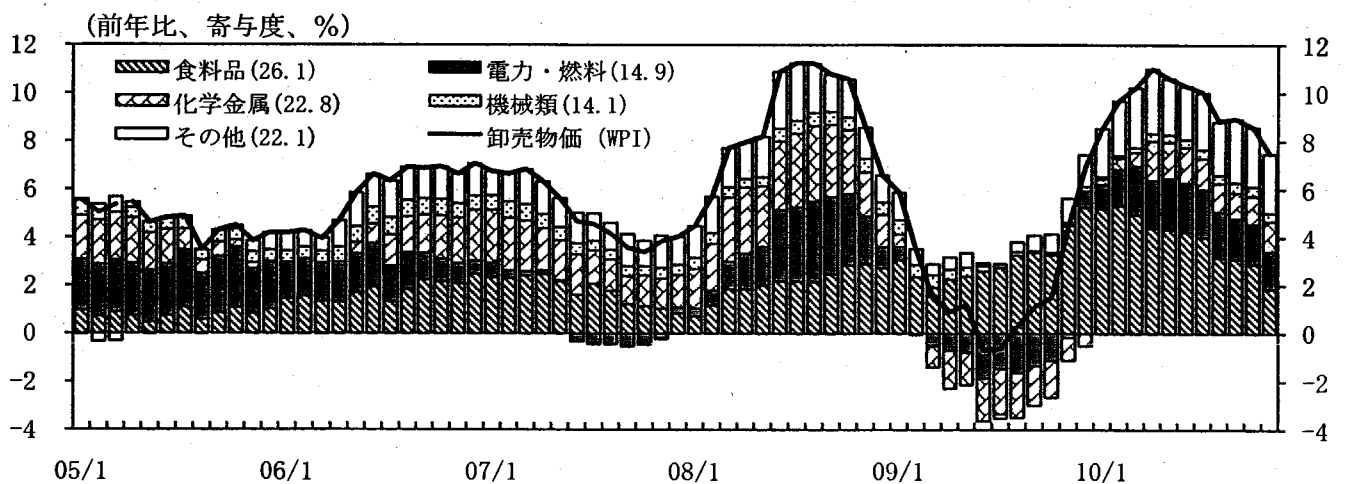
(1) 実質GDP (産業別寄与度)



(2) 経常収支



(3) 卸売物価 (WPI)



(注1) 食料品には加工食品、飲料・タバコを含む。カッコ内はウエイト。

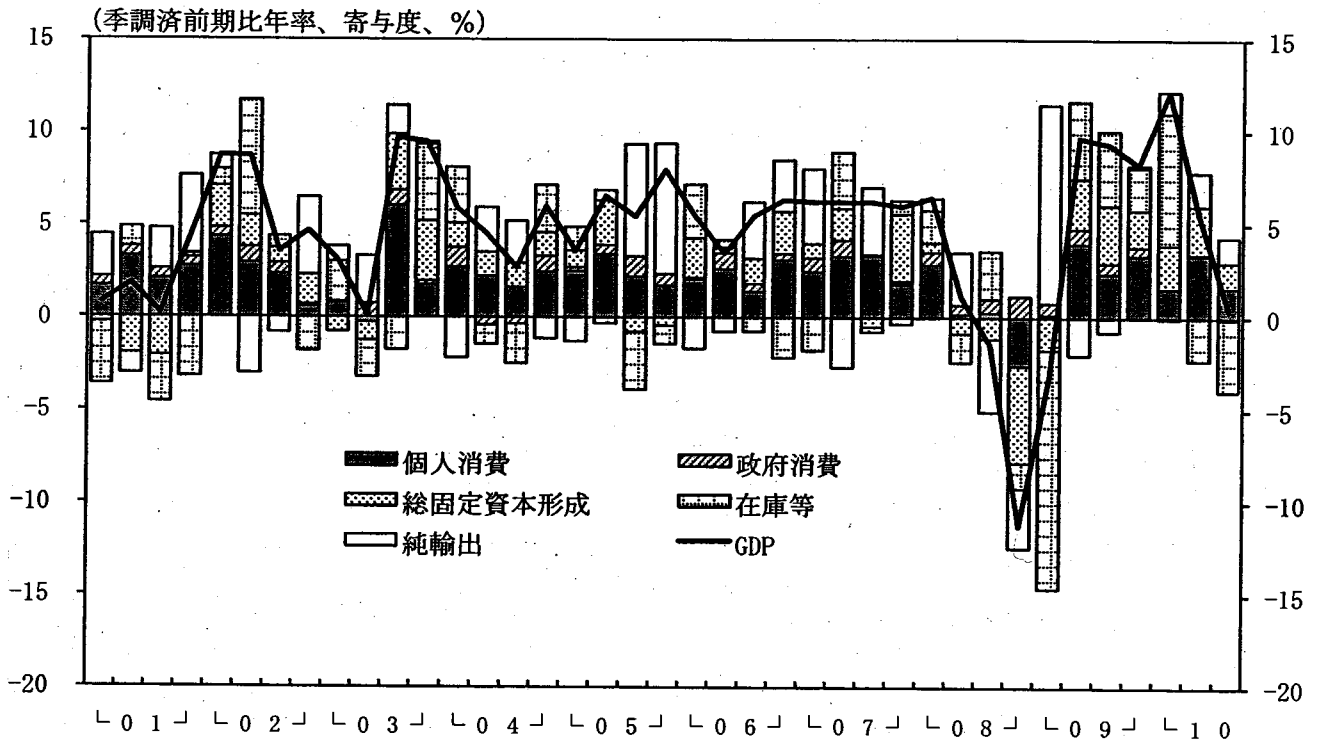
(注2) 2005年4月以前は旧基準。

直近: 11月

(図表 8-4)

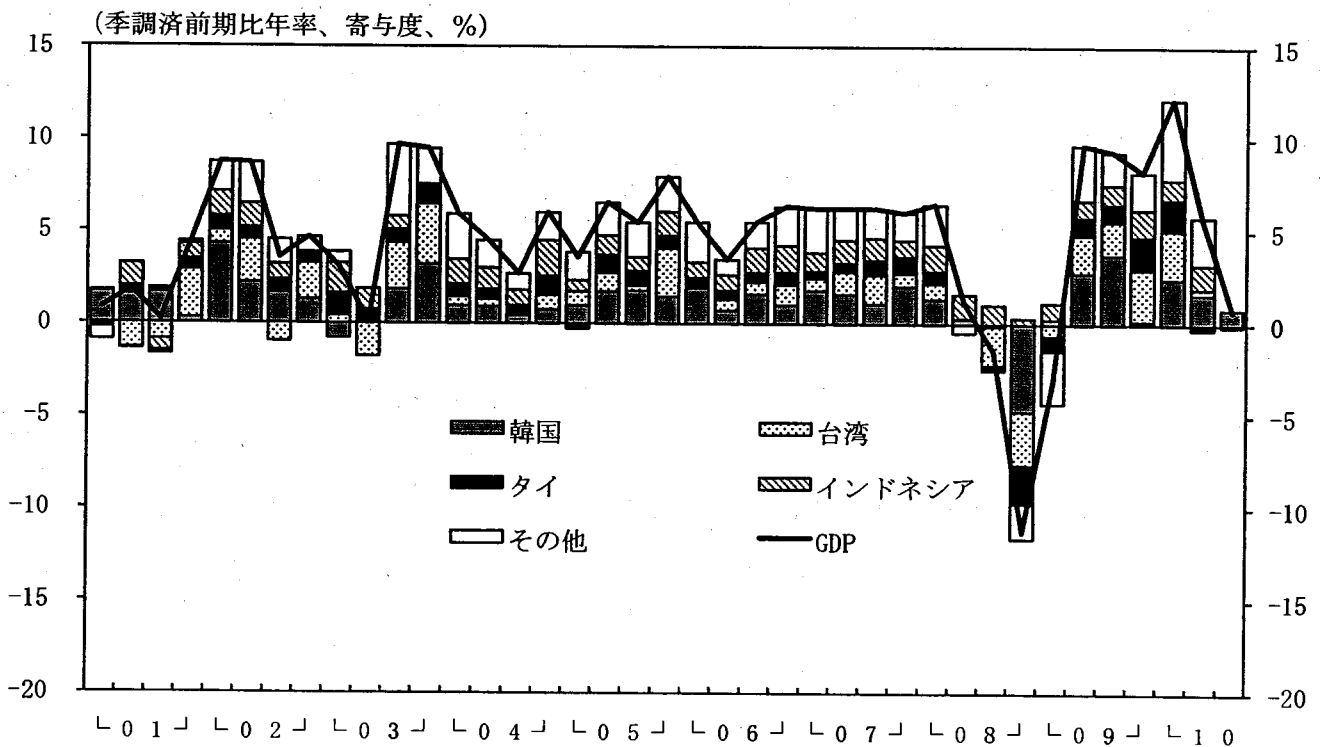
NIEs、ASEAN諸国・地域の実質GDP成長率

(1) NIEs、ASEAN (需要項目別寄与度)



直近: 3Q

(2) NIEs、ASEAN (国・地域別寄与度)



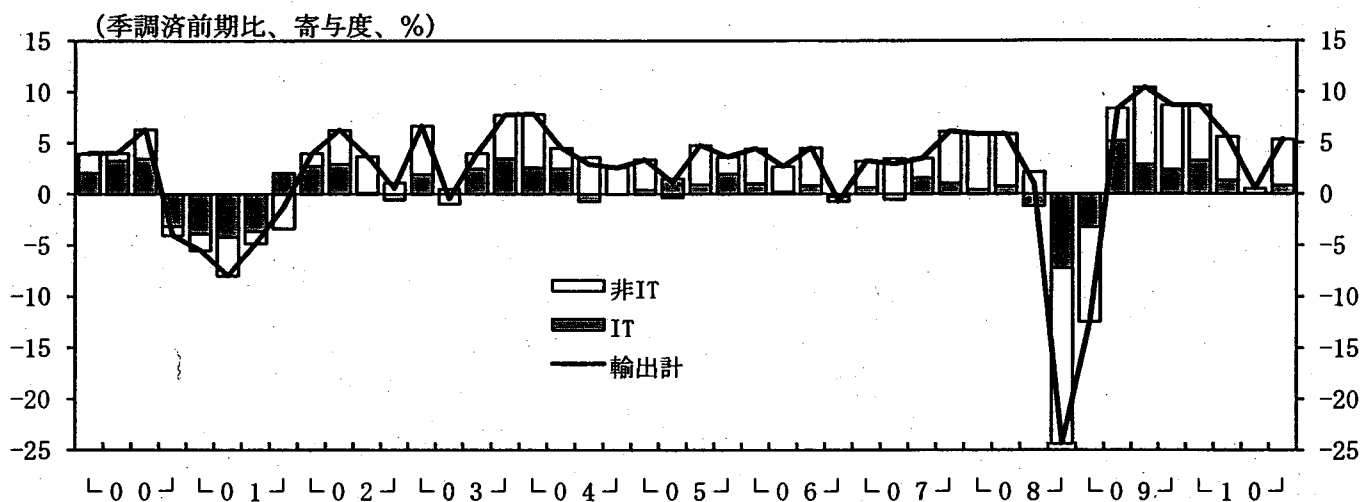
直近: 3Q

(注1) 全体の前期比年率は、各国・地域の季調済前期比年率を購買力平価換算 (IMF算出) によるGDPウェイトで加重平均した値。

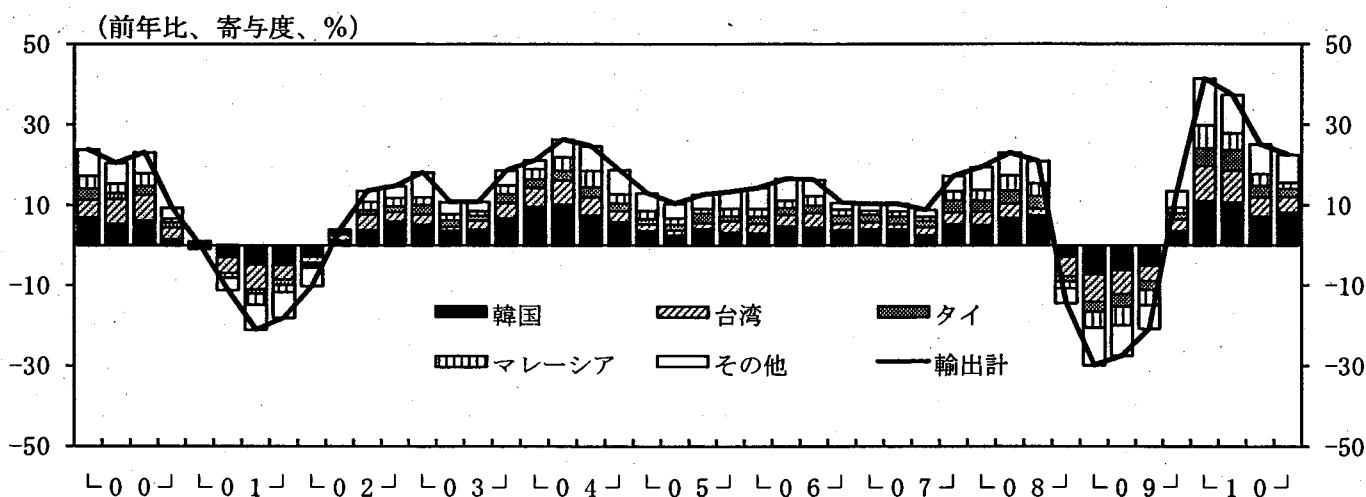
(注2) 図表 (1) の在庫等には、統計誤差を含む。

NIEs、ASEAN諸国・地域の輸出合成指数 (NIEs4・ASEAN4)

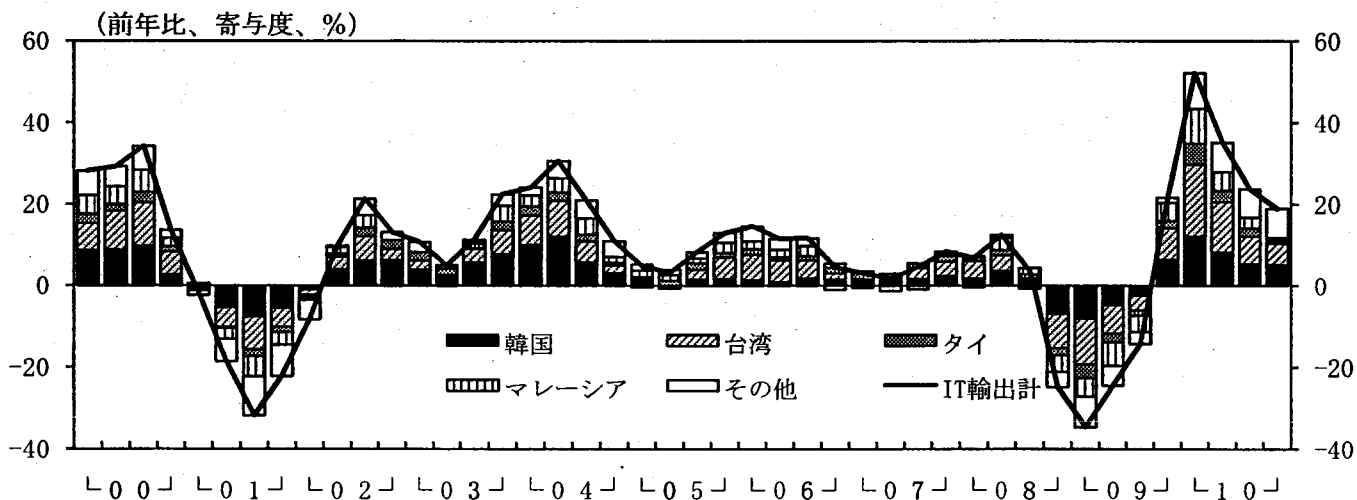
(1) 輸出全体 (前期比)



(2) 輸出全体 (前年比)



(3) IT関連輸出 (前年比)



(注1) 直近4Qは、10月の値。なお、公表のタイミングが遅い一部データは、前月の前年比で横置きしている。

(注2) NIEs4は、韓国、台湾、シンガポール、香港、ASEAN4は、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン。

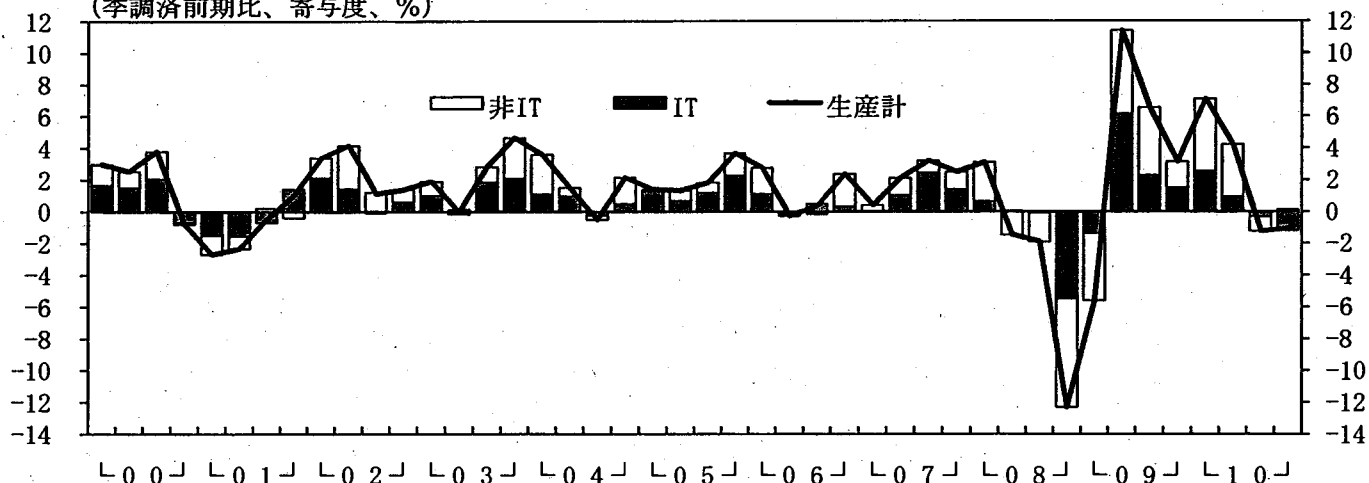
(注3) 季調済前期比は、X-12-ARIMAによる。IT輸出の寄与度は、X-12-ARIMAによる季調済のIT輸出金額を用いて算出し、非ITは輸出全体からIT輸出の寄与度を差し引いて算出した。

(注4) 全て金額ベース。

NIEs、ASEAN諸国・地域の生産合成指数 (NIEs3・ASEAN3)

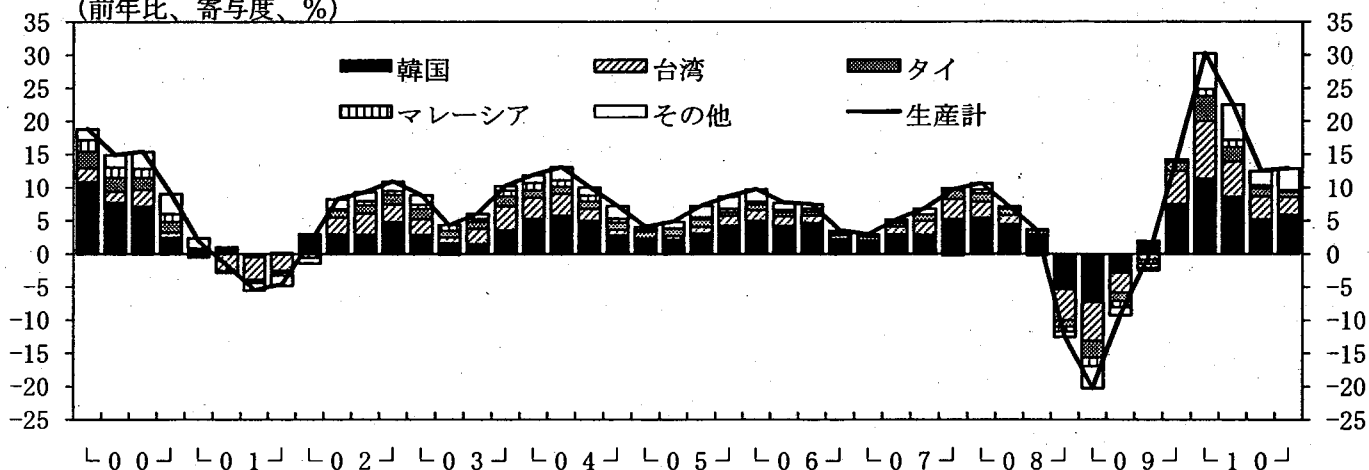
(1) 生産全体 (前期比)

(季調済前期比、寄与度、%)



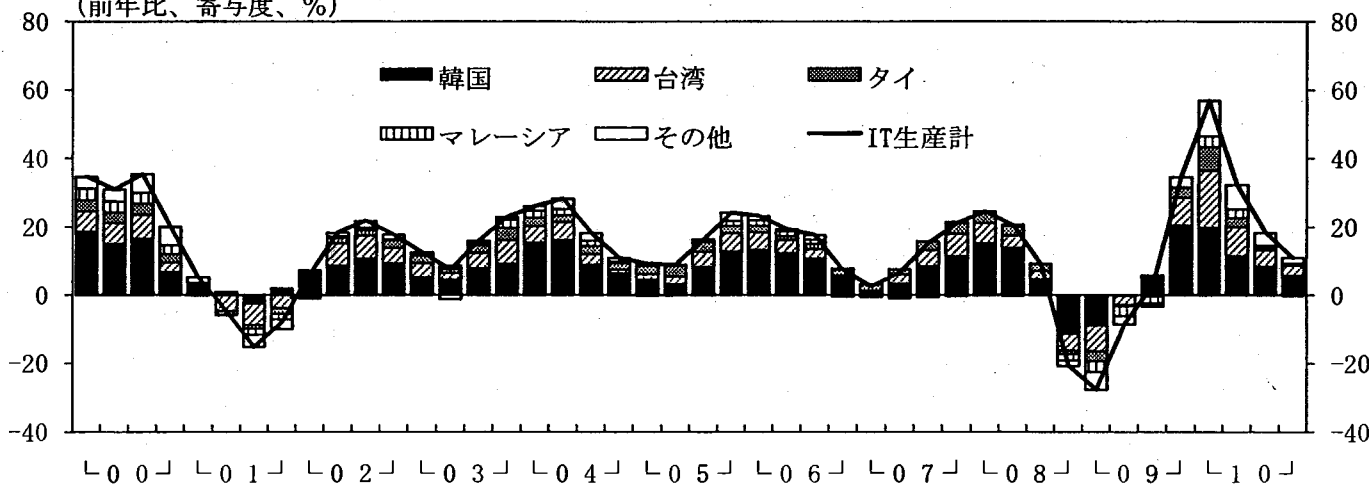
(2) 生産全体 (前年比)

(前年比、寄与度、%)



(3) IT関連生産 (前年比)

(前年比、寄与度、%)



(注1) 直近4Qは、10月の値。なお、公表のタイミングが遅い一部データは、未季調値は前月の前年比、季調値は前月の値で横置きしている。

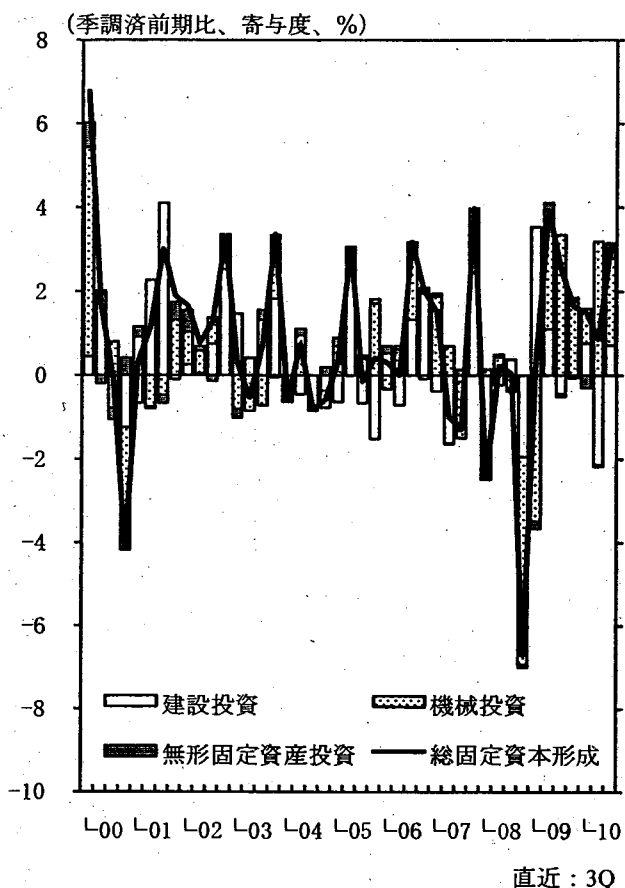
(注2) NIEs3は、韓国、台湾、シンガポール、ASEAN3は、タイ、マレーシア、フィリピン。

(注3) 全体の前期比は、各国・地域の季調済前期比を名目GDPウェイト(ドル建名目GDPの世界計に対する各国シェアの後方3年移動平均を用いて算出)で加重平均した値。現地統計で季調値が公表されていないデータは、X-12-ARIMAによる当局算出値。生産全体に対するITの内訳寄与度は、各国・地域の生産指数のIT関連品目の伸び率およびウェイトを用いて寄与度を計算し、それを名目GDPウェイトで加重平均して算出した。

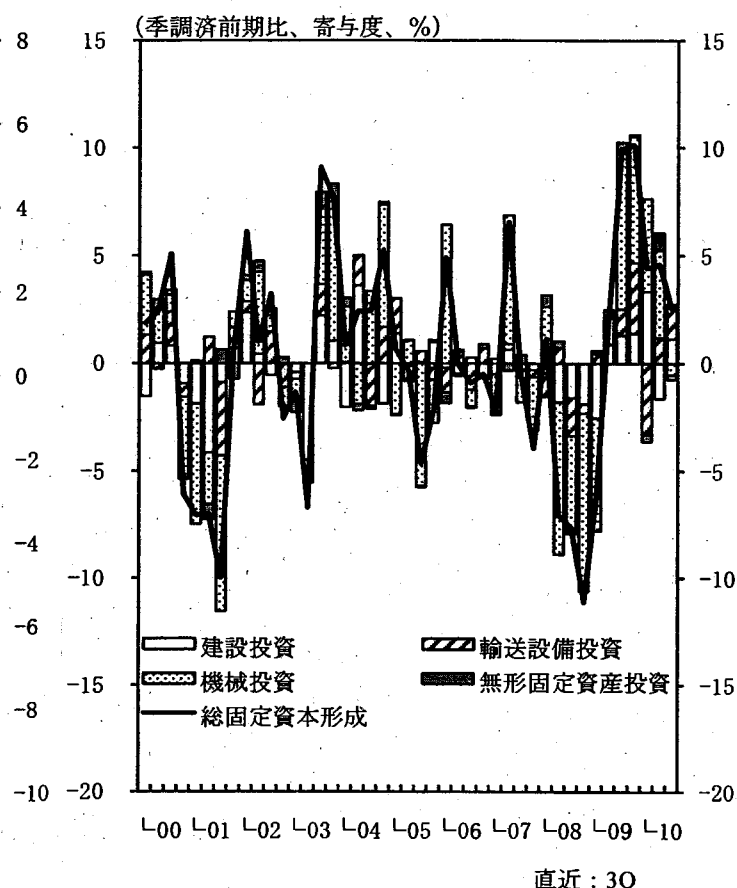
(注4) 全て数量ベース。

NIEs、ASEAN諸国・地域の総固定資本形成、家計支出関連指標

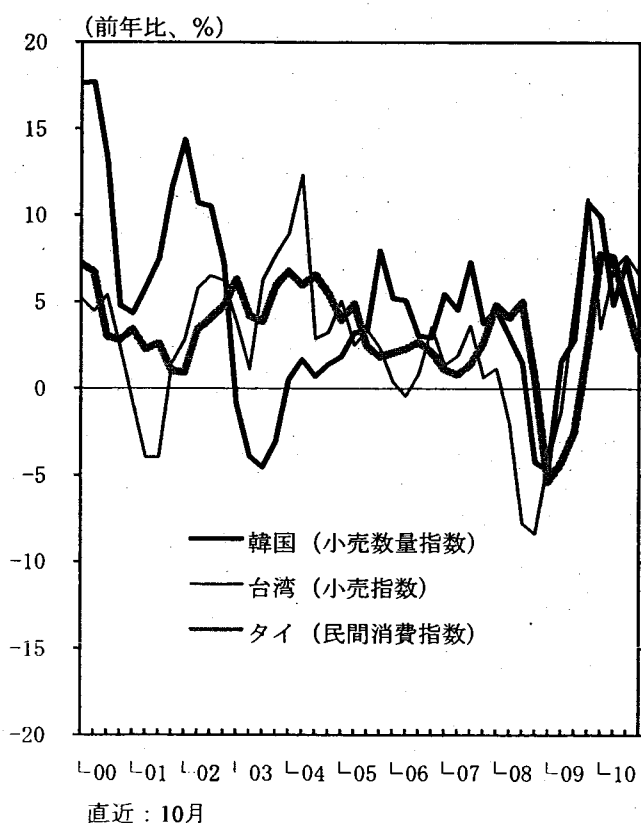
(1) 韓国の総固定資本形成



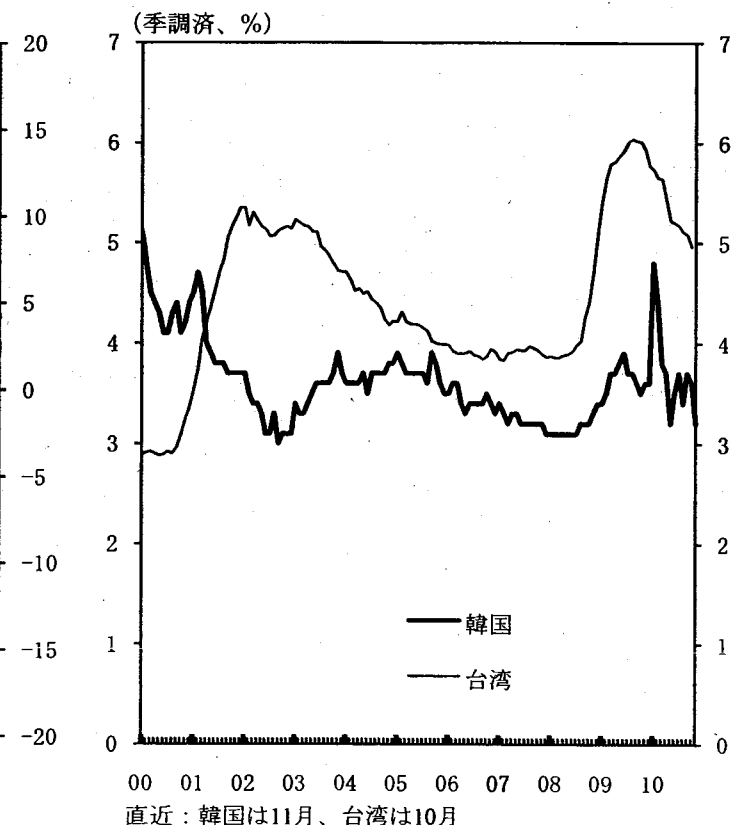
(2) 台湾の総固定資本形成



(3) 個人消費関連指標



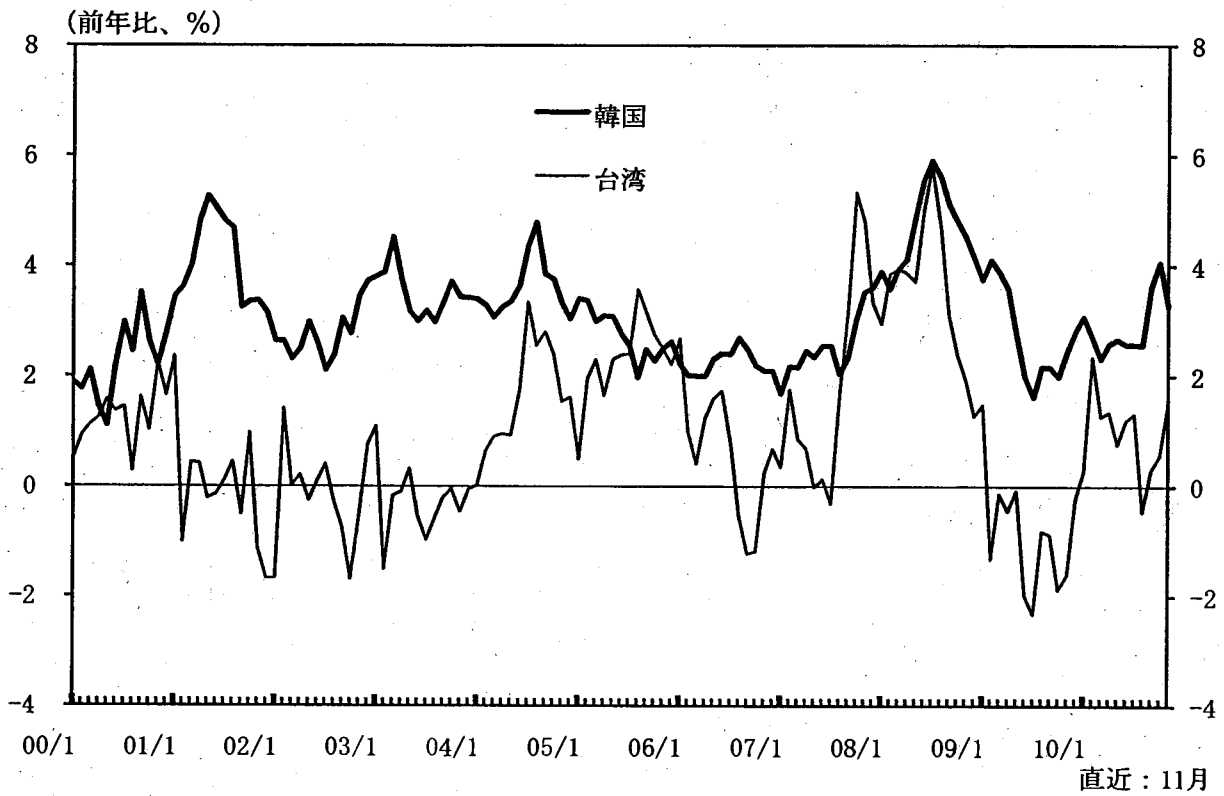
(4) 失業率



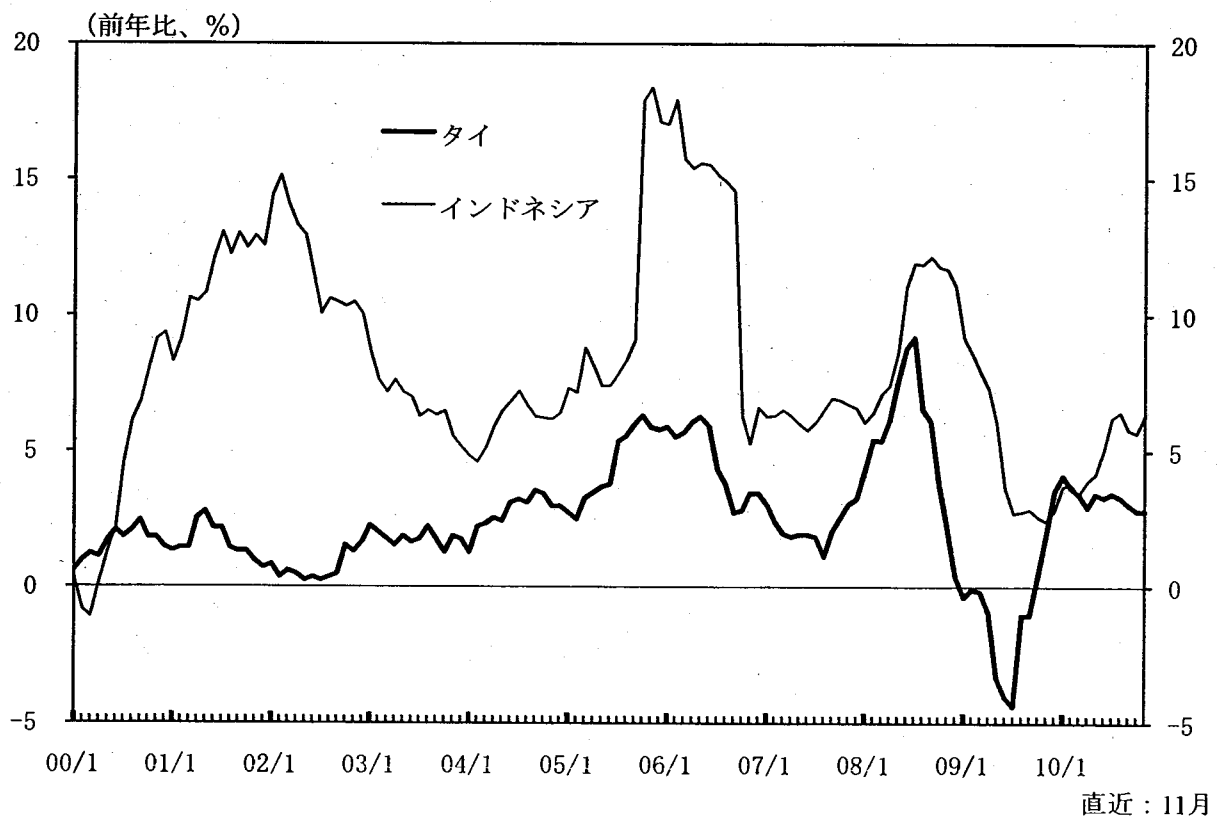
(注) 季節調整値は、台湾の総固定資本形成はX-11を用いて当局で算出、その他は現地統計。

NIEs、ASEAN諸国・地域の消費者物価

(1) NIEs (韓国・台湾)

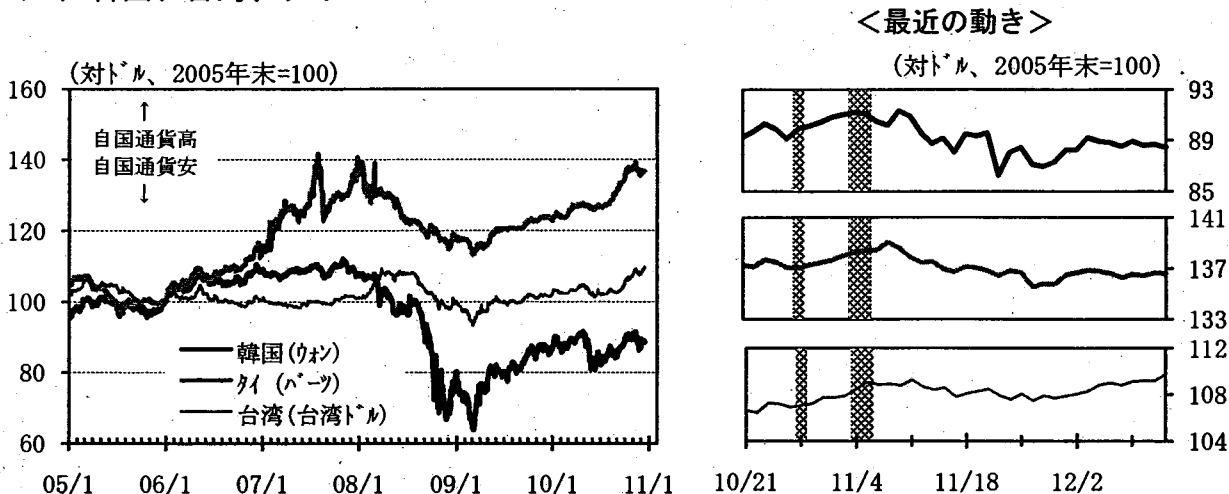


(2) ASEAN (タイ・インドネシア)

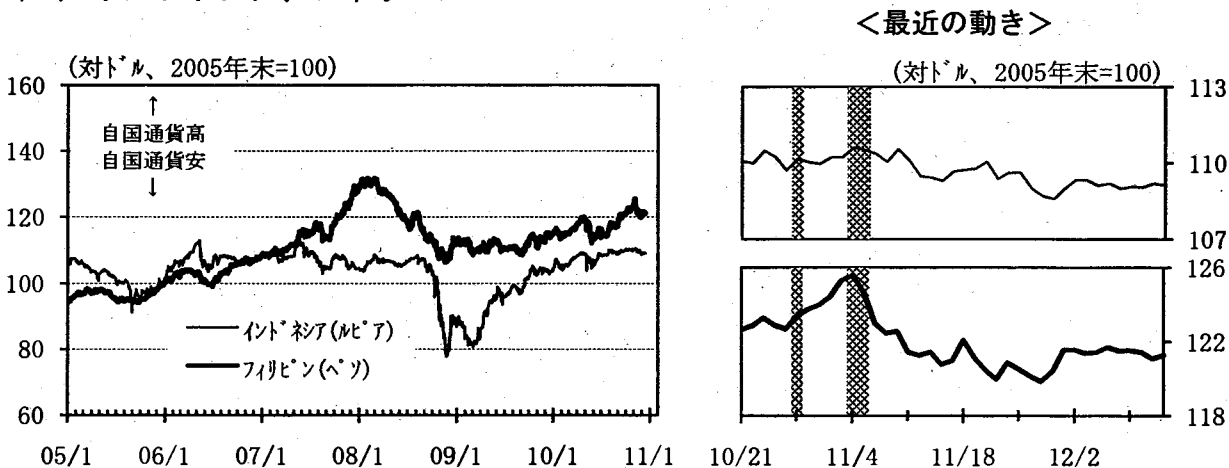


エマージング諸国・地域の金融市場 通貨(1)

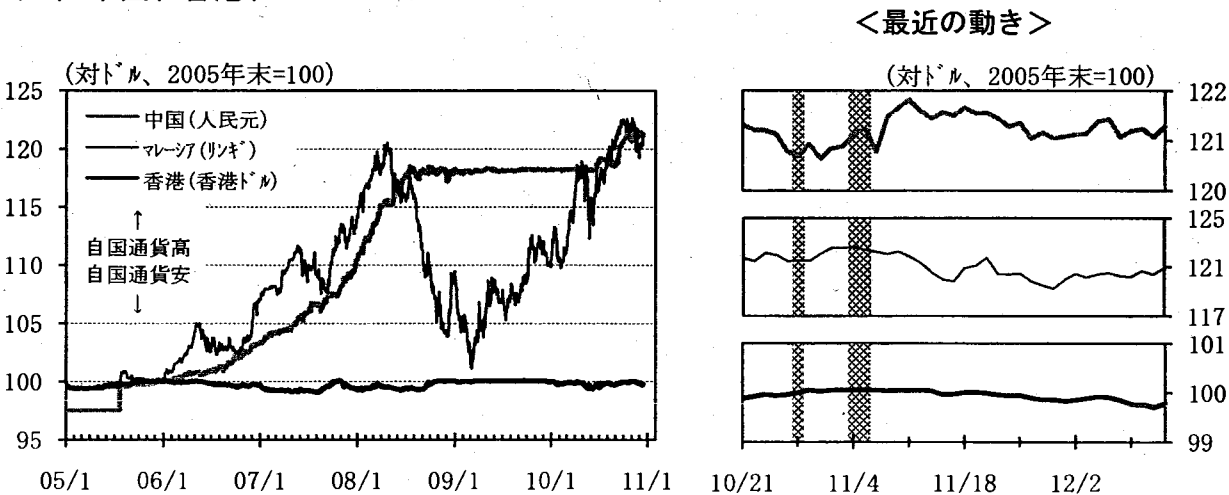
(1) 韓国、台湾、タイ



(2) インドネシア、フィリピン



(3) 中国、香港、マレーシア



いずれも直近は12月14日

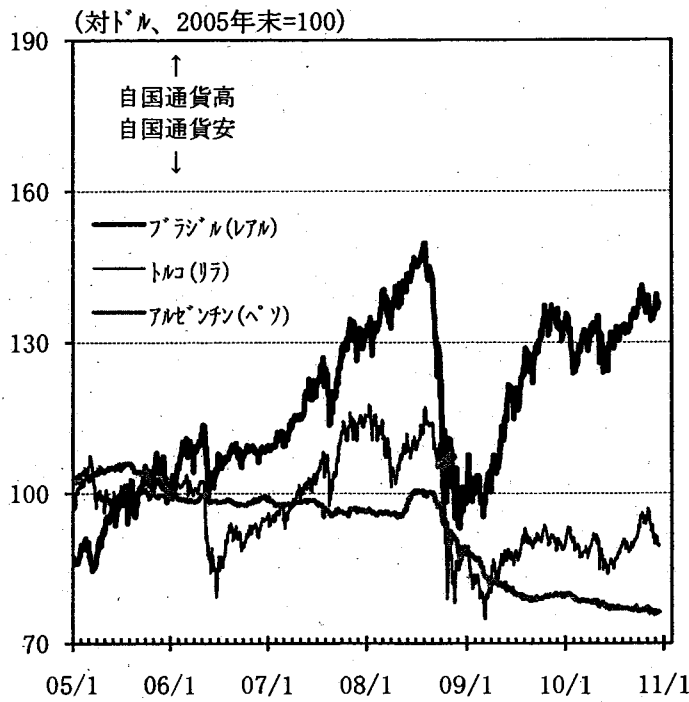
(注1) シャドーは決定会合。

(注2) タイ・バーツは2007年1月31日よりオフショア市場でのレートを用いている。

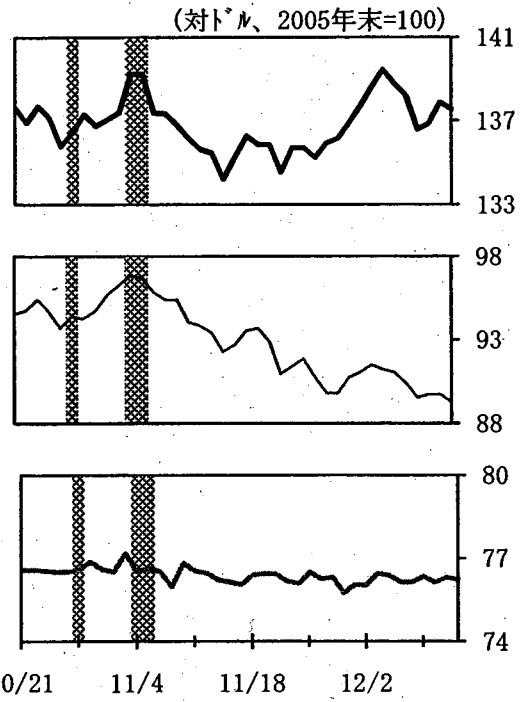
(出所) Bloomberg

通貨(2)

(4) ブラジル、アルゼンチン、トルコ



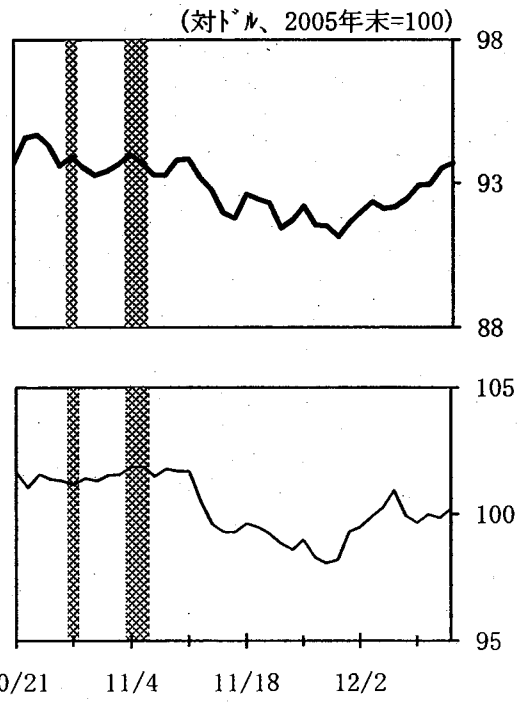
<最近の動き>



(5) ロシア、インド



<最近の動き>

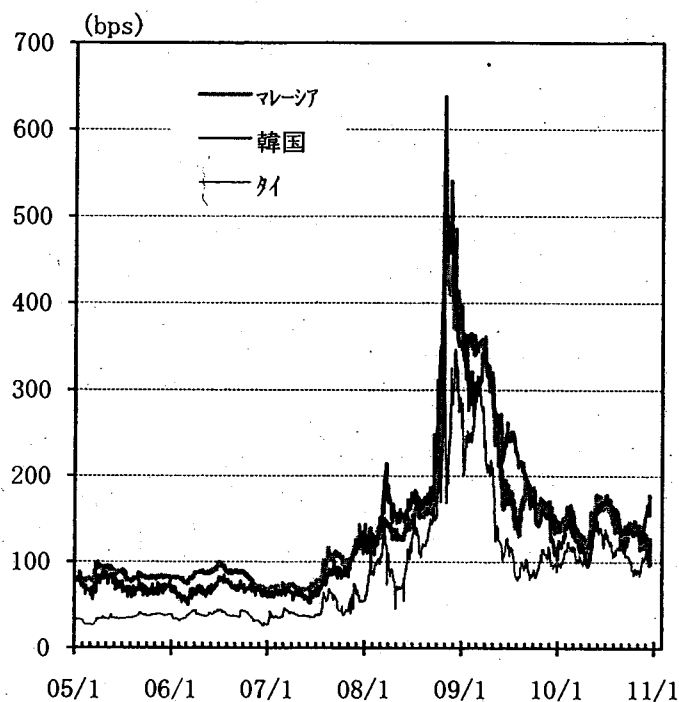


いずれも直近は12月14日

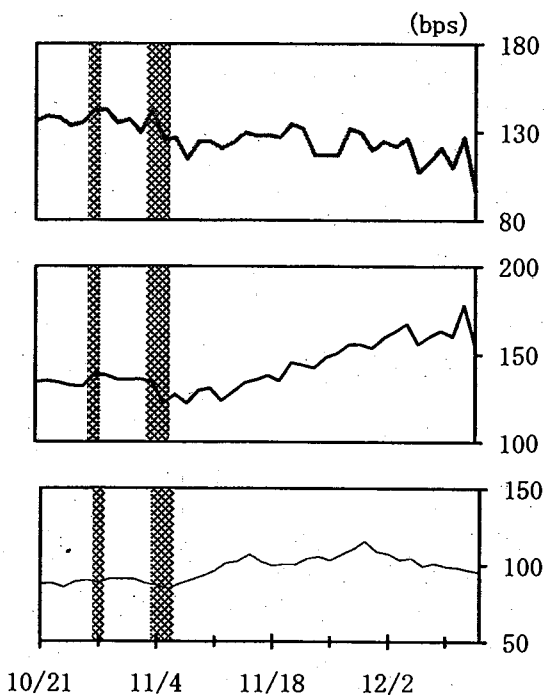
(注) シャドーは決定会合。
(出所) Bloomberg

対米国債スプレッド (1)

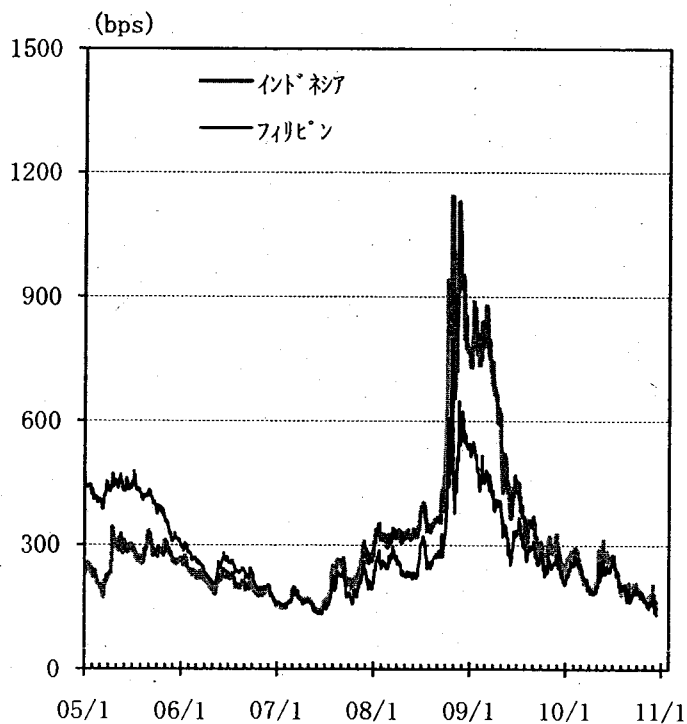
(1) 韓国、タイ、マレーシア



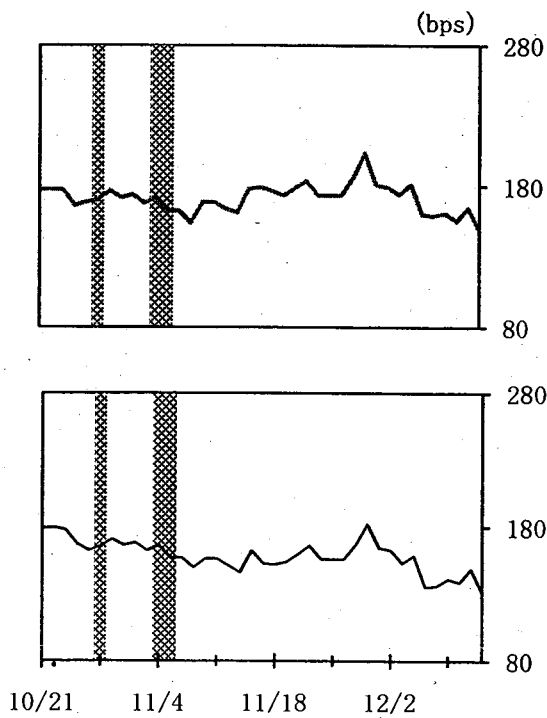
<最近の動き>



(2) インドネシア、フィリピン



<最近の動き>



いずれも直近は12月14日

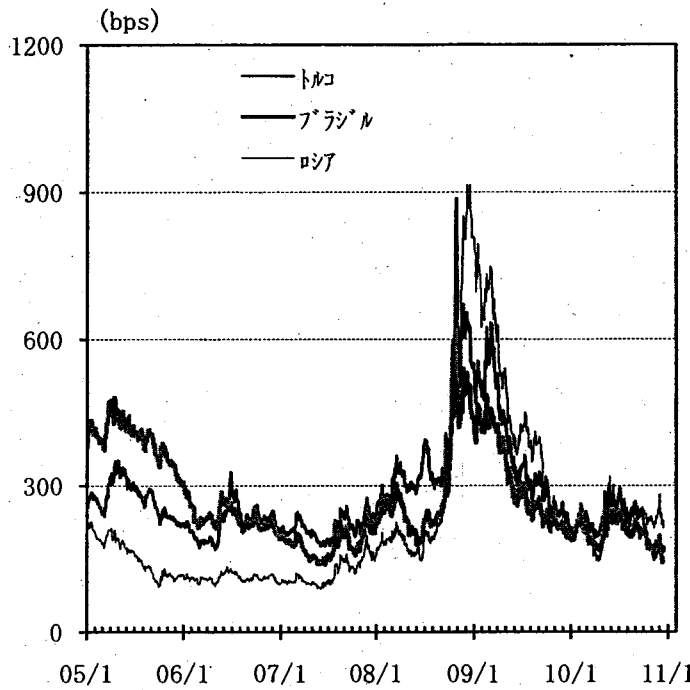
(注1) シャドーは決定会合。

(注2) タイは5年物CDSで代用。マレーシア、インドネシア、フィリピンはEMBI Global。

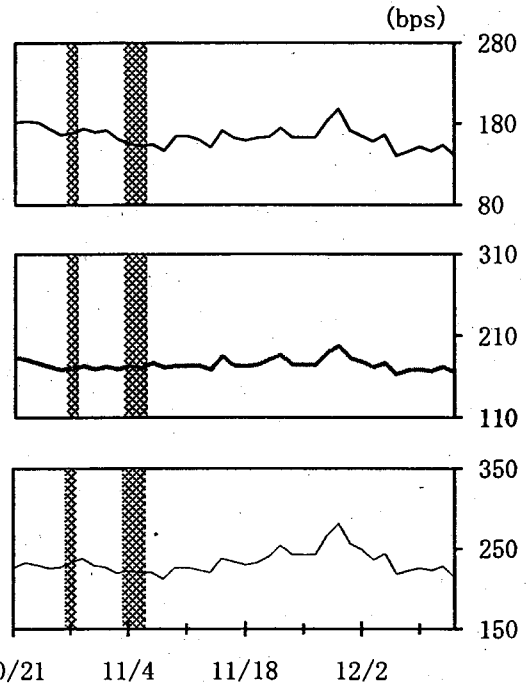
(出所) Bloomberg、Thomson Reuters Datastream

対米国債スプレッド (2)

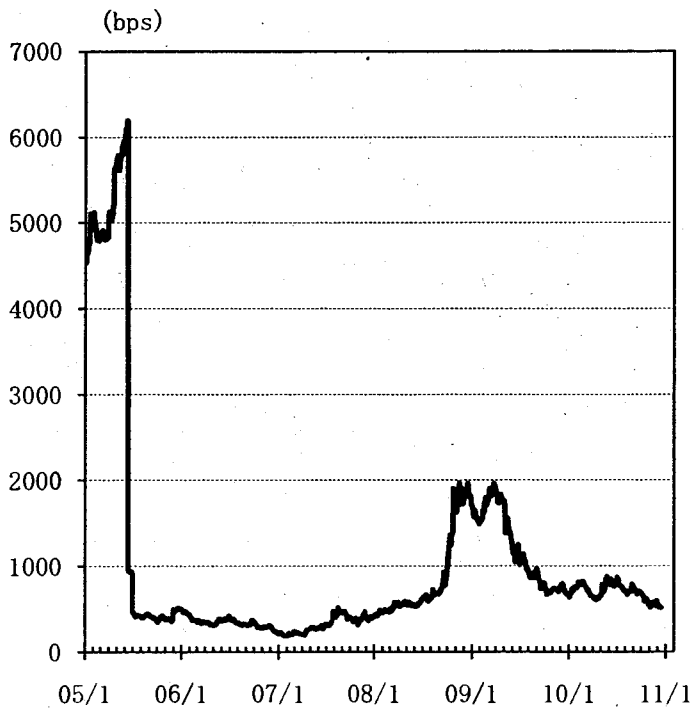
(3) ブラジル、ロシア、トルコ



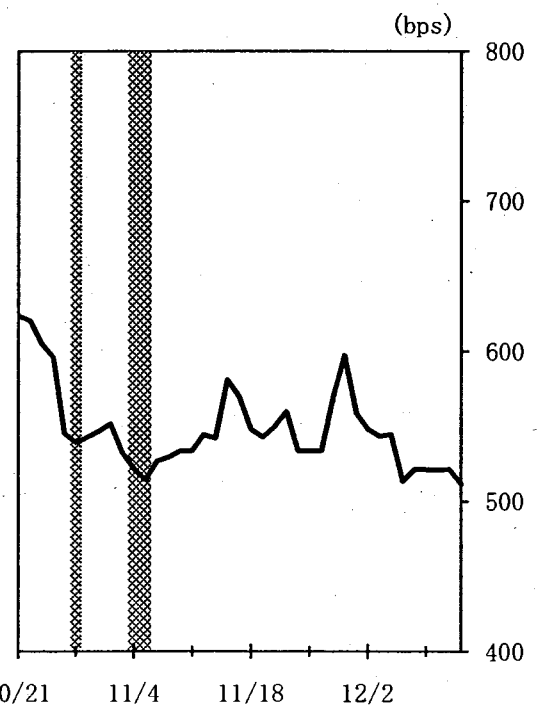
<最近の動き>



(4) アルゼンチン



<最近の動き>



いずれも直近は12月14日

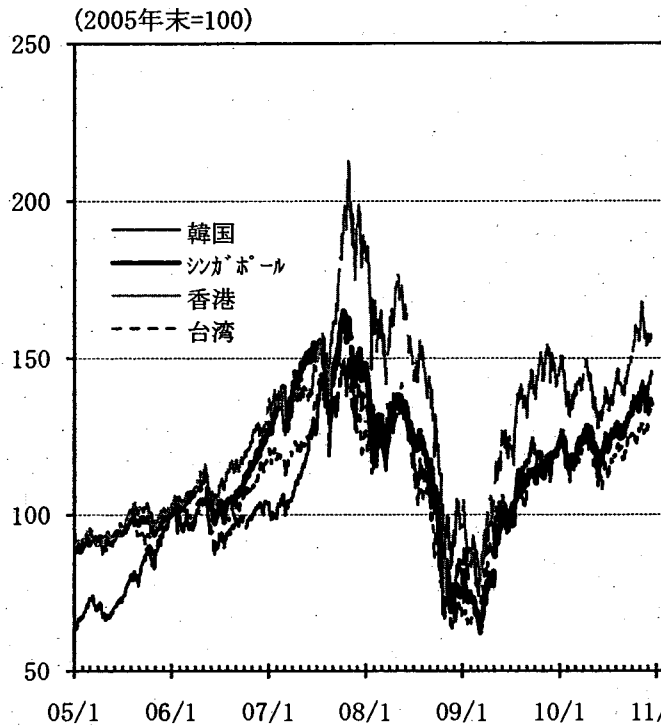
(注1) シャドーは決定会合。

(注2) ブラジル、ロシア、トルコ、アルゼンチンはEMBI Global。

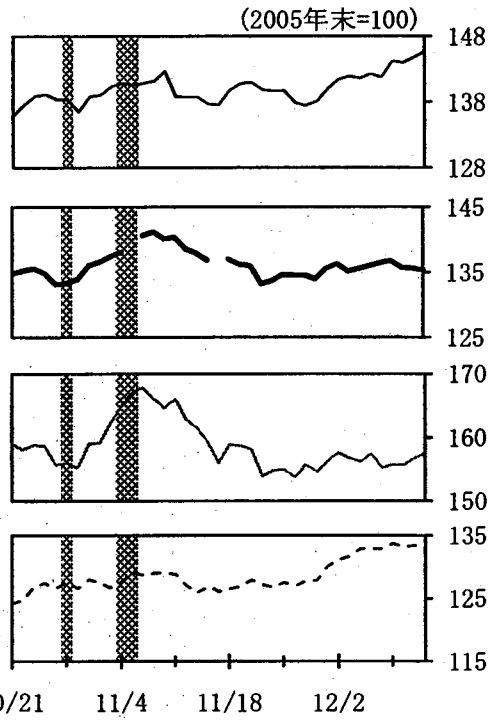
(出所) Thomson Reuters Datastream

株価(1)

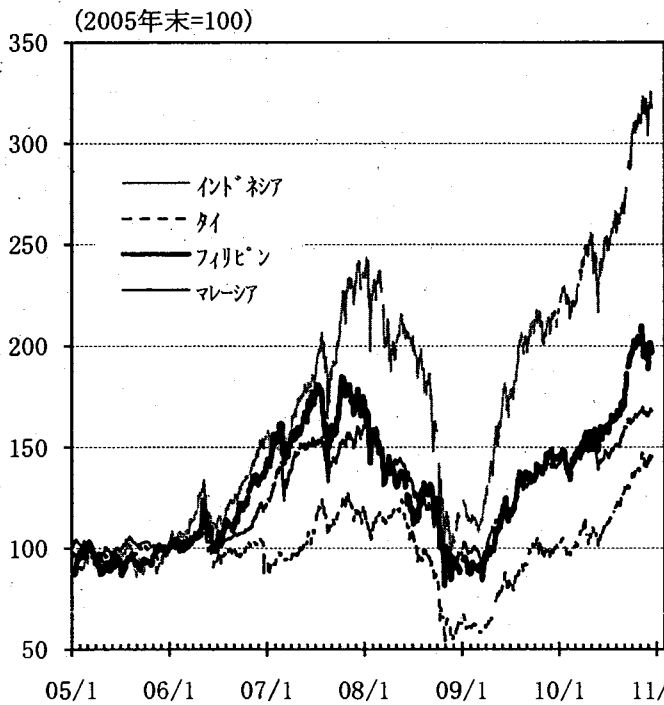
(1) NIEs



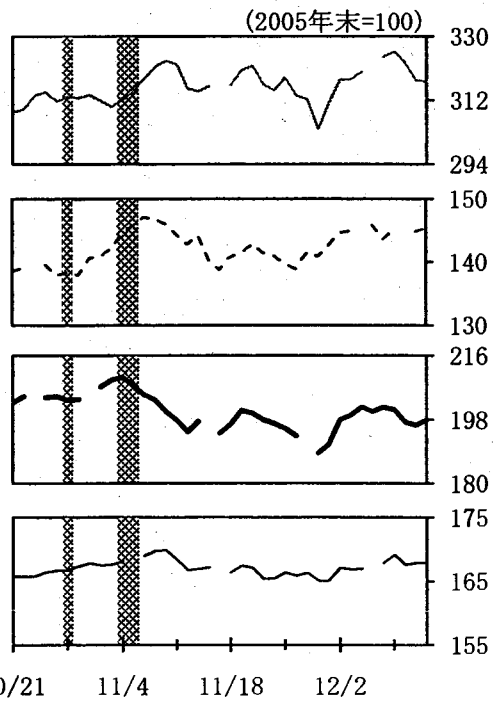
<最近の動き>



(2) ASEAN



<最近の動き>



いずれも直近は12月14日

(休場: タイ10/25, 12/6, 10, フィリピン10/25, 11/1, 16, 29, シンガポール11/5, 17, マレーシア11/5, 17, 12/7, インドネシア11/17, 12/7)

(注) シャドーは決定会合。

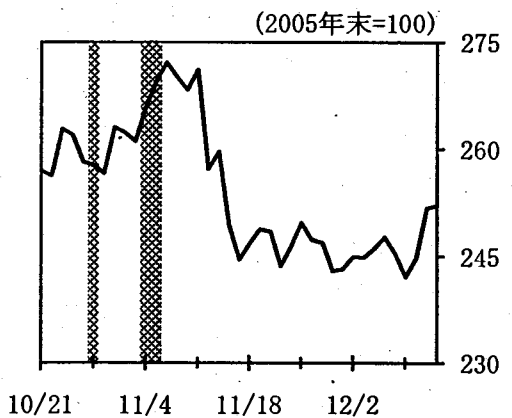
(出所) Thomson Reuters Datastream

株価(2)

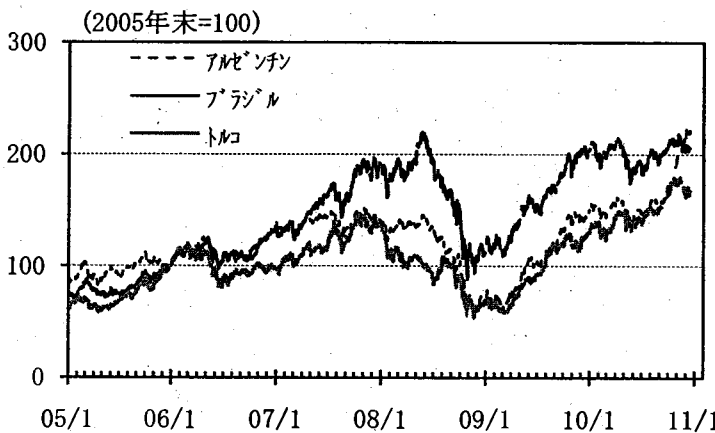
(3) 中国(上海総合)



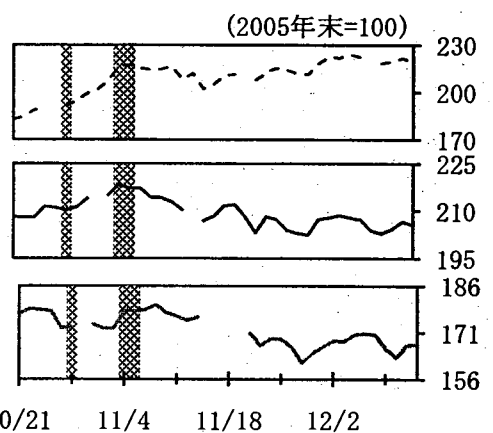
<最近の動き>



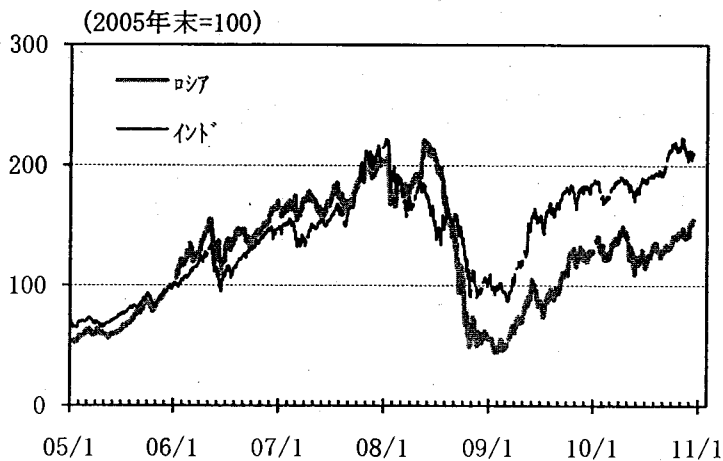
(4) ブラジル、アルゼンチン、トルコ



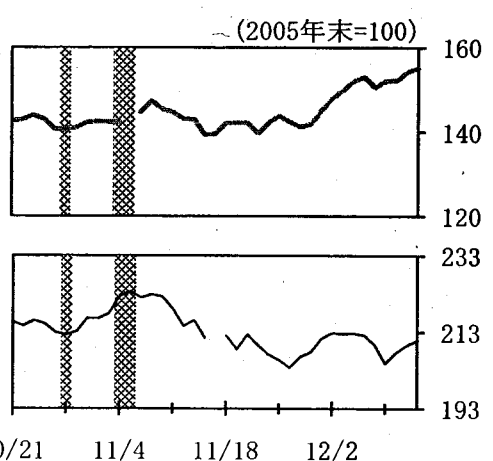
<最近の動き>



(5) ロシア、インド



<最近の動き>



いずれも直近は12月14日

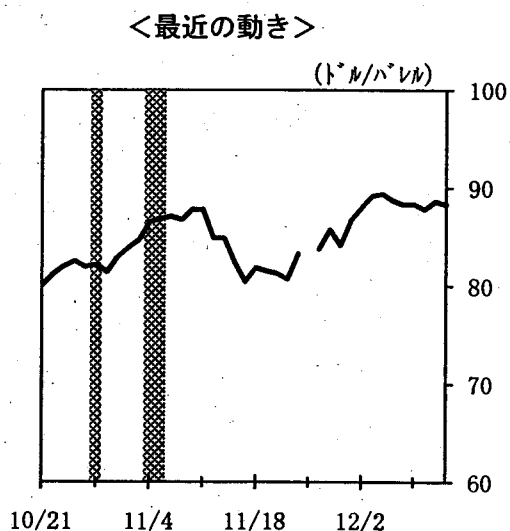
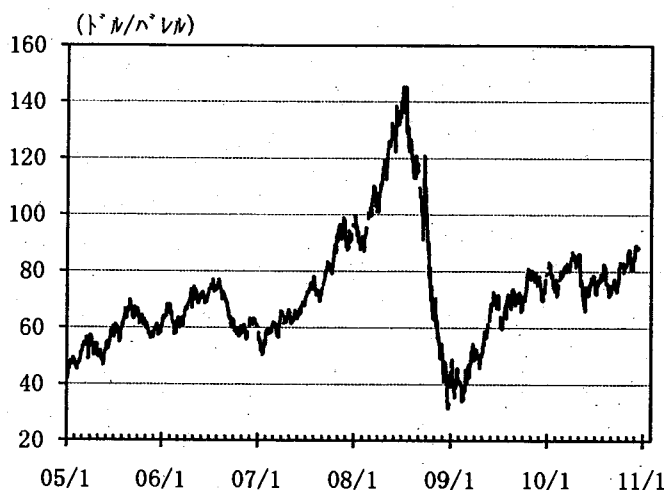
(休場：アルゼンチン10/27, 11/22, 12/8、トルコ10/29, 11/16-19、ブラジル11/2, 15、ロシア11/5、インド11/17)

(注) シャドーは決定会合。

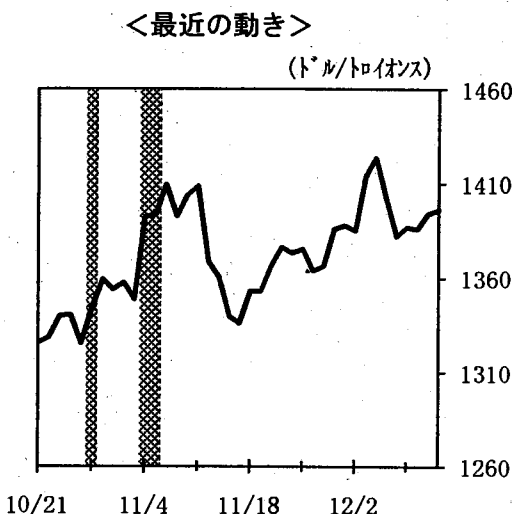
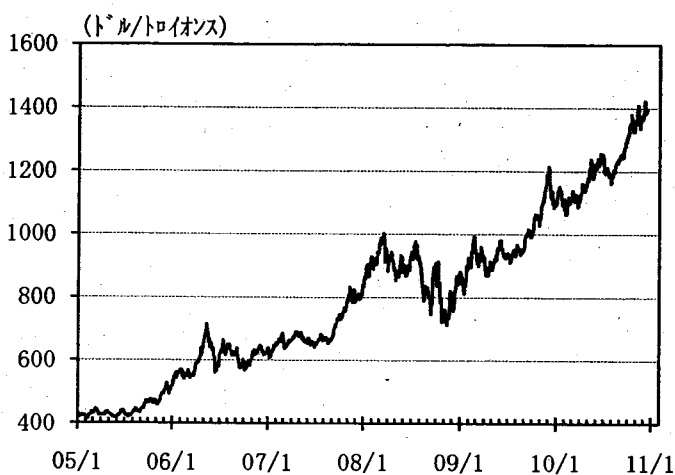
(出所) Thomson Reuters Datastream

商品

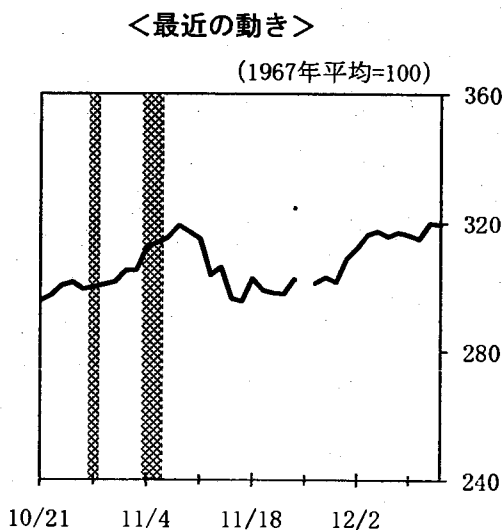
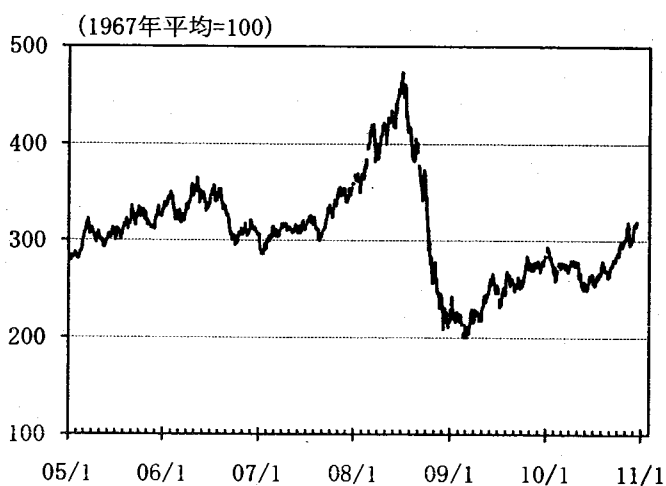
(1) 原油 (WTI)



(2) 金



(3) CRB商品先物指数



(注) シャドーは決定会合。
(出所) Bloomberg

いずれも直近は12月14日
(休場：原油, CRB商品先物指数 11/25)

ブルチャップ、コンセンサス・フォーキャストの計数は転載不可

国際機関及び民間の海外経済・物価見通し

(1) 実質GDP

(前年比、%)

	2009年 実績	2010年			2011年		
		IMF 見通し (2010/10月)	民間 見通し		IMF 見通し (2010/10月)	民間 見通し	
			9月時点	12月時点		9月時点	12月時点
米 国	▲2.6	2.6	2.7	2.8	2.3	2.5	2.6
E U	▲4.2	1.7	1.5	1.7	1.7	1.5	1.6
ユーロエリア	▲4.1	1.7	1.6	1.7	1.5	1.4	1.5
ドイツ	▲4.7	3.3	3.2	3.6	2.0	1.9	2.2
フランス	▲2.5	1.6	1.5	1.6	1.6	1.5	1.5
英 国	▲5.0	1.7	1.5	1.7	2.0	2.1	2.0
NIEs	▲0.9	7.8	7.4	7.8	4.5	4.3	4.3
ASEAN	1.3	6.6	6.6	6.7	5.4	5.2	5.3
中 国	9.1	10.5	9.9	10.1	9.6	9.0	9.1
日 本	▲6.3	2.8	3.0	3.5	1.5	1.3	1.1

(2) 消費者物価指数

(前年比、%)

	2009年 実績	2010年			2011年		
		IMF 見通し (2010/10月)	民間 見通し		IMF 見通し (2010/10月)	民間 見通し	
			9月時点	12月時点		9月時点	12月時点
米 国	▲0.4	1.4	1.6	1.6	1.0	1.5	1.5
E U	1.0	1.9	1.7	1.8	1.8	1.7	1.9
ユーロエリア	0.3	1.6	1.5	1.6	1.5	1.6	1.6
ドイツ	0.2	1.3	1.1	1.1	1.4	1.4	1.5
フランス	0.1	1.6	1.6	1.5	1.6	1.5	1.5
英 国	2.2	3.1	3.1	3.2	2.5	2.6	3.0
NIEs	1.3	2.6	2.3	2.3	2.7	2.6	2.7
ASEAN	2.5	4.4	4.0	3.9	4.4	4.5	4.5
中 国	▲0.7	3.5	3.0	3.3	2.7	3.1	4.0
日 本	▲1.4	▲1.0	▲0.9	▲0.8	▲0.3	▲0.3	▲0.3

(注1) IMF見通しは、WEO (World Economic Outlook) による。

(注2) 民間見通しは、米国はブルチャップ、その他はコンセンサス・フォーキャストによる。

(注3) ASEANのIMF見通しはタイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナムの5か国ベース。その他はベトナムを除く4か国ベース。

(注4) NIEsは韓国、台湾、香港、シンガポール。

(注5) NIEs、ASEANの計数は、購買力平価換算 (IMF算出) によるGDPウェイトを使用。

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配付先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2040年12月>

2010.12.20

国際局

「海外経済・国際金融の現状評価」参考計表【追加】

(図表1)	米国の主要経済指標	1
(図表2)	欧州の主要経済指標	2
(図表3)	アジア諸国・地域の主要経済指標	4
(図表4)	米国の金融市場	7
(図表5)	欧州の信用不安	8

(図表1)

米国の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(11月4日)以降に判明したもの。

	2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/8月	9月	10月	11月
1. 実質GDP ＜前期比年率、％＞	0.0	▲ 2.6	1.7	<11/23改訂> 2.5					
2. 実質可処分所得 ＜前期比、％＞	1.7	0.6	1.4	0.2	0.2	0.3	▲ 0.2	<11/24公表> 0.3	
3. 実質個人消費 ＜前期比、％＞	▲ 0.3	▲ 1.2	0.5	0.7	0.5	0.3	0.2	<11/24公表> 0.3	
4. 家計貯蓄率 ＜対可処分所得比、％＞	4.1	5.9	6.2	5.8	5.7	5.9	5.6	<11/24公表> 5.7	
5. 小売売上高 (除く自動車、ガソリン、建築資材) ＜前期比、％＞	2.0	▲ 0.9	0.4	1.0	1.7	0.9	0.6	<12/14公表> 0.5	0.9
6. 自動車販売 (年率、万台) ＜前期比、％＞	1,349 ▲ 18.0	1,060 ▲ 21.4	1,154 3.1	1,179 2.1	1,243 5.5	1,165 ▲ 0.9	1,194 2.4	<12/2公表> 1,243 4.1	1,244 0.1
7. 消費者コンフィデンス指数	57.9	45.2	58.2	50.9	52.0	53.2	48.6	49.9	<11/30公表> 54.1
8. 住宅着工 (年率、千戸) ＜前期比、％＞	906 ▲ 33.2	554 ▲ 38.8	602 ▲ 2.4	588 ▲ 2.3	545 ▲ 7.5	614 11.6	601 ▲ 2.1	<12/16公表> 534 ▲ 11.1	555 3.9
9. ケース・シー住宅価格指数(10大都市) ＜前期比、％＞ (前年比、％)			1.0 5.0	▲ 0.2 2.7		▲ 0.3 2.5	<11/30公表> ▲ 0.7 1.6		
10. 非国防資本財受注(除く航空機) ＜前期比、％＞ (前年比、％)			7.0 20.9	2.4 18.0	▲ 1.6 14.3	5.1 23.8	1.8 16.9	<12/3改訂> ▲ 4.3 14.3	
11. 財・サービス貿易収支 (億ドル)	▲ 582.3	▲ 312.4	▲ 443.6	▲ 448.0	▲ 387.1	▲ 469.0	▲ 446.0	▲ 387.1	<12/10公表>
12. ISM 製造業指数	45.5	46.2	58.8	55.4	56.8	56.3	54.4	56.9	<12/1公表> 56.6
非製造業指数	47.3	46.2	54.9	53.0	54.7	51.5	53.2	54.3	<12/3公表> 55.0
13. 鉱工業生産 ＜前期比、％＞ (前年比、％)			1.8 7.8	1.4 6.8	0.1 5.5	0.2 6.7	0.1 6.0	▲ 0.2 5.8	<12/15公表> 0.4 5.3
14. 失業率 (除く軍人、％)	5.8	9.3	9.7	9.6	9.7	9.6	9.6	<12/3公表> 9.6	9.8
15. 非農業部門雇用者数 (増減数、千人/月) うち民間部門	▲ 302 ▲ 317	▲ 395 ▲ 388	190 118	▲ 30 124	106 105	▲ 1 143	▲ 24 112	<12/3公表> 172 160	39 50
16. CPI ＜前期比、％＞ (前年比、％)			▲ 0.2 1.8	0.4 1.2	0.4 1.2	0.3 1.1	0.1 1.1	0.2 1.2	<12/15公表> 0.1 1.1
コア＜前期比、％＞ (前年比、％)			0.2 0.9	0.3 0.9	0.1 0.7	0.0 0.9	0.0 0.8	<12/16公表> ▲ 0.0 0.6	0.1 0.8
17. 非農業部門労働生産性 ＜前期比年率、％＞ (前年比、％)			▲ 1.8 3.7	<12/1改訂> 2.3 2.5					
18. ユニット・レーバー・コスト ＜前期比年率、％＞ (前年比、％)			4.9 ▲ 1.9	<12/1改訂> ▲ 0.1 1.1					

※ 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

- (注) ・前期(月)比は季調済みベース。
 ・財・サービス貿易収支の年計数および四半期計数は月平均に換算。
 ・雇用者増減数(期末差)の年計数および四半期計数は月平均に換算。
 ・CPIコアは食料品、エネルギーを除いたベース。

ユーロエリアの主要経済指標

シャドローを付した計数は、前回会合(11月4日)以降に判明したもの。

※

		2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/9月	10月	11月	12月
1. 実質GDP	<前期比年率、%>	0.4	▲4.1	4.0	1.5					
独 実質GDP	<前期比年率、%>	1.0	▲4.7	9.5	2.8					
仏 実質GDP	<前期比年率、%>	0.1	▲2.5	2.7	1.4					
2. 輸出	<前期比、%>			6.4	4.5	0.4	0.5	▲0.1		
	(前年比、%)	3.9	▲18.1	22.3	22.7	20.2	22.4	20.2		
3. 製造業PMI 輸出受注指数		45.1	43.6	57.9	54.1	55.4	52.6	54.9	54.6	56.7
4. 独 国内投資財受注	<前期比、%>			4.7	0.7	4.4	▲0.2	3.9		
	(前年比、%)	▲6.9	▲19.6	16.5	7.9	19.5	14.8	19.5		
5. 輸入	<前期比、%>			8.8	3.3	▲2.3	▲2.4	▲1.3		
	(前年比、%)	8.2	▲22.1	27.4	26.4	20.7	21.6	20.7		
6. 小売売上数量	<前期比、%>			0.1	0.6	0.4	▲0.1	0.5		
	(前年比、%)	▲0.7	▲2.3	0.6	1.5	1.8	1.5	1.8		
7. 新車登録台数	(年率、万台)	1,075	1,111	987	987	1,000	1,027	955	1,045	
	<前期比、%>	▲7.0	3.2	▲7.8	0.0	1.3	3.2	▲7.0	9.4	
8. 消費者コンフィデンス	(DI、%)	▲18	▲25	▲17	▲12	▲10	▲11	▲11	▲9	
9. 鉱工業生産	<前期比、%>			2.3	0.8	0.5	▲0.7	0.7		
	(前年比、%)	▲1.8	▲14.9	9.0	6.9	6.9	5.4	6.9		
10. 製造業PMI		46.5	43.3	56.4	55.2	55.6	53.7	54.6	55.3	56.8
サービス業PMI 事業活動指数		48.5	46.8	55.8	55.2	54.2	54.1	53.3	55.4	53.7
11. 失業率	(%)	7.6	9.4	10.0	10.0	10.1	10.0	10.1		
12. 消費者物価	(前年比、%)	3.3	0.3	1.5	1.7	1.9	1.8	1.9	1.9	
コア	(前年比、%)	2.4	1.3	0.8	1.0	1.1	1.0	1.1	1.1	

※ 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(出所) 欧州委員会 (Eurostat)、ECB、Deutsche Bundesbank、Statistisches Bundesamt、INSEE、Thomson Reuters Datastream、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

- (注) ・ユーロエリアに関する計数・図表のうち、消費者物価・M3・貸出は各時期のユーロ構成国ベース。
 ・実質GDPの年率換算値は、当局計算による。なお、ユーロエリアとドイツの暦年の計数は、未季調ベース。
 ・前期(月)比は季調済みベース。
 ・消費者物価コアは、エネルギー、非加工食品を除いたベース。
 ・PMIは、50を上回れば前月比改善、50を下回れば悪化。

(図表2-2)

英国の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(11月4日)以降に判明したものの。

		※								
		2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/8月	9月	10月	11月
1. 実質GDP	<前期比年率、%>	▲0.1	▲5.0	4.7	3.7					
2. 輸出	<前期比、%>			5.4	1.2	1.0	▲1.0	0.3	2.2	
	(前年比、%)	1.3	▲12.3	13.7	12.2	10.6	14.6	10.5	10.6	
3. 製造業PMI 輸出受注指数		45.5	47.4	56.3	50.9	56.1	52.5	49.0	55.3	56.9
4. 小売売上数量	<前期比、%>			1.4	1.0	0.5	▲0.2	▲0.4	0.7	0.3
	(前年比、%)	1.7	1.0	0.9	0.7	0.7	0.9	0.3	-0.3	-1.1
5. 消費者コンフィデンス	(DI、%)	▲29	▲25	▲18	▲20	▲20	▲18	▲21	▲19	▲21
6. 鉱工業生産	<前期比、%>			1.1	0.5	0.1	0.4	0.4	▲0.2	
	(前年比、%)	▲3.1	▲10.1	1.5	3.2	3.3	4.1	3.8	3.3	
7. 製造業PMI		44.9	46.5	57.6	54.7	56.7	54.1	53.8	55.4	58.0
サービス業PMI 事業活動指数		47.6	51.3	55.0	52.4	53.1	51.3	52.8	53.2	53.0
8. 失業率(失業保険ベース)	(%)	2.8	4.7	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5
9. CPI	(前年比、%)	3.6	2.2	3.4	3.1	3.2	3.1	3.1	3.2	3.3
10. 住宅価格(Nationwide指数)	(前年比、%)	▲6.7	▲7.4	9.7	4.5	0.9	3.9	3.1	1.4	0.4

※直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(出所) ONS, Thomson Reuters Datastream, Bloomberg, Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

(注1) 実質GDPの年率換算値と、消費者コンフィデンスの季調値は、当局計算による。

(注2) 輸出は、数量ベース。

(注3) PMIは、50を上回れば前月比改善、50を下回れば悪化。

(図表3-1)

アジア諸国・地域の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(11月4日)以降に判明したものの。

1. 中国

(前年比、%)

	2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/9月	10月	11月
1. 実質GDP	9.6	9.1	10.3	9.6				
2. 工業生産 <>内は前期比	12.9	11.0	15.9 < 1.7 >	13.5 < 1.9 >	13.2 < 3.7 >	13.3 < 1.3 >	13.1 < 1.2 >	13.3 < 2.1 >
3. 製造業PMI*	50.2	52.9	53.9	52.2	55.0	53.8	54.7	55.2
4. 消費財小売上総額	21.6	15.5	18.5	18.4	18.7	18.8	18.6	18.7
5. 固定資産投資	26.1	30.5	25.1	23.1	26.4	22.8	23.6	29.1
6. 輸出 <>内は前期比	17.4	▲ 16.0	40.9 < 7.1 >	32.2 < 0.4 >	29.0 < 6.0 >	25.1 < ▲ 3.6 >	22.9 < 6.1 >	34.9 < 6.9 >
7. 輸入 <>内は前期比	18.5	▲ 11.2	43.6 < ▲ 3.3 >	27.1 < ▲ 1.2 >	31.8 < 10.8 >	24.1 < ▲ 4.8 >	25.3 < 7.9 >	37.7 < 5.2 >
8. CPI	5.9	▲ 0.7	2.9	3.5	4.8	3.6	4.4	5.1
9. M2	17.8	27.7	18.5	19.0	19.5	19.0	19.3	19.5
10. 人民元貸出	18.7	31.7	18.2	18.5	19.8	18.5	19.3	19.8

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。M2、人民元貸出の年、四半期計数は期末月の前年比。

(注2) 工業生産、輸出入の季調値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注3) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。中国物流購買連合会が公表するデータを使用。

(注4) 固定資産投資は、都市部、当期の値。中国国家统计局が公表する年初来累計値と同前年比伸び率を用いて当局で試算。

2. インド

(前年比、%)

	2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/9月	10月	11月
1. 実質GDP <>内は季調済前期比年率	7.3	6.8	8.9 < 8.6 >	8.9 < 15.7 >				
個人消費	8.2	5.4	7.8 < 25.4 >	9.3 < 16.7 >				
総固定資本形成	5.7	4.6	19.0 < 8.8 >	11.1 < ▲ 10.8 >				
2. 鉱工業生産 <>内は前期比	4.8	6.6	11.9 < ▲ 0.9 >	8.7 < 1.9 >	10.8 < 1.8 >	4.4 < ▲ 1.2 >	10.8 < 4.9 >	
3. 製造業PMI*	55.5	52.8	57.8	56.7	57.8	55.1	57.2	58.4
雇用*	50.9	49.7	51.4	49.6	50.4	49.6	51.0	49.8
4. 卸売物価	8.7	2.1	10.6	9.3	8.0	8.9	8.6	7.5
5. M3	19.9	17.7	14.7	14.7	16.5	14.7	17.1	16.5
6. 貸出	23.2	12.3	20.8	19.2	22.0	19.2	22.0	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。M3、貸出の年、四半期計数は期末月の前年比。

(注2) 実質GDPの季調値は、X-11による当局算出値。鉱工業生産の季調値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注3) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(注4) 貸出は指定商業銀行ベース。

(出所) CEIC, Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

(図表3-2)

3. NIEs、ASEAN諸国・地域

(1) 実質GDP

(季調済前期比年率、()内は前年比、%)

	2007年	2008年	2009年	2009/3Q	4Q	2010/1Q	2Q	3Q
韓国	5.1	2.3	0.2	13.4 (1.0)	0.7 (6.0)	8.8 (8.1)	5.8 (7.2)	3.0 (4.4)
台湾	6.0	0.7	▲ 1.9	11.8 (▲ 1.2)	18.4 (9.2)	17.3 (13.6)	1.9 (12.9)	0.1 (9.8)
香港	6.4	2.2	▲ 2.8	1.4 (▲ 2.4)	9.8 (2.5)	8.9 (8.0)	5.7 (6.5)	2.9 (6.8)
シンガポール	8.5	1.8	▲ 1.3	11.1 (1.8)	▲ 1.0 (3.8)	45.6 (16.9)	27.3 (19.5)	▲ 18.7 (10.6)
タイ	5.0	2.5	▲ 2.3	8.5 (▲ 2.8)	15.9 (5.9)	15.1 (12.0)	▲ 2.3 (9.2)	▲ 0.9 (6.7)
インドネシア	6.3	6.0	4.5	5.4 (4.2)	7.4 (5.4)	5.4 (5.7)	6.6 (6.2)	3.8 (5.8)
マレーシア	6.5	4.7	▲ 1.7	11.1 (▲ 1.2)	12.6 (4.4)	5.7 (10.1)	6.1 (8.9)	▲ 2.8 (5.3)
フィリピン	7.1	3.7	1.1	3.6 (0.2)	6.6 (2.1)	15.6 (7.8)	5.6 (8.2)	▲ 1.9 (6.5)

(注1) 季節調整値は、韓国、台湾、香港、シンガポール、タイ、フィリピンが現地統計。その他はX-11による当局算出値。

(注2) 実質GDPの年率換算値は、当局計算による。

(2) 輸出

(名目米ドルベース、季調済前期比、()内は前年比、%)

	2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/9月	10月	11月
輸出合成指数	11.4	▲ 17.5	5.6	0.5	5.3			
うちIT関連寄与度	▲ 0.4	▲ 4.4	1.3	0.0	0.8			
韓国 <30.9>	13.6	▲ 13.9	8.0 (33.1)	0.1 (23.6)	4.7 (24.5)	0.1 (16.2)	10.3 (27.5)	▲ 9.0 (21.5)
台湾 <17.3>	3.6	▲ 20.3	7.5 (46.2)	▲ 1.4 (27.1)	0.4 (21.9)	▲ 1.6 (17.5)	0.9 (21.9)	4.2 (21.8)
タイ <12.9>	15.5	▲ 14.3	7.6 (41.5)	▲ 4.2 (21.9)	3.6 (15.6)	3.4 (21.2)	▲ 1.0 (15.6)	
インドネシア <9.9>	20.1	▲ 15.0	▲ 2.9 (36.8)	▲ 0.4 (27.7)	11.2 (16.1)	▲ 9.3 (23.8)	15.4 (16.1)	

(参考) 新規輸出受注PMI*

	2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/9月	10月	11月
韓国	48.3	50.8	55.6	51.2	48.5	50.7	46.2	50.9
台湾	43.1	53.9	57.9	47.3	48.9	45.3	46.9	50.9

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 合成指数は、直近は10月の値。公表のタイミングが遅い一部データは、前月の前年比で横置きしている。

(注3) 輸出の季節調整値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注4) 輸出の< >内は、合成指数に占めるシェア(%)、2009年)。

(注5) 輸出、輸出合成指数はともに金額ベース。

(注6) 合成指数のIT関連は、標準国際貿易分類における、事務機器、データ処理機械、通信機器、音響機器、電気機械、家電製品、光学機器などの項目、また他分類ではこれらに該当する項目で定義。

(注7) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(出所) CEIC、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

(図表3-3)

(3) 生産関連

(季調済前期比、()内は前年比、%)

		2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/9月	10月	11月
生産合成指数		1.7	▲ 4.6	4.2	▲ 1.2	▲ 1.1			
うちIT関連寄与度		1.5	▲ 0.4	0.9	▲ 0.3	▲ 1.2			
韓国	鉱工業生産指数	3.4	▲ 0.8	5.0 (19.5)	2.1 (11.9)	▲ 4.8 (13.5)	▲ 0.4 (3.9)	▲ 4.2 (13.5)	
	企業景気実査指数 [†] (季調済)	81.9	93.5	103.0	103.4	106.3	100.9	105.5	107.0
台湾	鉱工業生産指数	▲ 1.8	▲ 8.1	▲ 0.0 (29.1)	▲ 0.7 (18.8)	2.4 (14.4)	▲ 2.9 (12.2)	4.1 (14.4)	
タイ	製造業生産指数	3.9	▲ 7.2	▲ 0.2 (17.6)	▲ 2.7 (9.8)	0.5 (6.2)	3.6 (8.1)	▲ 0.7 (6.2)	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 合成指数は、直近は10月の値。公表のタイミングが遅い一部データは、前月の値で横置きしている。

(注3) 生産指数の季節調整値は、現地統計またはX-12-ARIMAによる当局算出値。

(注4) 生産、生産合成指数はともに数量ベース。

(注5) 合成指数のIT関連は、標準国際貿易分類における、事務機器、データ処理機械、通信機器、音響機器、電気機械、家電製品、光学機器などの項目、また他分類ではこれらに該当する項目で定義。

(注6) †印は、100を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(4) 内需関連

(季調済前期比、()内は前年比、%)

		2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/9月	10月	11月
韓国	小売数量指数	1.1	2.6	0.0 (4.9)	2.8 (7.3)	▲ 0.1 (4.2)	0.0 (4.4)	0.2 (4.2)	
	消費者信頼感指数 [†]	90.8	103.5	111.0	110.3	109.0	109	108	110
	機械投資推計指数	0.7	▲ 8.2	6.0 (24.5)	7.1 (27.7)	▲ 9.8 (10.2)	▲ 3.5 (11.9)	▲ 9.5 (10.2)	
台湾	小売指数	▲ 4.3	2.4	(6.9)	(7.7)	(6.5)	(8.0)	(6.5)	
	消費者コンフィデンス [†]	58.7	54.5	77.5	79.5	80.9	80.1	80.2	81.7
タイ	民間消費指数(PCI)	3.6	▲ 2.5	1.1 (7.6)	0.4 (4.9)	▲ 1.8 (2.3)	▲ 0.4 (3.1)	▲ 1.2 (2.3)	
	民間投資指数(PII)	3.7	▲ 12.0	4.3 (20.7)	3.9 (21.8)	▲ 0.7 (17.4)	▲ 0.1 (20.1)	▲ 0.9 (17.4)	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) †印は、100を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(5) 消費者物価指数(CPI)

(前年比、%)

		2008年	2009年	2010/2Q	3Q	4Q	2010/9月	10月	11月
韓国	()内はコア	4.7 (4.3)	2.8 (3.6)	2.6 (1.6)	2.9 (1.8)	3.7 (1.8)	3.6 (1.9)	4.1 (1.9)	3.3 (1.8)
台湾	()内はコア	3.5 (3.1)	▲ 0.9 (▲ 0.1)	1.1 (0.4)	0.4 (0.6)	1.0 (0.7)	0.3 (0.7)	0.6 (0.6)	1.5 (0.9)
タイ	()内はコア	5.5 (2.3)	▲ 0.8 (0.3)	3.2 (0.9)	3.3 (1.1)	2.8 (1.1)	3.0 (1.1)	2.8 (1.1)	2.8 (1.1)
インドネシア	()内はコア	9.8 (N/A)	4.8 (5.7)	4.4 (3.8)	6.2 (4.1)	6.0 (4.2)	5.8 (4.0)	5.7 (4.2)	6.3 (4.3)

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

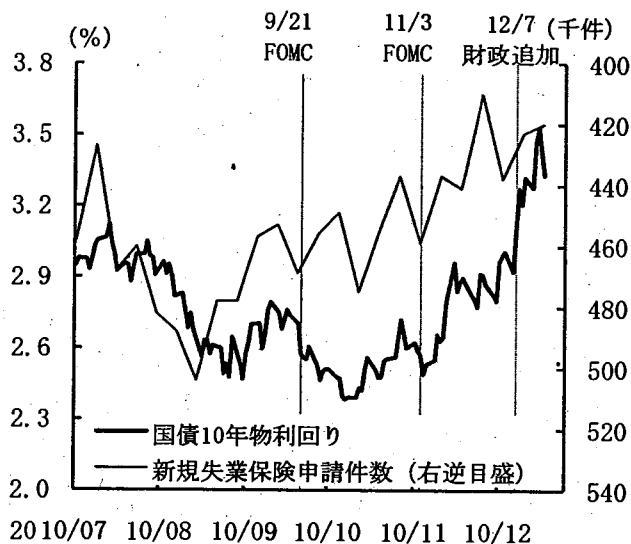
(注2) 韓国のCPIコアは、CPI総合から穀物以外の農産物、石油関連製品を控除。台湾のCPIコアは、CPI総合から生鮮食料品およびエネルギーを控除。タイのCPIコアは、CPI総合から非加工食品、エネルギーを控除。インドネシアのCPIコアは、CPI総合から、政府の規制価格の影響がある項目および生鮮食料品を控除。

(注3) インドネシアは、2007年基準。CPIコアは、一部未公表。

(出所) CEIC

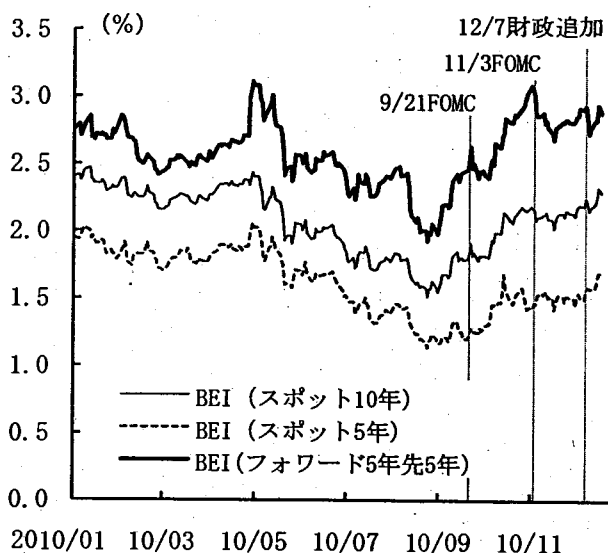
米国の金融市場

(1) 国債利回りと新規失業保険申請件数



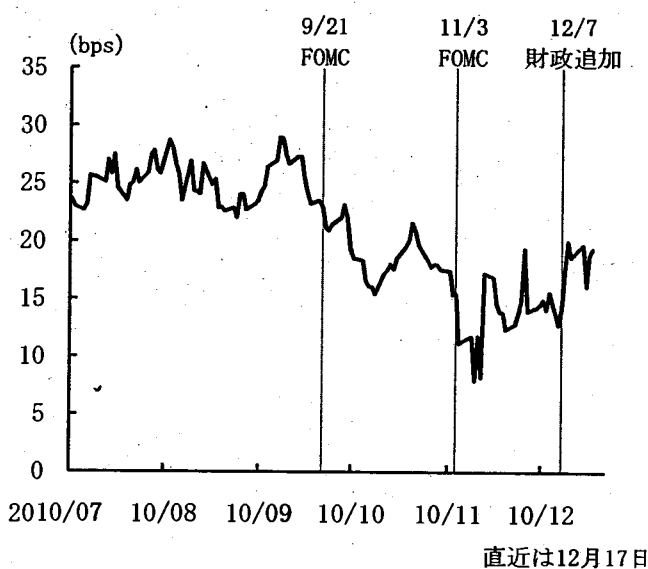
(注) 直近は国債利回りが12月17日、新規失業保険申請件数が12月11日週。

(2) ブレーク・イーブン・インフレ率



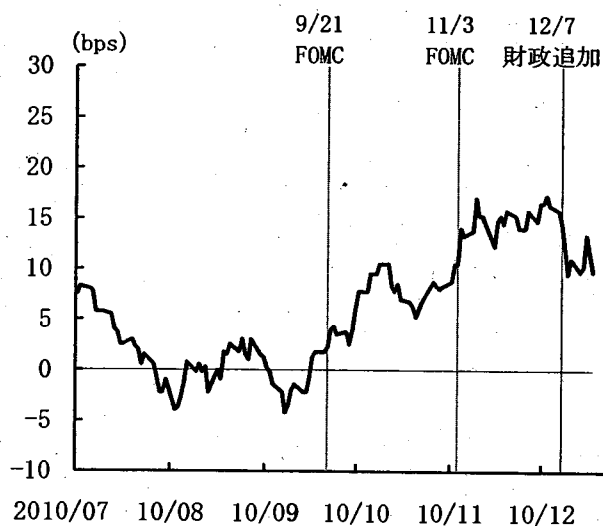
直近は12月17日

(3) 国債利回り-OISスプレッド (10年)



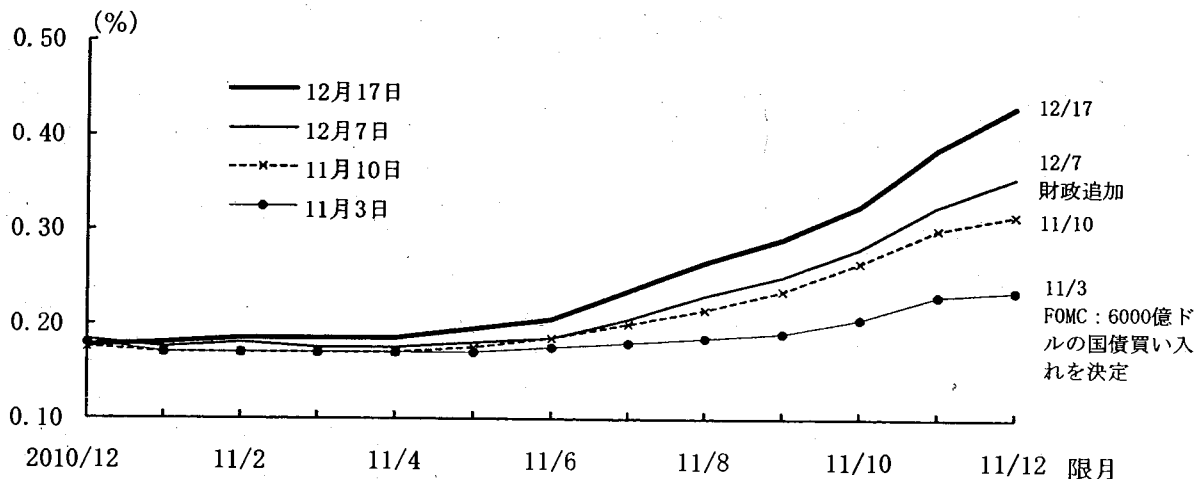
直近は12月17日

(4) スワップスプレッド (10年)



直近は12月17日

(5) FF先物レート

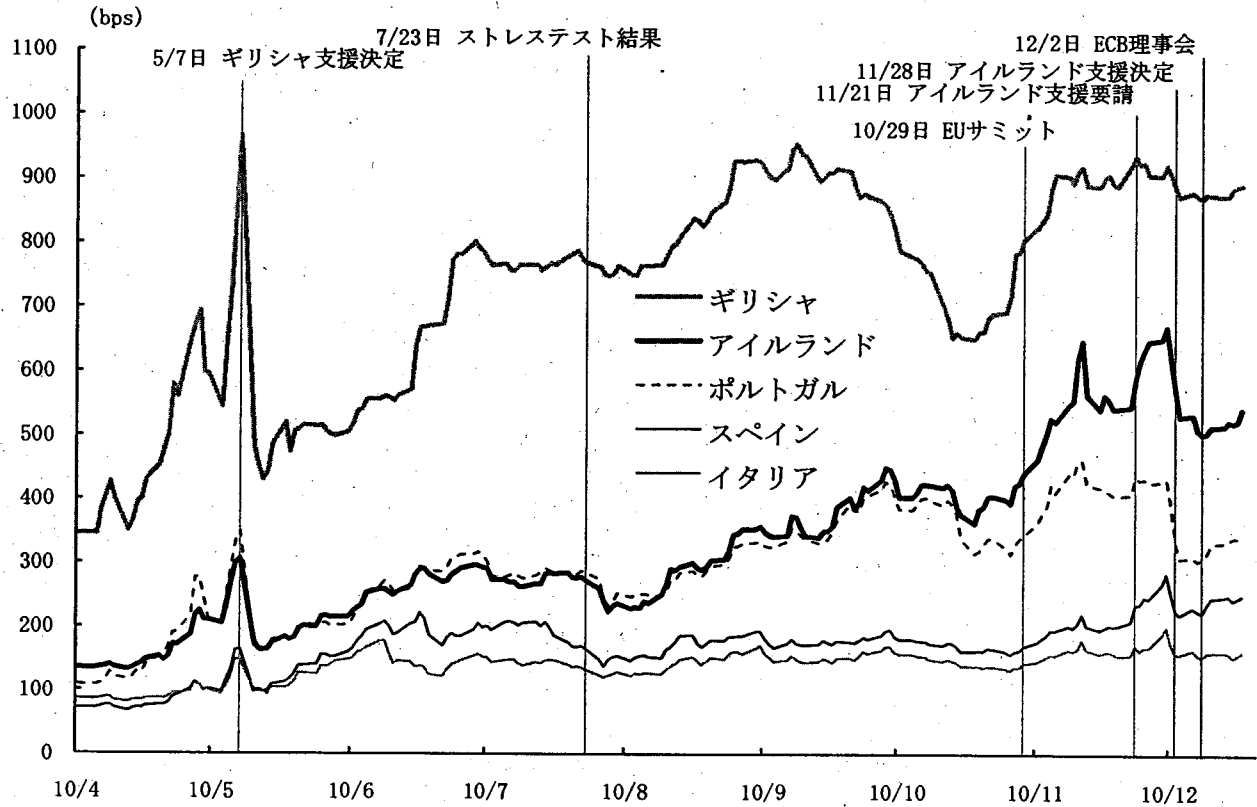


(注) オバマ大統領が減税措置を含む財政パッケージに合意したのは12月6日夜。

(出所) Bloomberg

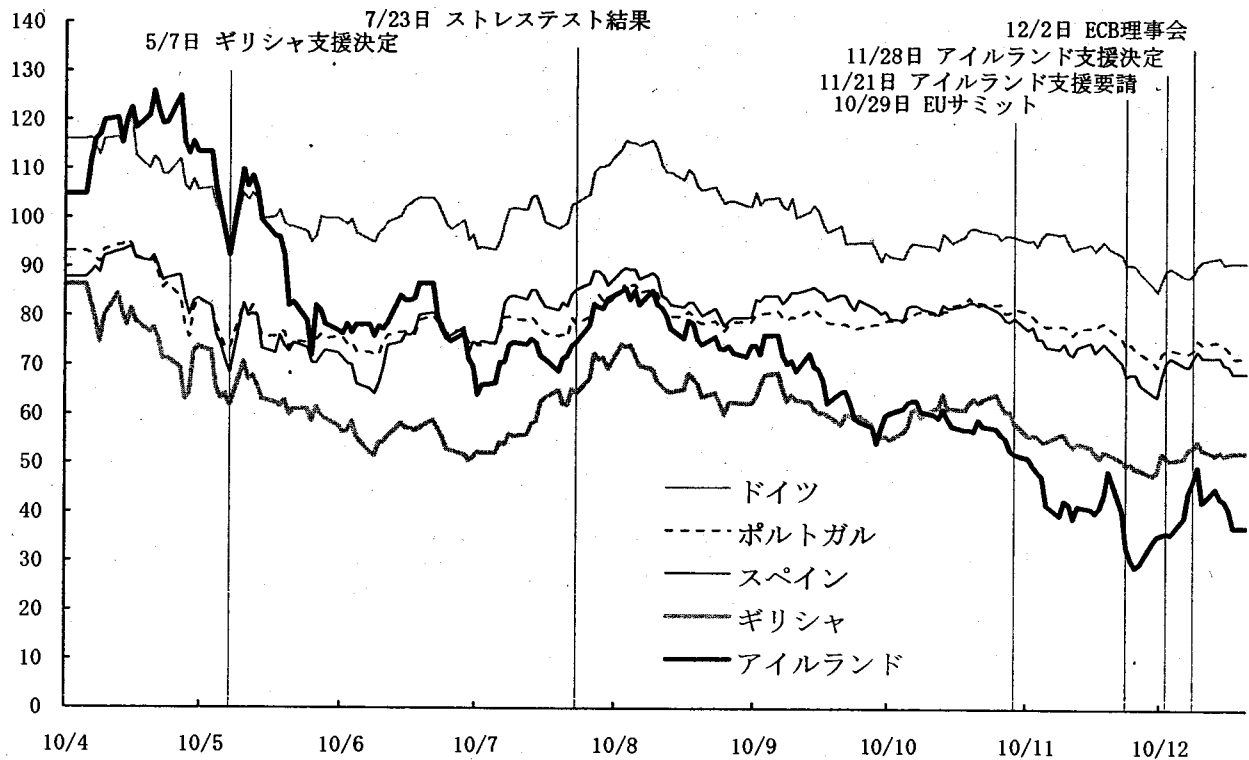
欧州の信用不安

(1) 欧州周辺国の国債利回り (対独スプレッド、10年)



(2) 欧州金融機関の株価

(2010年初=100)



(出所) Bloomberg

いずれも直近は12月17日

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配付先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2040年12月>

2010.12.15

調査統計局

経済活動の現状評価

1. 概況

（現状認識）

わが国の経済をみると、輸出は横ばい圏内で推移している。企業収益は、改善ペースに一服感がみられるが、増勢を維持しており、そうしたもとの、設備投資は持ち直しつつある。雇用・所得環境は引き続き厳しい状況にあるものの、その程度は幾分和らいでいる。個人消費は、一部の財に駆け込み需要の反動がみられる。住宅投資は下げ止まっている。この間、公共投資は減少している。以上のような内外需要の動向を反映して、生産はこのところやや減少しており、企業の業況感も、最近では、製造業を中心に弱めとなっている。

以上を踏まえると、「わが国の景気は、緩やかに回復しつつあるものの、改善の動きに一服感がみられる」と判断される。

—— 輸出については、海外経済の減速、情報関連財の在庫調整、為替円高の影響により、夏以降横ばい圏内の動きにとどまっている。個人消費については、家電販売は、家電エコポイント制度の見直しにより、10～11月に駆け込み需要がみられたが、乗用車販売は駆け込み需要の反動により大幅に減少している。そうしたもとの、生産はこのところ実勢ベースで減少し、企業の業況感も、製造業を中心に弱めの動きとなっている。もっとも、設備投資は、月次指標、実質GDP、短観の設備投資計画が、いずれも緩やかに持ち直しつつあることを示している。企業の生産計画も、1～3月以降、増加基調に復する見通しである。以上を踏まえると、このところの生産の弱さは一時的なものとみられ、景気の現状については、前月の判断（「緩やかに回復しつつあるものの、改善の動きに一服感がみられる」）を据え置くことが適当である。

—— 短観の業況判断DIは、大企業については、製造業、非製造業ともに悪化したが、9月調査時点における予想対比では強めとなった。中小企業については、非製造業は小幅悪化した一方、製造業は改善した。先行きについては、もともと悪化方向を予想する傾向がある中小企業のみならず、大企業でも、

製造業を中心に悪化が続く見通しとなっている。このように、当面の経済情勢に関する企業の見方は慎重である。もっとも、大企業の先行き判断の悪化は、「良い」と予想する企業の減少によるものであって、「悪い」と予想する企業もむしろ幾分減少している。

—— 7～9月の実質GDP（二次速報値）は、前期比+1.1%、同年率+4.5%と高い伸びとなった（図表2）。その主因は、エコカー補助終了やたばこ税引き上げに伴う駆け込み需要、猛暑の影響などにより、個人消費が一時的に押し上げられた点にある。しかし、それだけではなく、設備投資や在庫投資など、民間内需が幅広くプラスに寄与した。

なお、二次速報値の公表にあわせて、2008年度の確々報、2009年度の確報が公表され、両年度とも成長率が下方修正された（2008年度：-3.8%→-4.1%、2009年度：-1.8%→-2.4%）。これは、2009年1～3月までの成長率の落ち込みが、より大幅なものへと改定されたためである。しかし同時に、その後の回復ペースも上方修正されたため、2010年7～9月の実質GDPの水準は、一次速報公表時点からほとんど変わっていない。

物価の現状について、国内企業物価の3か月前比をみると、国際商品市況高の影響などから、緩やかに上昇している。消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、マクロ的な需給バランスが緩和状態にあるもとで下落しているが、基調的にみると下落幅は縮小を続けている。

（先行き）

景気の先行きについて項目別にみると、輸出は、当面、横ばい圏内の動きを続けたあと、海外経済の改善を背景に、再び緩やかに増加していくとみられる。個人消費は、駆け込み需要の反動が薄まるにつれ、再び持ち直していくとみられる。この間、設備投資は、企業収益が改善基調にあるもとで、徐々に持ち直しの動きがはっきりしていくとみられる。もっとも、設備過剰感が残ることなどから、そのペースは緩やかなものにとどまる可能性が高い。こうしたもとで、生産は、耐久消費財を中心に一時的に弱めの動きとなったあと、増加していくと考えられる。

以上を総合すると、「先行きについては、景気改善テンポの鈍化した状況がしばらく続いた後、緩やかな回復経路に復していく」と考えられる。

—— 海外経済をみると、欧州では、引き続き周辺国の財政状況に関する懸念が熾っているものの、米国経済の先行きに関する下振れ懸念は、一頃に比べると弱まっている。また、新興国では金融緩和の修正が行なわれている中でも、中国をはじめとして力強い成長が実現している。こうした中で、わが国の輸出・生産には、当面は、情報関連財における在庫調整の影響や既往の為替円高の影響が残るとみられる。しかし、新興国の基本的な強さを主因に世界経済は緩やかな拡大を続けるとみられるため、わが国の輸出も再び緩やかに増加していくと考えられる。

企業収益は、改善ペースの振れはあるが、やや長い目でみれば増勢を維持している。雇用・所得環境の厳しさも、徐々にではあるが和らいでいる。個人消費については、今後、乗用車販売が緩やかな増加に転じるとみられる一方、家電は駆け込み需要の反動が予想される。このため、個人消費の実勢は読みにくい。上記の雇用・所得環境などを背景に、ごく緩やかな改善基調を辿るとみられる。以上を踏まえると、わが国経済が、先行き緩やかに回復していくというシナリオは、引き続き相対的に蓋然性が高いと考えられる。

—— 米欧経済については、バランスシート調整の影響を踏まえると、引き続き下振れのリスクに注意を払う必要がある。ただし、一頃に比べれば、米国経済の先行きに対する懸念は後退している。このため、投資家のリスク回避姿勢が強まり、その悪影響が国際金融資本市場を通じて日本経済に及ぶリスクも、やや小さくなっていると考えられる。

一方、新興国については、金融緩和策の修正が進む中においても、高めの成長が続いている。ただし、景気が過熱し、インフレ圧力の高まりからその後の成長率が減速するリスクには、引き続き注意が必要である。

物価の先行きについてみると、国内企業物価は、国際商品市況の動きを反映して、当面、緩やかな上昇基調で推移するとみられる。消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、マクロ的な需給バランスが徐々に改善することなどから、基調的にみれば下落幅が縮小していくと予想される。

2. 最終需要

(1) 外生需要

(公共投資)

公共投資は減少している。先行きについては、減少を続けるとみられる。

—— 月次の指標をみると（図表4、5）、発注の動きを示す公共工事請負金額は弱めの動きが続いており、10～11月の7～9月対比も減少した。

—— 公共工事出来高は、4～6月に大幅に減少したあと、7～9月の前期比は概ね横ばいとなった。

(輸出入)

実質輸出は、横ばい圏内で推移している（図表6、7(1)）。

—— 実質輸出は、4～6月まで速いペースで増加した後、7～9月は前期比 -0.4% 、10月の7～9月対比は -2.7% となった。

10月の7～9月対比を地域別にみると（図表8(1)、9、10、11）、東アジア向けについては、中国向けが資本財・部品を中心にやや大きめの増加となった一方、NIEs向けやASEAN向けは、情報関連や資本財・部品を中心に小幅の減少となった。米国向けは、自動車関連を中心に幅広い財で弱

めの動きとなっている。堅調な動きを続けてきたEU向けについても、資本財・部品を中心に最近では減少している。その他地域向けは、振れの大きい船舶が減少したことに加えて、自動車関連や資本財・部品など、幅広い財で減少している。

財別にみると（図表8(2)）、情報関連が7～9月以降緩やかに減少している。7～9月まで増加を続けてきた中間財、消費財、資本財・部品も、10月は7～9月対比で減少した。この間、自動車関連は横ばい圏内の動きとなっている。

- こうした実質輸出の動きには、世界的な情報関連財の在庫調整や、既往の為替円高が、影響しているとみられる。情報関連については、最終製品であるパソコンやデジタルカメラの需要が世界的に弱めとなっており、関連する部品の需要も低迷している（図表12）。もっとも、世界経済については、一頃懸念された米国経済の下振れ懸念が後退していることに加え、新興国経済についても、金融緩和の修正が行われる中でも、中国などでは高めの成長が続いている。

先行きの輸出については、当面、横ばい圏内の動きを続けたあと、海外経済の改善を背景に、再び緩やかに増加していくとみられる。

- 情報関連財における在庫調整、既往の為替円高の影響を踏まえると、当面、輸出は横ばい圏内の動きを続けるとみられる。ただし、新興国を中心に、海外経済の改善は続くため、情報関連財の在庫調整や既往の為替円高の影響が薄まるにつれて、輸出は再び緩やかに増加していくと考えられる。

- 円の実質実効為替レートは、このところ横ばい圏内の動きとなっている（図表13）。

- 12月短観をみると、製造業大企業の海外需給判断DIは、「供給超過」超幅がやや拡大しており、先行きについても若干拡大する見通しとなっている。2010年度の製造業大企業の売上計画をみると、輸出は、上期は前年比+24.0%に上方修正された（修正率は+2.5%）。下期は、83.87円/ドルの想定為替レートのもとで、前年比+8.5%に伸びが鈍化する見通しに下方修正された（修正率は-0.5%）。

実質輸入は、横ばい圏内で推移している（図表6、7(1)）。

- 実質輸入は、4～6月にかなり増加したあと、7～9月は前期比+1.2%、10月の7～9月対比は-1.2%となった。10月の7～9月対比を財別にみると（図表14(2)）、食料品が、たばこの駆け込み需要の反動などから、大きく減少した。また、中間財や資本財・部品も減少しており、これらは生産の減少を反映した動きとみられる。一方、消費財は、薄型テレビの駆け込み需要などから高い伸びとなっているほか、情報関連も、パソコンや液晶パネルなどを中心に底堅く推移している。

先行きの輸入については、当面、横ばい圏内の動きが続くとみられるが、やや長い目でみれば、国内景気の回復傾向などを背景に、緩やかな増加傾向を続ける

と予想される。

純輸出の動きを表す実質貿易収支をみると、上記輸出入の動きを反映して、横ばい圏内で推移している（図表 6、7(2)）。実質貿易収支の先行きについては、当面、横ばい圏内の動きを続けたあと、緩やかな増加傾向をたどると予想される。

—— 名目貿易・サービス収支や経常収支も、横ばい圏内の動きとなっている。

(2) 内生需要

(企業収益・設備投資)

企業収益は、改善ペースに一服感がみられるが、増勢を維持している（図表 15）。

—— 法人企業統計の売上高経常利益率（季節調整値）をみると、このところ改善のペースが鈍化している（図表 15、16）。業種別・規模別にみると、製造業では、輸出の鈍化や円高の影響により、大企業、中堅中小企業ともに、改善ペースが鈍化している¹。一方、非製造業をみると、大企業では、猛暑の影響などから電気業を中心に改善したが、中堅中小企業については、一進一退の動きとなっている。

—— こうしたもとの、企業の業況感は、製造業を中心に、弱めの動きとなっている（図表 1）。12月の業況判断DIは、全産業全規模で、7四半期振りに悪化した。ただし、その悪化幅は、9月時点における企業の予想に比べて小幅となった。これには、2010年度上期の企業収益が良好であったことが影響している可能性がある。大企業について、業種別にみると、エコカー補助終了後の販売の落ち込みを背景に、自動車が悪化しているほか、情報関連財の在庫調整の影響により電気機械も悪化している。非鉄金属や化学などの素材業種についても、自動車や電気機械などの加工業種の落ち込みの影響を受けて、悪化に転じている。一方、非製造業についてみると、悪化の程度は総じて緩やかである。先行きについては、自動車大幅に悪化する見通しとなっているほか、幅広い業種で悪化を見込んでいる。ただし、大企業の先行き判断の悪化は、もっぱら、「良い」と予想する企業の減少によるものであって、「悪い」と予想する企業もむしろ幾分減少している。

—— 年度ベースの経常利益（全産業全規模）を12月短観の事業計画でみると、2010年度は前年比+28.2%と大幅に増加する見通しである（図表 15、17）。9月短観との比較では、製造業において、大企業、中小企業ともに、上期が

¹ 最近の製造業の売上高経常利益率については、大企業、中堅中小企業ともに、特殊要因によって振れが大きくなっている。製造業大企業では、自動車において、2010年1～3月に営業外収益が大幅に増加したあと、2010年4～6月にその反動がみられた。海外子会社からの投資収益の変動が影響しているとみられる。一方、製造業中堅中小企業では、その他製造業において、2010年4～6月に売上高の極端な増加と、その後の急落がみられる。報告されている計数の大きさからみて、誤記入の可能性が高い。

上方修正されているものの、下期については、下方修正となった。こうした修正パターンは12月短観でよくみられるものであるが、今回の下期の下方修正には、想定為替レートが円高方向に修正されたことも影響しているとみられる。非製造業においても、上期が上方修正された一方、下期は下方修正となっている。

設備投資は持ち直しつつある（図表18）。先行きについては、企業収益が改善基調にあるもとで、徐々に持ち直しの動きがはっきりしていくとみられる。もっとも、設備過剰感が残ることなどから、そのペースは緩やかなものにとどまる可能性が高い。

—— 7～9月のGDPベースの実質設備投資（二次速報値）は、前期比+1.3%と、一次速報値（+0.8%）から若干上方修正された。水準は依然として低いが、4四半期連続でごく緩やかに増加している。

—— 機械投資の一致指標である資本財総供給は、輸送機械の減少を主因に、10月の7～9月対比は-4.4%と減少した（図表18、20(1)）²。輸送機械を除いたベースでみると、10月の7～9月対比は-1.1%と横ばい圏内の動きとなっている。

—— 機械投資の先行指標である機械受注（船舶・電力・携帯電話を除く民需）は、7～9月に大口受注の寄与もあって、前期比で+7.7%とはっきりと増加したが、10月の7～9月対比は、その反動もあって-6.0%と減少した（図表18、21(1)）³。業種別にみると、製造業は、7～9月の前期比が+12.2%と大幅な増加となったあと、10月の7～9月対比では-10.1%と減少した⁴。非製造業（除く船舶・電力・携帯電話）も、7～9月に前期比+6.3%と増加したあと、10月の7～9月対比では-3.2%と減少した。

建設投資の先行指標である建築着工床面積（民間非居住用）は、7～9月に前期比+17.6%と大幅に増加したあと、10月は7～9月対比で-3.3%と

² 輸送機械の減少には、自家用車向けエコカー補助終了後の乗用車の反動減の影響が大きい。自家用車向けエコカー補助は個人向けの施策であるため、駆け込み需要とその反動は、本来であれば、企業の設備投資である企業の自動車購入には影響を与えない。しかし、統計上は、個人消費向けと設備投資向けの割り振りの比率を2005年時点で固定しているため、自家用自動車購入の変動の影響が、資本財総供給にも現れることになる。

³ 10～12月の見通し（季調済前期比）は、民需（除く船舶・電力）-9.8%、製造業-1.8%、非製造業（除く船舶・電力）-15.2%となっている。こうした動きは、前期の大幅増加の反動ということに加え、見通しを算出する際に内閣府が使用している達成率が低めとなっていることも影響している。内閣府が見通しを作成する際には、企業が回答してきた見通しに、過去3四半期の達成率の平均値を乗じて算出している。景気回復局面では達成率が上振れる傾向にあり、過去3四半期の平均値を用いた内閣府の見通しには、下方バイアスが発生している可能性がある。

⁴ 工作機械受注（国内向け）をみると、4～6月に前期比+31.4%と大幅に増加したあと、7～9月同+1.0%、10～11月の7～9月対比も+3.8%と、緩やかな増加が続いている（調査統計局による季節調整値）。

幾分減少した（図表 18、21(2)）。10月の7～9月対比を業種別にみると、鉱工業は、大型案件の影響もあって+20.6%と大幅に増加した。一方、非製造業は、前期における大型案件の反動により-6.9%と減少した。

—— 12月短観で2010年度の設備投資計画（ソフトウェア除く、土地投資含む）をみると、大企業は前回調査比0.5%上方修正され、前年比+2.9%となった（図表 18、22）。内訳をみると、製造業、非製造業ともに増加する計画となっている。中小企業の設備投資計画（同）をみると、前年比は-8.3%とマイナスとなっているが、前回調査比では、概ね例年の傾向通り、+7.8%と上方修正されている。この間、ソフトウェア投資は、全産業全規模でみて、小幅の上方修正（+0.5%）となっている。

これらを総合し、全産業全規模の設備投資計画をGDPの概念に近いベース（ソフトウェア含む、土地投資除く）でみると、2010年度は前年比+2.3%となっている。

この間、生産・営業設備判断DIをみると、概ね横ばい圏内の動きとなっている。

（個人消費）

個人消費は、一部の財に駆け込み需要の反動がみられる（図表 23、24）。先行きは、駆け込み需要の反動が薄まるにつれ、再び持ち直していくとみられる。

—— 需要・供給両面の月次統計をGDPに近い方法で合成した消費包括指数（CCI）をみると、7～9月に前期比+2.0%と大幅に増加したあと、10月の7～9月対比は-0.8%と減少した（図表 24(2)(3)）⁵。10月の7～9月対比を財別にみると、耐久消費財は、エコカー補助終了前の駆け込み（自動車）や猛暑効果（エアコン）の反動から、プラス寄与が大幅に低下した。もともと、薄型テレビ等で駆け込みがみられたことから、耐久消費財全体でもプラスは維持された。一方、非耐久消費財は、たばこで駆け込みの反動がみられたことから、大幅に減少した。

—— 財消費の動きを小売業販売額（実質）でみると（図表 23、25(1)）、7～9月に前期比で増加したあと、乗用車販売の減少を主因に、10月の7～9月対比は-4.6%と減少した。

耐久消費財についてみると（図表 25(2)）、乗用車の新車登録台数（除く軽自動車）は、エコカー補助終了後の反動により、9月、10月と大幅に減少したあと、11月もさらに幾分減少した⁶。一方、10月の家電販売額（実質）は、家電エコポイント制度の見直しに伴う駆け込み需要を背景に、薄型テレ

⁵ 消費包括指数とは、「生産動態統計」、「特定サービス産業動態統計調査」、「家計調査」、「家計消費状況調査」などを用い、需要面と供給面から、GDP個人消費にできるだけ近い方法で調査統計局が試算している指標（対外非公表）。ただし、供給面の試算において、本来控除すべき在庫変動分も含まれてしまっている点には、注意が必要である（流通在庫の増加/減少は、CCIをGDP個人消費よりも強くする/弱くする方向に働く）。

⁶ 自動車のエコカー補助の終了後も、エコカー減税は継続される（自動車取得税は2012年3月末まで、自動車重量税は2012年4月末まで）。

びを中心に大幅に増加した⁷。業界統計により11月の状況をみると、薄型テレビの販売は前年比約5倍と、さらに顕著な伸びになっている（前年比：9月+74.2%、10月3.2倍、11月5.1倍）。

- コンビニエンスストア売上高をみると、10月の7～9月対比は、たばこの駆け込み需要の反動を主因に、大幅に減少した（図表26(1)）。また、全国スーパー売上高も、猛暑効果の剥落やたばこの反動減により、減少した。一方、全国百貨店売上高は、秋冬物衣料が堅調に推移していることなどから、10月の7～9月対比は小幅の増加となった。
- サービス消費をみると（図表26(2)）、旅行取扱額は、海外が堅調に推移する一方、国内が弱めとなっており、全体では横ばい圏内で推移している。外食産業売上高も横ばい圏内の動きが続いている。
- 需要側の統計について、家計調査の消費水準指数を、GDPの推計に利用される品目にほぼ限定した「除く住居等」のベースでみると（図表23、25(1)）、振れの大きい自動車が含まれていることから、10月の7～9月対比は+0.5%の小幅増加となった⁸。一方、自動車が含まれている家計消費状況調査の支出総額（二人以上の世帯、実質ベース）をみると、10月の7～9月対比は-0.9%と減少した。
- 消費者コンフィデンス関連指標は、指標によって区々であるが、総じてみれば概ね横ばいとなっている（図表27）。

（住宅投資）

住宅投資は下げ止まっている。先行きの住宅投資については、着工戸数の動きなどからみて、徐々に持ち直しに向かうと予想される。

- 先行指標である新設住宅着工戸数（年率）をみると（図表28、29(1)）、7～9月に前期比で+7.5%の増加となったあと、10月の7～9月対比は-0.4%となった。基調的にみると、在庫や価格の調整が進んだことや、借入金利の低下、政府の住宅購入促進策の効果などを背景に、持家・分譲を中心に持ち直し傾向にある。こうした着工の動きを受けて、住宅投資は徐々に持ち直しに向かうとみられるが、雇用・所得環境の厳しさが残ることなどから、回復の明確化には時間がかかる可能性が高い。
- 首都圏新築マンション販売をみると（図表28、29(2)）、全売却戸数は、

⁷ 家電エコポイント制度は、「円高・デフレ対応のための緊急総合経済対策」等において、①本年12月1日以降に購入した分のポイント発行数を約半分とすること、②来年1～3月の購入分については、対象商品を絞り込んだ上で、リサイクルを行った場合にのみポイントを付与すること、との見直しが行われた。

⁸ 消費水準指数（除く住居等）は、消費支出合計から、住居や自動車等購入、贈与金、仕送り金を除いている。それでもなお、GDP推計に用いられない項目が残存している（例えば教育費）。

振れを伴いながらも、持ち直している。新規契約率は、好不調の目安とされる70%を11か月連続で上回っているほか、在庫の調整も進捗している。こうしたもとで、新規供給へ向けた用地取得等の動きも、大手先を中心に、徐々に広がりつつある。

3. 生産・出荷・在庫

鉱工業生産は、このところやや減少している（図表30、31）。

- 10月の生産は、自動車や電子部品・デバイスの減少を主因に、前月比-2.0%の減少となった。四半期ベースで見ると、7～9月に前期比-1.8%となったあと、10月の7～9月対比も-3.3%の減少となった（図表31）。実勢ベースで見ると、7～9月に前期比+1.0%に減速したあと、10月の7～9月対比は前期比-5.9%と減少に転じた⁹。

▽生産前期比における季節調整替えの影響（%）

	2009年 7～9月	10～12月	2010年 1～3月	4～6月	7～9月	10月
公表計数(a)	+5.3	+5.9	+7.0	+1.5	-1.8	-3.3
調整後計数(b)	+7.7	+5.0	+3.8	+3.2	+1.0	-5.9
(a)-(b)	-2.4	+0.9	+3.2	-1.7	-2.8	+2.6

（注）調整後計数の前期比は、年間補正後の原計数を年間補正前の季節要素で除した指数の前期比（調査統計局試算）。10月は7～9月対比。

- 出荷も、7～9月に前期比で-1.2%と減少したあと、10月の7～9月対比は-3.7%と減少幅が拡大した。財別にみると（図表32）、生産財は、電子部品・デバイス、輸送機械（自動車部品）、鉄鋼を中心に減少している。耐久消費財は、薄型テレビは増加しているものの、自動車大幅に減少していることから、全体でも減少している。建設財は、総じて低調に推移している。また、非耐久消費財は、駆け込み需要の反動が現れているたばこを中心に減少している。一方、資本財（除く輸送機械）は増加基調にある。

在庫はやや減少した（図表30、33）。

- 10月の在庫は、薄型テレビの在庫が駆け込み需要の拡大から大幅に減少したことを主因に、全体でもやや減少した。出荷・在庫バランスを前年比で見ると（図表33）、全体としては、出荷と在庫の伸びが概ね同程度となっている。ただし、電子部品・デバイスでは、在庫の伸びの方が高くなっており、在庫調整局面にある。

⁹ 2010年4月に行われた季節調整替えにより、2008年10～12月と2009年1～3月の生産の大幅な落ち込みの一部が、実勢ではなく「季節性」によるもの、と認識されている可能性が高い。こうした季節調整法は、その後の10～12月、1～3月の伸び率を押し上げ、4～6月、7～9月の伸び率を押し下げる方向に働くことになる。なお、2008年12月以前の計数は、上記季節調整替えの影響を受けていない。

先行きの生産については、耐久消費財を中心に一時的に弱めの動きとなったあと、増加していくと考えられる。

- 12月初時点における企業からの聞き取り調査をもとに、生産の前期比を予想すると、季節調整の歪みを除いた実勢ベースでは、10～12月の前期比は-2%台半ばの減少となる見通しである¹⁰。エコカー補助終了による輸送機械の減少と、その関連業種への影響が、主たる要因である。そのほか、円高や情報関連財の在庫調整などを反映して、鉄鋼、電子部品・デバイスなどが弱めになるほか、食料品が猛暑の反動から、また、たばこも増税前の駆け込みの反動から、減少すると予想される。前月初時点における計画と比べると、一般機械が新興国向け輸出を中心にやや上振れている一方、電子部品・デバイスが在庫調整の影響により下振れており、全体ではほぼ不変となっている。
- 一方、1～3月については2%台後半の増加に転じる見込みである。輸送機械において反動減の影響が徐々に薄まり、生産水準が引き上げられることに加え、電子部品・デバイスでは、在庫調整が進捗することが見込まれている。もともと、引き続き不確実性が大きい。

- 以上の見通しを公表統計ベースに変換すると、10～12月は-1%前後、1～3月は+4%台後半と、実勢に比べてともに強めになる。

非製造業の動向を示す第3次産業活動指数をみると、緩やかな増加基調にある(図表30)。

- 7～9月の前期比は+0.9%と増加したあと、10月の7～9月対比は-0.1%となった。内訳をみると、猛暑の反動により電気業が低下している一方、情報通信が増加している。

4. 雇用・所得

雇用・所得環境は引き続き厳しい状況にあるものの、その程度は幾分和らいでいる。

- 労働需給面をみると(図表34、35)、有効求人倍率は緩やかな改善傾向にあり、10月は0.56倍となった。12月短観の雇用人員判断DIをみると(図表37)、「過剰」超幅の縮小傾向が続いている。完全失業率は、なお高い水準にあり、横ばい圏内の動きとなっている。先行きについては、企業の雇用過剰感が薄れるにしたがって、緩やかな低下傾向をたどるとみられる。
- 雇用面についてみると(図表34、36(1))、労働力調査の雇用者数の前年比は、このところ小幅のプラスとなっている。この間、雇用調整助成金等にかかる休業等実施計画届の受理状況をみると、申請者数はなお高水準である

¹⁰ 生産予測指数から計算すると、10～12月の前期比は-1.9%となる。

が、緩やかな減少傾向にある¹¹。なお、労働力率は、このところ横ばい圏内で推移している（4～6月 59.5%、7～9月 59.7%、10月 59.8%）。

—— 厚生労働省・文部科学省によると、10月1日時点の2011年3月大学卒業予定者の就職内定率は57.6%となっている。2010年3月大学卒業予定者に関する1年前の数値（62.5%）を4.9%ポイント下回っており、調査を開始した1996年以降で最も低い水準となっている¹²。

—— 毎月勤労統計の常用労働者数は、前年比プラスで推移している。なお、パート比率は緩やかな上昇傾向にある（図表36(2)）。この間、所定外労働時間をみると、前年比ではなおプラスを保っているが、水準はこのところ製造業を中心に低下している（図表36(3)）。

—— 一人当たり名目賃金は（図表34、38(1)）、このところ前年比で幾分上昇している。内訳をみると、所定内給与は、前年比でゼロ%程度となっている。一方、所定外給与は、所定外労働時間の動きを映じて、前年比ではなお上昇している。

なお、大企業を対象とするアンケート調査をみると、冬季賞与は、夏季賞与並みの前年比増加が予想されている。

▽賞与に関するアンケート調査（前年比%）

	2009年冬	2010年夏	2010年冬	
労務行政研究所	-13.1	+2.4	+0.4	9月13日時点
日本経団連	-15.0	+0.6	+2.5	12月15日時点
日本経済新聞社	-14.8	+0.8	+2.4	12月1日時点

—— 雇用者所得は、以上のような雇用・賃金動向を反映し、このところ前年比小幅のプラスとなっている（図表38(3)）。

先行きの雇用者所得については、概ね下げ止まった状態で推移していくとみられるが、雇用の過剰感が残ることなどから、当面、はっきりした増加には至らない可能性が高い。

—— 企業収益の改善傾向を背景に、雇用や賃金の抑制圧力は一頃より和らいできている。しかし、労働分配率は、リーマン・ショック前に比べてなお高い水準にあり、先行きも引き続き低下圧力が働くとみられる。

¹¹ ピーク時（2009年4月）は253万人であったが、直近の10月は106万人となっている。なお、厚生労働省は、急激な円高の影響により、生産量の回復が遅れている事業主の雇用維持を支援するため、本年12月には要件緩和が終了する予定であった雇用調整助成金の要件を再び緩和し、以下の条件全てに該当する場合についても、本年12月から1年間に限り、支給対象とすることとなった（10月8日に決定）。①円高の影響により生産量が減少、②直近3か月の生産量が3年前の同時期に比べ15%以上減少、③直近の決算等の経常損益が赤字。

¹² これまでの最低水準は、2004年3月大学卒業予定者の60.2%であった。

5. 物価

(物価を取り巻く環境)

国際商品市況は、上昇している(図表 40)。

—— 原油価格は、新興国の需要拡大が予想される中、世界的に緩和的な金融環境の影響もあって、上昇している。非鉄金属は、新興国におけるインフラ需要などを背景に、銅などを中心に上昇している。また、穀物も新興国の食料・飼料需要の高まりや天候不順を背景に、上昇を続けている。この間、IT関連では、フラッシュメモリは総じて底堅く推移しているが、液晶パネルやDRAMは下落が続いている。

輸入物価(円ベース)を3か月前比で見ると、国際商品市況の動向を受けて、小幅上昇に転じた(図表 39、41)。

国内の需給環境について12月短観をみると(図表 42)、製商品・サービス需給判断DIは、「供給超過」超幅が製造業ではやや拡大している一方、非製造業では小幅縮小している。販売価格判断DIは、大企業では、製造業、非製造業ともに「下落」超幅がやや拡大している一方、中小企業では、製造業、非製造業ともにやや縮小している。この間、設備判断と雇用人員判断の加重平均DIは、緩やかな改善傾向にあるが、最近は改善の動きが一服気味となっている¹³。

国内商品市況は、このところ強含んでいる(図表 43)。

—— 非鉄は海外市況高の影響により、強含んでいる。石油製品や化学も、国際商品市況の動きを反映して、緩やかに上昇している。この間、鋼材は、弱含んでいる。

(物価指数)

国内企業物価(夏季電力料金調整後)を3か月前比で見ると、国際商品市況高の影響などから、緩やかに上昇している(図表 39、44)。先行きについても、国際商品市況の動きを反映して、当面、緩やかな上昇基調で推移するとみられる。

—— 11月の国内企業物価は、3か月前比で+0.4%と、緩やかに上昇している。内訳をみると(図表 44)、「為替・海外市況連動型」は、国際商品市況の上昇を背景に、小幅のプラスとなっている。また、「その他」は、たばこ税引

¹³ 当局試算の需給ギャップと、短観加重平均DIは、2008年末以降、乖離が大きくなっている。DIについては、①「過剰」か「不足」かのみを尋ねており「過剰」の大きさが反映されていないこと、②企業外の失業等は反映されないこと、などから、経済全体としての調整圧力を過小評価している可能性が高い。一方、需給ギャップについては、とりわけ経済の変動が大きいときには計測誤差が大きくなり、足もとではマイナス幅を過大評価している可能性もある。

き上げの影響により上昇している¹⁴。10月のたばこ税引き上げは、国内企業物価の3か月前比を、年内いっぱい一時的に押し上げることになる。

—— 輸入品を含む国内需要財全体でみると（図表45）、石油関連製品の動きなどを反映して、素原材料・中間財が小幅の上昇に転じたほか、最終財は上昇幅を拡大した。

企業向けサービス価格（除く国際運輸）の前年比は、企業の経費節減の動きなどを受けて下落が続いている（図表39、46）。

—— 10月の企業向けサービス価格（除く国際運輸）は、前年比-1.3%と、24か月連続の下落となった。本年入り後、前年比下落幅は縮小傾向にあったが、このところ下落幅が若干拡大している。最近の動きについて内訳をみると、販売管理費関連については、広告、宿泊サービスなどを中心に、下落幅がやや縮小している。一方、設備投資関連では、土木建築サービスの下落幅が、需要の低迷から拡大している。また、不動産関連では、需給の引き緩みがタイムラグを伴って影響することから、下落幅が拡大している。

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、マクロ的な需給バランスが緩和状態にあるもとで下落しているが、基調的にみると下落幅は縮小を続けている（図表39、47）。

—— 10月の消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、たばこ税増税の影響を主因に、下落幅が前月から0.5%ポイント縮小し、-0.6%となった。たばこ税増税の影響は0.3%ポイント、傷害保険料引き上げの影響は0.1%である。除く食料・エネルギーの前年比は、前月から0.7%ポイント縮小し-0.8%となった。高校授業料を除くと（図表49(1)）¹⁵、除く生鮮食品の前年比は、下落幅が前月から0.5%ポイント縮小し、-0.1%となった。除く食料・エネルギーの前年比は0.7%ポイント縮小し、0.0%となった。たばこ税や傷害保険料といった特殊要因を除いても、いずれの指標も、下落幅は縮小している。

—— 最近の動きについて、高校授業料、たばこ、傷害保険料以外の内訳をみると、農水畜産物（主として米類）の下落幅がやや拡大しているが、食料工業製品や生活関連用品の下落幅が縮小傾向にある。被服は、振れが大きいですが、均してみれば下落幅が縮小傾向にある。一般サービスは、家賃の下落幅が幾分拡大しているが、それ以外については、外国パック旅行を中心に、下落幅が縮小傾向にある。公共料金についても、電気代、ガス代、航空運賃などを中心に、下落幅は縮小傾向にある。

¹⁴ たばこ税の引き上げにより、国内企業物価は+0.4%ポイント押し上げられている。

¹⁵ 高校授業料においては、公立高校生のいる世帯に対して授業料（年額約12万円）を不徴収とするほか、私立高校生のいる世帯に対して就学支援金として公立高校の授業料相当額を支給する（就学支援金の仕組みは、①生徒は学校設置者を経由して就学支援金を申請、②就学支援金の費用は国で負担、③学校設置者は都道府県を通じて就学支援金を受領、④学校設置者は就学支援金額を授業料から減額するというもの）。

—— 基調的な変動を捉えるひとつの方法として、品目別価格変動分布の両端の一定割合を機械的に控除した刈込平均値（いわば大きな相対価格変動を除去した値）をみると、前年比下落幅は緩やかな縮小傾向にある（図表 49(1)）。また、消費者物価（除く生鮮食品）を構成する各品目の前年比について、上昇品目数の割合から下落品目数の割合を差し引いた指標をみると、下落品目数の方がかなり多い状況が続いているが、最近はごく緩やかに改善している（図表 49(2)）。

—— なお、除く生鮮食品ベースで、通常の前年比と、ラスパイレス連鎖指数前年比を比べると、最近のマイナス幅は後者の方が 0.4%ポイント程度大きい（図表 49(3)）。この乖離は、仮に現時点で基準改定が行われたときの、指数水準のリセット効果とウエイト変更の効果とを、表していると考えられる。

先行きの消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、マクロ的な需給バランスが徐々に改善することなどから、基調的にみれば下落幅が縮小していくと予想される。

—— 11 月の東京の消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、前月と同じく -0.5%となった（図表 50）。除く食料・エネルギーの前年比も、前月と同じく -0.6%となった。内訳をみると、財は、農水畜産物（主として米類）の下落幅が拡大している一方、被服の上昇幅拡大や、食料工業製品の下落幅縮小から、全体では前月並みの下落幅となっている。一般サービスも、前月並みの下落幅となっている。公共料金については、電気代の上昇幅が低下していることを主因に、全体でも上昇幅が若干縮小した。

—— 11 月の全国の消費者物価（除く生鮮食品・高校授業料）の下落幅は、前月と概ね同じ下落幅となると予想される。

（地価）

市街地価格指数をみると（図表 51）、いずれの地域・用途においても、半年前比下落幅は縮小している。

—— 六大都市では、商業地・住宅地ともに、リーマン・ショック以降、大幅に下落していたが、このところ急速に下落幅が縮小している。一方、六大都市以外については、商業地・住宅地ともに、下落幅の縮小ペースは緩慢である。

以 上

議事録公表時まで対外非公表

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
 <配付先：金融政策決定会合関係者限り>
 <作成局における保管期間満了時期：2040年12月>

2010.12.15

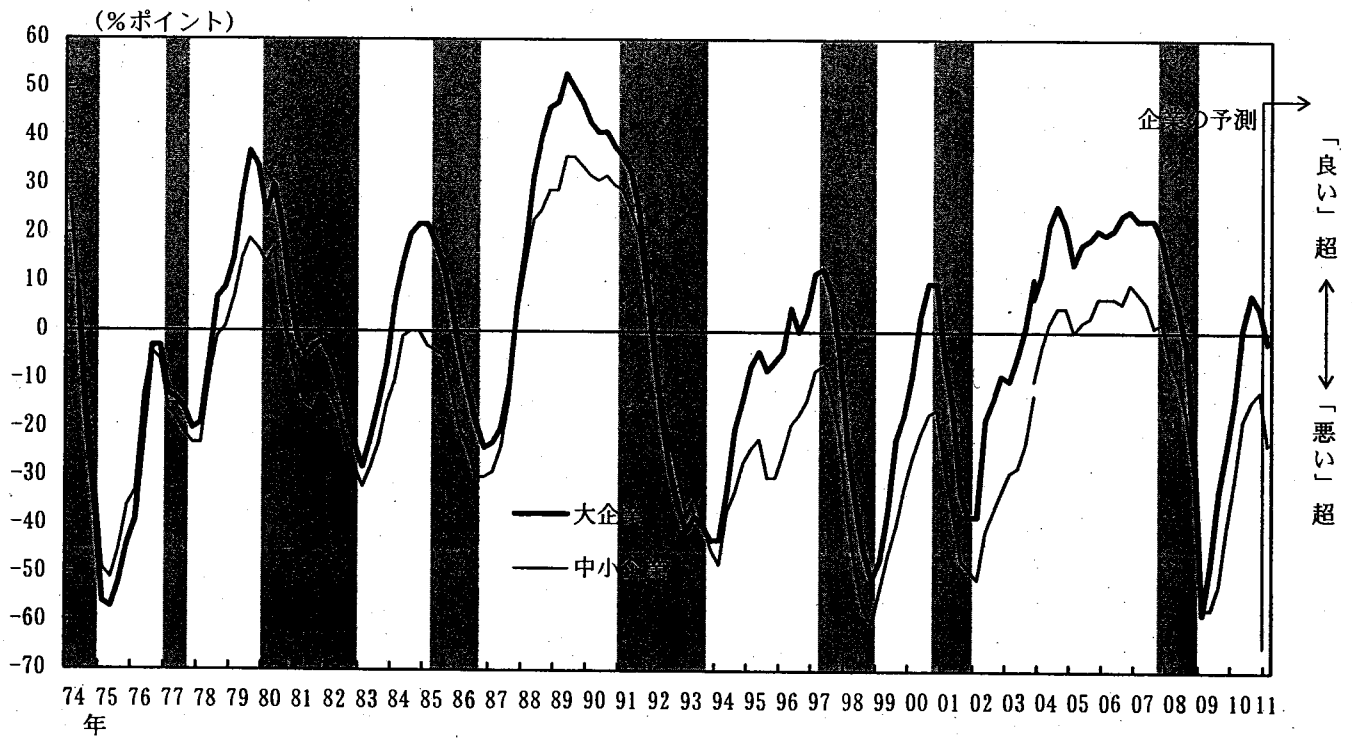
調査統計局

「経済活動の現状評価」参考計表

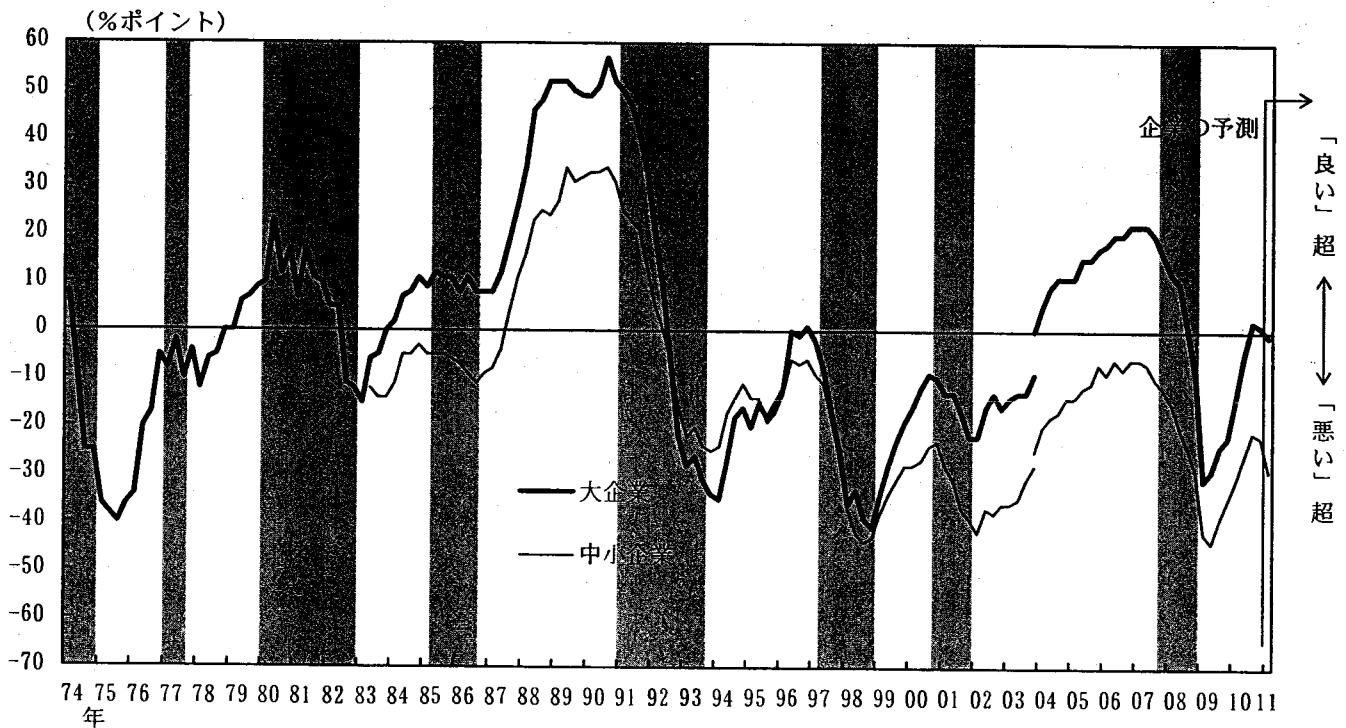
(図表 1) 業況判断	(図表 28) 住宅関連指標
(図表 2) 実質GDPと景気動向指数	(図表 29) 住宅投資関連指標
(図表 3) GDPデフレーターと所得形成	(図表 30) 生産・出荷・在庫関連指標
(図表 4) 公共投資関連指標	(図表 31) 生産
(図表 5) 公共投資	(図表 32) 財別出荷
(図表 6) 輸出入関連指標	(図表 33) 在庫循環
(図表 7) 輸出入	(図表 34) 雇用関連指標
(図表 8) 実質輸出の内訳	(図表 35) 労働需給(1)
(図表 9) 米国向け輸出	(図表 36) 労働需給(2)
(図表 10) 東アジア向け輸出	(図表 37) 雇用の過不足感
(図表 11) その他地域向け輸出	(図表 38) 雇用者所得
(図表 12) 情報関連輸出	(図表 39) 物価関連指標
(図表 13) 実質実効為替レート・海外経済	(図表 40) 国際商品市況と輸入物価
(図表 14) 実質輸入の内訳	(図表 41) 輸入物価
(図表 15) 企業収益関連指標	(図表 42) 国内需給環境
(図表 16) 業種別・規模別の企業収益	(図表 43) 国内商品市況
(図表 17) 経常利益	(図表 44) 国内企業物価
(図表 18) 設備投資関連指標	(図表 45) 企業物価指数の需要段階別推移
(図表 19) 業種別・規模別の設備投資	(図表 46) 企業向けサービス価格
(図表 20) 設備投資一致指標	(図表 47) 消費者物価(全国)
(図表 21) 設備投資先行指標	(図表 48) 消費者物価(全国)における 食料・エネルギーの影響
(図表 22) 設備投資計画	(図表 49) 消費者物価(全国)の基調的な変動
(図表 23) 個人消費関連指標	(図表 50) 消費者物価(東京)
(図表 24) 個人消費(1)	(図表 51) 地価関連指標
(図表 25) 個人消費(2)	
(図表 26) 個人消費(3)	
(図表 27) 消費者コンフィデンス	

業況判断

(1) 製造業



(2) 非製造業

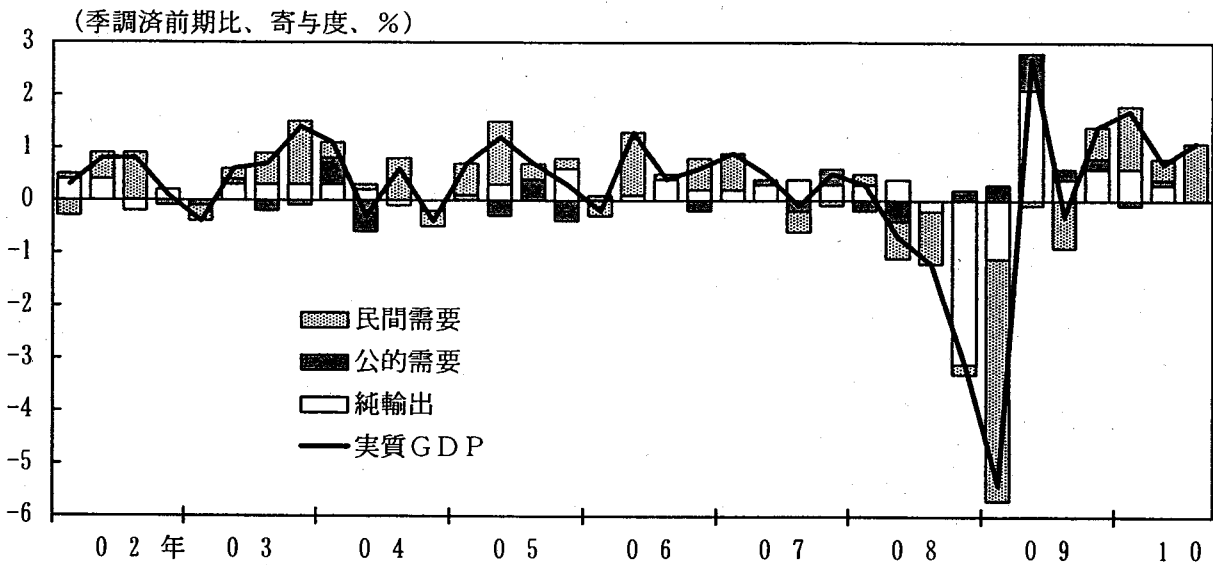


- (注) 1. 2004/3月調査より見直しを実施。
旧ベースは2003/12月調査まで、新ベースは2003/12月調査から。
2. 非製造業大企業の1983/2月以前のデータは主要企業。
3. シャドー部分は景気後退局面。

(資料) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

実質GDPと景気動向指数

(1) 実質GDP



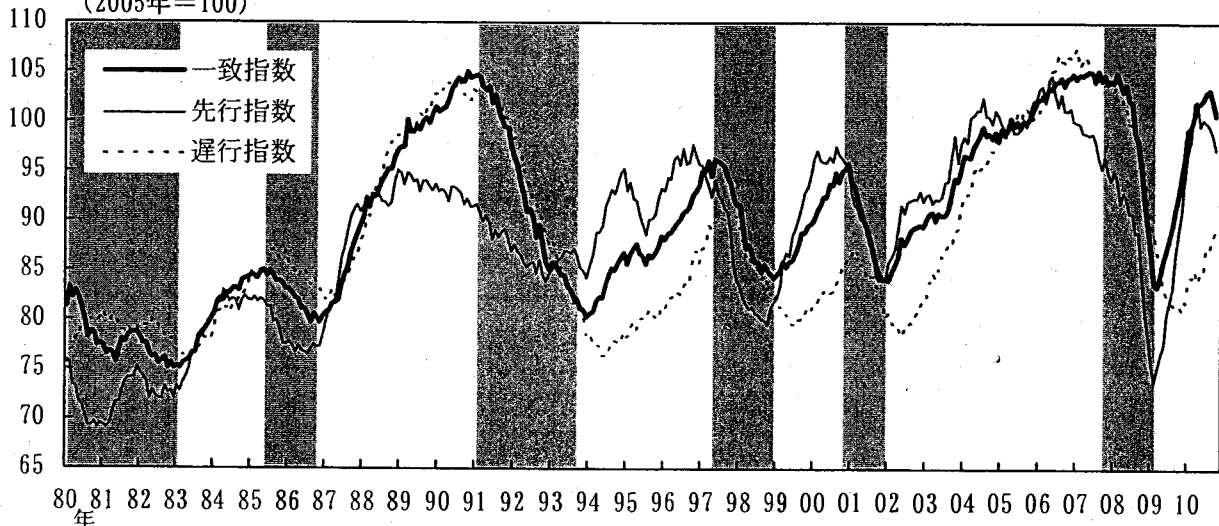
(2) 需要項目別の動向

(季調済前期比、内訳は寄与度、%)

	2009年		2010年			1次QE 10/7~9
	7~9月	10~12	1~3	4~6	7~9	
実質GDP	-0.3	1.4	1.7	0.7	1.1	0.9
国内需要	-0.7	0.8	1.1	0.5	1.1	0.9
民間需要	-0.9	0.6	1.2	0.4	1.1	0.9
民間最終消費支出	0.1	0.4	0.3	0.2	0.7	0.7
民間企業設備	-0.3	0.2	0.1	0.4	0.2	0.1
民間住宅	-0.2	-0.1	0.0	-0.0	0.0	0.0
民間在庫品増加	-0.5	0.1	0.6	-0.1	0.2	0.1
公的需要	0.2	0.2	-0.1	0.1	-0.0	-0.0
公的固定資本形成	-0.0	0.0	-0.1	-0.1	-0.0	-0.0
純輸出	0.4	0.6	0.6	0.3	-0.0	0.0
輸出	1.3	0.7	1.0	0.8	0.4	0.4
輸入	-0.8	-0.1	-0.4	-0.5	-0.4	-0.3
名目GDP	-0.7	0.4	1.7	-0.3	0.6	0.7

(3) 景気動向指数 (CI)

(2005年=100)



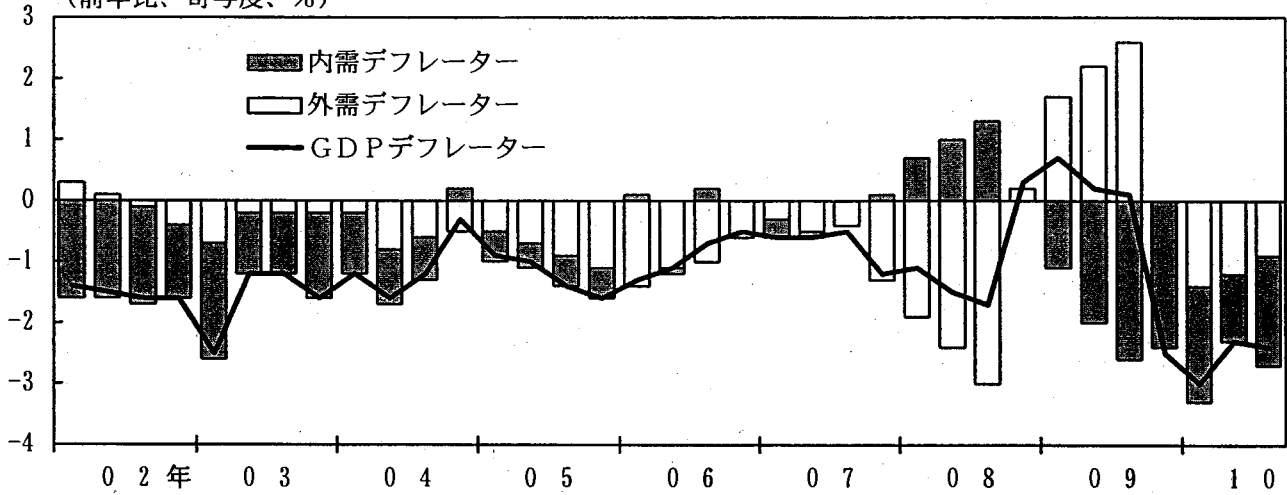
(注) シャドー部分は景気後退局面。

(資料) 内閣府「国民経済計算」「景気動向指数」

GDPデフレーターと所得形成

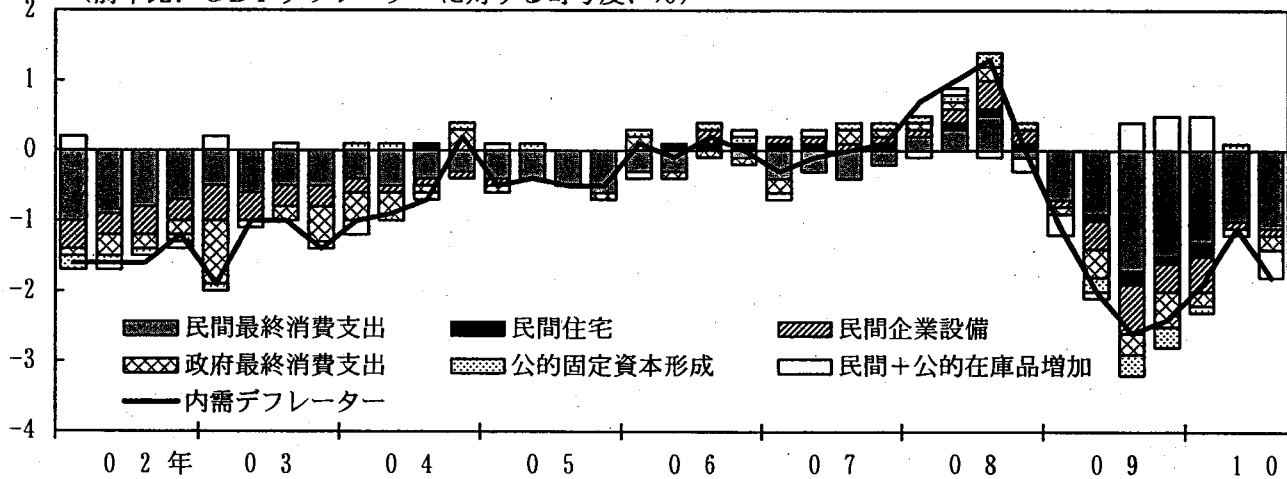
(1) GDPデフレーター

(前年比、寄与度、%)



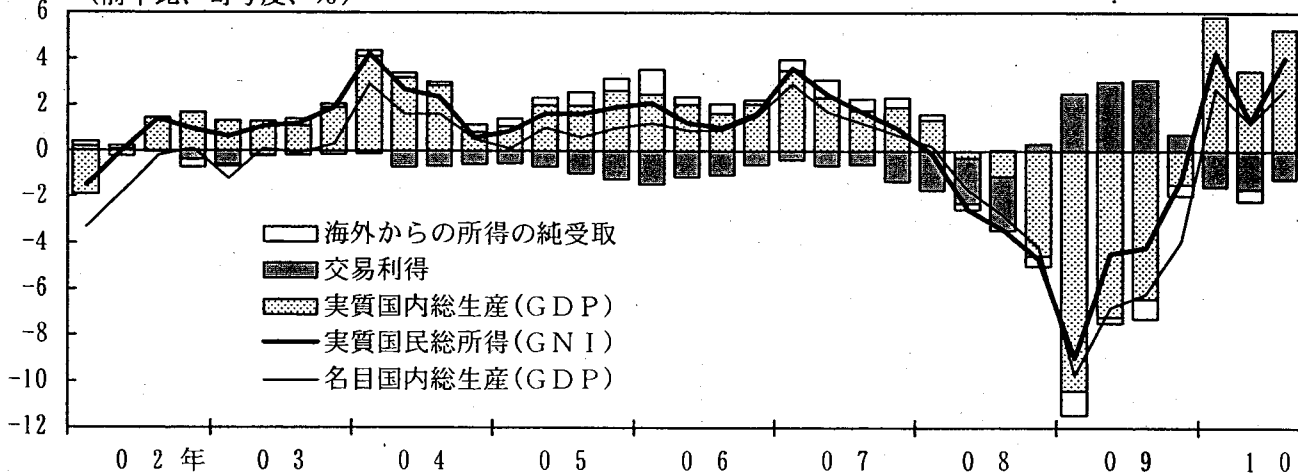
(2) 内需デフレーター

(前年比、GDPデフレーターに対する寄与度、%)



(3) マクロの所得形成

(前年比、寄与度、%)



- (注) 1. 内訳は実質国民総所得(GNI)に対する寄与度。
2. 実質GNI = 実質GDP + 交易利得 + 海外からの所得の純受取
交易利得 = 名目純輸出 / 輸出・輸入デフレーター加重平均 - 実質純輸出

(資料) 内閣府「国民経済計算」

公共投資関連指標

＜公共工事出来高金額＞

— 季調済年率換算：兆円、〈 〉内は前期(月)比、()内は前年比：%

	09年度	10/1～3月	4～6	7～9	10/7月	8	9
公共工事出来高金額	18.5	19.4	17.1	16.9	17.0	17.2	16.6
	(9.6)	(15.9)	(-8.5)	(-6.9)	(-6.9)	(-3.5)	(-10.0)
		〈 7.3〉	〈-12.1〉	〈 -0.8〉	〈 -2.6〉	〈 0.7〉	〈 -3.4〉

- (注) 1. X-12-ARIMAによる季節調整値。毎月季節調整替えを行うため、過去に遡って改訂される。
2. 国土交通省「建設総合統計」の総合表ベース。

＜公共工事請負金額＞

— 季調済年率換算：兆円、〈 〉内は前期(月)比、()内は前年比：%

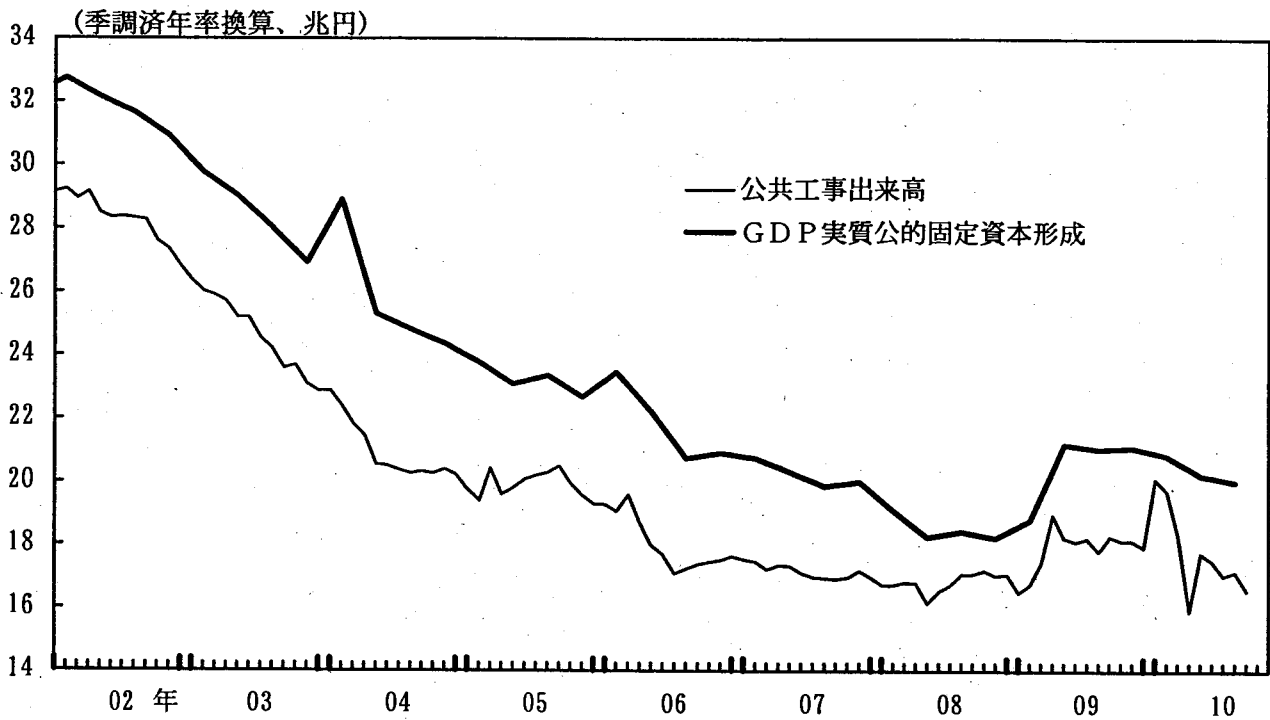
	09年度	10/4～6月	7～9	10～12	10/9月	10	11
公共工事請負金額	12.4	12.2	11.2	10.8	10.7	10.8	10.8
	(4.9)	(-3.5)	(-12.6)	(-13.4)	(-18.8)	(-18.1)	(-6.3)
		〈 5.2〉	〈 -7.9〉	〈 -3.9〉	〈 -4.9〉	〈 0.1〉	〈 0.4〉
うち国等の発注 〈ウエイト34.0%〉	4.2	4.1	3.7	3.4	3.4	3.4	3.3
	(-2.2)	(-7.1)	(-20.8)	(-20.4)	(-33.4)	(-25.5)	(-12.3)
		〈 17.3〉	〈 -9.1〉	〈 -8.6〉	〈 -3.9〉	〈 0.2〉	〈 -3.5〉
うち地方の発注 〈ウエイト66.0%〉	8.2	8.1	7.5	7.4	7.3	7.3	7.5
	(9.0)	(-1.2)	(-8.9)	(-10.9)	(-12.2)	(-15.4)	(-4.3)
		〈 -0.0〉	〈 -7.3〉	〈 -1.7〉	〈 -5.3〉	〈 0.1〉	〈 2.3〉

- (注) 1. 「ウエイト」は、合計に占める各発注主体別計数のウエイト(2009年度)。
2. X-12-ARIMAによる季節調整値。
3. 公共工事請負金額の「地方」は、「都道府県」・「市区町村」・「地方公社」の合計。
「国等」は「国」・「独立行政法人等」・「その他」の合計。
4. 2010/10～12月の季調済年率換算金額は10～11月の値、季調済前期比は10～11月の7～9月対比、前年比は10～11月の前年同期比。

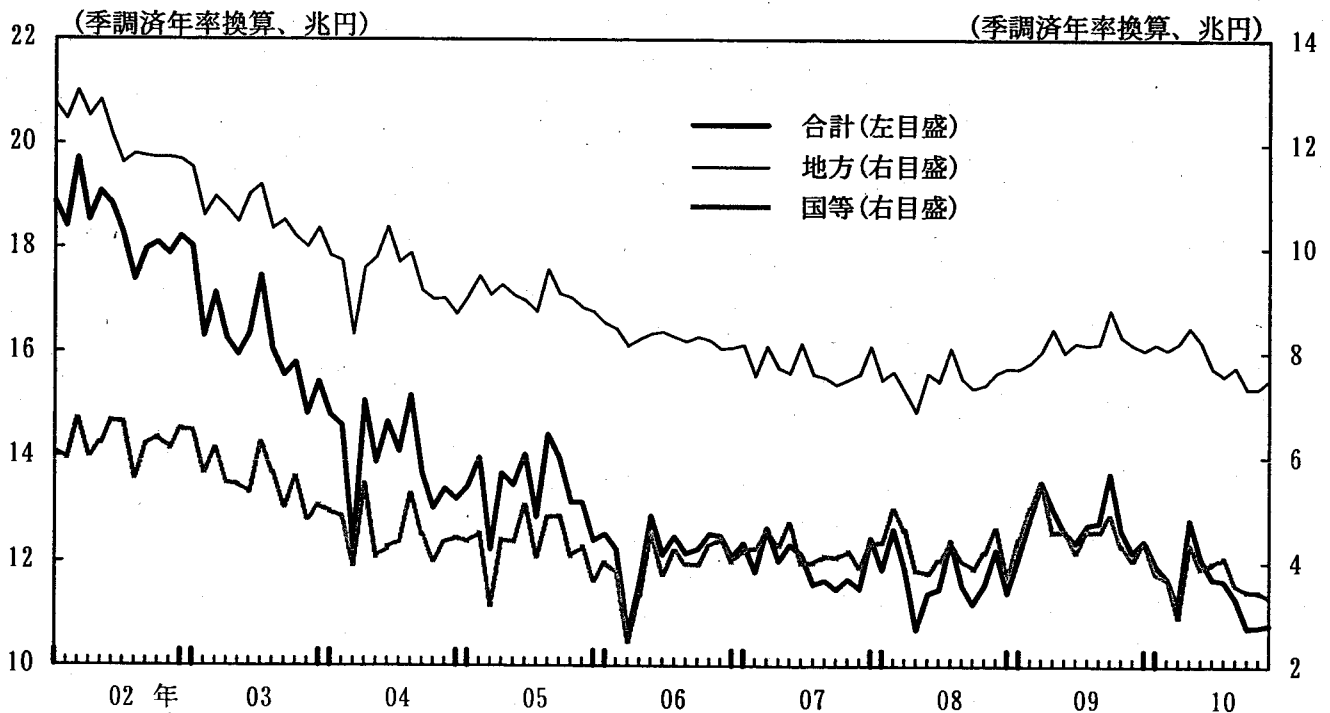
(資料) 国土交通省「建設総合統計」、東日本建設業保証株式会社他「公共工事前払金保証統計」

公共投資

(1) 公共工事出来高とGDP実質公的固定資本形成



(2) 公共工事請負金額



- (注) 1. GDP実質公的固定資本形成は、四半期の値を中心月にプロット。
 2. 公共工事出来高は、国土交通省「建設総合統計」の総合表ベース。
 3. 公共工事請負金額の「地方」は、「都道府県」・「市区町村」・「地方公社」の合計。
 「国等」は「国」・「独立行政法人等」・「その他」の合計。
 4. 公共工事請負金額および公共工事出来高は、X-12-ARIMAによる季節調整値。
 公共工事出来高は、毎月季節調整替えを行うため、過去に遡って改訂される。

(資料) 内閣府「国民経済計算」、東日本建設業保証株式会社他「公共工事前払金保証統計」、国土交通省「建設総合統計」

輸出入関連指標

＜実質輸出入＞

- <>内は季調済前期(月)比、()内は前年比：％
— 実質貿易収支は指数水準：季調済、2005年=100

	09年度	10/4～6月	7～9	10～12	10/8月	9	10
実質輸出	(-9.3)	< 9.6> (35.5)	<-0.4> (23.9)	<-2.7> (12.9)	<-4.2> (23.1)	<-0.2> (20.0)	<-1.2> (12.9)
実質輸入	(-7.7)	< 6.3> (16.7)	< 1.2> (12.6)	<-1.2> (7.7)	<-1.6> (17.4)	<-0.3> (8.6)	<-0.5> (7.7)
実質貿易収支	153.5 (-15.4)	246.4 < 19.7> (150.9)	234.4 <-4.9> (76.0)	217.2 <-7.3> (28.9)	224.6 <-11.5> (56.6)	224.8 < 0.1> (64.0)	217.2 <-3.3> (28.9)

(注) 1. X-12-ARIMAによる季節調整値。

2. 2010/10～12月の指数水準は10月の値、季調済前期比は10月の7～9月対比、前年比は10月の前年同月比。

＜国際収支＞

- 季調済金額：兆円、<>内は前期(月)比：％

	09年度	10/4～6月	7～9	10～12	10/8月	9	10
経常収支	15.78	3.78 <-18.8>	4.30 < 14.0>	4.39 < 1.9>	1.18 <-19.4>	1.66 < 40.9>	1.46 <-12.0>
貿易・サービス収支	4.78	1.44 <-23.8>	1.82 < 26.4>	1.45 <-20.1>	0.39 <-51.1>	0.62 < 58.9>	0.48 <-22.4>

(注) 1. X-12-ARIMAによる季節調整値。

2. 2010/10～12月の季調済金額は10月の四半期換算値、季調済前期比は10月の7～9月対比。

＜数量指数＞

- <>内は季調済前期(月)比、()内は前年比：％

	09年度	10/4～6月	7～9	10～12	10/8月	9	10
輸出数量	(-10.3)	< 6.7> (32.8)	<-2.6> (18.5)	<-3.7> (5.3)	<-5.6> (14.2)	< 1.3> (16.1)	<-2.6> (5.3)
輸入数量	(-7.8)	< 3.5> (19.2)	< 2.6> (14.4)	<-3.2> (5.7)	< 1.1> (19.1)	<-1.5> (10.5)	<-2.5> (5.7)

(注) 2010/10～12月の季調済前期比は10月の7～9月対比、前年比は10月の前年同月比。

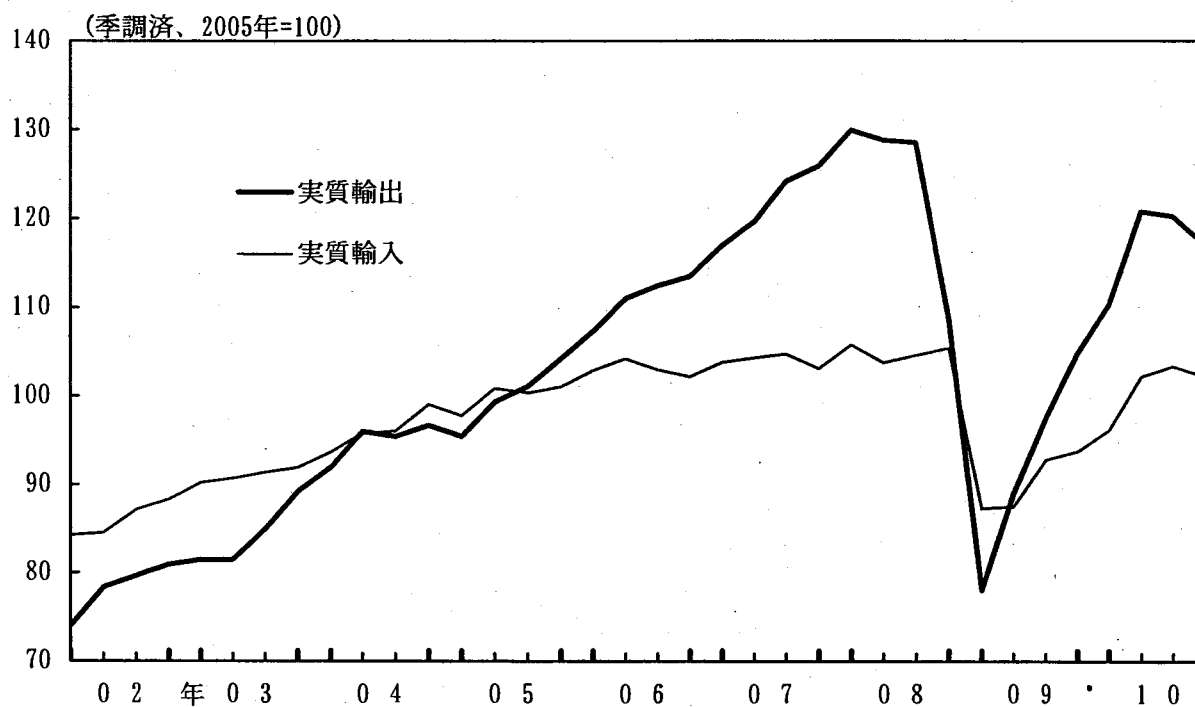
＜為替相場＞

	07年末	08	09	10/7月末	8	9	10	11
ドル＝円	113.12	90.28	92.13	86.37	84.24	83.32	80.68	84.03
ユーロ＝円	165.70	127.20	132.25	112.73	106.65	113.51	111.81	110.24

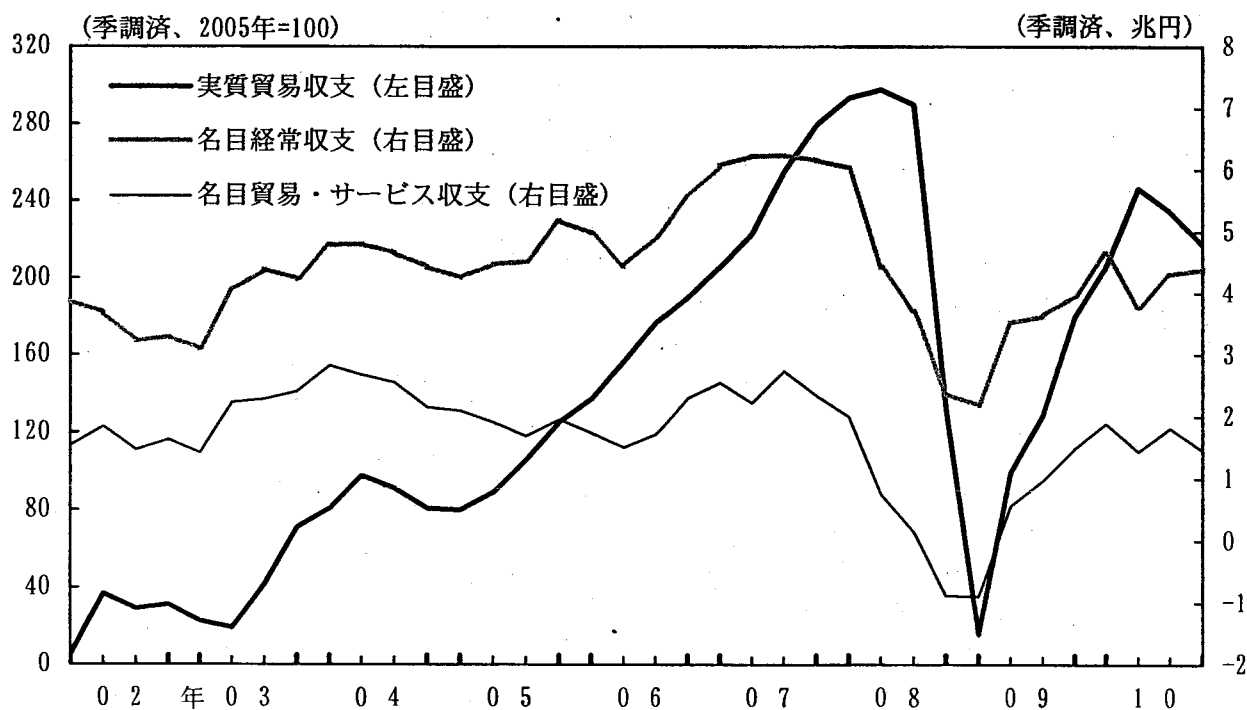
(資料) 財務省「貿易統計」、財務省・日本銀行「国際収支状況」、
日本銀行「金融経済統計月報」「企業物価指数」

輸出入

(1) 実質輸出入



(2) 対外収支



- (注) 1. 実質輸出(入)は、通関輸出(入)金額を輸出(入)物価指数で各々デフレートし、指数化したもの。
 実質貿易収支は、実質輸出入の差を指数化したもの。
 2. 各計数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。
 3. 2010/4Qの実質輸出入、実質貿易収支は10月の値。
 4. 2010/4Qの名目経常収支、名目貿易・サービス収支は10月の四半期換算値。

(資料) 財務省「貿易統計」、財務省・日本銀行「国際収支状況」、日本銀行「企業物価指数」

実質輸出の内訳

(1) 地域別

		(前年比、%)		(季調済前期比、%)					(季調済前月比、%)		
		暦年 2008年	2009	2009年 4Q	2010 1Q	2Q	3Q	4Q	2010年 8月	9	10
米国	<16.1>	-8.8	-32.6	7.1	-1.2	11.3	3.4	-2.5	-9.1	1.5	-0.3
EU	<12.5>	-0.1	-34.6	9.6	-4.0	8.5	4.2	-3.1	5.7	-2.7	-3.1
東アジア	<51.4>	3.4	-15.8	7.8	7.9	5.0	0.8	1.0	-1.7	-2.4	3.3
中国	<18.9>	6.7	-10.2	6.4	9.1	2.5	2.7	6.2	-1.3	-4.2	9.7
NIEs	<23.5>	-0.0	-18.0	6.7	6.9	5.3	-0.6	-2.6	-1.4	-2.8	-0.3
韓国	<8.1>	-0.3	-16.0	5.0	5.9	5.8	1.6	-10.2	2.5	-7.5	-6.2
台湾	<6.3>	-4.3	-17.7	11.8	9.7	6.8	-0.8	-3.0	0.7	-9.5	3.5
香港	<5.5>	-2.4	-18.8	8.0	4.9	10.0	-3.9	1.7	-12.3	6.5	2.0
シンガポール	<3.6>	13.3	-21.6	-4.7	13.3	-11.0	6.0	0.4	8.5	4.0	-4.7
ASEAN4	<9.1>	6.4	-20.5	13.7	8.1	9.0	0.6	-0.4	-3.1	1.7	-0.5
タイ	<3.8>	5.0	-20.9	16.1	4.9	11.1	1.2	-0.8	-3.1	-1.4	1.2
その他	<20.0>	16.1	-32.1	11.3	11.1	9.1	-4.0	-4.0	-10.3	8.7	-5.7
実質輸出計		1.8	-25.6	7.6	5.2	9.6	-0.4	-2.7	-4.2	-0.2	-1.2

- (注) 1. < >内は、2009年通関輸出額に占める各地域・国のウェイト。
 2. ASEAN4はタイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア。
 3. 各計数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。なお、2010/4Qは10月の7～9月対比。

(2) 財別

		(前年比、%)		(季調済前期比、%)					(季調済前月比、%)		
		暦年 2008年	2009	2009年 4Q	2010 1Q	2Q	3Q	4Q	2010年 8月	9	10
中間財	<20.7>	0.4	-5.6	4.6	0.9	5.4	1.3	-1.9	-2.1	-3.5	1.2
自動車関連	<20.0>	3.2	-41.4	11.3	4.9	10.7	0.5	-0.4	-5.0	1.9	0.1
消費財	<4.1>	3.5	-28.8	0.3	-0.5	9.2	1.0	-6.7	-2.7	0.3	-6.0
情報関連	<11.3>	0.8	-17.0	5.7	5.9	7.2	-1.5	-1.9	-0.8	-6.6	3.0
資本財・部品	<27.9>	5.2	-28.1	9.9	8.7	14.7	1.2	-4.2	-7.4	4.4	-4.5
実質輸出計		1.8	-25.6	7.6	5.2	9.6	-0.4	-2.7	-4.2	-0.2	-1.2

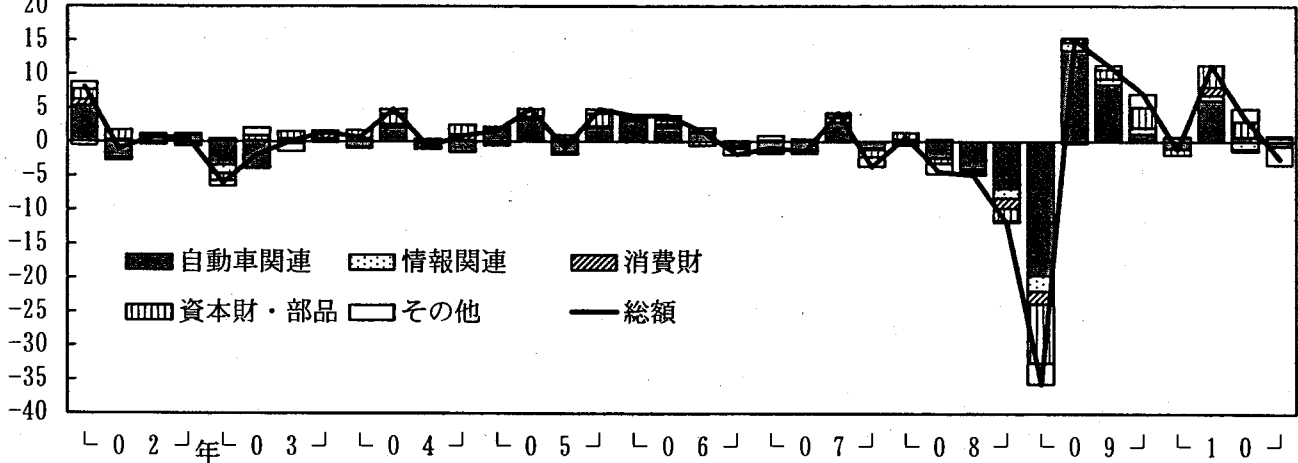
- (注) 1. < >内は、2009年通関輸出額に占める各財のウェイト。
 2. 「消費財」は、自動車を除く。
 3. 「情報関連」は、電算機類、通信機、IC等電子部品、科学光学機器。
 4. 「資本財・部品」は、情報関連、原動機、自動車部品を除く。
 5. 各計数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。なお、2010/4Qは10月の7～9月対比。

(資料) 財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」

米国向け輸出

(1) 米国向け輸出の財別内訳

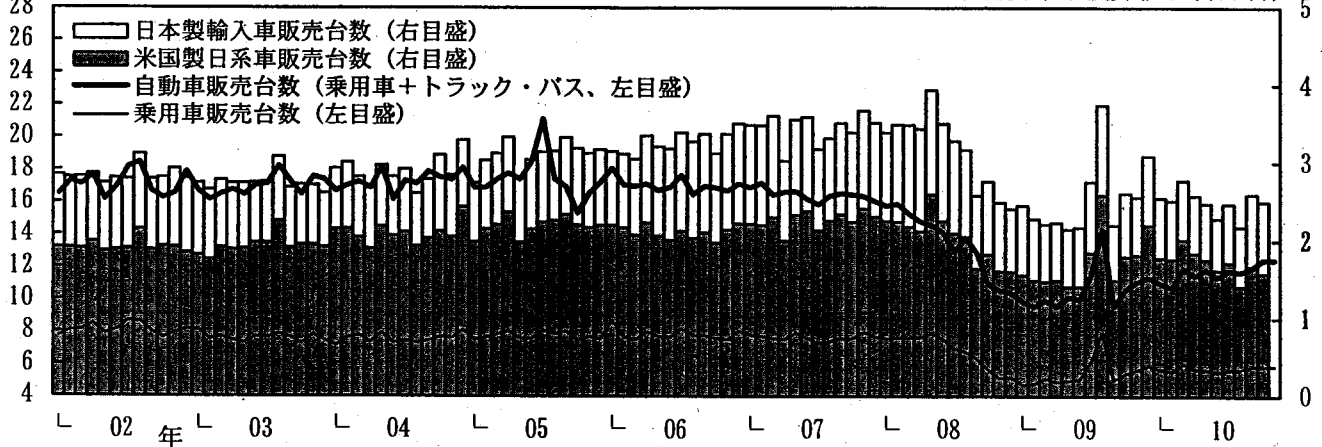
(季調済前期比、寄与度、%)



(2) 米国の自動車販売台数

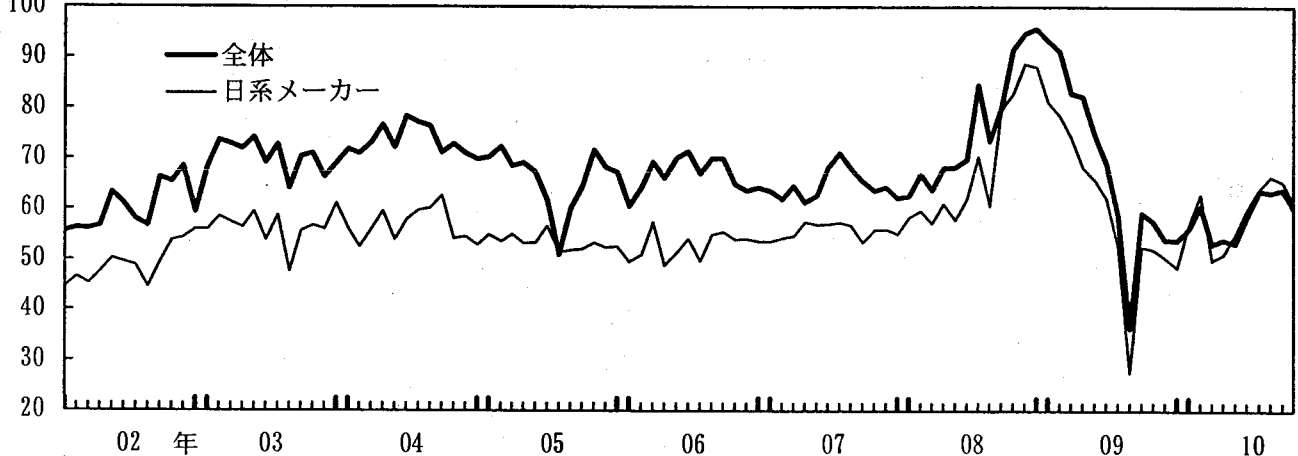
(季調済年率換算値、百万台)

(季調済年率換算値、百万台)



(3) 米国の自動車在庫

(季調済、在庫日数)

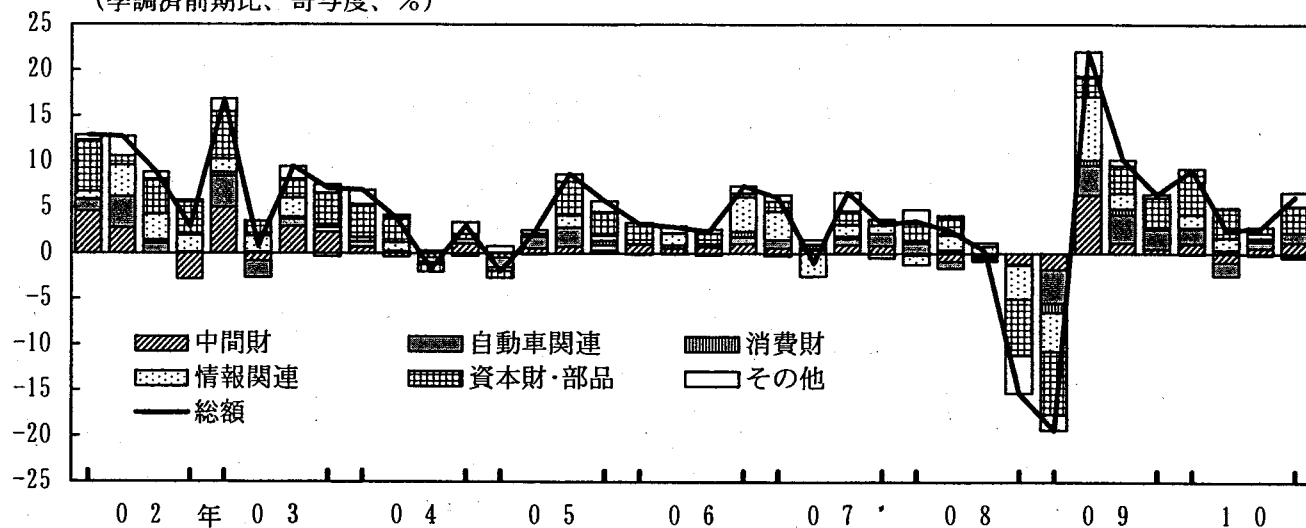


- (注) 1. (1) の各計数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。実質値。なお、2010/4Qは10月の7~9月対比。
 2. (2) において、ミニバンやSUVはトラックに含まれる。米国製日系車販売台数および日本製輸入車販売台数は乗用車のみ。X-12-ARIMAによる季節調整値。
 3. (3) の在庫日数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。
 在庫日数=当月末時点での在庫/当月の1日平均販売台数。

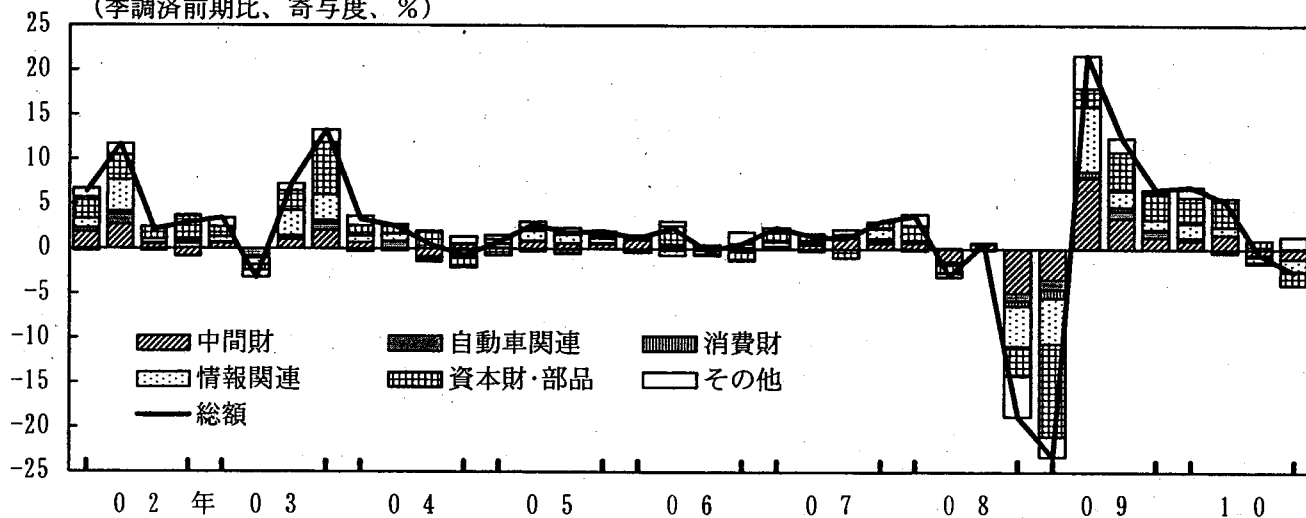
(資料) 財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」、U.S. Department of Commerce, "Sales, production, imports, exports, and inventories, in units", Bloomberg, 日本自動車工業会「自動車統計月報」、Automotive News Inc., "Automotive News"

東アジア向け輸出

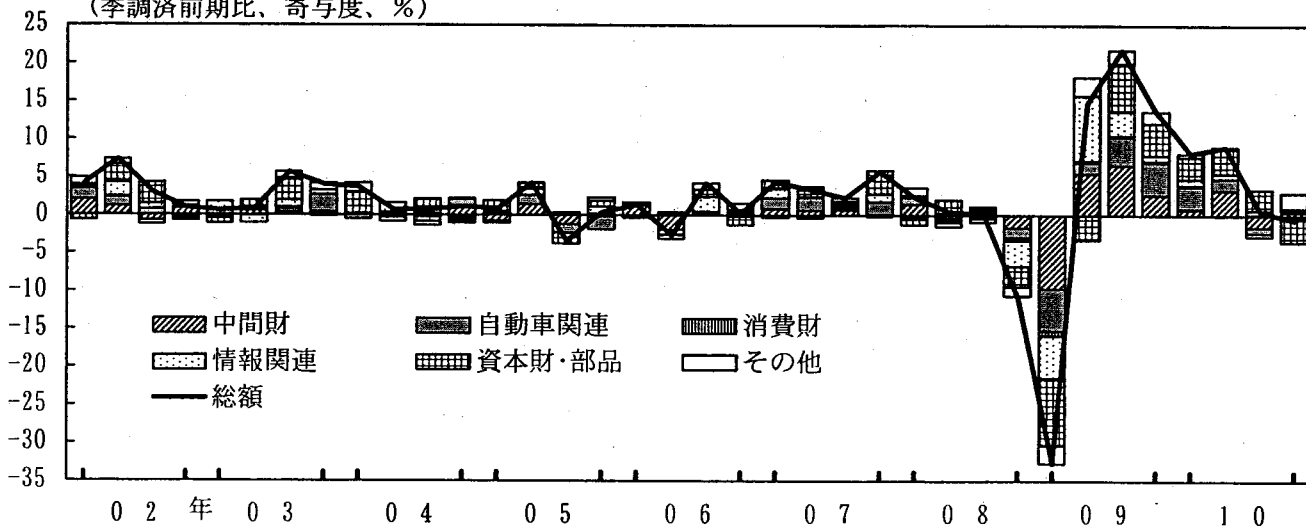
(1) 中国向け輸出 (実質、財別)
(季調済前期比、寄与度、%)



(2) NIEs向け輸出 (実質、財別)
(季調済前期比、寄与度、%)



(3) ASEAN4向け輸出 (実質、財別)
(季調済前期比、寄与度、%)



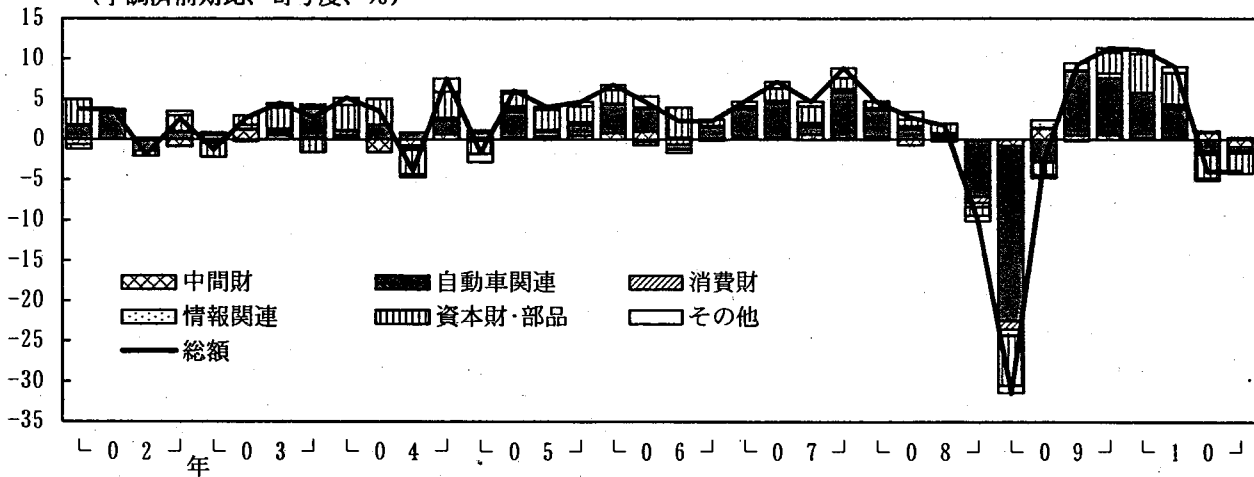
(注) 1. NIEsは韓国、台湾、香港、シンガポール。
 2. ASEAN4はタイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア。
 3. 各計数はX-12-ARIMAによる季節調整値。なお、2010/4Qは10月の7~9月対比。

(資料) 財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」

その他地域向け輸出

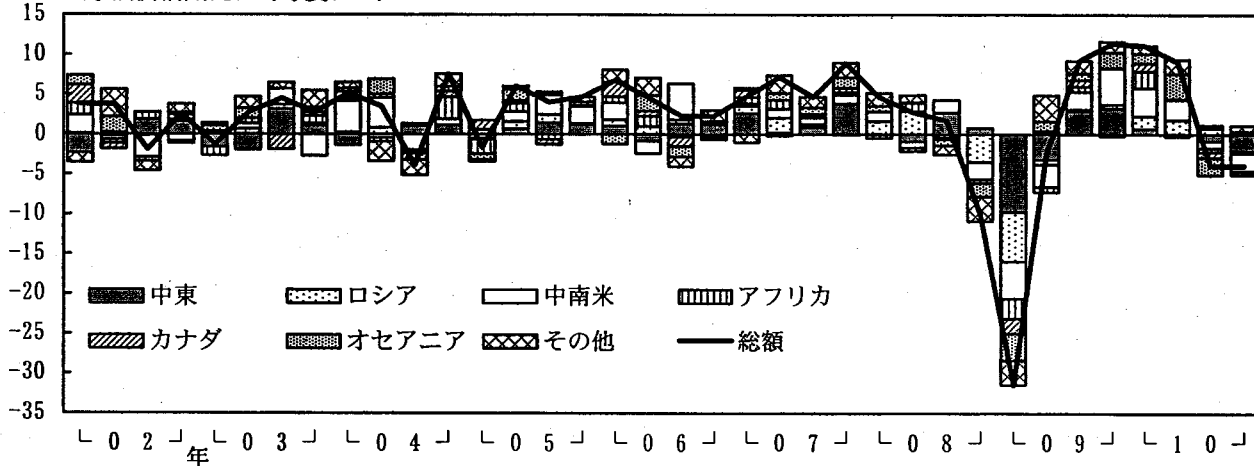
(1) その他地域向け輸出 (実質、財別)

(季調済前期比、寄与度、%)



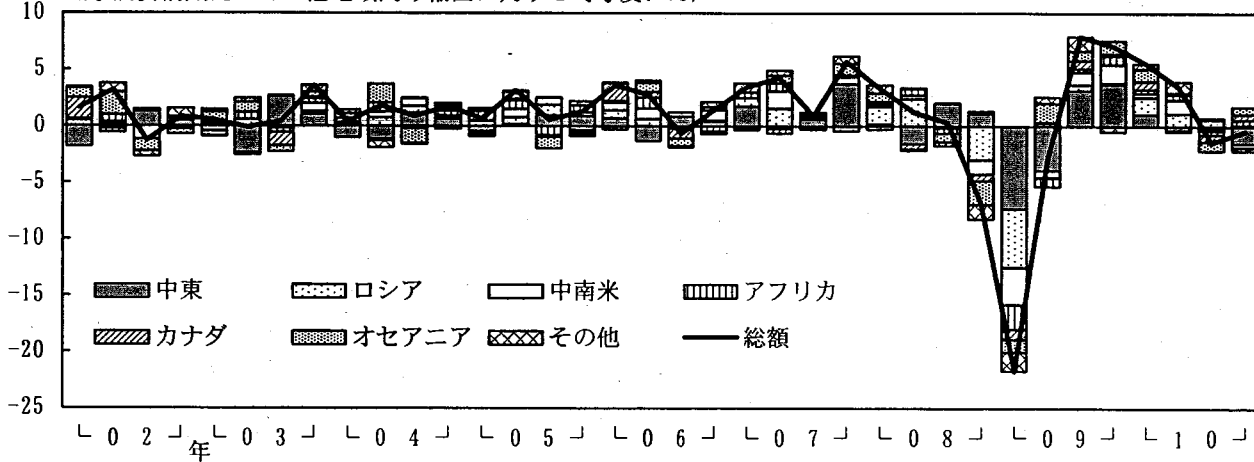
(2) その他地域向け輸出 (実質、地域別)

(季調済前期比、寄与度、%)



(3) その他地域向け自動車関連輸出 (実質、地域別)

(季調済前期比、その他地域向け輸出に対する寄与度、%)



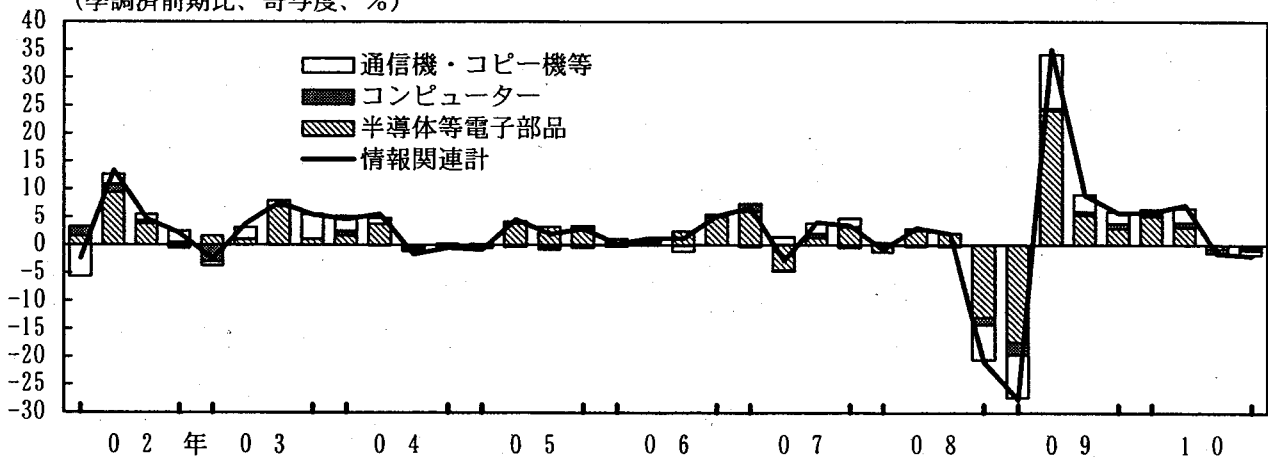
- (注) 1. (1) の各計数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。
- 2. (2) および (3) の地域別季調済計数は、(1) その他地域全体の季節要素を用いて計算している。
- 3. 2010/4Qは10月の7~9月対比。

(資料) 財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」

情報関連輸出

(1) 情報関連輸出 (実質、品目別)

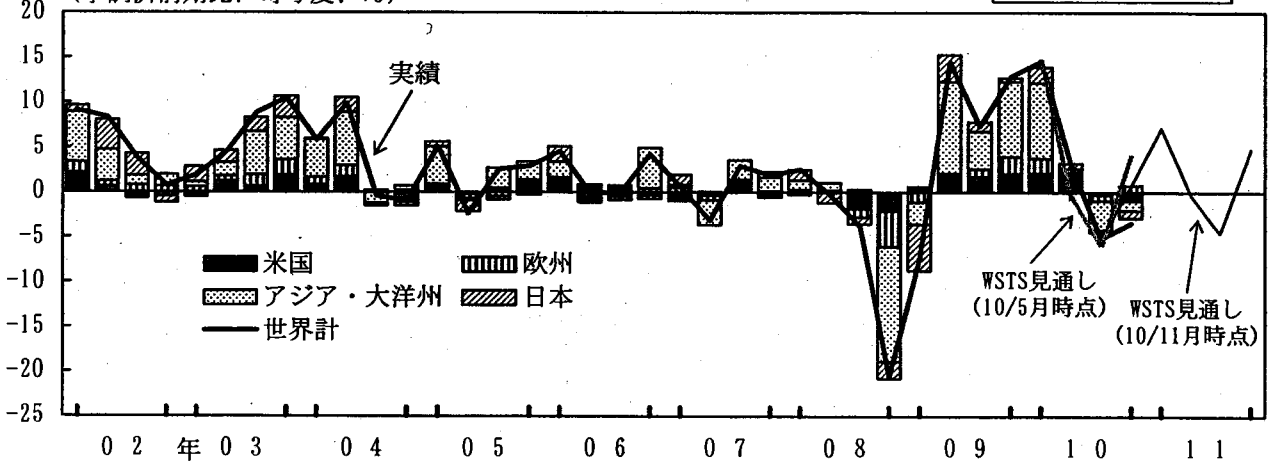
(季調済前期比、寄与度、%)



(2) 世界半導体出荷 (名目、地域別)

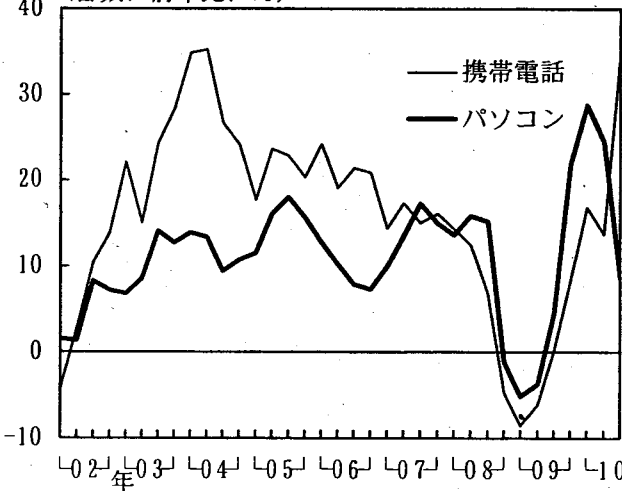
(季調済前期比、寄与度、%)

見通しは転載不可

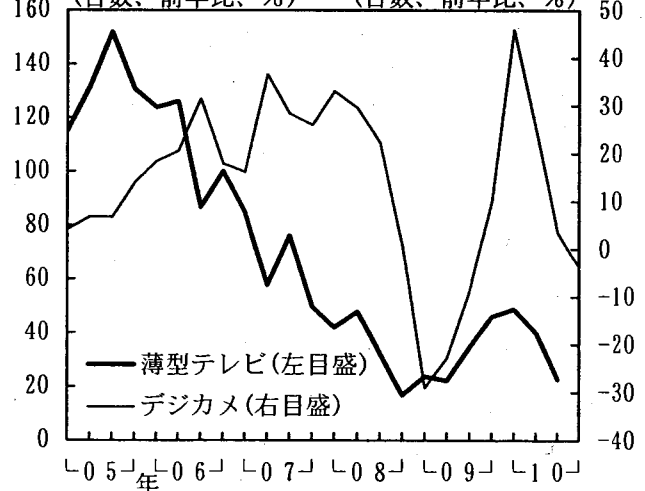


(3) 情報関連最終製品の世界需要 転載不可

(台数、前年比、%)



(台数、前年比、%) (台数、前年比、%)



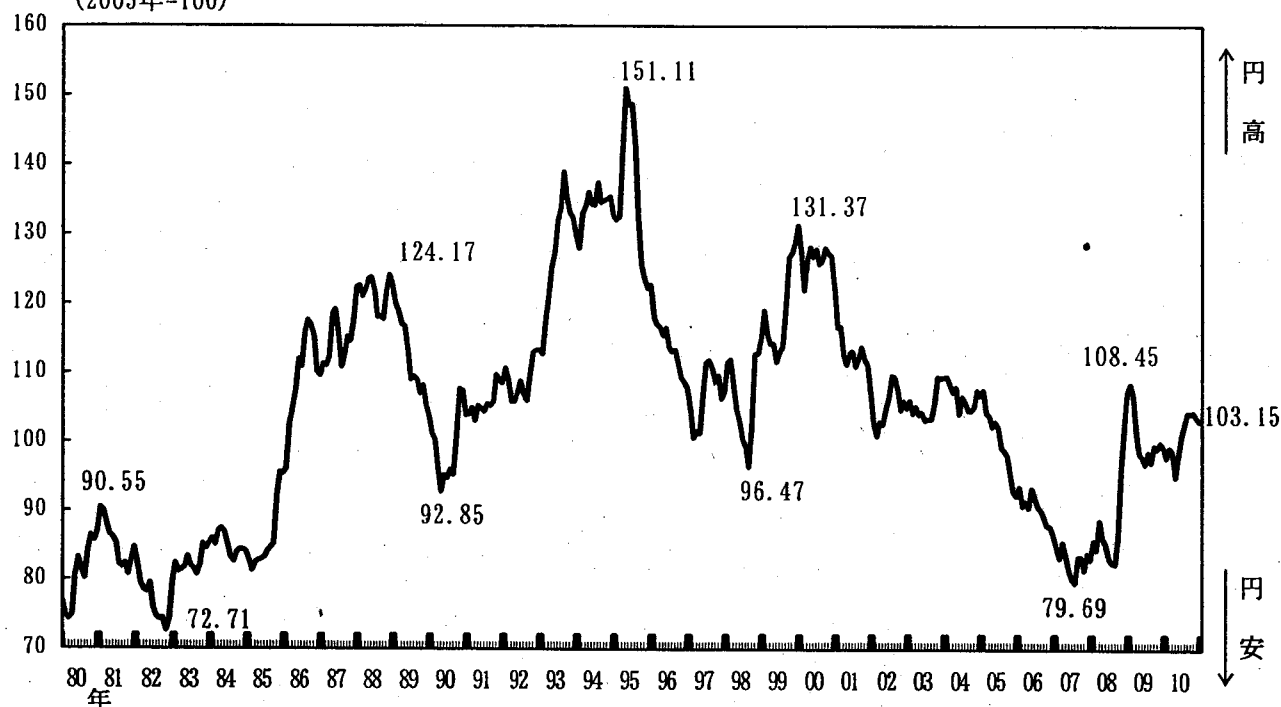
(注) 1. (1) および (2) の計数はX-12-ARIMAによる季節調整値であり、内訳の積み上げと合計の差は同調整に伴う誤差。なお、2010/4Qは10月の7~9月対比。
 2. (3) のデジカメの2010/4Qは、10月の前年同月比。

(資料) 財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」、WSTS「世界半導体市場予測」、
 ガーナー・データクエスト、ガーナー・プレスリリース、ディスプレイサーチ、ディスプレイサーチ・プレスリリース、
 カメラ映像機器工業会

実質実効為替レート・海外経済

(1) 実質実効為替レート (月中平均)

(2005年=100)



- (注) 1. BISのブロードベースを使用して算出。1993年以前はナローベースを使用して接続。
 2. 2010年11~12月分は、日本銀行の名目実効為替レート (円インデックス) を用いて算出。
 なお、2010/12月は13日までの平均値。

(2) 海外経済 — 実質GDP

(欧米は前期比年率、東アジアは前年比、%)

		2007年	2008年	2009年	2009年 4Q	2010年 1Q	2Q	3Q
米	国	1.9	0.0	-2.6	5.0	3.7	1.7	2.5
欧 州	E U	3.0	0.5	-4.2	1.0	1.7	4.2	2.0
	ド イ ツ	2.7	1.0	-4.7	1.3	2.3	9.5	2.8
	フ ラ ン ス	2.3	0.1	-2.5	2.5	0.8	2.7	1.4
	英 国	2.7	-0.1	-5.0	1.4	1.8	4.7	3.1
東 ア ジ ア	中 国	14.2	9.6	9.1	11.3	11.9	10.3	9.6
	N 韓 国	5.1	2.3	0.2	6.0	8.1	7.2	4.4
	I 台 湾	6.0	0.7	-1.9	9.2	13.6	12.9	9.8
	E 香 港	6.4	2.2	-2.8	2.5	8.0	6.5	6.8
	S シン ガ ポ ール	8.5	1.8	-1.3	3.8	16.9	19.5	10.6
	A タ イ	5.0	2.5	-2.3	5.9	12.0	9.2	6.7
	S イ ン ド ネ シ ア	6.3	6.0	4.5	5.4	5.7	6.2	5.8
E マ レー シ ア	6.5	4.7	-1.7	4.4	10.1	8.9	5.3	
A フ ィ リ ピ ン	7.1	3.7	1.1	2.1	7.8	8.2	6.5	

(注) 計数は、各国政府または中央銀行、欧州委員会による。

実質輸入の内訳

(1) 地域別

		(前年比、%)		(季調済前期比、%)					(季調済前月比、%)		
		暦年 2008年	2009	2009年 4Q	2010 1Q	2Q	3Q	4Q	2010年 8月	9	10
米国	<10.7>	-2.5	-18.7	6.5	-0.4	4.5	0.7	-6.5	-4.3	0.7	-5.6
EU	<10.7>	-3.0	-13.2	1.6	-0.8	4.1	4.6	-1.0	0.2	2.6	-2.8
東アジア	<41.9>	2.5	-13.1	3.1	4.2	11.2	1.2	0.3	-0.8	-0.3	0.8
中国	<22.2>	4.4	-11.1	3.9	3.0	13.8	0.9	2.3	0.2	-1.8	3.4
NIEs	<8.6>	-1.0	-15.9	2.2	7.0	6.9	0.7	-3.1	-0.9	-1.5	-1.8
韓国	<4.0>	-5.2	-19.0	-0.5	4.0	10.7	0.9	4.2	-2.9	-4.2	8.3
台湾	<3.3>	3.5	-12.4	5.6	6.3	4.6	1.2	-7.2	1.0	-2.0	-6.3
香港	<0.2>	-1.7	-29.7	-4.4	55.5	-7.4	-5.0	-14.8	0.6	7.8	-19.1
シンガポール	<1.1>	1.6	-12.4	5.1	12.6	7.7	-3.8	-9.4	3.0	0.4	-10.5
ASEAN4	<11.0>	1.7	-14.9	2.1	4.3	9.3	2.6	-1.1	-2.9	4.4	-2.9
タイ	<2.9>	2.4	-17.5	5.9	3.6	11.0	6.1	-8.3	-0.5	-2.2	-6.8
その他	<36.7>	3.0	-13.9	-1.2	2.6	3.4	0.8	0.1	-2.4	-3.6	3.4
実質輸入計		0.7	-14.0	1.0	2.5	6.3	1.2	-1.2	-1.6	-0.3	-0.5

- (注) 1. < >内は、2009年通関輸入額に占める各地域・国のウェイト。
 2. ASEAN4はタイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア。
 3. 各計数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。なお、2010/4Qは10月の7~9月対比。

(2) 財別

		(前年比、%)		(季調済前期比、%)					(季調済前月比、%)		
		暦年 2008年	2009	2009年 4Q	2010 1Q	2Q	3Q	4Q	2010年 8月	9	10
素原料	<34.2>	2.4	-14.9	-3.4	3.2	3.1	1.0	1.1	-3.7	0.2	2.3
中間財	<14.2>	1.7	-15.3	2.7	5.8	7.4	1.7	-5.4	-0.9	1.2	-5.8
食料品	<9.7>	-3.6	1.0	-4.7	2.2	8.6	3.4	-15.6	3.0	-5.2	-13.4
消費財	<8.9>	-2.4	-10.3	6.1	1.0	11.3	-1.4	7.5	-6.4	4.6	6.7
情報関連	<11.0>	4.3	-12.4	4.6	6.2	10.0	1.7	3.1	-1.9	4.0	1.1
資本財・部品	<11.8>	2.9	-23.8	11.3	-0.4	6.8	3.4	-2.8	-4.8	6.9	-5.5
うち除く航空機	<11.0>	3.7	-24.4	6.9	4.9	6.7	3.3	-0.9	-2.2	0.8	-0.7
実質輸入計		0.7	-14.0	1.0	2.5	6.3	1.2	-1.2	-1.6	-0.3	-0.5

- (注) 1. < >内は、2009年通関輸入額に占める各財のウェイト。
 2. 「素原料」は、原料品、鉱物性燃料。
 3. 「消費財」は、食料品を除く。
 4. 「情報関連」は、電算機類・部分品、通信機、IC等電子部品、科学光学機器。
 5. 「資本財・部品」は、情報関連を除く。
 6. 各計数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。なお、2010/4Qは10月の7~9月対比。

(資料) 財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」

企業収益関連指標

＜全国短観（12月）・大企業＞

－ 売上高経常利益率、（ ）内は経常利益前年同期比、修正幅（経常利益は修正率）は9月調査比：％・％ポイント

	2009年度		修正幅	2009/上期	2009/下期	2010/上期	2010/下期
	実績	計画		実績	実績	実績	計画
製造業	2.98 (-3.7)	4.35 (57.8)	0.07 (2.3)	1.32 (-82.4)	4.42 (利益)	4.92 (4.3倍)	3.80 (-11.7)
非製造業	3.32 (-7.7)	3.73 (17.1)	0.11 (3.3)	3.59 (-23.3)	3.08 (18.1)	4.22 (24.4)	3.26 (9.2)

＜全国短観（12月）・中小企業＞

－ 売上高経常利益率、（ ）内は経常利益前年同期比、修正幅（経常利益は修正率）は9月調査比：％・％ポイント

	2009年度		修正幅	2009/上期	2009/下期	2010/上期	2010/下期
	実績	計画		実績	実績	実績	計画
製造業	2.00 (-7.2)	3.03 (58.1)	-0.01 (0.2)	1.12 (-71.1)	2.82 (4.8倍)	3.18 (3.1倍)	2.88 (3.6)
非製造業	1.99 (1.8)	2.12 (6.5)	0.06 (3.5)	1.57 (-18.7)	2.38 (20.1)	1.95 (26.4)	2.29 (-5.6)

(資料) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

＜法人季報・売上高経常利益率＞

－ 季調済、％

		2009年		2010年		
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
全産業	全規模	2.52	3.30	3.32	3.20	3.48
製造業	大企業	1.36	4.06	5.88	4.09	4.25
	中堅中小企業	1.82	3.42	3.85	2.92	3.45
非製造業	大企業	3.85	4.14	3.77	4.48	5.06
	中堅中小企業	2.40	2.62	2.08	2.36	2.45

(注) 1. 大企業は資本金10億円以上、中堅中小企業は資本金1000万円以上10億円未満。金融業、保険業は除く。

2. 製造業、非製造業の計数は、X-11による季節調整値。

(資料) 財務省「法人企業統計季報」

＜民間調査機関の経常利益（連結ベース）見通し（2010年12月時点）＞

－ 前年比、％、（ ）内は前回＜2010年9月時点＞

	2008年度実績	2009年度実績	2010年度予想	2011年度予想
全産業	-61.8	14.1	56.2 (57.5)	13.3 (19.8)
	-63.6	20.4	56.9 (57.0)	14.9 (15.8)
製造業	-79.9	55.8	88.0 (91.5)	16.0 (25.2)
	-80.8	67.0	97.1 (99.0)	15.8 (17.1)
非製造業	-22.9	-10.3	25.1 (24.2)	9.4 (11.8)
	-26.6	-5.8	16.9 (15.2)	13.3 (13.5)

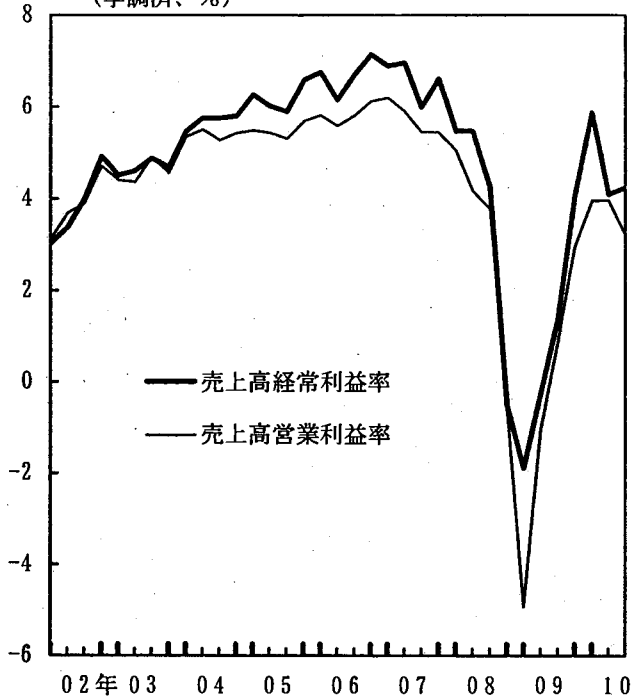
(注) 上段は野村証券調べ：全上場・公開企業（除く金融）の353社対象。

下段は大和証券キャピタル・マーケット調べ：東証1部上場企業（除く金融）の300社対象。

業種別・規模別の企業収益

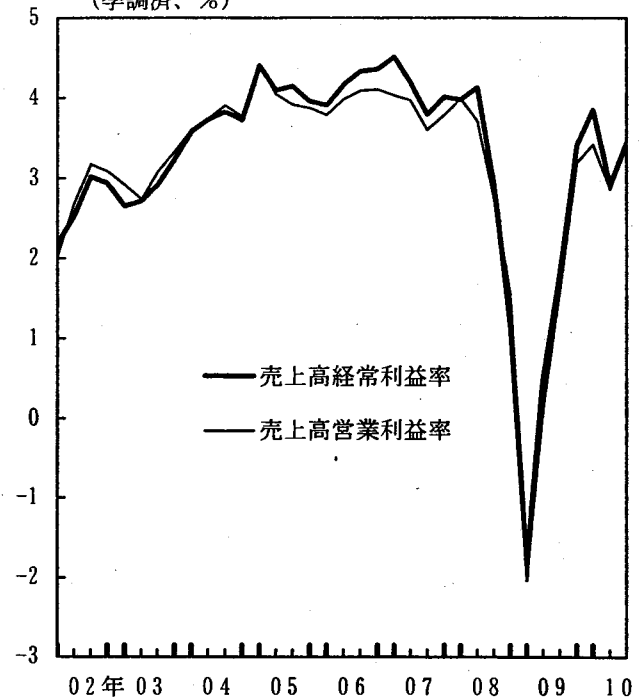
(1) 製造業大企業

(季調済、%)



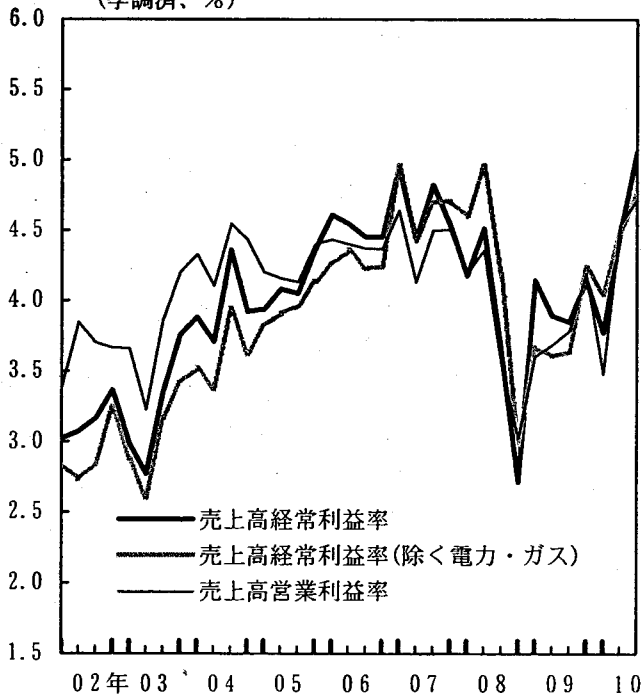
(2) 製造業中堅中小企業

(季調済、%)



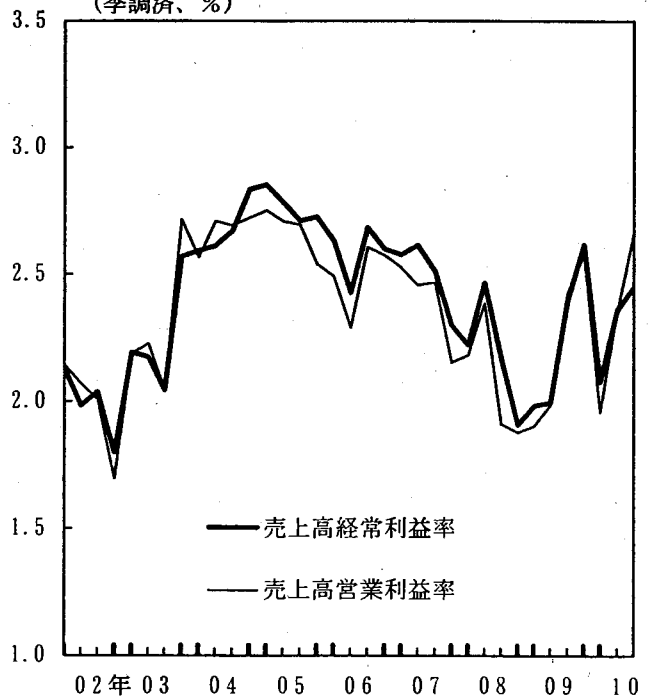
(3) 非製造業大企業

(季調済、%)



(4) 非製造業中堅中小企業

(季調済、%)

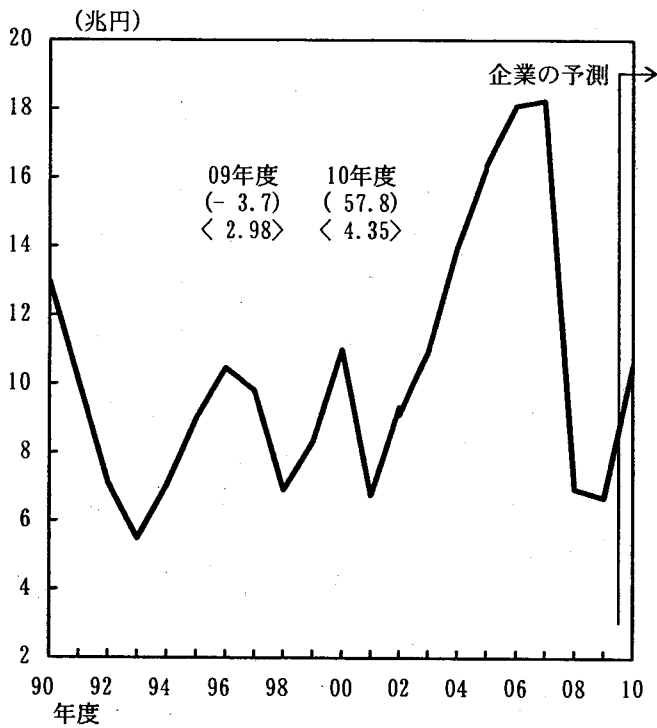


(注) 1. 大企業は資本金10億円以上、中堅中小企業は資本金1,000万円以上10億円未満。
2. 金融業、保険業を除く。
3. 計数は、X-11による季節調整値。

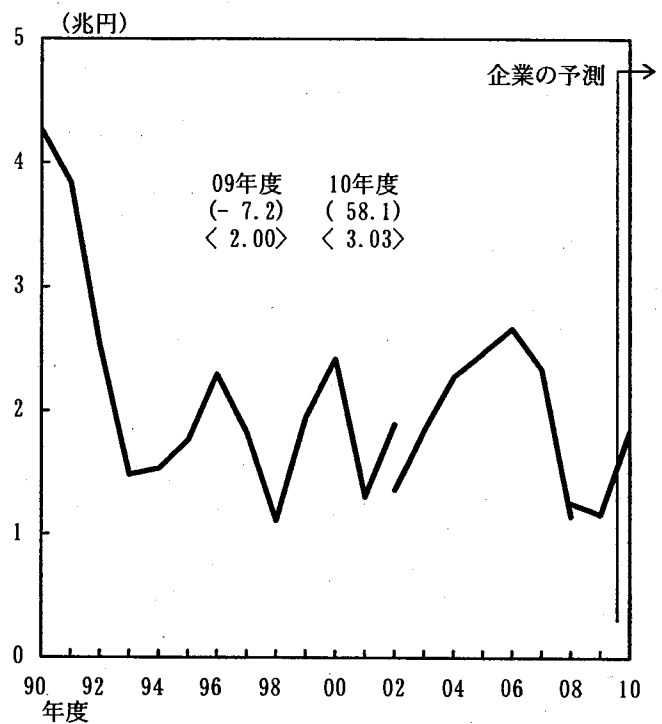
(資料) 財務省「法人企業統計季報」

経常利益

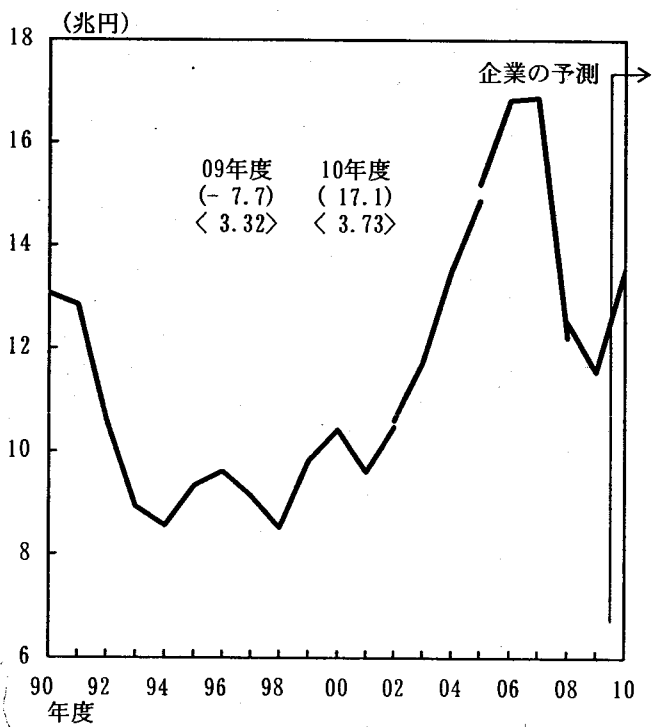
(1) 製造業大企業



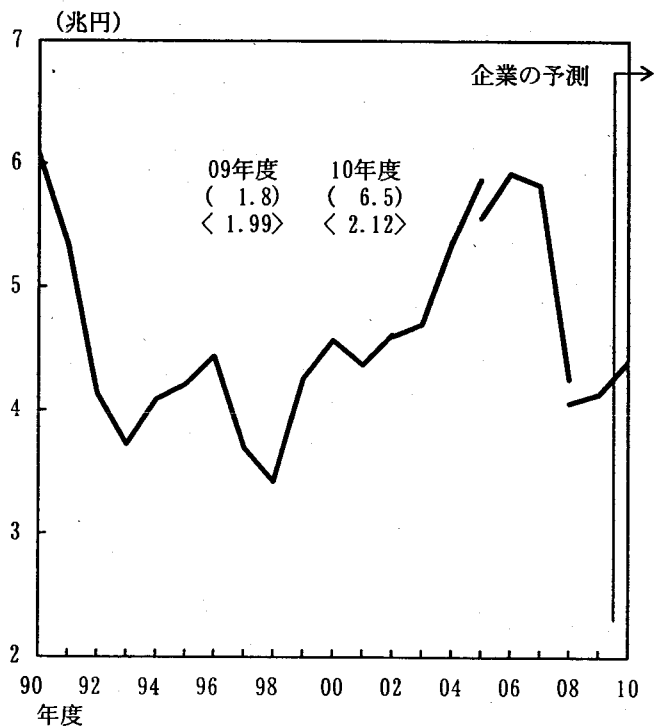
(2) 製造業中小企業



(3) 非製造業大企業



(4) 非製造業中小企業



(注) 1. ()内は経常利益前年度比(%)、< >内は売上高経常利益率(%)。
2. 2004/3月調査より、調査対象企業の拡充を含む幅広い見直しを実施した。また、2007/3月調査と2010/3月調査では、定例の調査対象企業の見直しを行った。このため、これらのタイミングで、計数には不連続(段差)が生じている。

(資料) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

設備投資関連指標

＜先行指標等＞

— < >内は季調済前期(月)比、()内は前年比：%

	09年度	10/4~6月	7~9	10~12	10/8月	9	10
機械受注	(-20.4)	< -0.1>	< 7.7>	< -6.0>	< 11.2>	< -14.2>	< 0.6>
[民需、除く船舶・電力・携帯電話]		(7.9)	(13.9)	(6.9)	(25.5)	(4.1)	(6.9)
製造業	(-28.0)	< -8.6>	< 12.2>	< -10.1>	< 12.5>	< -20.7>	< 1.4>
非製造業(除く船舶・電力・携帯電話)	(-14.7)	< 3.2>	< 6.3>	< -3.2>	< 10.0>	< -8.8>	< -0.2>
[民需、除く船舶・電力]	(-20.6)	< 0.3>	< 9.6>	< -5.5>	< 10.1>	< -10.3>	< -1.4>
建築着工床面積	(-34.8)	< -19.4>	< 17.6>	< -3.3>	< -10.0>	< 23.1>	< -12.5>
[民間非居住用]		(3.9)	(22.7)	(18.7)	(19.9)	(42.7)	(18.7)
うち鉱工業	(-55.0)	< -11.2>	< 7.7>	< 20.6>	< 5.1>	< 6.9>	< 13.6>
うち非製造業	(-26.7)	< -20.1>	< 21.1>	< -6.9>	< -5.5>	< 21.3>	< -16.4>
資本財総供給	< -21.1>	< 2.9>	< -0.7>	< -4.4>	< -3.3>	< 5.3>	< -6.6>
資本財総供給(除く輸送機械)	< -22.1>	< 2.6>	< 3.9>	< -1.1>	< -0.4>	< 5.4>	< -4.3>

- (注) 1. 機械受注の2010/10~12月の見通し(季調済前期比)は、民需(除く船舶・電力)-9.8%となっている。
 2. 建築着工床面積は、X-12-ARIMAによる季節調整値。
 3. 資本財総供給は、国内向けの国産品と輸入品を合わせたもの。また、年度の値は季調済前年比。
 4. 2010/10~12月の前期比は10月の7~9月対比、前年比は10月の前年同月比。

＜法人企業統計・設備投資＞

— < >内は季調済前期比：%

	09/7~9月	10~12	10/1~3	4~6	7~9
全産業	< -5.0>	< -0.4>	< -1.5>	< 5.3>	< 1.9>
うち製造業	< -13.5>	< -3.4>	< -4.6>	< 11.3>	< 7.3>
うち非製造業	< -0.1>	< 1.1>	< -0.1>	< 2.5>	< -0.8>

(注) 計数は全規模合計。金融業、保険業を除く。ソフトウェア投資額は含まない。

＜設備投資アンケート調査＞

— 前年比：%、()内は2010年9月調査時点

	2009年度実績	2010年度計画		修正率	
全国短観(12月調査)	全産業	-18.2	0.4 (-1.0)	1.4	(1.3)
	製造業	-31.7	3.9 (3.7)	0.2	(1.6)
	非製造業	- 8.9	- 1.4 (- 3.4)	2.0	(1.2)
うち大企業・全産業	全産業	-15.5	2.9 (2.4)	0.5	(- 0.3)
	製造業	-31.4	2.9 (4.0)	- 1.0	(0.6)
	非製造業	- 3.9	3.0 (1.6)	1.3	(- 0.8)
うち中小企業・全産業	全産業	-21.5	- 8.3 (-15.0)	7.8	(10.9)
	製造業	-31.7	8.3 (- 0.5)	8.8	(7.4)
	非製造業	-15.5	-16.1 (-21.8)	7.2	(13.1)

- (注) 1. 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額は含まない。
 2. リース会計対応ベース。

— 前年比：%、()内は2009年6月調査時点

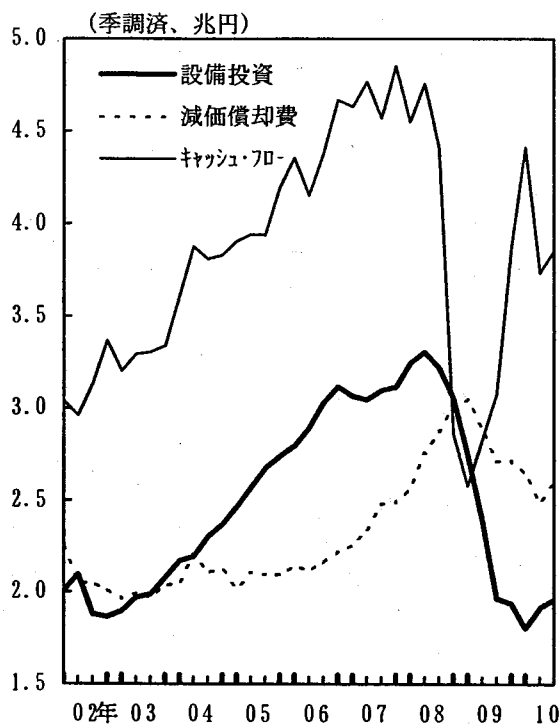
	2008年度実績	2009年度実績	2010年度計画	2011年度計画
日本政策投資銀行(2010年6月調査)	- 7.1	-16.7 (- 9.2)	6.8 (- 3.7)	- 3.3
うち製造業	- 9.7	-30.8 (-20.7)	8.9 (-12.2)	- 4.5
うち非製造業	- 5.6	- 6.0 (- 0.1)	5.5 (- 1.5)	- 3.0

(注) 計数は資本金10億円以上の民間法人企業。金融保険業などを除く。

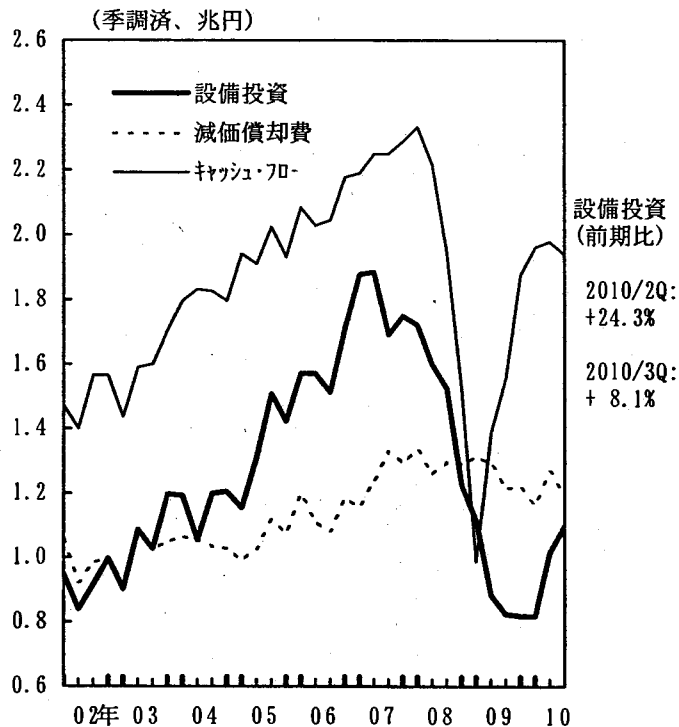
(資料) 経済産業省「鉱工業総供給表」、内閣府「機械受注統計」、国土交通省「建築着工統計」、財務省「法人企業統計季報」、日本政策投資銀行「設備投資計画調査」、日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

業種別・規模別の設備投資

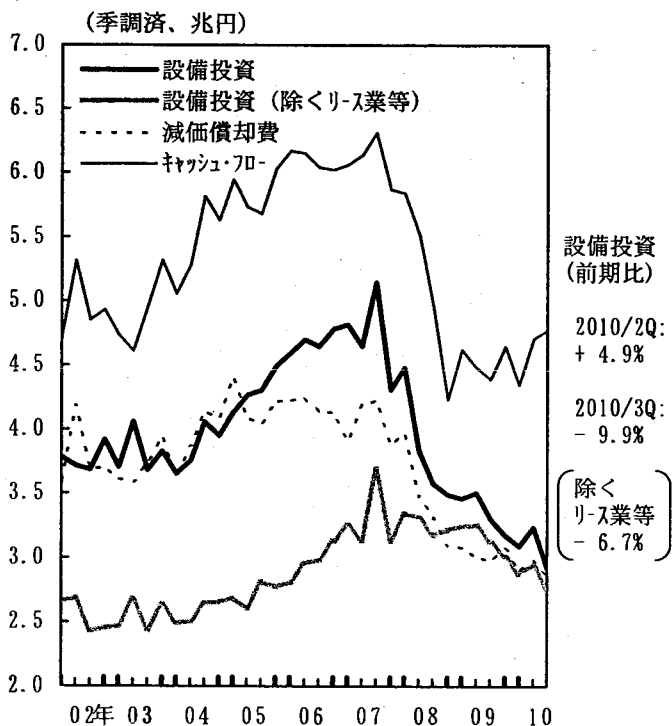
(1) 製造業大企業



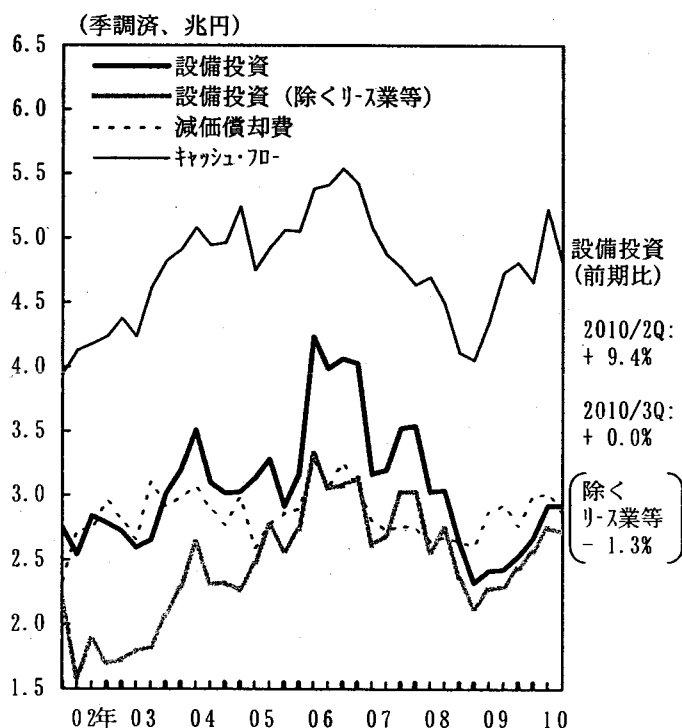
(2) 製造業中堅中小企業



(3) 非製造業大企業



(4) 非製造業中堅中小企業



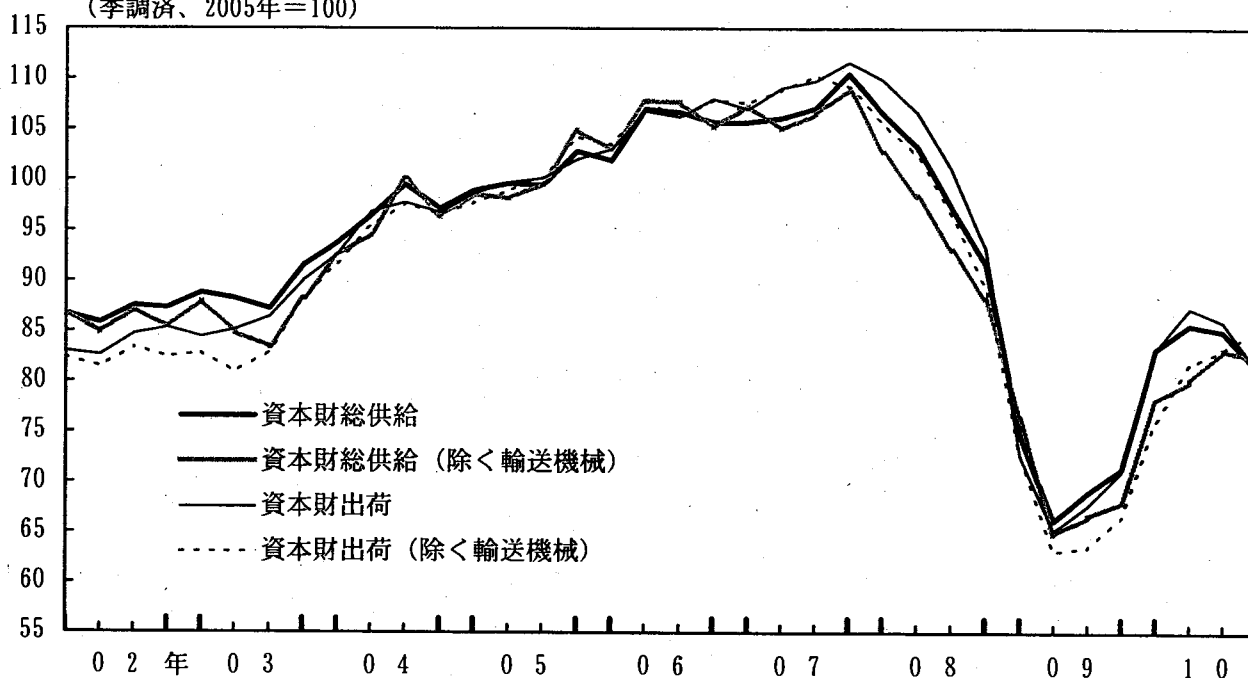
- (注) 1. 大企業は資本金10億円以上、中堅中小企業は資本金1,000万円以上10億円未満。
 2. キャッシュ・フローは、(減価償却費+経常利益×1/2)として算出。
 3. 計数は、X-11による季節調整値。
 4. 計数は全て金融業、保険業を除く。設備投資(除くリース業等)は、2004/2Q以降はリース業、その他の物品賃貸業を除く。2004/1Q以前は、事業所サービス業を除く。

(資料) 財務省「法人企業統計季報」

設備投資一致指標

(1) 資本財の総供給・出荷

(季調済、2005年=100)

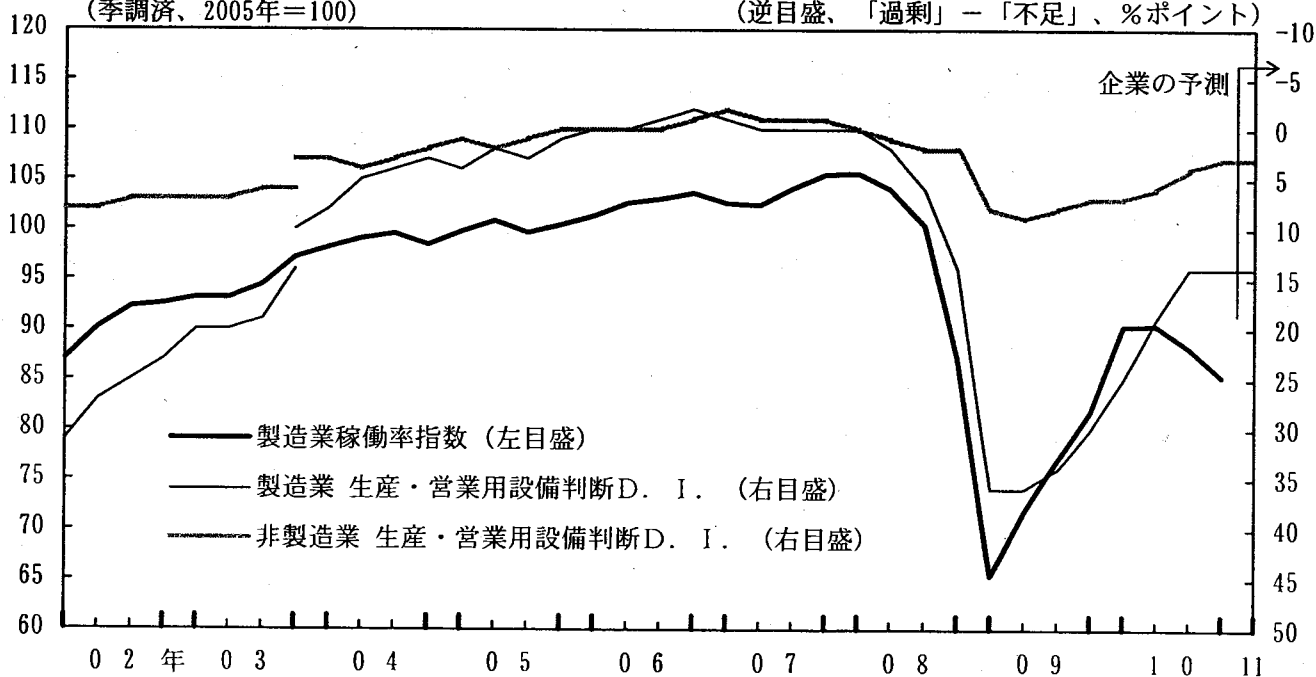


- (注) 1. 資本財総供給は、国内向けの国産品と輸入品を合わせたもの。
- 2. 資本財出荷は、国内向けの国産品と輸出品を合わせたもの。
- 3. 2010/4Qは、10月の計数。

(2) 稼働率と設備判断D. I.

(季調済、2005年=100)

(逆目盛、「過剰」 - 「不足」、%ポイント)

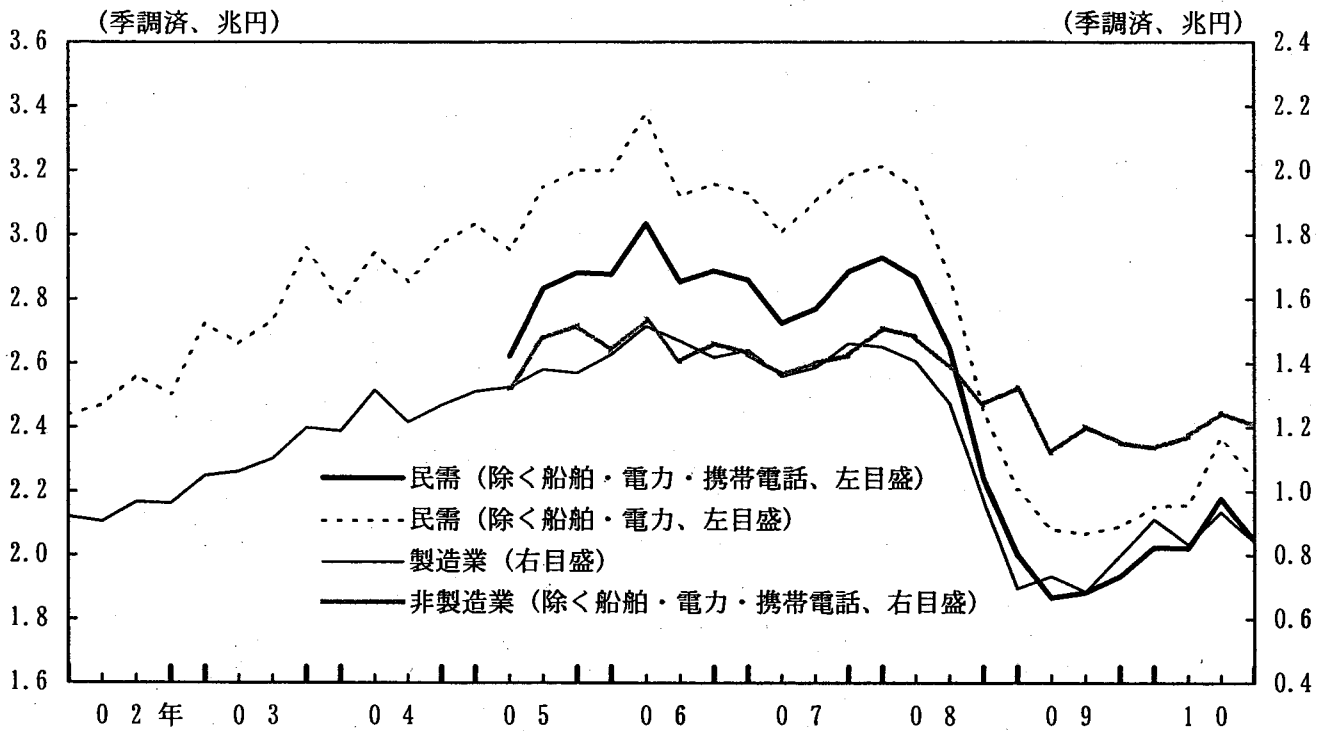


- (注) 1. 生産・営業用設備判断D. I. は全規模合計。
- 2. 生産・営業用設備判断D. I. は、2004/3月調査より、調査対象企業の拡充を含む幅広い見直しを実施した。旧ベースは2003/12月調査まで、新ベースは2003/12月調査から。
- 3. 製造業稼働率指数の2010/4Qは10月の計数。

(資料) 経済産業省「鉱工業指数統計」「鉱工業総供給表」、
日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

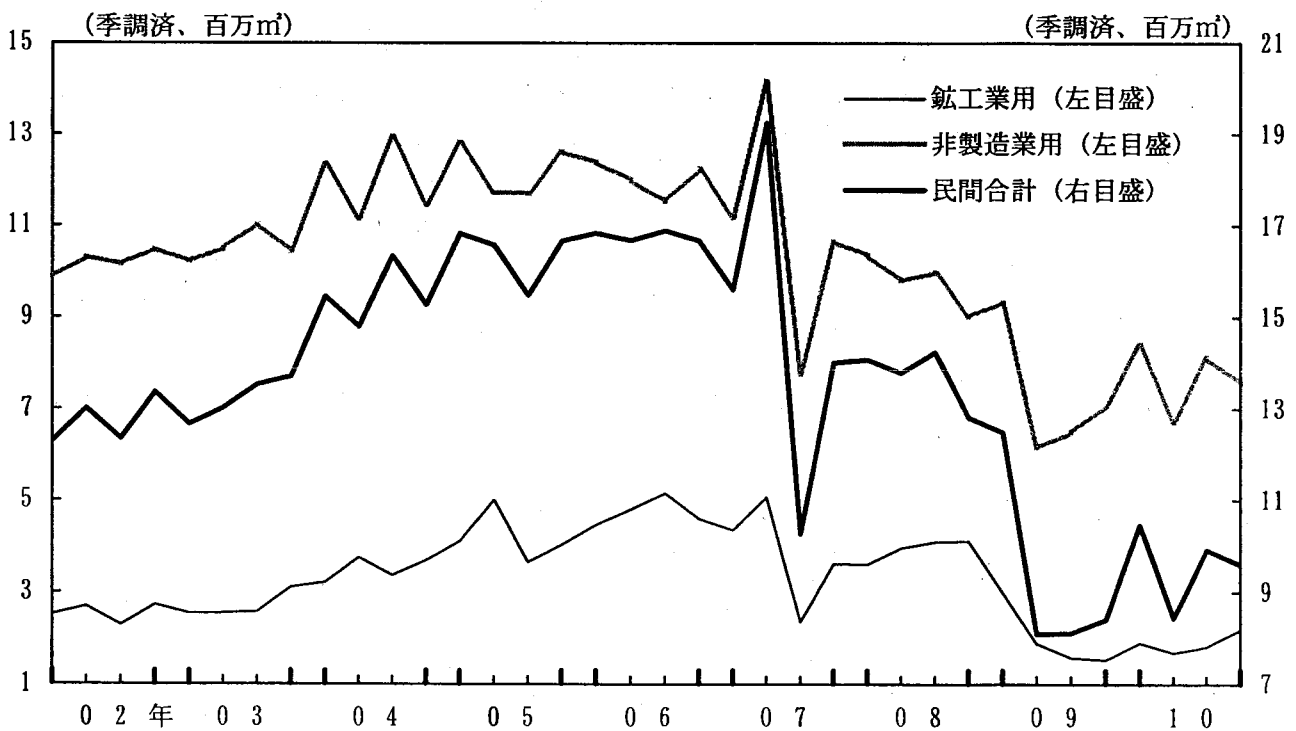
設備投資先行指標

(1) 機械受注



(注) 2010/4Qは、10月の計数を四半期換算。

(2) 建築着工床面積 (民間非居住用)

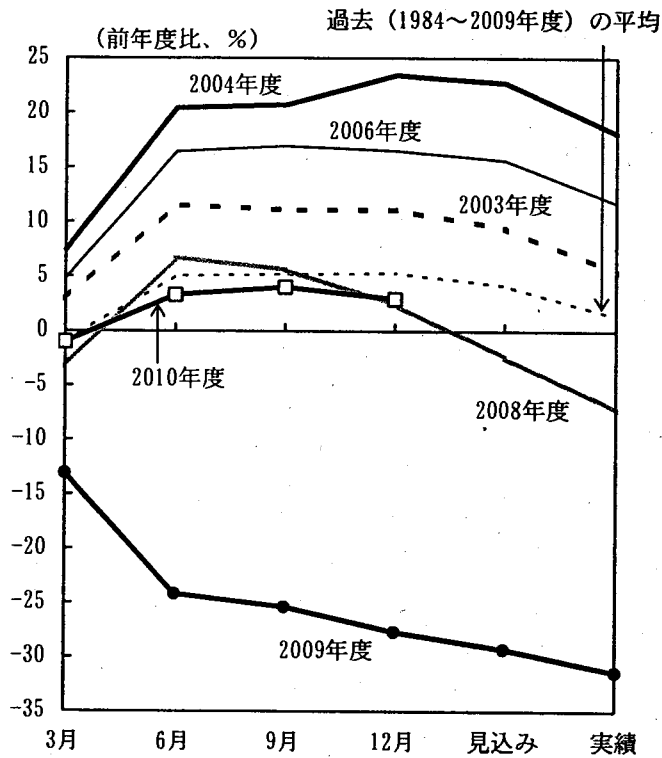


- (注) 1. X-12-ARIMAによる季節調整値。
2. 新産業分類に対応し、2003年度以降、新聞・出版業が鉱工業から非製造業に分類変更となった。そのため、リンク係数を算出のうえ、2002年度以前を水準調整している。
3. 2010/4Qは、10月の計数を四半期換算。

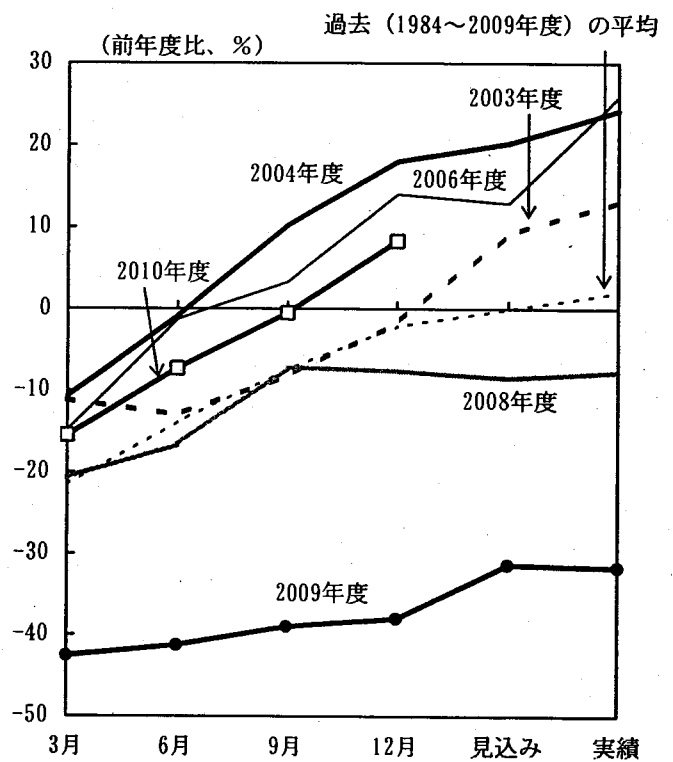
(資料) 内閣府「機械受注統計」、国土交通省「建築着工統計」

設備投資計画

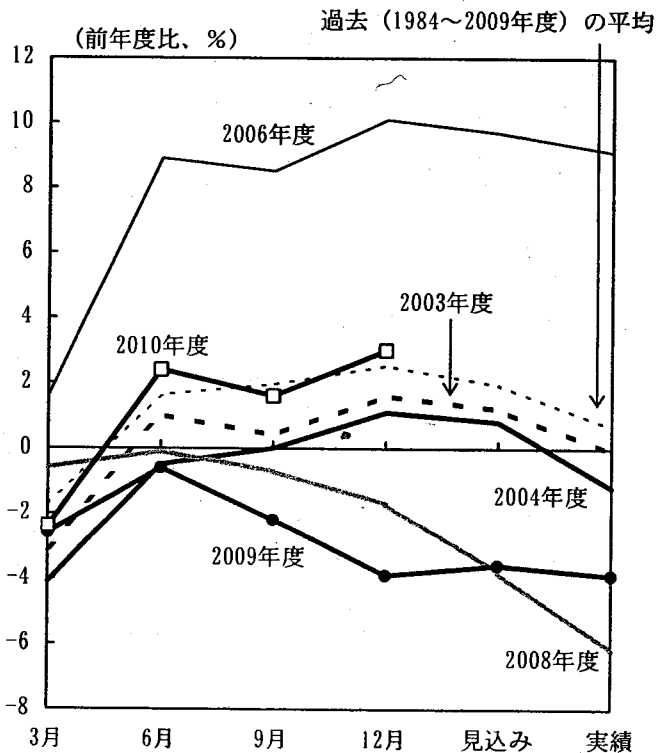
(1) 製造業大企業



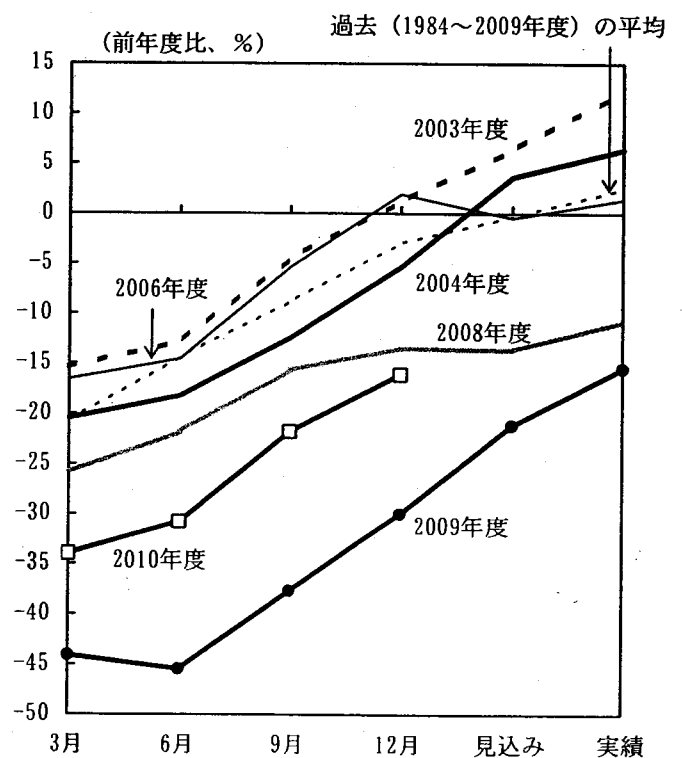
(2) 製造業中小企業



(3) 非製造業大企業



(4) 非製造業中小企業



- (注) 1. 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額は含まない。
 2. 2004/3月調査、2007/3月調査、2010/3月調査では、調査対象企業の見直しが実施された。このため、2003年度、2006年度、2009年度については、12月調査までは見直し前の計数、見込みおよび実績は見直し後の計数となっている。
 3. 2008年度以前の計数はリース会計対応前ベース、2009年度以降の計数はリース会計対応ベース。過去 (1984~2009年度) の平均については、これらの計数から算出。

(資料) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

個人消費関連指標

— ()内は前年比、< >内は季調済前期(月)比：％
— []内の計数は2009年度売上高(名目、兆円、除く消費税)

	09年度	10/4～6月	7～9	10～12	10/8月	9	10	11
家計調査報告								
消費水準指数(実質)	(1.2)	(-0.5)	(1.4)	(0.0)	(2.1)	(0.6)	(0.0)	
		< -2.0>	< 2.5>	< -1.2>	< 2.6>	< -1.7>	< -0.9>	
消費水準指数(実質・除く住居等)	(0.9)	< -2.4>	< 2.2>	< 0.5>	< 0.2>	< 0.1>	< 0.4>	
消費支出(実質)	(1.1)	< -1.6>	< 2.1>	< -1.0>	< 0.7>	< -0.4>	< -0.9>	
平均消費性向(%)	74.7	71.9	75.8	70.2	75.3	74.9	70.2	
家計消費状況調査								
支出総額(実質)	(1.9)	(-1.7)	(-2.2)	(-2.7)	(-0.7)	(-3.3)	(-2.7)	
		< -1.9>	< 1.8>	< -0.9>	< 1.2>	< -0.5>	< -1.0>	
乗用車新車登録台数(含む軽)	(6.8)	(22.0)	(13.4)	(-28.0)	(40.1)	(-3.2)	(-25.9)	(-29.8)
[418万台]		< 4.4>	< 3.8>	< -33.7>	< 24.7>	< -31.4>	< -17.7>	< -5.3>
乗用車新車登録台数(除く軽)	(15.0)	(28.1)	(15.3)	(-31.3)	(49.0)	(-5.4)	(-28.8)	(-33.5)
[290万台]		< 1.9>	< 4.4>	< -36.1>	< 30.6>	< -36.4>	< -17.3>	< -5.5>
商業販売統計								
小売業販売額(実質)	(2.4)	(3.9)	(3.8)	(-1.2)	(5.2)	(1.7)	(-1.2)	
[127.2]		< -0.5>	< 1.2>	< -4.6>	< 1.6>	< -3.9>	< -2.6>	
家電販売額(実質)	(26.4)	(30.7)	(31.9)	(43.8)	(34.8)	(32.5)	(43.8)	
[7.5]		< 1.7>	< 8.5>	< 14.2>	< 8.0>	< -0.0>	< 11.4>	
全国百貨店売上高	(-8.6)	(-3.8)	(-3.0)	(0.6)	(-3.0)	(-5.0)	(0.6)	
[6.7]		< -1.5>	< -0.7>	< 0.7>	< 0.2>	< -2.7>	< 2.5>	
全国スーパー売上高	(-5.1)	(-3.4)	(-0.9)	(0.3)	(-1.3)	(0.0)	(0.3)	
[11.9]		< 0.1>	< 1.2>	< -1.4>	< 0.0>	< 1.4>	< -2.3>	
コンビニエンスストア売上高	(-1.5)	(-0.3)	(6.9)	(-3.3)	(3.2)	(15.1)	(-3.3)	
[7.6]		< 1.1>	< 6.5>	< -9.9>	< -0.3>	< 11.4>	< -16.0>	
旅行取扱額	(-13.9)	(11.0)	(3.5)		(7.7)	(-5.0)		
[5.2]		< 3.1>	< -1.0>		< -2.1>	< -5.0>		
外食産業売上高	(-1.2)	(-1.5)	(1.5)	(2.7)	(1.6)	(0.3)	(2.7)	
		< -1.6>	< 2.3>	< 0.4>	< 0.3>	< -1.6>	< 1.4>	

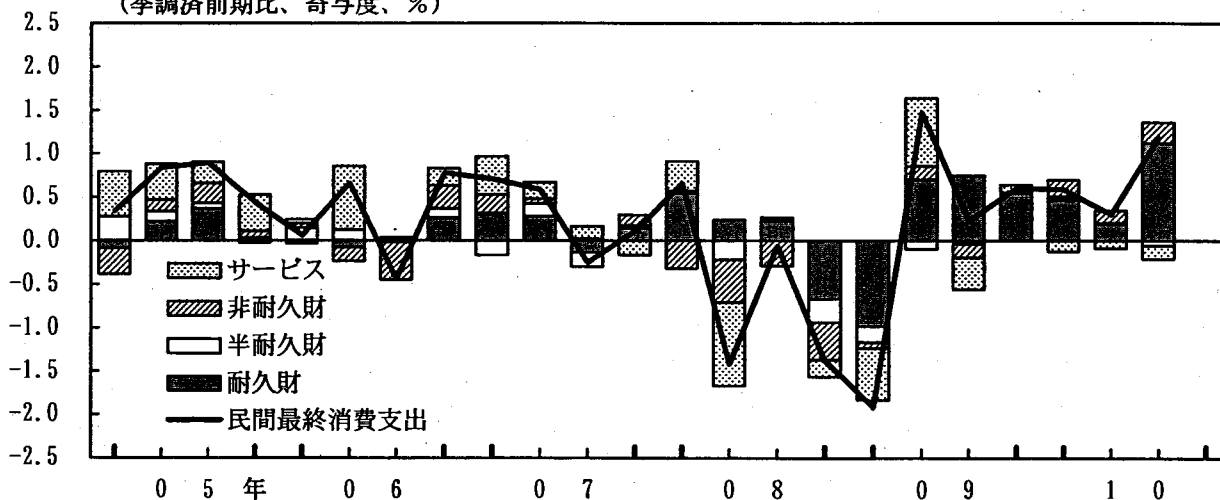
- (注) 1. 消費水準指数は、二人以上の世帯・世帯人員及び世帯主の年齢分布調整ベース。消費水準指数(除く住居等)は、消費支出合計から「住居」、「自動車等購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている。
2. 消費支出、支出総額は、二人以上の世帯ベース。平均消費性向は二人以上の世帯のうち勤労者世帯ベース。
3. 全国百貨店・全国スーパー売上高の前年比及び前期比は、店舗調整後。コンビニエンスストア・外食産業売上高の前年比及び前期比は店舗調整前。
4. 支出総額、小売業販売額、家電販売額は、調査統計局において実質化。
5. 旅行取扱額は外国人旅行を除いている。2010/4月以降の調査対象は、新ベース。
6. 2010/10～12月の家計調査報告、家計消費状況調査、商業販売統計、外食産業売上高は10月、新車登録台数は10～11月の値。

(資料) 総務省「家計調査報告」「家計消費状況調査」「消費者物価指数」、経済産業省「商業販売統計」、日本自動車販売協会連合会「自動車国内販売」、全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売速報」、観光庁「旅行業者取扱額」、日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」

個人消費 (1)

(1) GDPベース・形態別消費 (実質)

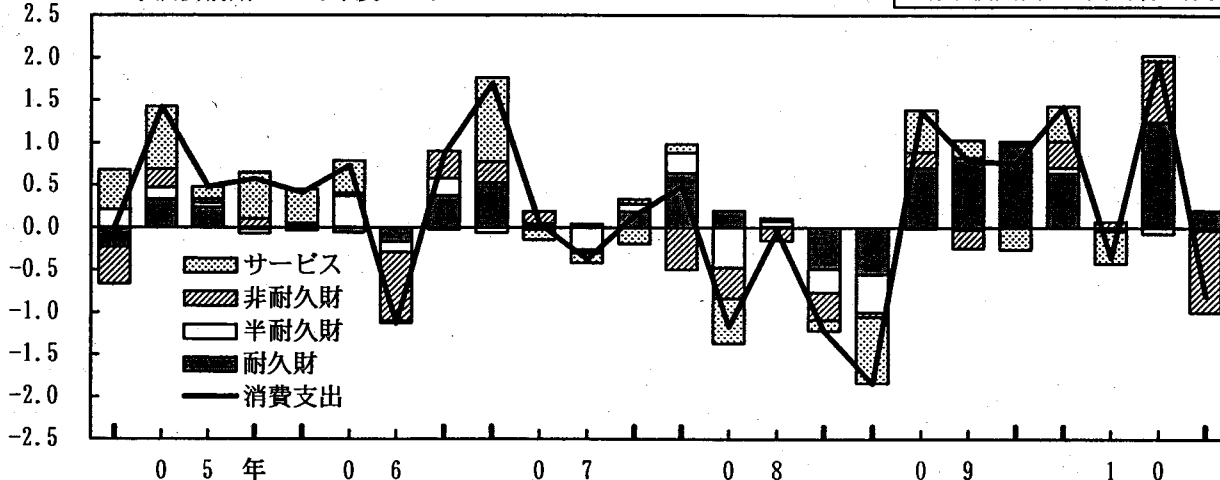
(季調済前期比、寄与度、%)



(2) 消費包括指数ベース・形態別消費 (実質)

(季調済前期比、寄与度、%)

消費包括指数は対外非公表

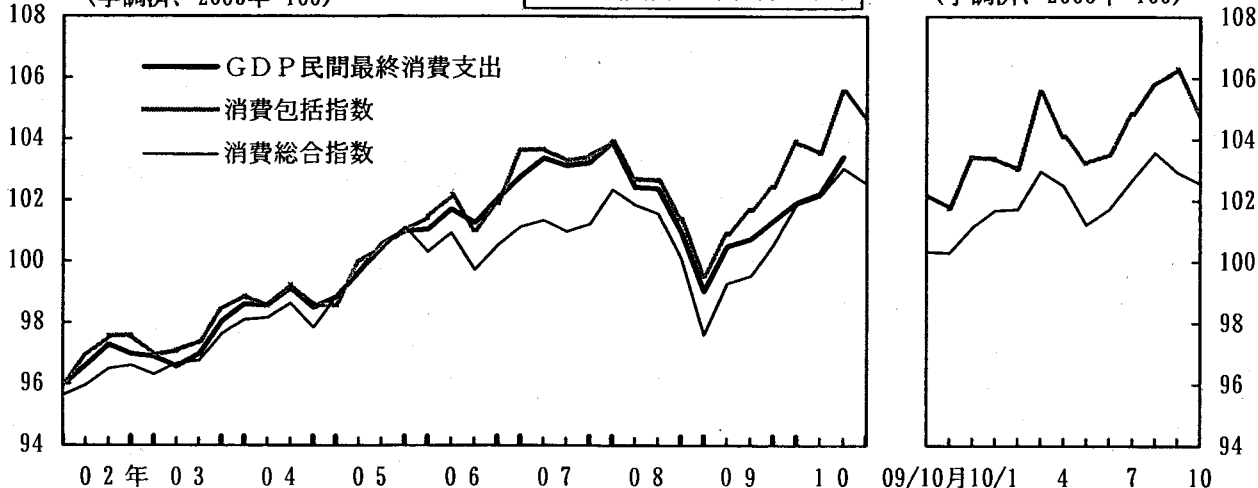


(3) GDP民間最終消費支出・消費包括指数・消費総合指数 (実質)

(季調済、2005年=100)

消費包括指数は対外非公表

(季調済、2005年=100)

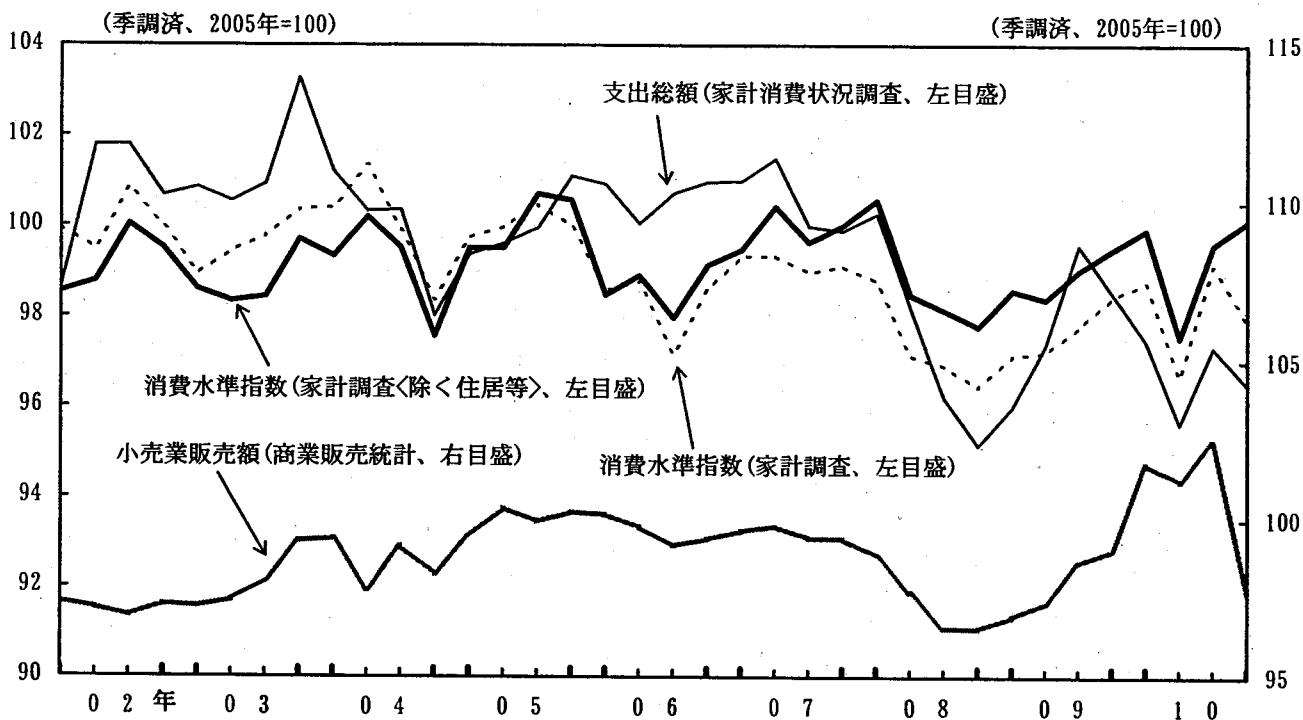


- (注) 1. 消費包括指数は、GDPの推計方法にならい、各種の消費関連統計を幅広く加重平均して算出したもの。毎月季節調整替えを行うため、過去に遡って改訂される。
- 2. 消費包括指数は12/6日までに公表された統計をもとに算出。2010/4Qは10月の値。
- 3. 消費総合指数の2010/4Qは10月の値。

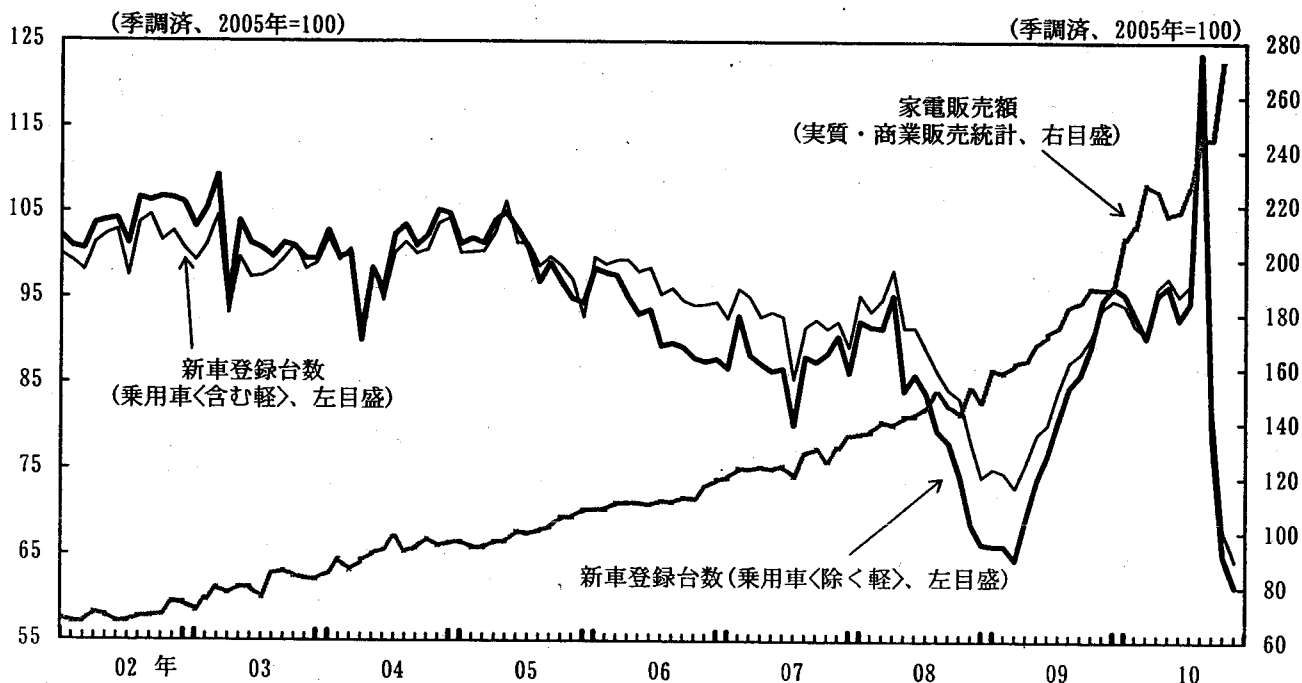
(資料) 内閣府「国民経済計算」「消費総合指数」等

個人消費(2)

(1) 家計調査・家計消費状況調査・商業販売統計(実質)



(2) 耐久消費財

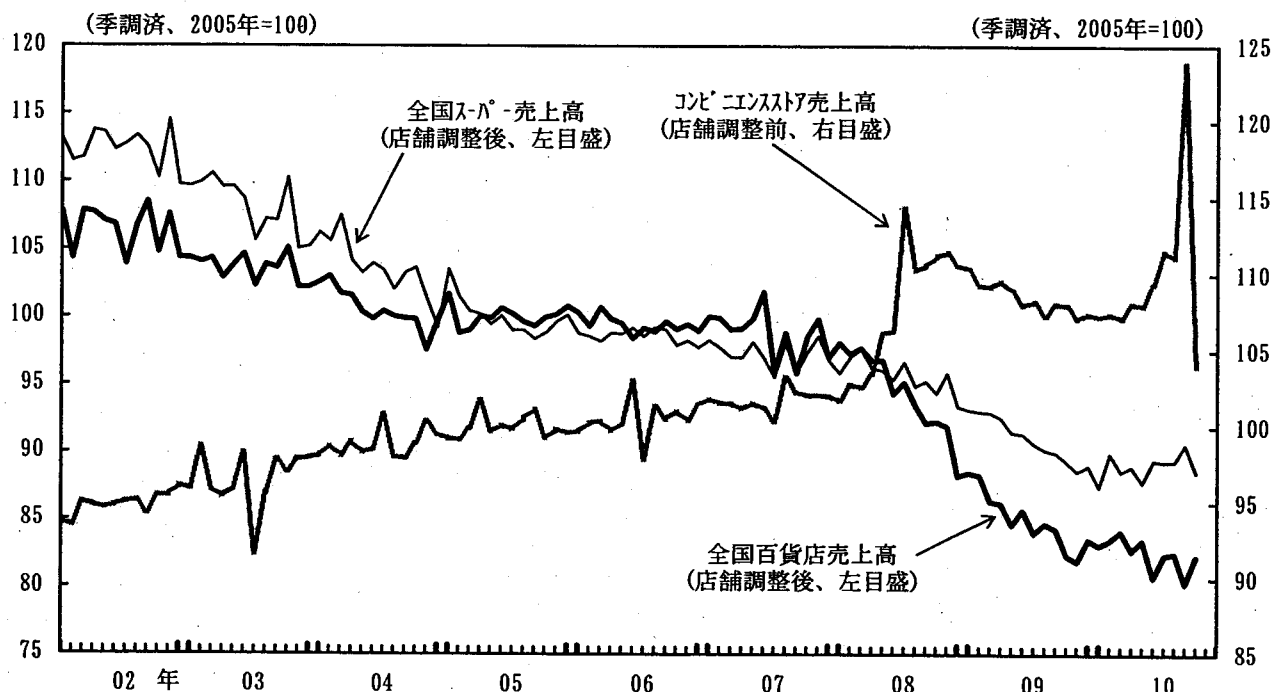


- (注) 1. 支出総額、小売業販売額、家電販売額及び新車登録台数はX-12-ARIMAによる季節調整値。
 2. 消費水準指数は、二人以上の世帯(世帯人員及び世帯主の年齢分布調整済)ベース。
 3. 支出総額は二人以上の世帯ベース。CPI「持家の帰属家賃を除く総合」で実質化。
 4. 小売業販売額は、CPI(「財」から「電気・都市ガス・水道」を除いたもの)で実質化。家電販売額は、商業販売統計の機械器具小売業販売額指数を、各種家電関連商品のCPI(但し、2002年以前のパソコン用プリンタはCGPIで代用)を幾何平均して算出したデフレーターで実質化。
 5. 2010/4Qは10月の値。

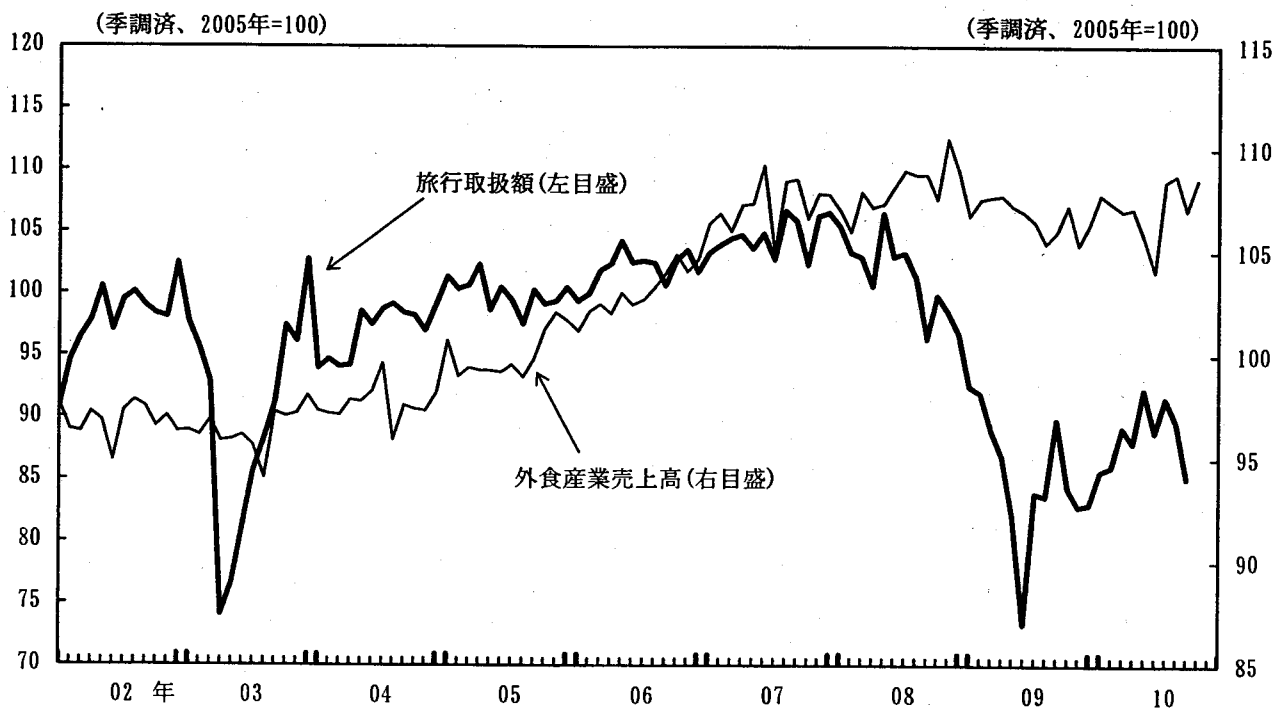
(資料) 総務省「家計調査報告」「家計消費状況調査」「消費者物価指数」、経済産業省「商業販売統計」、日本銀行「企業物価指数」、日本自動車販売協会連合会「自動車国内販売」、全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売速報」

個人消費 (3)

(1) 小売店販売 (名目)



(2) サービス消費 (名目)

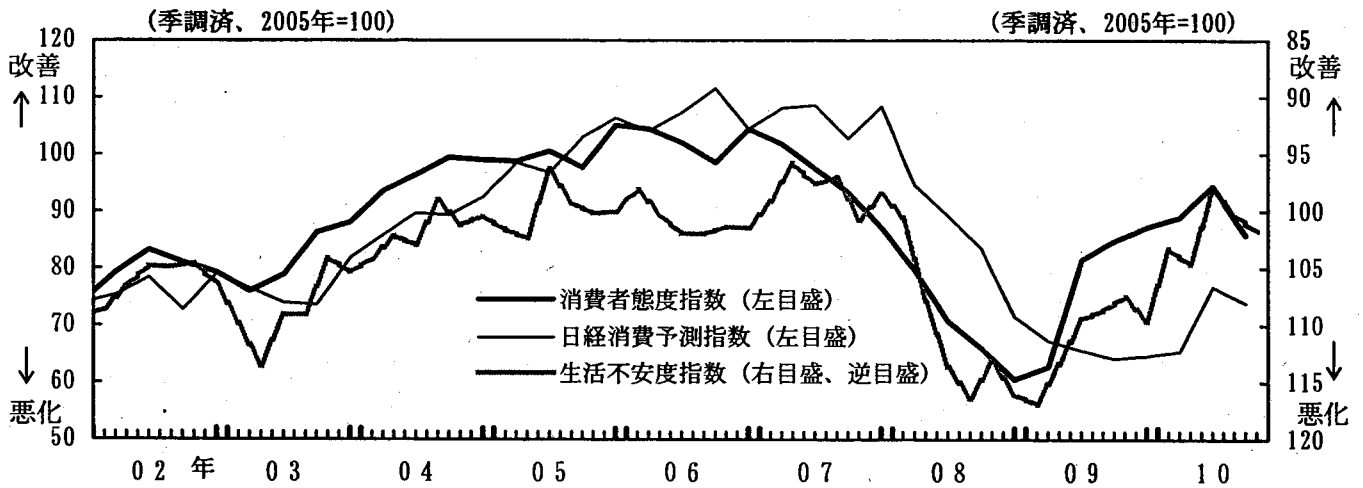


- (注) 1. X-12-ARIMAによる季節調整値。
2. 旅行取扱額は、外国人旅行を除いている。また、2007/4月及び2010/4月に調査対象が変更された結果、原データに断層が生じている。2007/4月以降の系列は、前年比を用いて接続している。
3. 外食産業売上高は、1993年の外食総研のデータを基準とし、日本フードサービス協会の前年比で延長。

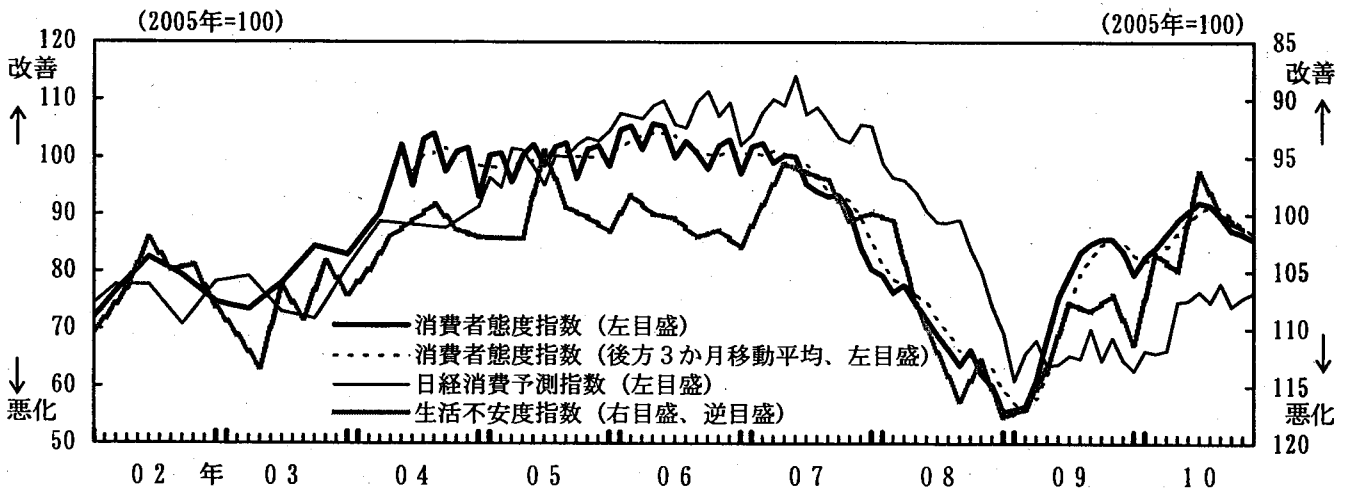
(資料) 経済産業省「商業販売統計」、観光庁「旅行業者取扱額」、
外食総研「月次売上動向調査」、日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」

消費者コンフィデンス

(1) 季調済系列

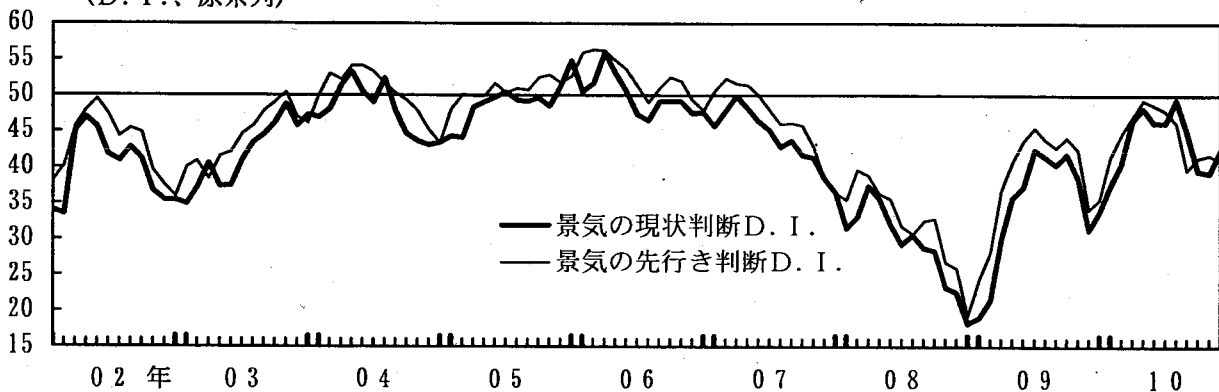


(2) 原系列



<参考> 景気ウォッチャー調査 (家計動向関連)

(D. I.、原系列)



- (注) 1. 消費者態度指数 (調査客体：全国・一般世帯 約4,700世帯)、日経消費予測指数 (同：首都圏 600人)、生活不安度指数 (同：全国 1,200人) はいずれも消費者意識を尋ねたアンケート調査。
 2. 調査が実施されていない月については、線形補間を実施。
 3. 日経消費予測指数及び生活不安度指数はX-12-ARIMAによる季節調整値。なお、日経消費予測指数は、2004年まで四半期調査であったため、四半期の値で季節調整を実施。

(資料) 内閣府「消費動向調査」「景気ウォッチャー調査」、日本経済新聞社「日経消費予測指数」、日本リサーチ総合研究所「消費者心理調査」

住宅関連指標

＜新設住宅着工戸数＞

— 季調済年率換算戸数：万戸、〈 〉内は季調済前期（月）比、（ ）内は前年比：％

	09年度	10/4～6月	7～9	10～12	10/8月	9	10
総戸数	77.5	76.0	81.7	81.3	82.8	83.7	81.3
		〈 -9.2〉	〈 7.5〉	〈 -0.4〉	〈 7.3〉	〈 1.1〉	〈 -2.8〉
	(-25.4)	(-1.1)	(13.8)	(6.4)	(20.4)	(17.7)	(6.4)
持家	28.7	28.2	30.8	32.8	32.4	32.1	32.8
		〈 -4.5〉	〈 9.1〉	〈 6.4〉	〈 8.9〉	〈 -0.9〉	〈 2.0〉
	(-7.6)	(3.8)	(10.8)	(10.4)	(15.5)	(12.9)	(10.4)
分譲	16.4	19.3	20.6	22.1	19.1	24.2	22.1
		〈 -1.3〉	〈 6.7〉	〈 7.4〉	〈 -2.3〉	〈 26.1〉	〈 -8.4〉
	(-40.0)	(17.8)	(40.8)	(37.1)	(35.2)	(58.9)	(37.1)
貸家系	32.5	29.0	29.9	27.1	32.6	29.6	27.1
		〈 -17.0〉	〈 3.1〉	〈 -9.4〉	〈 10.1〉	〈 -9.1〉	〈 -8.6〉
	(-28.8)	(-14.1)	(3.5)	(-11.1)	(17.8)	(0.9)	(-11.1)

(注) 2010/10～12月の季調済年率換算戸数は10月の値、季調済前期比は10月の7～9月対比、前年比は10月の前年同月比。

＜首都圏新築マンション関連指標 — 不動産経済研究所調べ —＞

— 〈 〉内は季調済前期（月）比、（ ）内は前年比：％

	09年度	10/4～6月	7～9	10～12	10/9月	10	11
全売却戸数（年率、万戸）	4.1	5.2	4.6	4.4	4.4	4.1	4.7
		〈 27.5〉	〈 -11.0〉	〈 -5.6〉	〈 -8.4〉	〈 -7.5〉	〈 15.4〉
	(-3.7)	(24.8)	(11.2)	(6.4)	(6.9)	(11.0)	(2.2)
期末在庫（戸）	6,130	5,679	4,992	4,576	4,992	4,755	4,576
新規契約率（％）	71.4	80.7	76.3	79.6	74.9	78.8	80.4

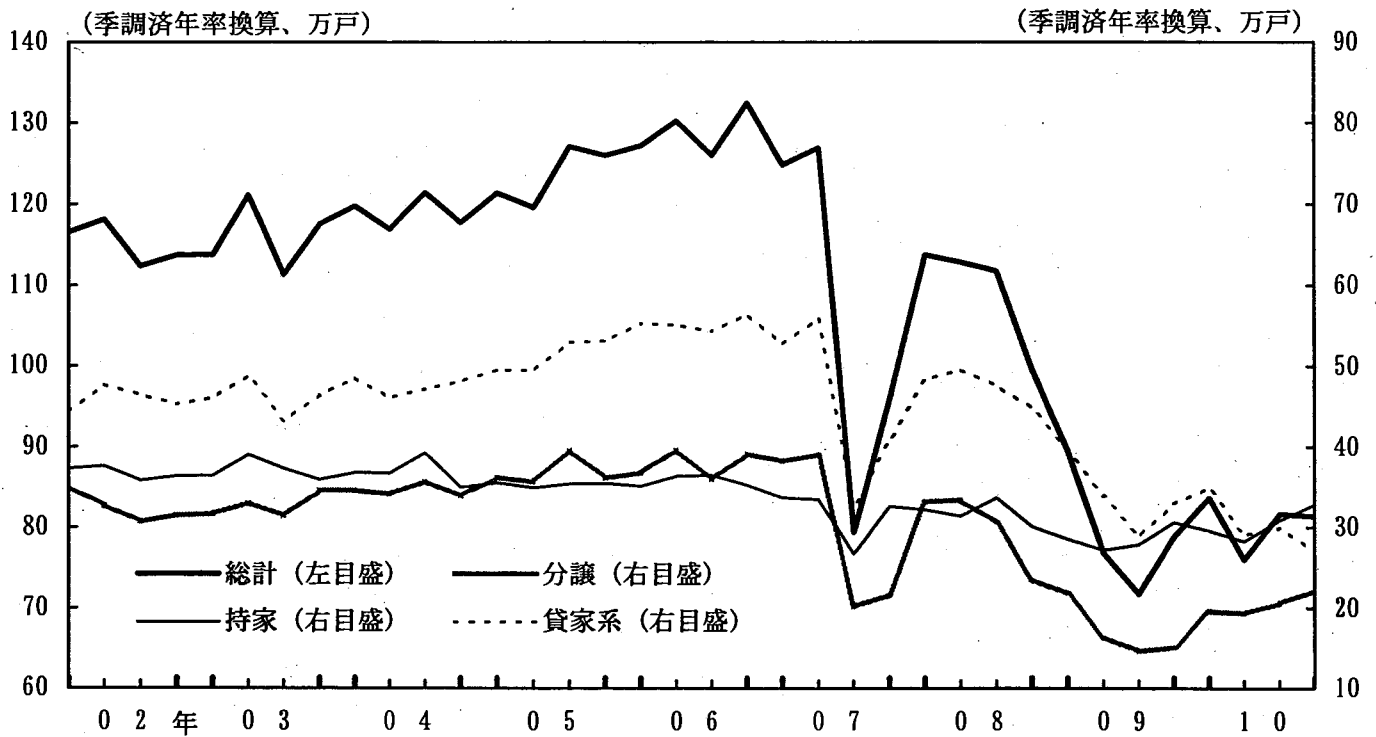
(注) 1. 全売却戸数（契約成立戸数）の月次・四半期計数および期末在庫（年度計数を含む）は、X-12-ARIMAによる季節調整値。新規契約率はすべて原計数。

2. 2010/10～12月の全売却戸数・新規契約率は10～11月の平均値、期末在庫は11月の値、前期比は10～11月の7～9月対比、前年比は10～11月の前年同期比。

(資料) 国土交通省「建築着工統計」、不動産経済研究所「首都圏のマンション市場動向」

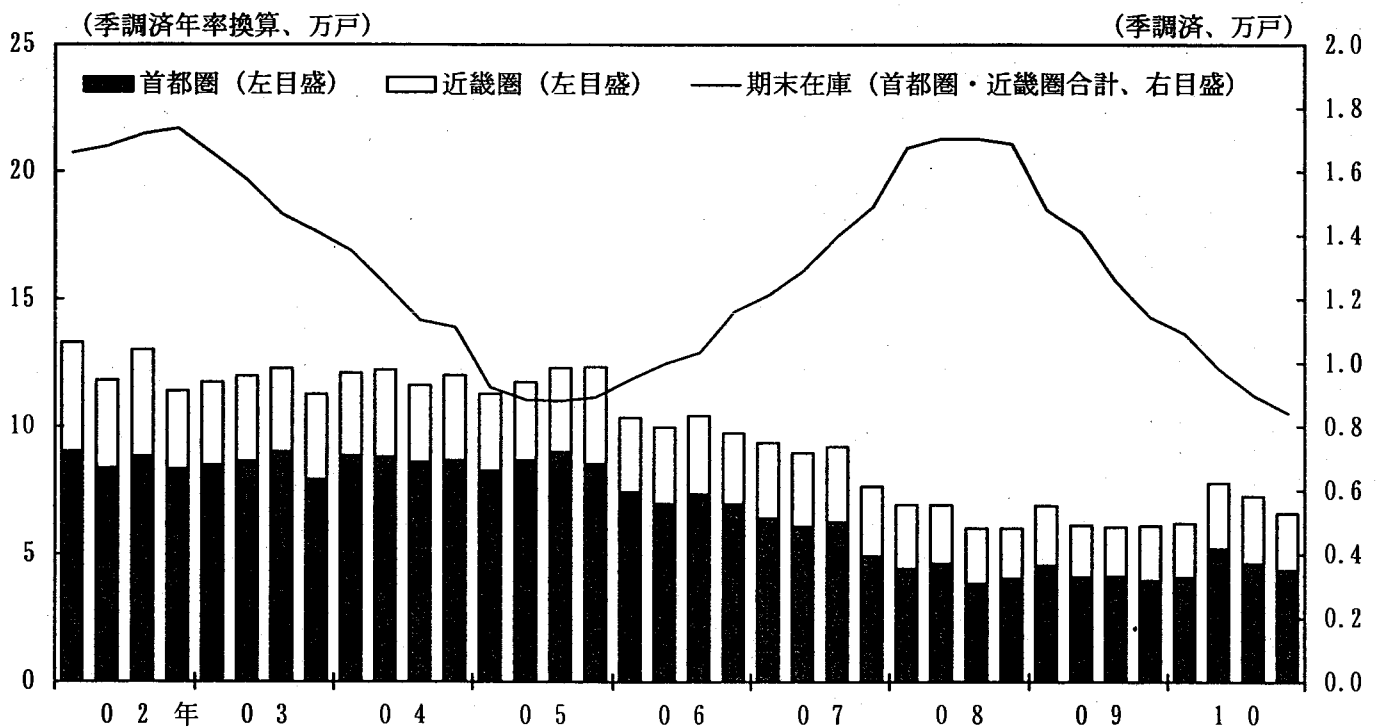
住宅投資関連指標

(1) 新設住宅着工戸数



(注) 2010/4Qは10月の値。

(2) マンション販売動向 (全売却戸数)



(注) 1. X-12-ARIMAによる季節調整値。

2. 2010/4Qの全売却戸数(契約成立戸数)は10~11月の平均値、期末在庫戸数は11月の値。

(資料) 国土交通省「建築着工統計」、
不動産経済研究所「首都圏のマンション市場動向」「近畿圏のマンション市場動向」

生産・出荷・在庫関連指標

＜鉦工業指数統計＞

- <>内は季調済前期(月)比、()内は前年比：％
 — 在庫、在庫率は期末値。
 — 在庫率、稼働率は指数水準：季調済、2005年=100

	09年度	10/4~6月	7~9	10~12	10/8月	9	10	11	12
生産	(-8.9)	< 1.5> (21.0)	<- 1.8> (13.5)	<- 3.3> (4.3)	<- 0.5> (15.1)	<- 1.6> (11.5)	<- 2.0> (4.3)	< 1.4> (6.2)	< 1.5> (3.6)
出荷	(-8.4)	< 1.6> (21.8)	<- 1.2> (14.3)	<- 3.7> (4.1)	<- 0.8> (15.8)	<- 0.5> (12.6)	<- 3.0> (4.1)		
在庫	(-6.0)	< 3.4> (1.2)	< 0.4> (3.4)	<- 1.0> (3.8)	< 0.8> (2.6)	< 0.1> (3.4)	<- 1.0> (3.8)		
在庫率	102.3	106.7	108.8	117.9	107.4	108.8	117.9		
稼働率	80.0	90.4	88.2	85.3	88.3	87.3	85.3		

- (注) 1. 生産の2010/11、12月は予測指数。前月比は、経済産業省公表値。前年比は、経済産業省公表の予測指数の前月比から試算した指数(季調済)を本系列の季節要素で割り戻した値から計算しているため、経済産業省公表の予測指数の前年比と一致しない。
 2. 予測指数を用いて算出した生産の2010/10~12月は、前期比 -1.9%、前年比 +4.7%。
 3. 2010/10~12月は、10月の値を用いて算出。

＜第3次産業・全産業活動指数＞

- <>内は季調済前期(月)比、()内は前年比：％

	09年度	10/4~6月	7~9	10~12	10/7月	8	9	10
第3次産業活動指数	(-3.4)	<-0.1> (1.3)	< 0.9> (1.8)	<-0.1> (0.9)	< 1.4> (1.5)	<-0.1> (2.3)	<-0.8> (1.4)	< 0.5> (0.9)
全産業活動指数	(-4.2)	< 0.8> (3.4)	< 0.6> (3.1)		< 0.9> (3.0)	<-0.2> (3.7)	<-0.8> (2.6)	

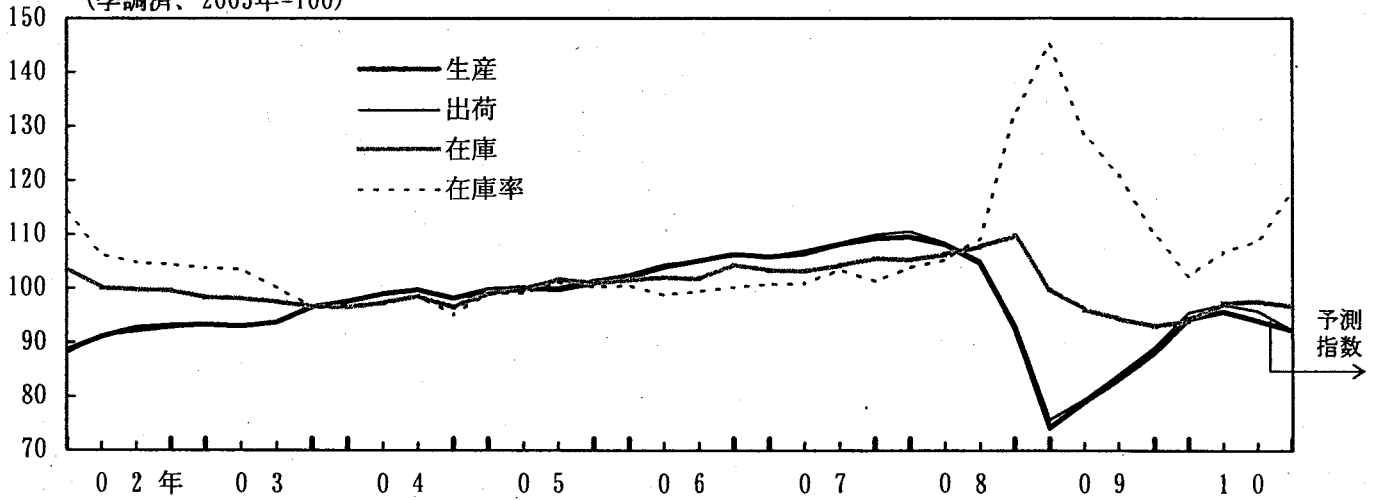
- (注) 1. 全産業活動指数は農林水産業生産指数を除いたベース。
 2. 第3次産業活動指数の2010/10~12月の前期比は10月の7~9月対比、前年比は10月の前年同月比。

(資料) 経済産業省「鉦工業指数統計」「第3次産業活動指数」「全産業活動指数」

生産

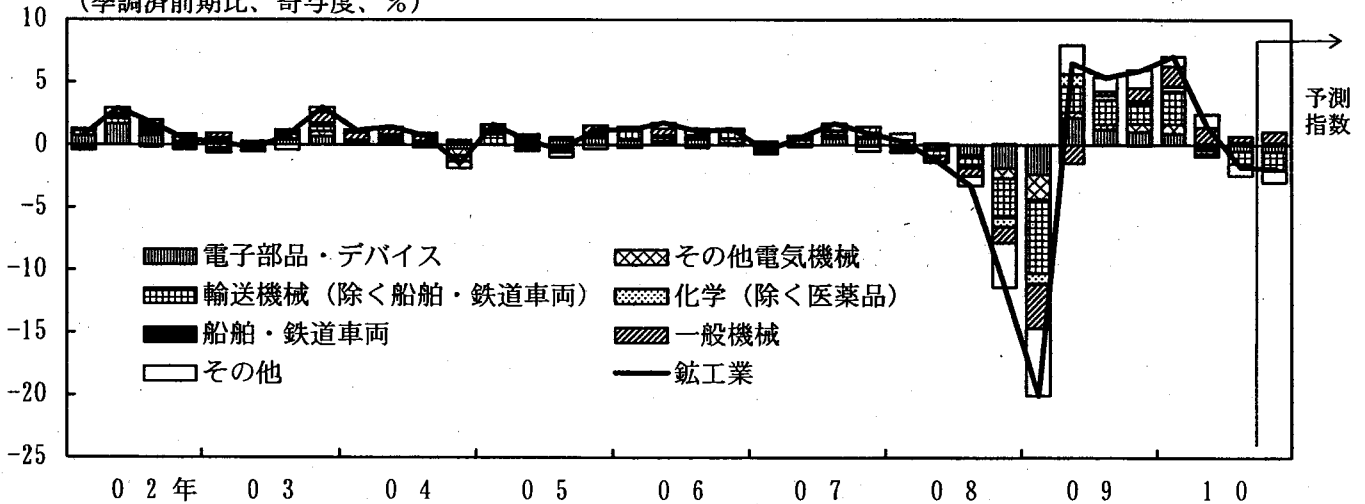
(1) 鉱工業生産・出荷・在庫

(季調済、2005年=100)



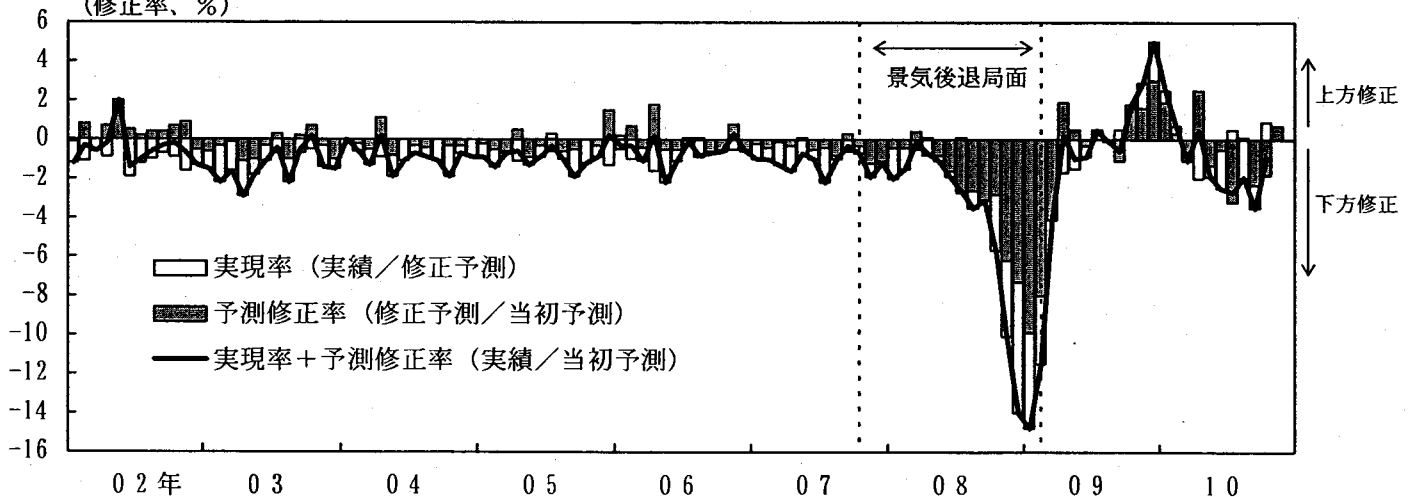
(2) 生産の業種別寄与度

(季調済前期比、寄与度、%)



(3) 生産予測指数の修正状況

(修正率、%)

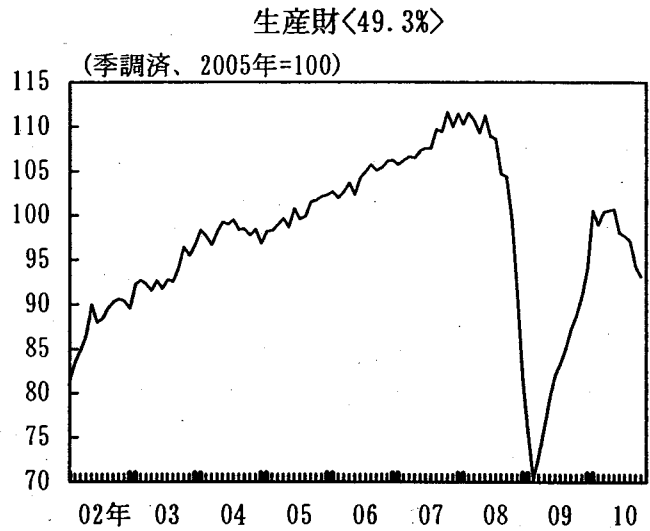
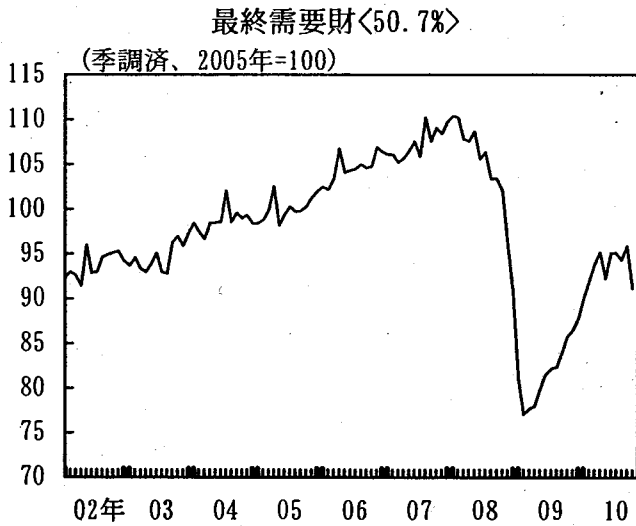


- (注) 1. その他電気機械は電気機械、情報通信機械を合成したものの。
 2. 2010/4Qの生産は予測指数を用いて算出。出荷、在庫、在庫率は、10月の値。
 3. (2) の2003/1Q以前は、2000年基準の指数を用いて算出。
 (3) の2003年1月以前は2000年基準の値を使用。

(資料) 経済産業省「鉱工業指数統計」

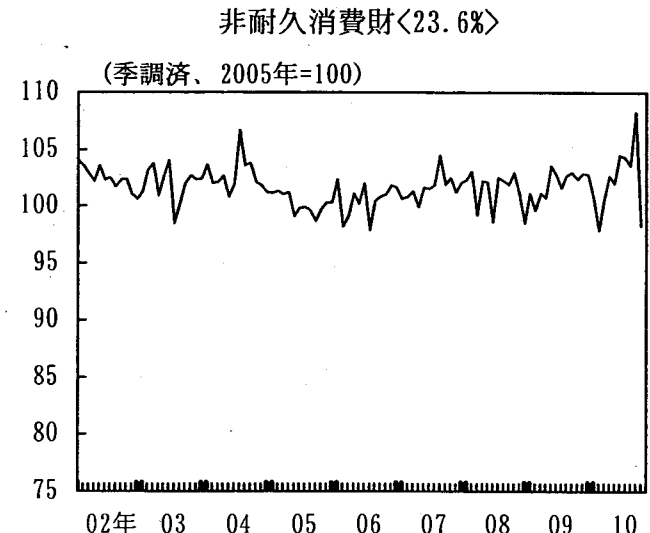
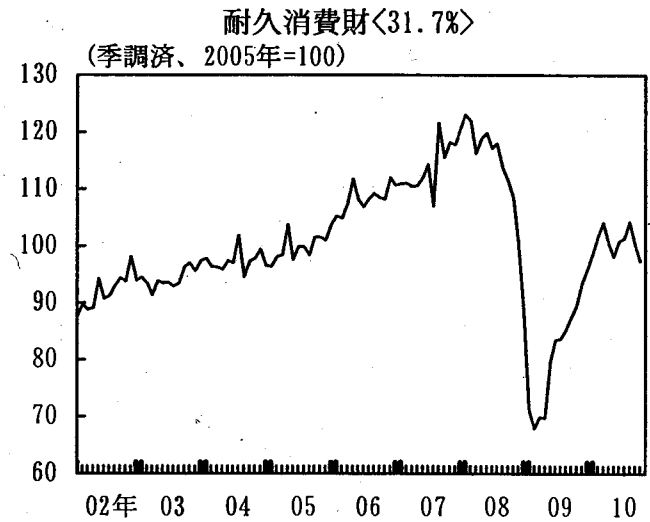
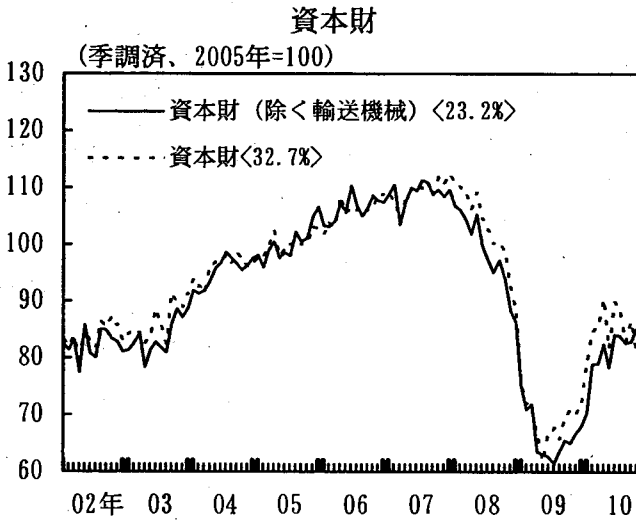
財別出荷

(1) 最終需要財と生産財



(注) <>内は鉱工業出荷に占めるウェイト。

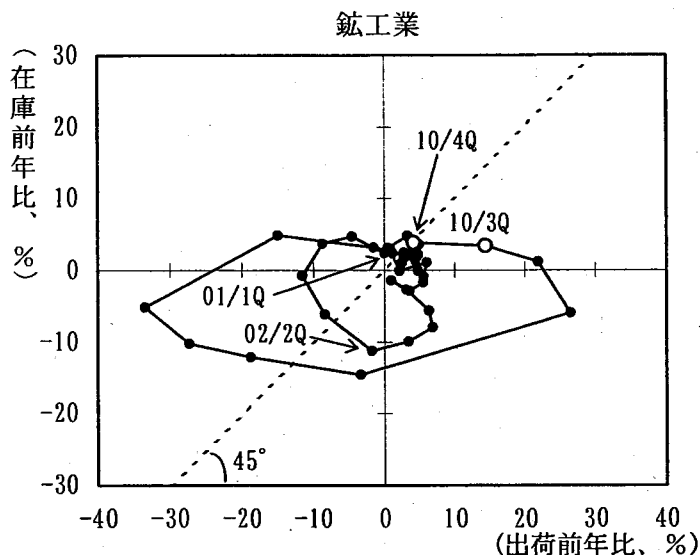
(2) 最終需要財の内訳



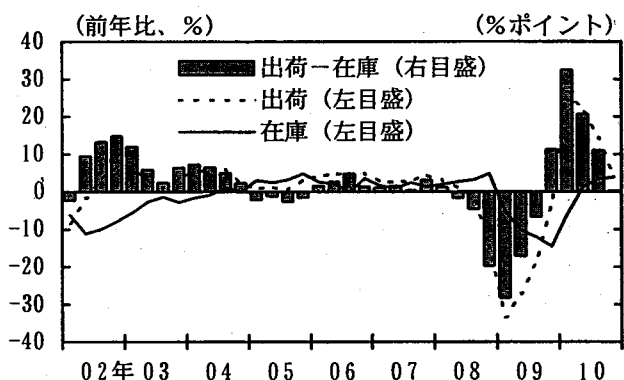
(注) <>内は最終需要財に占めるウェイト。

(資料) 経済産業省「鉱工業指数統計」

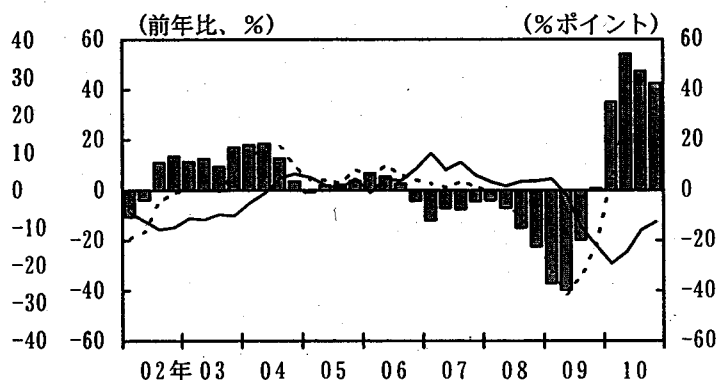
在庫循環



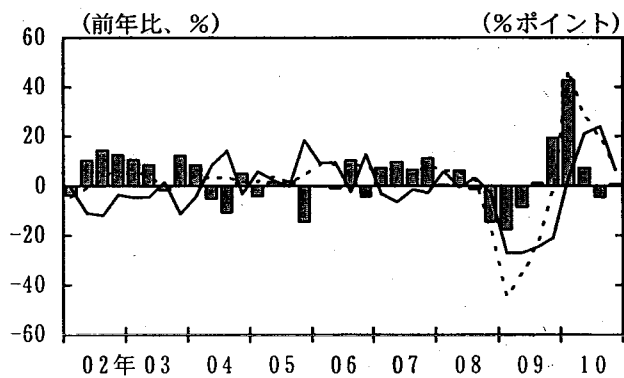
(1) 鉱工業



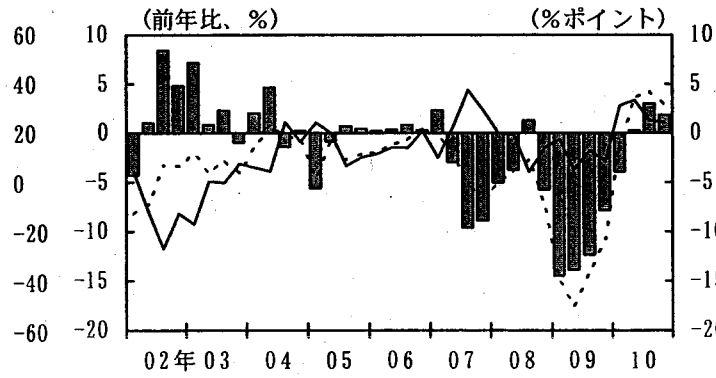
(2) 資本財 (除く輸送機械)



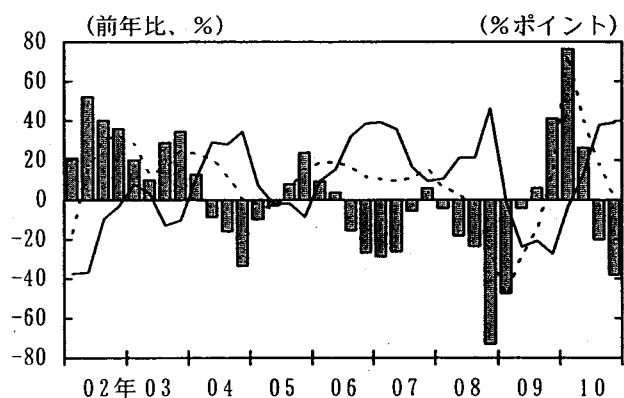
(3) 耐久消費財



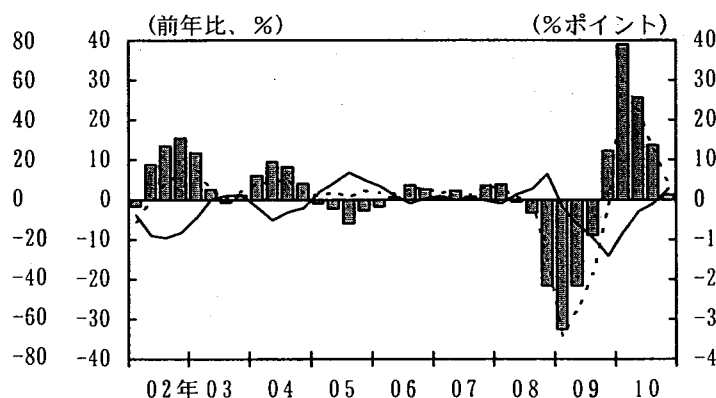
(4) 建設財



(5) 電子部品・デバイス



(6) その他生産財



(注) 2010/4Qは、10月の値を用いて算出。

(資料) 経済産業省「鉱工業指数統計」

雇用関連指標

＜職業安定業務統計＞

— () 内は前年比、< >内は季調済前期(月)比：%

	09年度	10/4~6月	7~9	10~12	10/8月	9	10
有効求人倍率(季調済、倍)	0.45	0.50	0.54	0.56	0.54	0.55	0.56
有効求職	(26.8)	<-1.3>	<-1.2>	<1.1>	<0.3>	<0.4>	<0.7>
有効求人	(-26.1)	<4.6>	<6.1>	<4.3>	<1.7>	<1.9>	<2.5>
新規求人倍率(季調済、倍)	0.79	0.86	0.88	0.93	0.88	0.91	0.93
新規求職	(11.2)	<3.3>	<1.2>	<-0.6>	<1.9>	<-2.7>	<0.6>
新規求人	(-18.2)	<5.5>	<3.6>	<4.7>	<2.5>	<1.1>	<3.2>
		(10.1)	(15.1)	(13.9)	(19.0)	(17.3)	(13.9)
うち製造業	(-30.7)	(40.8)	(33.5)	(20.7)	(39.0)	(27.2)	(20.7)
うち非製造業	(-16.6)	(7.3)	(13.0)	(13.1)	(16.8)	(16.2)	(13.1)
パートの有効求人倍率 (季調済、倍)	0.73	0.77	0.81	0.84	0.81	0.83	0.84

＜労働力調査＞

	09年度	10/4~6月	7~9	10~12	10/8月	9	10
労働力人口	(-0.6)	(-0.6)	(-0.4)	(0.1)	(-0.6)	(-0.1)	(0.1)
		<-0.6>	<0.3>	<0.2>	<-0.1>	<0.6>	<-0.2>
就業者数	(-1.7)	(-0.6)	(-0.0)	(0.2)	(-0.3)	(0.2)	(0.2)
		<-0.9>	<0.5>	<0.1>	<-0.0>	<0.7>	<-0.3>
雇用者数	(-1.2)	(-0.3)	(0.3)	(0.7)	(-0.0)	(0.7)	(0.7)
		<-1.0>	<0.8>	<0.4>	<0.1>	<1.1>	<-0.3>
完全失業者数(季調済、万人)	343	342	335	334	334	329	334
非自発的離職者数(季調済、万人)	151	135	142	136	140	142	136
完全失業率(季調済、%)	5.2	5.2	5.1	5.1	5.1	5.0	5.1
労働力率(季調済、%)	59.8	59.5	59.7	59.8	59.5	59.9	59.8

＜毎月勤労統計＞

	09年度	10/4~6月	7~9	10~12	10/8月	9	10
常用労働者数(a)	(0.0)	(0.2)	(0.5)	(0.7)	(0.5)	(0.6)	(0.7)
		<-0.1>	<0.3>	<0.3>	<0.0>	<0.2>	<0.2>
製造業	(-2.4)	(-1.1)	(-0.4)	(-0.2)	(-0.3)	(-0.2)	(-0.2)
非製造業	(0.5)	(0.5)	(0.7)	(0.9)	(0.7)	(0.8)	(0.9)
名目賃金(b)	(-3.3)	(1.3)	(0.9)	(0.6)	(0.4)	(0.9)	(0.6)
所定内給与	(-1.1)	(-0.1)	(-0.2)	(0.1)	(-0.2)	(0.0)	(0.1)
所定外給与	(-7.9)	(12.0)	(11.1)	(6.4)	(10.9)	(10.1)	(6.4)
特別給与	(-10.8)	(4.9)	(3.3)	(5.2)	(-4.2)	(13.6)	(5.2)
雇用者所得(a×b)	(-3.3)	(1.5)	(1.4)	(1.3)	(0.8)	(1.5)	(1.3)

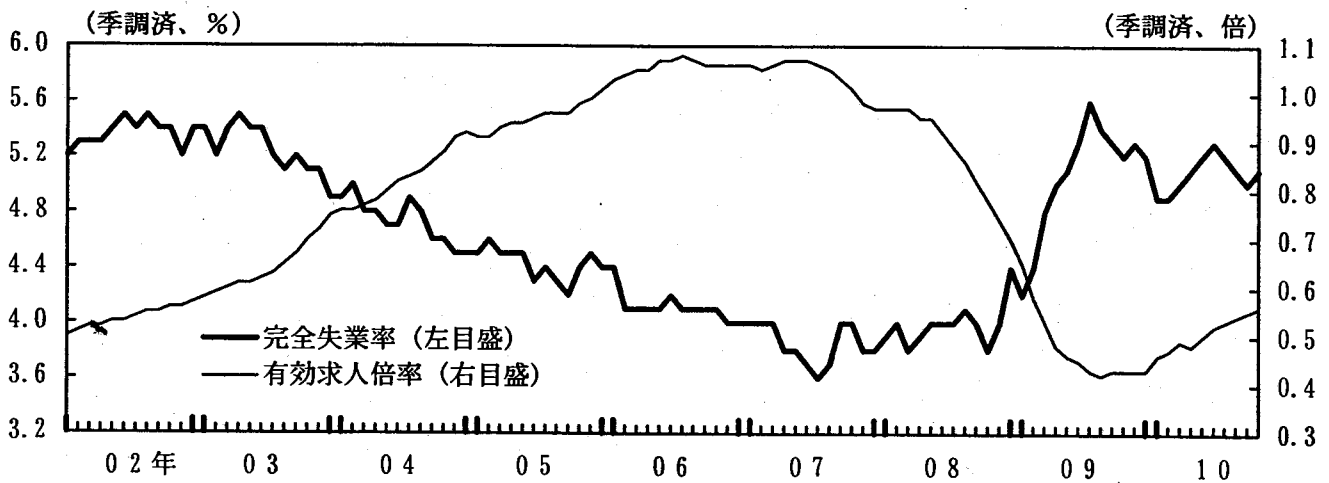
(注) 1. 毎月勤労統計の値は、事業所規模5人以上。

2. 2010/10~12月の季節調整値は10月の値、季調済前期比は10月の7~9月対比、前年比は10月の前年同月比。

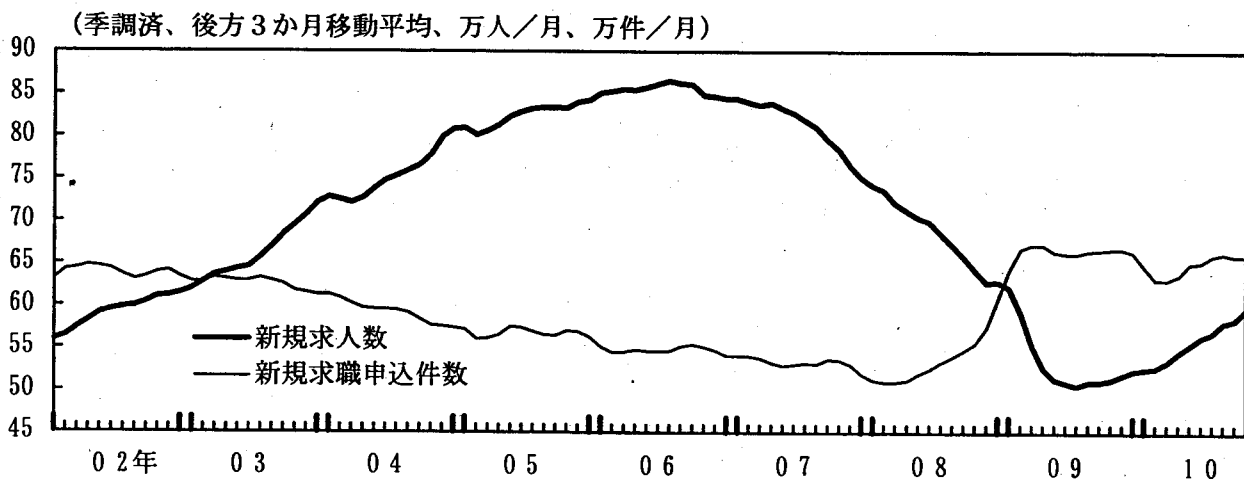
(資料) 厚生労働省「毎月勤労統計」「職業安定業務統計」、総務省「労働力調査」

労働需給 (1)

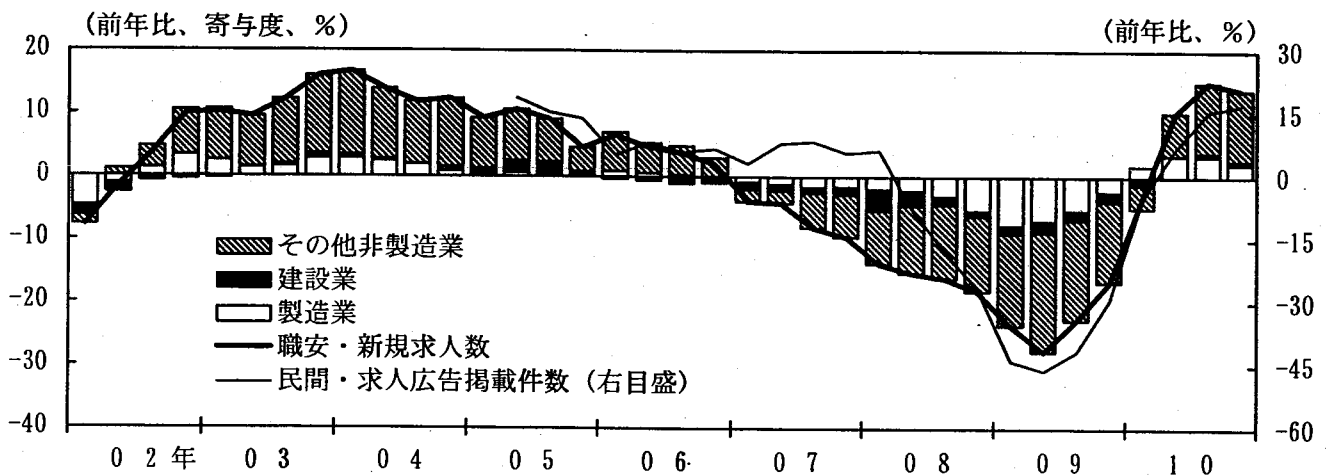
(1) 失業率と有効求人倍率



(2) 新規求人と新規求職



(3) 求人への動向



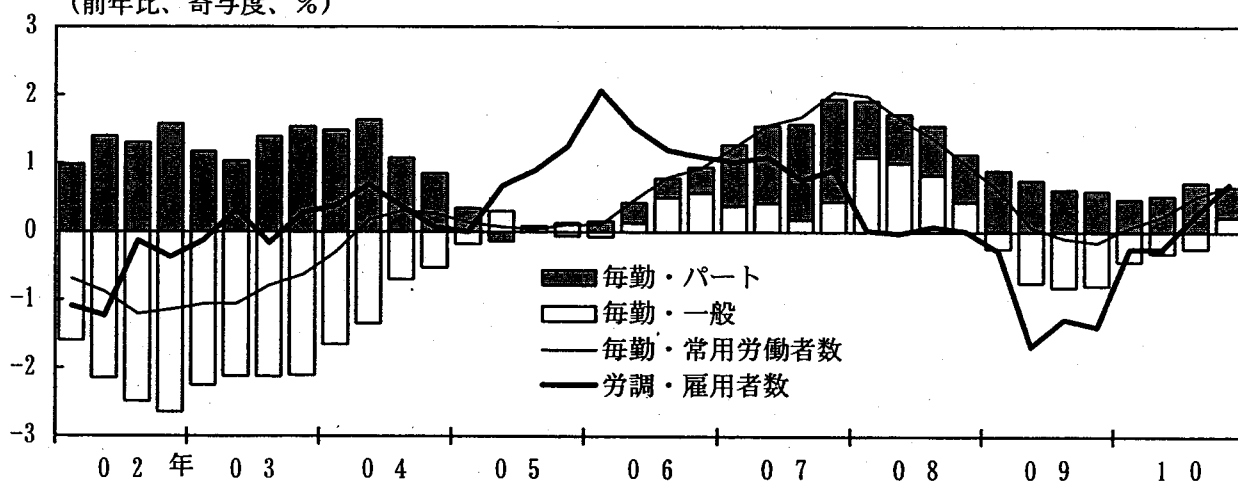
- (注) 1. 有効求人倍率、新規求人数、新規求職申込件数は、新規学卒者を除きパートタイムを含む。
 2. 求人広告掲載件数は、全国求人情報協会に加盟している企業が発行している求人メディア（有料求人情報誌、フリーペーパー、折込求人紙、求人サイト）に掲載された求人広告件数の集計値。
 3. 2010/4Qは10月の前年同月比。

(資料) 総務省「労働力調査」、厚生労働省「職業安定業務統計」、
 社団法人全国求人情報協会「求人広告掲載件数」

労働需給 (2)

(1) 労調・雇用者数と毎勤・常用労働者数

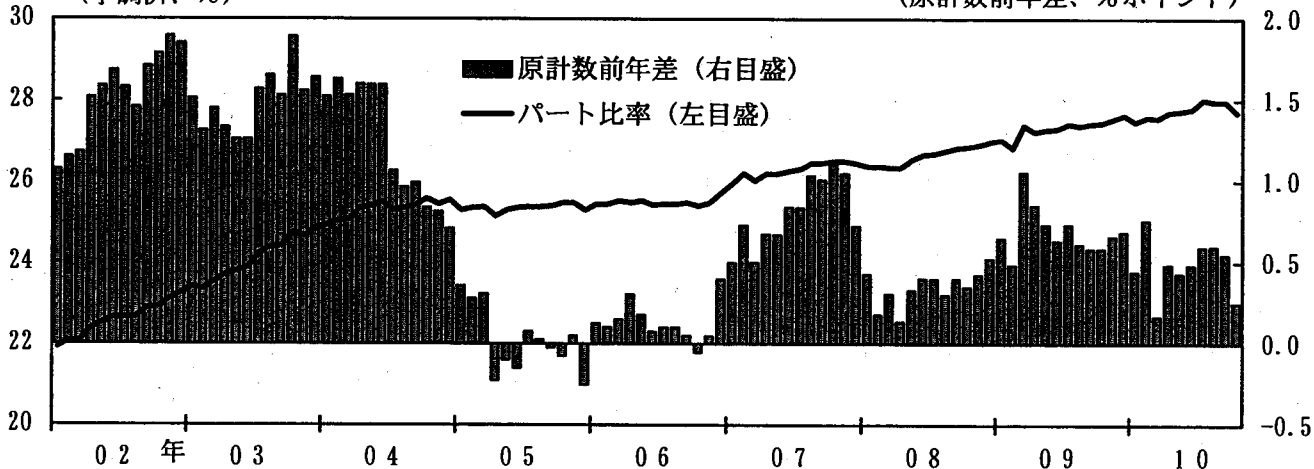
(前年比、寄与度、%)



(2) パート比率

(季調済、%)

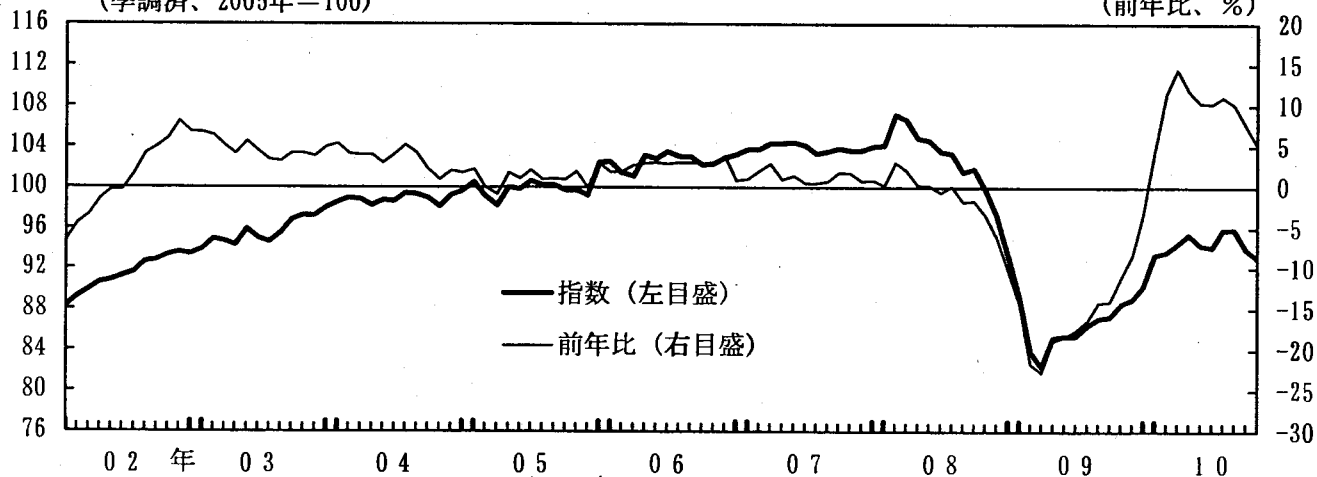
(原計数前年差、%ポイント)



(3) 所定外労働時間

(季調済、2005年=100)

(前年比、%)



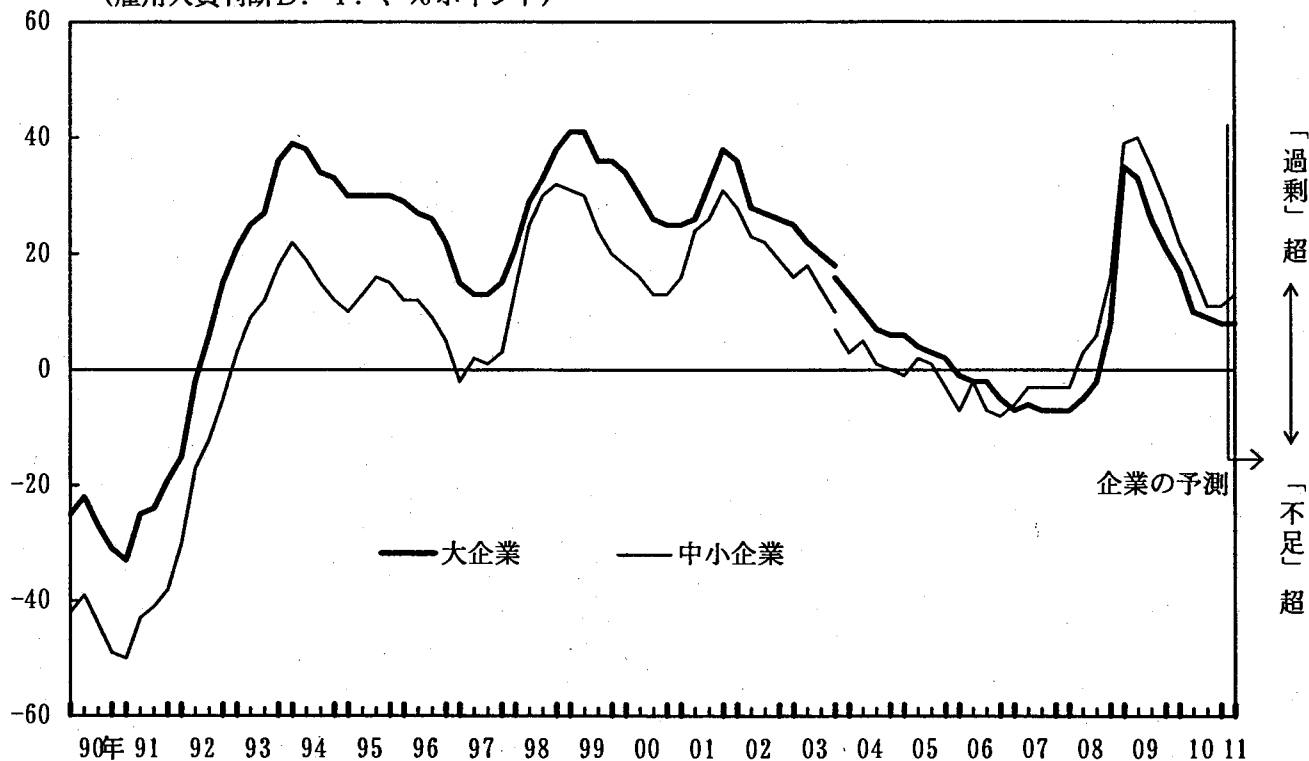
- (注) 1. 毎月勤労統計の計数は、事業所規模5人以上。
- 2. パート比率は、パート労働者数/常用労働者数×100として算出。
- 3. 2010/4Qは10月の前年同月比。

(資料) 厚生労働省「毎月勤労統計」、総務省「労働力調査」

雇用の過不足感

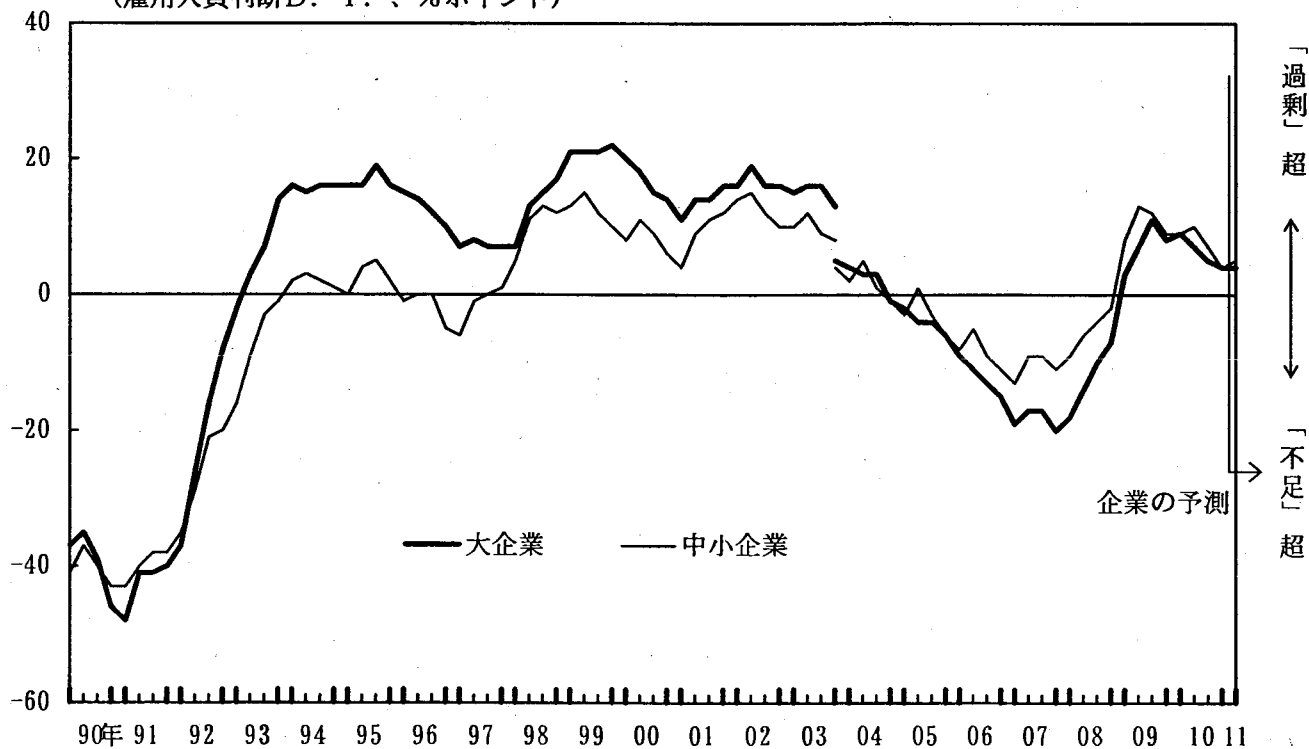
(1) 製造業

(雇用人員判断D. I.、%ポイント)



(2) 非製造業

(雇用人員判断D. I.、%ポイント)



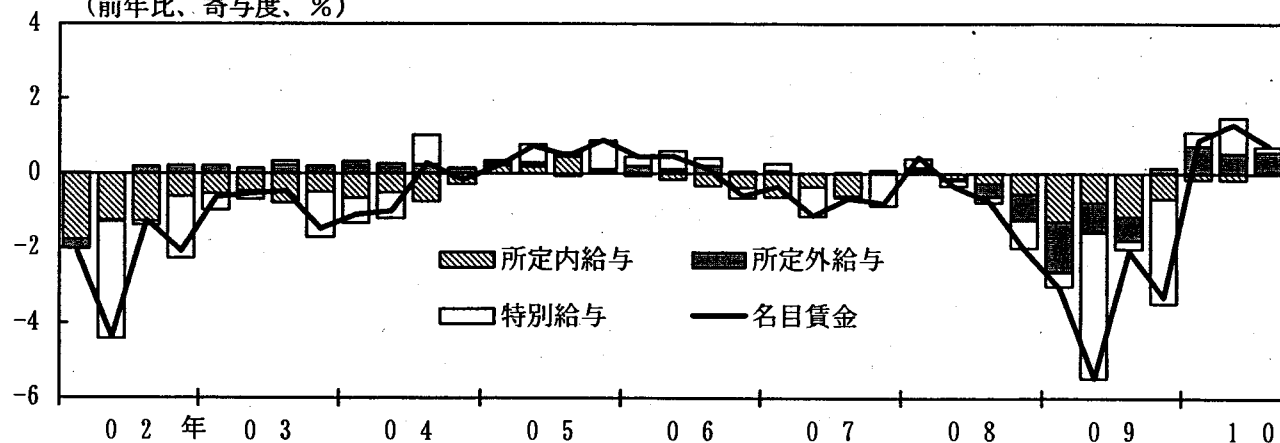
(注) 2004/3月調査より見直しを実施。旧ベースは2003/12月調査まで。
新ベースは2003/12月調査から。

(資料) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

雇用者所得

(1) 名目賃金

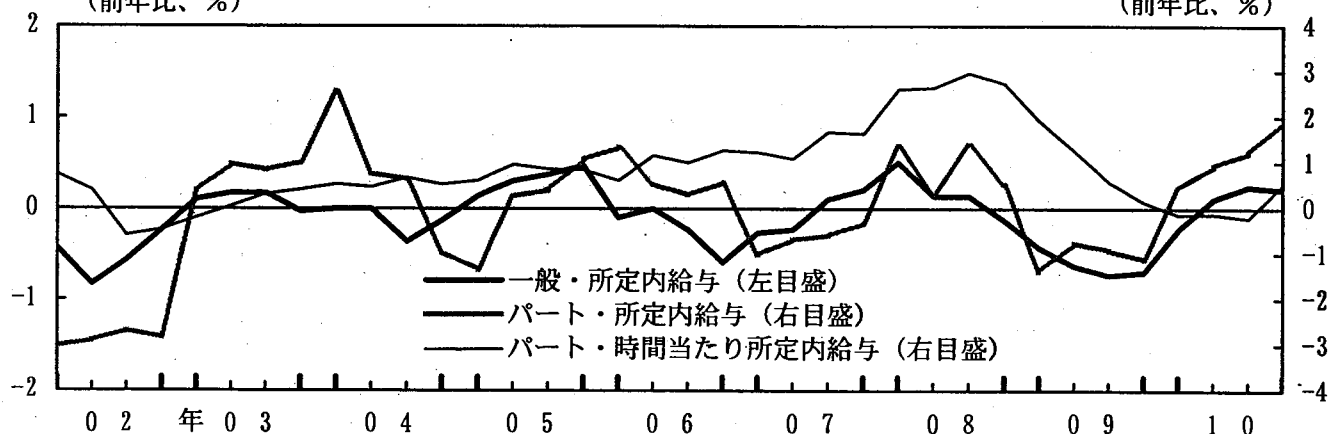
(前年比、寄与度、%)



(2) 就業形態別・所定内給与

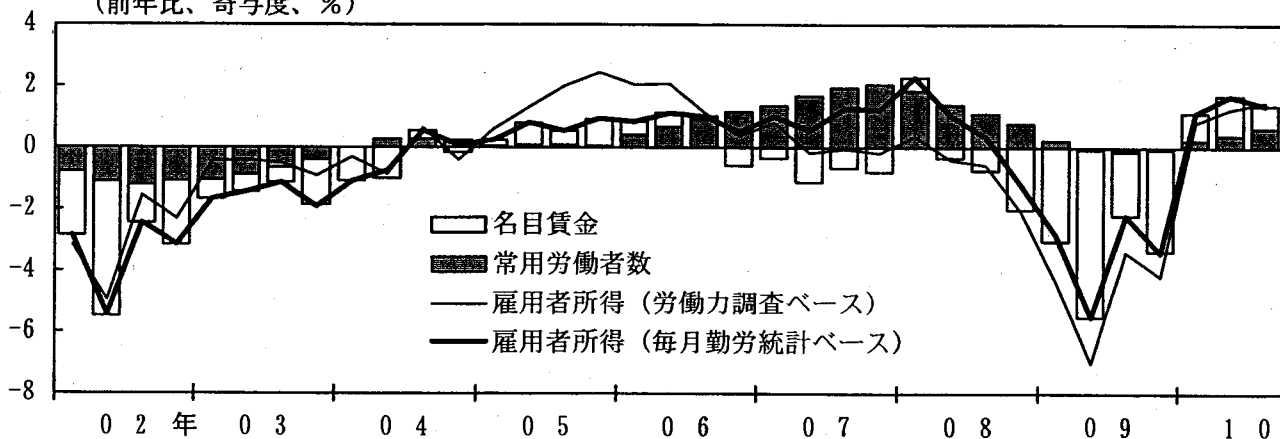
(前年比、%)

(前年比、%)



(3) 雇用者所得

(前年比、寄与度、%)



- (注) 1. 毎月勤労統計の計数は、事業所規模5人以上。
 2. (1) および (3) の四半期は以下のように組替えている。
 第1四半期：3～5月、第2：6～8月、第3：9～11月、第4：12～2月。
 2010/3Qは9～10月の前年同期比。
 3. (3) の雇用者所得は以下のように算出。
 雇用者所得 (毎月勤労統計ベース) = 常用労働者数 (毎月勤労統計) × 名目賃金 (毎月勤労統計)
 雇用者所得 (労働力調査ベース) = 雇用者数 (労働力調査) × 名目賃金 (毎月勤労統計)
 4. (2) の2010/4Qは10月の前年同月比。

(資料) 厚生労働省「毎月勤労統計」、総務省「労働力調査」

物価関連指標

— ()内は前年比、< >内は前期(月)比、[]内は3か月前比：%

	09年度	10/4~6月	7~9	10~12	10/8月	9	10	11
輸出物価(円 ^レ - ^ス)	(-7.7)	(-1.9)	(-5.3)	(-3.9)	(-6.7)	(-4.9)	(-4.6)	(-3.1)
		< 0.9>	< -4.8>	< -0.7>	< -1.4>	< -0.4>	< -0.6>	< 1.2>
同(契約通貨 ^レ - ^ス)	(-2.4)	(2.6)	(1.7)	(3.1)	(1.3)	(1.7)	(3.0)	(3.2)
		< 0.9>	< -0.5>	< 1.6>	< 0.1>	< 0.4>	< 0.9>	< 0.7>
輸入物価(円 ^レ - ^ス)	(-19.1)	(12.0)	(3.1)	(3.0)	(1.7)	(2.8)	(2.2)	(3.9)
		< 5.0>	< -5.3>	< -1.0>	< -2.0>	< -0.1>	< -1.4>	< 2.5>
					[-6.8]	[-4.4]	[-3.5]	[1.0]
同(契約通貨 ^レ - ^ス)	(-13.3)	(17.9)	(11.0)	(11.2)	(11.1)	(10.4)	(11.1)	(11.4)
		< 4.3>	< -0.2>	< 2.4>	< 0.0>	< 0.9>	< 0.6>	< 2.3>
日本銀行国際商品指数	(-9.2)	< 2.9>	< -1.0>	< 9.1>	< -1.2>	< 6.8>	< 2.8>	< 4.1>
日経商品指数(42種)	(-13.2)	< 4.4>	< -1.5>	< 2.2>	< -0.2>	< 1.5>	< 1.0>	< 0.7>
国内企業物価	(-5.2)	(0.2)	(-0.1)	(0.9)	(0.0)	(-0.1)	(0.8)	(0.9)
		< 0.6>	< -0.4>	< 0.4>	< 0.0>	< 0.0>	< 0.3>	< 0.1>
					[-0.7]	[-0.2]	[0.3]	[0.4]
C S P I 総平均	(-2.5)	(-0.9)	(-1.1)	(-1.2)	(-1.1)	(-1.1)	(-1.2)	
総平均 除く国際運輸	(-1.5)	(-1.3)	(-1.1)	(-1.3)	(-1.1)	(-1.2)	(-1.3)	
全国C P I 総合	(-1.7)	(-0.9)	(-0.8)	(0.2)	(-0.9)	(-0.6)	(0.2)	
総合 除く生鮮食品 [9588]	(-1.6)	(-1.2)	(-1.0)	(-0.6)	(-1.0)	(-1.1)	(-0.6)	
うち								
財 除く農水畜産物 [3731]	(-2.7)	(-0.7)	(-1.4)	(-0.6)	(-1.3)	(-1.5)	(-0.6)	
一般サービス [3775]	(-0.4)	(-0.5)	(-0.5)	(-0.3)	(-0.4)	(-0.4)	(-0.3)	
公共料金 [1778]	(-1.4)	(-3.5)	(-1.9)	(-0.7)	(-1.8)	(-1.6)	(-0.7)	
総合 除く生鮮・高校授業料 [9509]	(-1.6)	(-0.7)	(-0.5)	(-0.1)	(-0.5)	(-0.6)	(-0.1)	
総合 除く食料・ ^レ 補 ^レ - [6809]	(-1.0)	(-1.5)	(-1.5)	(-0.8)	(-1.5)	(-1.5)	(-0.8)	
総合 除く食料 ^レ ・高校授業料 [6730]	(-1.1)	(-0.7)	(-0.7)	(0.0)	(-0.7)	(-0.7)	(0.0)	
東京C P I 総合	(-1.7)	(-1.3)	(-0.9)	(0.3)	(-1.0)	(-0.6)	(0.3)	(0.2)
総合 除く生鮮食品 [9600]	(-1.6)	(-1.6)	(-1.1)	(-0.5)	(-1.1)	(-1.0)	(-0.5)	(-0.5)
うち								
財 除く農水畜産物 [3023]	(-2.6)	(-2.0)	(-2.1)	(-0.7)	(-2.3)	(-2.0)	(-0.8)	(-0.7)
一般サービス [4507]	(-0.7)	(-0.7)	(-0.7)	(-0.6)	(-0.7)	(-0.7)	(-0.6)	(-0.6)
公共料金 [1806]	(-2.0)	(-2.8)	(-0.4)	(0.7)	(-0.4)	(0.1)	(0.8)	(0.5)
総合 除く生鮮・高校授業料 [9515]	(-1.6)	(-1.3)	(-0.8)	(-0.2)	(-0.8)	(-0.7)	(-0.2)	(-0.2)
総合 除く食料・ ^レ 補 ^レ - [7150]	(-1.2)	(-1.4)	(-1.3)	(-0.6)	(-1.4)	(-1.3)	(-0.6)	(-0.6)
総合 除く食料 ^レ ・高校授業料 [7065]	(-1.2)	(-1.0)	(-0.9)	(-0.1)	(-1.0)	(-0.9)	(-0.1)	(-0.1)

(注) 1. 国内企業物価の前期(月)比、3か月前比は夏季電力料金を調整。

2. C P Iの内訳[]内は、構成比(万分比)。

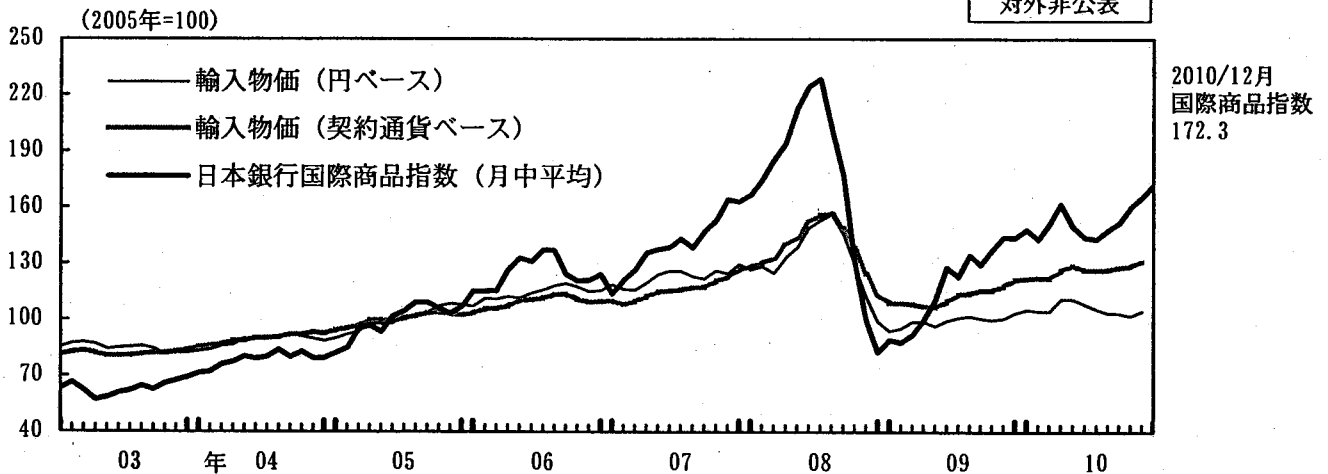
3. 東京C P Iの2010年11月のデータは中旬速報値。

4. 2010/10~12月のC S P I、全国C P Iは10月のデータを、それ以外は10~11月平均のデータを使用。

(資料) 総務省「消費者物価指数」、日本銀行「企業物価指数」「企業向けサービス価格指数」
「日本銀行国際商品指数」、日本経済新聞社「日経主要商品価格指数」

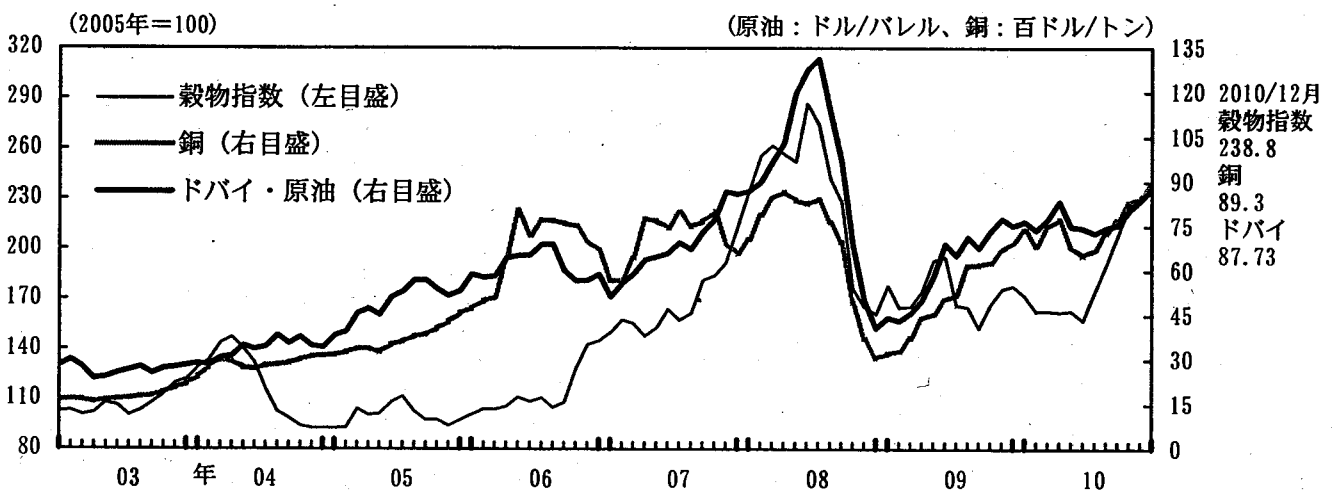
国際商品市況と輸入物価

(1) 輸入物価 (契約通貨ベース、円ベース)



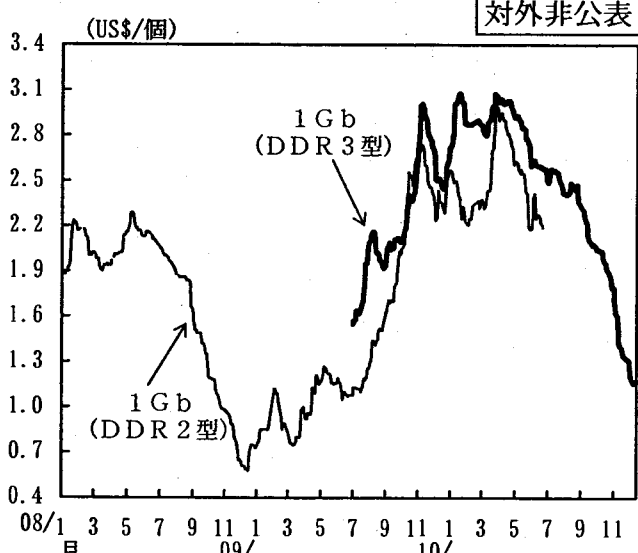
(注) 日本銀行国際商品指数の2010/12月は14日までの平均値。

(2) 原油・非鉄金属・穀物



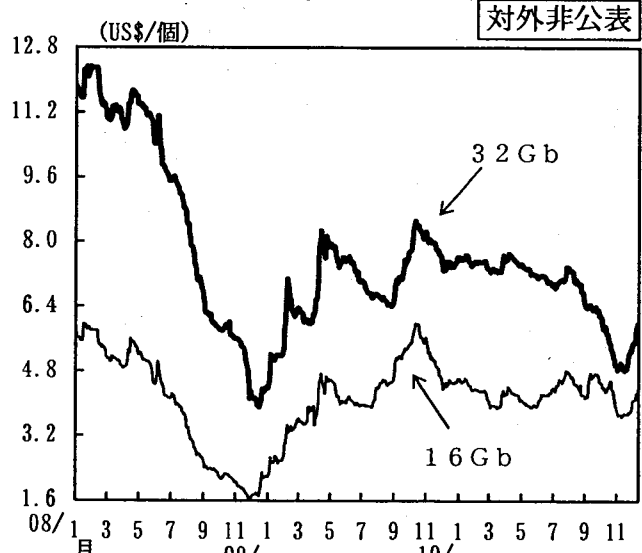
(注) 1. 穀物指数は、穀物 (小麦・大豆・トウモロコシ) の国際商品市況を加重平均したもの。
加重平均に用いるウエイトは貿易統計の輸入金額から算出。
2. 計数は月中平均。なお、2010/12月は14日までの平均値。

(3) DRAM



(注) 1. 直近は12/14日。
2. DDR3型を、主流品となっている品目に変更した。

(4) NANDフラッシュメモリ



(注) 1. 直近は12/14日。
2. 8Gbを、主流品となっている32Gbに変更した。

(資料) 日本銀行「企業物価指数」「日本銀行国際商品指数」、日本経済新聞社、Bloomberg 等

輸入物価

(円ベース)

(1) 前年比

<四半期>

<月次>

	[100.0]	(前年比, %)				(前年比, %)			
		10/1Q	2Q	3Q	4Q	10/8月	9	10	11
輸入物価	[100.0]	9.2	12.0	3.1	3.0	1.7	2.8	2.2	3.9
機械器具	[31.8]	-2.6	-4.4	-5.9	-6.4	-7.1	-5.5	-6.8	-6.2
金属・同製品	[9.5]	8.5	35.1	29.8	26.5	25.5	30.0	25.9	27.3
石油・石炭・天然ガス	[27.6]	28.5	31.9	5.7	5.1	5.4	3.5	3.9	6.2
化学製品	[6.9]	4.3	3.4	-1.7	-2.7	-3.0	-1.6	-3.4	-1.9
食料品・飼料	[8.2]	3.9	-0.9	-1.1	3.7	-2.9	1.6	2.6	5.0
その他	[16.1]	2.0	1.9	-0.3	0.9	-1.9	0.1	-0.1	1.9

— []はウェイト (%)

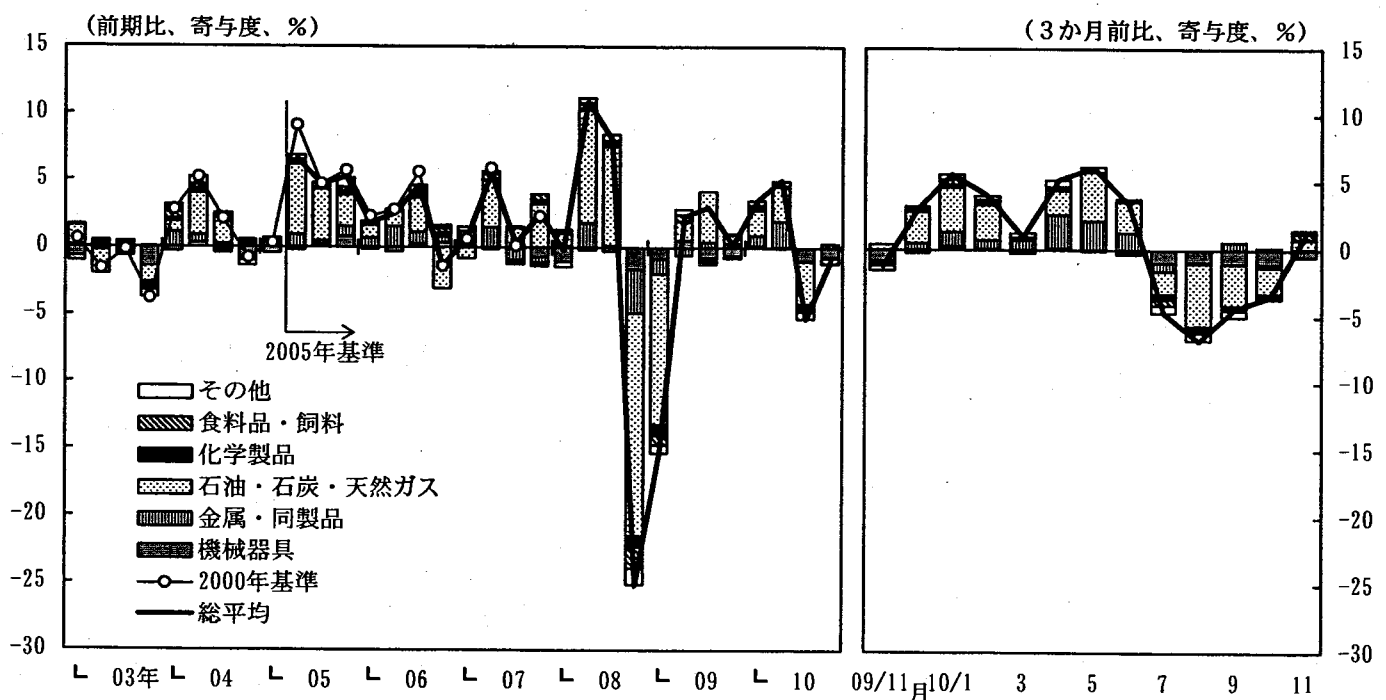
(2) 前期比、3か月前比

<四半期>

<月次>

	[100.0]	(前期比, %)				(3か月前比, %)			
		10/1Q	2Q	3Q	4Q	10/8月	9	10	11
輸入物価	[100.0]	3.5	5.0	-5.3	-1.0	-6.8	-4.4	-3.5	1.0
機械器具	[31.8]	0.4	-0.1	-4.1	-2.6	-3.9	-4.3	-4.3	-2.2
金属・同製品	[9.5]	7.5	17.8	-0.3	-1.0	-0.5	4.8	-1.7	0.5
石油・石炭・天然ガス	[27.6]	5.7	7.9	-9.3	-1.2	-13.4	-9.1	-6.0	2.1
化学製品	[6.9]	2.5	-0.1	-4.9	-0.3	-4.8	-4.7	-2.3	1.0
食料品・飼料	[8.2]	2.7	0.1	-3.0	3.3	-2.8	-0.7	2.4	5.2
その他	[16.1]	2.1	2.4	-3.7	0.1	-3.7	-3.5	-1.8	1.5

— []はウェイト (%)



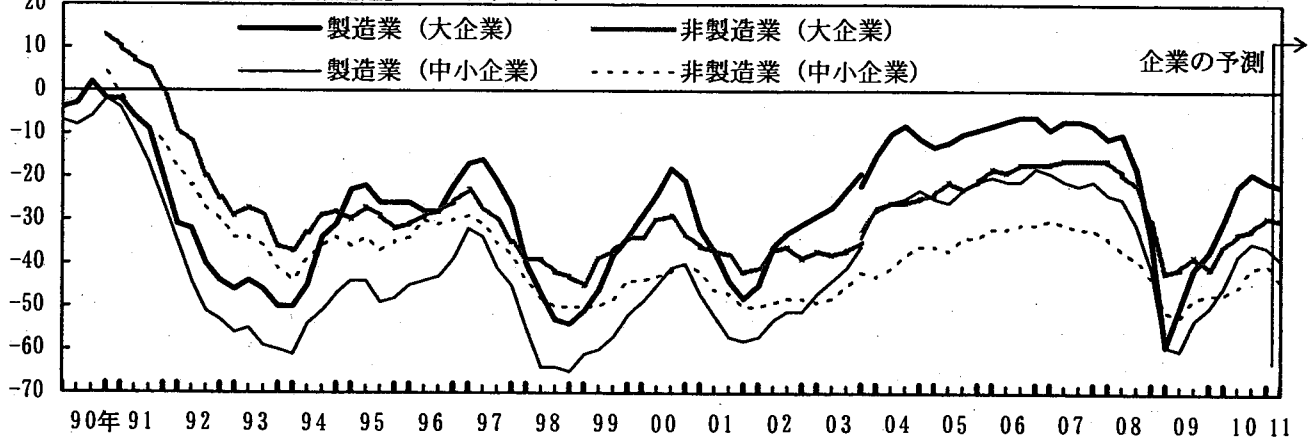
(注) 1. 機械器具：一般機器、電気・電子機器、輸送用機器、精密機器
 2. 2010/4Qは、10～11月の平均値を用いて算出。なお、2000年基準の2007/4Qは10月の値。

(資料) 日本銀行「企業物価指数」

国内需給環境

(1) 国内での製商品・サービス需給判断D. I.

(「需要超過」-「供給超過」、%ポイント)



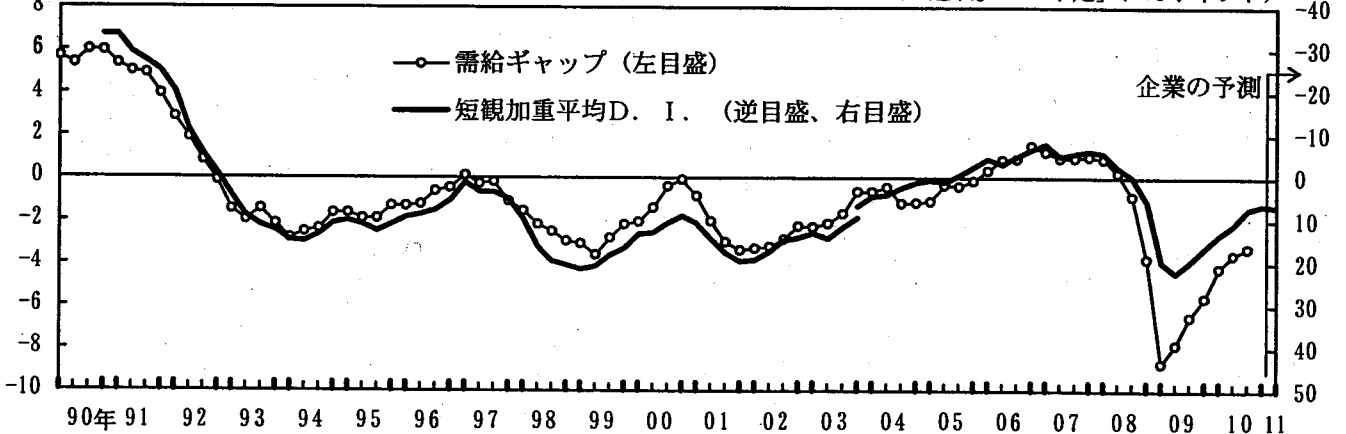
(注) 2004年3月調査より見直しを実施。

旧ベースは2003年12月調査まで、新ベースは2003年12月調査から(下の図表も同じ)。

(2) 短観加重平均D. I. (全産業全規模合計) と需給ギャップ

(%)

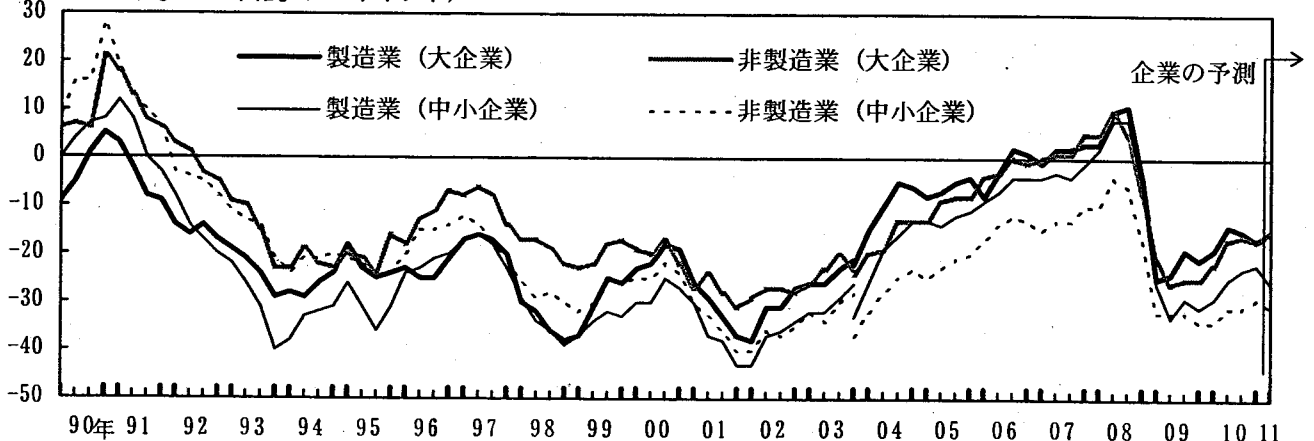
(「過剰」-「不足」、%ポイント)



- (注) 1. 短観加重平均D. I. は、生産・営業用設備判断D. I. と雇用人員判断D. I. を資本・労働分配率(1990~2008年度平均)で加重平均したもの。生産・営業用設備判断D. I. の調査対象は、1990/3Q以前は製造業に限られていた。このため、非製造業にまで調査対象が拡大された1990/4Q以降について、上記計数を算出。
2. 需給ギャップは、日本銀行調査統計局による試算。需給ギャップの推計には様々な推計誤差が含まれるため、十分な幅を持って評価する必要がある。

(3) 販売価格判断D. I.

(「上昇」-「下落」、%ポイント)

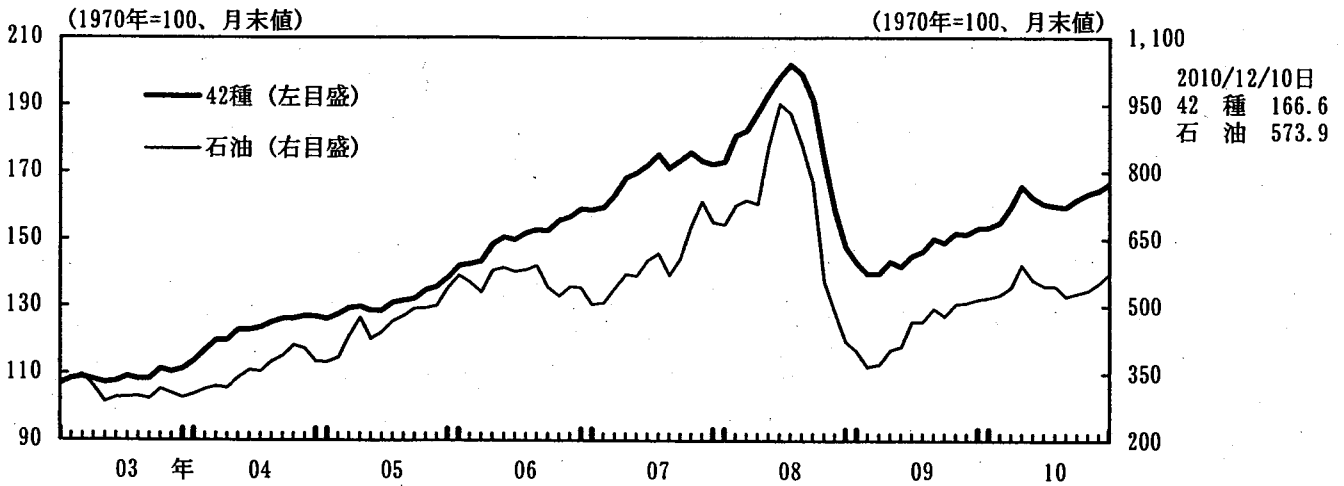


(資料) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」、内閣府「国民経済計算」、内閣府・財務省「法人企業景気予測調査」、総務省「労働力調査」、厚生労働省「毎月勤労統計」「職業安定業務統計」、経済産業省「鉱工業指数統計」等

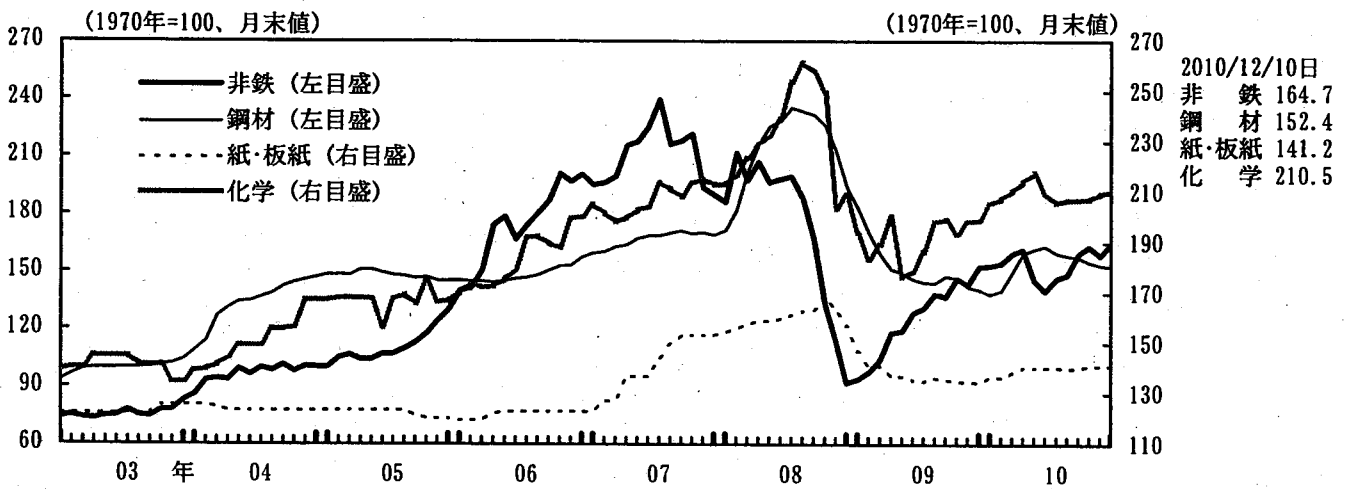
国内商品市況

(1) 日経商品指数

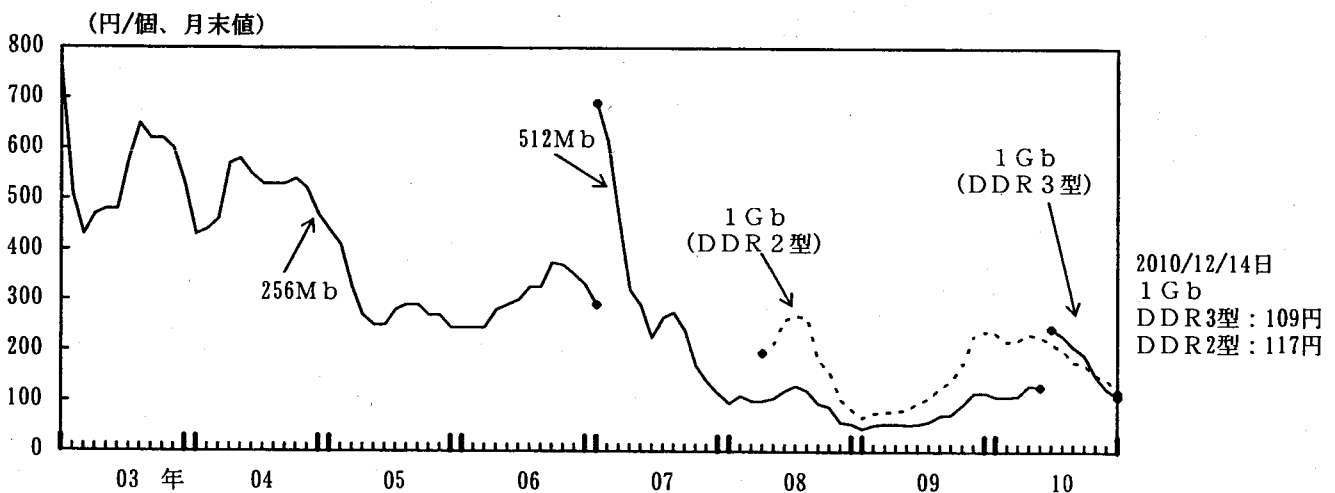
① 全体(42種)、石油



② 非鉄、鋼材、紙・板紙、化学



(2) 半導体市況 (DRAM)

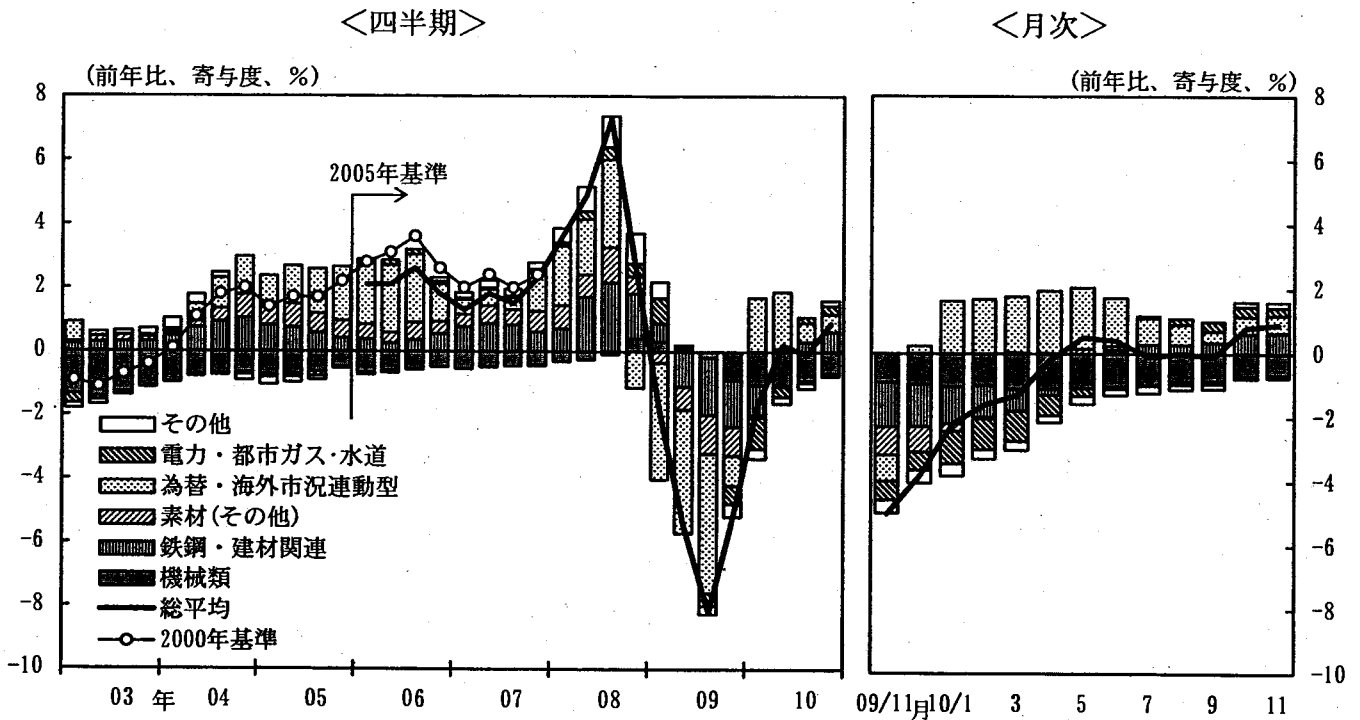


- (注) 1. 半導体市況は、大口需要家渡し。月次計数は、各月最終週の火曜日の価格。なお、2006年2月14日より、データがドル建てに変更されたため、直前1週間の平均レートで円換算している。
2. 半導体市況は、世代交代を反映し、2007年1月には256Mb (DDR型) → 512Mb (DDR 2型) へと、2010年6月には512Mb (DDR 2型) → 1Gb (DDR 3型) へと、系列の切り替えを行っている。

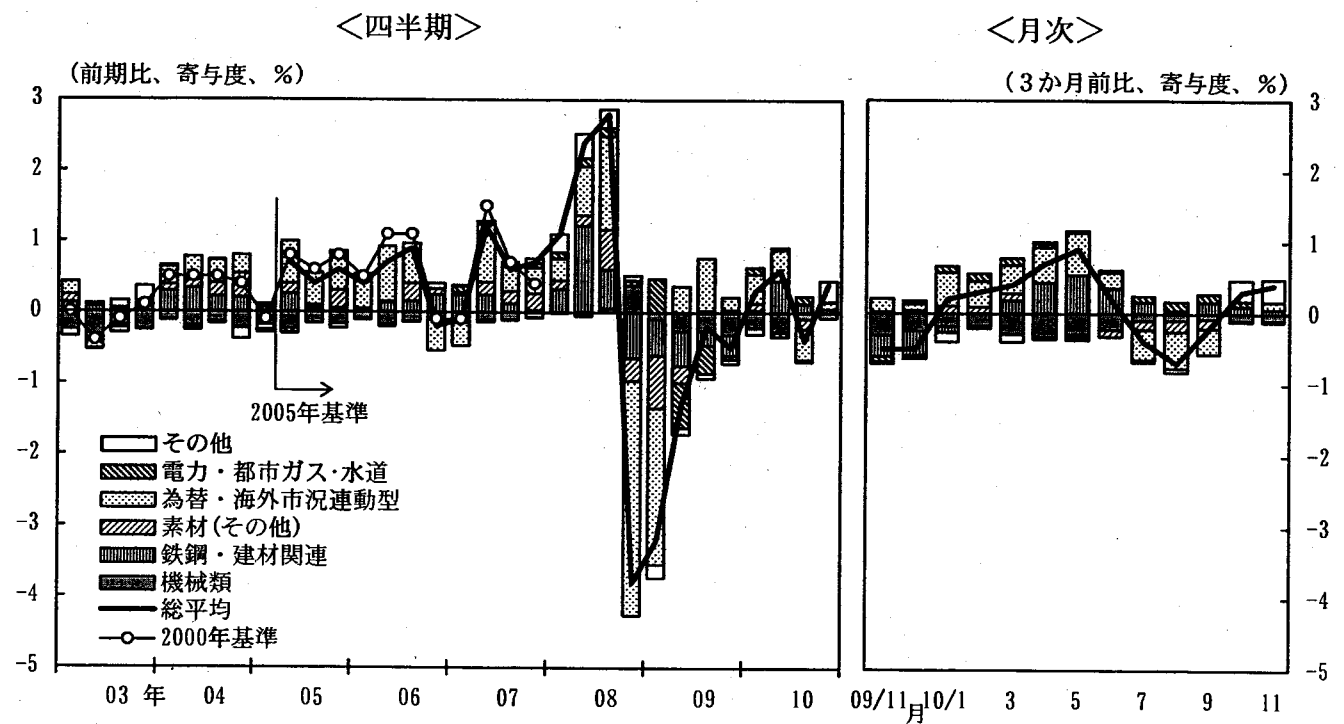
(資料) 日本経済新聞社「日経主要商品価格指数」等

国内企業物価

(1) 前年比



(2) 前期比、3か月前比 (夏季電力料金調整後)

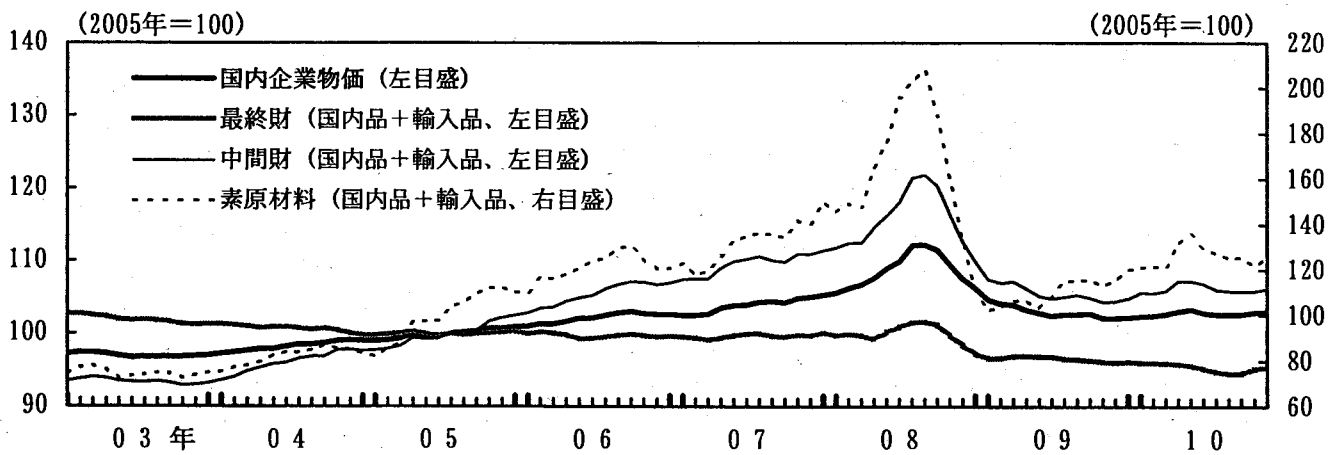


- (注) 1. 機械類：電気機器、情報通信機器、電子部品・デバイス、一般機器、輸送用機器、精密機器
 2. 鉄鋼・建材関連：鉄鋼、金属製品、窯業・土石製品、製材・木製品、スクラップ類
 3. 素材(その他)：化学製品、プラスチック製品、繊維製品、パルプ・紙・同製品
 4. 為替・海外市況連動型：石油・石炭製品、非鉄金属
 5. その他：加工食品、その他工業製品、農林水産物、鉱産物
 6. (2)は、毎年7～9月にかけて適用される夏季割り増し電力料金の影響(国内企業物価に対する寄与度は0.2%程度)を除いて算出。
 7. 2010/4Qは、10～11月の平均値を用いて算出。なお、2000年基準の2007/4Qは、10月の値。

(資料) 日本銀行「企業物価指数」

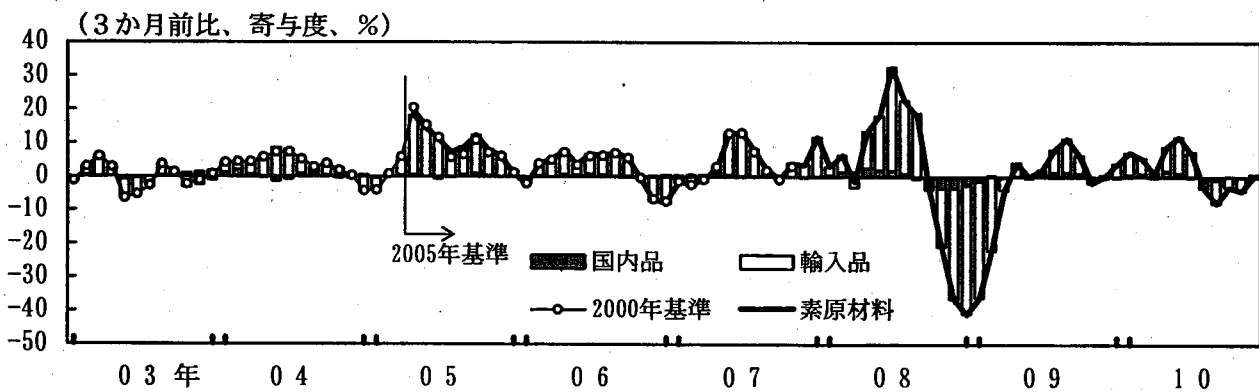
企業物価指数の需要段階別推移

(1) 需要段階別にみた企業物価

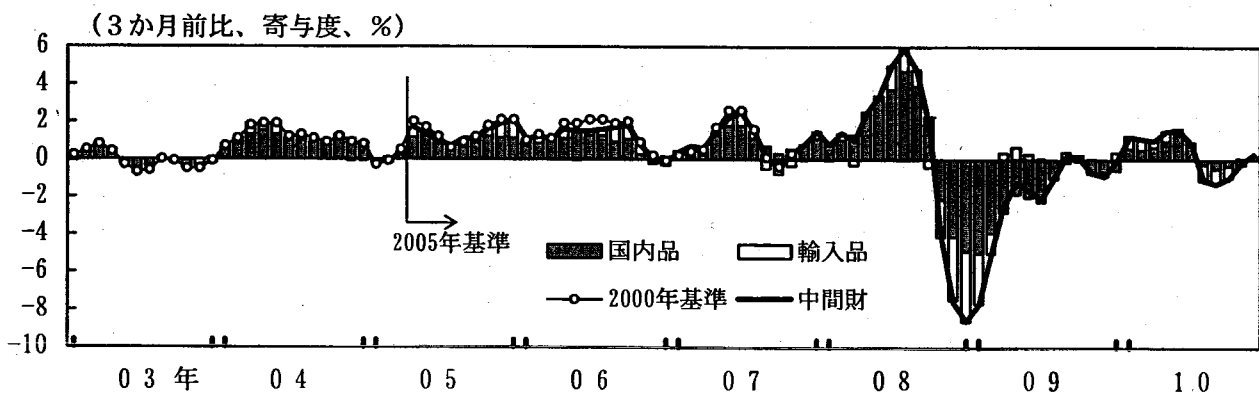


(2) 各需要段階別指数の推移 (国内品+輸入品)

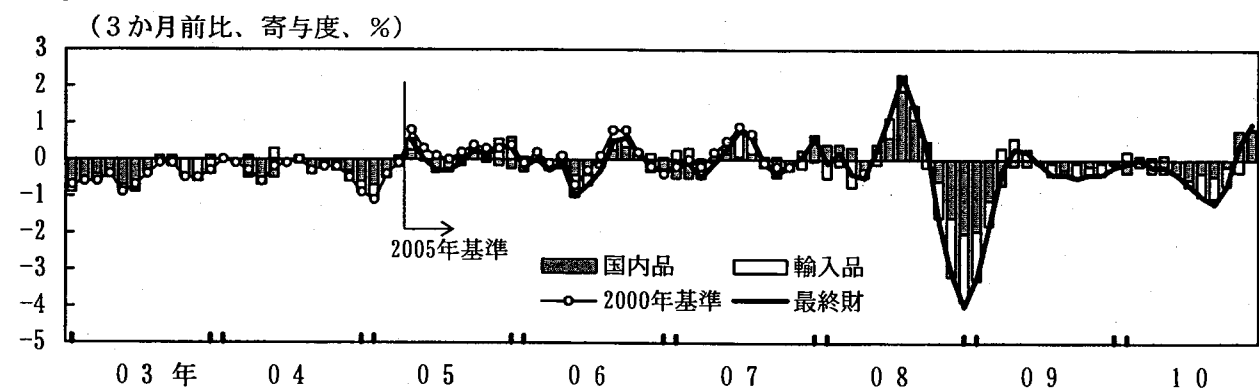
① 素原材料



② 中間財



③ 最終財



(注) 国内企業物価および中間財については、夏季電力料金を調整。

(資料) 日本銀行「企業物価指数」

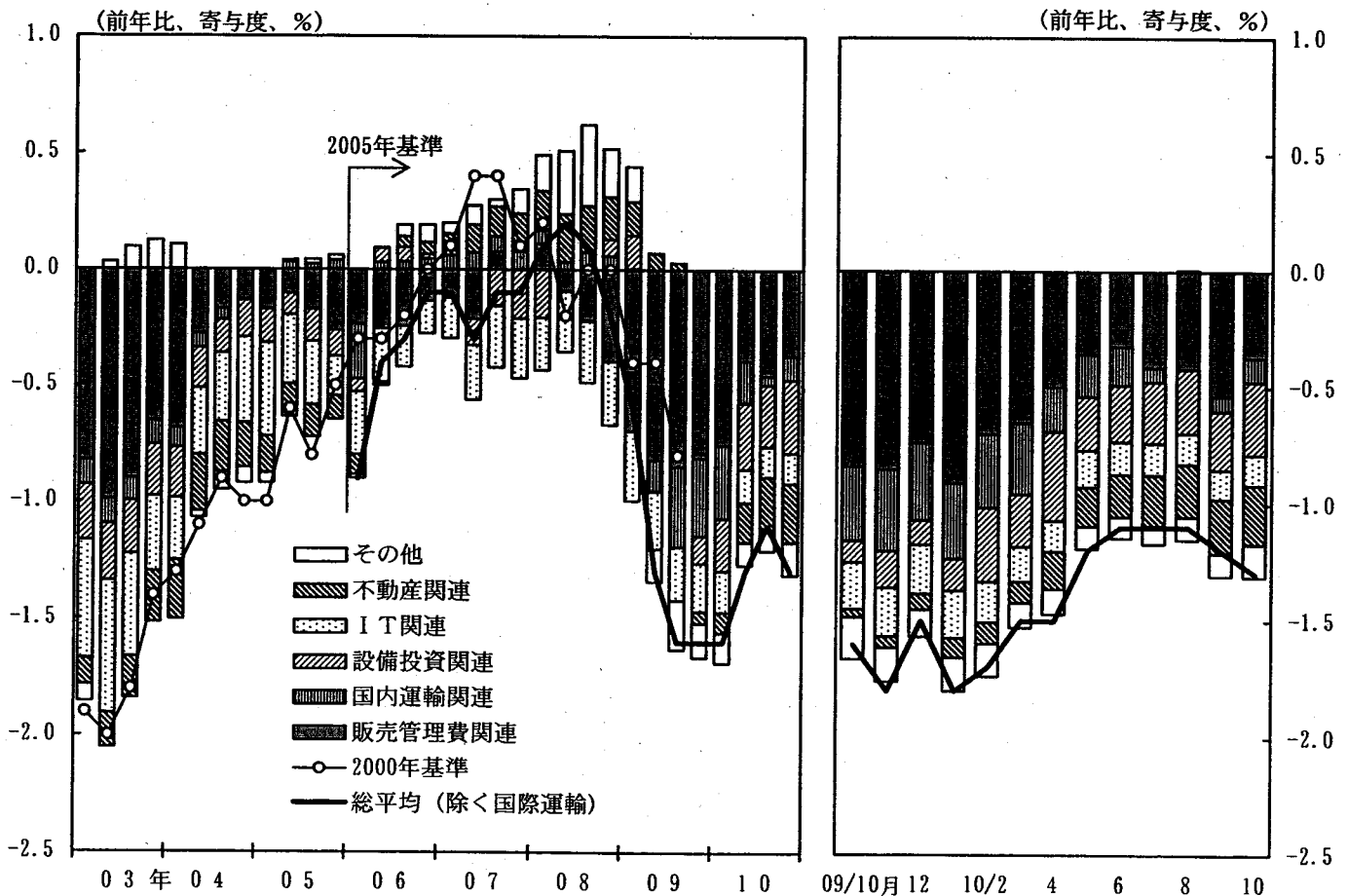
企業向けサービス価格

<四半期>

<月次>

		(前年比、%)				(前年比、%)			
		10/1Q	2Q	3Q	4Q	10/7月	8	9	10
総平均 (除く国際運輸)	[95.8]	-1.6	-1.3	-1.1	-1.3	-1.1	-1.1	-1.2	-1.3
販売管理費関連	[50.2]	-1.4	-0.8	-0.8	-0.7	-0.7	-0.8	-1.0	-0.7
国内運輸関連	[13.0]	-2.3	-1.3	-0.3	-0.8	-0.5	0.1	-0.5	-0.8
設備投資関連	[10.3]	-2.1	-2.6	-2.4	-3.0	-2.4	-2.6	-2.3	-3.0
I T関連	[2.4]	-10.4	-8.7	-8.3	-8.4	-8.5	-8.3	-7.9	-8.4
不動産関連	[6.6]	-1.2	-2.4	-3.0	-3.4	-2.9	-3.0	-3.1	-3.4
その他	[13.4]	-1.0	-0.7	-0.6	-1.0	-0.5	-0.7	-0.7	-1.0
総平均	[100.0]	-1.3	-0.9	-1.1	-1.2	-1.1	-1.1	-1.1	-1.2

— []はウェイト (%)

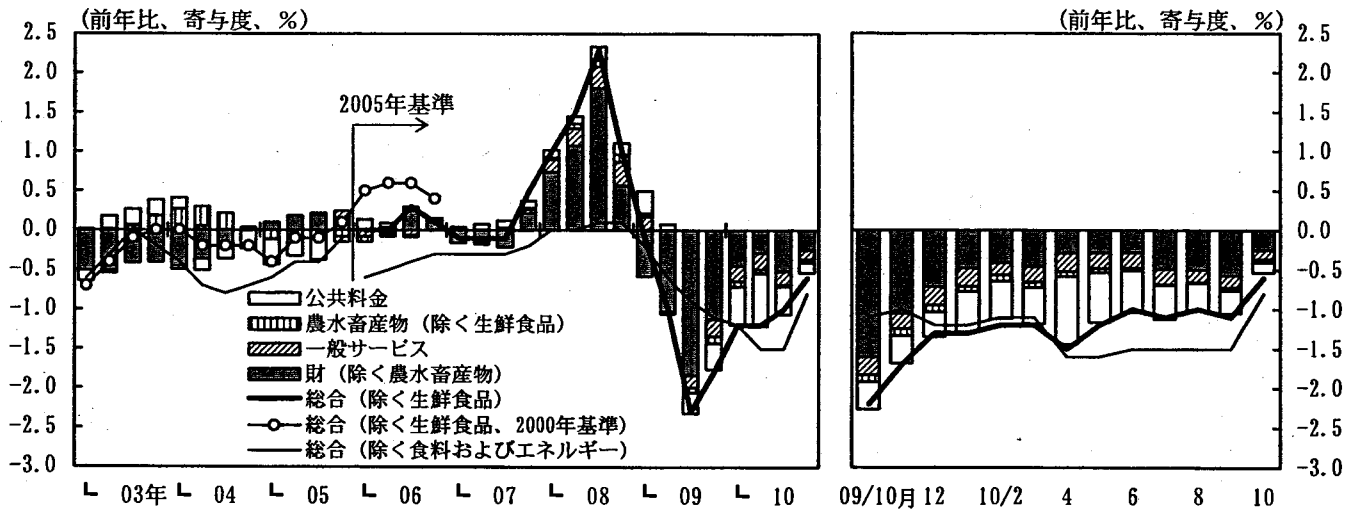


- (注) 1. 販売管理費関連：情報通信（除く新聞・出版）、広告、諸サービス（除くプラントエンジニアリング、土木建築サービス）
 2. 国内運輸関連：運輸（除く国際運輸、鉄道旅客輸送、道路旅客輸送、海上旅客輸送、国内航空旅客輸送）
 3. 設備投資関連：リース・レンタル（除く電子計算機・同関連機器リース、電子計算機レンタル）、土木建築サービス
 4. I T関連：電子計算機・同関連機器リース、電子計算機レンタル
 5. 不動産関連：不動産
 6. その他：金融・保険、鉄道旅客輸送、道路旅客輸送、海上旅客輸送、国内航空旅客輸送、新聞・出版、プラントエンジニアリング
 7. 2010/4Qは、10月の値を用いて算出。なお、2000年基準の2009/3Qは、7～8月の平均値。

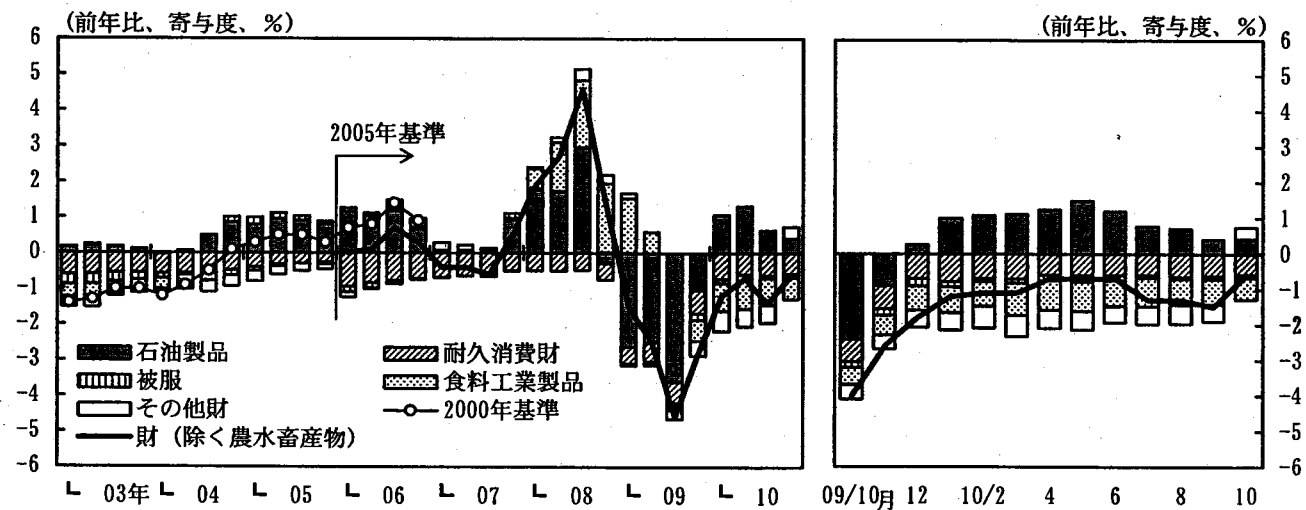
(資料) 日本銀行「企業向けサービス価格指数」

消費者物価 (全国)

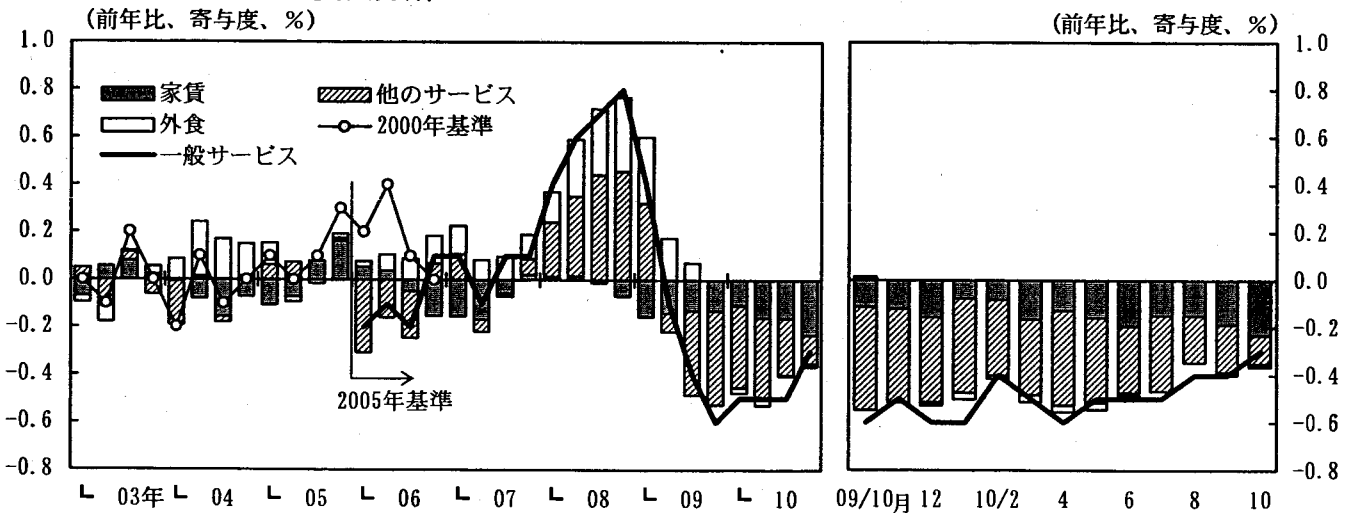
(1) 総合 (除く生鮮食品)



(2) 財 (除く農水畜産物) の要因分解



(3) 一般サービスの要因分解



(注) 1. 分類は、原則、総務省に則している。
 ただし、以下の分類については、組み替えて定義している(「」内は総務省公表ベース)。
 財 = 「財」 - 「電気・都市ガス・水道」
 公共料金 = 「公共サービス」 + 「電気・都市ガス・水道」
 被服 = 「衣料」 + 「シャツ・セーター・下着類」
 家賃 = 「民営家賃」 + 「持家の帰属家賃」
 2. 「食料」は「酒類」を除く。また、「エネルギー」は「電気代」、「都市ガス代」、「プロパンガス」、「灯油」、「ガソリン」からなる。
 3. 2010/4Qは、10月の値を用いて算出。

(資料) 総務省「消費者物価指数」

消費者物価(全国)における食料・エネルギーの影響

	前年比(%)		総合除く生鮮食品に対する寄与度(%ポイント)							前年比(%)	
	総合除く 生鮮食品	総合除く 食料および エネルギー	① 食料 工業製品	② 外食	③ 農水 畜産物	④ 石油製品	⑤ 電気代	⑥ 都市 ガス代	食料・ エネルギー (①~⑥) 計	総合	生鮮食品
ワイト(総合 =10000)	9588	6809	1214	555	269	355	292	93	2778	10000	412
09/4Q	▲1.8	▲1.1	▲0.19	0.00	▲0.08	▲0.41	▲0.20	▲0.11	▲1.00	▲2.1	▲6.8
10/1Q	▲1.2	▲1.2	▲0.27	▲0.01	▲0.07	0.41	▲0.32	▲0.13	▲0.38	▲1.2	▲1.9
2Q	▲1.2	▲1.5	▲0.29	▲0.01	▲0.06	0.51	▲0.16	▲0.08	▲0.09	▲0.9	5.2
3Q	▲1.0	▲1.5	▲0.27	0.00	▲0.03	0.24	0.04	0.03	0.01	▲0.8	6.0
4Q	▲0.6	▲0.8	▲0.22	▲0.01	▲0.05	0.16	0.09	0.07	0.05	0.2	17.4
09/10月	▲2.2	▲1.1	▲0.17	0.01	▲0.08	▲0.96	▲0.21	▲0.12	▲1.52	▲2.5	▲6.8
11月	▲1.7	▲1.0	▲0.20	0.00	▲0.08	▲0.36	▲0.20	▲0.11	▲0.95	▲1.9	▲6.3
12月	▲1.3	▲1.2	▲0.24	▲0.01	▲0.08	0.10	▲0.19	▲0.11	▲0.52	▲1.7	▲7.6
10/1月	▲1.3	▲1.2	▲0.25	▲0.01	▲0.06	0.39	▲0.33	▲0.14	▲0.41	▲1.3	▲3.9
2月	▲1.2	▲1.1	▲0.25	▲0.01	▲0.07	0.42	▲0.32	▲0.13	▲0.35	▲1.1	▲1.2
3月	▲1.2	▲1.1	▲0.33	▲0.01	▲0.07	0.43	▲0.30	▲0.12	▲0.39	▲1.1	▲0.6
4月	▲1.5	▲1.6	▲0.30	▲0.01	▲0.07	0.48	▲0.31	▲0.12	▲0.33	▲1.2	5.0
5月	▲1.2	▲1.6	▲0.30	▲0.01	▲0.06	0.58	▲0.12	▲0.07	0.02	▲0.9	3.8
6月	▲1.0	▲1.5	▲0.26	▲0.01	▲0.04	0.47	▲0.06	▲0.04	0.06	▲0.7	7.0
7月	▲1.1	▲1.5	▲0.29	0.00	▲0.02	0.30	▲0.01	0.01	▲0.01	▲0.9	4.4
8月	▲1.0	▲1.5	▲0.26	0.00	▲0.02	0.27	0.04	0.03	0.06	▲0.9	2.9
9月	▲1.1	▲1.5	▲0.26	▲0.01	▲0.05	0.16	0.09	0.05	▲0.02	▲0.6	10.3
10月	▲0.6	▲0.8	▲0.22	▲0.01	▲0.05	0.16	0.09	0.07	0.05	0.2	17.4

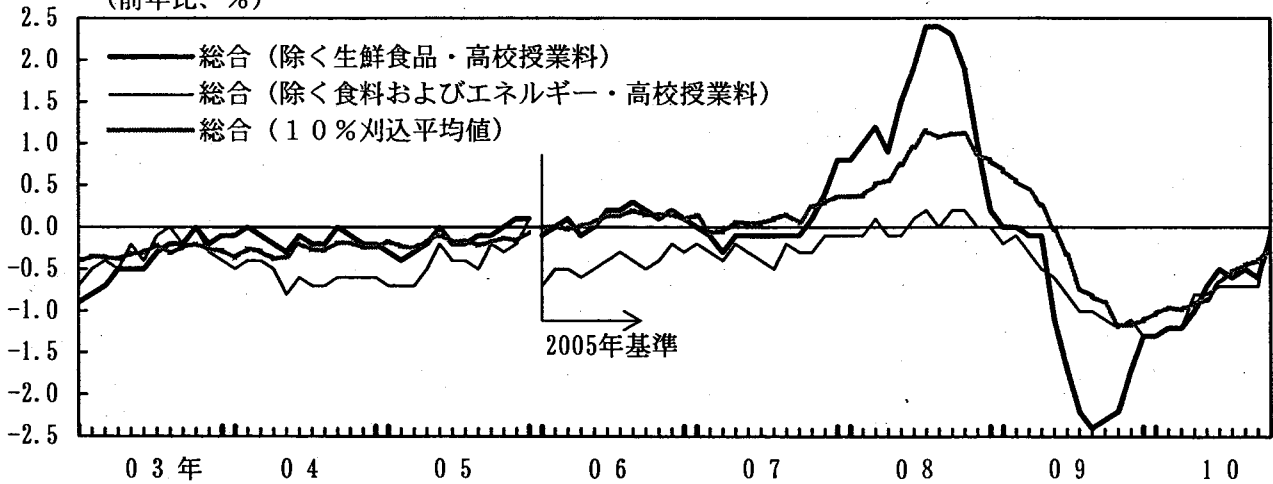
- (注) 1. 食料は酒類を除く。
 2. ①の食料工業製品は、酒類を除く。
 3. ③の農水畜産物は、生鮮食品および切り花(カーネーション、きく、バラ)を除く。
 4. ④の石油製品はプロパンガス、灯油、ガソリンからなる。
 5. 食料は食料工業製品(除く酒類)、外食、農水畜産物(除く生鮮食品および切り花)から、エネルギーは石油製品、電気代、都市ガス代からなる。
 6. 2010/4Qは、10月の値を用いて算出。

(資料) 総務省「消費者物価指数」

消費者物価（全国）の基調的な変動

(1) 高校授業料を除いた指数と刈込平均値

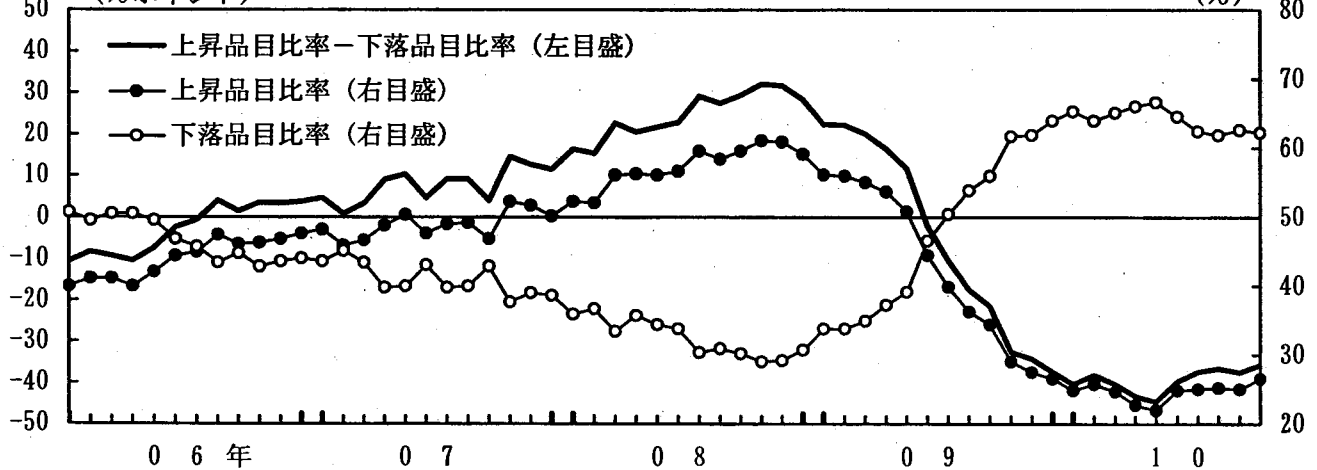
(前年比、%)



(2) 上昇・下落品目比率（前年比上昇・下落した品目の割合、総合除く生鮮食品）

(%ポイント)

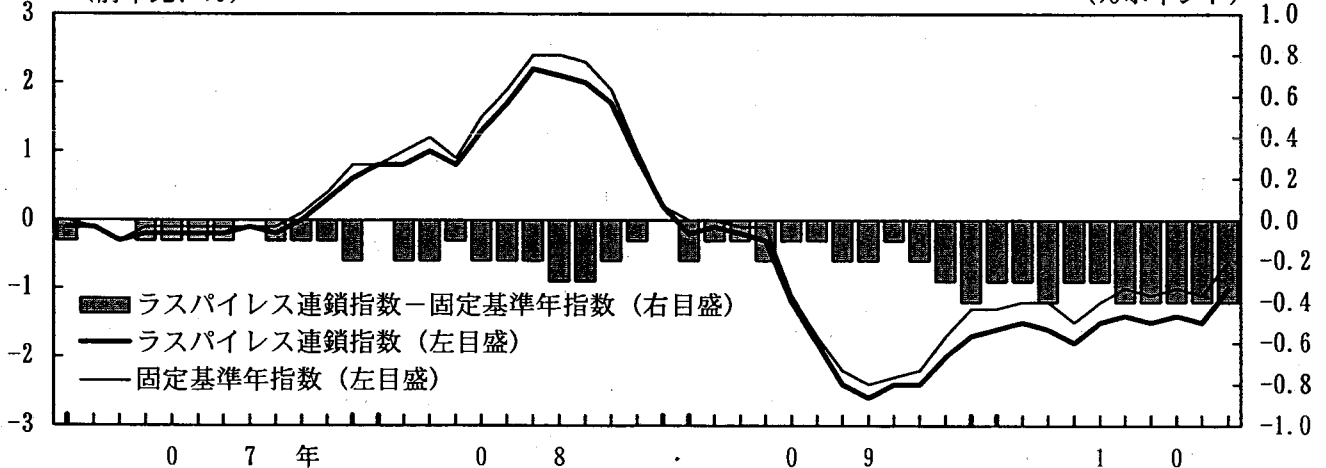
(%)



(3) ラスパイレス連鎖指数と固定基準年指数の差（総合除く生鮮食品）

(前年比、%)

(%ポイント)

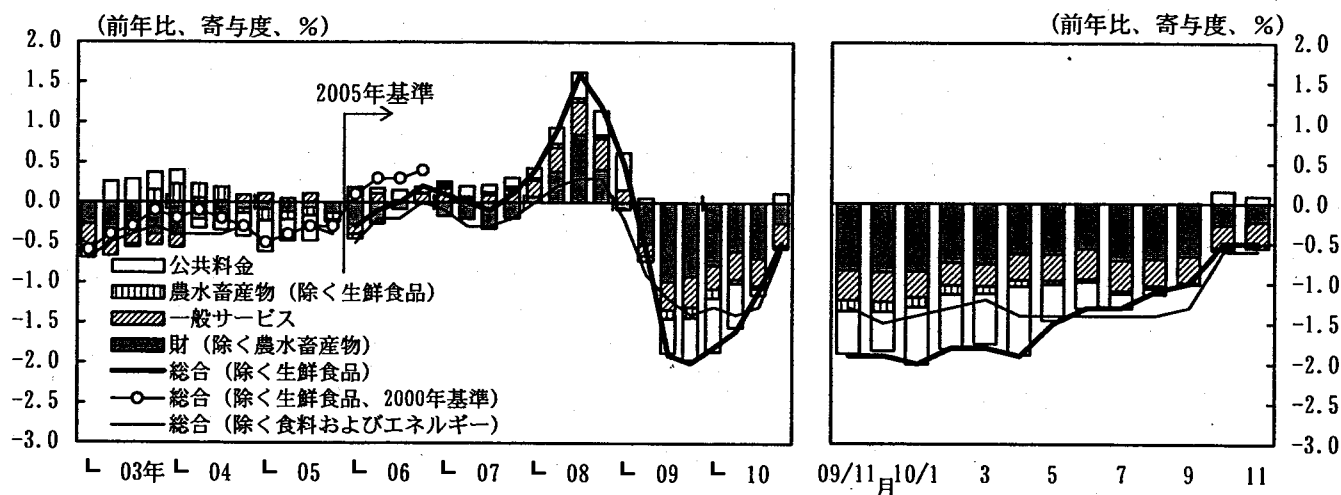


- (注) 1. 「食料」は「酒類」を除く。また、「エネルギー」は「電気代」、「都市ガス代」、「プロパンガス」、「灯油」、「ガソリン」からなる。
- 2. 高校授業料は「公立高校授業料」および「私立高校授業料」からなる。
- 3. 10%刈込平均値は、個別品目の前年同月比を値の小さな順に並び替え、値の大きい品目と小さい品目をウェイトベースでそれぞれ10%控除して、残った品目で新たに指数を作成して算出。

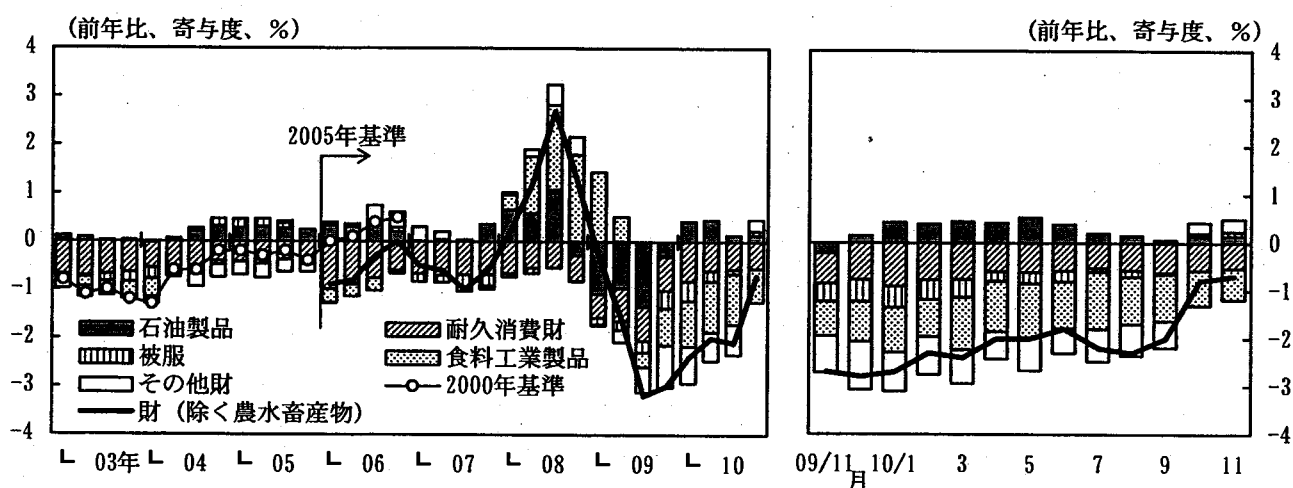
(資料) 総務省「消費者物価指数」

消費者物価 (東京)

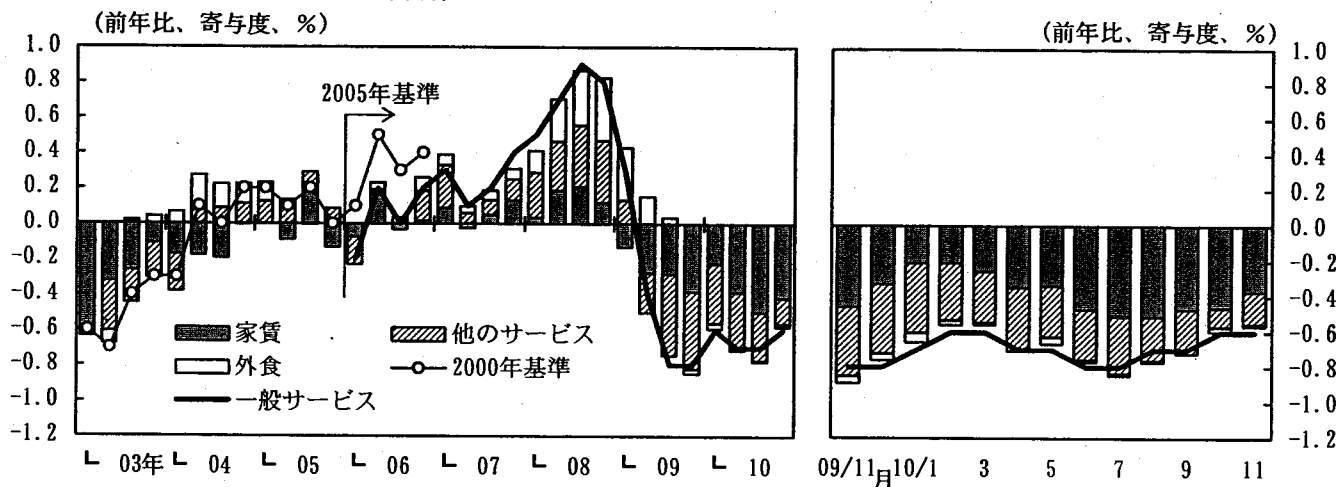
(1) 総合 (除く生鮮食品)



(2) 財 (除く農水畜産物) の要因分解



(3) 一般サービスの要因分解



- (注) 1. 分類は、原則、総務省に則している。
 ただし、以下の分類については、組み替えて定義している(「」内は総務省公表ベース)。
 財 = 「財」 - 「電気・都市ガス・水道」
 公共料金 = 「公共サービス」 + 「電気・都市ガス・水道」
 被服 = 「衣料」 + 「シャツ・セーター・下着類」
 家賃 = 「民営家賃」 + 「持家の帰属家賃」
2. 「食料」は「酒類」を除く。また、「エネルギー」は「電気代」、「都市ガス代」、「プロパンガス」、「灯油」、「ガソリン」からなる。
3. 2010/11月のデータは中旬速報値。
4. 2010/4Qは、10~11月の平均値を用いて算出。

(資料) 総務省「消費者物価指数」

地 価 関 連 指 標

<市街地価格指数>

		— 半年前比：%				
		08/9月末	09/3月末	9月末	10/3月末	9月末
六大都市	商業地	-4.2	-10.8	-6.9	-5.4	-3.0
	住宅地	-2.5	-5.4	-2.6	-2.1	-0.9
六大都市以外	商業地	-1.7	-2.8	-2.7	-2.6	-2.4
	住宅地	-1.3	-2.0	-1.9	-2.0	-1.7

<地価公示(1月1日時点)・都道府県地価調査(7月1日時点)>

		— 前年比：%						
		07/7月時点	08/1	7	09/1	7	10/1	7
全用途平均	全国平均	-0.5	—	-1.2	—	-4.4	—	-3.7
	東京圏	6.3	6.7	2.1	-4.7	-6.9	-5.4	-3.3
	大阪圏	3.5	3.4	1.2	-2.3	-5.0	-5.3	-4.0
	名古屋圏	3.1	3.8	1.4	-3.5	-4.9	-3.3	-1.8
	三大都市圏	5.1	5.3	1.7	-3.8	-6.1	-5.0	-3.2
	地方平均	-2.4	—	-2.3	—	-3.8	—	-3.9
	住宅地	全国平均	-0.7	—	-1.2	—	-4.0	—
	東京圏	4.8	5.5	1.6	-4.4	-6.5	-4.9	-3.0
	大阪圏	2.9	2.7	1.0	-2.0	-4.5	-4.8	-3.6
	名古屋圏	2.4	2.8	1.5	-2.8	-4.2	-2.5	-1.3
	三大都市圏	4.0	4.3	1.4	-3.5	-5.6	-4.5	-2.9
	地方平均	-2.3	—	-2.1	—	-3.4	—	-3.6
商業地	全国平均	1.0	—	-0.8	—	-5.9	—	-4.6
	東京圏	12.1	12.2	4.0	-6.1	-8.9	-7.3	-4.1
	大阪圏	8.0	7.2	2.8	-3.3	-7.1	-7.4	-5.3
	名古屋圏	7.2	8.4	1.9	-5.9	-7.3	-6.1	-2.9
	三大都市圏	10.4	10.4	3.3	-5.4	-8.2	-7.1	-4.2
	地方平均	-2.6	—	-2.5	—	-4.9	—	-4.8

<オフィスビル空室率等

>

<土地取引件数(法務統計「売買による土地所有権の移転登記件数」)>

— 千件、()内は前年比：%

08年	09年	10/1Q	2Q	3Q	10/7月	8	9
1,294	1,179	286	286	277	95	94	89
(-10.1)	(-8.9)	(-3.8)	(-3.4)	(-1.4)	(-9.4)	(4.4)	(2.3)

(資料) 日本不動産研究所「市街地価格指数」、国土交通省「地価公示」「都道府県地価調査」、
法務省「登記統計調査」